

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第1分冊)

由比ヶ浜中世集団墓地遺跡

下馬周辺遺跡

大倉幕府跡

台山遺跡

東勝寺跡

大倉幕府周辺遺跡群

鎌倉城

平成30年3月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第1分冊)

由比ヶ浜中世集團墓地遺跡

下馬周辺遺跡

大倉幕府跡

台山遺跡

東勝寺跡

大倉幕府周辺遺跡群

鎌倉城

平成30年3月

鎌倉市教育委員会



大倉幕府跡（雪ノ下三丁目637番6外地点）第4面全景（南東から）



大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄12番8）下層遺構2010出土かわらけ

ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

そのため、家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多く、毎日、市内数ヶ所で発掘調査が行われている状況です。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18～21年、23年、27～29年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査27ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成30年3月30日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成29年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書(第1分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第1分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発掘調査地点一覧	V
平成29年度調査の概観	VI
調査地点位置図	VIII
1 由比ガ浜中世集団墓地遺跡 (No.372) 由比ガ浜二丁目 1235番1地点	
第一章 遺跡の概要	6
第二章 発見した遺構と遺物	13
第三章 まとめ	39
2 下馬周辺遺跡 (No.200) 由比ガ浜二丁目 107番5地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	70
第二章 検出した遺構と遺物	75
第三章 まとめ	78
3 大倉幕府跡 (No.253) 雪ノ下三丁目 637番6外地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	97
第二章 発見された遺構と遺物	105
第三章 まとめ	160
4 台山遺跡 (No.29) 山ノ内字籐源治 860番1地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	213
第二章 調査の概要	217
第三章 発見された遺構と遺物	221
第四章 調査成果のまとめ	237
5 東勝寺跡 (No.246) 小町三丁目 529番1、4、5地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	259
第二章 調査の方法と経過	261
第三章 基本土層	262
第四章 発見された遺構と遺物	265
第五章 調査成果のまとめ	274

6 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 二階堂字荏柄 12 番 8 地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	301
第二章 調査の方法と経過	305
第三章 基本土層	306
第四章 発見された遺構と遺物	309
第五章 調査成果のまとめ	338
付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析	339

7 鎌倉城 (No.87) 西御門一丁目 68 番 94 地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	359
第二章 調査の方法と経過	362
第三章 基本土層	363
第四章 検出遺構と出土遺物	365
第五章 調査成果のまとめ	372

第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 (No. 372)	由比ガ浜二丁目1235番4	個人専用住宅 (地下室)	墓地	79.8	平成19年6月11日 ～平成19年8月24日
2	下馬周辺遺跡 (No. 200)	由比ガ浜二丁目107番5	自己用店舗併用住宅 (杭基礎構造)	都市	12	平成19年8月28日 ～平成19年9月21日
3	大倉幕府跡 (No. 253)	雪ノ下三丁目637番6外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	官衙	25	平成20年2月28日 ～平成20年4月4日
4	台山遺跡 (No. 29)	山ノ内字藤源治860番1	個人専用住宅 (地下室)	集落	30	平成22年1月12日 ～平成22年2月17日
5	東勝寺跡 (No. 246)	小町三丁目529番1、4、5	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社寺跡	83.01	平成27年9月1日 ～平成27年12月25日
6	大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)	二階堂字荏柄12番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	官衙跡	69.14	平成28年5月10日 ～平成28年7月15日
7	鎌倉城 (No. 87)	西御門一丁目68番94	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	40.5	平成29年5月22日 ～平成29年6月21日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
8	法泉寺跡 (No. 182)	扇ガ谷四丁目518番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	38	平成22年3月26日 ～平成22年5月28日
9	今小路西遺跡 (No. 201)	扇ガ谷一丁目145番3、146番2	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	都市	120	平成23年9月26日 ～平成23年12月22日

第3分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
10	宇津宮辻子幕府跡 (No. 239)	小町二丁目388番2の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	官衙跡	63	平成18年8月23日 ～平成18年11月2日
11	覚園寺旧境内遺跡 (No. 435)	二階堂字会下330番9	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	寺院	64	平成19年11月29日 ～平成20年2月1日
12	勝長寿院遺跡 (No. 133)	雪ノ下四丁目520番6外	個人専用住宅 (地盤改良工事)	寺院	20	平成19年11月9日 ～平成19年12月7日
13	横小路周辺遺跡 (No. 259)	二階堂字会向荏柄875番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	48	平成20年5月29日 ～平成20年8月1日

第4分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
14	台山遺跡 (No. 29)	山ノ内字藤源治872番9外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	集落	56	平成19年4月4日 ～平成19年4月20日
15	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目147番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	15	平成19年10月9日 ～平成19年10月29日
	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目147番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	40	平成19年10月9日 ～平成19年11月20日
16	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目147番2外	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	112	平成19年7月27日 ～平成19年9月28日
17	名越ヶ谷遺跡 (No. 231)	大町三丁目2353番2外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	37.5	平成19年12月18日 ～平成20年2月6日
18	弁ヶ谷遺跡 (No. 249)	材木座四丁目599番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	58.75	平成21年2月17日 ～平成21年4月15日

第5分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
19	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	大町一丁目1084番4	個人専用住宅 (地盤表層改良工事)	都市	16	平成19年11月6日 ～平成19年12月7日
20	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	雪ノ下一丁目187番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	25	平成20年2月15日 ～平成20年3月14日
21	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町二丁目349番1の一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	14	平成20年8月26日 ～平成20年9月12日
22	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町三丁目418番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	58	平成22年1月21日 ～平成22年3月24日
23	釈迦堂遺跡 (No. 257)	浄明寺一丁目598番21	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	17	平成21年1月9日 ～平成21年2月6日
24	釈迦堂遺跡 (No. 257)	浄明寺一丁目598番35	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	20	平成21年2月10日 ～平成21年3月16日
25	徳泉寺遺跡 (No. 173)	山ノ内字東管領屋敷168番4	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	20	平成20年12月2日 ～平成20年12月15日
26	能蔵寺跡 (No. 314)	材木座二丁目293番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社寺	52	平成18年8月10日 ～平成18年11月2日

平成29年度調査の概観

平成29年度の緊急調査実施件数は5件であり、調査面積は298.5㎡であった。これを前年度の4件、423.04㎡と比較してみると件数は1件の増加となり、調査面積は124.54㎡の減少となった。1件の調査面積は平均で59.7㎡（前年度は105.76㎡）であり、前年度よりも減少となるが、昨年度は、面積の広い調査1件の影響により平均面積が大きくなったという経緯がある。

調査原因は5件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、基礎工事が1件、鋼管杭工事が2件、柱状改良工事が2件となっている。今年度も鋼管杭工事や柱状改良工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成29年度発掘調査地点一覧」を参照。）

1 鎌倉城 (No.87)

西御門一丁目に所在し、鎌倉駅から北東へ1300mに位置している。個人住宅の基礎部分について発掘調査を実施し、14世紀前半の礎石建物を検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器などが出土している。

2 材木座町屋遺跡 (No.261)

市内東南部の材木座に所在し、光明寺の北西約160mに位置している。鋼管杭工事を行う個人住宅の建築に伴い発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から14世紀にかけて7時期の生活面が確認でき、石列、土坑、柱穴を検出した。遺物ではかわらけ、国産陶器、舶載磁器、瓦、木製品、石製品などが出土している。

3 横小路周辺遺跡 (No.259)

二階堂字横小路に所在し、鎌倉駅から北東へ1500mに位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人住宅の建築に伴い、発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀前半に埋め立てられた谷状地形と、その上位で13世紀後半から15世紀前半までの8枚に及ぶ遺構面が確認され、道路や柱穴列が検出された。遺物ではかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品などが出土している。

4 山ノ内上杉邸跡 (No.170)

山ノ内字西管領屋敷に所在し、北鎌倉駅の南東約330mに位置している。鋼管杭工事を行う個人住宅の建築に伴い発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から15世紀にかけて複数の整地面が確認でき、溝、かわらけ廃棄坑、柱穴、土坑などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載磁器、瓦、金属製品などが出土している。

5 田楽辻子周辺遺跡 (No.33)

市内東部の浄明寺に所在する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築に伴い、発掘調査を実施した。調査の結果、複数の生活面が確認でき、土坑、柱穴などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器が出土している。

平成 29 年度発掘調査地点一覧

	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
1	鎌倉城 (No.87)	西御門一丁目 68 番 94	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	40.5	平成 29 年 5 月 22 日 ～平成 29 年 6 月 21 日
2	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目 647 番 3 の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市遺跡	56	平成 29 年 7 月 3 日 ～平成 29 年 9 月 13 日
3	横小路周辺遺跡 (No.259)	二階堂字荏柄 81 番 1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	77	平成 29 年 9 月 4 日 ～平成 29 年 12 月 1 日
4	山ノ内上杉邸跡 (No.170)	山ノ内字西管領屋敷 344 番 5	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	60	平成 29 年 10 月 30 日 ～平成 30 年 2 月 7 日
5	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	浄明寺一丁目 590 番 2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	51	平成 30 年 2 月 16 日 ～平成 30 年 5 月 17 日

鎌倉市全図

平成29年度の緊急発掘調査地点 (1～5)
第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発掘調査地点 (①～⑳)
※遺跡名は一覧表を参照



由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 (No.372)

由比ガ浜二丁目1235番4地点

例 言

1. 本報は由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（神奈川県遺跡台帳 No.372）に所在する鎌倉市由比ガ浜二丁目1235番4地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。
2. 調査は平成19年6月5日から同年8月24日にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。

担当者	伊丹まどか
調査員	宇都洋平・鈴木絵美・本城裕 小西恭平・須之内江里（鶴見大学）
調査作業員	安達越郎・片山直文・倉澤六郎・清水光一・沼上美代治
4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	岩崎卓治・小野夏菜・菅野知子・梅岡ケイト
遺構図版作成	小野夏菜
遺物図版作成	小野夏菜
遺物観察表	小野夏菜・渡邊美佐子
破片遺物集計表	小野夏菜
遺構計測表	小野夏菜
遺構写真	宇都洋平
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	清水由加里
執筆・編集	伊丹まどか・小野夏菜・渡邊美佐子
5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図	1／80	個別遺構図	1／40	遺物実測図	1／3・1／6
-------	------	-------	------	-------	---------

* 銭は原寸
なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。
8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。(五十音順・敬称略)
鍛冶屋勝二・後藤健・汐見一夫・田畑衣理・原廣志・松尾宣方・宮田眞・山田俊輔（千葉大学）

目次

本文目次

第一章 遺跡の概要	6
(1) 歴史的環境 (図1)	
(2) 遺跡の位置とグリッド配置図 (図2)	
(3) 土層堆積 (図3)	
第二章 発見した遺構と遺物	13
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4～図12)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図13～図21)	
第三章 まとめ	39

挿図目次

図1 調査地と周辺の遺跡図.....	4	図12 第1面面上・構成土出土遺物.....	25
図2 グリッド配置図.....	8	図13 第2面全測図.....	26
図3 調査区壁土層堆積図.....	9	図14 第2面個別遺構(1).....	28
図4 第1面全測図.....	12	図15 第2面個別遺構(2).....	29
図5 第1面個別遺構(1).....	14	図16 第2面個別遺構(3).....	30
図6 第1面個別遺構(2).....	15	図17 第2面個別遺構出土遺物(1).....	32
図7 第1面個別遺構(3).....	17	図18 第2面個別遺構出土遺物(2).....	33
図8 第1面個別遺構出土遺物(1).....	19	図19 第2面個別遺構出土遺物.....	34
図9 第1面個別遺構出土遺物(2).....	20	図20 第2面面上出土遺物(1).....	36
図10 第1面個別遺構出土遺物(3).....	21	図21 第2面面上・構成土出土遺物(2).....	37
図11 第1面個別遺構出土遺物(4).....	23	図22 表土採集遺物.....	38

表目次

遺構計測表.....	40	遺物破片数表.....	53
出土遺物観察表.....	41	出土貝分類表.....	55

図版目次

図版1 第1面全景・遺構6・遺構9.....	56	図版7 第1面面上・第1面構成土出土遺物.....	62
図版2 第1面遺構11・遺構12・第2面遺構36.....	57	図版8 第2面遺構出土遺物.....	63
図版3 第2面全景・遺構41.....	58	図版9 第2面遺構出土遺物.....	64
図版4 第2面遺構42・遺構48・遺構49.....	59	図版10 第2面面上出土遺物.....	65
図版5 第1面遺構出土遺物.....	60	図版11 第2面面上出土遺物・表土採集遺物.....	66
図版6 第1面遺構出土遺物.....	61		



図1 調査地と周辺の遺跡図

	調査地点	担当者	刊行年	執筆者	タイトル	発行人
【由比ガ浜中世集団墓地遺跡】						
1	由比ガ浜二丁目1235番4	本調査地点				
2	由比ガ浜二丁目1203番20	原廣志	2000	原廣志・須佐直子	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2	鎌倉市教育委員会
3	由比ガ浜二丁目1015番29	大河内勉	1991	大河内勉	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7	鎌倉市教育委員会
4	由比ガ浜二丁目1015番23	玉川文化財研究所	2005	小山裕之・相原俊夫	由比ガ浜中世集団墓地遺跡	玉川文化財研究所
5	由比ガ浜二丁目1034番1	原廣志	1993	原廣志・佐藤仁彦・小林重子ほか	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-1	鎌倉市教育委員会
6	由比ガ浜二丁目1037番1	原廣志	1993		神奈川県埋蔵文化財調査報告35	神奈川県教育委員会
7	由比ガ浜二丁目1014番17	熊谷満	2006	熊谷満	鎌倉考古No.51	鎌倉考古学研究所
8	由比ガ浜二丁目1023	鈴木尚	1956	鈴木尚ほか	材木座遺跡	東京大学人類学研究室 岩波書店
9	由比ガ浜二丁目1015番1	齋木秀雄 瀬田哲夫	2009	齋木秀雄・熊谷満・押木弘己	鎌倉遺跡調査会調査報告書第60集由比ガ浜集団墓地遺跡	有限会社鎌倉遺跡調査会
10	由比ガ浜四丁目1107番32	森孝子	2012	森孝子・赤堀祐子	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1	鎌倉市教育委員会
11	由比ガ浜四丁目1133番1外	宗臺秀明 瀬田哲夫	2004		神奈川県埋蔵文化財調査報告46	神奈川県教育委員会
12	由比ガ浜四丁目1130番外	大河内勉 汐見一夫	1995		神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会
13	由比ガ浜四丁目1134番1	大河内勉	1996	大河内勉	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
14	由比ガ浜四丁目1142番5	宮田眞	1996	宮田眞・高野昌巳 森孝子・滝沢晶子	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 鎌倉市教育委員会
15	由比ガ浜四丁目1142番1	玉林美男	1984	玉林美男・田代郁夫	鎌倉市由比ガ浜4丁目由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書	鎌倉市教育委員会
16	由比ガ浜四丁目1136番	大河内勉 汐見一夫	1997	大河内勉・菊川英政 汐見一夫	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書1・2	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
17	由比ガ浜四丁目113番	大河内勉 汐見一夫	1995		神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会
18	由比ガ浜四丁目1136番11	齋木秀雄	1997	齋木秀雄・伊丹まどか 根本志保	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書3	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
19	由比ガ浜四丁目1170番1	齋木秀雄	1994	齋木秀雄	由比ガ浜4-6-9地点発掘調査報告書	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
20	由比ガ浜四丁目1179番1他	齋木秀雄 大河内勉 川又隆央	2001	齋木秀雄・大河内勉 川又隆央	鎌倉遺跡調査会調査報告書第22集 由比ガ浜中世集団墓地遺跡	由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 ・鎌倉遺跡調査会
21	由比ガ浜四丁目1181番	市教育委員	1983	松尾宣方	鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I-38	鎌倉市教育委員会
22	由比ガ浜四丁目1102番2外	齋木秀雄	2001	齋木秀雄	由比ガ浜南遺跡	由比ガ浜南遺跡発掘調査団 ・鎌倉遺跡調査会
23	長谷二丁目188番2	瀬田哲夫	1995	瀬田哲夫	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1	鎌倉市教育委員会
【長谷小路周辺遺跡】						
24	由比ガ浜三丁目1175番2	馬淵和雄	1994	馬淵和雄	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2	鎌倉市教育委員会
25	由比ガ浜三丁目194番40	大河内勉 瀬田哲夫	1991	大河内勉・瀬田哲夫	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7	鎌倉市教育委員会
26	由比ガ浜三丁目1173番3	大河内勉 押木弘己	2001	大河内勉・押木弘己	鎌倉遺跡調査会調査報告書第21集	鎌倉市長谷小路周辺遺跡発掘調査団 ・鎌倉遺跡調査会
27	由比ガ浜三丁目1262番2	田代郁夫 宗臺秀明	2002	宗臺秀明・大畑明子 宗臺富貴子	東国歴史考古学研究所調査研究報告第31集 長谷周辺遺跡 (No.236)	長谷小路周辺遺跡発掘調査団 ・東国歴史考古学研究所
28	由比ガ浜三丁目1262番6	宮田眞 森孝子	2000	森孝子	長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書	長谷小路周辺遺跡発掘調査団 ・宮田事務所
29	由比ガ浜三丁目1256番外	宮田眞 滝沢晶子	2005	宮田眞・森孝子 滝沢晶子	長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書	株式会社博通
【下馬周辺遺跡】						
30	由比ガ浜二丁目1075番外	植山英史 馬淵和雄	2014	植山英史・松葉崇 菊川泉	かながわ考古学財団調査報告301 下馬周辺遺跡	財団法人かながわ考古学財団
31	由比ガ浜二丁目1011番1	大河内勉	1998	大河内勉	下馬周辺遺跡発掘調査報告書	下馬周辺遺跡発掘調査団

第一章 遺跡の概要

(1) 歴史的環境 (図1)

本調査地が位置する「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡」は鎌倉市街地の中心を南北に貫く若宮大路を跨ぎ、東は滑川を境にする。南北、西方向は他の遺跡指定域との明確な境が地図上では見えないが、北を「下馬周辺遺跡」「長谷小路周辺遺跡」「向原古墳群(采女塚古墳)」、南と西を「由比ヶ浜南遺跡」に接し、相模湾に面する砂丘上に位置する。この砂丘は若宮大路南端に建つ一の鳥居と、采女塚古墳跡ではないかといわれている和田塚を結ぶ辺りがもっとも標高が高く(海拔約12m)、この地点から南北それぞれに標高は下がっていく。本調査地点は一の鳥居から直線距離で南西に約260m。和田塚から南東に約150mの地点に位置し、現地表は海拔約7.6mである。

和田塚付近にあったとされる下向原古墳群は現存しないが、古墳時代後期の円墳群であった様子で、その中の采女塚と呼ばれていた古墳からは人物埴輪三体・馬埴輪・円筒埴輪が発見された(現在では所在地不明・出土遺物も多くは散逸している)。また、本遺跡地より西方の「長谷小路周辺遺跡」では古墳時代後期から平安時代前期(7～10世紀)には活発な生活の営みがあったことが確認され、多くの遺構・遺物を検出している。特に奈良時代(8世紀代)には、本調査地から北西方に約1700mの地点で官衙や附属施設が発見され、市街地が賑わっていたと予測される。しかし、平安時代後期(11～12世紀代)には、本調査地を含む市街地全体が衰退に向かい、中世期に至るまで空白の期間があることを調査成果は示唆している。

相模湾に面する海浜地帯を、若宮大路東を南北に流れる滑川河口を境に東を材木座、西を由比ガ浜と現代では呼ぶが、中世においてはこの海浜地帯を「由比ガ浜」・「浜地」・「前浜」と呼称していた記録が残り、「由比ガ浜」は稲村ヶ崎から材木座・飯島崎までの海岸地帯の総称、「浜地」は「鎌倉中」における土地制度上の区分名であり、「前浜」は現在の「由比ガ浜」辺を指し、武家の調練場、神事や儀式、諸種の祭事を行う場であると共に処刑場等の性格をもった墓域でもあった事が知られ、忍性の時代以来極楽寺が管領した一帯の名称となる。また、本遺跡地の名称に見るように一帯は多くの埋葬人骨を発見する地域でもあるが、その大半は滑川に接する遺跡指定地の東側に集中し、多くは竪穴建物群・土坑・ピットなどを発見する庶民の居住域でもあり、墓域と居住域の混在する遺跡地であったことがこれまでの調査成果からわかっている。また、海浜地帯で発見される竪穴建物を主とする遺跡地では、解体痕を遺す獣骨・細工した加工骨・滑石鍋を転用し再加工した滑石スタンプ、温石・鉄滓、鞆の羽口、埴塙、鋳型等の鋳物関連の遺物といった、職農民の存在を窺わせる遺物が多く発見されており、市街地遺跡の町屋あるいは武家屋敷などで発見する遺物とは大きく性格が異なる。現在、竪穴建物の用途は住居よりも倉庫としての使用に重きを置いていたのではないかと考えられているが、出土遺物からは職農民が居住し、作業所の機能を兼ね持つ建物でもあったと考えられている。本調査地点周辺では、調査地と道路を挟んだ南側では、竪穴建物等の遺構とともに、多くの中世遺物が発見されているが、北側での調査成果は少ない。本調査によって資料の蓄積が進むことを願いたい。

*注 遺跡名は「由比ヶ浜」。地名は「由比ガ浜」と表記している。

(2) 遺跡の位置とグリッド配置図(図2)

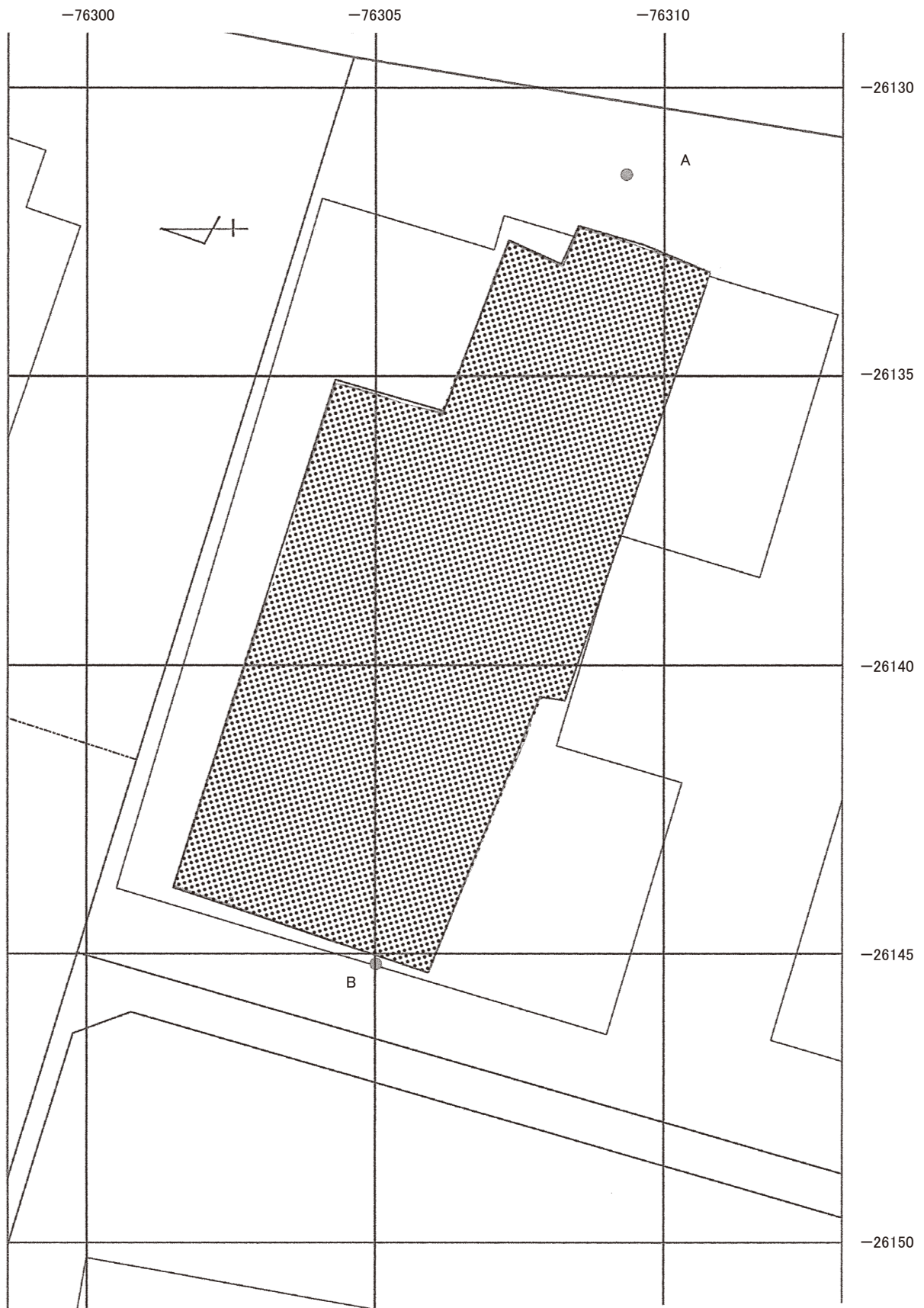
調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系(座標 AREA9)の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第Ⅸ形に変換し、座標値は図2に表記した。

(3) 土層堆積(図3)

現地表から約70cm堆積していた現代埋土を重機によって除去し第1面を検出する作業を行った。本報告では第1面以下、2枚の生活面に分けて報告しているが、埋土によって深く削平を受けている部分が多かったことや、どの生活面も地業層を掘りこんだ遺構ではなく砂層の堆積層を掘りこんでいるため、検出した遺構の順に生活面を分けて提示している。また、発見した遺構はほぼ同一の位置で短期間に造り替えを行い、遺構が切りあってきたために、調査区壁で観察した土層堆積のほとんどは遺構覆土の観察となった。試掘坑を設け遺構検出面下層の堆積層調査を試みたが(土層No.76)、現地表下2.0m 辺りから湧水が激しくなり、調査区壁が崩落するなどしたため、平面的な観察・記録が出来ず中世地山層である無遺物砂層および、古代層の確認は断念している。

<参考・引用文献>

- ・『日本歴史大系14巻』「神奈川県地名」 平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『廃寺事典』 有隣堂 貫達人・川副竹胤 1980年
- ・網野善彦 1976年「鎌倉の『地』と『地奉行』について」『三浦古文化19号』
- ・齋木秀雄・伊丹まどか・根本志保 1997年『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』 由比ガ浜四丁目1136番地点 由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
- ・原廣志・須佐直子 2000年『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 第2分冊』 由比ガ浜二丁目1203番20地点 鎌倉市教育委員会
- ・齋木秀雄・大河内勉・川又隆央 2001年『由比ガ浜中世集団墓地遺跡 第5地点1次・2次発掘調査報告書』 鎌倉遺跡調査会第22集



	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76666.061	-25838.058	-76309.3448	-26131.5096
B	-76661.729	-25851.726	-76305.0119	-26145.1769



図2 グリッド配置図

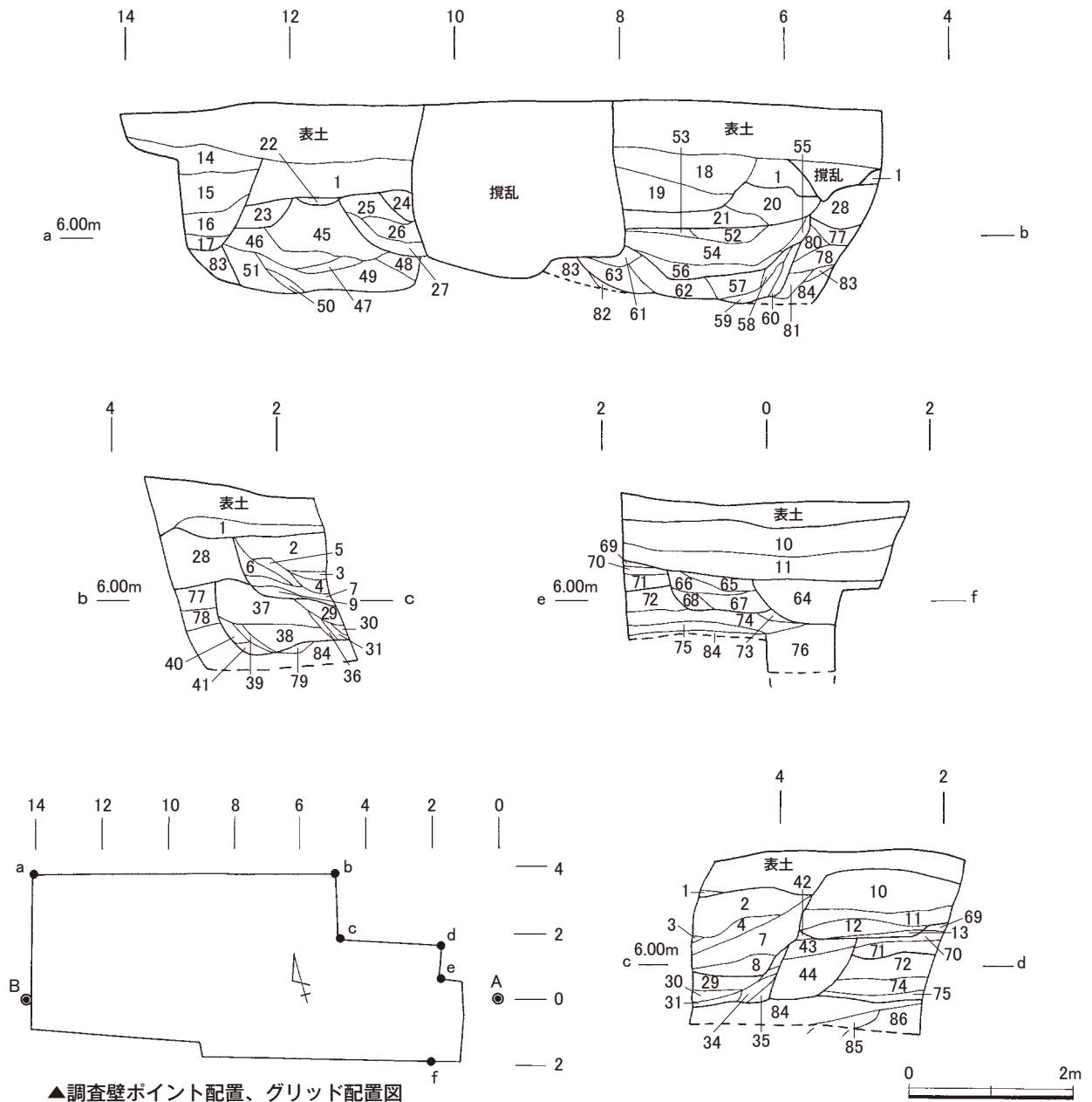


図3 調査区壁土層堆積図

<土層注記>

1. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量 締まりやや有り
2. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り (遺構9)
3. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まり有り (遺構9)
4. 暗茶褐色砂質土 炭化物多量、貝砂やや多く、泥岩粒少量含む 締まり有り (遺構9)
5. 暗褐色砂質土 黄褐色砂・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
6. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
7. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
8. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構9)
9. 暗灰色砂質土 黄褐色砂多量、炭化物・貝砂やや多く含む 締まりやや有り (遺構9)

10. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂・炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構14)
11. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、泥岩粒少量含む 締まりやや有り (遺構14)
12. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂・泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構14)
13. 黄褐色砂質土 貝砂多量に含む 締まり有り (遺構14)
14. 茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構8)
15. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構8)
16. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構8)
17. 暗茶灰色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構8)
18. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、かわらけ片・炭化物わずかに含む 締まりやや有り
19. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り
20. 暗茶褐色砂質土 常滑片多量、泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まり有り (遺構12)
21. 暗茶褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構12)
22. 茶灰色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒少量含む 締まりよわい (遺構21)
23. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒やや多く、炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構24)
24. 茶褐色砂質土 泥岩粒やや多く、炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構23)
25. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り (遺構25)
26. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り (遺構25)
27. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物・かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り (遺構25)
28. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り
29. 暗茶褐色砂質土 茶褐色砂を斑状に含み、貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構51)
30. 暗褐色砂質土 茶褐色砂を斑状に含み、貝砂・炭化物やや多く含む 締まりやや有り (遺構51)
31. 茶褐色砂質土 貝砂・炭化物を少量含む 締まりやや有り (遺構51)
32. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まり有り (遺構51)
33. 茶褐色砂質土 貝砂少量含む 締まり有り (遺構51)
34. 茶褐色砂質土 貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まり有り (遺構51)
35. 茶褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物わずかに含む 締まり有り (遺構51)
36. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り (遺構51)
37. 暗黄褐色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り (遺構51)
38. 暗黄褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・貝砂少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り (遺構51)
39. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、炭化物・泥岩粒・貝砂少量、有機質土わずかに含む 締まり
やや有り (遺構51)
40. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構51)
41. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂多量、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構51)
42. 暗茶灰色砂質土 貝砂・炭化物を少量含む 締まりやや有り (遺構53)
43. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒・暗褐色粘質土多量、炭化物・貝砂少量含む 締まり有り (遺構53)
44. 茶灰色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、泥岩粒少量、有機質土わずかに含む 締まり有り (遺構53)
45. 茶褐色砂質土 灰色砂・貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り (遺構33)
46. 暗茶褐色砂質土 貝砂多量、泥岩粒・炭化物少量、締まりやや有り (遺構33)
47. 暗茶褐色砂質土 貝砂多量、泥岩粒少量、締まりやや有り (遺構33)

48. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む 締まりやや有り(遺構33)
49. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物・有機質土わずかに含む(遺構33)
50. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂やや多く、泥岩粒・有機質土少量含む 締まりやや有り(遺構33)
51. 茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量、有機質土・小石わずかに含む 締まりやや有り(遺構33)
52. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物・有機質土わずかに含む 締まりやや有り(遺構36)
53. 茶灰色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り(遺構36)
54. 暗茶褐色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、有機質土少量含む 締まり有り(遺構36)
55. 暗茶褐色砂質土 黄褐色砂・炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂少量含む 締まり強い(遺構36)
56. 黒灰色砂質土 黄褐色砂・貝砂多量、炭化物・有機質土少量含む 締まりやや有り(遺構36)
57. 暗灰色砂質土 黄褐色砂・貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り(遺構49)
58. 暗灰色砂質土 黄褐色砂多量、貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り(遺構49)
59. 暗黄褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まりよわい(遺構49)
60. 暗黄褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まり強い(遺構49)
61. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り(遺構49)
62. 暗灰色砂質土 黄褐色砂やや多く、貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り(遺構49)
63. 暗茶褐色砂質土 暗灰色砂をやや多く、炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まり有り(遺構49)
64. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り(遺構39)
65. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り(遺構40)
66. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り(遺構40)
67. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り(遺構40)
68. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り(遺構40)
69. 暗茶褐色砂質土 貝砂・炭化物少量含む 締まり弱い(遺構37)
70. 茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り(遺構37)
71. 茶褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量、締まりやや有り(遺構37)
72. 茶褐色砂質土 貝砂多量、炭化物・かわらけ片少量、締まり弱い
73. 暗茶褐色砂質土 貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り
74. 暗黄灰色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりなし
75. 暗灰色砂質土 暗褐色砂を斑にやや多く含み、炭化物わずかに含む
76. 明灰色砂質土 貝砂多量、炭化物少量含む 締まり弱い
77. 暗褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物・貝砂わずかに含む 締まりやや有り
78. 暗褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物・貝砂・有機質土わずかに含む 締まりやや有り
79. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂・炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まりやや有り
80. 暗黄褐色砂質土 貝砂・炭化物・有機質土やや多く、泥岩粒少量含む 締まり有り
81. 黄褐色砂質土 泥岩粒・炭化物わずかに含む 締まりやや有り
82. 暗茶褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、貝砂少量、炭化物・かわらけ片わずかに含む 締まり有り
83. 黄褐色砂質土 泥岩粒少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り
84. 暗褐色砂質土 炭化物少量含む 締まりやや有り
85. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂わずかに含む 締まりやや有り
86. 暗灰色砂質土 貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り

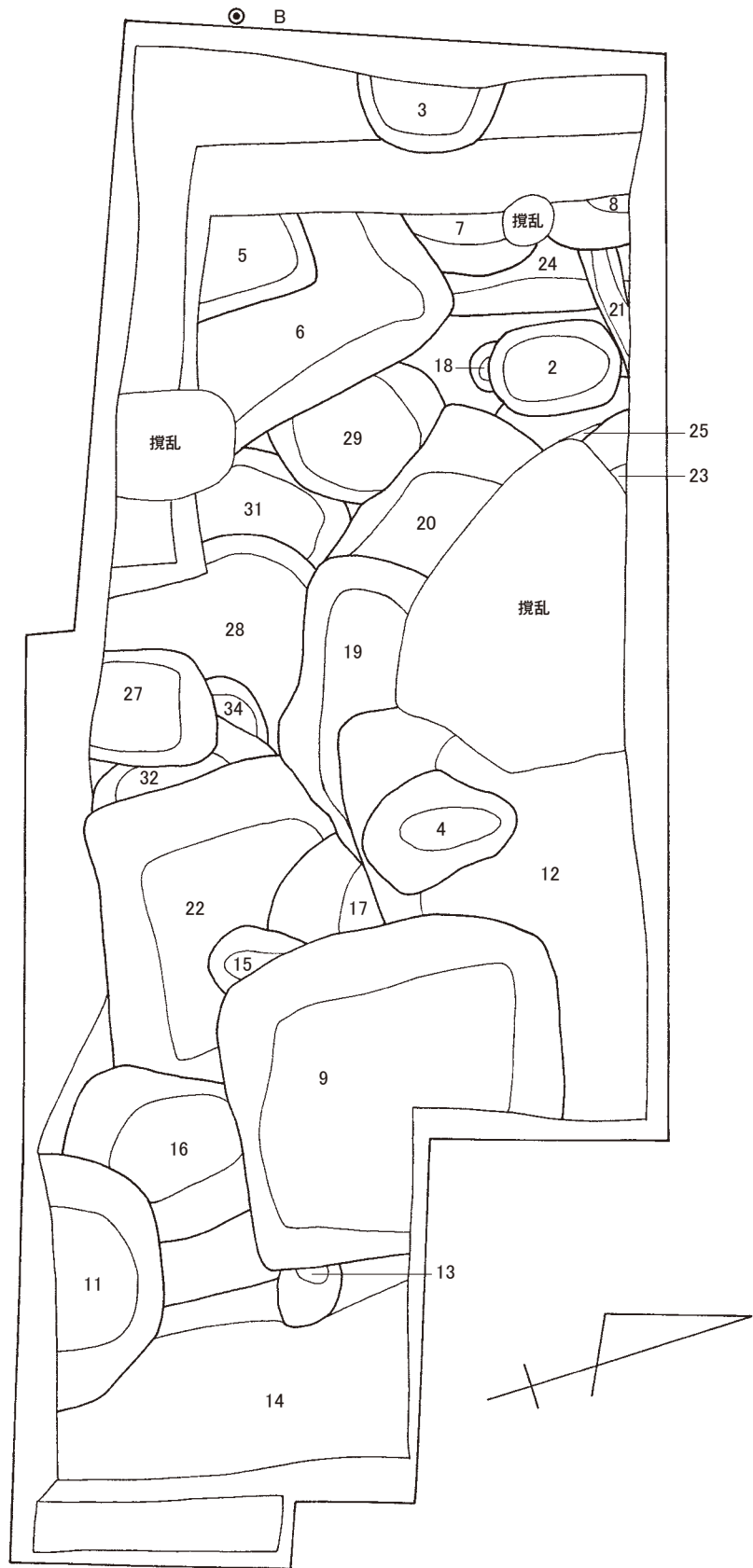


图4 第1面全测图

第二章 発見した遺構と遺物

本調査地は隣地との距離が狭く地質が砂層であったことから、調査（建築）による地盤の崩落を防ぐために、事前に調査範囲（建築範囲）にH鋼（形鋼）を縦・横方向に打ち調査・建築の安全を計った。砂丘上で発見される遺跡は、基本的に客土を用いた地業層上で遺構を検出することは少なく、自然堆積の風成砂上に遺構を掘りこみ生活面が構築される例が多い。本調査地で発見した遺構も地業層からの掘りこみではなく、表土を除去して検出した暗褐色砂質土上に広がった遺構を、切り合いと覆土の観察から考慮して2枚の生活面に分けて報告した。また、切りあいによって形状・規模が不確かになった遺構は土坑としてカウントしたが、堅穴建物だった可能性も大きい。

遺構No.は調査時に作業を簡便に進めるために付しており遺構の新旧を表すものではない。個別に図示していない遺構は全測図で形状を、遺構計測表で規模を報告し、実測遺物は観察表で詳細を報告し、本文中では説明を省いている。

第1節 第1面の遺構と遺物（図4～図12）

表土から10～70cmの深さで堆積していた現代埋土を人力で除去し、中世遺物包含層である暗褐色砂質土上で発見した遺構を第1面の遺構とした。それぞれの遺構は短期間に造り替えを行った様子で、大きく切りあっていた。発見した遺構は堅穴建物が主となった。また、堅穴建物の軸方向は方位にほぼ準じて検出されている。発見した遺構は溝1条・堅穴建物9軒・土坑17基・ピット2穴である。

遺構2（図5）

楕円形を呈する土坑である。遺構18・25を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・黄褐色砂を含む。遺物はかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

遺構3（図4）

個別に図面は掲載していな。調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。第1面遺構として報告しているが上層の遺構である。

出土遺物（図8）

1は瓦器質火鉢。雷文・菊花文（12弁）の押印・連珠文貼り付け。その他にかわらけ・瀬戸折縁皿・瀬戸卸皿・瀬戸入子・瀬戸華瓶・瀬戸壺・常滑甕が破片で出土している。

遺構4（図5）

楕円形を呈する土坑である。遺構12を切る。遺構覆土は黒褐色砂質土。出土遺物はかわらけ・瀬戸平碗・瀬戸卸皿・常滑甕・東幡系鉢・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構5（図5）

調査区外に遺構が延び規模は不明。堅穴建物である。遺構6を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒・黒色粘土を含む。

出土遺物（図8）

2はかわらけ。3は常滑甕。4は常滑片口鉢Ⅱ類。5は鉄製品用途不明。その他に備前播鉢・瓦器質火鉢・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

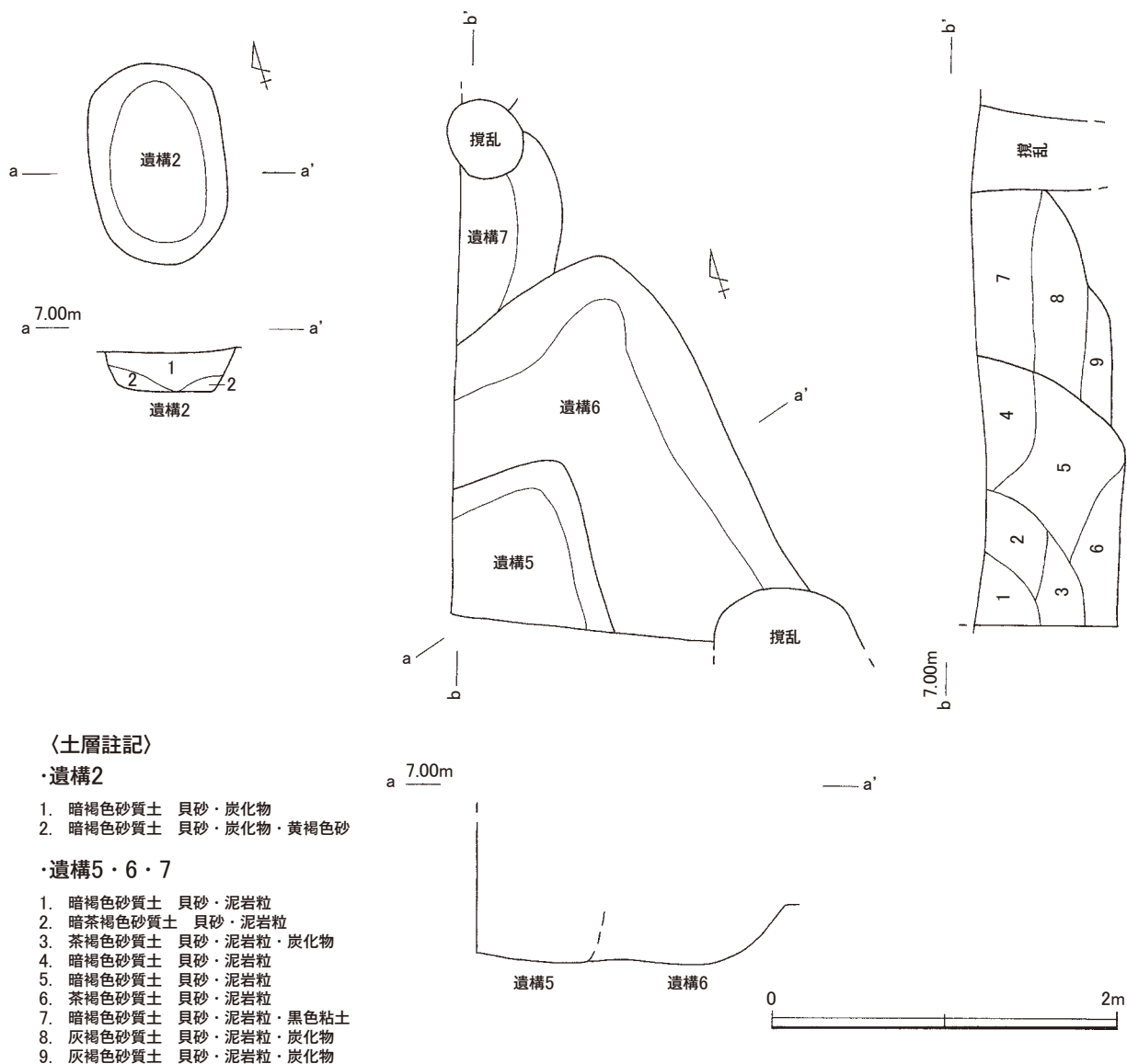


図5 第1面個別遺構(1)

遺構6 (図5)

調査区外に遺構が延び規模は不明。竪穴建物である。遺構5に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒を含む。

出土遺物 (図8)

6は瀬戸折縁深皿。7は常滑甕。8～11は鉄製品釘。その他に手づくね・かわらけ・常滑片口鉢I類・常滑片口鉢II類・渥美甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

遺構7 (図5)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となったが。土層堆積の状況から竪穴建物であった可能性も考えている。遺構6に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒・灰褐色砂を含む。

出土遺物 (図8)

12はかわらけ。13・14は鉄製品釘。その他に瀬戸平碗・常滑甕・常滑片口鉢I類・轆の羽口・獣骨

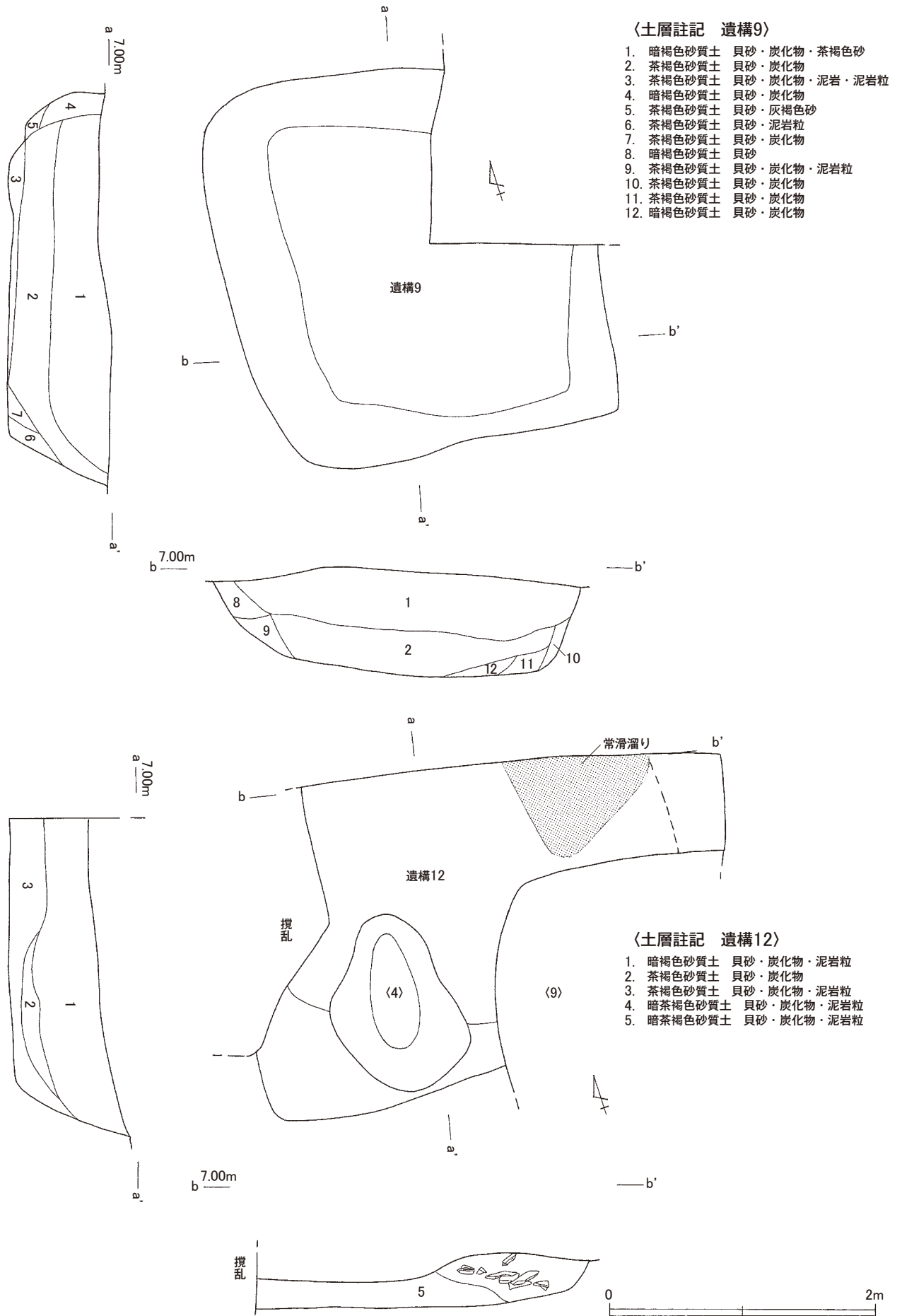


図6 第1面個別遺構(2)

が破片で出土している。

遺構 8 (図4)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。

出土遺物 (図8)

15はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦器質火鉢・獣骨が破片で出土している。

遺構 9 (図6)

調査区外に遺構が延びている。竪穴建物である。遺構上部は現代埋土によって削平を受けているが、掘り方などは遺存していた。遺構覆土は暗茶褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒を含む。覆土には多くの炭化物が含まれていた。

出土遺物 (図8)

16～36は覆土内出土遺物。16～20はかわらけ。21は白磁口元皿。22は瀬戸卸皿。23は瀬戸入子。24～25は常滑甕。26は備前播鉢。27はかわらけ加工品。28～30は石製品砥石。31～36は鉄製品釘。その他に青磁蓮弁文碗・瀬戸折縁皿・瀬戸壺・瀬戸鉢・染付碗・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・鏝釜・滑石鍋・チャート・鉄滓・獣骨・果核が破片で出土している。報告したかわらけは5個体で、内、小型のかわらけ4個体・大型のかわらけ1個体であるが、破片では(大)517片・(小)38片と、大型のかわらけが大半を占めている。

37・38は床面出土遺物。37はかわらけ。38は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑甕・石製品砥石・鉄製品釘が破片で出土している。

39は掘り方出土遺物。39は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 11 (図4)

個別に図面を掲載していない。調査区外に遺構が延びる。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・貝砂・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図8)

40は舶載・産地不明茶入れ。41は瀬戸卸皿。42は常滑片口碗。43は東幡系鉢。44は常滑甕加工品。45は鉄製品掛け金具。46は鉄製品釘。その他にかわらけ・青磁鎚蓮弁文碗・青磁無文碗・瀬戸折縁深皿・瀬戸壺・常滑甕・瓦器質火鉢・鉄滓・鞆の羽口が破片で出土している。

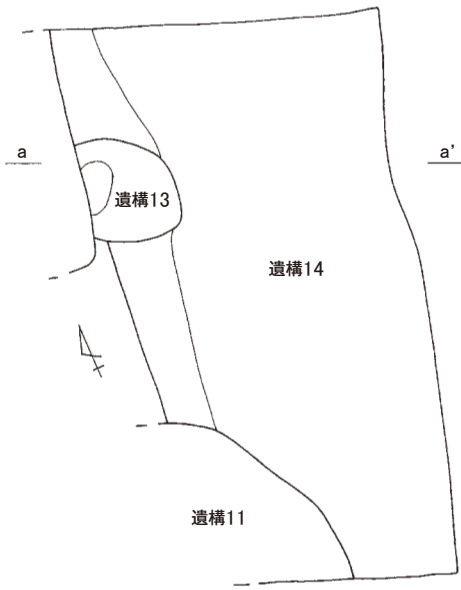
遺構 12 (図6)

調査区外に遺構が延び、攪乱・遺構9によって切られているために規模は不明となった。竪穴建物である。遺構北側、大半が調査区外に延びてしまっていたが覆土内に常滑の甕がまとまって廃棄されていた。口縁部の形状から少なくとも5個体の甕が廃棄されていたと考えている。常滑が廃棄された箇所はスクリーントーンで示し、出土遺物も分けて掲載している。

出土遺物 (図9)

47～59は覆土内出土。47～49はかわらけ。50は舶載天目碗。51は瀬戸折縁深皿。52～53は常滑片口鉢Ⅱ類。54は土器質火鉢。55は土製品土錘。56は石製品硯。57は石製品転用品。58は石製品砥石。59は骨製品筭。その他に常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・土器質火鉢・加工骨・獣骨が破片で出土している。報告したかわらけは4個体で、全て小型のかわらけであるが、破片では(大)256片・(小)23片と、大型のかわらけが大半を占めている。

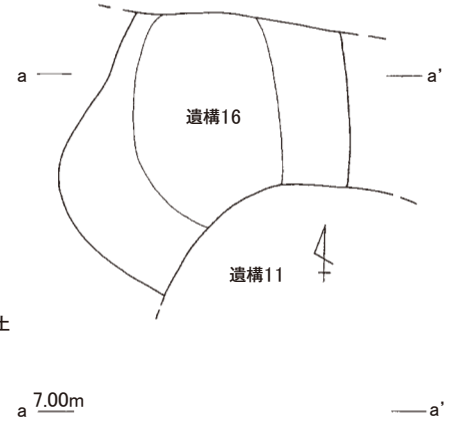
60～67は常滑廃棄遺構出土。60～66は常滑甕。67は備前播鉢。採集した常滑甕の破片は報告個体を除いて64片あった。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦器質火鉢が破片で出土している。



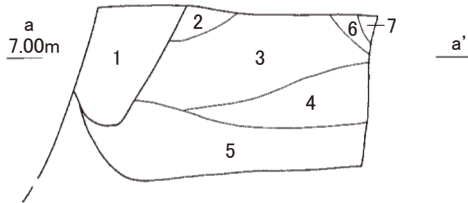
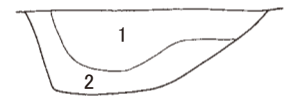
〈土層註記〉

・遺構16

1. 暗褐色砂質土 貝砂・炭化物多量
2. 暗褐色砂質土 貝砂多量・茶褐色砂質土



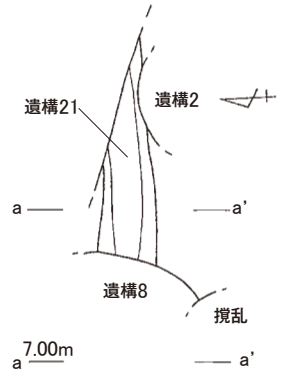
a 7.00m



〈土層註記〉

・遺構13・遺構14

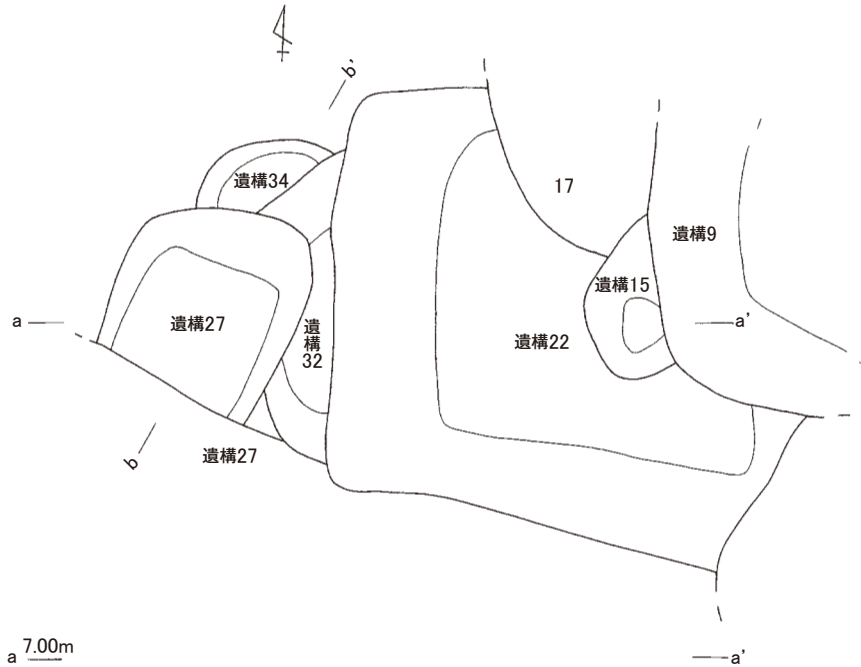
1. 暗褐色砂質土 (遺構13) 貝砂・炭化物少量
2. 暗褐色砂質土 貝砂・泥岩粒・炭化物少量
3. 暗褐色砂質土 貝砂・泥岩粒少量
4. 茶褐色砂質土 貝砂多量・泥岩粒・炭化物
5. 茶褐色砂質土 貝砂多量・泥岩粒・炭化物
6. 暗褐色砂質土 貝砂多量・泥岩粒・炭化物・灰褐色砂多量
7. 灰褐色砂 貝砂



a 7.00m



b



a 7.00m

b 7.00m

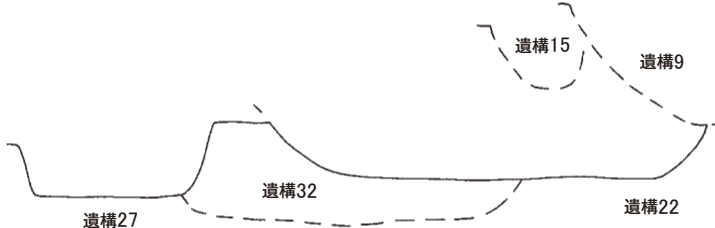
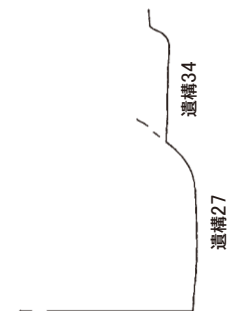


図7 第1面個別遺構(3)

遺構 13 (図7)

遺構9に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

68はかわらけ。69は瀬戸卸皿、器形は卸皿だが、内底部に卸目がない。その他に加工途中の石材が破片で出土している。

遺構 14 (図7)

調査区外に遺構の大半が延び、遺構11・13に切られる。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・泥岩粒・炭化物を含み、覆土中に風成砂が多く混入する。

出土遺物 (図10)

70～82は覆土出土遺物。70～72はかわらけ。73は瀬戸瓶子。74は常滑甕。75～76は常滑片口鉢Ⅱ類。77は東幡系鉢。78は石製品砥石。79～81は鉄製品釘。82は骨製品筭。

83～84は床面出土遺物。83はかわらけ。84は常滑片口鉢Ⅰ類。

その他に青磁鎗蓮弁文碗・瀬戸(皿・卸皿・壺・縁釉小皿)・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・鉄製品釘・骨製品筭・獣骨・果核が破片で出土している。報告したかわらけは3点であるが、破片で(大)111片・(小)17片が出土している。また、製品ではないが箱根七沢石(火山礫凝灰岩)が出土した。

遺構 15 (図7)

遺構9に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂を含む。遺物は破片でかわらけ・瀬戸折縁深皿・常滑甕・山茶碗・瓦器質火鉢・鉄製品釘・獣骨が出土している。

遺構 16 (図7)

遺構9・11に切られる。楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・多量の炭化物と貝砂を含む。

出土遺物 (図10)

85はかわらけ。86は白磁碗。87は瓦器質火鉢。88は鉄製品釘。その他に瀬戸入子・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

遺構 17 (図4)

個別に図面は掲載していない。遺構9・12・15に切られ、形状・規模は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・貝砂・炭化物を含む。僅かに残る遺構の肩部分が、ほぼ垂直に立ち上がるため竪穴建物であったと考えている。

出土遺物 (図10)

89は瀬戸天目碗。その他にかわらけ・常滑甕・鞆の羽口・獣骨が破片で出土している。

遺構 18 (図4)

個別に図面は掲載していない。遺構2に切られる。ピットである。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

90はかわらけ。その他に獣骨が出土している。

遺構 19 (図4)

攪乱、遺構12に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物 (図10)

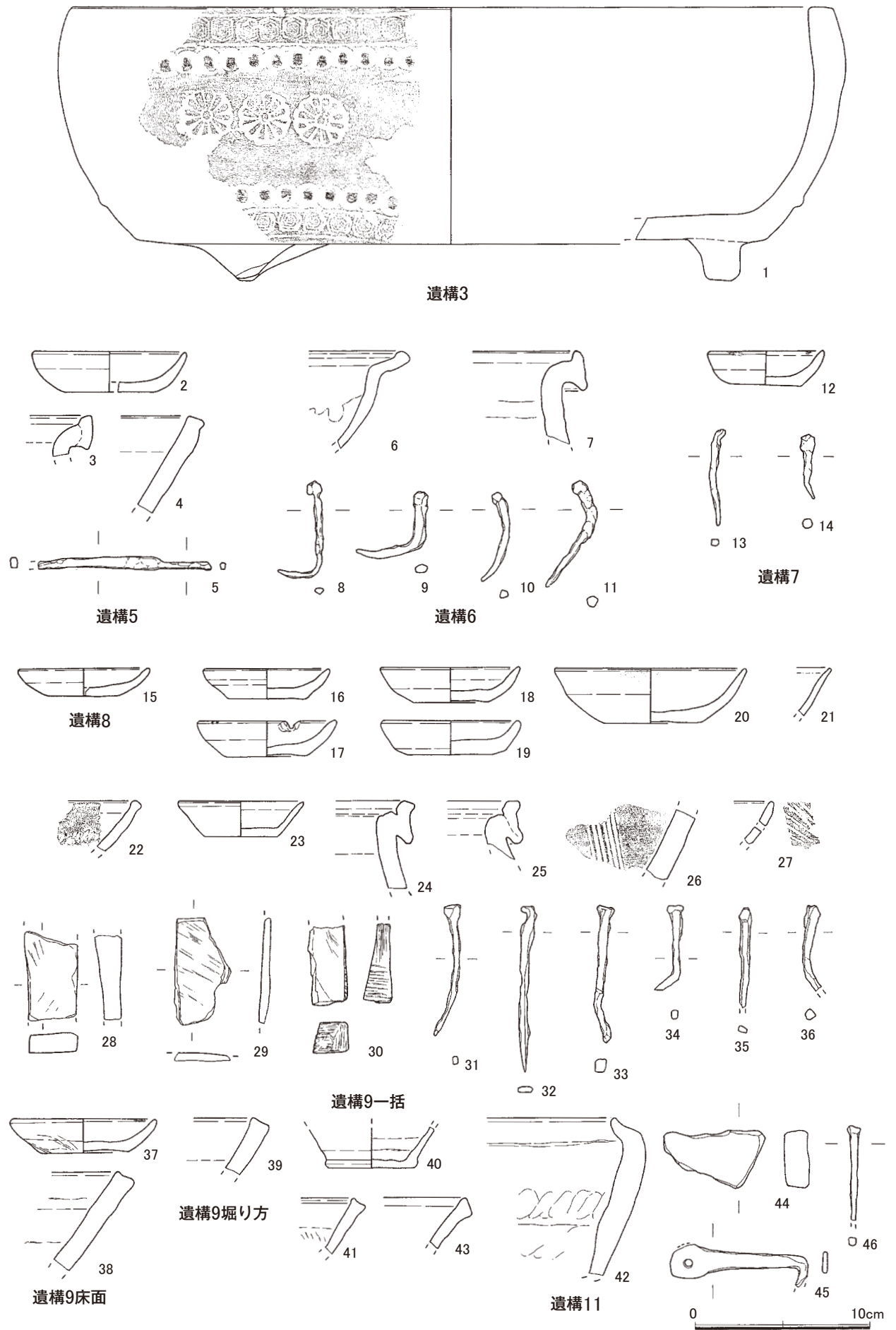


図8 第1面個別遺構出土遺物(1)

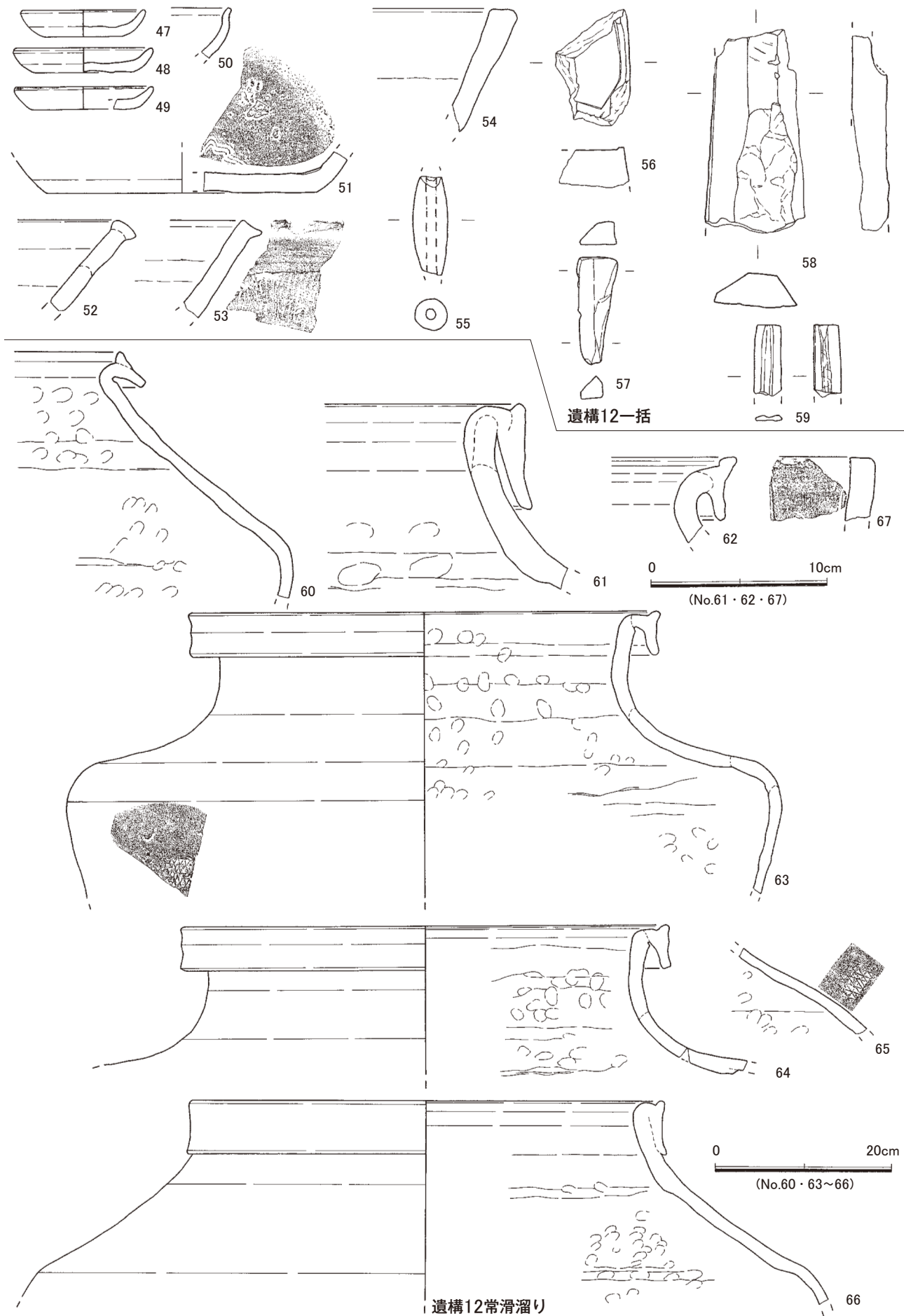


図9 第1面個別遺構出土遺物(2)

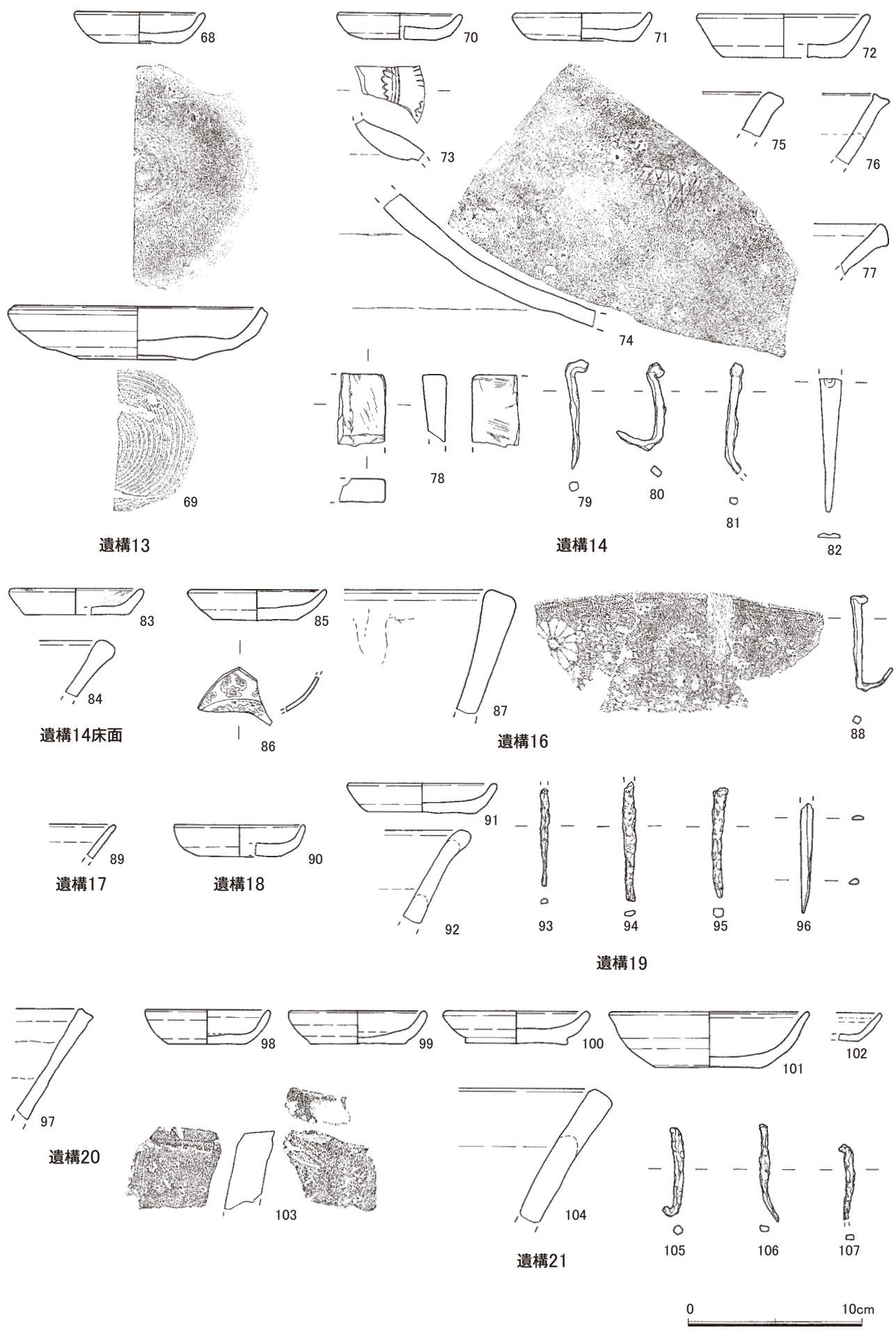


図10 第1面個別遺構出土遺物(3)

91はかわらけ。92は常滑片口鉢Ⅰ類。93～95は鉄製品釘。96は骨製品筭。その他に瀬戸天目茶碗・常滑甕・常滑鉢・瓦器質火鉢・獣骨が破片で出土している。報告したかわらけは1点であるが、破片では(大)145片・(小)5片が出土している。

遺構20(図4)

個別に図面は掲載していない。攪乱・遺構19に切られる。堅穴建物である。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物(図10)

97は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨・果核が破片で出土している。

遺構21(図7)

調査区外に遺構が延び、遺構8に切られるために規模は不明。溝状遺構である。断面逆台形を呈する。遺構覆土は茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図10)

98～101はかわらけ。102は白磁口元皿。103は平瓦。104は土器質火鉢。105～107は鉄製品釘。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・轆の羽口・獣骨が破片で出土している。掲載したかわらけは4点だが、破片で(大)109片・(小)4片が出土している。

遺構22(図7)

遺構15・16・17に切られ規模は不明。堅穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物(図11)

108～118はかわらけ。119は青磁鎗蓮弁文碗。120は瀬戸天目碗。121～122は瀬戸卸皿。123は瀬戸縁釉小皿。124は常滑甕。125は常滑片口鉢Ⅰ類。126は常滑片口鉢Ⅱ類。127は東幡系鉢。その他に白磁口元皿・瓦器質火鉢・鍔釜・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。掲載したかわらけは11点だが、破片で(大)337片・(小)27片が出土している。

遺構24(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構6・7・21に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物(図11)

128は白磁口元皿。129は常滑片口鉢Ⅱ類。130は常滑甕転用品。131は瓦器質火鉢。その他にかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構25(図4)

個別に図面は掲載していない。攪乱・遺構23に切られ規模・形状は不明。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・貝砂を含む。

出土遺物(図11)

132は常滑甕。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構27(図7)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物(図11)

133は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構28 (図4)

個別に図面は掲載していない。遺構19・27・34に切られ形状・規模は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図11)

134はかわらけ。135は白磁口兀碗。136は備前播鉢。その他に常滑甕・渥美甕・瓦器質火鉢・鍔釜・石製品硯・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

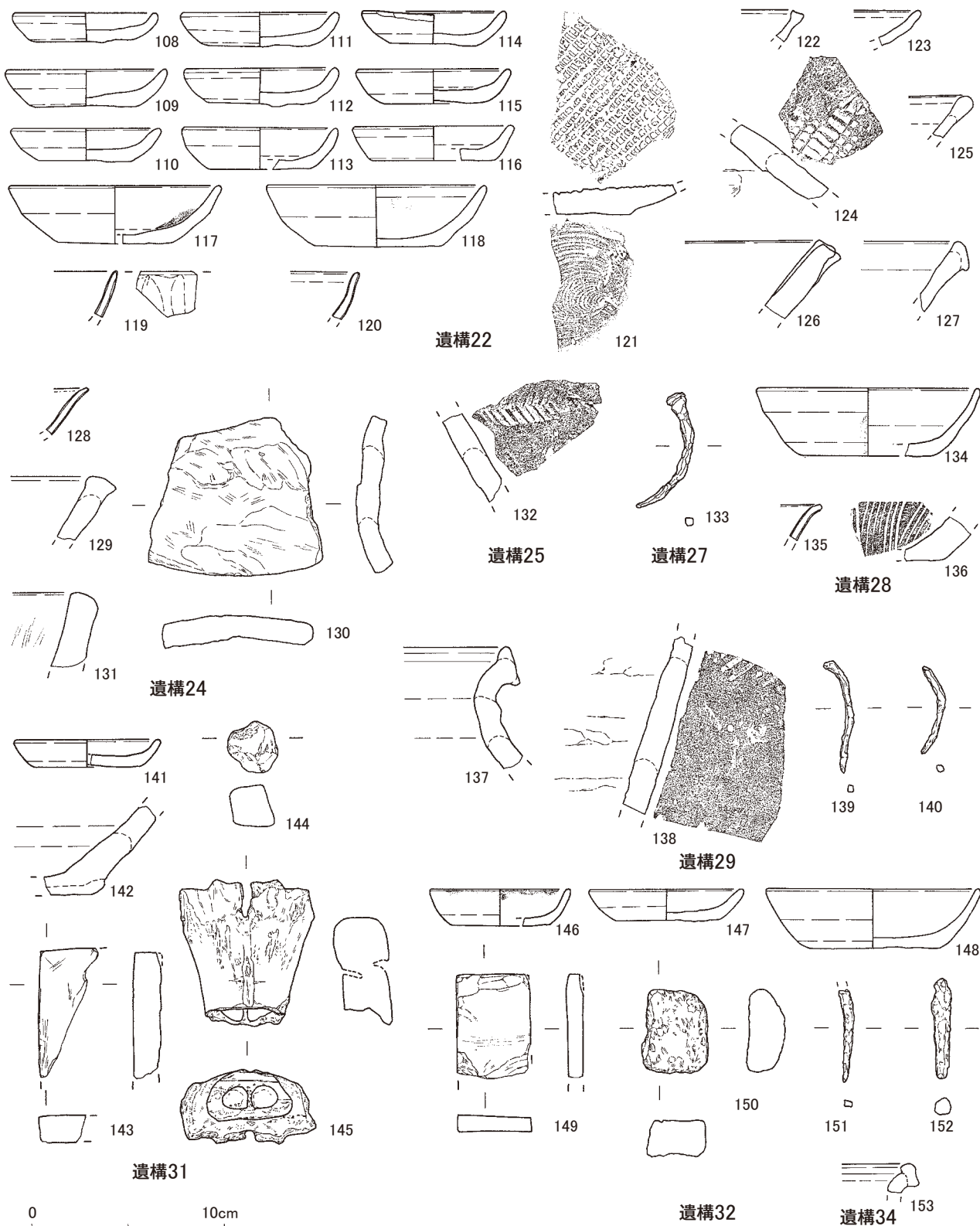


図11 第1面個別遺構出土遺物(4)

遺構29 (図4)

個別に図面は掲載していない。遺構6・20に切られる。円形を呈する土坑である。遺構覆土は黒褐色砂質土・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図11)

137は常滑甕。138は渥美甕。139～140は鉄製品釘。その他にかわらけ・青磁櫛搔文皿・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦・獣骨が破片で出土している。

遺構31 (図4)

個別に図面は掲載していない。遺構28・29に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図11)

141はかわらけ。142は常滑片口鉢Ⅱ類。143は石製品砥石。144はチャート片。145は獣骨加工品。その他に常滑甕・鞆の羽口・獣骨が破片で出土している。

遺構32 (図8)

遺構22・27に切られ規模は不明。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図11)

146～148はかわらけ。149は石製品砥石。150は軽石。151～152は鉄製品釘。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構34 (図7)

遺構27・34に切られ規模は不明。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物を多く含む。

出土遺物 (図11)

153は常滑甕。その他にかわらけ・獣骨が破片で出土している。

第1面面上出土遺物 (図12)

第1面精査時に発見した遺物である。1～6はかわらけ。7は青磁鎬蓮弁文碗。8は瀬戸平碗。9は瀬戸折縁深皿。10は瀬戸折縁皿。11～12は瀬戸卸皿。13は瀬戸縁釉小皿。14～18は常滑甕。19は常滑片口鉢Ⅰ類。20～21は渥美甕。22は東幡系鉢。23は土器質火鉢。24は瓦器質火鉢。25は瓦器質用途不明品。26～29は石製品砥石。30は骨角製品用途不明、装飾具か。その他に青磁折腰鉢・青磁壺・青白磁梅瓶・瀬戸(入子・壺・華瓶・鉢・天目碗)・鍔釜・チャート・鉄製品釘・鞆の羽口・土師器・須恵器・獣骨が破片で出土している。

第1面構成土出土遺物 (図12)

第1面検出後、第2面遺構検出までの堆積土から出土した遺物である。31～36はかわらけ。37～38は瀬戸底卸目皿。39～40は瀬戸卸皿。41は瀬戸縁釉小皿。42は常滑鳶口壺。43～44は常滑甕。45～47は常滑片口鉢Ⅰ類。48～50は常滑片口鉢Ⅱ類。51は東幡系鉢。52は山茶碗。53は常滑甕転用品。54は瓦器質火鉢。55～56は土製品土錘。57は石製品硯。58は鉄製品用途不明。59～62は鉄製品釘。63～64は骨製品筭。その他に青磁碗・白磁口元皿・白磁壺・瀬戸折縁深皿・瀬戸入子・瀬戸瓶子・瀬戸天目碗・常滑壺・渥美甕・滑石・鞆の羽口・獣骨が破片で出土している。

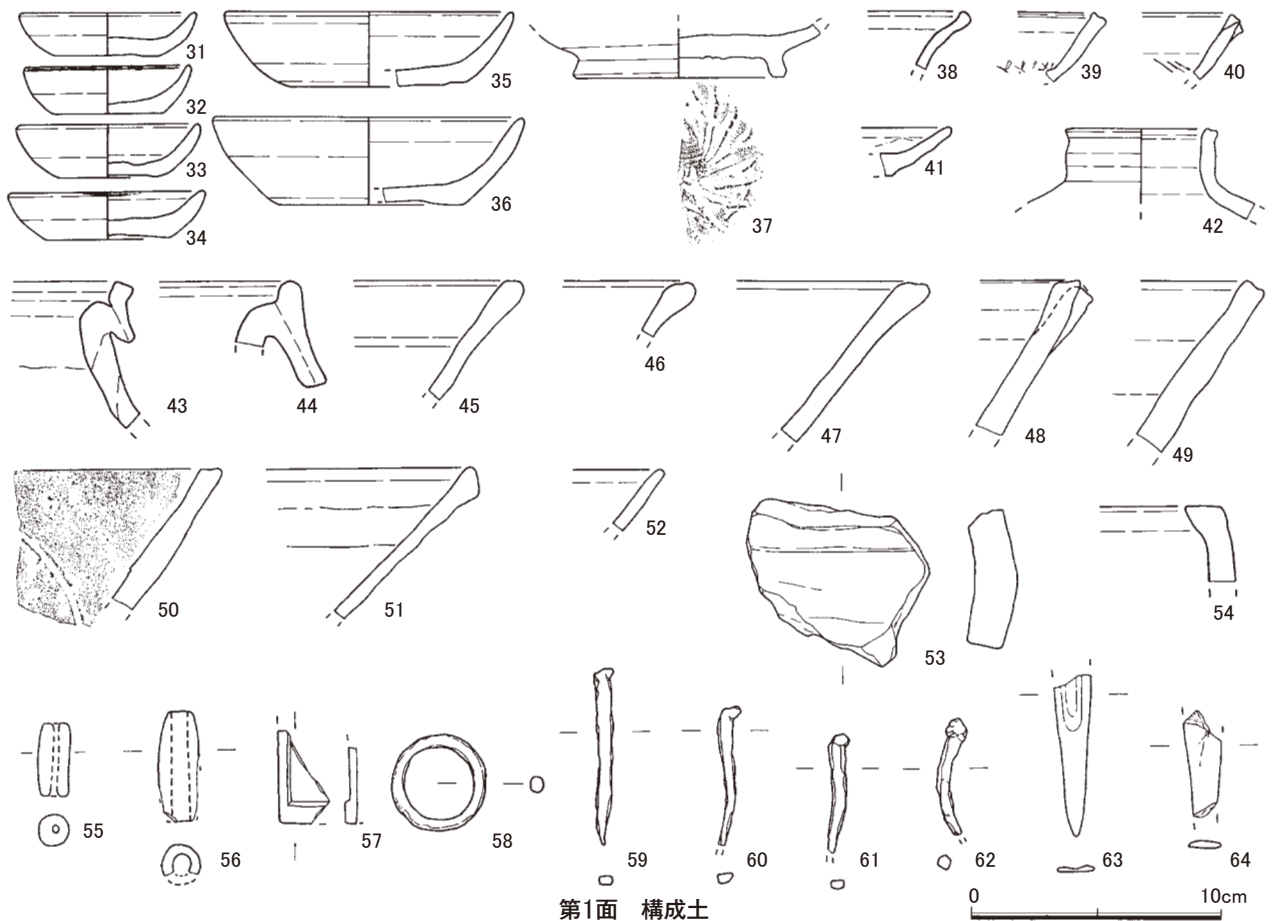
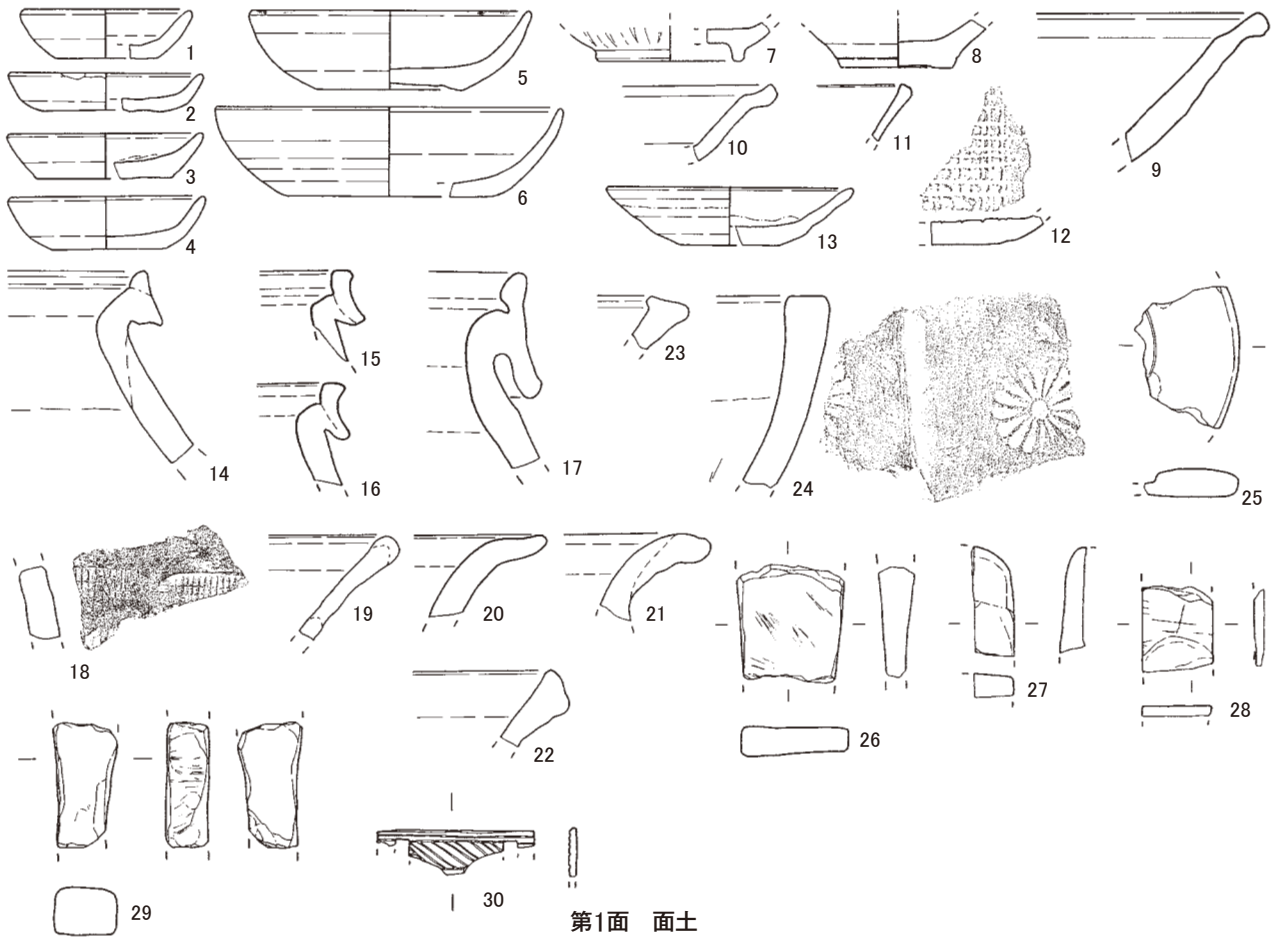


图12 第1面面上・構成土出土遺物

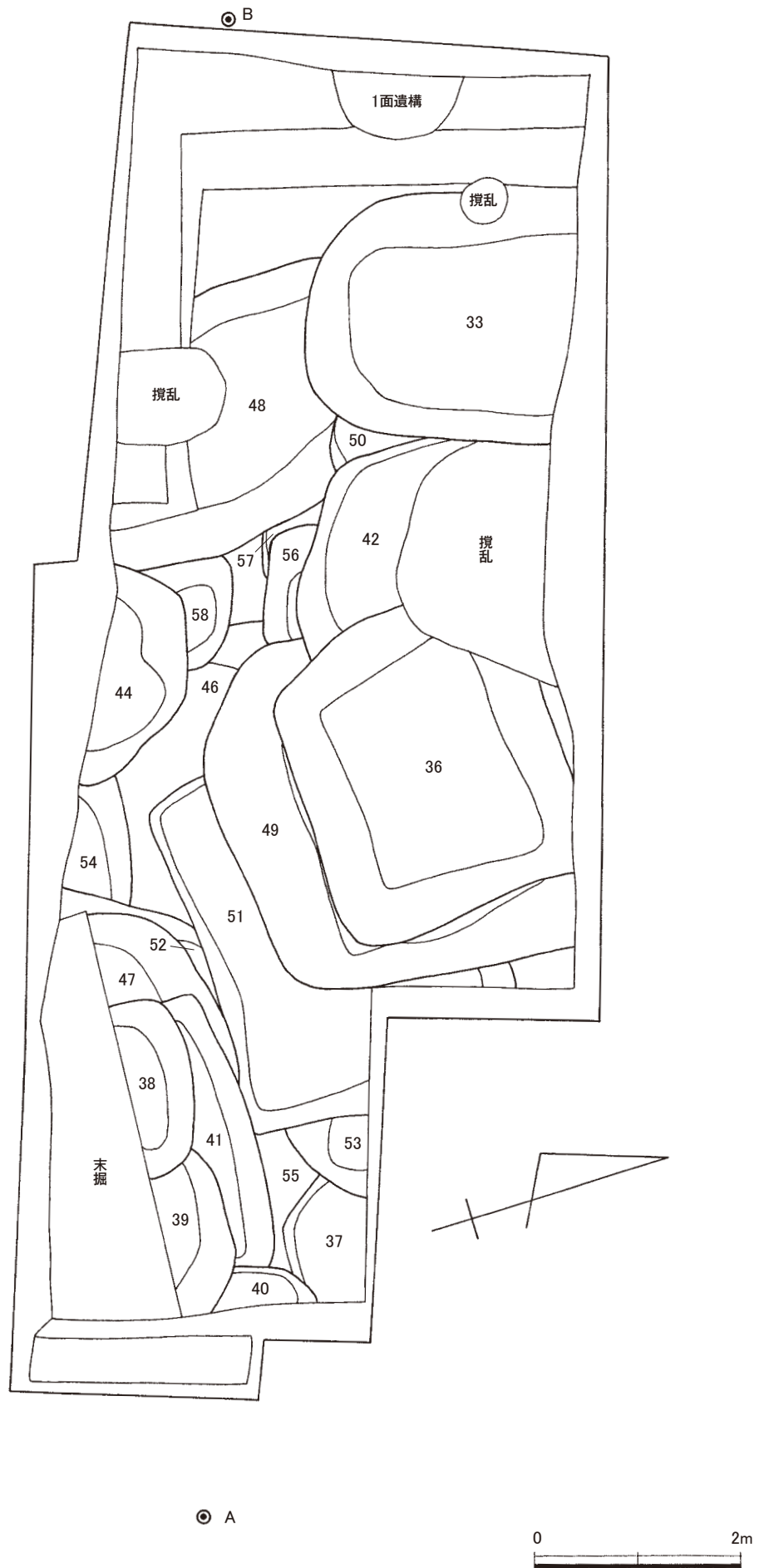


図13 第2面全測図

第2節 第2面の遺構と遺物（図13～図21）

第1面検出後、60～90cm掘り下げて発見した遺構である。第1面同様に、発見した遺構は竪穴建物が主となり、遺構の軸方向も第1面と同様に方位にほぼ準じて検出され、短期間に遺構の造り替えが行われていた様子も同様であった。現地表から200cm下方で湧水が激しくなり、湧水によって調査壁の崩落があったため、中世基盤層および、古代層の確認は断念した。発見した遺構は竪穴建物9軒・土坑12基である。

遺構33（図14）

調査区外に遺構が延び規模は不明。竪穴建物と考えているが、第2面で発見した他の竪穴建物とは軸線がやや異なる。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

出土遺物（図17）

1～4はかわらけ。5はかわらけ加工品。6～7は青磁鎚蓮弁文碗。8は白磁口元皿。9は瀬戸四耳壺。10～11は常滑甕。12は常滑片口鉢Ⅰ類。13は土器質火鉢。14～17は鉄製品釘。その他に白磁壺・常滑鉢・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦・獣骨が破片で出土している。報告したかわらけは（小）3個体・（大）1個体であるが、破片で（大）143片・（小）9片が出土している。

遺構36（図15）

調査区外に遺構の一部が延びる。竪穴建物である。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。

出土遺物（図17～図18）

18～43は遺構覆土出土。18～25はかわらけ。26は青白磁梅瓶。27は白磁口元皿。28は瀬戸折縁深皿。29～31は常滑甕。32は常滑片口鉢Ⅰ類。33は常滑片口鉢Ⅱ類。34～35は常滑甕転用品。36は瓦器質火鉢。37は石製品砥石。38は滑石鍋転用品、温石か。39は鉄製品用途不明。40～43は鉄製品釘。

44～45は床面直上出土遺物。44～45はかわらけ。

その他に青磁鎚蓮弁文碗・青白磁合子・獣骨が破片で出土している。

遺構37（図13）

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。土坑と考えている。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

出土遺物（図18）

46は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構38（図16）

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・多量の炭化物・貝砂・褐色粘質土を含む。

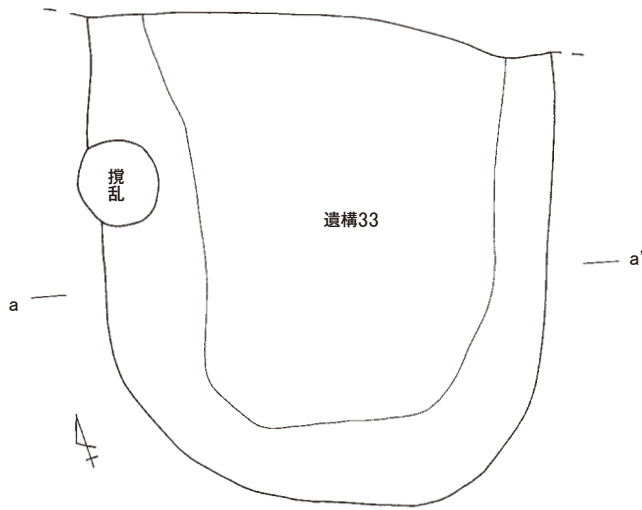
出土遺物（図18）

47～50はかわらけ。51は常滑片口鉢Ⅱ類。52は鉄製品掛け金具。53は鉄製品釘。その他に青磁蓮弁文碗・瀬戸入子・常滑甕・瓦器質火鉢・鞆の羽口・獣骨が破片で出土している。

遺構39（図16）

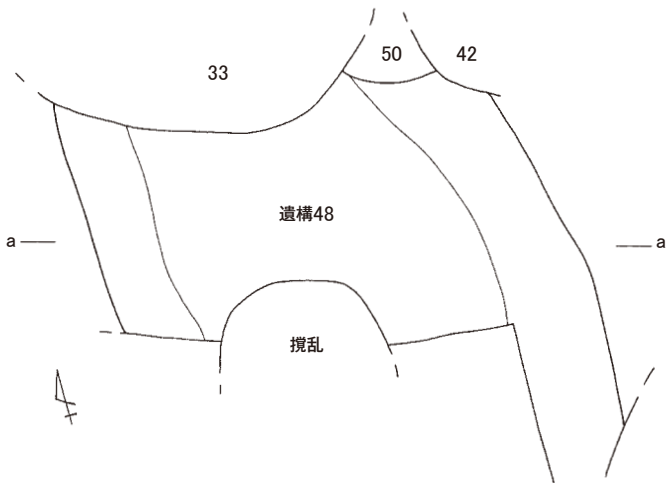
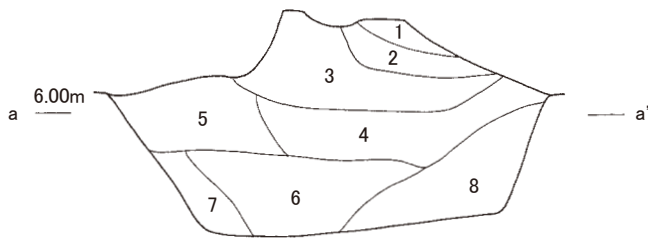
調査区外に遺構が延び、遺構38に切られるため規模・形状は不明であるが土坑と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。出土遺物はない。

遺構40（図13）



〈土層註記〉

1. 暗茶褐色砂質土 貝砂多・炭化物
2. 茶灰色砂質土 貝砂多・泥岩粒・炭化物
3. 茶灰色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色粘土
4. 暗茶灰色砂質土 炭化物・貝砂・褐色粘土・泥岩粒
5. 明茶灰色砂質土 泥岩粒・貝砂・炭化物
6. 明茶灰色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂多
7. 明茶灰色砂質土 貝砂多・泥岩粒
8. 暗黄褐色砂質土 炭化物多・泥岩粒



〈土層註記〉

1. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂多・縮まりあり
2. 暗黄褐色砂質土 炭化物・有機質土・縮まりあり
3. 茶灰色砂質土 黄褐色砂多・炭化物
4. 茶灰色砂質土 黄褐色砂多・炭化物・縮まりあり
5. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂・炭化物多・貝砂・縮まりあり
6. 暗灰色砂質土 貝砂多・炭化物・有機質土
7. 暗黄褐色砂質土 炭化物・貝砂・有機質土
8. 黒灰色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂多・有機質土
9. 暗灰色砂質土 貝砂多・炭化物・有機質土
10. 暗茶褐色砂質土 黄褐色砂多・炭化物・貝砂

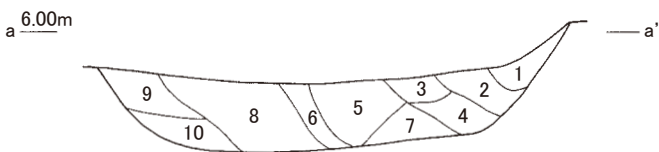
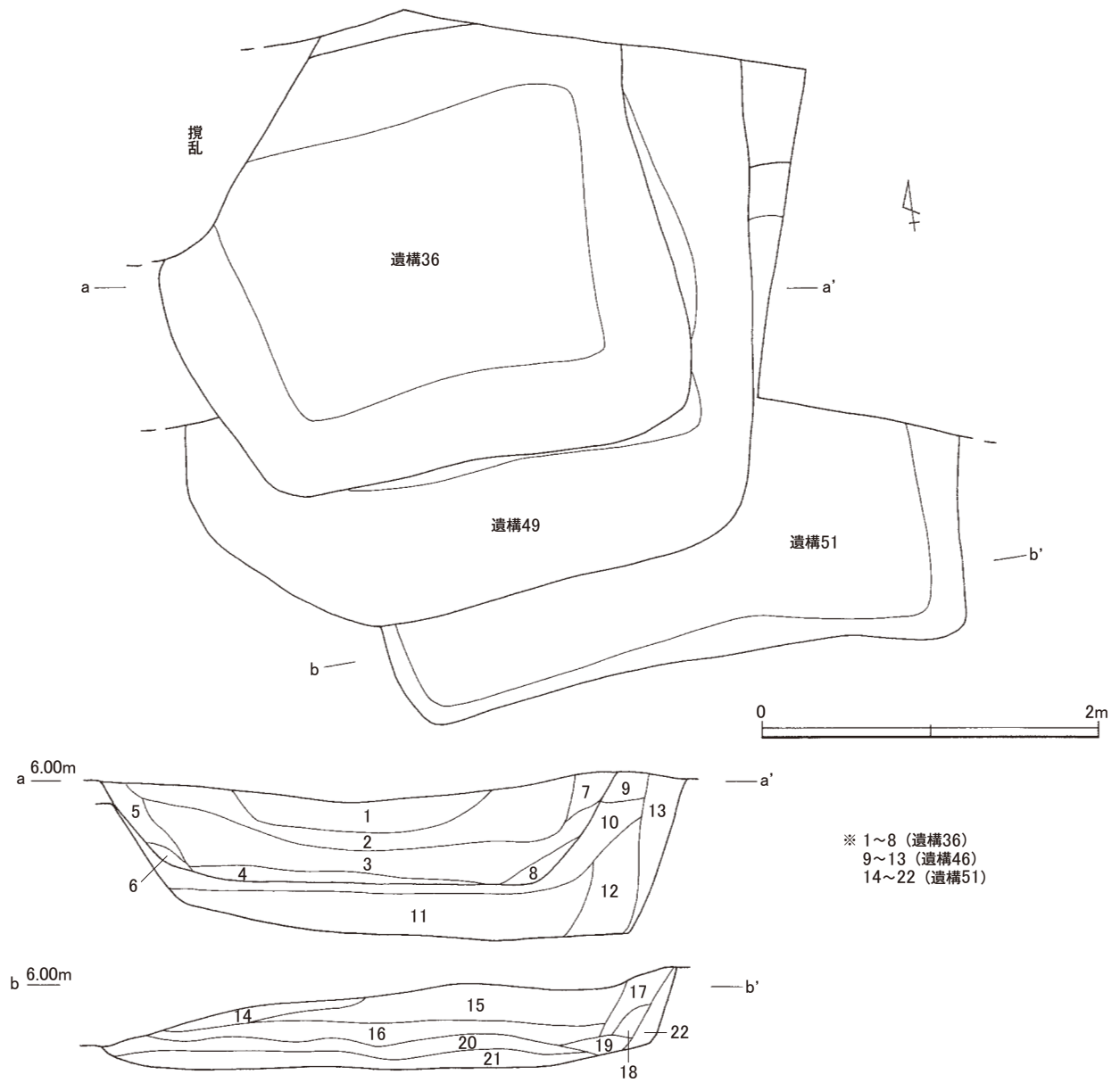


図14 第2面個別遺構(1)



〈土層註記〉

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂 | 12. 黄褐色砂質土 炭化物多量・褐色有機質土・貝砂 |
| 2. 茶褐色砂質土 泥岩粒多量・炭化物・褐色粘質土 | 13. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂 |
| 3. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘質土・貝砂 | 14. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂多量 |
| 4. 褐色砂質土 炭化物・褐色粘質土・貝砂・茶褐色砂 | 15. 茶褐色砂質土 炭化物 |
| 5. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂 | 16. 黄褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂 |
| 6. 黄褐色砂質土 炭化物・褐色粘質土・褐色砂 | 17. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂 |
| 7. 褐色砂質土 褐色粘質土・炭化物・貝砂 | 18. 暗褐色砂質土 貝砂 |
| 8. 黄褐色砂質土 褐色粘質土多量・貝砂 | 19. 暗褐色砂質土 貝砂 |
| 9. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物多量・貝砂・黄褐色砂 | 20. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂 |
| 10. 暗茶褐色砂質土 炭化物・貝砂・黄褐色砂 | 21. 褐色砂質土 炭化物・貝砂 |
| 11. 黄褐色砂質土 炭化物・貝砂・茶色有機質土 | 22. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂 |

図15 第2面個別遺構(2)

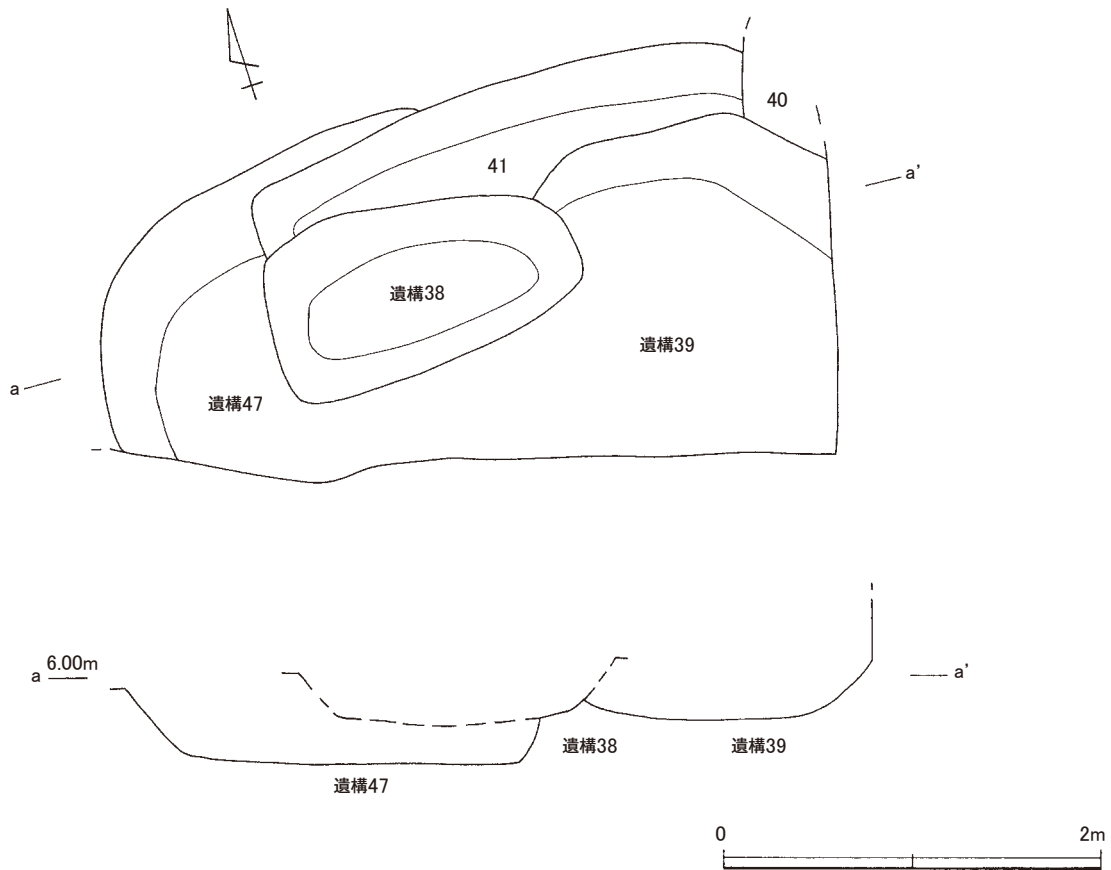


図16 第2面個別遺構(3)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構30に切られ規模・形状は不明であるが土坑と考えている。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む

出土遺物(図18)

54～55は常滑甕。その他にかわらけ・獣骨が破片で出土している。

遺構41(図16)

調査区外に遺構が延び、遺構38・39・40に切られ規模・形状は不明となったが竪穴建物と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物多量・泥岩粒・貝砂を含む。

出土遺物(図18)

56～58はかわらけ。59は常滑甕。60は鉄製品刀子。その他に鉄滓・轆の羽口・獣骨が破片で出土している。

遺構42(図13)

個別に図面は掲載していない。攪乱と遺構33・36に切られ規模・形状は不明となったが竪穴建物と考えている。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物多量・褐色砂・貝砂を含む。

出土遺物(図18)

61は常滑甕。62は土器質火鉢。その他にかわらけ・青磁蓮弁文碗・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構44(図13)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

出土遺物 (図 18)

63～67はかわらけ。68は常滑甕。69は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構 46 (図 13)

遺構 44・49・51・54・59に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図 18)

70はかわらけ。71は常滑片口鉢Ⅰ類。そのほかに獣骨が出土している。

遺構 47 (図 16)

調査区外に遺構が延び、遺構 38・41に切られ規模・形状は不明であるが竪穴建物と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・黄褐色砂・褐色有機質土を含む。

出土遺物 (図 18)

72はかわらけ。73は常滑甕。74は常滑片口鉢Ⅱ類。75～76は石製品砥石。その他に獣骨が出土している。

遺構 48 (図 14)

調査区外に遺構が延び、遺構 33に切られるため規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗黄褐色砂質土・炭化物・茶色有機質土・貝砂・黄褐色砂を多く含む。

出土遺物 (図 19)

77はかわらけ。78は常滑甕。79は常滑片口鉢Ⅰ類。80～81は鉄製品釘。その他に渥美甕・獣骨が破片で出土している。

遺構 49 (図 15)

調査区外に遺構が延び、遺構 36に大きく切られる。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・茶色有機質土・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図 19)

82～95はかわらけ。96～97は常滑甕。98は常滑片口鉢Ⅰ類。99は吉備系碗。100～104は鉄製品釘。その他に青白磁梅瓶・常滑片口鉢Ⅱ類・鞆の羽口・獣骨が破片で出土している。

遺構 50 (図 13)

遺構 33・42に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は黄灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・暗灰色砂質土・貝砂を含む。

出土遺物 (図 19)

105は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

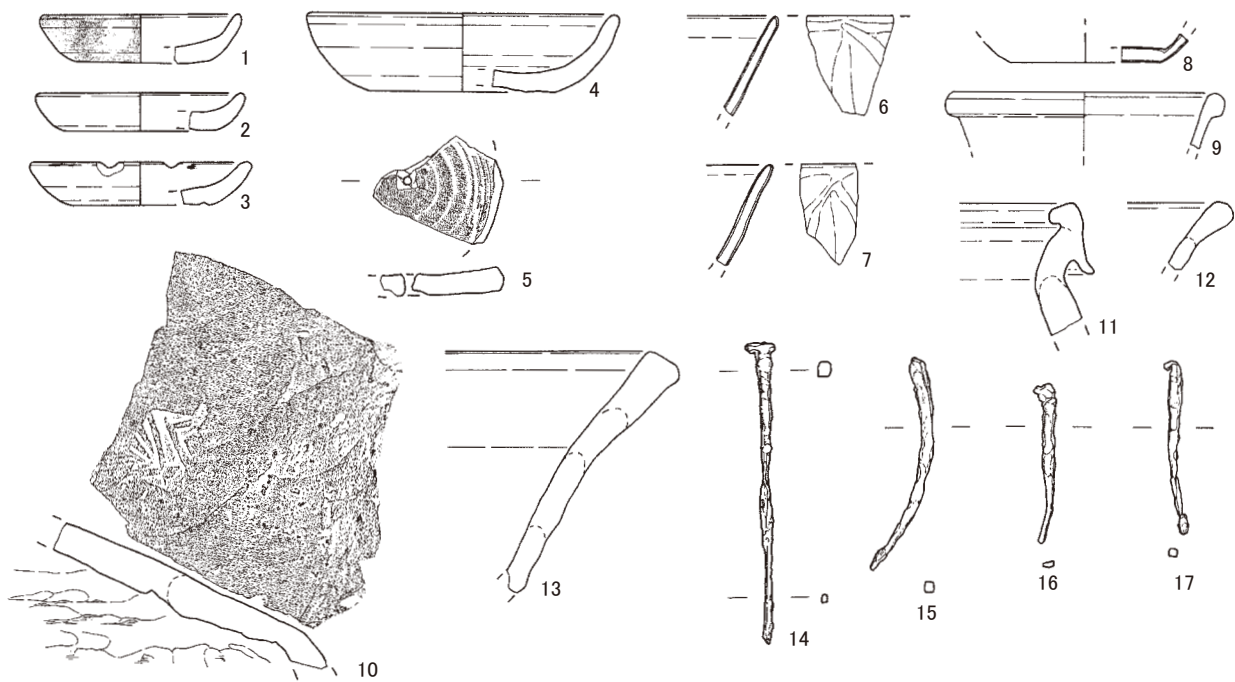
遺構 51 (図 15)

調査区外に遺構が延び、遺構 36・49に切られる。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

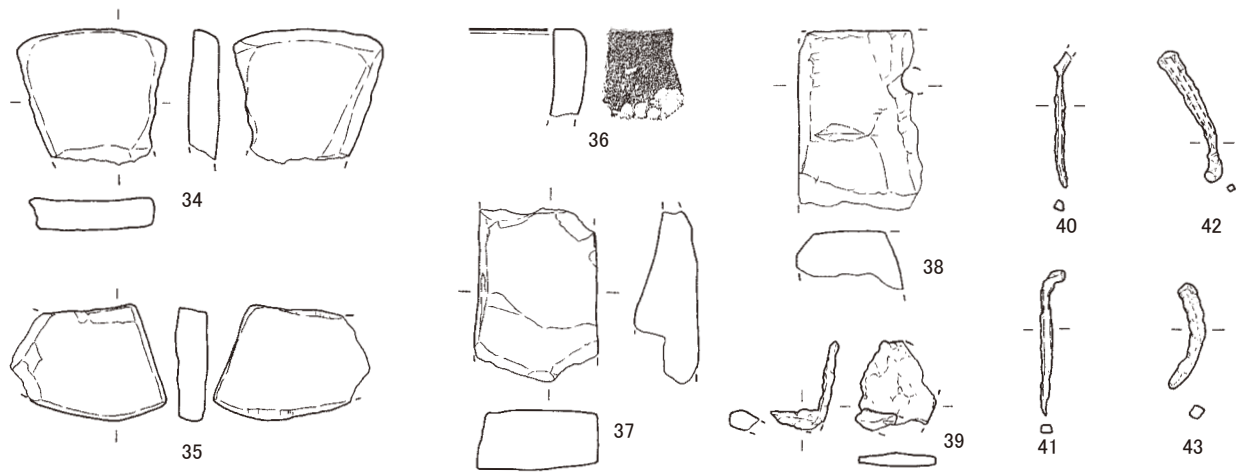
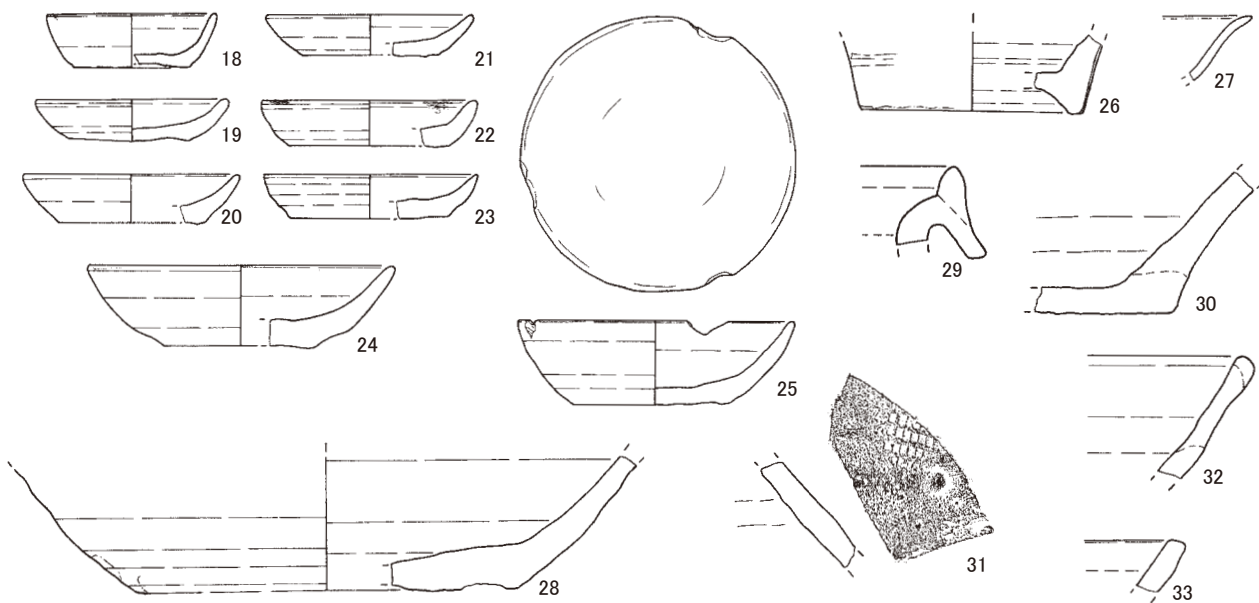
出土遺物 (図 19)

106～117は遺構覆土出土遺物。106～107はかわらけ。108は青磁鎚蓮弁文碗。109は常滑甕。110は常滑片口鉢Ⅱ類。111は石製品砥石。112は石製品軽石。113～117は鉄製品釘。

118は掘り方出土遺物。118は青磁鎚蓮弁文碗。その他に青白磁壺・瀬戸壺・獣骨が破片で出土している。



遺構33



遺構36一括

0 10cm

圖17 第2面個別遺構出土遺物(1)

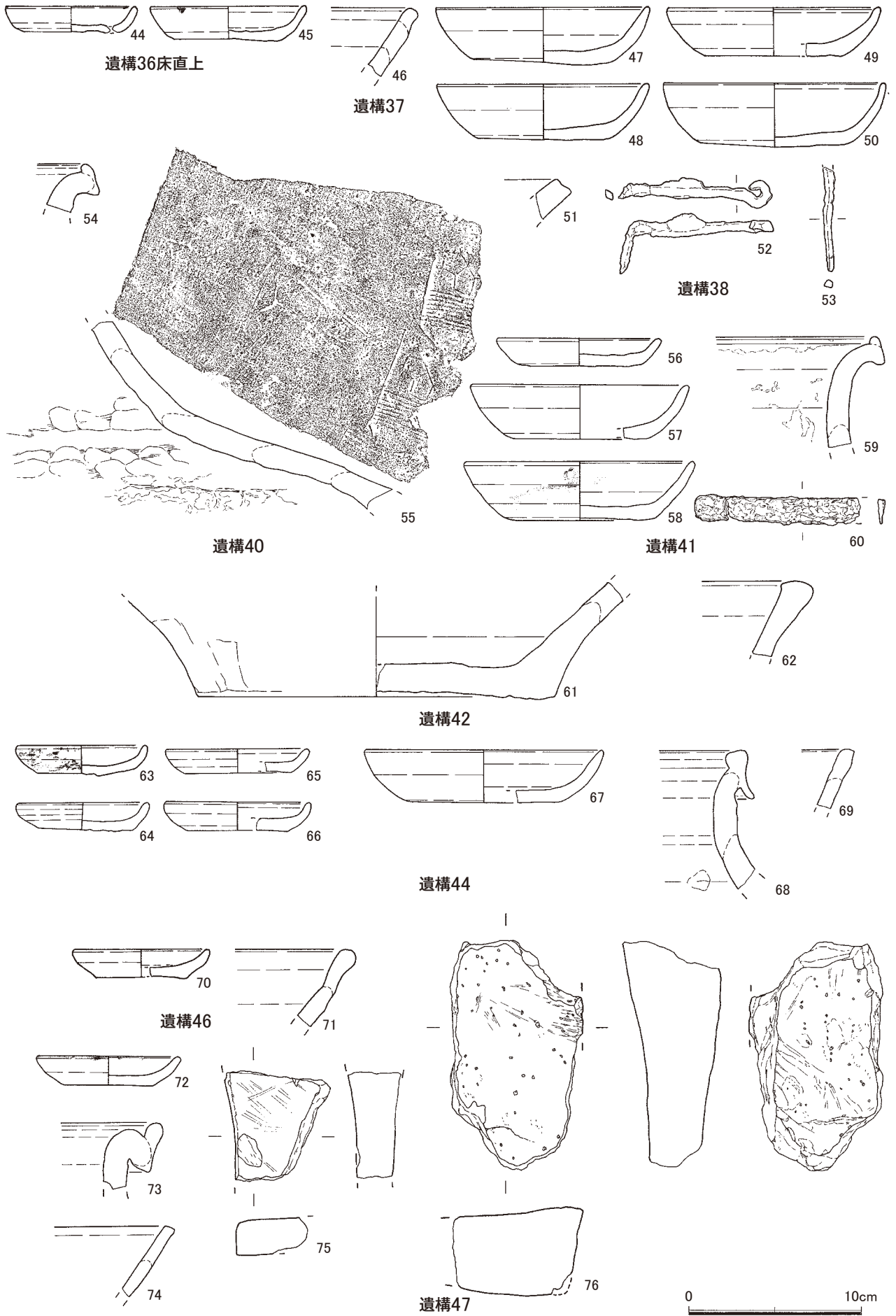
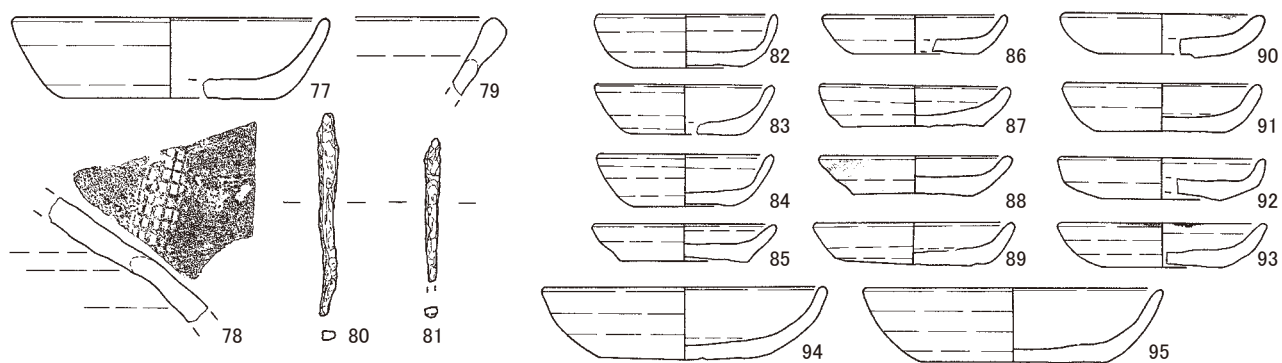
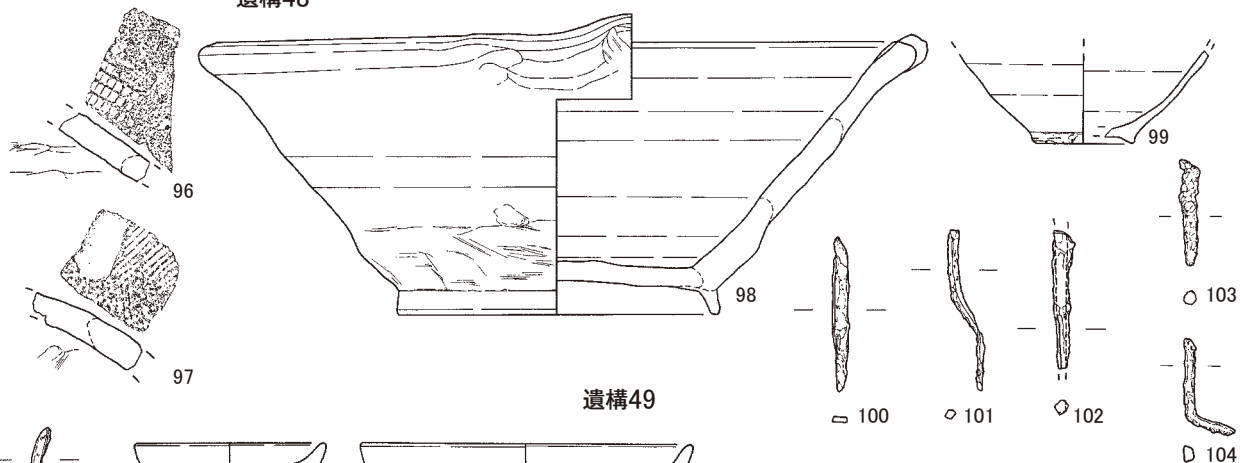


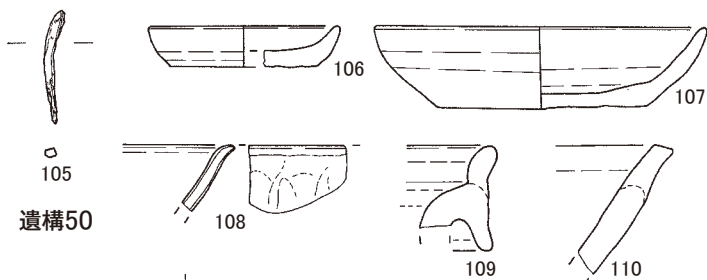
図18 第2面個別遺構出土遺物(2)



遺構48



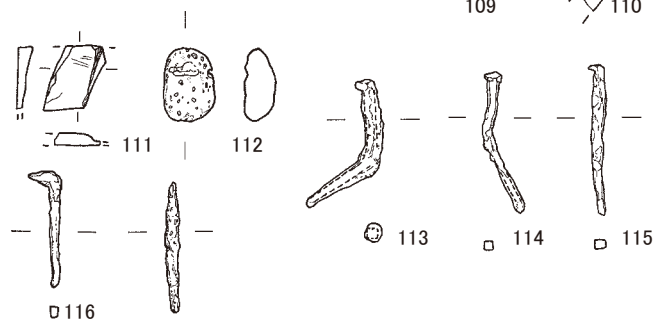
遺構49



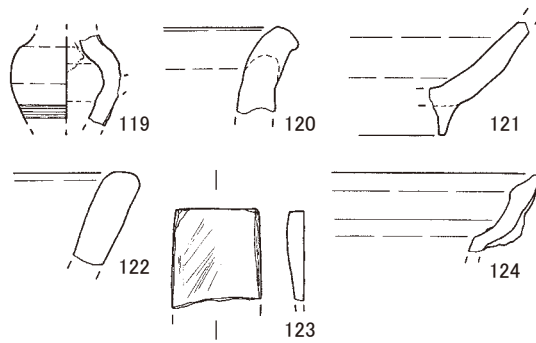
遺構50



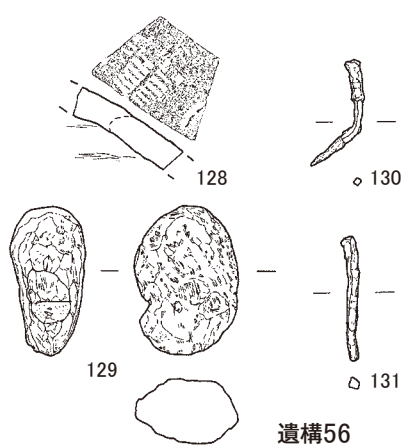
遺構51掘り方



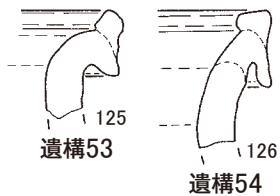
遺構51一括



遺構52

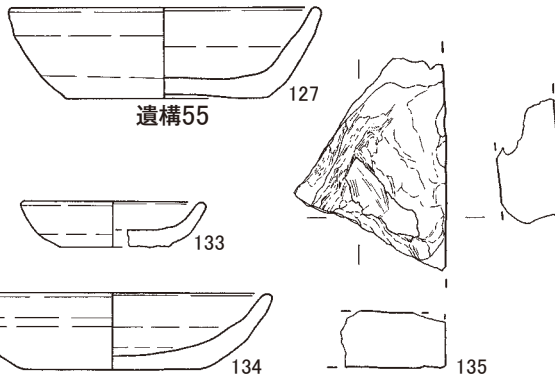


遺構56



遺構53

遺構54



遺構55

遺構58

0 10cm

図19 第2面個別遺構出土遺物

遺構52 (図13)

個別に図面は掲載していない。遺構47・51に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

出土遺物 (図19)

119は瀬戸水滴。120は瀬戸壺。121は常滑片口鉢Ⅰ類。122は瓦器質火鉢。123は石製品砥石。124は鉄製品鍋。その他にかわらけ・青磁鎬蓮弁文碗・常滑甕・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構53 (図13)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構51に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・暗褐色砂質土・貝砂・褐色有機質土を含む。

出土遺物 (図19)

125は常滑甕。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構54 (図13)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構44・52に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・貝砂を含む。

出土遺物 (図19)

126は常滑甕。その他にかわらけ・渥美甕・獣骨が破片で出土している。

遺構55 (図13)

遺構37・41・51・53に切られ、僅かに遺構の底面が残っていた。規模・形状は不明。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図19)

127はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・鉄製品釘・轆の羽口・鍔釜・獣骨が破片で出土している。

遺構56 (図13)

遺構42・49に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩・炭化物・黄褐色砂を含む。

出土遺物 (図19)

128は常滑甕。129は石製品軽石。130～131は鉄製品釘。132は円筒埴輪。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・土器質火鉢・獣骨が破片で出土している。

遺構58 (図13)

遺構44・48に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・貝砂・黄褐色砂多量を含む。

出土遺物 (図19)

133～134はかわらけ。135は石製品硯。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・獣骨が破片で出土している。

第2面面上出土遺物 (図20・図21)

第1面遺構検出後、第2面遺構のプラン確認時に出土した遺物である。1～30はかわらけ。31～32は青磁鎬蓮弁文碗。33は舶載天目碗。34～37は瀬戸卸皿。38は渥美無頸壺。39～44は常滑甕。45～49は常滑片口鉢Ⅰ類。50～52は常滑片口鉢Ⅱ類。53は尾張型片口鉢。54は山茶碗。55は土器質火鉢。

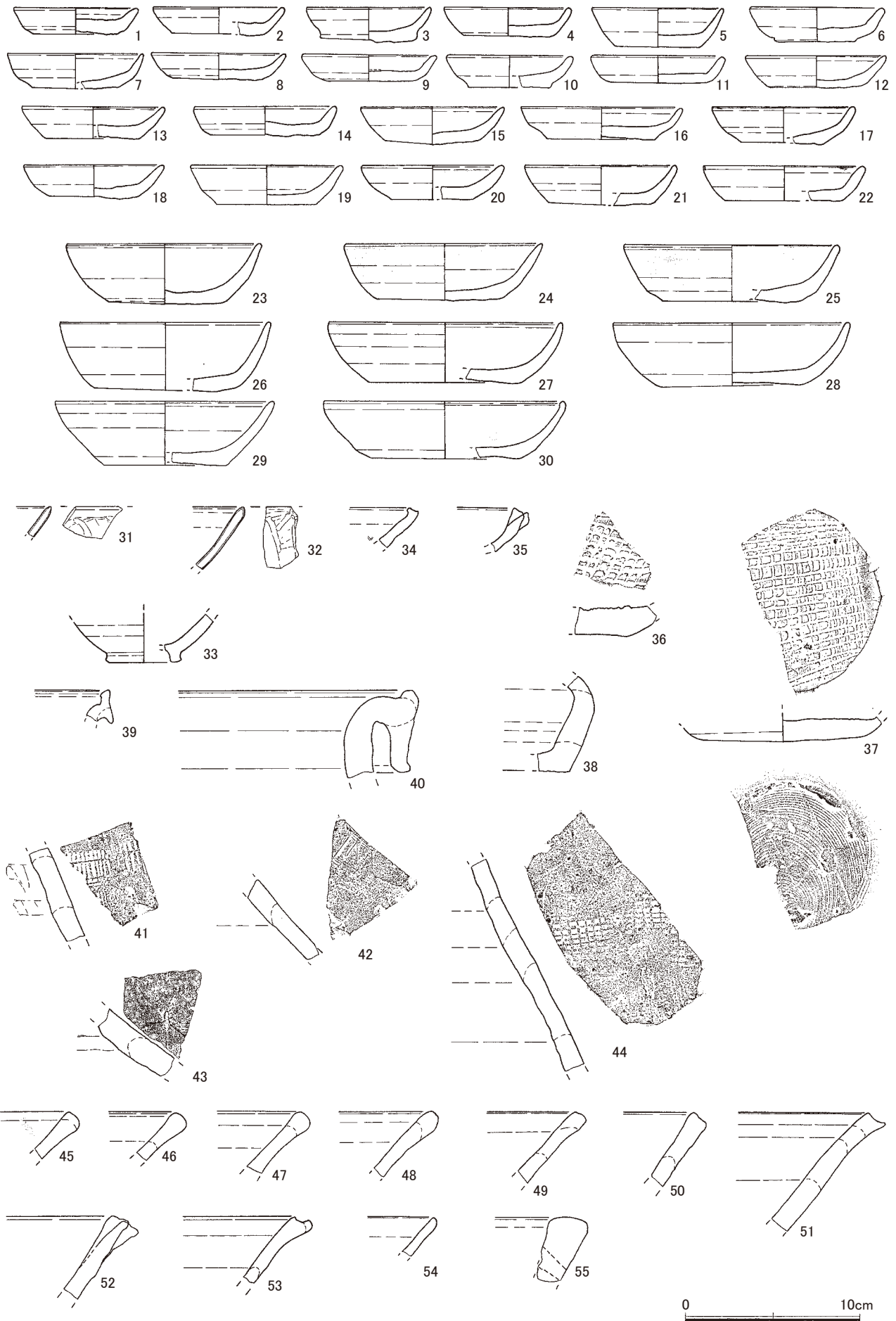


图20 第2面面上出土遺物(1)

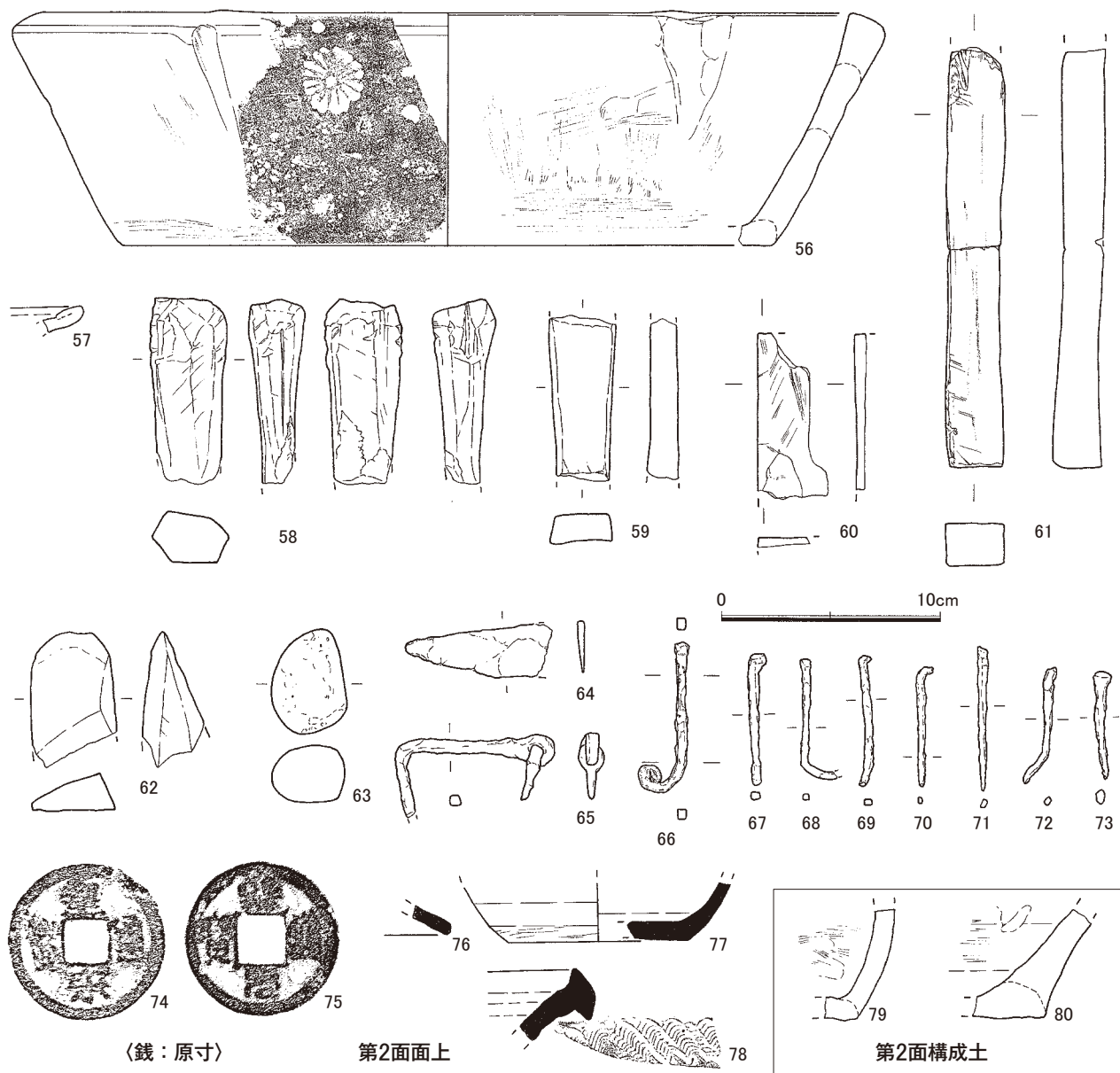


図21 第2面面上・構成土出土遺物(2)

56は瓦器質火鉢。57は南伊勢系土鍋。58～61は石製品砥石。62は石製品用途不明。63は石製品軽石。64は鉄製品刀子。65は鉄製品掛金具。66～73は鉄製品釘。74～75は銭。76は須恵器蓋。77は須恵器坏。78は須恵器甕。そのほかに手づくね・白磁口兀皿・青白磁梅瓶・常滑壺・瓦・鉄滓・鞆の羽口・土師器甕・獣骨が破片で出土している。

第2面構成土出土遺物(図21)

第2面遺構検出後、遺構下層から出土した遺物である。79は常滑壺。80は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・青磁鎚蓮弁文碗・瀬戸花瓶・鞆の羽口・土師器甕・獣骨が破片で出土している。

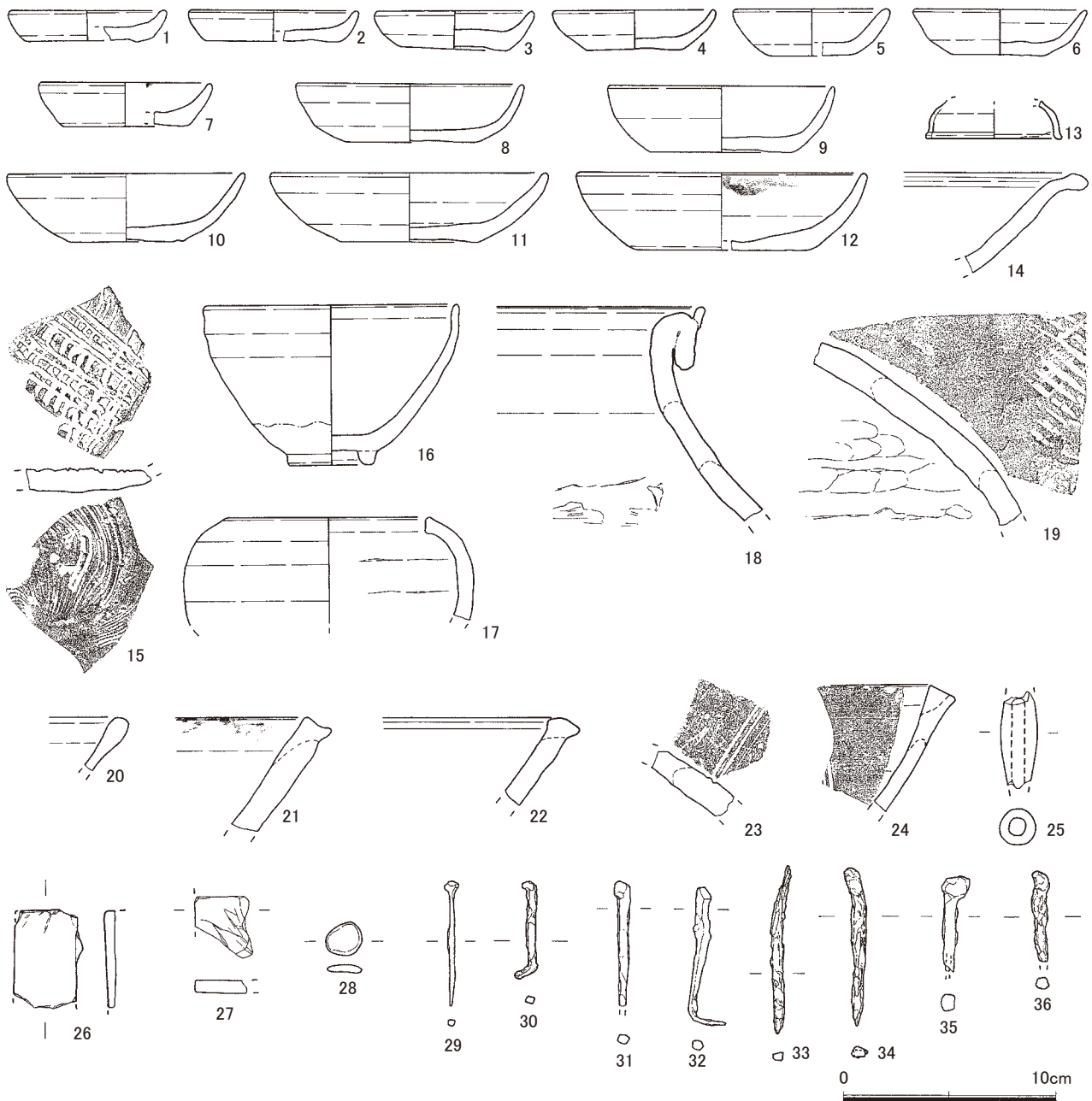


図22 表土採集遺物

表土採集遺物 (図22)

表土から第1面検出までの堆積層で発見した遺物である。

1～12はかわらけ。13は白磁合子蓋。14は瀬戸折縁深皿。15は瀬戸卸皿。16は瀬戸天目碗。17は常滑無頸壺。18は常滑甕。19は渥美甕。20は常滑片口鉢Ⅰ類。21～22は常滑片口鉢Ⅱ類。23は渥美壺。24は備前播鉢。25は土製品土錘。26～27は石製品砥石。28は石製品碁石か。29～36は鉄製品釘。

第三章 まとめ

鎌倉市街地遺跡の南端に位置する本遺跡を含む砂丘上の遺跡地では、縄文期の遺物は数点出土しているが生活の痕跡は認められない。弥生時代から古墳時代になると、遺構・遺物が発見され、古墳時代後期から平安時代前期にかけてより多くの遺構・遺物を発見する。その後数百年の空白期間を経て自然堆積の風成砂層上に中世の遺跡が発見される。

本調査では堅穴建物を中心に土坑・ピットなどを検出した。発見した遺構は地業層を掘りこんで構築されていないため、遺構の切りあいによって生活面を2枚に分けて報告した。第1面・第2面共に多くの遺構が切りあい、重複した遺構を検出している。発見した堅穴建物は長軸・単軸ともに3m前後の方形を呈し、やや小型の堅穴建物であった。また、第1面、第2面共に発見した堅穴建物は軸方位を同一とし、短期間に同位置で遺構の造り替えが行われた様子が窺える。

出土した遺物はかわらけ、常滑窯製品を中心に、国内窯製品、舶載製品など多様な遺物が出土した。また埴塼、鑄型の出土はなかったが、遺構覆土・堆積土等から多くの轆の羽口、鉄滓が破片で出土している。遺物の出土だけで鑄物の作業場、あるいは工人の存在を云々することはできないが、海浜域の堅穴建物が発見される一帯で石材加工、骨格加工等の工人の存在を窺わせる遺跡地が多いことを考えると、本調査地を含む周辺で鑄物師・鑄物工房の存在を考える事も出来るのではないかと考えている。第2面の遺構からは手づくねかわらけの出土量が若干増える傾向が見られるが、遺構の切り合いが激しく、それぞれの遺構が廃棄される段階で混入したものも多く、遺物が混乱しているため年代の細分は困難であった。遺構の存続年代は第1面、第2面ともに概ね14世紀代と考えている。

調査地から直線距離で北西に150mの地点にある和田塚は、明治20年に開通した道路工事中、塚を切り崩した際に人物埴輪三体、馬埴輪、円筒埴輪が発見されている。現在では土盛りされた塚(和田塚)が一基残っているだけだが、周辺には5世紀後半に比定される高塚古墳の下向原古墳群があったとされる。本調査地では第2面の遺構56覆土から5世紀後半に比定される円筒埴輪の破片が発見され、調査地周辺の古墳群の存在を示唆するものと考えている。

湧水のために中世以下の堆積層を確認することはできなかったが、須恵器・土師器などの古代遺物を数点、破片ではあるが発見し、報告した中世の生活面下層に古代の生活遺構の存在を窺わせた。

<参考文献> (本報分に共通する)

- ・『中世瀬戸窯の研究』 高志書院 藤澤良祐 2008年
- ・『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』 愛知県 常滑・中野晴久 2012年
- ・『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』 愛知県 渥美・安井俊則 2012年
- ・『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』 太宰府市教育委員会 2000年
- ・『日本歴史大系14巻』 「神奈川県地名」 平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉市史 近代通史編』 吉川弘文館 平成六年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二

遺構計測表

遺構No.	面	長軸	短軸	深さ	遺構No.	面	長軸	短軸	深さ
遺構 2	1	115	76	27	遺構 31	1	200	(160)	31
遺構 3	1	124	(53)	40	遺構 32	1	195	175	19 ~ 28
遺構 4	1	135	90	23	遺構 33	2	(235)	(220)	75 ~ 120
遺構 5	1	(94)	(85)	60	遺構 34	1	—	—	12
遺構 6	1	(226)	(187)	80	遺構 36	2	293	255	56 ~ 85
遺構 7	1	163	(110)	70	遺構 37	2	(82)	(108)	34
遺構 8	1	不明	(38)	75	遺構 38	2	168	94	32
遺構 9	1	295	276	67 ~ 76	遺構 39	2	(130)	(63)	59
遺構 11	1	220	(96)	74	遺構 40	2	(96)	(34)	40
遺構 12	1	(400)	226	40 ~ 50	遺構 41	2	(276)	(61)	44
遺構 13	1	(49)	55	42	遺構 42	2	220	(86)	24
遺構 14	1	(304)	(150 ~ 174)	42 ~ 82	遺構 44	2	210	(82)	42
遺構 15	1	70	(38)	28	遺構 45+49	2	(350)	350	60 ~ 100
遺構 16	1	(150)	134 ~ 153	46	遺構 46	2	—	—	31
遺構 17	1	(96)	(95)	51	遺構 47	2	210	168	48
遺構 18	1	39	29	21	遺構 48	2	245	(131)	40 ~ 60
遺構 19	1	(260)	(98)	27 ~ 39	遺構 49	2	343	(340)	69
遺構 20	1	(150)	(83)	25	遺構 50	2	—	—	31
遺構 21	1	(92)	30	9	遺構 51	2	346	(140)	50 ~ 64
遺構 22	1	(254)	(211)	44	遺構 52	2	210	(104)	30
遺構 23	1	—	—	35	遺構 53	2	(74)	(71)	70
遺構 24	1	(156)	(66)	36	遺構 54	2	(250)	(64)	36
遺構 25	1	(109)	(66)	75	遺構 56	2	141	114	18
遺構 27	1	(104)	98	45	遺構 57	2	(82)	76	5 ~ 9
遺構 28	1	(187)	—	16	遺構 58	2	(100)	52	30
遺構 29	1	150	126	17 ~ 26					

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径長さ	底径幅	器高厚さ	観察内容 a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
8	1	遺構 3	瓦器質火鉢	(43.2)	(32)	15.4	a. 輪積み技法 内外面横位のミガキ 黒色処理 外底面砂底 b. 明灰色 砂粒・白色粒・小石粒 粗土 c. 黒灰色 e. 軟質気味 f. 口縁4/1～底部一部 g. 菊花文・雷文の叩き印 連珠文貼り付け 逆台形板状脚 IV類
8	2	遺構 5	かわらけ	(8.5)	(5.0)	2.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
8	3	遺構 5	常滑甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石・石英 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	4	遺構 5	常滑片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石・石英・白色粒 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	5	遺構 5	鉄製品用途不明	(9.8)	0.8	0.4	f. 先端欠損 g. 鎌か?
8	6	遺構 6	瀬戸折縁深皿	-	-	-	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒 良土 d. 灰緑色 漬け掛けの後刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片 中期後半
8	7	遺構 6	常滑甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	8	遺構 6	鉄製品釘	7.0	0.5	0.3	a. 断面方形 鍛造
8	9	遺構 6	鉄製品釘	6.5	0.7	0.4	a. 断面方形 鍛造
8	10	遺構 6	鉄製品釘	5.5	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造
8	11	遺構 6	鉄製品釘	7.1	0.6	0.7	a. 断面方形 鍛造
8	12	遺構 7	かわらけ	6.4	4.0	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 完形 g. 口唇部一部油煤痕
8	13	遺構 7	鉄製品釘	5.4	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造
8	14	遺構 7	鉄製品釘	3.6	0.5	0.5	a. 断面方形 鍛造 錯付着
8	15	遺構 8	かわらけ	(7.3)	(4.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
8	16	遺構 9	かわらけ	(7.1)	(4.4)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
8	17	遺構 9	かわらけ	(7.6)	4.7	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 2/3 g. 口唇部打ち欠き 油煤痕
8	18	遺構 9	かわらけ	(7.8)	(4.3)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3
8	19	遺構 9	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3
8	20	遺構 9	かわらけ	(10.8)	(5.7)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3 g. 口縁内外一部黒色に変色
8	21	遺構 9	白磁口元皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒 精良緻密 d. 灰白色 口唇部露胎 f. 口縁部片
8	22	遺構 9	瀬戸卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・白色粒 粗土 d. 灰緑色釉 刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片
8	23	遺構 9	瀬戸入子	(7.1)	(4.1)	2.0	a. ロクロ b. 灰白色 砂粒 黒色粒少量 c. 灰白色 e. 良好 硬質 f. 1/6
8	24	遺構 9	常滑甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 微砂・白色粒・長石 c. 暗茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	25	遺構 9	常滑甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 微砂・長石・石英 c. 暗茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	26	遺構 9	備前播鉢	-	-	-	a. 輪積み技法後、ロクロ b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 赤褐色 e. 良好 硬質 f. 胴部片 g. 6条の櫛目
8	27	遺構 9	かわらけ加工品	(2.0)	(1.8)	0.5	a. 胴部穿孔 斜位の線刻 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 用途不明
8	28	遺構 9	石製品砥石	(5.0)	3.0	1.5	a. 砥面4面 c. 灰緑色 g. 中砥 上野産
8	29	遺構 9	石製品砥石	(6.0)	(3.2)	(0.5)	a. 砥面1面 c. 灰白色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
8	30	遺構 9	石製品砥石	(4.4)	2.1	1.1	a. 砥面2面 切り出し痕 線刻あり b. 小口切り取り痕 c. 赤褐色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
8	31	遺構 9	鉄製品釘	7.5	0.3	0.4	a. 断面方形 鍛造
8	32	遺構 9	鉄製品釘	9.5	0.8	0.4	a. 断面方形 鍛造
8	33	遺構 9	鉄製品釘	7.8	0.6	0.7	a. 断面方形 鍛造
8	34	遺構 9	鉄製品釘	5.5	0.3	0.5	a. 断面方形 鍛造
8	35	遺構 9	鉄製品釘	(5.8)	0.5	0.3	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
8	36	遺構 9	鉄製品釘	(5.0)	0.5	0.5	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
8	37	遺構 9 床面	かわらけ	8.1	4.8	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 完形 g. 口唇部一部黒色に変色
8	38	遺構 9 床面	常滑片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 黒色粒・白色粒・長石・石英 c. 褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	39	遺構 9 掘り方	常滑片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 黒色粒・白色粒・長石・石英 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
8	40	遺構 11	舶載茶入れ	-	(4.9)	-	a. ロクロ b. 灰色 白色粒 d. 暗茶褐色 e. 堅緻 f. 底部片

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
8	41	遺構 11	瀬戸 卸皿	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 微砂粒含む良土 d.明灰緑色 刷毛塗り e.良好 f.口縁部片 g.二次焼成を受け釉剥離
8	42	遺構 11	常滑 片口碗	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英 c.褐色 e.硬質 f.口縁部～胴部片
8	43	遺構 11	東播系 鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 微砂・黒色粒・白色粒・長石 c.灰色 e.良好 f.口縁部片
8	44	遺構 11	常滑 転用品	3.2	5.7	1.4	a.輪積み技法 b.黄灰色 砂粒・長石・石英 c.黄橙色 e.硬質 f.胴部片 g.堯転用品 断面摩耗
8	45	遺構 11	鉄製品 掛金	(9.0)	(1.9)	0.3	f.端部欠損 g.頭部中央に0.4cmの孔あり
8	46	遺構 11	鉄製品 釘	(5.3)	0.4	0.5	a.断面方形 鍛造 f.端部欠損
9	47	遺構 12	かわらけ	(7.0)	(4.3)	1.5	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
9	48	遺構 12	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.4	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
9	49	遺構 12	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4 g.口唇部、油煤痕
9	50	遺構 12	舶載 天目碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 黒色粒・白色粒 粗土 d.黒褐釉 f.口縁部片 g.小碗
9	51	遺構 12	瀬戸 折縁深皿	-	(15.4)	-	a.ロクロ b.灰色 微砂 良土 d.灰緑色の灰釉を刷毛塗りの後漬け掛け e.良好 f.底部片 g.内面文様入る 後期前半
9	52	遺構 12	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.暗灰色 長石・石英・小石粒 c.明茶褐色 e.硬質 f.口縁～胴部片
9	53	遺構 12	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 外面上部横位ナデ調整、下部縦位に工具による調整 b.灰褐色 砂粒・白色粒・長石 c.明茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
9	54	遺構 12	土器質 火鉢	-	-	-	a.輪積み技法 口唇部磨き痕 b.橙色 砂粒・白色粒・海綿骨芯・小石粒 c.茶褐色 e.やや甘い f.口縁部片
9	55	遺構 12	土製品 土鉢	(5.6)	胴径 2.0	孔径 0.6	c.灰褐色
9	56	遺構 12	石製品 硯	(6.5)	(5.1)	(2.3)	c.赤褐色 f.陸部 g.赤間ガ開産
9	57	遺構 12	石製品 用途不明	6.2	2.3	1.3	a.転用品 c.暗灰褐色 g.鳴滝産 磨耗
9	58	遺構 12	石製品 砥石	(11.1)	(5.4)	(1.9)	a.砥面4面 c.暗灰色 g.中砥 天草産
9	59	遺構 12	骨製品 弁	(4.1)	1.5	0.3	
9	60	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁～胴部片
9	61	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.中野編9型式
9	62	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.中野編7型式
9	63	遺構 12	常滑 甕	(53.0)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁～肩部1/4 g.7型式 斜格子の叩き印
9	64	遺構 12	常滑 甕	(55.4)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.褐色 e.硬質 f.口縁～胴部1/4 g.7型式 斜格子文叩き印
9	65	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.褐色 e.硬質 f.胴部片 g.斜格子文叩き印 図9-66と同一個体と思われる。
9	66	遺構 12	常滑 甕	(53.8)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁～肩部1/6 g.10型式
9	67	遺構 12	備前 播鉢	-	-	-	a.輪積み技法 口縁ナデ調整 b.灰褐色 砂粒・小石粒 c.灰白色 e.良好 f.口縁部片
10	68	遺構 13	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
10	69	遺構 13	瀬戸 卸皿	(14.1)	(6.5)	3.0	a.ロクロ b.灰黄色 微砂・白色粒 精良土 d.明灰緑色 刷毛塗り (内面～外面胴下まで) e.良好 f.1/3 g.卸目なし
10	70	遺構 14	かわらけ	(6.8)	(4.2)	1.5	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
10	71	遺構 14	かわらけ	7.6	6.2	1.6	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.ほぼ完品
10	72	遺構 14	かわらけ	(9.8)	(6.8)	2.5	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/3
10	73	遺構 14	瀬戸 瓶子	-	-	-	a.ロクロ b.淡黄色 砂粒・白色粒含む 紛失気味 d.黒褐釉 漬け掛け e.良好 f.肩部片 1/3 g.肩部に文様
10	74	遺構 14	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 微砂・黒色粒・長石・石英 c.暗茶褐色 e.硬質 f.肩～胴部片 g.斜格子文叩き印
10	75	遺構 14	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.暗灰色 長石・石英 c.灰褐色 e.硬質 f.口縁部片
10	76	遺構 14	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 黒色粒・長石・石英 c.暗灰色 e.硬質 f.口縁部片
10	77	遺構 14	東播系 鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 微砂・黒色粒・白色粒・小石粒 c.灰色 e.良好 f.口縁部片
10	78	遺構 14	石製品 砥石	-	-	-	a.砥面2面 側面切り出し痕 c.黄灰色 g.仕上砥 鳴滝産 転用途中か、二次加工痕あり
10	79	遺構 14	鉄製品 釘	7.0	0.5	0.5	a.断面方形 鍛造
10	80	遺構 14	鉄製品 釘	7.0	0.4	0.6	a.断面方形 鍛造

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
10	81	遺構 14	鉄製品 釘	(6.4)	0.4	0.3	a.断面方形 鍛造 f.端部欠損
10	82	遺構 14	骨製品 筭	(7.5)	1.2	0.3	a.丁寧成形 f.端部欠損
10	83	遺構 14 床面	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.5	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4 g.器面黒色に変色
10	84	遺構 14 床面	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 微砂・長石・石英 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
10	85	遺構 16	かわらけ	7.6	4.8	1.7	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.黄橙色 e.良好 f.2/3 g.口唇部一部黒色に変色
10	86	遺構 16	白磁 碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良緻密 d.青味がかつた乳白色不透明釉 f.胴部片 内面草花の印花 文
10	87	遺構 16	瓦器質 火鉢	-	-	-	a.輪積み 内外面共に縦位のミガキ 炭素吸着黒色処理 b.明灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c.灰色 (黒 色処理剥がれ気味) e.良好 f.口縁部片 g.輪花型 黒色処理剥がれ気味 外面菊花文スタンプ押印
10	88	遺構 16	鉄製品 釘	(7.1)	0.4	0.4	a.断面方形 鍛造
10	89	遺構 17	瀬戸 天目碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰黄色 砂粒 良土 d.黒褐色 漬け掛け e.良好 f.口縁部片
10	90	遺構 18	かわらけ	(7.4)	(4.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
10	91	遺構 19	かわらけ	(8.3)	(6.2)	1.6	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.1/3
10	92	遺構 19	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 微砂・黒色粒・長石・石英 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.内面磨耗
10	93	遺構 19	鉄製品 釘	(5.5)	0.4	0.3	a.断面方形 鍛造 f.端部欠損
10	94	遺構 19	鉄製品 釘	(6.7)	0.6	0.2	a.断面方形 鍛造 f.端部欠損
10	95	遺構 19	鉄製品 釘	6.7	0.5	0.4	a.断面方形 鍛造
10	96	遺構 19	骨製品 筭	(6.2)	0.7	0.3	f.端部欠損 再加工して使用
10	97	遺構 20	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.暗灰色 砂粒・長石・石英・白色粒 c.赤褐色 e.硬質 f.口縁部片
10	98	遺構 21	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.0	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.橙 色 e.良好 f.1/4
10	99	遺構 21	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.9	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.橙色 e.良好 f.1/4
10	100	遺構 21	かわらけ	(8.1)	(2.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄 灰色 e.やや甘い f.1/3
10	101	遺構 21	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.2	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.1/4
10	102	遺構 21	白磁 口元皿	-	-	-	a.ロクロ b.白色 精良緻密 d.白色透明釉 f.1/5
10	103	遺構 21	瓦 平瓦	-	-	1.9	a.凹面・布目痕 縦位のナデ調整 離れ砂 凸面・斜格子の叩き目 離れ砂 b.灰色 微砂・黒色粒 c.暗灰色 e.良好
10	104	遺構 21	土器質 火鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c.灰色 e.良好 f.口縁部片 g.口縁部磨き 痕 内外面横位のナデ
10	105	遺構 21	鉄製品 釘	5.6	0.4	0.4	a.断面方形 鍛造 f.錆付着
10	106	遺構 21	鉄製品 釘	5.5	0.5	0.3	a.断面方形 鍛造
10	107	遺構 21	鉄製品 釘	(4.2)	0.5	0.3	a.断面方形 鍛造 f.端部欠損
11	108	遺構 22	かわらけ	7.3	5.1	1.4	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.黄灰色 e.やや甘い f.完形
11	109	遺構 22	かわらけ	8.1	5.4	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.黄灰色 e.やや甘い f.完形
11	110	遺構 22	かわらけ	(7.5)	(4.9)	1.6	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c.橙色 e.良好 f.1/4
11	111	遺構 22	かわらけ	7.8	5.2	1.7	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄 灰色 e.やや甘い f.完形
11	112	遺構 22	かわらけ	7.7	5.3	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.ほぼ完形
11	113	遺構 22	かわらけ	(7.9)	(5.1)	2.1	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや 甘い f.1/4
11	114	遺構 22	かわらけ	7.3	4.4	1.6	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c.黄橙色 e.良好 f.3/4 g.口縁部一部擦っている
11	115	遺構 22	かわらけ	(7.7)	(4.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄 灰色 e.やや甘い f.1/3
11	116	遺構 22	かわらけ	(8.1)	(6.2)	1.8	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや 甘い f.1/3
11	117	遺構 22	かわらけ	(10.8)	(6.0)	3.0	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄 橙色 e.良好 f.1/3 g.一部黒色に変色
11	118	遺構 22	かわらけ	11.2	6.5	3.3	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや 甘い f.3/4 g.内外面一部黒色に変色
11	119	遺構 22	青磁 鎗進弁文碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 精良緻密 d.灰緑色 気泡多 f.口縁部片
11	120	遺構 22	瀬戸 天目碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 微砂 精良土 d.漬け掛け e.良好 f.口縁部片 g.中期

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
11	121	遺構 22	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 淡黄色 微砂 良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 底部片
11	122	遺構 22	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 黄灰色 微砂 精良土 d. 明灰緑色 e. 良好 f. 口縁部片
11	123	遺構 22	瀬戸 緑釉小皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・白色粒 良土 d. 灰緑色 漬け掛け e. 良好 f. 口縁部片
11	124	遺構 22	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 格子の叩き印文
11	125	遺構 22	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
11	126	遺構 22	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
11	127	遺構 22	東播磨 系鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
11	128	遺構 24	白磁 口元皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒を含む精良緻密 d. 灰白色 半透明 口唇部露胎 f. 口縁部片
11	129	遺構 24	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
11	130	遺構 24	常滑 転用品	8.0	7.8	1.3	b. 灰色 砂粒・長石 c. 褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 甕転用 外面器壁を擦っている
11	131	遺構 24	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁横ナデ 内外面縦位の磨き b. 赤灰色 砂粒・小石粒 c. 赤灰色 e. 良好 f. 口縁部片
11	132	遺構 25	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 矢羽根文の叩き印
11	133	遺構 27	鉄製品 釘	7.0	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
11	134	遺構 28	かわらけ	(11.3)	(6.9)	3.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 一部黒色に変色
11	135	遺構 28	白磁 口元碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒を含む精良緻密 d. 灰白色半透明やや薄く施釉 口唇部露胎 f. 口縁部片
11	136	遺構 28	備前 播鉢	-	-	-	a. 輪積み技法後ロクロ整形 b. 灰色 長石・石英・礫 良土 c. 灰褐色 e. 良好 硬質 f. 底部片 g. 7条の櫛目
11	137	遺構 29	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
11	138	遺構 29	渥美 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石 c. 暗灰色 e. 硬質 f. 胴部片
11	139	遺構 29	鉄製品 釘	5.7	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造
11	140	遺構 29	鉄製品 釘	4.8	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
11	141	遺構 31	かわらけ	(7.2)	(5.5)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
11	142	遺構 31	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 砂目底 b. 灰色 微砂・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 底部片 g. 内面磨耗
11	143	遺構 31	石製品 砥石	(6.5)	(2.9)	1.9	a. 砥面1面 側面・小口切り出し痕 c. 灰色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
11	144	遺構 31	石材 チャート	縦 2.6 横 2.6 厚 2.1			b. 油石 c. 灰白色
11	145	遺構 31	獣骨 加工品	縦 7.4 横 6.8 厚 2.8			g. 牛の手中骨 用途不明
11	146	遺構 31	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 口縁部黒色に変色
11	147	遺構 32	かわらけ	7.8	5.2	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・小石粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 3/4
11	148	遺構 32	かわらけ	(10.8)	(6.5)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
11	149	遺構 32	石製品 砥石	(5.3)	3.8	0.9	a. 砥面1面 側面・小口切り出し痕 c. 黄灰色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
11	150	遺構 32	石製品 軽石	縦 3.7 横 3.4 厚 1.8			a. 周囲磨耗しており、使用痕か? c. 灰白色
11	151	遺構 32	鉄製品 釘	(4.8)	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造
11	152	遺構 32	鉄製品 釘	5.2	0.8	0.8	g. 錆付着
11	153	遺構 34	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	1	第1面 面上	かわらけ	(6.6)	(4.2)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
12	2	第1面 面上	かわらけ	(7.7)	(5.1)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3 g. 口唇部一部擦っている
12	3	第1面 面上	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/3
12	4	第1面 面上	かわらけ	(7.8)	(4.4)	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4
12	5	第1面 面上	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/6 g. 口唇部黒色に変色
12	6	第1面 面上	かわらけ	(13.8)	(8.9)	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4
12	7	第1面 面上	青磁 鍋連弁文碗	-	(5.8)	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒・白色粒 精良緻密 d. 灰緑色不透明釉 外底面露胎 f. 底部 1/6 g. 14世紀前半

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
12	8	第1面 面上	瀬戸 平碗	-	(4.5)	-	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・白色粒 d. 灰黄緑色 漬け掛け e. 良好 やや軟質 f. 底部片 1/2 g. 後期
12	9	第1面 面上	瀬戸 折縁深皿	-	-	-	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒 d. 淡黄緑色 漬け掛け e. 良好 硬質 f. 口縁部片 g. 中期前半か?
12	10	第1面 面上	瀬戸 折縁皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・黒色粒 d. 淡黄緑色 e. 良好 硬質 f. 口縁部片 g. 中期
12	11	第1面 面上	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰黄色 砂粒 d. 淡灰緑色 刷毛塗り e. 良好 硬質 f. 口縁部片
12	12	第1面 面上	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・黒色粒 d. 灰緑色の灰釉 刷毛塗り e. 良好 硬質 f. 底部片
12	13	第1面 面上	瀬戸 緑釉小皿	(9.8)	(4.0)	2.3	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・黒色粒・白色粒含む粗土 d. 灰黄緑色 漬け掛け e. 良好 f. 口縁~底部片 1/4 g. 後期前半
12	14	第1面 面上	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 明灰色 砂粒・白色粒・長石 c. 明茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	15	第1面 面上	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 砂粒・白色粒 c. 暗褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	16	第1面 面上	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 砂粒・白色粒・長石 c. 暗褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	17	第1面 面上	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 黒色粒・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部小片
12	18	第1面 面上	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗褐色 砂粒・白色粒 c. 暗褐色 e. 硬質 f. 胴部小片 g. 格子文叩き印
12	19	第1面 面上	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・長石 c. 灰色 d. 灰白色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗
12	20	第1面 面上	渥美 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 黒色粒・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	21	第1面 面上	渥美 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面異物付着
12	22	第1面 面上	東播磨 鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	23	第1面 面上	土器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁ナデ b. 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 灰色 e. 良好 f. 口縁部片
12	24	第1面 面上	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 内外面縦位のミガキ b. 橙色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c. 橙色 e. 良好 f. 口縁部片 g. 輪花型 胴部外面菊花文叩き印 外側面剥離
12	25	第1面 面上	瓦器質 用途不明品	-	-	1.1	b. 灰色 微砂・黒色粒 c. 灰黒色 g. 円盤状
12	26	第1面 面上	石製品 砥石	(4.5)	4.0	1.3	a. 砥面3面 c. 淡緑色 g. 中砥 上野産
12	27	第1面 面上	石製品 砥石	(4.3)	1.6	1.0	a. 砥面2面 c. 淡灰緑色 g. 中砥 上野産 手持ちの砥石に転用
12	28	第1面 面上	石製品 砥石	(3.3)	2.8	0.4	a. 砥面1面 裏面剥離 側面切り出し痕 c. 銀灰色 g. 仕上げ砥 鳴滝産奥殿
12	29	第1面 面上	石製品 砥石	(4.9)	2.5	1.9	c. 淡黄灰色 g. 中砥 上野産
12	30	第1面 面上	骨角製品 用途不明	(1.8)	6.3	0.3	a. 四角形の孔を穿ち文様を線刻 g. 鹿の中足骨を加工か・装飾具か
12	31	第1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(4.0)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
12	32	第1面 構成土	かわらけ	(6.6)	(4.4)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/2 g. 口唇部油煤痕
12	33	第1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(4.5)	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
12	34	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・白色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4 g. 口唇部一部油煤痕
12	35	第1面 構成土	かわらけ	(11.4)	(7.6)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 内外全体的に煤けている
12	36	第1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
12	37	第1面 構成土	瀬戸 底卸目皿	-	(8.4)	-	a. ロクロ 貼り付け高台 b. 灰色 微砂 精良土 d. 明灰緑色 刷毛塗り後漬け掛け e. 良好 f. 底部 1/2 g. 内底面に三条の沈線が廻る・中期後半
12	38	第1面 構成土	瀬戸 底卸目皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・黒色粒 良土 d. 明灰緑色 刷毛塗り後漬け掛け e. 良好 硬質 f. 口縁部片
12	39	第1面 構成土	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 微砂 精良土 d. 灰緑色 薄く刷毛塗り e. 良好 f. 口縁~胴部片
12	40	第1面 構成土	瀬戸 卸皿	-	-	-	a. ロクロ b. 黄灰色 微砂 精良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片
12	41	第1面 構成土	瀬戸 緑釉小皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 砂粒・白色粒 精良土 d. 鉄釉 漬け掛け e. 良好 f. 口縁部片 g. 後期
12	42	第1面 構成土	常滑 意口壺	(5.5)	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 黒色粒・長石・石英 c. 暗灰色 e. 硬質 f. 口縁部 1/4
12	43	第1面 構成土	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 微砂・長石・石英 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	44	第1面 構成土	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒・長石・石英 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	45	第1面 構成土	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	46	第1面 構成土	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	47	第1面 構成土	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁~胴部片

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
12	48	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	49	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
12	50	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石・石英 c. 赤褐色 d. 内面灰緑色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面一 条の円刻
12	51	第1面 構成土	東播系 鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁~胴部片
12	52	第1面 構成土	山茶碗	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・白色粒・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗
12	53	第1面 構成土	常滑 転用品	6.0	7.0	1.7	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英 c. 茶褐色 e. 硬質 g. 頸部片 断面摩耗
12	54	第1面 構成土	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 外面縦位のミガキ 黒色処理 b. 明灰褐色 砂粒・白色粒・小石粒 c. 灰黒色 e. 良好 f. 口縁部片 外側面剥離
12	55	第1面 構成土	土製品 土鉢	2.8	胴径 1.2	孔径 0.2	c. 橙色 f. 完形
12	56	第1面 構成土	土製品 土鉢	4.3	胴径 1.6	孔径 0.7	c. 黄灰色
12	57	第1面 構成土	石製品 硯	(3.7)	(2.0)	-	c. 灰黒色 g. 黒色粘板岩 陸部 鳴滝産
12	58	第1面 構成土	鉄製品 用途不明	直径 3.7	内径 2.8	0.5	g. 錆付着 環状
12	59	第1面 構成土	鉄製品 釘	6.9	0.6	0.3	a. 断面方形 鍛造
12	60	第1面 構成土	鉄製品 釘	(5.4)	0.6	0.4	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
12	61	第1面 構成土	鉄製品 釘	(4.6)	0.6	0.3	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
12	62	第1面 構成土	鉄製品 釘	(4.6)	0.6	0.6	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
12	63	第1面 構成土	骨製品 筭	(6.4)	(1.5)	0.3	f. 端部欠損
12	64	第1面 構成土	骨製品 筭	(4.2)	(1.4)	0.3	f. 両端部欠損
17	1	遺構 33	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄 橙色 e. 良好 f. 1/3 g. 外面全体黒色に変色
17	2	遺構 33	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
17	3	遺構 33	かわらけ	(8.5)	(5.4)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 口縁一部打ち欠き痕、口唇部黒色に変色
17	4	遺構 33	かわらけ	(12.2)	(7.5)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3
17	5	遺構 33	かわらけ 加工品	縦 (4.3)	横 (5.0)	1.0	a. 底部に孔を穿ち断面を擦っている b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 黄橙色 e. 良好
17	6	遺構 33	青磁 鍋連弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 精良緻密 d. 青灰色透明 気泡あり f. 口縁部片
17	7	遺構 33	青磁 鍋連弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 精良緻密 d. 灰緑色透明 気泡あり f. 口縁部片
17	8	遺構 33	白磁 口元皿	-	(6.0)	-	a. ロクロ b. 灰色 精良緻密 d. 灰白色透明 f. 底部片
17	9	遺構 33	瀬戸 四耳壺	(10.5)	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂 精良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片
17	10	遺構 33	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 砂粒・長石・石英・黒色粒・小石粒 c. 灰褐色 e. 硬質 g. 複合斜線文の叩き 印
17	11	遺構 33	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
17	12	遺構 33	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石・石英・小石粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
17	13	遺構 33	土器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁部ミガキ 内外面横位のナデ b. 橙色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c. 灰色 e. 良好
17	14	遺構 33	鉄製品 釘	12.0	0.5	0.6	a. 断面方形 鍛造
17	15	遺構 33	鉄製品 釘	9.0	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
17	16	遺構 33	鉄製品 釘	6.3	0.4	0.2	a. 断面方形 鍛造
17	17	遺構 33	鉄製品 釘	6.9	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造
17	18	遺構 36	かわらけ	(6.7)	(4.6)	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 口縁部一部黒色に変色
17	19	遺構 36	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
17	20	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(5.9)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄 橙色 e. 良好 f. 1/4
17	21	遺構 36	かわらけ	(8.2)	(5.5)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
17	22	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(6.5)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄 灰色 e. やや甘い f. 1/4 g. 口唇部一部黒色に変色
17	23	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(6.4)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・土丹粒 粗 土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容			
							a: 成形・調整	b: 胎土・素地・材質	c: 色調	d: 釉調
17	24	遺構 36	かわらけ	(12.1)	(6.2)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄橙色 e. 良好 f.1/3 一部黒色に変色	やや粗土
17	25	遺構 36	かわらけ	(11.0)	(6.5)	3.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄橙色 e. 良好 f.ほぼ完形 g.3カ所打ち欠き痕有り	粗土
17	26	遺構 36	青白磁 梅瓶	-	(8.8)	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒 精良緻密	d. 青灰色半透明	e. 気泡あり	f. 底部1/8
17	27	遺構 36	白磁 口元皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 黒色粒 精良緻密	d. 灰白半透明	f. 口縁部片	
17	28	遺構 36	瀬戸 折縁深皿	-	(15.2)	-	a. ロクロ 貼り付け高台	b. 灰色 微砂 良土	d. 灰黄緑色 漬け掛け、内面刷毛塗り	貫入あり e. 良好 f. 底部片 高台剥がれている
17	29	遺構 36	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 黄橙色 砂粒・長石・石英	c. 茶褐色 e. 硬質	f. 口縁部片
17	30	遺構 36	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 砂目底 暗灰色 砂粒・長石・石英	c. 明茶褐色 e. 硬質	f. 底部片
17	31	遺構 36	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 砂粒・長石・石英	c. 赤褐色 e. 硬質	f. 胴部片 g. 格子文叩き印
17	32	遺構 36	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 長石・石英	c. 灰色 e. 硬質	f. 口縁部片 g. 内面磨耗
17	33	遺構 36	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 暗灰色 長石・石英	c. 茶褐色 d. 灰緑色 e. 硬質	f. 口縁部片
17	34	遺構 36	常滑 転用品	(5.2)	6.0	1.2	b. 灰色 砂粒・長石・石英	c. 茶褐色 e. 硬質	f. 胴部片 g. 甕胴部片	断面磨耗
17	35	遺構 36	常滑 転用品	4.5	(5.4)	1.3	b. 橙色 砂粒・長石・石英	c. 赤褐色 e. 硬質	f. 胴部片 g. 甕胴部片	断面磨耗
17	36	遺構 36	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 黒色処理	内外面に横位のミガキ	b. 灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒	c. 茶褐色 e. やや軟質 f. 口縁～底部片 g. 菊花文スタンプ 器面剥離
17	37	遺構 36	石製品 砥石	(6.9)	4.9	2.4	a. 砥面は4面	c. 黄灰白色 g. 中砥	伊予産	
17	38	遺構 36	滑石鍋 転用品	(7.0)	(4.8)	(2.2)	c. 灰褐色 g. 温石か			
17	39	遺構 36	鉄製品 用途不明	3.8	3.1	0.7	g. 錆付着	飾り金具か		
17	40	遺構 36	鉄製品 釘	(5.4)	0.4	0.4	a. 断面方形	鍛造 g. 端部欠損		
17	41	遺構 36	鉄製品 釘	6.4	0.5	0.3	a. 断面方形	鍛造		
17	42	遺構 36	鉄製品 釘	5.6	0.2	0.2	a. 断面方形	鍛造		
17	43	遺構 36	鉄製品 釘	4.2	0.6	0.5	a. 断面方形	鍛造		
18	44	遺構 36 床直上	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄橙色 e. 良好 f.1/4 g. 口唇部一部黒色に変色	粗土
18	45	遺構 36 床直上	かわらけ	(9.0)	(6.3)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄灰色 e. やや甘い f.1/4 g. 口唇部一部黒色に変色	やや粗土
18	46	遺構 37	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 長石・石英	c. 暗灰色 e. 硬質	f. 口縁部片 g. 内面磨耗
18	47	遺構 38	かわらけ	12.2	7.9	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 橙色 e. 良好 f.ほぼ完形	やや粗土
18	48	遺構 38	かわらけ	(12.1)	(7.5)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄橙色 e. 良好 f.2/3	やや粗土
18	49	遺構 38	かわらけ	(12.1)	(8.0)	2.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄橙色 e. 良好 f.1/4	粗土
18	50	遺構 38	かわらけ	(12.7)	(8.5)	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 橙色 e. 良好 f.1/3	やや粗土
18	51	遺構 38	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰褐色 長石・石英	c. 灰褐色 e. 硬質	f. 口縁部片
18	52	遺構 38	鉄製品 掛け金具	長さ11.1	幅0.6	厚0.4	g. 錆付着			
18	53	遺構 38	鉄製品 釘	(5.9)	0.5	0.4	a. 断面方形	鍛造 g. 端部欠損		
18	54	遺構 40	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒	c. 灰色 e. 硬質	f. 口縁部片
18	55	遺構 40	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 砂粒・長石・石英・白色粒・小石粒	c. 灰色 e. 硬質	f. 頸～肩部片 g. 縦線文+幾何学文の叩き印
18	56	遺構 41	かわらけ	(9.3)	(5.7)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 黄灰色 e. やや甘い f.1/4 g. 内外全体煤けている	良土
18	57	遺構 41	かわらけ	(12.3)	(7.6)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒	c. 橙色 e. 良好 f.1/2	やや粗土
18	58	遺構 41	かわらけ	(13.0)	(7.7)	3.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯	c. 黄灰色 e. 良好 f.1/3 g. 外面煤けている、内面一部黒色に変色	粗土
18	59	遺構 41	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法	b. 灰色 砂粒・長石・石英	c. 茶褐色 e. 硬質	f. 口縁部片
18	60	遺構 41	鉄製品 刀子	(9.5)	1.4	0.3	f. 刀身部	g. 錆付着		
18	61	遺構 42	常滑 甕	-	(20.5)	-	a. 輪積み技法	b. 砂目底 黄褐色 微砂・長石・石英	c. 暗灰褐色 e. 硬質	f. 底部1/3
18	62	遺構 42	土器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法	口縁ナデ調整	b. 暗灰色 砂粒・白色粒	c. 暗灰色 e. 良好 f. 口縁部片
18	63	遺構 44	かわらけ	7.3	5.7	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕	b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯	c. 黄灰色 e. やや甘い f.3/4 g. 外面、有機物付着	やや粗土

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
18	64	遺構 44	かわらけ	7.4	5.4	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. ほぼ完形
18	65	遺構 44	かわらけ	(8.1)	(6.1)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3
18	66	遺構 44	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
18	67	遺構 44	かわらけ	(13.5)	(8.2)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
18	68	遺構 44	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
18	69	遺構 44	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 砂粒・長石 c. 茶褐色 d. 灰白色 e. 硬質 f. 口縁部片
18	70	遺構 46	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/3 g. 器壁剥離
18	71	遺構 46	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄灰色 微砂・黒色粒・長石 c. 黄灰色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗
18	72	遺構 47	かわらけ	(8.0)	(5.1)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3 g. 口唇部黒色に変色
18	73	遺構 47	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・黒色粒 c. 暗灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
18	74	遺構 47	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 赤褐色 砂粒・長石・黒色粒・小石粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 一部黒色に変色 火熱を受けたか?
18	75	遺構 47	石製品 砥石	(6.3)	(6.0)	2.0	a. 砥面3面 c. 暗灰色 g. 中砥 天草産 表面黒色に変色 刃物等の色素が沈着か
18	76	遺構 47	石製品 砥石	(12.9)	(7.5)	4.9	a. 砥面2面 c. 黄灰色 f. 側面剥離 g. 荒砥 上野産 火熱を受けたか黒色に変色
19	77	遺構 48	かわらけ	(12.4)	(8.6)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
19	78	遺構 48	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・黒色粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 格子文叩き印
19	79	遺構 48	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
19	80	遺構 48	鉄製品 釘	7.9	0.5	0.3	a. 断面方形 鍛造
19	81	遺構 48	鉄製品 釘	5.7	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造
19	82	遺構 49	かわらけ	(7.1)	(4.3)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 2/3
19	83	遺構 49	かわらけ	(6.9)	(4.4)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
19	84	遺構 49	かわらけ	6.9	4.2	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 2/3
19	85	遺構 49	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
19	86	遺構 49	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
19	87	遺構 49	かわらけ	7.5	5.7	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. ほぼ完形
19	88	遺構 49	かわらけ	7.5	5.0	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 2/3 g. 外面一部黒色に変色
19	89	遺構 49	かわらけ	7.8	5.4	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 完形
19	90	遺構 49	かわらけ	(7.8)	(5.1)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3 g. 口唇部~内面一部黒色に変色
19	91	遺構 49	かわらけ	(7.7)	(5.1)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3
19	92	遺構 49	かわらけ	(8.1)	(5.0)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3 g. 外面黒色に変色
19	93	遺構 49	かわらけ	(8.3)	(4.9)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3 g. 口唇部一部黒色に変色
19	94	遺構 49	かわらけ	11.2	6.6	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 3/4 g. 内外面一部黒色に変色
19	95	遺構 49	かわらけ	(11.8)	(7.4)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3
19	96	遺構 49	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 格子文の叩き印
19	97	遺構 49	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英 c. 灰色 d. 灰緑色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 縦線文を縦位と斜位の叩き印
19	98	遺構 49	常滑 片口鉢Ⅰ類	(27.7)	(12.7)	11.0	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石 c. 黄灰色 e. 硬質 f. 1/3 g. 内面磨耗
19	99	遺構 49	吉備系 碗	-	-	(3.9)	a. ロクロ b. 灰白色 微砂 精良緻密 c. 灰白色 e. 良好 f. 1/4
19	100	遺構 49	鉄製品 釘	6.1	0.6	0.2	a. 断面方形 鍛造
19	101	遺構 49	鉄製品 釘	6.5	0.3	0.4	a. 断面方形 鍛造
19	102	遺構 49	鉄製品 釘	(5.5)	0.6	0.4	a. 断面方形 鍛造 f. 両端部欠損 g. 錆付着
19	103	遺構 49	鉄製品 釘	4.2	0.6	0.6	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径長さ	底径幅	器高厚さ	観察内容 a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
19	104	遺構 49	鉄製品 釘	5.0	0.4	0.6	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
19	105	遺構 50	鉄製品 釘	4.4	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造
19	106	遺構 51	かわらけ	(7.5)	(6.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
19	107	遺構 51	かわらけ	13.0	8.3	3.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 完形 g. 口縁から外面にかけて一部黒色に変色
19	108	遺構 51	青磁 鎚進弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 砂粒 精良緻密 d. 青灰色不透明釉 貫入・気泡多い f. 口縁部片
19	109	遺構 51	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・黒色粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
19	110	遺構 51	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 砂粒・長石・黒色粒 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
19	111	遺構 51	石製品 砥石	1.8	2.7	0.6	a. 砥面 2面 側面切り出し痕 c. 灰褐色 g. 仕上砥 鳴滝産
19	112	遺構 51	石製品 軽石	縦 2.9 横 2.0 厚さ 1.2			a. 一部擦っている 使用痕か c. 灰白色
19	113	遺構 51	鉄製品 釘	6.6	(0.7)	(0.7)	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
19	114	遺構 51	鉄製品 釘	5.9	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
19	115	遺構 51	鉄製品 釘	6.1	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造
19	116	遺構 51	鉄製品 釘	5.2	0.3	0.4	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
19	117	遺構 51	鉄製品 釘	5.2	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
19	118	遺構 51 掘り方	青磁 鎚進弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 黒色微粒 精良緻密 d. 灰緑色透明釉 f. 口縁部片
19	119	遺構 52	瀬戸 水滴	復元胴径 (4.4)			a. ロクロ b. 灰白色 砂粒 良土 d. 灰緑色 漬け掛け e. 良好 f. 胴部片 g. 底部三条の沈線
19	120	遺構 52	瀬戸 壺	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・小石粒 粗土 d. 青灰色 流し掛け e. 良好 f. 口縁部片 g. 口広有耳壺か?
19	121	遺構 52	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 貼り付け高台 b. 灰色 微砂・黒色粒・長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 底部片 g. 内面磨耗
19	122	遺構 52	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁ナデ b. 明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 灰色 e. 良好 f. 口縁部片
19	123	遺構 52	石製品 砥石	(3.9)	3.5	0.7	a. 砥面 1面 側面切り出し痕 g. 仕上砥 鳴滝産
19	124	遺構 52	鉄製品 鍋	-	-	-	f. 錆付着
19	125	遺構 53	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
19	126	遺構 54	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
19	127	遺構 55	かわらけ	12.2	8.2	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 完形 g. 口唇部内面一部黒色に変色
19	128	遺構 56	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・石英 c. 暗灰色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 格子文の叩き印
19	129	遺構 56	石製品 軽石	5.9	4.1	2.5	a. 周囲磨耗しており、使用痕か? c. 灰白色
19	130	遺構 56	鉄製品 釘	5.2	0.2	0.2	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
19	131	遺構 56	鉄製品 釘	4.9	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造
19	132	遺構 56	土製品 円筒埴輪	-	-	-	b. 黄灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 黄灰色 e. 硬質 良好 f. 胴部片 g. たが(突帯)部横ナデ調整・たが部断面台形を呈する・胴部外面縦位にハケ目調整痕・黒斑はない・内面下からのハケ目・5世紀後半以降
19	133	遺構 58	かわらけ	(7.1)	(4.3)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
19	134	遺構 58	かわらけ	(12.3)	(7.0)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
19	135	遺構 58	石製品 硯	(8.2)	(4.2)	2.2	a. 側面の切り出し痕のこころが、裏面は天然石のまま f. 表面の一部しか残っていない c. 暗灰色
20	1	第2面 面上	かわらけ	(7.0)	(4.9)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
20	2	第2面 面上	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
20	3	第2面 面上	かわらけ	(7.0)	(5.3)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
20	4	第2面 面上	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3 g. 内面一部黒色に変色
20	5	第2面 面上	かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/3
20	6	第2面 面上	かわらけ	7.5	4.4	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 3/4
20	7	第2面 面上	かわらけ	(7.7)	(4.9)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3
20	8	第2面 面上	かわらけ	(7.5)	(5.1)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや粗土 f. 1/3

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
20	9	第2面 面上	かわらけ	(7.5)	(4.2)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄 橙色 e. 良好 f1/3
20	10	第2面 面上	かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗 土 c. 黄橙色 e. 良好 f2/3
20	11	第2面 面上	かわらけ	(7.4)	(5.5)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/3
20	12	第2面 面上	かわらけ	8.0	5.5	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 完形
20	13	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(5.5)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f1/3
20	14	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f1/4
20	15	第2面 面上	かわらけ	(8.1)	(5.4)	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f1/3
20	16	第2面 面上	かわらけ	(9.2)	(6.2)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f2/3 g. 外面一部黒色に変色
20	17	第2面 面上	かわらけ	(8.1)	(4.9)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄灰 色 e. やや甘い f1/4 g. 口唇部一部黒色に変色
20	18	第2面 面上	かわらけ	7.8	5.1	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 完形
20	19	第2面 面上	かわらけ	(8.5)	(5.7)	2.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f2/3
20	20	第2面 面上	かわらけ	(7.9)	(4.7)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/3 g. 外面口縁下～内面一部黒色に変色
20	21	第2面 面上	かわらけ	(8.6)	(6.0)	2.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/4
20	22	第2面 面上	かわらけ	(9.1)	(6.7)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/4 g. 口唇部一部黒色に変色
20	23	第2面 面上	かわらけ	11.1	6.7	3.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄橙色 e. 良好 f. ほぼ完形
20	24	第2面 面上	かわらけ	11.2	6.9	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄灰色 e. やや甘い f3/4 g. 内外口縁部から体部にかけて一部黒色に変色
20	25	第2面 面上	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯多・土丹粒 やや 粗土 c. 橙色 e. 良好 f1/4 g. 内外面一部黒色に変色
20	26	第2面 面上	かわらけ	(12.1)	(4.3)	3.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/4 g. 全体的に煤けている。
20	27	第2面 面上	かわらけ	(13.2)	(8.7)	3.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/2 g. 口唇部一部黒色に変色
20	28	第2面 面上	かわらけ	13.4	8.2	3.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯多・土丹粒 やや 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f4/5
20	29	第2面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.0)	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯多 粗土 c. 黄橙 色 e. 良好 f1/6
20	30	第2面 面上	かわらけ	(13.6)	(8.5)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f1/6 g. 一部黒色に変色。
20	31	第2面 面上	青磁 鍋連弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 黒色粒 精良緻密 d. 灰緑色不透明 f. 口縁部片
20	32	第2面 面上	青磁 鍋連弁文碗	-	-	-	a. ロクロ b. 暗灰色 黒色粒 精良緻密 d. 灰緑色透明 f. 口縁部片
20	33	第2面 面上	船載 天目碗	-	(4.4)	-	a. ロクロ b. 灰色 精良土 d. 黒褐色 f. 底部片 1/4
20	34	第2面 面上	瀬戸 鈿皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 微砂 精良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片 g. 後期
20	35	第2面 面上	瀬戸 鈿皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 微砂 良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 口縁部片
20	36	第2面 面上	瀬戸 鈿皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 微砂 精良土 d. 灰黄緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 底部片
20	37	第2面 面上	瀬戸 鈿皿	-	(9.0)	-	a. ロクロ b. 灰色 微砂 精良土 d. 灰緑色 刷毛塗り e. 良好 f. 底部 1/3
20	38	第2面 面上	渥美 無頸壺	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英 c. 灰色 e. 硬質 f. 底～胴部片
20	39	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 砂粒・長石・石英 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
20	40	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 8 型式
20	41	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 長石・石英 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 縦長格子文叩き印
20	42	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 明灰色 長石・石英 c. 灰褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 斜格子と縦線文叩き印
20	43	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石・石英 c. 黄橙色 e. 硬質 f. 胴部片
20	44	第2面 面上	常滑 甍	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 長石・石英 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 斜格子文叩き印
20	45	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内外一部黒色に変色 内面摩耗
20	46	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 黒色粒子・長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗
20	47	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 黒色粒子・長石 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗
20	48	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 長石・石英 c. 灰色 d. 灰白色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面磨耗

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
20	49	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 長石・石英 c. 灰色 d. 灰白色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 内面摩耗
20	50	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
20	51	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 長石・石英・小石粒 c. 橙色 e. 硬質 f. 口縁～胴部片
20	52	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
20	53	第2面 面上	尾張型 片口鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
20	54	第2面 面上	山茶碗	-	-	-	a. ロクロ b. 黄灰色 微砂・白色粒 良土 e. 良好 f. 口縁部片
20	55	第2面 面上	土器質 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁ナデ調整 b. 灰色 砂粒・白色粒 c. 暗灰色 e. 良好 f. 口縁部片 g. 口縁下に孔、貫通
21	56	第2面 面上	瓦器質 火鉢	(36.6)	(29.4)	10.5	a. 輪積み技法 黒色処理 内外面縦位のミガキ b. 灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c. 灰黒色 e. 良好 f. 口縁～底部片 g. 輪花型 菊花文叩き印
21	57	第2面 面上	南伊勢系 土鍋	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁部折り返し b. 黄灰色 粗砂・黒色粒 c. 黄灰色 e. 良好 やや軟質 f. 口縁部片 g. 外面器壁、黒色に変色
21	58	第2面 面上	石製品 砥石	(8.2)	3.4	2.9	a. 砥面6面 c. 灰褐色 g. 中砥 天草産 一部黒色に変化、二次焼成を受けているのか
21	59	第2面 面上	石製品 砥石	(7.4)	3.0	1.2	a. 砥面2面か c. 灰緑色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
21	60	第2面 面上	石製品 砥石	(7.0)	(3.2)	(0.5)	a. 砥面1面、裏面剥離 側面切り出し痕 c. 灰褐色 g. 仕上げ砥 鳴滝産
21	61	第2面 面上	石製品 砥石	(18.7)	2.5	2.2	a. 砥面2面 側面・小口切り出し痕 c. 黄灰色 g. 中砥 天草産
21	62	第2面 面上	石製品 用途不明	(6.0)	3.9	2.3	a. 3面擦っている。 c. 灰色
21	63	第2面 面上	石製品 軽石	縦4.5 横3.3 厚さ2.5			c. 灰白色
21	64	第2面 面上	鉄製品 刀子	(6.7)	2.3	0.3	f. 刀身部 g. 錆付着
21	65	第2面 面上	鉄製品 掛金具	7.2×(3.2) 厚さ0.5			g. 錆付着
21	66	第2面 面上	鉄製品 釘	6.7	0.4	0.5	a. 断面方形 鍛造 g. 先端曲がる
21	67	第2面 面上	鉄製品 釘	5.9	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
21	68	第2面 面上	鉄製品 釘	(6.1)	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造 g. 端部欠損
21	69	第2面 面上	鉄製品 釘	5.7	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
21	70	第2面 面上	鉄製品 釘	5.3	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造
21	71	第2面 面上	鉄製品 釘	6.0	0.4	0.4	a. 断面方形 鍛造
21	72	第2面 面上	鉄製品 釘	5.5	0.4	0.3	a. 断面方形 鍛造
21	73	第2面 面上	鉄製品 釘	4.8	0.5	0.6	a. 断面方形 鍛造
21	74	第2面 面上	金属製品 銅銭	外径2.41	内径1.99	孔径0.61	f. 完形 g. 皇宗通寶 初鑄年1038年 真書
21	75	第2面 面上	金属製品 銅銭	外径2.31	内径1.95	孔径0.72	f. 完形 g. 熙寧元寶 初鑄年1068年 篆書
21	76	第2面 面上	須恵器 蓋	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 白色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
21	77	第2面 面上	須恵器 坏	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 白色粒・黒色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 底部片
21	78	第2面 面上	須恵器 甕	-	-	-	b. 灰色 砂粒 精良土 c. 暗灰色 f. 口縁部片 g. 口縁部下部に櫛描波状文巡る
21	79	第2面 構成土	常滑 壺	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 胴～底部片
21	80	第2面 構成土	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 砂目底 b. 灰色 砂粒・長石・石英 c. 暗灰褐色 e. 硬質 f. 底部片
22	1	表探	かわらけ	(7.1)	(5.3)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
22	2	表探	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/3 g. 内面黒色に変色
22	3	表探	かわらけ	7.3	5	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 2/3
22	4	表探	かわらけ	(7.4)	(4.5)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂多・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4
22	5	表探	かわらけ	(7.2)	(3.8)	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4
22	6	表探	かわらけ	(8.0)	(4.2)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/3
22	7	表探	かわらけ	(7.8)	(5.8)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 良土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4 g. 口唇部一部黒色に変色
22	8	表探	かわらけ	(10.5)	(6.0)	2.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/3

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
22	9	表採	かわらけ	(10.5)	(6.6)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
22	10	表採	かわらけ	(10.9)	(5.2)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/4
22	11	表採	かわらけ	(12.8)	(6.5)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒・小石粒粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/3
22	12	表採	かわらけ	(13.3)	(8.0)	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/2 g. 口縁部内外、黒色に変色
22	13	表採	白磁 合子	(6.2)	-	-	a. ロクロ b. 白色 黒色粒を僅かに含む精良緻密 d. 青味がかった乳白色不透明釉 f. 1/4 g. 輪花型の合子の蓋
22	14	表採	瀬戸 折縁深皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰黄色 砂粒・黒色粒 やや粗土 d. 明灰緑色 漬け掛け e. 良好 硬質 f. 口縁部片 g. 中期後半～後期前半
22	15	表採	瀬戸 鈿皿	-	-	-	a. ロクロ b. 黄灰色 微砂 良土 d. 灰黄色 刷毛塗り e. 良好 f. 底部片
22	16	表採	瀬戸 天目碗	(11.7)	4.0	7.4	a. ロクロ 貼り付け高台 b. 淡黄色 黒色粒 精良土 d. 黒褐色 e. 良好 f. 口縁～底部片 1/3 g. 中期
22	17	表採	常滑 無頸壺	(9.4)	-	-	a. 輪積み成形 b. 灰褐色 長石・石英・白色粒 c. 茶褐色 d. 灰緑色 (自然釉) e. 硬質 f. 口縁部 1/4
22	18	表採	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁～胴部片 g. 中野編 8 型式
22	19	表採	瀬美 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・石英・白色粒 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 胴部片 g. 縦線の叩き印文
22	20	表採	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 微砂・長石・石英・黒色粒 c. 灰色 e. 硬質 f. 口縁部片
22	21	表採	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰褐色 砂粒・長石・白色粒多 c. 赤褐色 e. 硬質 f. 口縁部片 g. 口唇部一部黒色に変色
22	22	表採	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 暗灰色 砂粒・長石・石英・白色粒 c. 茶褐色 e. 硬質 f. 口縁部片
22	23	表採	瀬美 壺	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 灰色 砂粒・白色粒 c. 暗灰色 e. 硬質
22	24	表採	備前 搦鉢	-	-	-	a. 輪積み技法の後ロクロ整形 b. 灰黄色 砂粒 黒色粒・白色粒 c. 灰褐色 e. 良好 硬質 f. 口縁部片
22	25	表採	土製品 土鉢	(4.5)	胴径 1.7	孔径 0.6	c. 淡橙色
22	26	表採	石製品 砥石	(4.5)	2.8	0.7	a. 砥面 1 面 側面切り出し痕 c. 灰緑色 f. 裏面剥離 g. 仕上げ砥 鳴滝産向田
22	27	表採	石製品 砥石	(2.9)	(2.5)	0.6	a. 砥面 2 面 側面切り出し痕 b. 凝灰岩 (頁岩) c. 黄白色 g. 仕上げ砥 鳴滝産中山
22	28	表採	石製品 用途不明	1.5	1.7	0.3	c. 黒色 g: 碁石か
22	29	表採	鉄製品 釘	5.8	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造
22	30	表採	鉄製品 釘	5.0	0.3	0.3	a. 断面方形 鍛造
22	31	表採	鉄製品 釘	(5.9)	0.6	0.4	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損
22	32	表採	鉄製品 釘	7.7	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造
22	33	表採	鉄製品 釘	7.9	0.5	0.4	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
22	34	表採	鉄製品 釘	7.4	0.6	0.3	a. 断面方形 鍛造 g. 錆付着
22	35	表採	鉄製品 釘	(4.5)	0.6	0.9	a. 断面方形 f. 端部欠損 g. 錆付着
22	36	表採	鉄製品 釘	(4.3)	0.5	0.5	a. 断面方形 鍛造 f. 端部欠損 g. 錆付着

単位 (cm)

遺物破片数表(1)

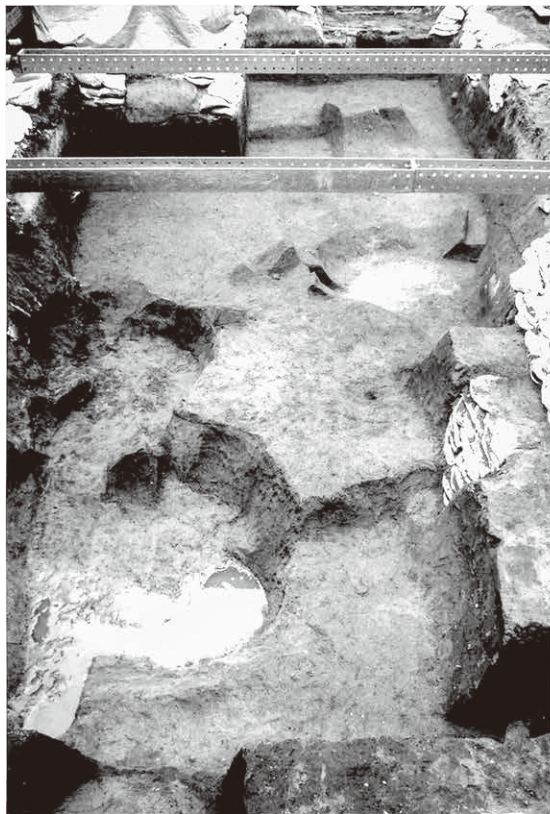
		1面遺構	1面上	1面構成土	2面遺構	2面上	2面構成土	表採	合計	比率	
舶載品	青磁	蓮弁文椀	6	12	0	11	3	1	5	38	0.4
		割花文椀	0	0	0	0	0	0	2	2	0.0
		櫛搔文碗	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
		椀	1	0	1	1	0	0	0	3	0.0
		折越皿	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
		壺	0	1	0	0	1	0	0	2	0.0
		鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
		その他	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
		器種不明	0	0	0	0	1	0	1	2	0.0
	白磁	口元皿	8	0	1	1	1	0	0	11	0.1
		口元碗	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
		皿	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
		壺	0	0	1	1	0	0	0	2	0.0
		合子	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
	青白磁	梅瓶	0	2	0	2	1	0	0	5	0.1
		合子	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
壺		0	0	0	1	0	0	0	1	0.0	
二彩か三彩		0	1	1	0	0	0	1	3	0.0	
舶載天目茶碗		1	0	0	0	1	0	0	2	0.0	
国産陶器	瀬戸	椀	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
		平椀	2	1	0	0	0	0	1	3	0.0
		皿	1	0	0	0	1	0	0	2	0.0
		折縁皿	4	10	0	0	0	0	5	19	0.2
		折縁深皿	5	0	8	2	0	0	4	19	0.2
		卸皿	10	2	5	0	4	0	3	24	0.2
		入子	2	2	2	1	0	0	0	7	0.1
		華瓶	2	1	0	0	0	1	0	4	0.0
		壺	7	2	0	4	0	0	1	14	0.1
		鉢	1	2	0	0	0	0	0	3	0.0
		大平鉢	3	0	0	0	0	0	5	8	0.1
		瓶子	0	0	3	1	0	0	2	6	0.1
		縁釉小皿	2	3	4	0	0	0	1	10	0.1
		天目茶碗	4	1	1	0	0	0	1	7	0.1
		その他	1	0	1	1	0	0	0	3	0.0
	器種不明	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0	
	常滑	甕	522	116	129	264	140	5	174	1350	13.7
		壺	3	0	3	1	3	2	2	14	0.1
		擦り常滑	2	0	1	3	0	0	4	10	0.1
		片口鉢Ⅰ類	29	8	13	16	18	0	11	95	1.0
		片口鉢Ⅱ類	16	5	7	8	3	0	4	43	0.4
		鉢	2	1	0	2	1	0	0	6	0.1
		その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
	尾張	片口鉢	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0
	渥美	甕	5	2	2	2	0	0	0	11	0.1
		捏鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
	山茶椀		1	0	1	1	0	0	1	4	0.0
	備前 搦鉢		3	0	0	0	0	0	2	5	0.1
	東播 系鉢		5	2	1	0	0	0	0	8	0.1
	その他		2	0	0	0	1	0	0	3	0.0

遺物破片数表(2)

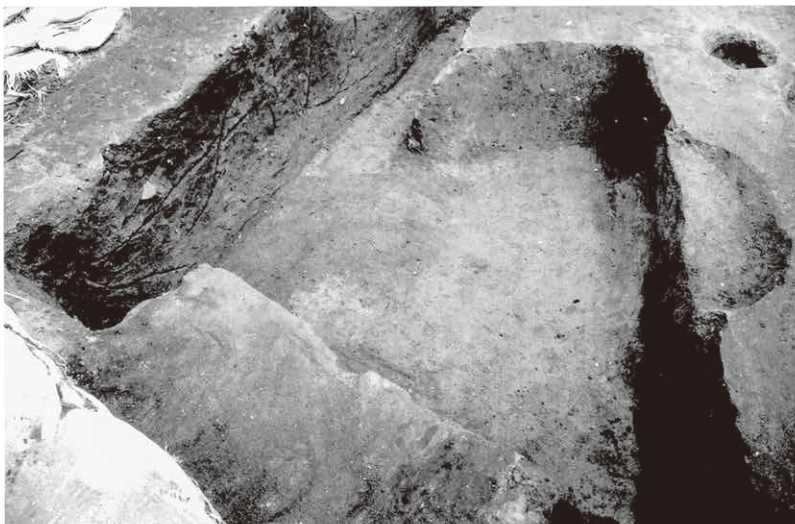
			1面遺構	1面上	1面構成土	2面遺構	2面上	2面構成土	表採	合計	比率
土器・土製品	かわらけ	糸 大	2817	410	681	1164	846	53	587	6558	66.6
		糸 小	212	29	27	109	89	0	82	548	5.6
		手 大	2	0	0	1	3	3	0	9	0.1
		加工かわらけ	1	0	0	1	0	0	0	2	0.0
	火鉢	瓦器質	30	7	7	5	10	0	5	64	0.6
		土器質	1	0	0	3	0	0	0	4	0.0
	ツバ釜		4	1	0	1	1	0	3	10	0.1
	瓦器質香炉		1	1	1	0	0	0	0	3	0.0
	土鍾		1	0	2	0	0	0	1	4	0.0
	土製品		0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
	瓦	平瓦	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
		不明	3	0	0	1	1	0	0	5	0.1
石製品	滑石	鍋	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
		温石	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
		滑石製品	0	0	1	2	2	0	0	5	0.1
	硯		3	0	2	1	0	0	1	7	0.1
	硯転用品		1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
	砥石		10	3	0	4	2	0	3	22	0.2
	碁石		0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
	火打ち石		2	1	0	1	0	0	0	4	0.0
	加工石製品		3	0	0	1	2	0	0	6	0.1
金属製品	鉄製品	釘	56	5	10	40	15	0	17	143	1.5
		鉄滓	5	0	1	3	9	0	1	19	0.2
		刀子	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0
		鉄製品	3	1	2	5	2	0	0	13	0.1
	鑷の羽口		7	1	2	5	1	1	2	19	0.2
	るつぼ		0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
	銅製品	銭	0	0	0	0	2	0	0	2	0.0
骨格製品		筭	2	0	2	0	0	0	0	4	0.0
		加工骨	3	1	0	0	0	0	0	4	0.0
古代以前	土師器	甕	0	0	0	0	4	2	0	6	0.1
		種別不明	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
	須恵器	甕	0	0	0	0	1	0	2	3	0.0
		その他	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0
		種別不明	0	2	0	0	0	0	0	2	0.0
その他		0	1	0	1	0	0	0	2	0.0	
自然遺物	骨		179	13	26	109	79	6	43	455	4.6
	魚骨		3	0	0	4	0	0	0	7	0.1
	その他		1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
	種		4	0	0	1	0	0	1	6	0.1
	玉石		41	1	42	20	17	0	10	131	1.3
	軽石		3	0	0	2	1	1	2	9	0.1
その他		0	0	0	1	0	0	0	1	0.0	
合計		4053	656	991	1813	1269	75	994	9850	100.0	
比率		41.1	6.7	10.1	18.4	12.9	0.8	10.1	100.0		

出土貝分類表

生息環境	貝類群	1面遺構	1面上	1面構成土	2面遺構	2面上	2面構成土	表採	合計
内湾干潟群集	ウミニナ	3	0	4	4	0	0	0	11
	イボウミニナ	4	2	1	0	0	0	0	7
	ホソウミニナ	1	0	1	0	0	0	0	2
	オキアサリ	1	0	0	1	0	0	0	2
	マテガイ	0	2	0	0	0	0	0	2
	ウバガイ	0	0	0	1	0	0	0	1
内湾砂底群集	ハマグリ	156	18	33	126	103	4	16	456
	イボキサゴ	15	25	8	49	13	0	0	110
	キサゴ	11	4	5	4	2	0	1	27
	キサゴ系	0	0	2	0	0	0	0	2
	ツメタガイ	13	1	1	5	6	0	4	30
	アカニシ	97	14	14	50	21	2	6	204
	バイ	48	10	20	18	22	0	16	134
	サルボウガイ	2	1	1	0	0	0	0	4
	シオフキガイ	2	0	0	1	0	0	0	3
	アサリ	0	0	0	1	0	0	0	1
内湾砂礫底群集	イワガキ	1	0	0	5	0	0	0	6
	オニアサリ	2	0	0	0	0	0	0	2
	ホタテガイ	0	0	0	0	1	0	0	1
内湾潮間帯～岩礁性群集	スガイ	2	0	1	0	0	0	0	3
	トコブシ	0	0	0	1	0	0	0	1
	オニツノガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	ウズイチモンジ	1	0	0	0	0	0	0	1
	ヒメイトマキボラ	0	1	0	0	0	0	0	1
	マツムシガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	クロアワビ	3	0	0	3	0	0	0	6
	アワビ	19	3	0	6	1	0	0	29
	アワビ系	6	0	0	0	9	0	0	15
	レイシガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	トマヤガイ	0	0	0	0	0	0	1	1
	ツノマタナガニシ	0	0	0	1	0	0	0	1
	イシダタミガイ	2	0	0	0	0	0	0	2
	マガキ	3	0	1	3	1	0	0	8
	カキ系	4	2	0	1	1	0	0	8
	バテイラ	2	0	3	1	0	0	2	8
	クボガイ	2	0	0	3	0	0	1	6
イボニシ	1	0	1	0	0	0	0	2	
沿岸砂底群集	サトウガイ	8	0	1	4	2	1	2	18
	サトウガイか サルボウガイか不明	0	0	1	0	0	0	0	1
	汀線ハマグリ	53	11	20	45	36	1	11	177
	ダンベイキサゴ	34	7	17	33	25	0	14	130
沿岸砂泥底群集	ヤツシロガイ	0	0	1	0	0	0	0	1
外海岩礁性群集	サザエ	60	7	18	28	15	5	12	145
	サザエ蓋	3	2	0	3	0	0	2	10
	マダカアワビ	3	1	1	7	3	0	1	16
	イガイ	12	3	0	17	1	0	0	33
沿岸砂泥底群集	ミルク貝	0	0	0	0	4	0	0	4
感潮域群集	シジミ	0	0	0	0	0	1	0	1
	不明巻貝	4	0	0	0	0	0	0	4
	不明二枚貝	0	0	0	1	0	0	0	1
	不明	1	0	0	1	0	0	0	2
	合計	582	114	155	423	266	14	89	1643



◁ 第1面全景
(西から)



◁ 第1面・遺構6
(南から)

第1面・遺構9
(南から) ▷





◁ 第1面・遺構11
(南から)



第1面・遺構12
常滑甕 出土状況 ▷



◁ 第2面・遺構36
(南から)



◁ 第2面全景
(西から)



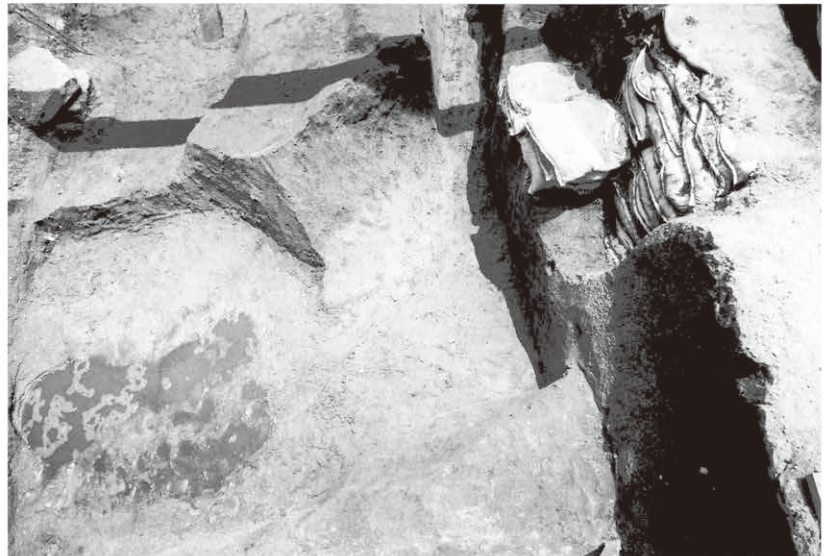
▷ 第2面全景
(中央・南から)



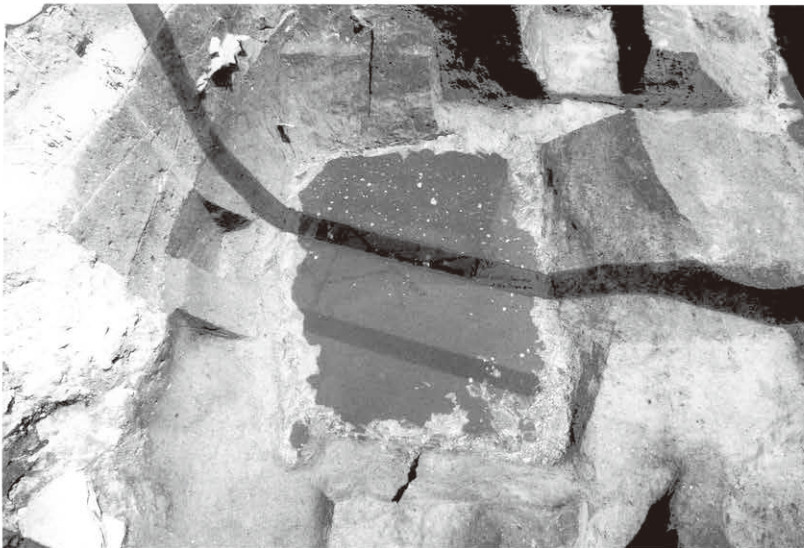
◁ 第2面・遺構41
(南から)



◁ 第2面・遺構42
(北から)



第2面・遺構48 ▷
(南から)



◁ 第2面・遺構49
(西から)

▼第1面



8-1

△遺構3



△遺構5

8-5



8-12

△遺構7



8-7

△遺構6



8-15

△遺構8



8-17



8-19



8-20



8-24



8-25



8-21

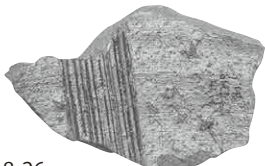


8-27



8-37

△遺構9床面



8-26



8-28



8-30

△遺構9掘り方



8-39



8-40



8-41



9-47



9-49



9-50



8-42



8-43



9-52



9-54



8-45

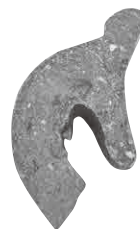
△遺構1 1



9-55



9-56

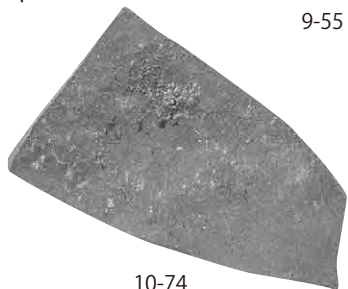


9-62

△遺構1 2

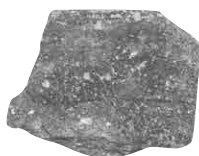


10-71

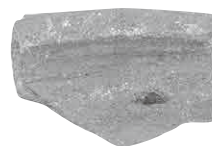


10-74

△遺構1 4



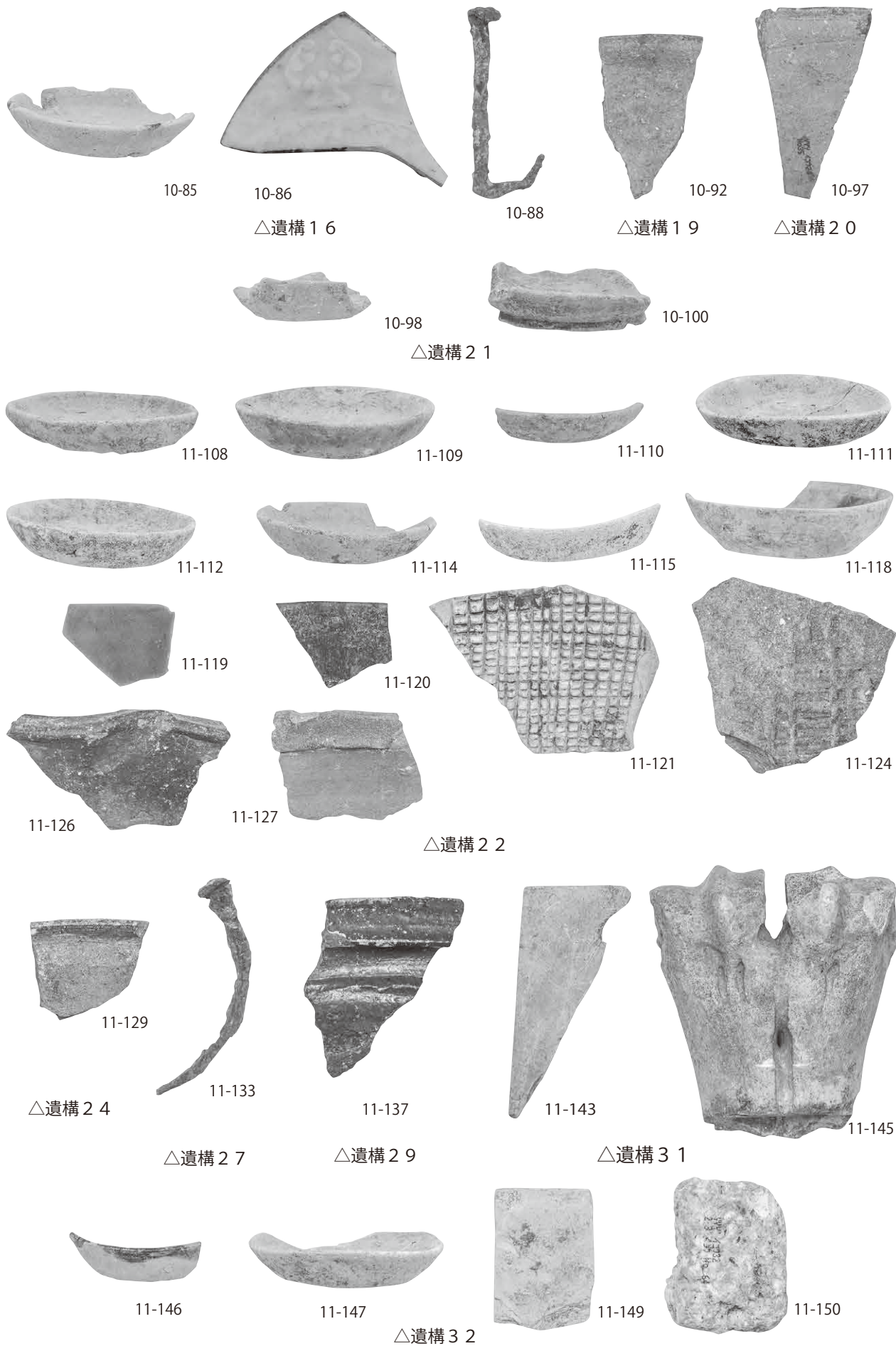
10-75



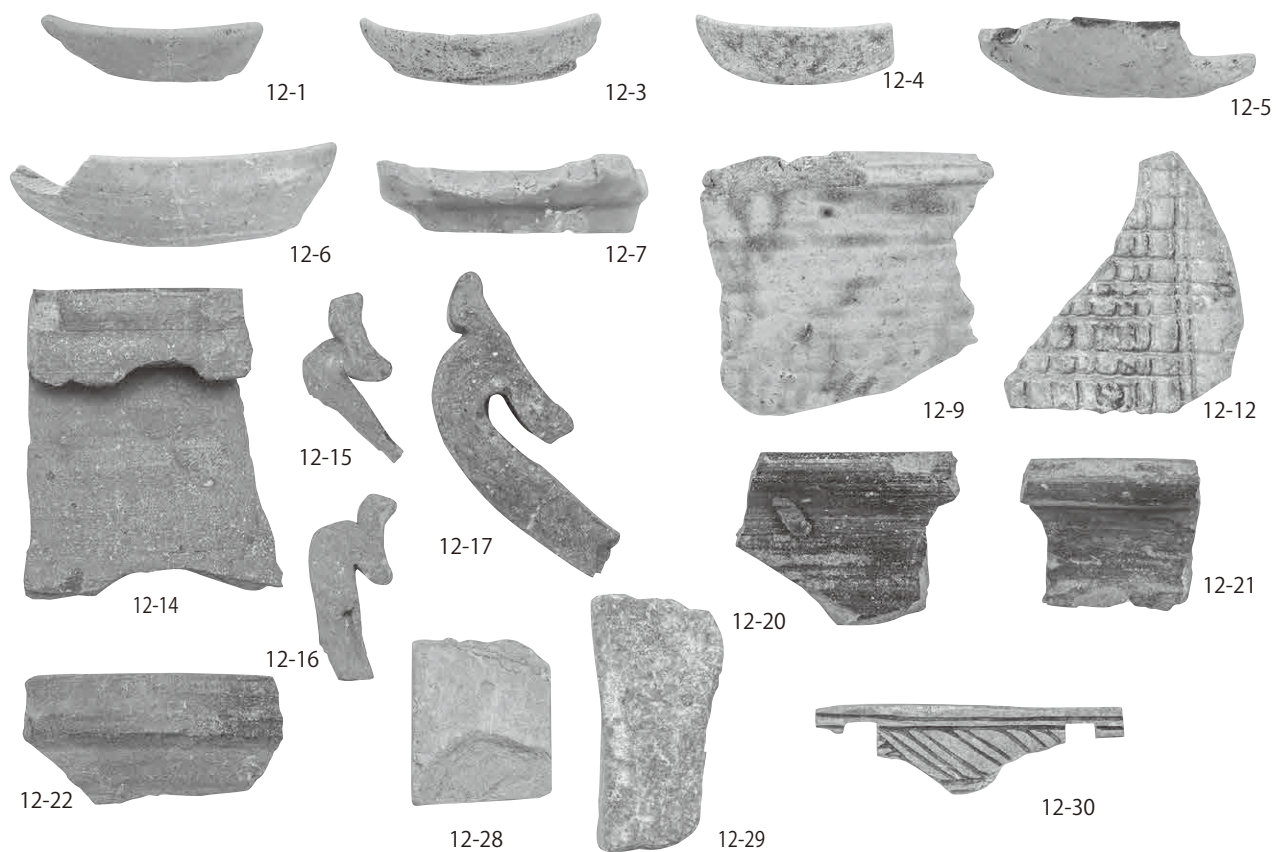
10-77



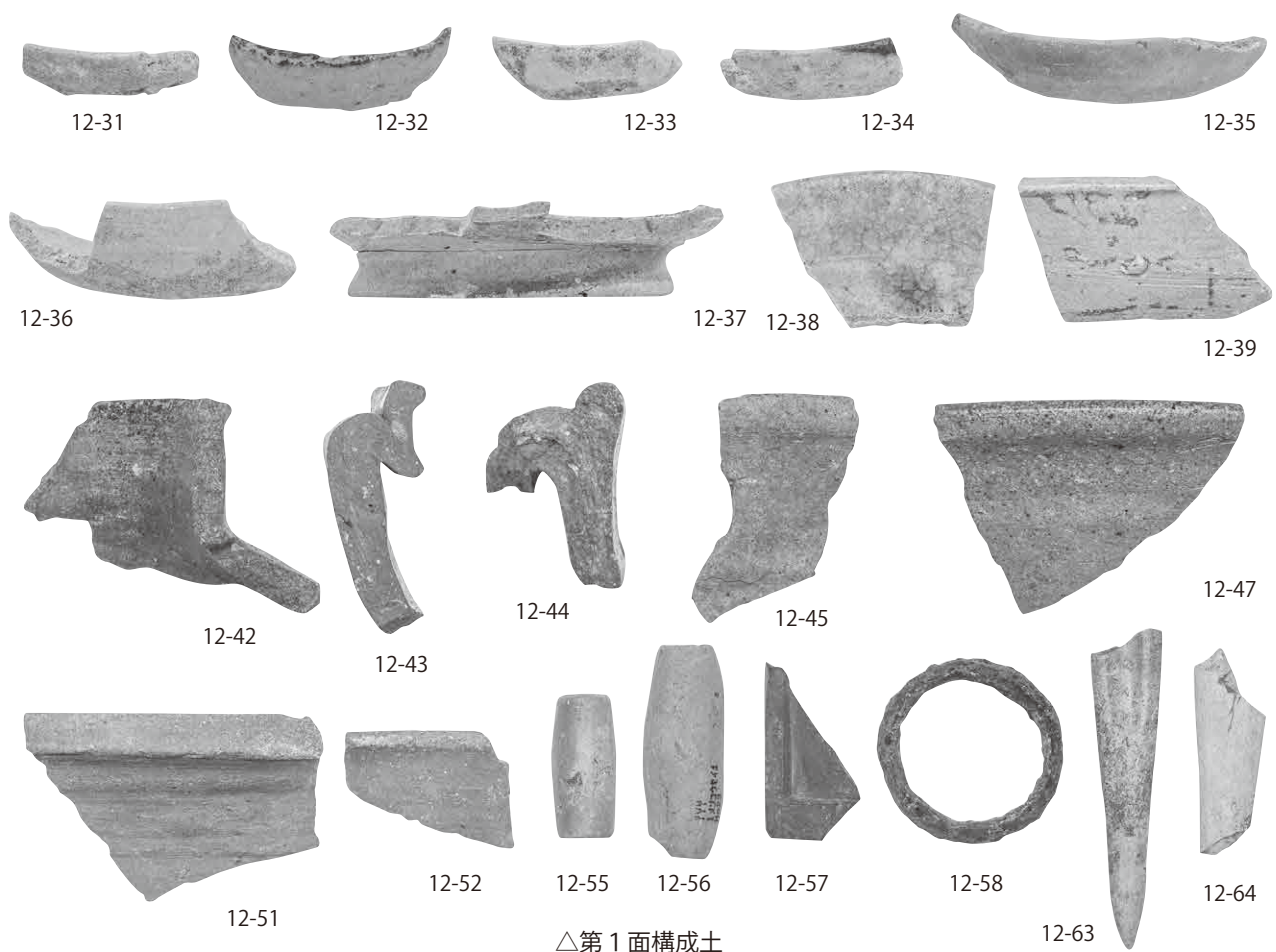
10-82



图版 7

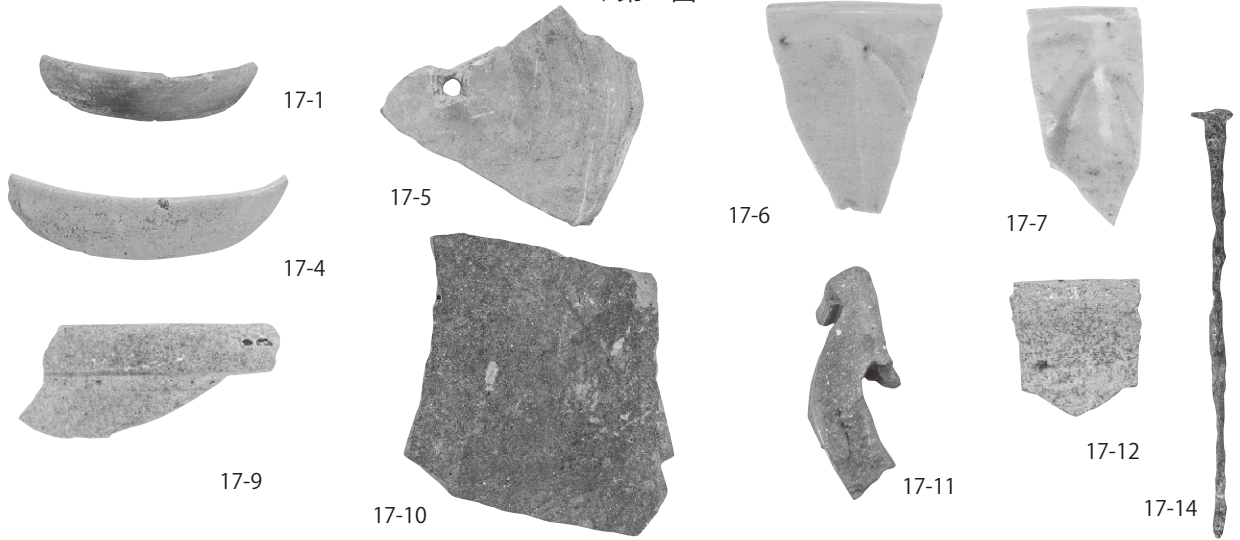


△第1面面上

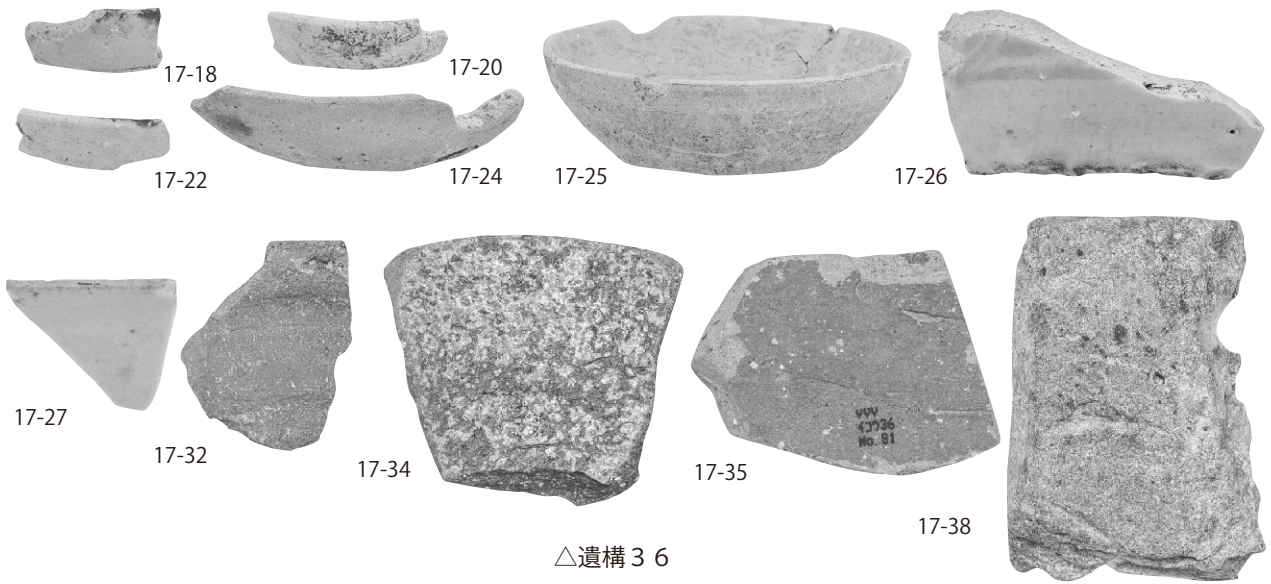


△第1面構成土

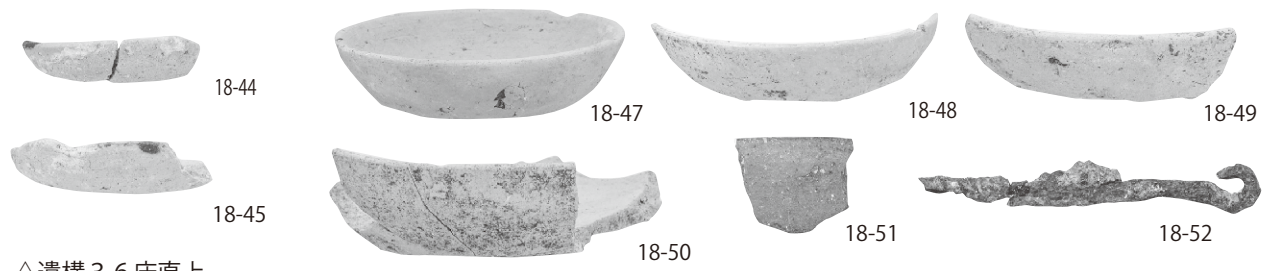
▼第2面



△遺構3 3



△遺構3 6



△遺構3 6床直上

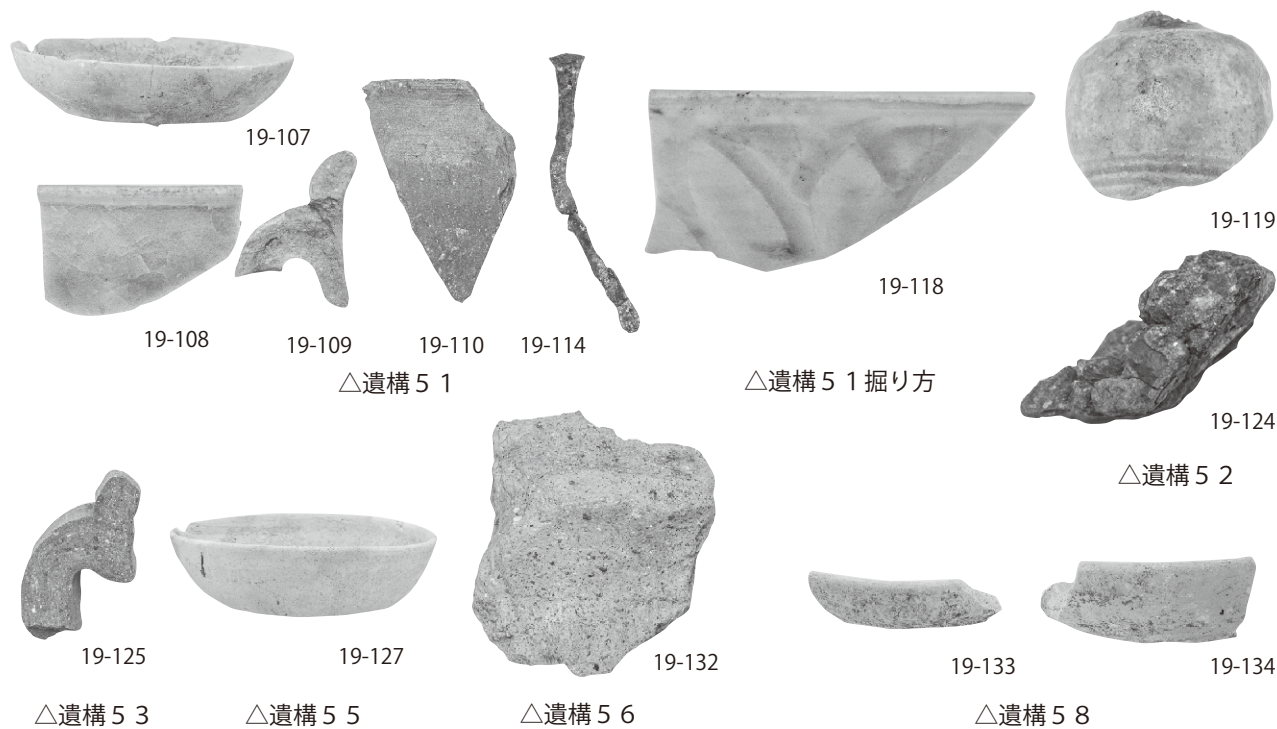
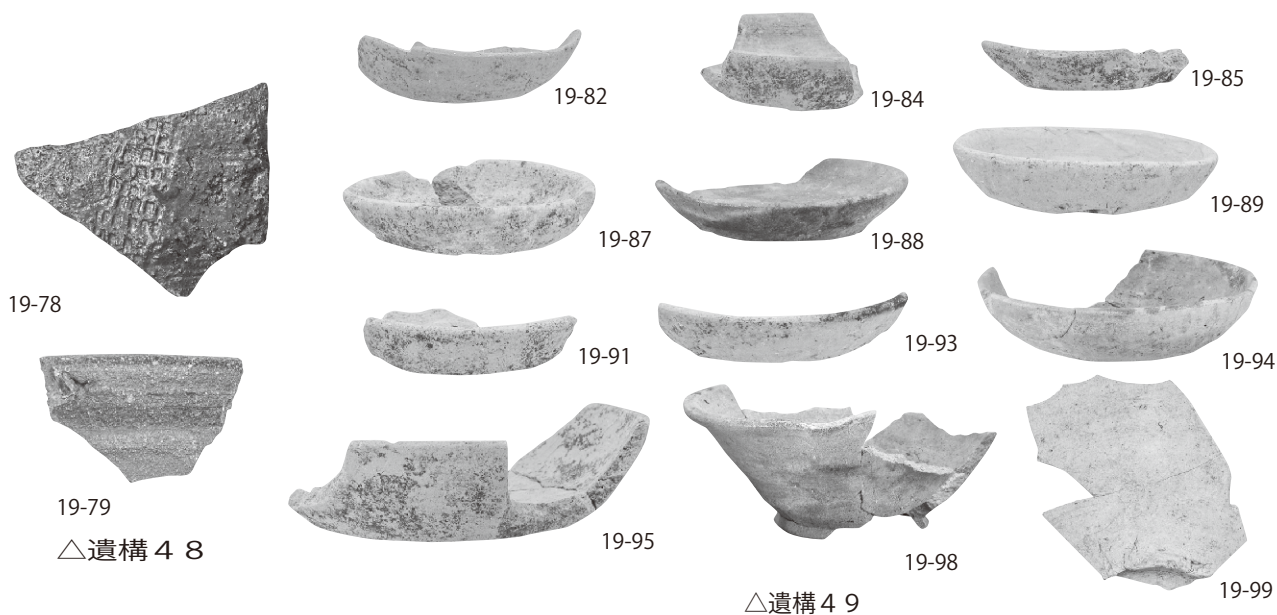
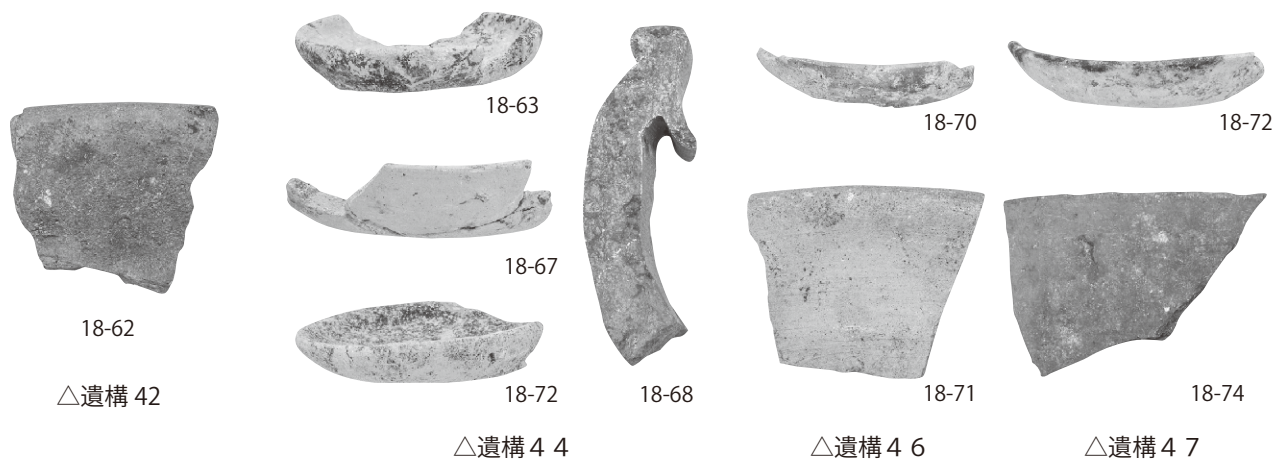
△遺構3 8

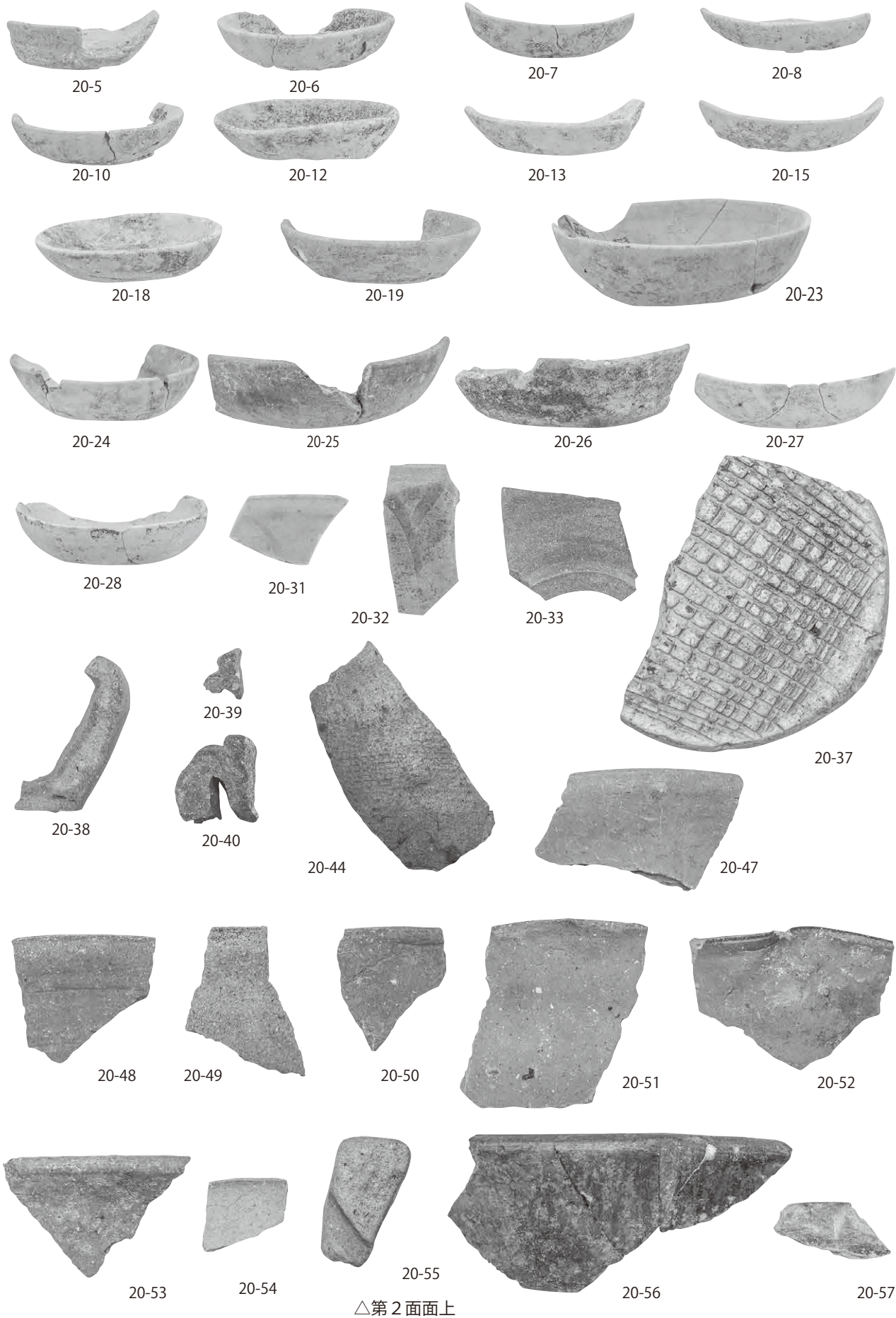


△遺構4 0

△遺構4 1

図版9

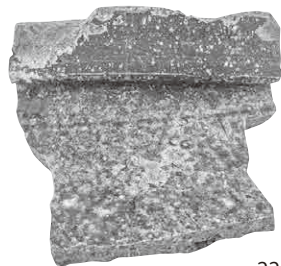




△第2面面上



△第2面面上



△表採

下馬周辺遺跡 (No.200)

由比ガ浜二丁目107番5地点

例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜二丁目107番5地点に所在する、個人専用住宅の新築に先だち行われた下馬周辺遺跡（県遺跡台帳No.200）の発掘調査報告書で、遺跡の略号はGB由2-107-5である。
2. 発掘調査は平成19年8月28日から同年9月21日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。建築基礎の入る部分の調査を行った。調査面積は12㎡である。
3. 本報使用の遺物実測図及び遺物トレースは榎岡ケイト、佐藤千尋、森谷十美が、原稿執筆、図版組、遺物写真撮影は福田 誠が担当し、編集も福田が行った。
4. 本報に使用した遺構写真は鈴木絵美が、出土遺物写真は福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。
調査担当者 鈴木絵美
調 査 員 石元道子
調査補助員 須之内江里
作 業 員 （社）鎌倉市シルバー人材センター 片山 昭 牛島道夫 堀住 稔
6. 資料整理の体制は以下の通りである。
整理担当者 福田 誠（鎌倉市教育委員会嘱託）
調 査 員 榎岡ケイト 佐藤千尋 森谷十美（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）
7. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。
8. 調査時に用いた鎌倉市三・四級基準点（旧地系）座標は、資料整理の段階で国土地理院世界測地系座標変換ソフトWeb版（TKY2JGD）を用い世界測地系座標に変換し用いた。

	旧地系	→	世界測地系
三級基準点 (No.53227)	X=-76321.229 Y=-25808.711		X=-75964.518 Y=-26102.147
四級基準点 (R065)	X=-76285.430 Y=-25797.012		X=-75928.720 Y=-26090.447
原点1	X=-76264.832 Y=-25747.725		X=-75908.125 Y=-26041.161
原点2	X=-76269.697 Y=-25745.099		X=-75912.990 Y=-26038.535

調査で使用した水準は、鎌倉市三級基準点（No.53227）（L=7.930m）の海拔を原点2（L=7.803m）に移動し用いたものである。

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	70
第1節 遺跡の位置	
第2節 歴史的環境	
第3節 調査の経過	
第二章 検出した遺構と遺物	75
第1節 第1面の遺構と遺物 (図3、図5、図版1・2、図版5)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図3、図5・6、図版2・3、図版5・6)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図3、図7、図版4、図版7・8)	
第4節 最終トレンチ (図3)	
第三章 まとめ	78

挿図目次

図1 調査地点位置と周囲の調査地点図・表.....	71	図5 出土した遺物1	79
図2 調査区設定図.....	74	図6 出土した遺物2	80
図3 全測図.....	76	図7 出土した遺物3	81
図4 土層図.....	77		

表目次

観察表1	82	観察表2.....	83
------------	----	-----------	----

図版目次

図版1 由比ガ浜通りと六地藏近景.....	84	図版5 出土した遺物1	88
図版2 1面・2面全景	85	図版6 出土した遺物2	89
図版3 2面遺構	86	図版7 出土した遺物3	90
図版4 3面遺構と全景	87	図版8 出土した遺物4	91

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置

調査地点の鎌倉市由比ヶ浜二丁目107番5は、下馬交差点から六地藏交差点を経て長谷観音前に通じる由比ヶ浜通り(国道134号線)に面している。下馬交差点より見て六地藏交差点の手前、由比ヶ浜通りの南側に位置している。(図1、下馬周辺遺跡No.200中の①)

第2節 歴史的環境

調査地点の北側、由比ヶ浜通りは下の下馬から長谷寺まで通る「長谷小路」の道筋に当たると考えられるが、長谷小路の名は長谷寺が^{註1}創建されて以降の名と考えられている。古くは今小路と稲村崎路が六地藏で交わってから、一の鳥居を抜けて東に伸びる車大路、下の下馬を抜けて東に伸びる大町大路の一部だったとも考えられている。

「吾妻鏡」によると建長4年4月、宗尊親王が京都から下向き鎌倉に入ったときに、極楽寺坂は通らず、稲村ヶ崎を廻り由比ヶ浜の鳥居の西を経て下の下馬橋に至ることが見えている。この^{註2}稲村ヶ崎からの道筋(稲村崎路)は、海づたいに稲村ヶ崎を廻り、稲瀬川から内陸に入り六地藏・若宮大路一の鳥居を経て北に、そこから下の下馬橋に至ったと考えられる。

稲村崎路は稲瀬川口から内陸に入り長谷小路との合流地点(佐々目の塔ノ辻)までで、これ以降六地藏を経て一の鳥居までの詳細は不明ながら、安房に抜ける旧東海道や車大路の一部に当たるとも考えられる。

この一帯は、下の下馬辺りから西に伸びる後背湿地の縁にあたり、東側は下の下馬に向かいなだらかに下り、南側は一の鳥居から西に伸びる砂丘に向かいなだらかに上っている。

註1 長谷寺は天平8年(736)の創建と云われているが、大和長谷寺の縁起にならったものと思われる。詳しい創建年代は不明であるが、梵鐘に文永元年(1264)7月15日の銘が見られることから鎌倉時代末には成立していたと考えられる。

註2 この稲村ヶ崎から稲瀬川・六地藏・一の鳥居・元八幡宮・辻の薬師を経て名越に至る道筋は、車大路や旧東海道の道筋に近いともいわれ大町大路よりも古い路と考えられる。

第3節 調査の経過

下馬周辺遺跡内の、神奈川県鎌倉市由比ヶ浜二丁目107番5の個人専用住宅新築工事に伴う建築申請を受け、鎌倉市教育委員会文化財課は周辺の発掘調査の状況から、新築工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査の必要性を認めた。施主の了解を戴き、住宅基礎が入る部分に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査を行う運びとなった。発掘調査は、平成19年8月28日より同年9月21日までの日程で行われ、調査対象面積は12㎡である。

調査にあたって、調査地の北側を東西に走る由比ヶ浜通りを意識して測量用の方眼を設定した。市内に設置してある市四級基準点のうちR065(X=-76285.430・Y=-25797.012)と市三級基準点(No.53227)(X=-76321.229・Y=-25808.711)を用いて原点1(X=-76264.832・Y=-25747.725)と原点2(X=-76269.697・Y=-25745.099)を設置した。また、市三級基準点(No.53227)の海拔高(7.930m)を原点2(7.803m)移動して用いた。調査地に設定した方眼の南北軸線は真北よりN-28°21'32"-Wである。

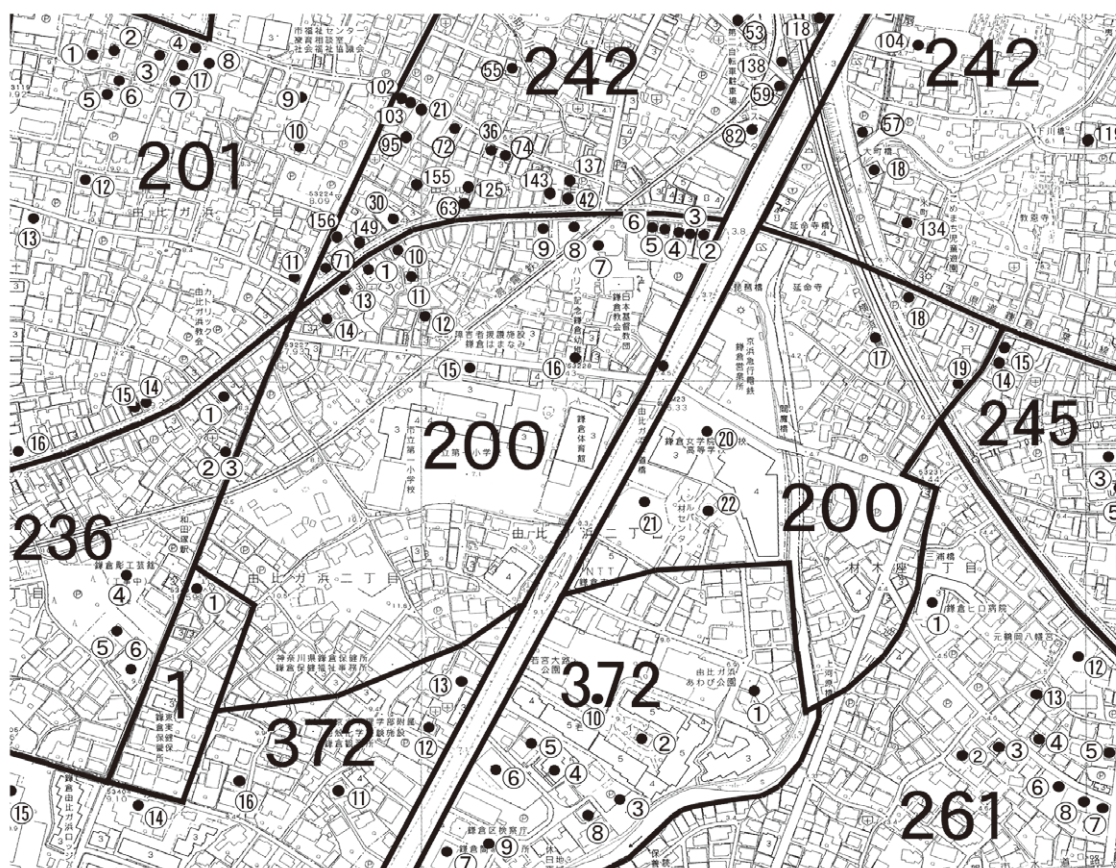


図1 調査地点位置と周囲の調査地点図・表

下馬周辺遺跡群 No.200

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜二丁目107番5	2007.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34-1』「由比ガ浜二丁目107番5地点」本報告地点	2018.3
2	由比ガ浜二丁目2番2	1988.5	県埋蔵報告32	1990.3
3	由比ガ浜二丁目2番10	1990.5	県埋蔵報告34	1992.3
4	由比ガ浜二丁目2番12	1998.1	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書4』「由比ガ浜二丁目2番12地点」	1998.9
5	由比ガ浜二丁目3番7	2005.10	県埋蔵報告51	2007.3
6	由比ガ浜二丁目3番6	2008.3	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』	2010.9
7	由比ガ浜二丁目18番1外	2001.6	県埋蔵報告45	2003.3
8	由比ガ浜二丁目18番12	1990.8	『下馬周辺遺跡』「由比ガ浜二丁目18番12地点」	1992.3
9	由比ガ浜二丁目19番1	2006.4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1』「由比ガ浜二丁目19番4地点」	2013.3
10	由比ガ浜二丁目113番5	2009.10	県埋蔵報告56	2011.3
11	由比ガ浜二丁目110番5	1999.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1』「由比ガ浜二丁目110番5地点」	2001.3
12	由比ガ浜二丁目54番15	2008.6	県埋蔵報告55	2010.3
13	由比ガ浜二丁目107番1	1995.10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2』「由比ガ浜二丁目107番1地点」	1997.3
14	由比ガ浜二丁目106番6	2000.6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』「由比ガ浜二丁目106番6地点」	2002.3
15	由比ガ浜二丁目39番14	2004.5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1』「由比ガ浜二丁目39番14地点」	2009.3
16	由比ガ浜二丁目27番9	1988.7	県埋蔵報告32 由比ガ浜二丁目27番9地点	1990.3
17	材木座一丁目1002番1外	2004.5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』	2008.3
18	大町二丁目1001番4	2005.2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27』	2011.3
19	大町二丁目975番6	2003.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』	2006.3
20	由比ガ浜二丁目1011番1	1989.5	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜二丁目1011番1地点」	1998.3
21	由比ガ浜二丁目1075番外	2010.6	『下馬周辺遺跡』「鎌倉警察署建設に伴う発掘調査」	2014.3
22	由比ガ浜二丁目1058番5	2008.2	県埋蔵報告54	2009.2

由比ガ浜中世集団墓地遺跡 No.372

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜二丁目1037番1外	1992.2	『県埋蔵報告35』	1993.3
2	由比ガ浜二丁目1034番1外	1990.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-1』	1993.3

3	由比ガ浜二丁目1015番25外2筆	2011.1	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』「由比ガ浜二丁目1015番25外2筆地点」	2015.3
4	由比ガ浜二丁目1015番23	2000.7	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』	2005.9
5	由比ガ浜二丁目1015番29	1989.10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』	1991.3
6	由比ガ浜二丁目1014番15	2012.7	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』	2016.1
7	由比ガ浜二丁目1014番	1953.5	『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』「簡易裁判所用地」	1956
8	由比ガ浜二丁目1015番21		未刊	
9	由比ガ浜二丁目1014番17	2006.2	『鎌倉考古No.51』	2006.6
10	由比ガ浜二丁目1014番57	2006.6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-1』	2015.3
11	由比ガ浜二丁目1213番2	2013.11	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』	2017.3
12	由比ガ浜二丁目1203番20	1998.11	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2』「由比ガ浜二丁目1203番20地点」	2000.3
13	由比ガ浜二丁目1203番42・44・46	2009.1	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』	2011.12
14	由比ガ浜四丁目1130番外	1993.5	県埋蔵報告37	
15	由比ガ浜四丁目1136番	1991.8	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜四丁目1136番地点」	1997.2
16	由比ガ浜二丁目1235番4			

今小路西遺跡 No.2 0 1

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜一丁目157番7	2004.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「由比ガ浜一丁目157番7地点」	2012.3
2	由比ガ浜一丁目151番1	2007.5	『今小路西遺跡発掘調査報告書』由比ガ浜一丁目151番1地点	2011.3
3	由比ガ浜一丁目148番11	1983.2	県埋蔵報告26 『発掘調査概要』	1984.3
4	由比ガ浜一丁目148番1	2000.6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』「由比ガ浜148番1地点」	2002.3
5	由比ガ浜一丁目147番1	2007.10	県埋蔵報告54	2009.3
6	由比ガ浜一丁目147番2外	2007.7	県埋蔵報告54	2009.3
7	由比ガ浜一丁目148番5	2001.6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-1』「由比ガ浜一丁目148番5地点」	2004.3
8	由比ガ浜一丁目141番5	2006.2	県埋蔵報告51 『鎌倉市遺跡調査研究発表会』発表要旨	2007.3
9	由比ガ浜一丁目136番1	2008.7	県埋蔵報告55	2010.2
10	由比ガ浜一丁目134番4	2008.10	県埋蔵報告55	2010.2
11	由比ガ浜一丁目183番1	2000.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』「由比ガ浜一丁目183番1地点」	2002.3
12	由比ガ浜一丁目165番2	2008.4	県埋蔵報告55	2010.2
13	由比ガ浜一丁目197番2外	2006.9	『今小路周辺遺跡発掘調査報告書』(由比ガ浜一丁目197番2外地点)	2007.3
14	由比ガ浜一丁目213番3	1991.3	『今小路西遺跡』「由比ガ浜一丁目213番3地点」	1993.7
15	由比ガ浜一丁目213番12	2007.3	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「由比ガ浜一丁目213番12地点」	2012.3
16	由比ガ浜一丁目211番18・19外	2009.5	『今小路西遺跡発掘調査報告書』	2013.3
17	由比ガ浜一丁目148番11	1983.3	県埋蔵報告27	1984.3

若宮大路周辺遺跡群 No.2 4 2

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
118	小町一丁目83番3	2007.8	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目83番3・32地点東昭ビル	2008.6
53	御成町868番10	1990.2	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』「御成町868番10地点」	1993.7
59	御成町872番14	1991.2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』「御成町872番14地点」	1992.3
82	御成町884番6	1997.5	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』「御成町884番6地点」	1999.6
42	由比ガ浜一丁目117番1	1988.11	『由比ガ浜一丁目117番1地点』「堀口ビル建設に伴う緊急発掘調査報告書」	1991.5
125	由比ガ浜一丁目120番4	2008.12	第19回鎌倉市遺跡調査・研究発表会要旨	2009.3
63	由比ガ浜一丁目120番6	1991.11	県埋蔵報告35	1993.3
30	由比ガ浜一丁目128番7	1987.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』「由比ガ浜一丁目128番7地点」	1988.3
71	由比ガ浜一丁目129番5	1993.12	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』	1995.5
74	由比ガ浜一丁目118番7	1995.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2』「由比ガ浜一丁目118番7地点」	1998.3
36	由比ガ浜一丁目118番8	1987	県埋蔵報告31 由比ガ浜一丁目188番8地点発掘調査概報	1989.3
72	由比ガ浜一丁目123番5	1994.3	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1』	1995.3
103	由比ガ浜一丁目126番11	2005.4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2』「由比ガ浜一丁目126番11一部」	2009.3
102	由比ガ浜一丁目126番1一部	2005.5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2』「由比ガ浜一丁目126番11」	2009.3
55	御成町727番12・19	1990.8	県埋蔵文化財調査報告34	1984.3
143	由比ガ浜一丁目117番14	2012.10	『若宮大路周辺遺跡群』由比ガ浜一丁目117番14他1筆地点	2016.3
149	由比ガ浜一丁目128番21	2013.7	『若宮大路周辺遺跡群』由比ガ浜一丁目128番21地点	2016.1
95	由比ガ浜一丁目127番1	2003.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2』「由比ガ浜一丁目127番1地点」	2006.3
21	由比ガ浜一丁目126番3		未刊	

21	由比ガ浜一丁目126番3		未刊	
137	由比ガ浜一丁目116番9	2011.4	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』由比ガ浜一丁目116番9地点	2015.8
104	小町一丁目276番18・22・38	2005.6	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目276番18・22・38地点	2006.9
54	小町一丁目1028番1	1990.11	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目1028番1地点	1997.3
18	大町一丁目1034番2	1982.4	『善宝寺跡』県埋蔵文化財調査報告26	1984.3
134	大町一丁目1034番9	2010.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32-2』「大町一丁目1034番9地点」	2016.3
119	大町一丁目1084番4	2007.11	県埋蔵報告54	
138	御成町872番11	2012.11	県埋蔵報告59	
155	由比ガ浜一丁目121番22	2017.2	南北道路	

米町遺跡 No.245

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
3	大町二丁目933番	1988.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』「大町二丁目933番他」	1990.3
5	大町二丁目931番1	1996.3	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1』「大町二丁目931番1地点」	1998.3
14	大町二丁目992番7外	2003.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2』「大町二丁目992番7外地点」	2006.3
15	大町二丁目993番1外	2008.10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-2』「大町二丁目993番1外地点」	2009.3

長谷小路周辺 No.236

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜三丁目223番11	1989.4	県埋蔵報告33	1991.3
2	由比ガ浜三丁目228番2	1996.10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2』「由比ガ浜三丁目228番2地点」	1998.3
3	由比ガ浜三丁目228・229	1991.7	『長谷小路周辺遺跡』「由比ガ浜三丁目228・229番外地点」	1994.7
4	由比ガ浜三丁目1256番4・5	2004.2	『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』	2005.9
5	由比ガ浜三丁目1262番6外	1999.4	『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜三丁目1262番6外地点」	2000.6
6	由比ガ浜三丁目1262番2外	1998.1	『長谷小路周辺遺跡』由比ガ浜三丁目1262番2、1251番1・2地点	2002.7

材木座町屋遺跡 No.261

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	材木座一丁目910番	2001.9	『材木座町屋遺跡発掘調査報告書』「材木座一丁目910番地点」	2001.9
2	材木座一丁目141番3	2013.7	未刊	
3	材木座一丁目144番3	1990.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』「材木座一丁目144番3地点」	1991.3
4	材木座一丁目890番7	1998.9	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』「材木座一丁目890番7地点」	2000.3
5	材木座一丁目921番5外	2004.6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2』「材木座一丁目921番5外地点」	2007.3
6	材木座一丁目149番4	2005.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目149番4」	2008.3
7	材木座一丁目889番5	2004.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番5」	2008.3
8	材木座一丁目889番4	2004.11	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番4」	2008.3
12	材木座一丁目919番19	2008.6	県埋蔵報告55	2010.2
13	材木座二丁目893番9	2008.7	県埋蔵報告55	2010.2

原点 1 X=-75908.125 Y=-26041.160
 北緯 35° 19' 07" 東經 139° 32' 37"
 原点 2 X=-75912.990 Y=-26038.535 L=7.803m
 仮原点 X=-75906.601 Y=-26042.615 L=7.516m
 ① X=-75905.526 Y=-26038.899
 ② X=-75906.685 Y=-26044.559
 ③ X=-75908.125 Y=-26041.160
 ④ X=-75914.574 Y=-26043.714
 ⑤ X=-75905.510 Y=-26038.860
 ⑥ X=-75906.670 Y=-26044.560
 ⑦ X=-75914.570 Y=-26043.740
 ⑧ X=-75913.930 Y=-26037.970
 ⑨ X=-75911.040 Y=-26039.610
 R065 X=-75928.720 Y=-26090.447
 三級基準点 53227
 X=-75964.518 Y=-26102.147 L=7.93m

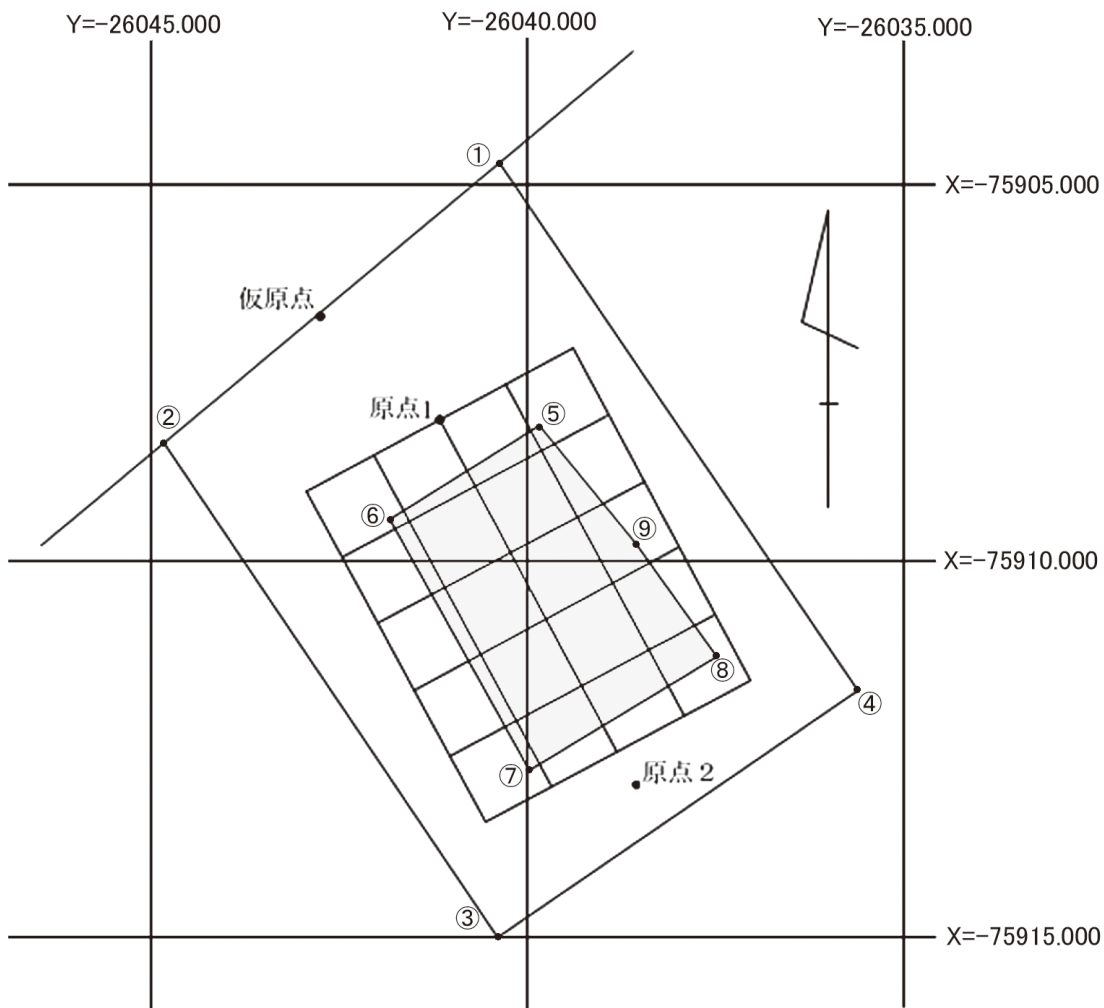
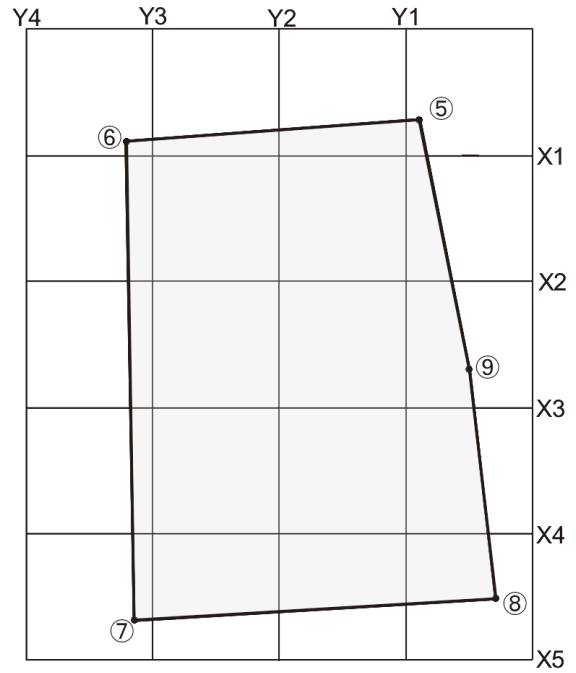


図2 調査区設定図

第二章 検出した遺構と遺物

地表から掘り下げて、最初の遺構面を1面として順次掘り下げて確認した遺構面を2面、3面として建物基礎が及ばない深さに確認のために開けた小トレンチを最終トレンチと呼ぶ。

第1節 第1面の遺構と遺物（図3、図5、図版1・2、図版5）

調査地の海拔は北側で約7.3m、南側で約7.5mで南側が20cmほど盛土で高まっている。

1面の構成土は黄茶褐色砂質土で確認された遺構は素掘りの土坑1である。

土坑

土坑1は調査地の西壁に沿って検出された。南北3m以上、東西70cm以上、深さ45cm程の大きさで、北側が深い。

1面まで、1面、1面遺構の遺物を見ると、かわらけ(4～6・12)、青磁蓮弁文碗・鉢(1～3)、瀬戸卸皿(11)、常滑壺(10)、常滑Ⅰ類片口鉢、常滑Ⅱ類片口鉢(7～9・13)、火鉢(12)、伊勢系土鍋(14)が出土している。常滑製品の多くが常滑編年7、瀬戸製品の多くが中期Ⅲ期といずれも14世紀中頃の年代と考えられる。かわらけも器壁が薄く、器高が高め、胎土は砂が少ない。概ね14世紀中頃の年代が考えられる。

土坑

土坑は1穴確認された。ゴミ捨て穴と考えられるが、砂質の土壌のために有機質は分解されて遺存していない。かわらけのほかに青磁蓮弁文碗、青磁鉢と常滑Ⅰ類とⅡ類の片口鉢、瀬戸卸皿片が出土している。

第2節 第2面の遺構と遺物（図3、図5・6、図版2・3、図版5・6）

2面の構成土は灰褐色砂質土で確認された遺構は土坑2・5である。

土坑

2面では土坑が2穴(土坑2・5)確認された。平面図に載せている土坑3・4は断面を精査した結果、土坑5の上層部であった、遺物は土坑5として報告する。

北東隅で検出した土坑2は、推定直径1m、深さ50cmの土坑である。長さ約40cm、幅10cm程の木材が底面に張り付いた状態で検出されている。

口径7.6cmの小型糸切りかわらけ(29・30)と常滑壺体部片(31)、常滑片口鉢Ⅰ類(32・33・35)、常滑片口鉢Ⅱ類(34)、「□□通宝」(36)が出土している。

土坑5は南西隅で検出された遺構で、大きさは南北150cm以上、東西1m以上、深さ50cmである。

径7.3～7.9cmまでの小型糸切りかわらけ(37～43)、径11.6cm前後の大型糸切りかわらけ(44～47)、舶載磁器(15・16・48～51)と常滑片口鉢Ⅰ類(52・56)、常滑片口鉢Ⅱ類(53・54)、瀬戸行平鍋(57)、瀬戸仏花瓶(58・59)、須恵器甕片(60)が出土している。

径11.6cm前後のかわらけ、青磁碗片、白磁皿、瀬戸行平鍋、仏花瓶、常滑Ⅰ類、Ⅱ類片口鉢等が出土し、常滑製品の多くが常滑編年6b、瀬戸製品の多くが中期Ⅰ期といずれも13世紀末～14世紀初頭の年代が考えられる。かわらけも復元径11.6cm程で、器壁がやや薄く、器高がやや高め、胎土は砂が少ないことから概ね14世紀初頭の年代の中型品か。

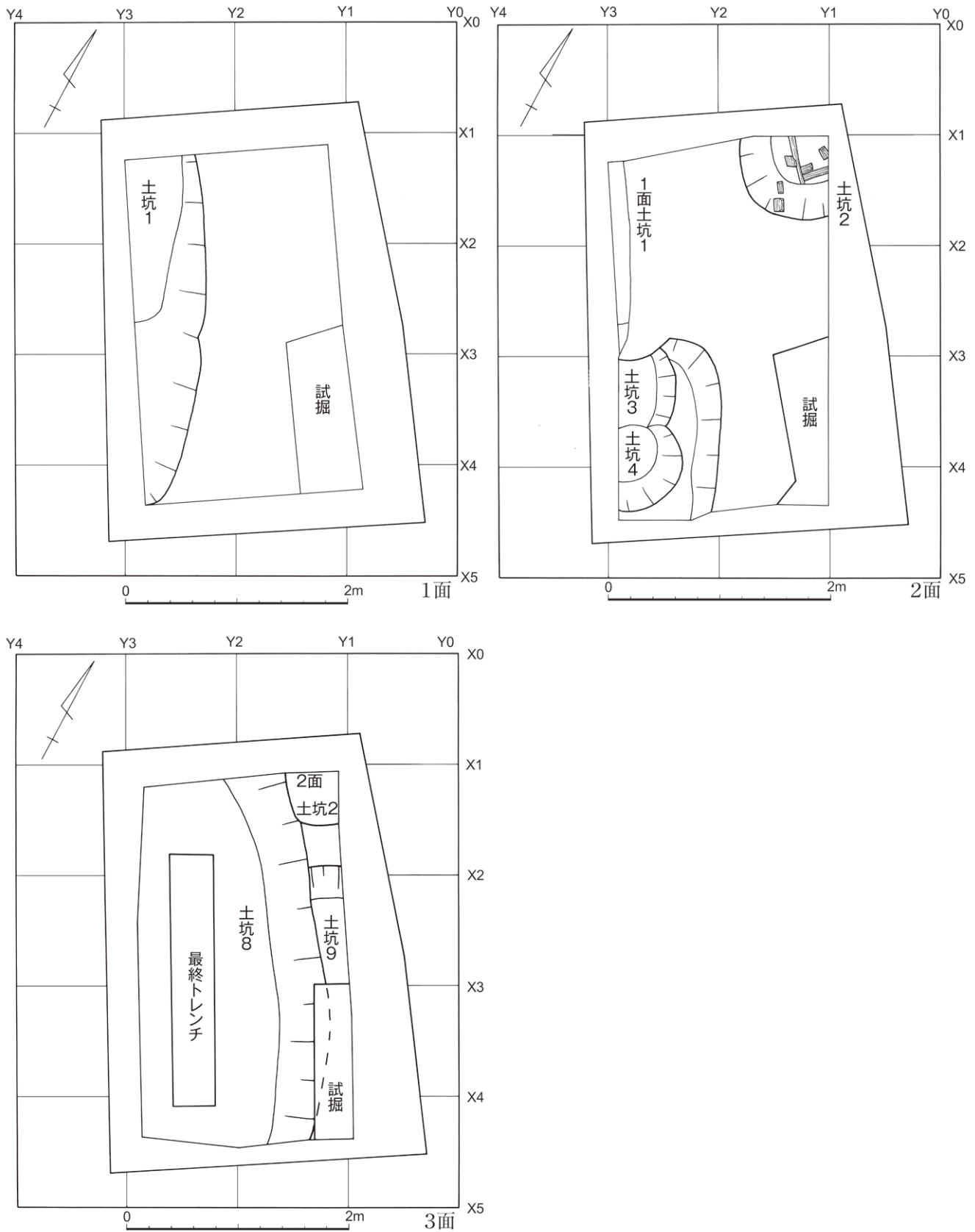
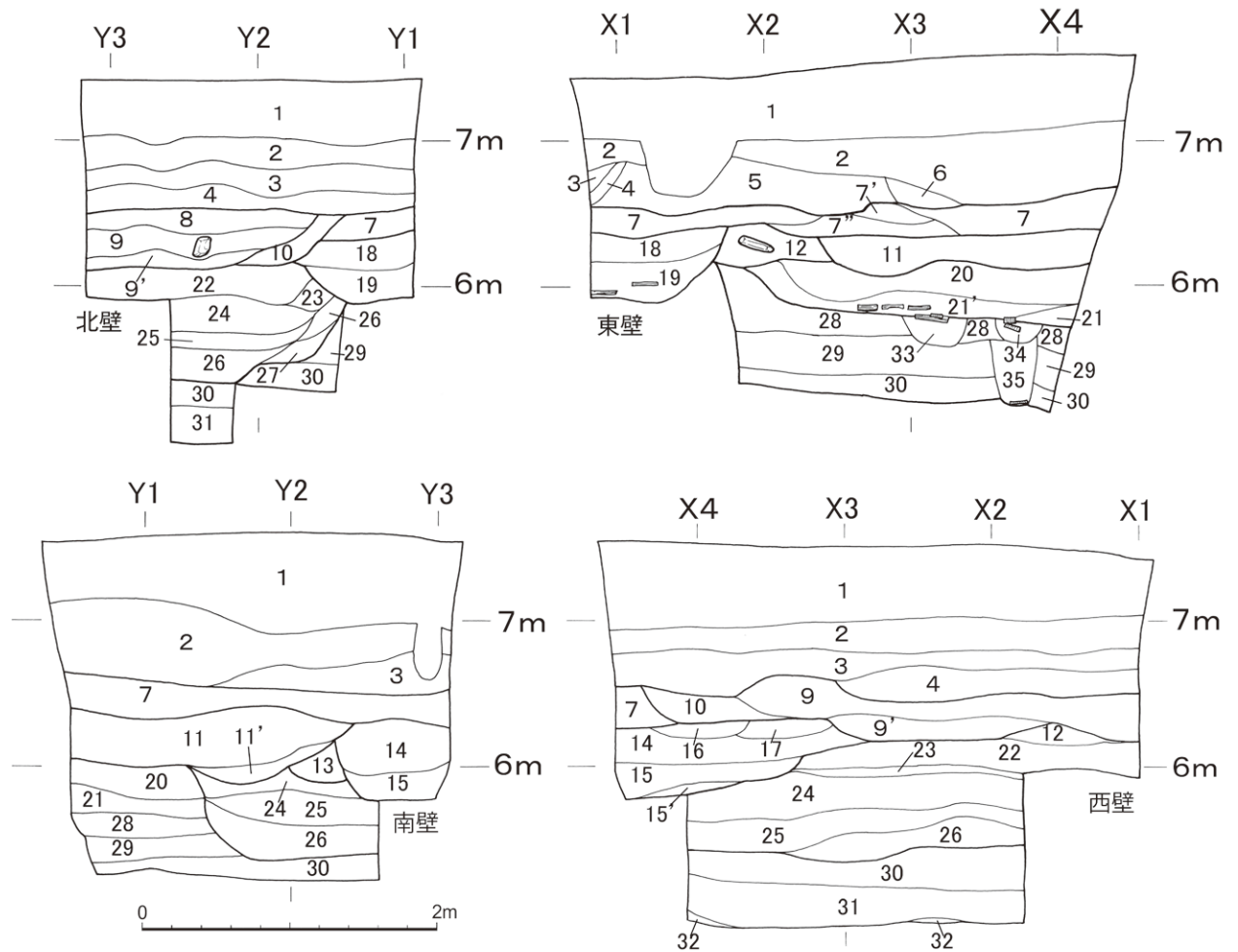


図3 全測図



- | | |
|--|---|
| <p>1. 明茶灰色砂質土層</p> <p>2. 暗茶灰色砂質土層</p> <p>3. 茶褐色砂質土層 土丹粒、かわらけ少量含む</p> <p>4. 土丹層 貝少量含む</p> <p>5. 土丹層</p> <p>6. 暗茶灰色砂質土層</p> <p>7. 黄茶褐色砂質土層 0.5~1cmの土丹、貝含む</p> <p>7'. 黄茶褐色砂質土層 0.5~1cmの土丹多く含む</p> <p>7''. 黄茶褐色砂質土層 土丹粒多くやや粘質</p> <p>8. 灰褐色砂質土層 土-1覆土</p> <p>9. 暗茶褐色砂質土層 貝多く含む 土-1覆土</p> <p>9'. 暗茶褐色砂質土層 やや粘性が強い 土-1覆土</p> <p>10. 茶褐色砂質土層 土-1覆土</p> <p>11. 灰褐色砂質土層 0.5~1cmの土丹、貝含む</p> <p>11'. 灰褐色粘質層</p> <p>12. 土丹層</p> <p>13. 灰褐色砂質土層 貝少量含む 土-7覆土</p> <p>14. 灰褐色砂質土層 拳大土丹含む 土-5覆土</p> <p>15. 暗灰色砂質土層 3~5cm大の土丹含む 土-5覆土</p> <p>16. 茶褐色砂質土層 土-5覆土</p> | <p>17. 暗茶褐色砂質土層 土-5覆土</p> <p>18. 灰褐色砂質土層 1cm大の土丹粒含む 土-2覆土</p> <p>19. 灰褐色砂質土層 18より粘性が強い 土-2覆土</p> <p>20. 灰褐色砂質土層 貝、マグソ土、木片含む 土-9覆土</p> <p>21. 灰褐色砂質土層 貝、炭化物含む 土-9覆土</p> <p>21'. 灰褐色砂質土層 土-9覆土</p> <p>22. 灰褐色砂質土層 土-8覆土</p> <p>23. 黄茶褐色砂質土層 土-8覆土</p> <p>24. 暗茶褐色砂質土層 マグソ土、貝含む 土-8覆土</p> <p>25. 暗茶褐色砂質土層 土丹、貝多い 土-8覆土</p> <p>26. 灰褐色粘質砂層 1~3cm大の土丹多い 土-8覆土</p> <p>27. 暗茶褐色砂質土層 土-8覆土</p> <p>28. 灰褐色砂質土層</p> <p>29. 暗茶褐色砂質土層 貝多い</p> <p>30. 暗茶褐色粘質土層 マグソ土、木、土師含む</p> <p>31. 暗茶褐色粘質砂層 植物根、土師、須恵含む</p> <p>32. 灰色砂</p> <p>33. 暗茶褐色粘質砂層 炭化物、マグソ土含む Pit 覆土</p> <p>34. 暗茶褐色砂質土層 Pit 覆土</p> <p>35. 暗茶褐色粘質砂層 粘性有り Pit 覆土</p> |
|--|---|

図4 土層図

第3節 第3面の遺構と遺物（図3、図7、図版4、図版7・8）

3面では土坑が2穴(土坑8・9)確認された。土坑8に切られた土坑9が、当遺跡中一番古い遺構であるが、数点の自然遺物(貝・種子)の他に遺物は出土していない。

土坑

土坑8は南北方向に縦長の形状で、34点の遺物が出土した。遺物は青磁碗(116)、青白磁梅瓶蓋(116)、径7.4～7.9cmまでの小型糸切りかわらけ(108～111)、径12.7cmと13.4cmの大型糸切りかわらけ(112・113)かわらけと小型手捏ねかわらけ(114・115)、常滑甕(119～121)、常滑片口鉢Ⅰ類(122～127)、常滑片口鉢Ⅱ類(128～132)、常滑常滑碗(133)、火鉢(134・135)、平瓦片(136)、銭「熙寧元宝」(137)等と土師器坏・甕が出土した。

かわらけは径12.7cmと13.4cmで、2面のかかわらけより径が大きくなる。器高は低め。数点ではあるが、手捏ねの製品が混じる。常滑甕は編年6aと考えられることから、3面は概ね13世紀中～末頃の年代か。

第4節 最終トレンチ（図3）

3面の調査終了後に、幅0.5m、長さ2.5mのトレンチを設定して、中世地山と考えられる暗茶褐色砂質土層と灰色砂層(海拔4.9m)まで掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。

第三章 まとめ

当下馬周辺遺跡(由比ヶ浜二丁目107番5地点)では主に土坑が検出された。周辺遺跡では、道路に沿った軸方位を持つ竪穴建物と井戸・土坑がセットで検出確認されている。土坑しか確認できなかったのは、調査面積が小さいため偶々なのかは不明である。土坑はいわゆるゴミ穴と考えられる物で、宅地内ならば裏手の場所に当たる。砂質土層のためか、有機質の遺物は殆ど遺存していない。

遺物を概観するならば、1面の土坑から出土する遺物のうち常滑Ⅱ類片口鉢の口縁部では、上下に伸びておらず常滑編年7型式に相当し、年代的に14世紀中頃。糸切り成形のかかわらけはいわゆる薄手丸深になり、概ね14世紀中頃の年代が考えられる。2面では概ね14世紀初頭の年代、3面では概ね13世紀中～末頃の年代が与えられることから、当遺跡の開始時期は13世紀後半代以降と考えられよう。調査範囲が狭いため判然としないが、検出遺構が土坑ばかりということから、宅地内ならば表ではなく裏手の様相であると思われる。

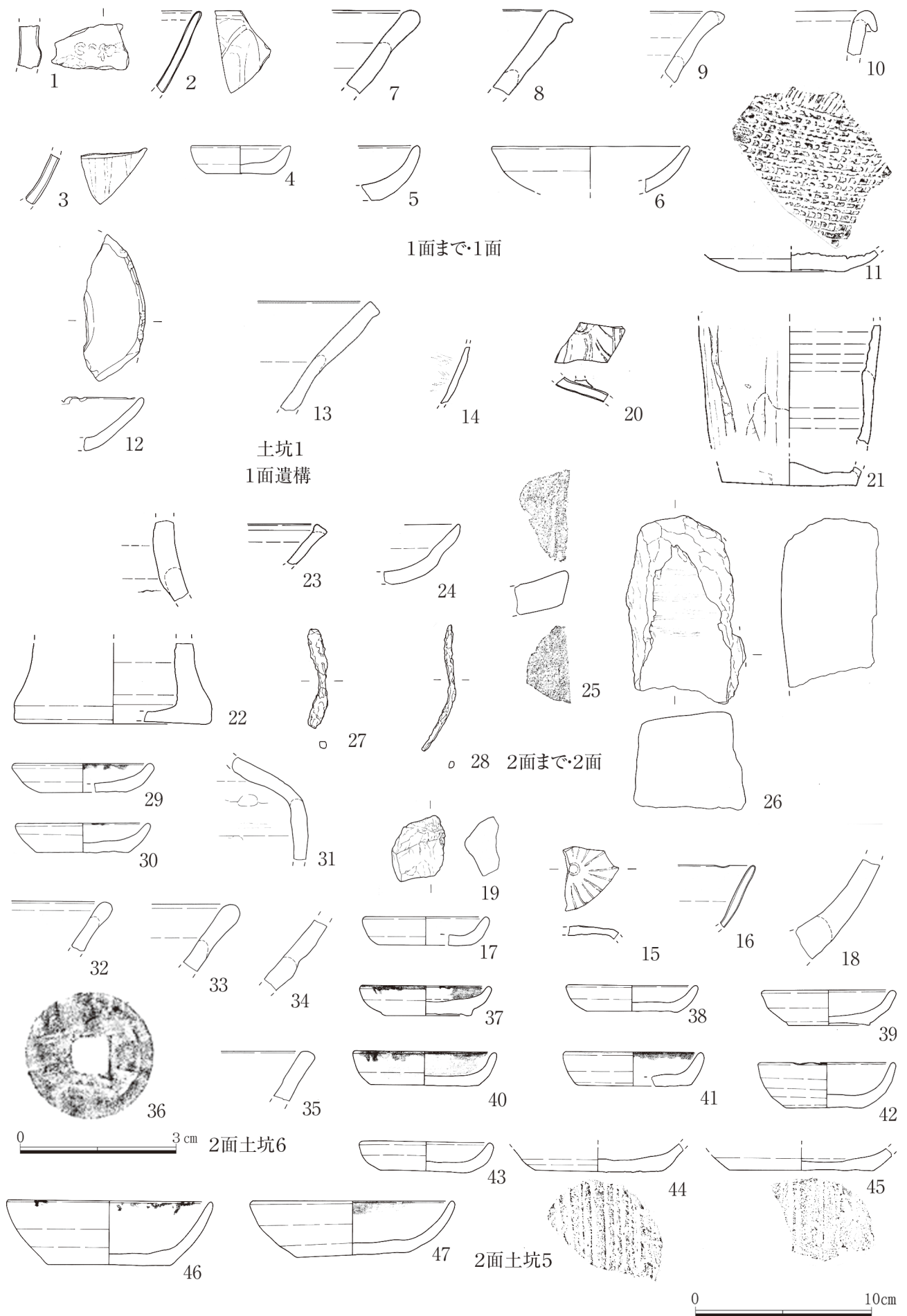


図5 出土した遺物1

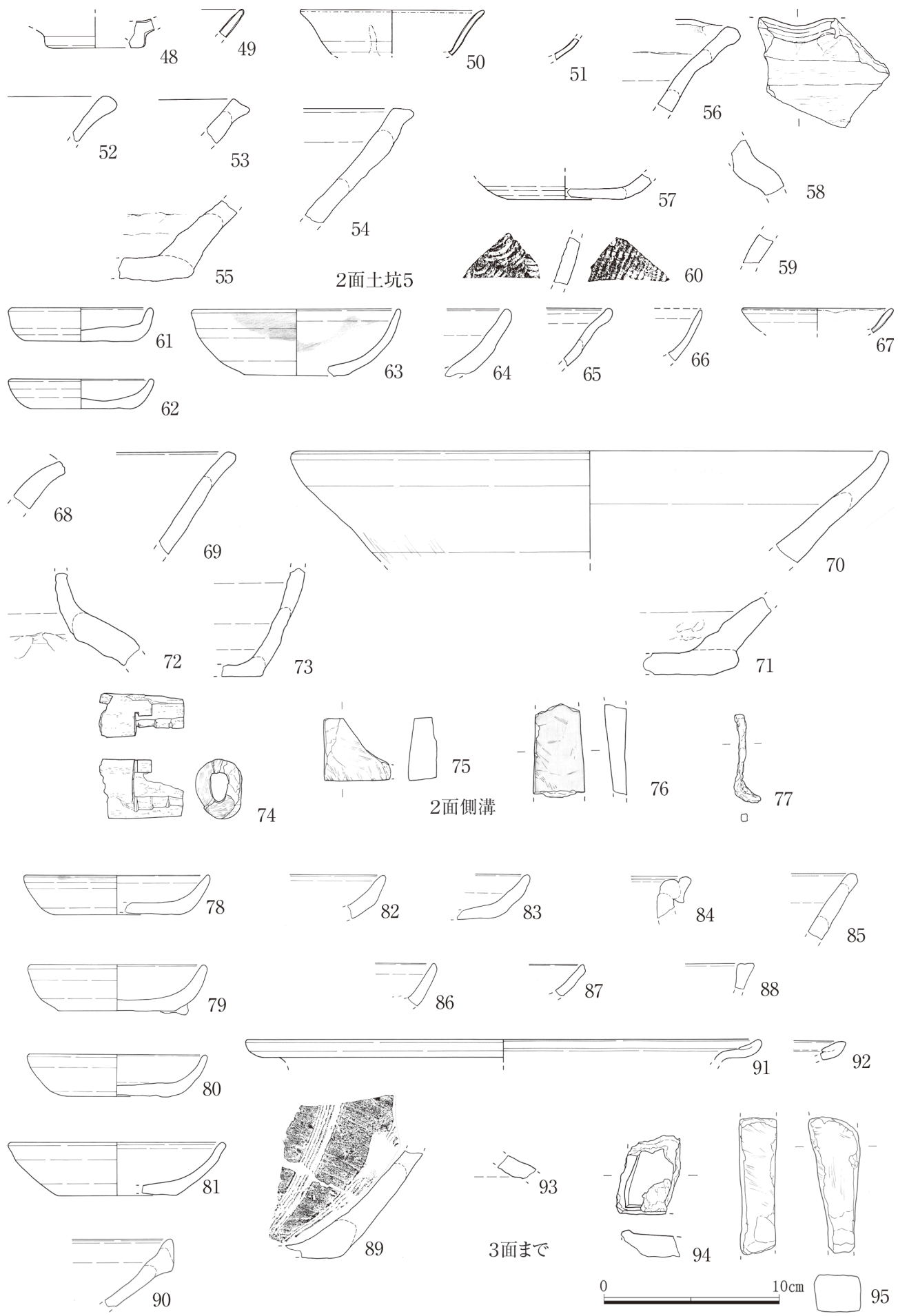


図6 出土した遺物2

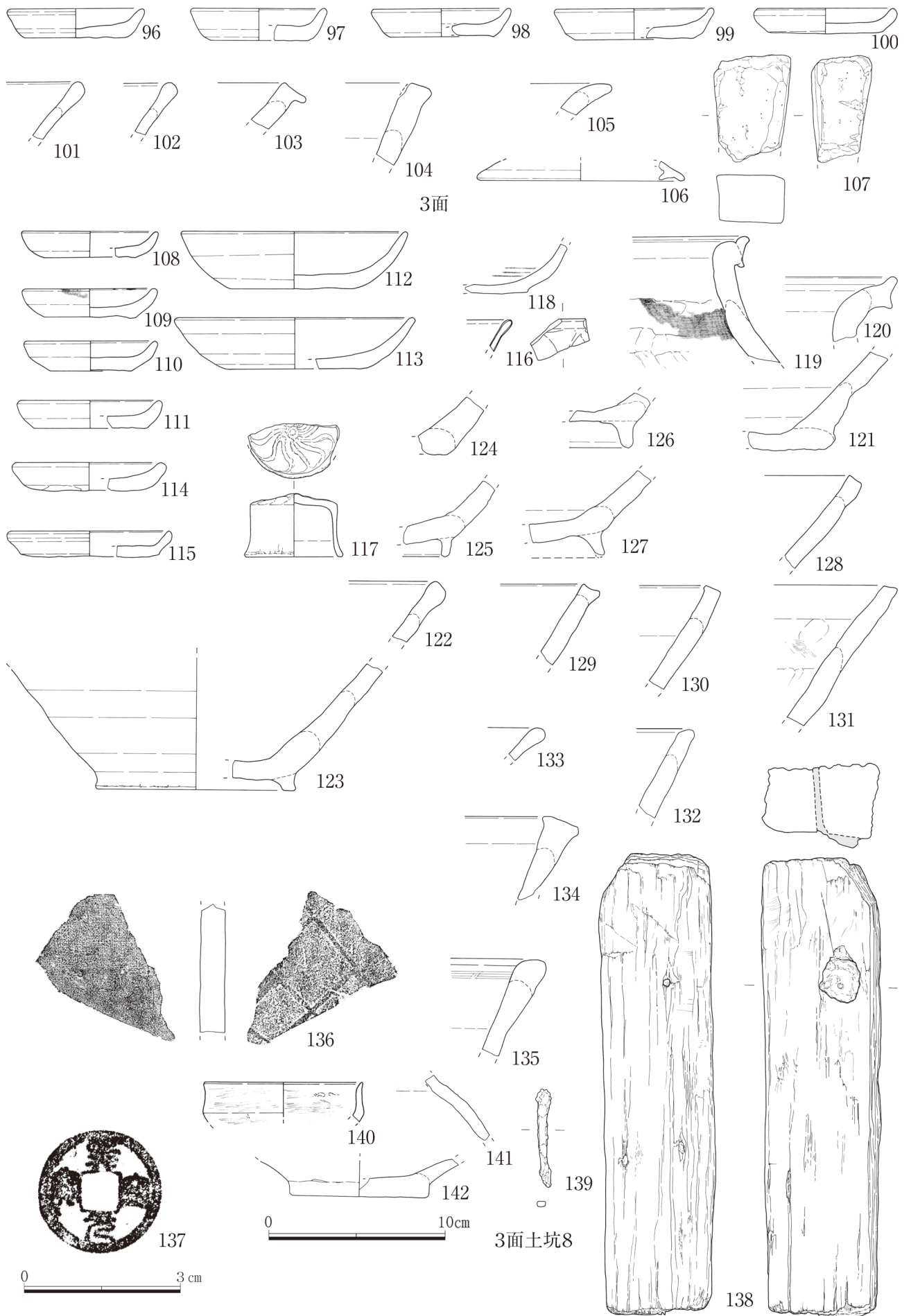


図7 出土した遺物3

観察表 1

図5 1面まで～2面遺構の出土遺物

() は復元法量・単位 cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-1	1面まで	磁器	青磁深鉢	-	-	-	龍泉窯牡丹唐草文深鉢 胴部片 (4×5×2.6) 素地灰白色の精良土 釉不透明な青灰色 貫入有り
-2	1面	磁器	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	龍泉窯 口縁部片 素地灰色精良土 釉不透明な灰緑色 表面に擦り傷多
-3	1面	磁器	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	龍泉窯 胴部片 素地灰白色精良土 釉不透明な灰緑色 気泡多
-4	1面	土器	かわらけ(小)	(5.7)	1.6	(4.0)	胎土：微砂・白針・白色粒・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕
-5	1面	土器	かわらけ(大)	-	-	-	胎土：微砂・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙褐色 成形：糸切り
-6	1面まで	土器	かわらけ(大)	(11.2)	-	-	胎土：微砂・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙褐色 成形：糸切り
-7	1面	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-8	1面	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む堅緻 色調：赤褐色 成形：内外面ナデ 常滑編年6 a
-9	1面	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-10	1面	陶器	常滑 壺	-	-	-	胎土：長石 色調：灰褐色 口唇部折り返しシャープ 常滑編年6 a
-11	1面	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	6.1	胎土：淡灰色 精良土 色調：釉割がれ落ちる 成形：外面ヘラケズリ
-12	1面土坑1	土器	かわらけ(大)	-	-	-	口縁部打ち欠き 胎土：微砂・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙褐色 成形：糸切り
-13	1面土坑1	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む堅緻 色調：茶褐色 成形：内面降灰、常滑編年6 a
-14	1面土坑1	土器	伊勢系土鍋	-	-	-	胎土：砂粒多 灰色 焼成良好 外面煤ける 器壁極薄い
-15	2面土坑5	磁器	青白磁 合子蓋	-	-	-	胎土：灰白色で精良土 内面露胎 半透明の灰色釉
-16	2面土坑5	磁器	青磁 折縁鉢	12.0	-	-	胎土：灰白色で堅緻 青緑があった釉
-17	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	(6.9)	1.5	(5.3)	胎土：微砂・白針・白色粒・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕
-18	2面土坑5	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-19	2面土坑5	石	火打ち石	3.4	3.3	22.7g	色調：暗灰色に黄灰色のマーブル 打撃痕有
-20	2面まで	磁器	青白磁 水注	-	-	-	胎土：灰白色で精良土 半透明な灰白色の釉
-21	2面まで	陶器	褐釉壺	胴径	10.4	7.7	胎土：黄灰白色、砂粒を含む 黄褐色の釉を薄く施釉
-22	2面まで	陶器	褐釉壺	-	-	11.4	胎土：灰白色、砂粒を含む 暗黄褐色の釉を薄く施釉
-23	2面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土：灰白色 精良土 色調：灰白色
-24	2面	土器	かわらけ(大) 手捏ね	-	-	-	胎土：きめ細かく堅緻 色調：黄褐色 成形：手捏ね 指頭痕 口唇のナデシャープ
-25	2面まで	瓦	平(女)瓦	-	-	-	残長5.6cm、残幅3.0cm、厚さ1.8cm 胎土：暗灰色 凸面：縄目有 凹面：縦のナデ調整 永福寺I期
-26	2面まで	石製品	砥石 荒砥	長10.8	幅6.5	厚5.5	色調：表面褐灰色 断面赤褐色
-27	2面まで	鉄製品	釘	長5.8	幅0.4	5.6g	断面四角形
-28	2面まで	鉄製品	釘	長7.7	幅0.35	3.8g	断面四角形
-29	2面土坑2	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.7	(4.8)	胎土：微砂・白針・白色粒・黒色粒 色調：黄灰色 成形：糸切り・スノコ痕
-30	2面土坑2	土器	かわらけ(小)	7.6	1.7	5.8	胎土：微砂・白針・白色粒・黒色粒 色調：黄灰色 成形：糸切り・スノコ痕
-31	2面土坑2	陶器	常滑 壺	-	-	-	胎土：長石粒及び赤色粒含む 色調：茶褐色 成形：内外面ナデ
-32	2面土坑2	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-33	2面土坑2	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-34	2面土坑2	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：灰色 外面下部ヘラケズリ有
-35	2面土坑2	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：淡灰色
-36	2面土坑2	銅製品	銭 □通寶	径1.51	2.7g	-	判読不可
-37	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.3	1.7	4.9	胎土：白針・精良土 色調：淡褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-38	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.3	1.5	5.3	胎土：雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-39	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.3	2.1	4.6	胎土：雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-40	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.9	1.9	6.2	胎土：白針・精良土 色調：暗褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-41	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.8	2.0	6.3	胎土：白針・精良土：明褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-42	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.7	2.6	4.3	胎土：クサリ礫 きめ細かく精良土 色調：淡褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-43	2面土坑5	土器	かわらけ(小)	7.3	1.7	5.2	胎土：雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-44	2面土坑5	土器	かわらけ(大)	-	-	7.3	胎土：きめ細かく堅緻 色調：明褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-45	2面土坑5	土器	かわらけ(大)	-	-	8.3	胎土：細かい雲母・精良土 色調：淡褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-46	2面土坑5	土器	かわらけ(大)	11.6	3.7	7.0	胎土：雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-47	2面土坑5	土器	かわらけ(大)	11.5	3.1	6.5	胎土：精良土 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側や肥厚

図6 2面遺構～3面までの出土遺物

() は復元法量・単位 cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-48	2面土坑5	磁器	青磁碗	-	-	4.9	龍泉窯 底部片 素地灰色精良土 釉：不透明な灰緑色 気泡有
-49	2面土坑5	磁器	青磁碗	-	-	-	龍泉窯 口縁部片 素地灰色精良土 釉：不透明な灰色
-50	2面土坑5	磁器	白磁口瓦皿	(10.5)	-	-	胎土：灰白色で精良土 透明の釉：灰色
-51	2面土坑5	磁器	白磁皿	-	-	-	胎土：灰白色で精良堅緻 釉：灰色透明
-52	2面土坑5	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒及び砂を多く含む 色調：灰色 成形：内外面ヨコナデ 口端部内面降灰
-53	2面土坑5	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 堅緻 色調：暗灰色 成形：内外面ヨコナデ
-54	2面土坑5	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 堅緻 色調：暗灰色 成形：内外面ナデ 常滑編年6 a
-55	2面土坑5	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：灰褐色 成形：内面指頭痕 外面縦方向のナデ調整
-56	2面土坑5	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒及び砂を多く含む 色調：灰色 成形：内外面ヨコナデ 注ぎ口部
-57	2面土坑5	陶器	瀬戸 行平鍋	-	-	6.7	胎土：灰白色 色調：透明灰緑色釉 成形：糸切り
-58	2面土坑5	陶器	瀬戸 仏花瓶	-	-	-	胎土：淡灰白色 精良土 色調：灰緑色 成形：外面施釉
-59	2面土坑5	陶器	瀬戸 仏花瓶	-	-	-	胎土：灰色 精良土 色調：黒褐色 成形：内外面施釉
-60	2面土坑5	炆器	須恵器 甕	-	-	-	胎土：青灰色 精良土 色調：灰色 成形：内外面叩き目
-61	2面側溝	土器	かわらけ(小)	8.1	1.9	6.5	胎土：白針・クサリ礫・黒色粒 色調：橙色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-62	2面側溝	土器	かわらけ(小)	8.1	1.7	5.7	胎土：白針・クサリ礫・黒色粒 色調：灰褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-63	2面側溝	土器	かわらけ(大)	(11.9)	3.8	6.1	胎土：良土 色調：灰褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-64	2面側溝	土器	かわらけ(大) 手捏ね	-	-	-	胎土：白針・クサリ礫 きめ細かく堅緻 色調：黄灰色 成形：手捏ね 指頭痕
-65	2面側溝	陶器	常滑 山茶碗	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：灰褐色
-66	2面側溝	磁器	青磁無文碗	-	-	-	龍泉窯 胎土：素地灰白色 精良土 口縁部片 釉：灰色透明
-67	2面側溝	磁器	白磁口瓦皿	(8.6)	-	-	胎土：灰白色で精良土 釉：透明灰色
-68	2面側溝	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒含む 色調：灰褐色 成形：内面降灰 外面ヨコ方向のナデ調整
-69	2面側溝	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土：長石粒及び砂を多く含む 色調：赤褐色 成形：内外面ナデ 口端部外面強いヨコナデ
-70	2面側溝	陶器	常滑 I類片口鉢	(33.9)	-	-	胎土：白色粒、砂多含む 色調：灰色 成形：体部外面下半タテ方向のナデ 口唇部周囲ヨコナデ

観察表2

-71	2面側溝	陶器	常滑 甕 底部	-	-	-	胎土:長石 黒色粒を含む 色調:灰褐色 内底面に自然釉 砂底
-72	2面側溝	陶器	常滑 壺	-	-	-	胎土:長石 色調:灰褐色 頸部片
-73	2面側溝	陶器	常滑 壺	-	-	-	胎土:長石 色調:赤褐色 内外面ヨコナデ調整 底部片
-74	2面側溝	自然遺物	骨 加工品	長4.3	幅3.5	厚2.2	鋸により10mm幅で裁断 骨材としてU字形の骨片を切り出した残り
-75	2面側溝	石製品	砥石 中砥	長3.6	幅3.7	厚1.6	色調:黄灰色 天草産
-76	2面側溝	石製品	砥石 中砥	長5.4	幅2.7	厚1.4	色調:灰色 天草産
-77	2面側溝	鉄製品	釘	長6.9	幅0.3	3.8g	断面四角形
-78	3面まで	土器	かわらけ(大)	(12.6)	2.7	(8.6)	胎土:クサリ礫と砂粒含む 色調:橙色 成形:糸切りスノコ痕 内底ナデ有り
-79	3面まで	土器	かわらけ(大)	(12.0)	3.3	(8.2)	胎土:クサリ礫と砂粒含む 色調:黄褐色 成形:糸切りスノコ痕 内底ナデ有り
-80	3面まで	土器	かわらけ(大)	(12.1)	2.9	(6.9)	胎土:クサリ礫と砂粒を多く含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-81	3面まで	土器	かわらけ(大)	(12.2)	3.1	(6.8)	胎土:クサリ礫と砂粒を多く含む 色調:灰黄色 成形:糸切りスノコ痕 内底ナデ有り
-82	3面まで	土器	かわらけ(大) 手捏ね	-	-	-	胎土:白針・クサリ礫 きめ細かく堅緻 色調:黄灰色 成形:手捏ね 指頭痕
-83	3面まで	土器	かわらけ(大) 手捏ね	-	-	-	胎土:白針・クサリ礫 きめ細かく堅緻 色調:橙色 成形:手捏ね 指頭痕
-84	3面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石、礫粒含む 色調:灰褐色 常滑編年6 a
-85	3面まで	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒多く含む 堅緻
-86	3面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土:淡灰色 精良土 色調:灰緑色ツカゲ 薄く施釉
-87	3面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土:灰色 精良土 色調:緑灰色 薄く施釉
-88	3面まで	陶器	渥美 鉢	-	-	-	胎土:砂多い良土 灰~黒灰色
-89	3面まで	陶器	備前 播鉢	-	-	-	胎土:長石含む 色調:灰色 内面摩耗
-90	3面まで	炆器	魚住 片口鉢	-	-	-	胎土:砂と長石含ザックリした土 色調:青灰色 内外面ヨコナデ調整
-91	3面まで	土器	伊勢系土鍋	長(29.5)	-	-	胎土:砂粒多く含む 色調:灰白色 口縁部は内側に折り返しヨコナデ調整
-92	3面まで	土器	伊勢系土鍋	-	-	-	胎土:砂粒多く含む 色調:灰白色
-93	3面まで	土器	船載 土器	-	-	-	胎土:頸部片 粘性に強い良土 焼成:良好堅緻 色調:灰白色
-94	3面まで	石製品	硯	長4.7	幅3.6	厚1.3	色調:表面褐色 断面赤灰色 陸部だけの破片
-95	3面まで	石製品	砥石 中砥	長8.0	幅2.7	厚2.1	色調:黄灰色 中砥

図7 3面~3面遺構の出土遺物

()は復元法量・単位 cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-96	3面	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.6	(5.9)	胎土:白針 やや粗土 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-97	3面	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.8	(5.6)	胎土:白針 クサリ礫含む 細かな砂多い 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-98	3面	土器	かわらけ(小)	(9.0)	1.8	(6.8)	胎土:白針 細かな雲母含む 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-99	3面	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(5.9)	胎土:白針 細かな雲母含む 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-100	3面	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(5.8)	胎土:微細な雲母多く含む 色調:淡茶灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-101	3面	土器	かわらけ(小)	(7.5)	1.7	(5.4)	胎土:白針、クサリ礫を含む 色調:赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-102	3面	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.6	(5.2)	胎土:きめ細かな精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-103	3面	土器	かわらけ(小)	(7.3)	2.1	(4.0)	胎土:微細な雲母、クサリ礫を含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿
-104	3面	土器	瓦質火鉢	-	-	-	胎土:素地赤灰色 砂粒多 色調:灰色 外面ヨコナデ調整
-105	3面	土器	土師 甕	-	-	-	色調:赤灰色 長甕口縁部片
-106	3面	炆器	須恵器 坏蓋	(11.4)	-	-	胎土:白色粒を含む精良土 焼成:良好 色調:青灰色
-107	3面	石製品	砥石 荒砥	長5.7	幅3.9	厚2.7	色調:灰白色
-108	3面土坑8	土器	かわらけ(小)	(7.5)	1.5	(5.1)	胎土:白針クサリ礫を含む 色調:赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-109	3面土坑8	土器	かわらけ(小)	7.4	1.6	5.2	胎土:きめ細かな精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-110	3面土坑8	土器	かわらけ(小)	(7.4)	1.7	(4.6)	胎土:微細な雲母、クサリ礫を含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿
-111	3面土坑8	土器	かわらけ(小)	(7.9)	1.68	(6.4)	胎土:決め細かな黒色砂多く含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿
-112	3面土坑8	土器	かわらけ(大)	12.7	3.3	7.1	胎土:精良な素地で焼きは堅緻 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-113	3面土坑8	土器	かわらけ(大)	(13.4)	2.9	(7.1)	胎土:細かな砂が多いが焼きは堅緻 色調:茶褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-114	3面土坑8	土器	かわらけ(小) 手捏ね	(8.3)	1.6	(7.3)	胎土:白針・クサリ礫 きめ細かく堅緻 色調:黄灰色 成形:手捏ね 指頭痕
-115	3面土坑8	土器	かわらけ(小) 手捏ね	(9.0)	0.9	(8.0)	胎土:白針・クサリ礫 きめ細かく堅緻 色調:橙色 成形:手捏ね 指頭痕
-116	3面土坑8	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	龍泉窯 胴部片 胎土:素地灰色精良土 釉半透明な灰青色
-117	3面土坑8	磁器	青白磁 梅瓶 蓋	(5.5)	3.6	-	胎土:素地灰白色
-118	3面土坑8	陶器	二彩盤か	-	-	-	胎土:2mm大の砂粒を多く含む 器壁3~4mmで極薄い 色調:灰色 釉:暗緑色
-119	3面土坑8	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰褐色 常滑編年6 a
-120	3面土坑8	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:暗灰褐色 内面に降灰
-121	3面土坑8	陶器	常滑 甕 底部	-	-	-	胎土:長石 黒色粒を含む 色調:灰褐色 内底面に自然釉 砂底
-122	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰色
-123	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	(11.2)	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰色
-124	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰色 高台部薄利
-125	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰色
-126	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:灰色
-127	3面土坑8	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	-	胎土:長石 礫粒含む 色調:黒灰色
-128	3面土坑8	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:灰褐色 成形:外面ヨコ方向のナデ調整
-129	3面土坑8	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:赤褐色 成形:口唇降灰 外面ヨコ方向のナデ調整
-130	3面土坑8	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:褐色 成形:内面降灰 外面ヨコ方向のナデ調整
-131	3面土坑8	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:灰褐色 成形:内面降灰 指頭痕有 外面タテヨコ方向のナデ調整
-132	3面土坑8	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:褐色 成形:内面降灰 外面ヨコ方向のナデ調整
-133	3面土坑8	陶器	常滑 山茶碗	-	-	-	胎土:砂粒多く含む 色調:褐色
-134	3面土坑8	土器	土器質 火鉢	-	-	-	胎土:砂粒含む 色調:黄褐色 端部の作りシャープ
-135	3面土坑8	土器	瓦質 火鉢	-	-	-	胎土:砂粒含む 色調:暗灰色
-136	3面土坑8	瓦	平(女)瓦	-	-	-	胎土:灰色 砂含む 色調:灰褐色 表布目 裏格子目叩き 永福寺1期瓦
-137	3面土坑8	銅製品	銭 熙寧元宝	径2.43	3.3g	-	熙寧元宝
-138	3面土坑8	木	部材	長26.0	幅6.8	厚4.0	スギ材か 1カ所に釘が打たれている 他に2カ所貫通する穴がある
-139	3面土坑8	鉄製品	釘	長5.7	幅0.6	4.3g	断面四角形
-140	3面土坑8	土器	土師器 坏	(9.0)	-	-	胎土:微砂含む良土 色調:黄褐色
-141	3面土坑8	土器	土師器 甕	-	-	-	胎土:白針 微砂粒含む 色調:黄褐色
-142	3面土坑8	土器	土師器 甕	-	-	7.6	胎土:クサリ礫 微砂粒含む 色調:灰褐色



1. 調査地より六地蔵を望む

2. 調査地
(南東より)



3. 調査地
(西南より)



1. 1面で出土したかわらけ



3. 1面全景(南より)



2. 1面全景(北より)



5. 2面全景(南より)



4. 2面全景(北より)



4. 土坑5出土獣骨



1. 土坑3・4 (東から)



3. 土坑5 (北から)



2. 土坑5 (東から)



6. 土坑5 (南から)





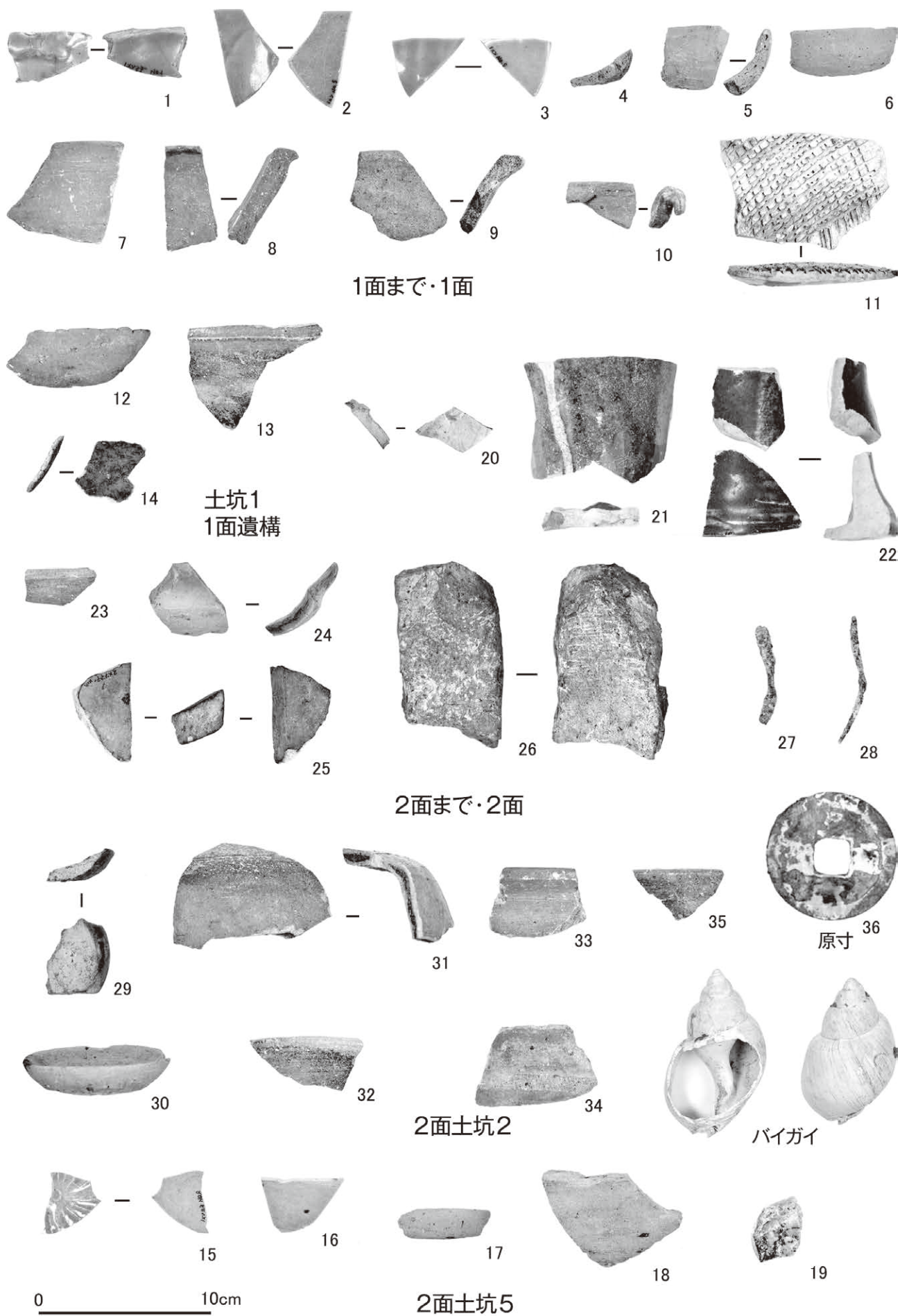
1. 3面(北から)

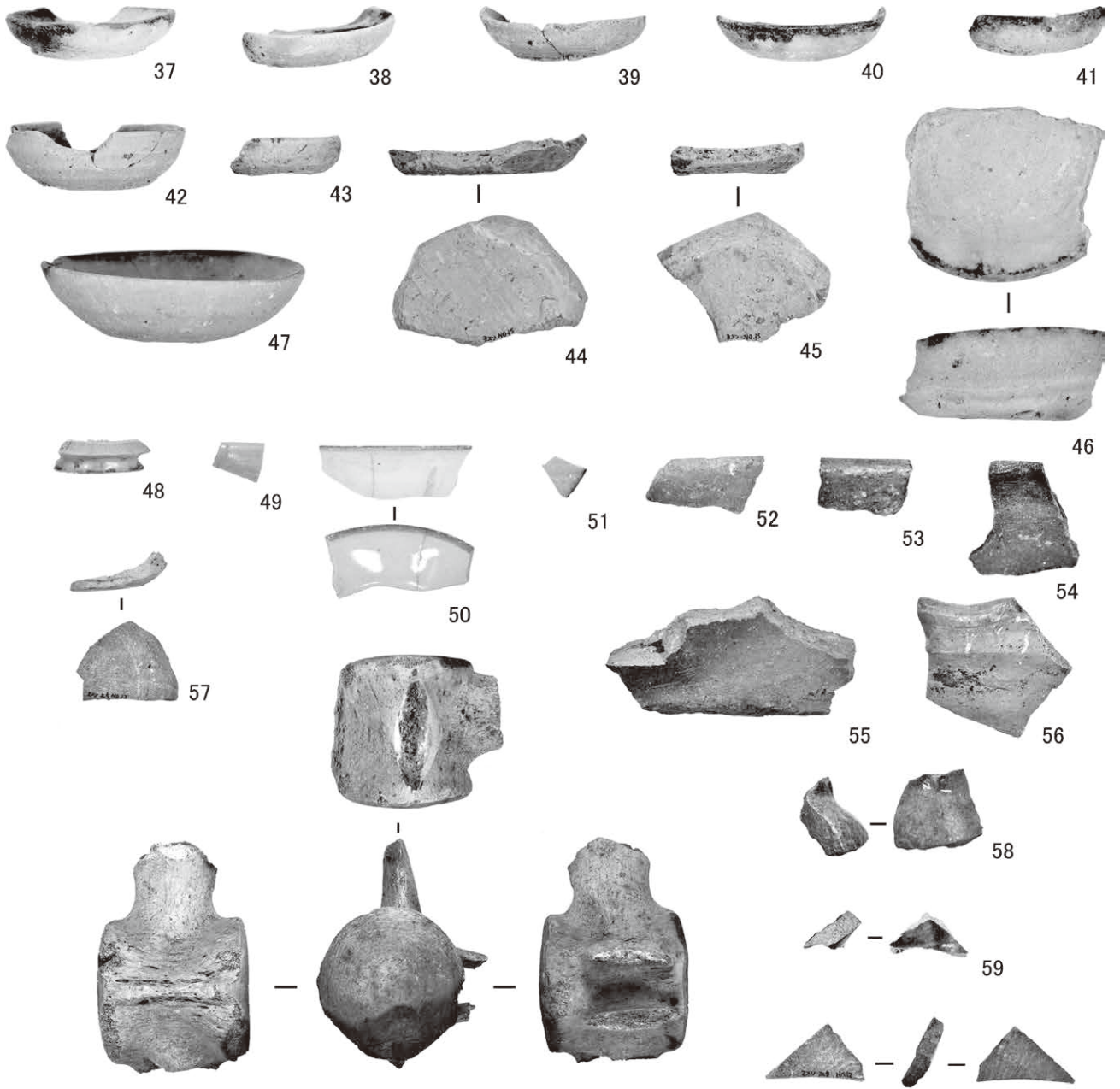


2. 3面(南から)



3. 土坑8(北から)



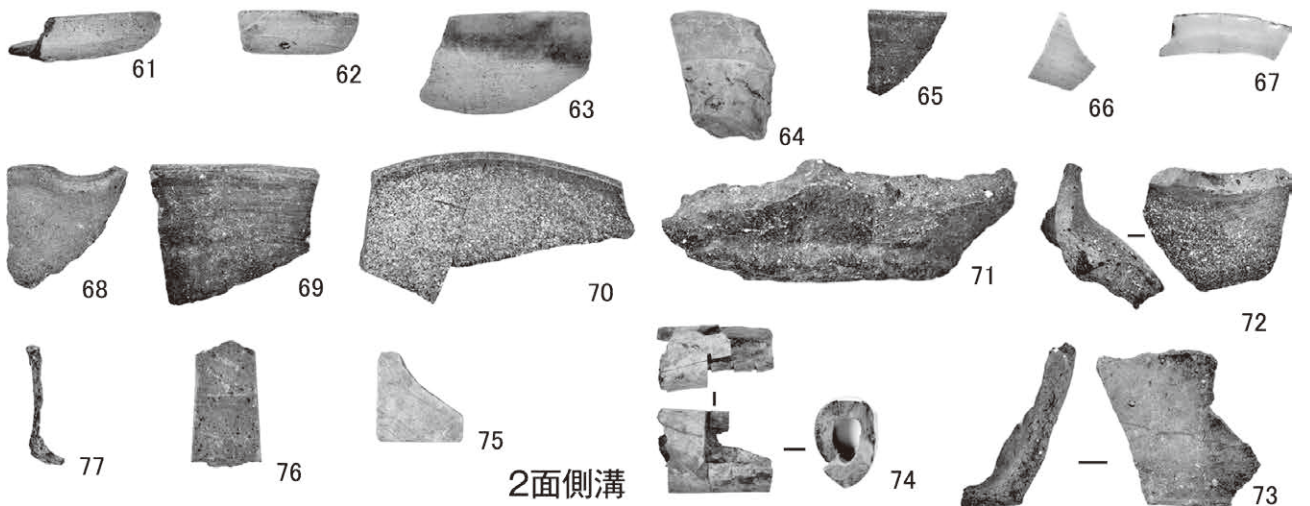


0 10cm

鯨の背骨

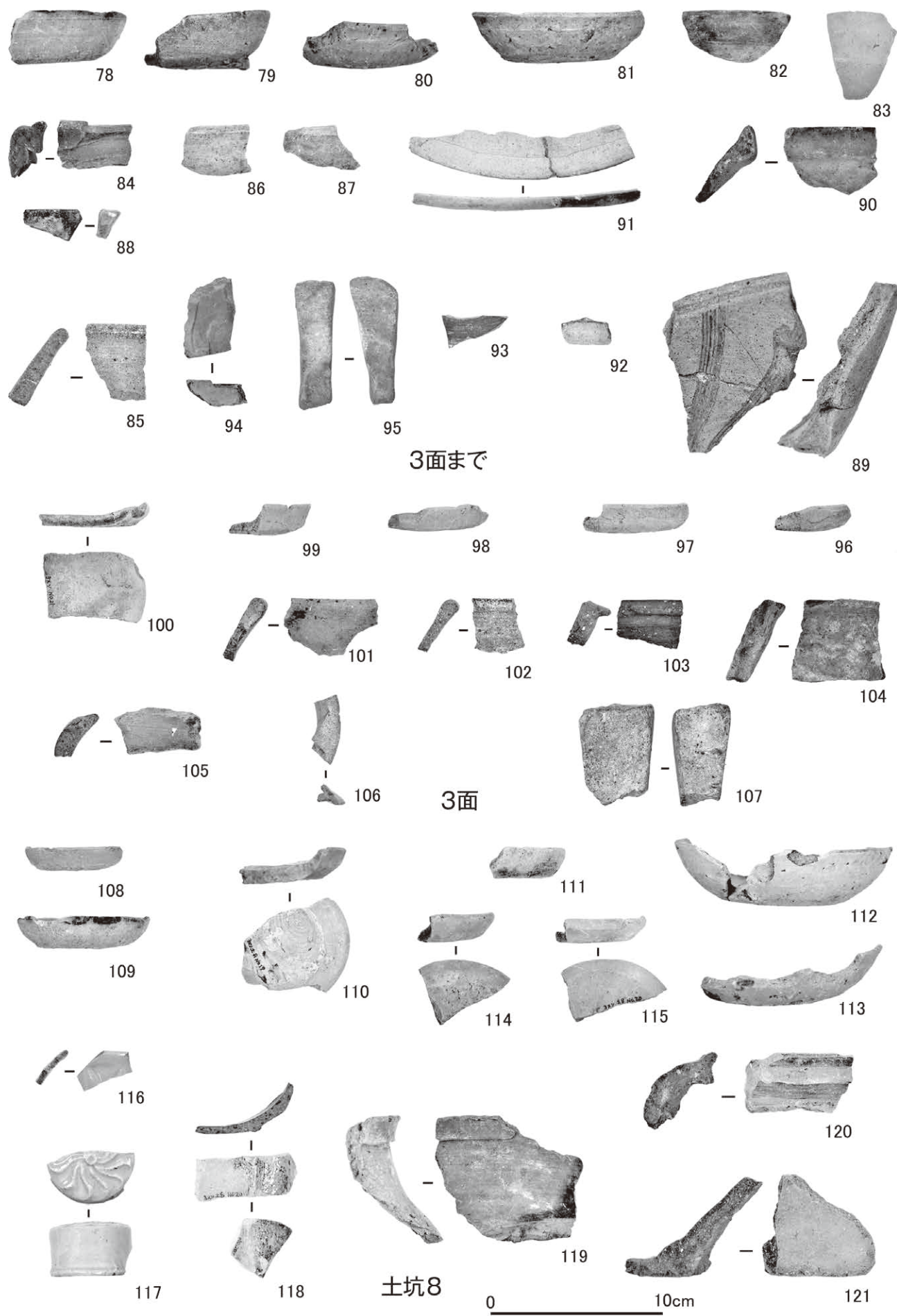
0 10cm

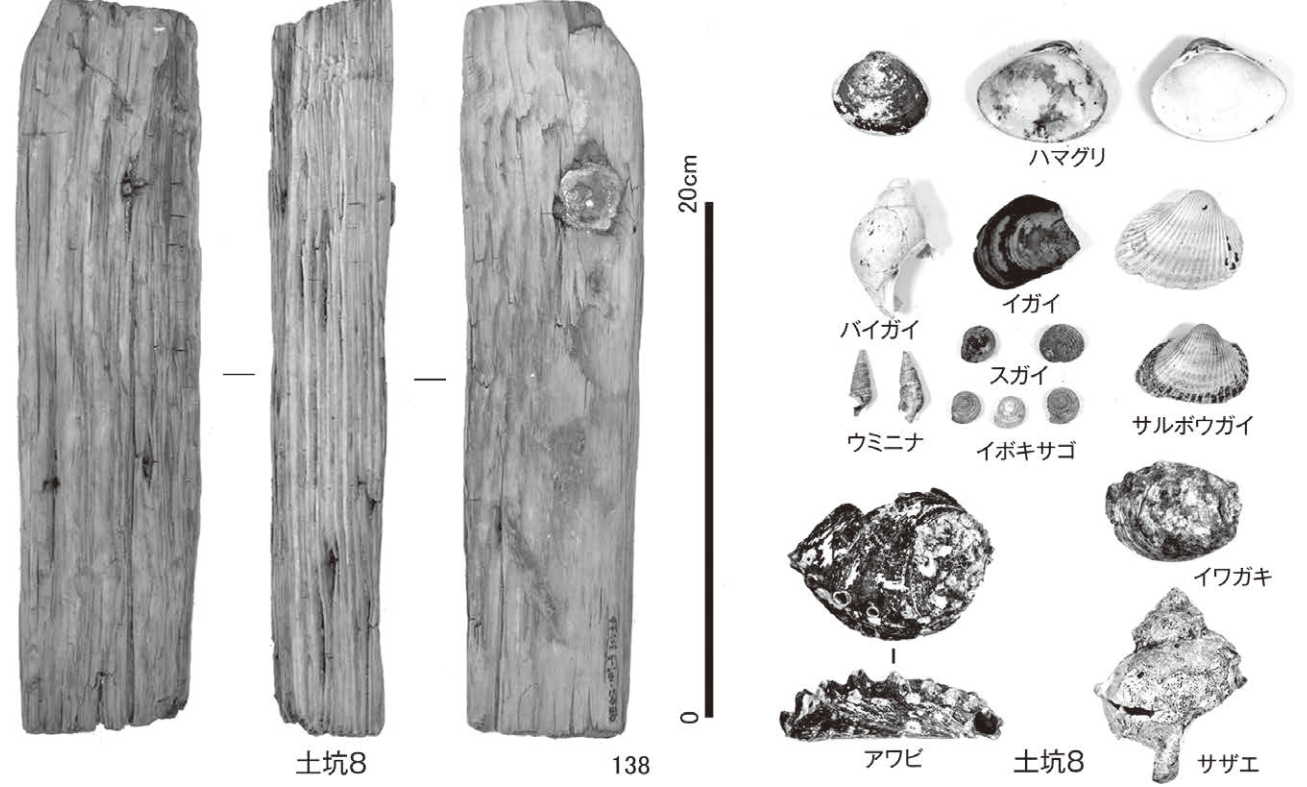
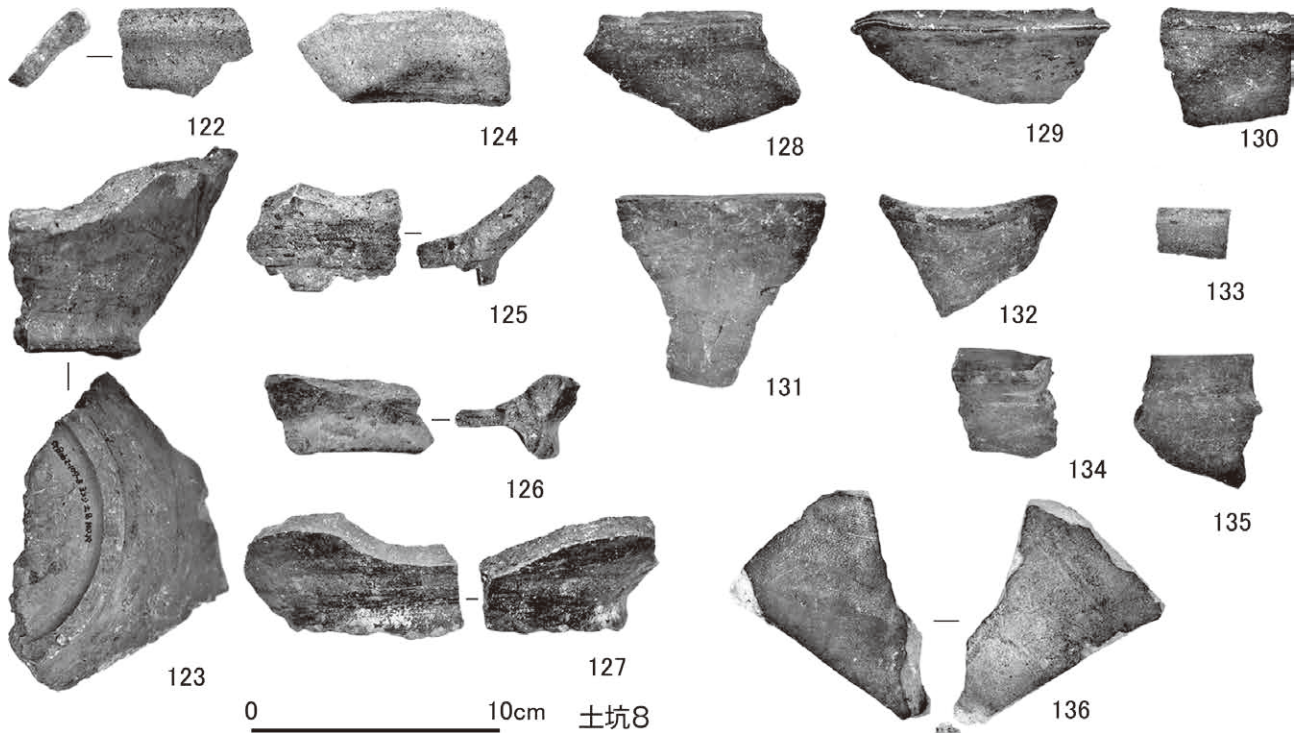
2面土坑5



2面側溝

図版7





大倉幕府跡 (No.253)

雪ノ下三丁目637番6外地点

例 言

1. 本報は大倉幕府跡遺跡（神奈川県遺跡台帳 No.253）に所在する鎌倉市雪ノ下三丁目637番6外地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。調査面積は約33㎡である。
2. 調査は平成20年2月27日から同年4月11日にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。

担当者	伊丹まどか・宇都洋平
調査員	榎岡ケイト・本城裕
調査作業員	天野隆男・牛嶋道夫・佐藤美隆・鈴木啓之・藤枝正義
4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	岩崎卓治・神田倫子・佐藤千尋・清水由加里・菅野知子・松吉里永子・吉田桂子
遺構図版作成	菅野知子
遺物図版作成	菅野知子
遺物観察表	田畑衣理・渡邊美佐子・清水由加里・伊丹まどか
破片遺物集計表	清水由加里
遺構計測表	清水由加里
遺構写真	宇都洋平
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	清水由加里・小野夏菜
執筆・編集	伊丹まどか・田畑衣理・渡邊美佐子
5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図	： 1 / 6 0	個別遺構図	： 1 / 4 0	遺物実測図	： 1 / 3	* 銭は原寸
-------	-----------	-------	-----------	-------	---------	--------

なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。
 - ・復原して実測した遺物は計測値に還元値は（ ）を、残存値は[]を付して表した。
 - ・「かわらけ」と記載したものは回転ロクロ成形の物を指し、手づくね成形の物は「手づくね」と記載している。
 - ・かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で計測し、手づくね成形のかわらけは底径を記載していない。
 - ・出土遺物に関しては、生産地での編年を参考に観察表に年代をしめしたが、破片の為に不安の残るものに関しては割愛した。常滑製品は中野晴久氏。瀬戸製品は藤澤良祐氏。火鉢は河野眞知郎氏の編年に基づいて分類した。
8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。(五十音順・敬称略)

太田美智子・熊谷満・古田土俊一・齋木秀雄・須佐仁和・鈴木絵美・滝沢晶子・原廣志・松尾宣方・松吉大樹・馬淵和雄・山口正紀・山口裕子
--

目 次

本 文 目 次

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	97
	1. 歴史的環境 (図1)	
	2. 遺跡位置とグリッド配置図 (図3)	
	3. 堆積土層 (図4)	
第二章	発見された遺構と遺物	105
第1節	第1面の遺構と遺物 (図5・図7～図14)	
第2節	第2面の遺構と遺物 (図5・図15～図24)	
第3節	第3面の遺構と遺物 (図6・図25～図29)	
第4節	第4面の遺構と遺物 (図6・図30～図42)	
第5節	表土出土遺物 (図43)	
第三章	まとめ	160
	(1) 検出した遺構と遺物	
	(2) まとめ	

挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡..... 98	図17 第2面遺構出土遺物 (1)..... 121
図2 調査地点一覧..... 99	図18 第2面遺構出土遺物 (2)..... 123
図3 調査区配置図..... 101	図19 第2面遺構出土遺物 (3)..... 125
図4 堆積土層図..... 102	図20 第2面遺構出土遺物 (4)..... 126
図5 第1面・第2面全測図..... 103	図21 第2面遺構133..... 129
図6 第3面・第4面全測図..... 104	図22 第2面面上出土遺物..... 130
図7 第1面遺構 (1)..... 106	図23 第2面構成土出土遺物 (1)..... 131
図8 第1面遺構 (2)..... 107	図24 第2面構成土出土遺物 (2)..... 132
図9 第1面遺構出土遺物 (1)..... 108	図25 第3面遺構..... 134
図10 第1面遺構出土遺物 (2)..... 110	図26 第3面遺構出土遺物 (1)..... 137
図11 第1面遺構出土遺物 (3)..... 111	図27 第3面遺構出土遺物 (2)..... 138
図12 第1面面上・構成土出土遺物 (1)..... 114	図28 第3面面上・構成土出土遺物 (1)..... 141
図13 第1面構成土出土遺物 (2)..... 115	図29 第3面構成土出土遺物 (2)..... 142
図14 第1面構成土出土遺物 (3)..... 116	図30 第4面遺構・遺構出土遺物..... 144
図15 第2面遺構 (1)..... 118	図31 第4面遺構215 (a・b)・遺構218..... 145
図16 第2面遺構 (2)..... 119	図32 第4面遺構218出土遺物 (1)..... 147

図33 第4面遺構218出土遺物(2)……………	148	図39 第4面遺構215出土遺物(5)……………	154
図34 第4面遺構218出土遺物(3)……………	149	図40 第4面遺構219出土遺物……………	155
図35 第4面遺構215出土遺物(1)……………	150	図41 第4面面上・構成土出土遺物(1)……………	157
図36 第4面遺構215出土遺物(2)……………	151	図42 第4面構成土出土遺物(2)……………	158
図37 第4面遺構215出土遺物(3)……………	152	図43 表土採集遺物……………	159
図38 第4面遺構215出土遺物(4)……………	153	図44 本調査地とA地点位置図……………	162

表 目 次

遺構計測表……………	164	遺物破片数表……………	193
出土遺物観察表……………	166		

図 版 目 次

図版1 第1面・第2面全景.第2面遺構133 玉石出土状況……………	194	図版7 遺構133出土遺物……………	200
図版2 第2面遺構130.第2面構成土出土水晶. 第3面全景.第3面面上出土・鉄製品. 第3面遺構207……………	195	図版8 第2面面上・構成土出土遺物……………	201
図版3 第4面遺構215・遺構218. 最終トレンチ全景……………	196	図版9 第3面遺構・面上・構成土出土遺物……………	202
図版4 第1面遺構・第1面面上出土遺物……………	197	図版10 第4面遺構出土遺物……………	203
図版5 第1面構成土出土遺物……………	198	図版11 遺構218・遺構215出土遺物……………	204
図版6 第2面遺構出土遺物……………	199	図版12 遺構215出土遺物……………	205
		図版13 遺構215・遺構219出土遺物……………	206
		図版14 第4面面上・構成土出土遺物 /表土採集遺物……………	207

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 歴史的環境 (図1)

本調査地点は鎌倉市雪ノ下三丁目637番6外に位置する。調査地の所在する「大倉幕府跡 (No.253)」は、東は東御門川、西は現在の横浜国立大学付属小・中学校、南は六浦道 (現在の県道鎌倉金沢線)、北は現在の清泉小学校北端を東西に走る道路までの東西約270m、南北約220mを遺跡範囲としている。大倉幕府の範囲について『新編相模国風土記稿』では方六町、東西約三町半 (約370m)、南北約二町 (約220m) と推定している。東西の間口は遺跡指定域よりも幅広く推定されているが、現指定域の西の境は横浜国立大学付属小・中学校設立に伴ってできた道路であり、古くは西に延びる六浦道から、横大路、小町大路へと向かう筋違橋辺から北に向かって、現小・中学校校庭を横切って谷戸奥に向かって伸びる道があった。その道を境と考え距離を測ると東西は約370mとなる。数値だけで推定することはできないが、地点8 (図1) では塀あるいは柵と考えられる南北に並ぶ大型の柱穴が道路に沿って発見し、西の境を示す柱穴列と想定され、西限を裏付ける調査成果が出ている。「大倉幕府 (御所)」という呼び名は、治承四年 (1180)、「大倉」の地に源頼朝新亭が造られたことから便宜上呼ばれているが、「大倉」は、東は十二所、西は鶴岡八幡宮、南は滑川、北は覚園寺・瑞泉寺辺りを含めた広範囲な地域の総称である。地名の由来は、貢物などを収めた倉庫の類があったことによるともいわれるが、源頼朝が名付けたとの説もある。『吾妻鏡』に、「大倉」の名がでるのは治承四年 (1180) の記事が初見であり、養和元年 (1181) にはこの地に新御所が完成した記事が見える。以来、嘉禄元年 (1225) に北条泰時によって宇津宮辻子辺へと移転が行われるまでの40年弱、頼朝、頼家、実朝と源氏三代にわたり政務が行われた地となる。「大倉幕府 (御所)」の郭内には「寝殿」「大御所」「小御所」「対屋」「北向御所」「常御所」「御所対面所」「釣殿」「侍所」「門注所東西」「弓学問所」「進物所」「御厩」などの建物があり、現在も「東御門」「西御門」「南御門」といった旧地名が残っているが、東西南北、それぞれに門が設けられていた事が『吾妻鏡』に記されている。大倉幕府跡指定域の南北中軸ラインをなす道路の北方には源頼朝の墳墓堂でもある法華堂があり、そこから尾根を挟んで東には北条義時の法華堂跡が山腹に位置する。西には源頼朝が由比の若宮八幡宮を遷した鶴岡八幡宮があり、南には源家の氏寺となる勝長寿院、北東には大倉幕府の鬼門鎮守の社と定めた荏柄天神社がある。調査地前を北東に走る道路は明治時代に鎌倉宮 (大塔宮) の参道として造成された道路であり、鎌倉宮に突き当たる。そこから東に進むと源頼朝が文治五年 (1189) に建立を企図した永福寺へと向かい、西に進むと北条義時が建保六年 (1218) に建立した「大倉薬師堂」を前身に持つ覚園寺に突き当たる。幕府周辺には、その他にも廃寺となった高松寺・太平寺・報恩寺・保寿院・白旗明神社等の仏閣があった記録が残る。遺跡指定域の南限となる六浦道は源家類代の家人である三浦一族が掌握した道として知られ、道の名が示すように武蔵国六浦郷と鎌倉を結ぶ、政治的に重要な意味を持つ幹線道路であると共に、遺跡指定域東南角にあたる「大倉辻」は御所移転後の建長三年 (1251) ・文永二年 (1265) には「町屋免許」を指定された商業地域として記録が残り、西南角にあたる「筋違橋」も文永二年には「町屋免許」が下っており、政務の中心を離れた後も商業域として栄えた道でもある。本調査地点を含む遺跡指定域および周辺で多くの発掘調査が行われている。地点8・9・15・④では14世紀以降の六浦路と推定する道路遺構、それを遡る年代となる断面V字形の東西溝を発見し幕府域の南限が推定され、前述した地点8では南北の柵あるいは塀と推定される柱穴列が発見されており、幕府域の西限を示すものと考えられている。また地点⑨では海拔11.3mの基盤層上で幅5.1m、深さ2.7mの断面



図1 調査地点と周辺の遺跡

No.	地番	調査年度	面積	所収報告書（正式報告のみ）
大倉幕府周辺遺跡群（No. 49）				26・㊦・㊧・㊨は横小路周辺遺跡の旧範囲内
1	雪ノ下四丁目 620 番 1	1980 年度	280 m ²	未報告
2	雪ノ下四丁目 600 番	1980 年度	トシテ	未報告
3	雪ノ下四丁目 581 番 2	1981～1982 年度		未報告
4	雪ノ下四丁目 620 番 2	1983 年度	240 m ²	未報告
5	雪ノ下四丁目 610 番 2	1983 年度	620 m ²	未報告
6	雪ノ下四丁目 565 番 4	1989 年度	56 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1991
7	二階堂字荏柄 38 番 1	1991 年度	1000 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1993
8	雪ノ下三丁目 606 番 1	1991 年度	350 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1993
9	雪ノ下三丁目 607 番	1992 年度	140 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1994
10	雪ノ下字天神下 562 番 29	1994 年度	30 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 1996
11	雪ノ下四丁目 620 番 5	1996 年度	252 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1998
12	雪ノ下字大倉耕地 562 番 16	1999 年度	78 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 菊川 泉 2001
13	雪ノ下四丁目 580 番 10	1999 年度	129 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2001
14	二階堂字荏柄 58 番 4 外	2000 年度	281 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2002
15	雪ノ下三丁目 607 番 1	2001 年度	44 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 降矢順子ほか 2004
16	雪ノ下四丁目 567 番 7	2002 年度	25 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2004
17	二階堂字荏柄 27 番 3 の一部	2002 年度	54 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 原 廣志 2006
18	雪ノ下四丁目 581 番 5	2003 年度	1630 m ²	『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄ほか 2007
19	二階堂字荏柄 76 番 7 外	2005 年度	33 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 伊丹まどかほか 2014
20	雪ノ下四丁目 570 番 1	2006 年度	32 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2014
21	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2006 年度	122 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2018
22	二階堂字荏柄 76 番 4	2006 年度	42 m ²	未報告
23	雪ノ下字天神前 562 番 30	2007 年度	26 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 沖元 道 2016
24	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2007～2008 年度	54 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2018
25	二階堂字荏柄 38 番 2	2011～2012 年度	1552 m ²	未報告
26	二階堂字荏柄 12 番 8	2016 年度	64 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2018
㊦	二階堂字横小路 110 番 3	1996 年度	18 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 野本賢二 1998
㊧	二階堂字荏柄 10 番 6	1998 年度	96 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 2000
㊨	二階堂字荏柄 10 番 1	2000 年度	40 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2003
大倉幕府跡（No. 253）				
①	雪ノ下四丁目 569 番	1989 年度	162 m ²	『大倉幕府周辺遺跡群』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 馬淵和雄 1990
②	雪ノ下三丁目 707 番 1	1990 年度	30 m ²	未報告
③	雪ノ下三丁目 651 番 8	1997 年度	15 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 1999
④	雪ノ下三丁目 618 番 4	2000 年度	24 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 2002
⑤	雪ノ下三丁目 701 番 14	2002 年度	45 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子 2005
⑥	雪ノ下三丁目 701 番 3	2002 年度	81 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 他 2005
⑦	雪ノ下三丁目 701 番 1	2003 年度	16 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 鍛冶屋勝二 2005
⑧	雪ノ下三丁目 704 番 3 外	2005 年度	56 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 福田 誠 2011
⑨	雪ノ下三丁目 637 番 4	2006 年度	68 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 熊谷 満 2011
⑩	雪ノ下三丁目 629 番 1	2007 年度	170 m ²	『大倉幕府跡発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 真 他 2011
⑪	雪ノ下三丁目 637 番 6 外	2007 年度	25 m ²	本報告
⑫	雪ノ下三丁目 635 番 2 外	2008 年度	47 m ²	『大倉幕府跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 熊谷 満ほか 2012
⑬	雪ノ下三丁目 693 番 8	2009 年度	33 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2015
⑭	雪ノ下三丁目 648 番 3	2009 年度	38 m ²	未報告
⑮	雪ノ下三丁目 694 番 18	2009 年度	42 m ²	『大倉幕府跡（No. 253）発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑯	雪ノ下三丁目 693 番 1	2009 年度	56 m ²	『大倉幕府跡（No. 253）発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑰	雪ノ下三丁目 648 番 8	2010 年度	54 m ²	未報告
⑱	雪ノ下三丁目 618 番 8、 653 番 10	2013 年度	30 m ²	未報告
⑲	雪ノ下三丁目 628 番 1	2014 年度		未報告
横小路周辺遺跡（No. 259）				
㊩	二階堂字荏柄 9 番 1	1987～1988 年度	500 m ²	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1990

図 2 調査地点一覧

V字形を呈する南北方向の溝が発見され、幕府域の東限を想定している。幕府域内の様相は、地点⑬で13世紀前半から15世紀前半にかけての11枚の生活面が発見され、掘立柱建物・基壇状遺構・土坑・ピットなどの遺構を確認し、地点⑤・⑥・⑦で13世紀初頭から15世紀前半までに11枚にも及ぶ生活面に掘立柱建物等の遺構を確認し、地点⑫では、13世紀後半から16世紀代の掘立柱建物・石垣、あるいは土留め状の遺構とともに、庭園らしき遺構も発見される等、多くの生活面と屋敷地、あるいは寺社の一角と推定されるような遺構を確認しているが、調査地の大半は狭小な面積であるため、御所の様相を明らかにする成果には至っていない。

2. 遺跡位置とグリッド配置図(図3)

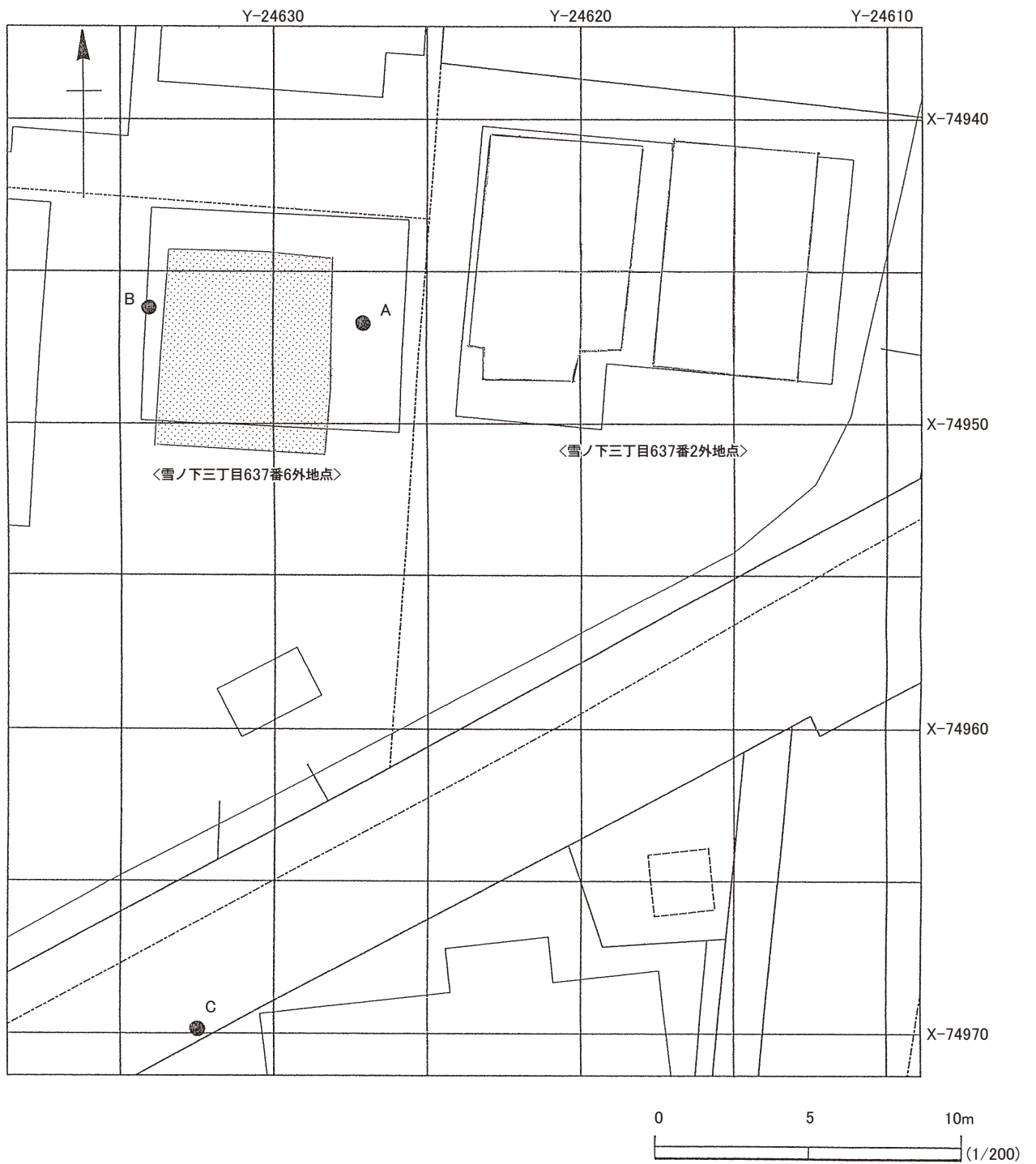
調査開始にあたり調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと、見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系(座標AREA 9)の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系IX形に変換し、図3に表記した。

3. 堆積土層(図4)

約40～50cmの深さで堆積する近・現代の堆積層を重機によって除去し、暗茶褐色弱粘質土上で第1面を検出した。第1面構成土は泥岩・破碎泥岩を含み、やや硬く締まった堆積層であった。確認レベルは11.80m。第2面は泥岩・炭化物を多く含む茶褐色弱粘質土上で検出した。調査区北側、約2m幅で泥岩・破碎泥岩・玉石を使用した地業を検出し、南側は固く締まった堆積層ではあったが、北側で確認した地業とは異なる。第2面構成土は破碎泥岩とともに炭化物を多く含む。確認レベルは11.60m。第3面は炭化物を多く含む泥岩細片による地業層上で検出した。確認レベルは11.40m。第4面は泥岩細片・炭化物・有機質土を多量に含む暗褐色砂質土上で検出した。確認レベルは11.20m。第4面以下はトレンチを設け第4面で検出した溝(遺構218・215)の底面を確認する作業を行ったときに下層の堆積を観察し、堆積土に中世遺物が混在していることは確認したが、遺構の確認はできなかった。湧水が激しく以下、中世地山の堆積層を確認することはできなかった。

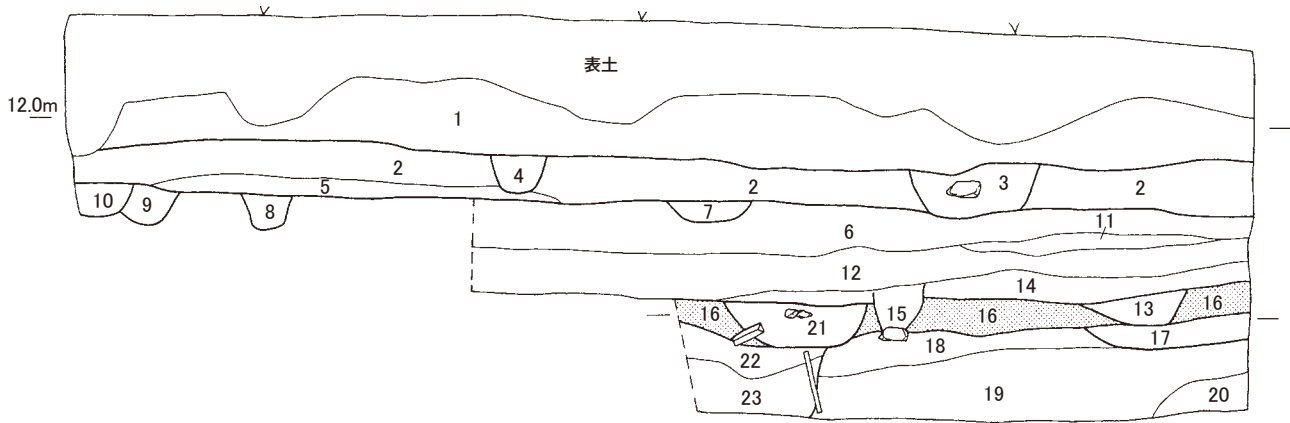
<参考文献>(本報分に共通する)

- ・藤澤良祐 2008年『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- ・中野晴久 2012年『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県 常滑
- ・『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編一』大宰府市教育委員会 2000年
- ・『日本歴史大系14巻』「神奈川県の名」平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 考古編』赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉市史 近代通史編』吉川弘文館 平成6年
- ・『鎌倉事典』東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『鎌倉廃寺事典』有隣堂 1980年 貫達人・川副竹胤
- ・『新編相模国風土記稿』雄山閣(大日本地誌大系) 1998年
- ・『鎌倉市文化財資料第7集 としよりのはなし』鎌倉市教育委員会第5刷 1990年



地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-75303.310	-24333.660	-74946.6853	-24627.0821
B	-75302.846	-24340.643	-74946.2212	-24634.0646
C	-75326.503	-24339.083	-74949.8775	-24632.5056

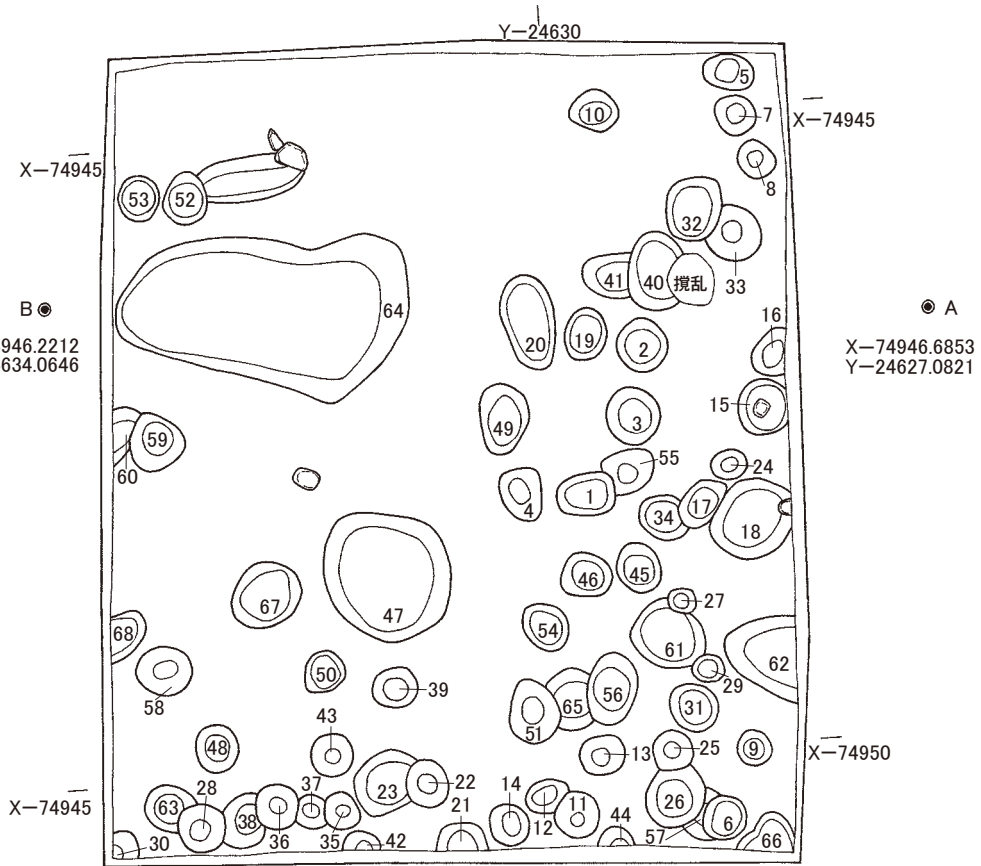
図3 調査区配置図



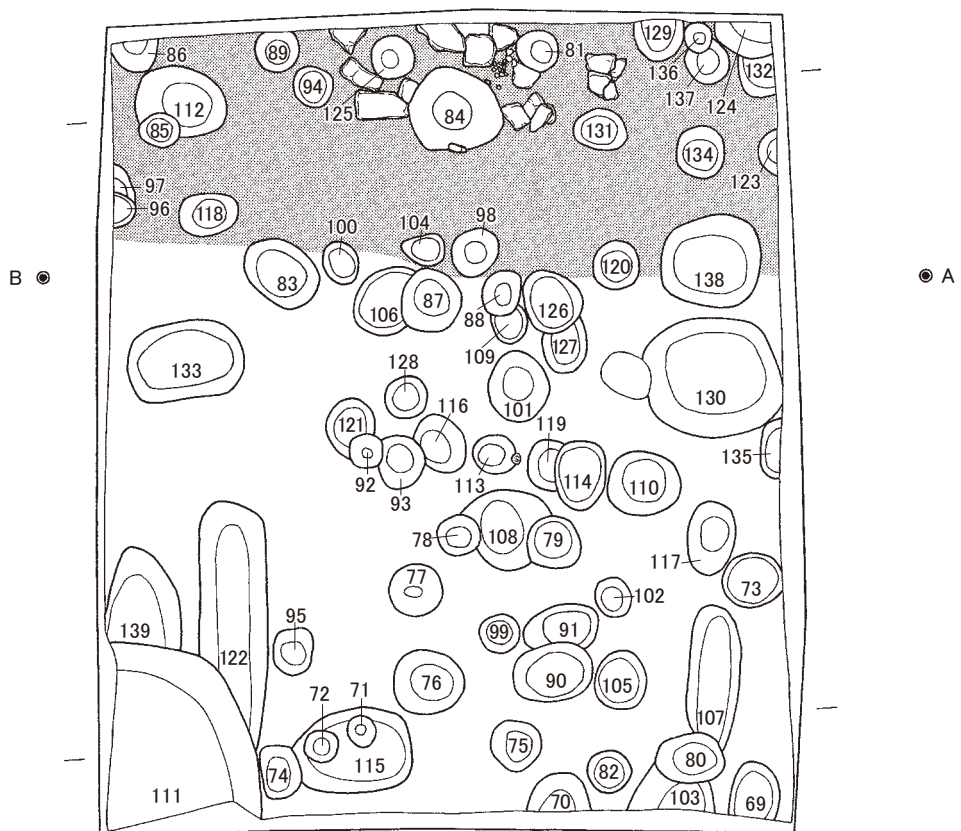
<東壁土層注記>

- | | |
|--------------|--|
| 1. 近世耕作土 | 茶灰色弱砂質土 |
| 2. 暗茶灰色弱粘質土 | 泥岩中量・泥岩粒・炭化物中量、かわらけ片少量含む、しまりあり（第1面構成土） |
| 3. 暗黄褐色弱粘質土 | 泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量（第1面遺構62） |
| 4. 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩・泥岩粒少量・炭化物中量（第1面遺構16） |
| 5. 明茶灰色弱粘質土 | 泥岩中量・破碎泥岩・泥岩粒多量・炭化物少量・粘性・締まりあり |
| 6. 茶褐色弱粘質土 | 泥岩・炭化物多量（第2面構成土） |
| 7. 暗茶灰色弱質土 | 泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物少量（第2面遺構135） |
| 8. 暗灰色弱粘質土 | 泥岩・泥岩粒中量・炭化物少量（第2面遺構123） |
| 9. 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩少量・泥岩粒中量・炭化物・焼土粒少量（第2面遺構132） |
| 10. 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物少量（第2面遺構124） |
| 11. 茶褐色弱粘質土 | 破碎泥岩・茶褐色砂質土（第2面構成土） |
| 12. 茶褐色弱粘質土 | 破碎泥岩多量・炭化物（第2面構成土） |
| 13. 暗茶灰色弱粘質土 | 泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物少量（第3面遺構153） |
| 14. 茶褐色弱粘質土 | 茶色有機質土・泥岩・炭化物多量 |
| 15. 暗褐色砂質土 | 破碎泥岩・炭化物多量（第3面遺構162） |
| 16. 暗茶褐色砂質土 | 泥岩細片多量・炭化物多量・硬く締まる（第3面地業） |
| 17. 褐色弱粘質土 | 泥岩・褐色砂質土・砂礫（第4面遺構208） |
| 18. 暗褐色砂質土 | 泥岩細片・炭化物多量・茶色有機質土少量（第4面構成土） |
| 19. 暗褐色砂質土 | 暗褐色粘土・泥岩細片多量・（第4面遺構215覆土） |
| 20. 茶褐色粘土 | 泥岩細片微量・炭化物微量 |
| 21. 暗褐色弱粘質土 | 泥岩粒・炭化物（第3面遺構207） |
| 22. 暗褐色弱粘質土 | 茶色有機質土・木片（第4面遺構218） |
| 23. 青灰色砂質土 | 暗褐色弱粘質土・茶色有機質土・砂礫（第4面遺構218） |

図4 堆積土層図



第1面全測図



第2面全測図

図5 第1面・第2面全測図

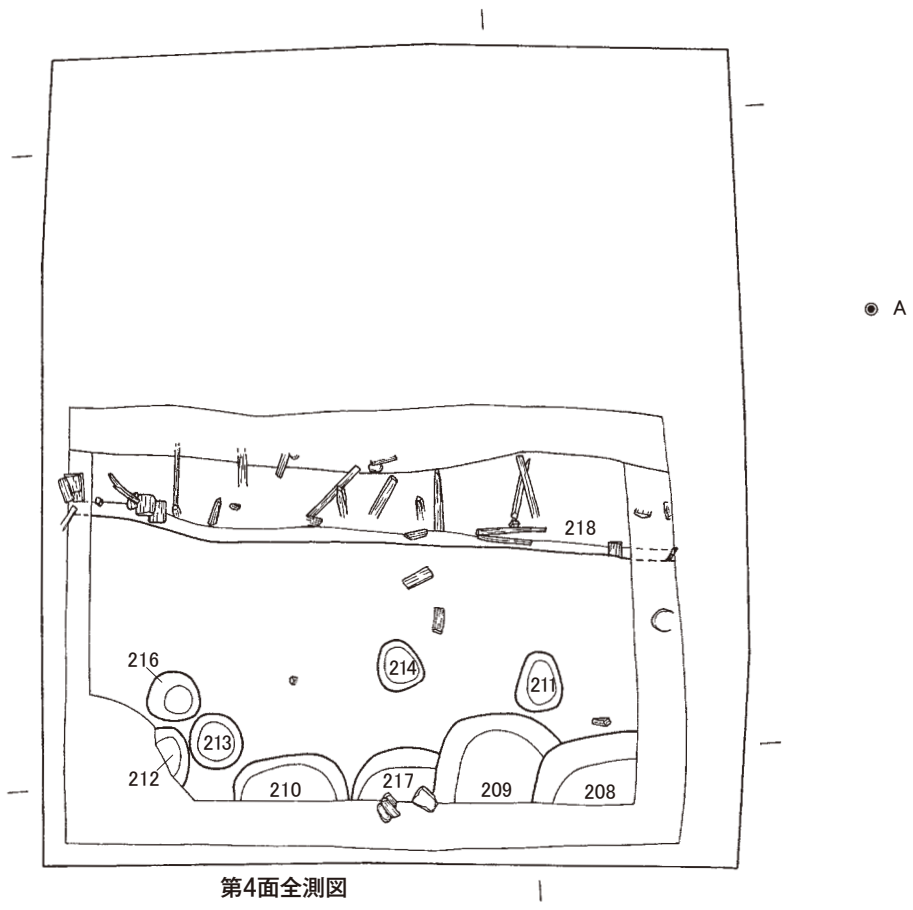
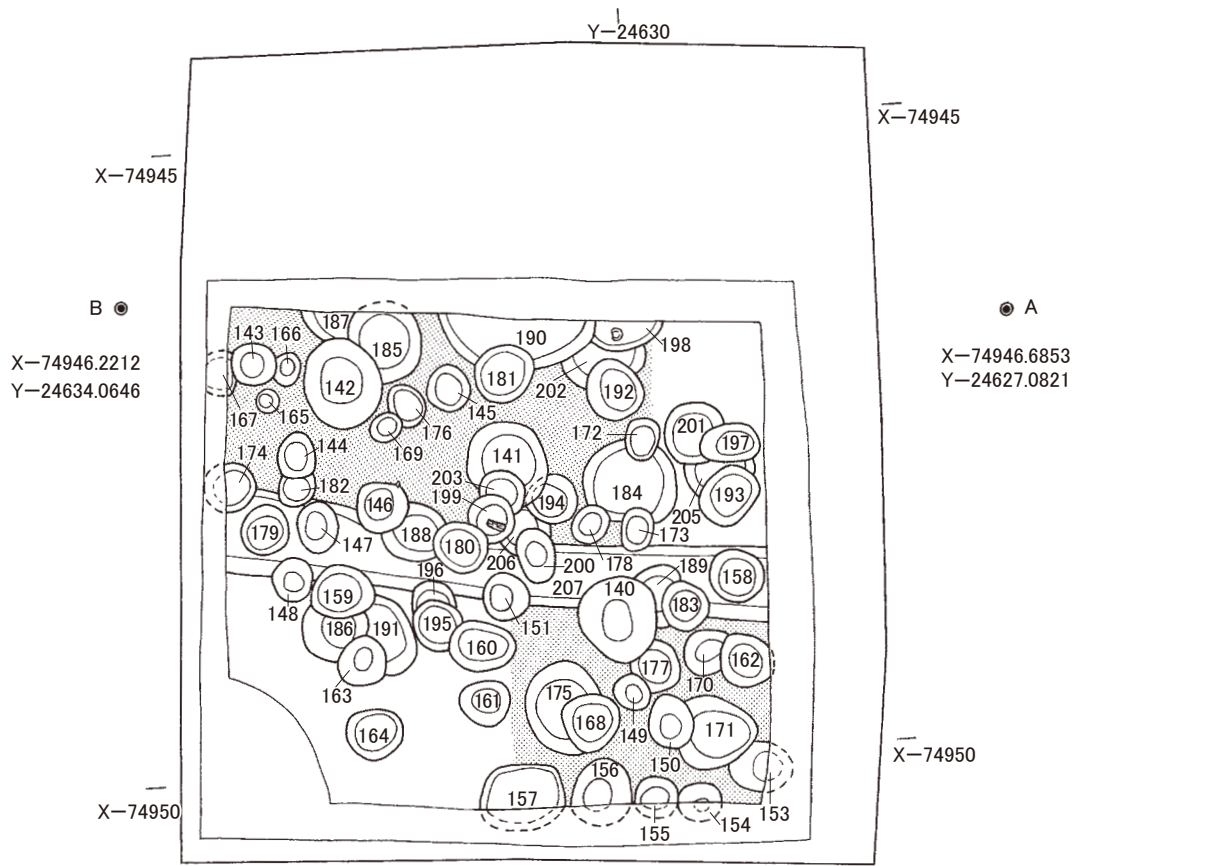


図6 第3面・第4面全測図

第二章 発見された遺構と遺物

本調査では4枚の生活面を発見し観察・記録を行ったが、生活面は切り合った数時期の遺構を同一面上で発見している。各生活面に付した遺構番号は調査作業の簡便を図る目的で遺構プランに対して付しており、必ずしも番号の新旧が遺構の新旧を表すものではない。本報告で個別に提示した遺構図面は基本的に出土遺物を伴う遺構を報告した。個別図面を掲載していない遺構の形状・規模は全測図と遺構計測表を参照していただきたい。また、出土遺物の内、実測した遺物に関しては遺物観察表に詳細を報告し、本文中では遺物名だけを掲載している。発見した遺構は上層より順に報告している。調査開始前、現地表は西から東にやや傾斜しており海拔12.70m～12.50mを測った。

第1節 第1面の遺構と遺物（図5・図7～図14）

重機によって表土を取り除いた後、やや脆弱ではあったが破碎泥岩を多く含む暗茶灰色弱粘質土を検出した。上層の近世耕作土によって部分的に削平を受けていたため、地業層をやや大きく削り平坦に均した層上で多くの遺構を発見し第1面として記録したが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。発見した遺構はピット65穴・土坑3基である。第1面確認レベルは海拔11.80m～11.90mである。

遺構1（図7・図9）

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

出土遺物（図9）

1～3はかわらけ。その他に手づくね・常滑片口鉢Ⅰ類・獣骨が破片で出土している。

遺構2（図7・図9）

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物（図9）

4はかわらけ。5は石製品砥石。その他に手づくね・白磁碗・渥美甕が破片で出土している。

遺構3（図7・図9）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物（図9）

6は白磁口元皿。7は石製品、用途不明。石材は砥石の石材を使用しているが、硯に加工しなおしているような痕跡がある。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構6（図7）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物（図9）

8は銭。その他にかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構7（図7）

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物（図9）

9は青磁櫛搔文皿。その他にかわらけが破片で出土している。

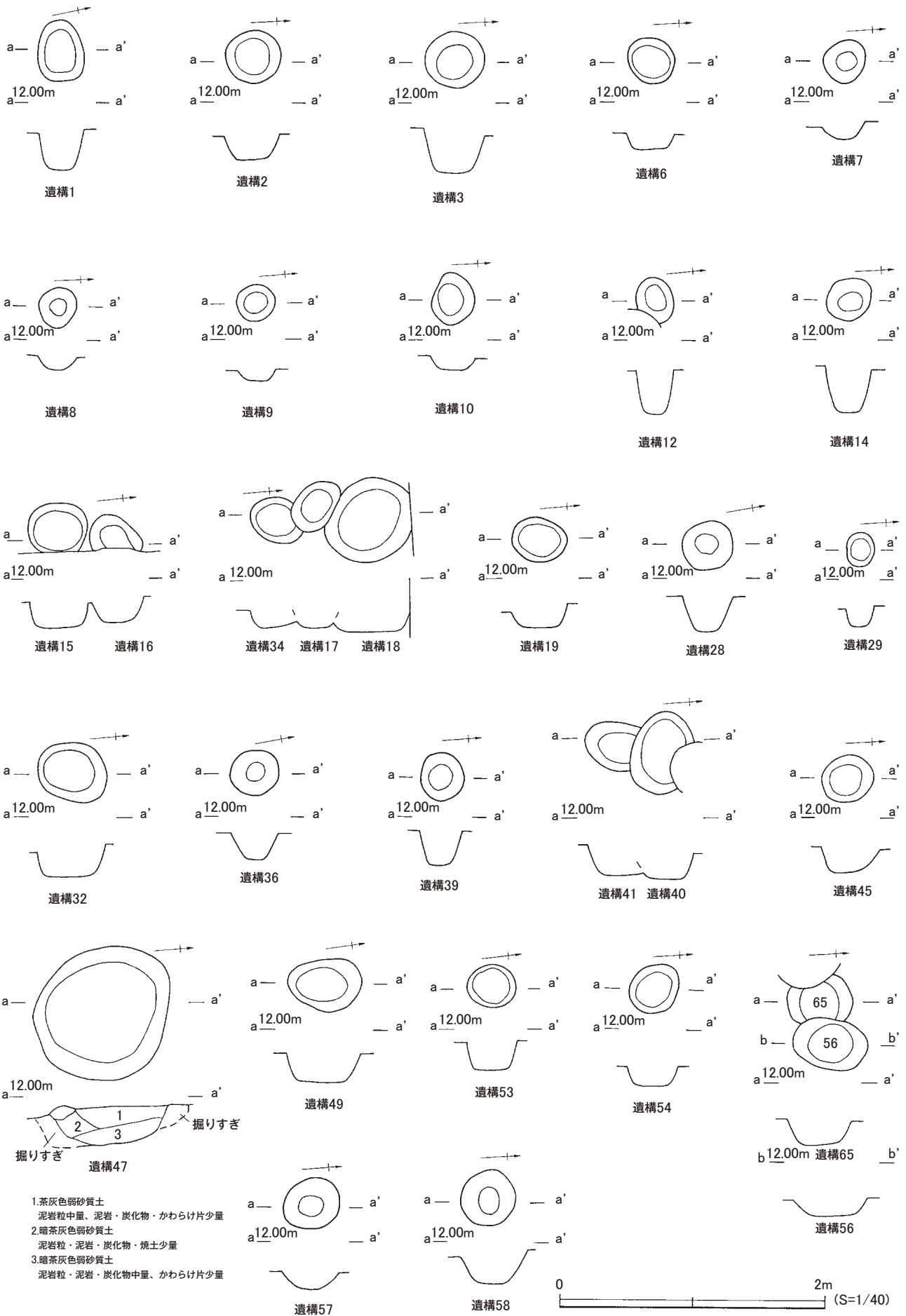


図7 第1面遺構(1)

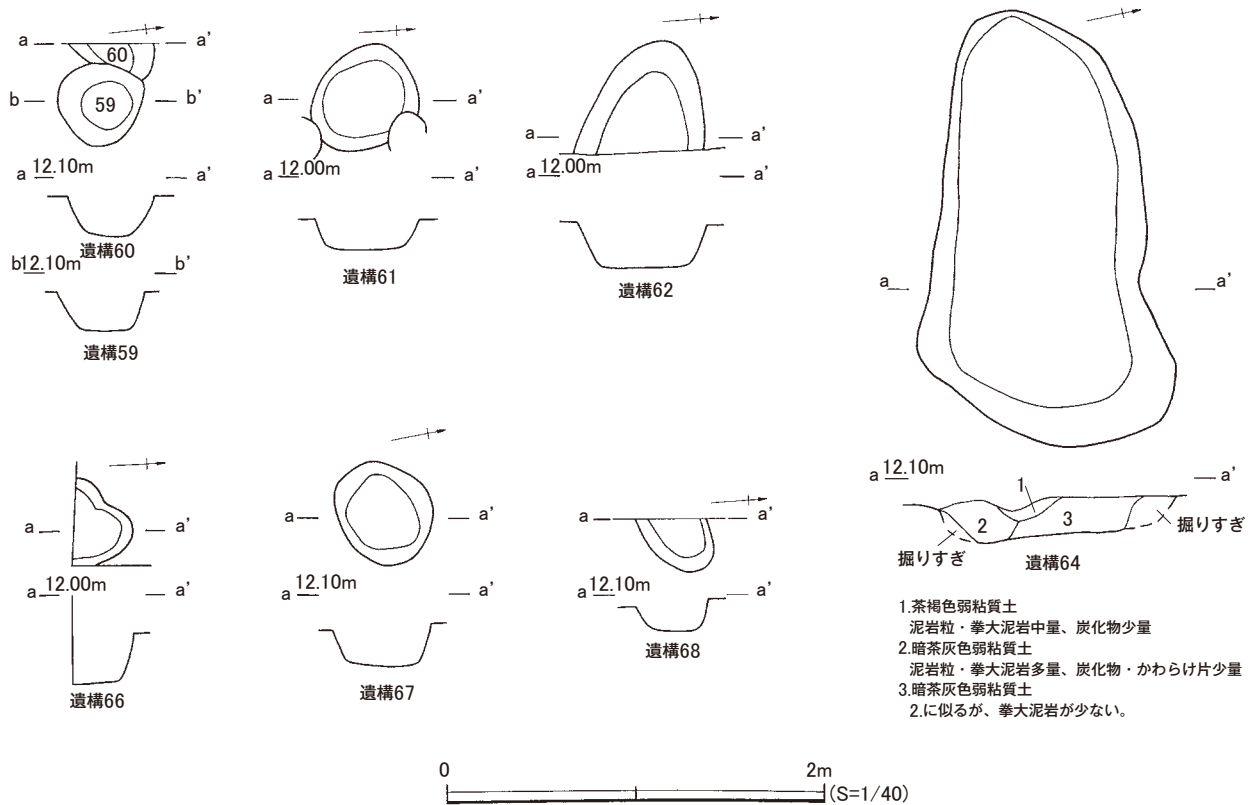


図8 第1面遺構(2)

遺構8 (図7)

円形を呈するピットである。茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

出土遺物 (図9)

10はかわらけ。11は手づくね。

遺構9 (図7)

円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

12は青磁鐏蓮弁文碗。13は石製品、石材片。近世以降に採掘された石材ではないかとの指摘があり、表土遺物が混入した可能性もある。その他にかわらけ・手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構10 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

出土遺物 (図9)

14はかわらけ。

遺構12 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構11に切られる。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・焼土粒を含む。

出土遺物 (図9)

15はかわらけ。

遺構14 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

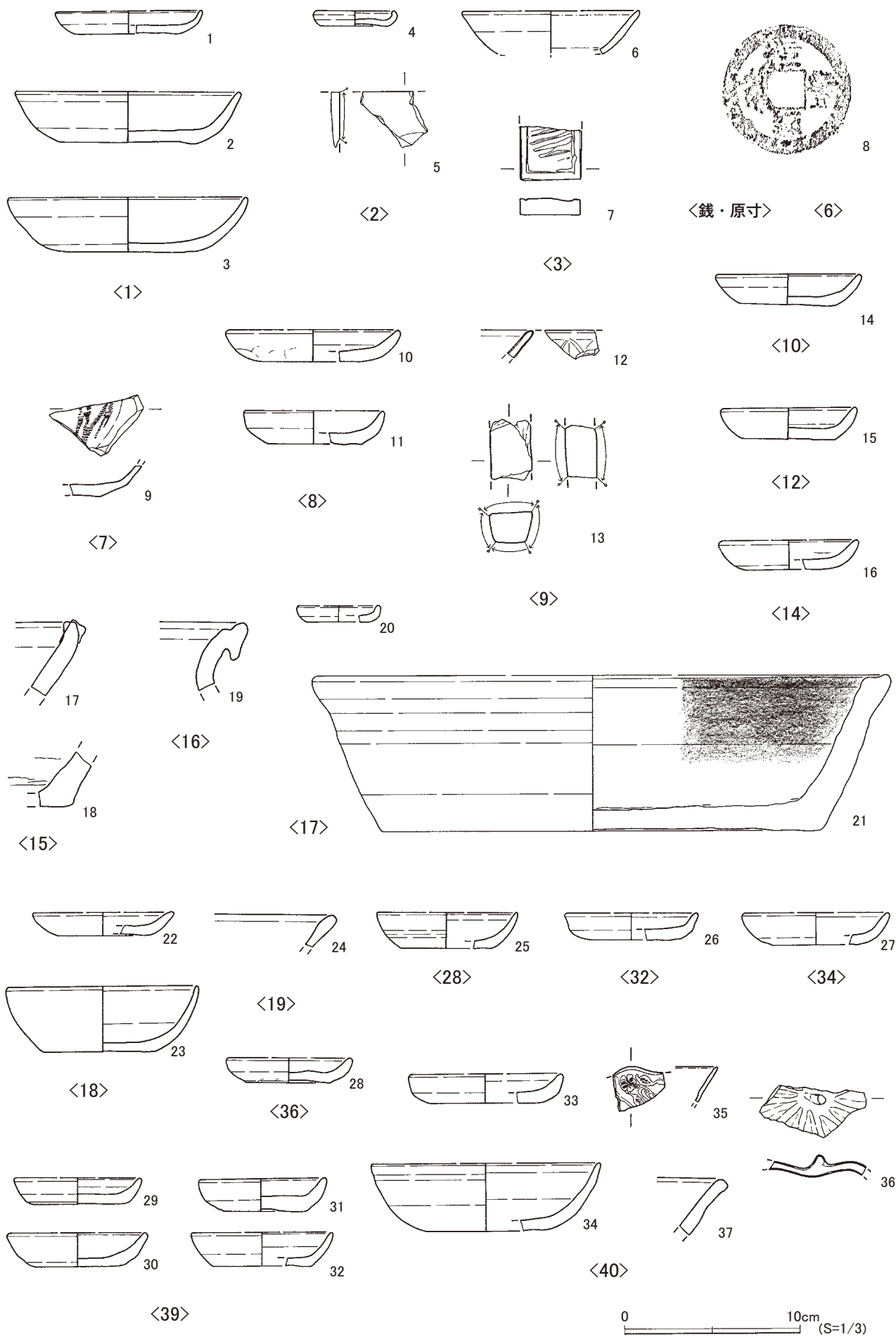


図9 第1面遺構出土遺物(1)

16はかわらけ。その他に常滑甕・獣骨が破片で出土している。

遺構 15 (図7)

円形を呈するピットである。調査区外に遺構が延びる。遺構底面に方形の小さなピットが浅く残っていた。柱痕か。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

17・18は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけ・手づくね・白磁口元皿・常滑甕が破片で出土している。

遺構 16 (図7)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

19は常滑壺。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 17 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構18、遺構34を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

20はかわらけ。21は土器質火鉢。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 18 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構17に切られ、一部は調査区外に延びる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

22は手づくね。23はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 19 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

24は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 28 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

25はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・貝が破片で出土している。

遺構 29 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 32 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

26はかわらけ。その他に手づくね・青磁碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 34 (図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構17に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

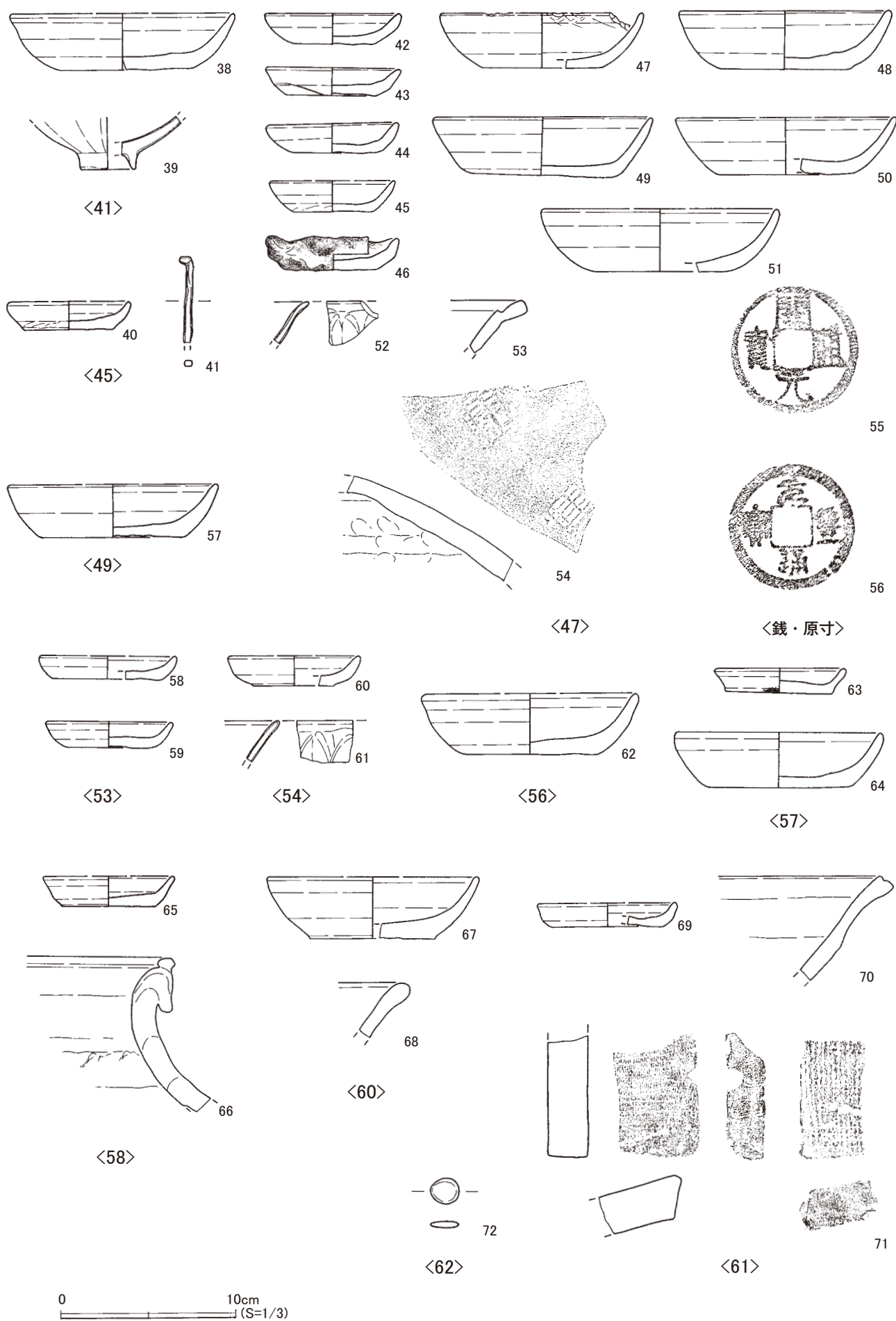


図10 第1面遺構出土遺物(2)

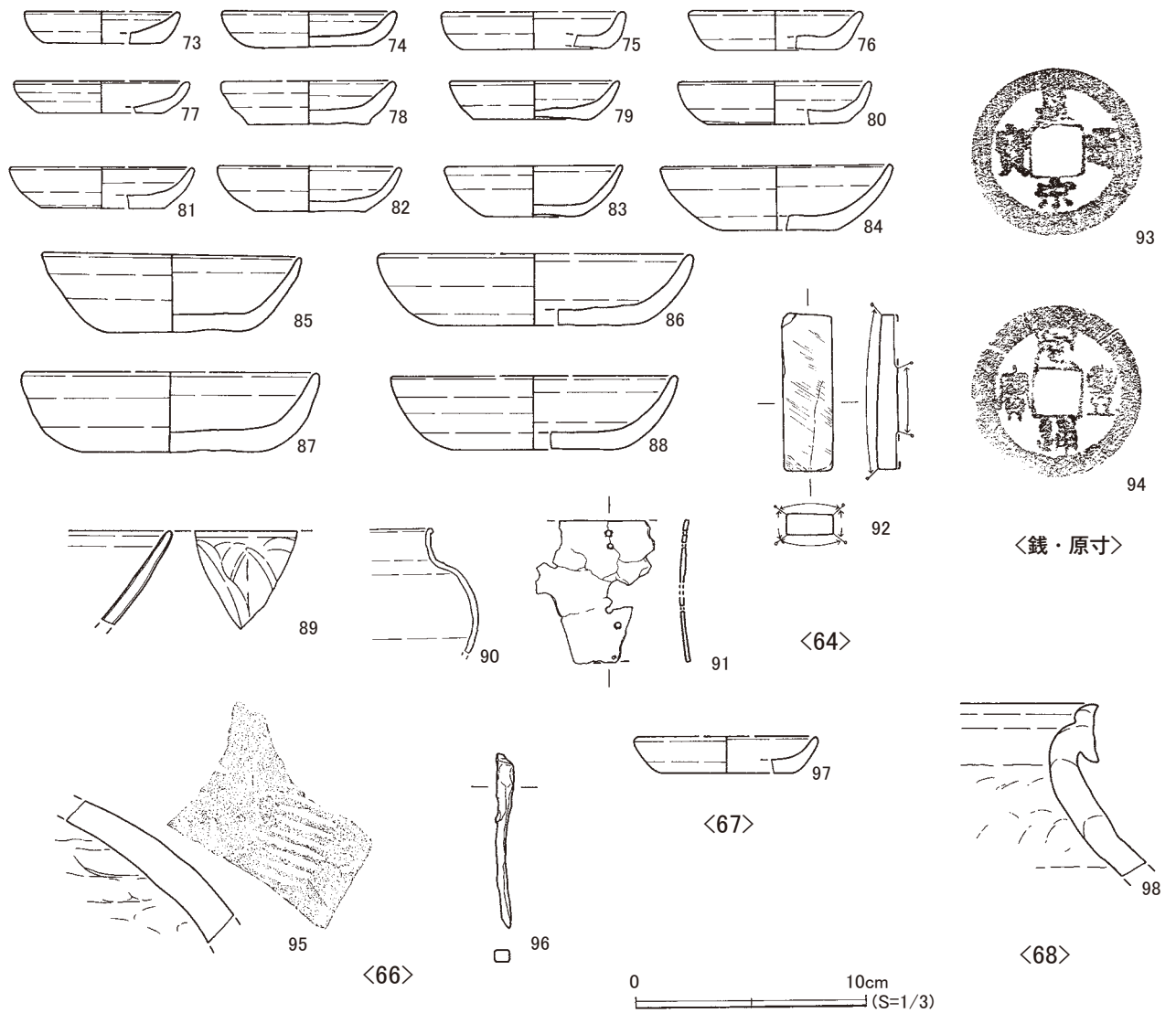


図11 第1面遺構出土遺物(3)

27はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構36 (図7)

円形を呈するピットである。暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・焼土粒を含む。

出土遺物 (図9)

28はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構39 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

29～32はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構40 (図7)

楕円形を呈するピットである。攪乱に切られ、遺構41を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図9)

33～34はかわらけ。35は白磁輪花鉢。36は青白磁合子蓋。37は常滑片口鉢I類。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構41 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構40に切られる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

38はかわらけ。39は青磁鎚蓮弁文碗。その他に常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

遺構45 (図7)

円形を呈するピットである。茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

40はかわらけ。41は鉄製品釘。その他に砥石(鳴滝産)が破片で出土している。

遺構47 (図7)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

42～51はかわらけ。45は内外面器壁が剥離し火熱を受けた様子が窺え、外面には多量の鉄分が付着していた。鑄造関係に利用か。52は青磁鎚蓮弁文碗。53は瀬戸折縁皿。54は常滑甕。55～56は銭。その他に手づくね・青白磁壺・土器質火鉢・平瓦が破片で出土している。

遺構49 (図7)

楕円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

57はかわらけ。その他に白磁口元皿・常滑甕・山茶碗が破片で出土している。

遺構53 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

58～59はかわらけ。

遺構54 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

60はかわらけ。61は青磁鎚蓮弁文碗。

遺構56 (図7)

楕円形を呈するピットである。遺構65を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

62はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構57 (図7)

円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

63～64はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・渥美甕が破片で出土している。

遺構58 (図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

65はかわらけ。66は常滑甕。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・平瓦が破片で出土している。

遺構59 (図8)

不正円形を呈するピットである。遺構60を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。遺物はかわらけ・銭が破片で出土している。

遺構60 (図8)

遺構59に切られ、調査区外に遺構が延びているため、規模・形状は不明となった。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

67はかわらけ。68は常滑片口鉢Ⅰ類。その他に手づくね・青磁碗・青白磁梅瓶・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構61 (図8)

不正円形を呈するピットである。遺構27、遺構29に切られる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図10)

69はかわらけ。70は瀬戸片口鉢。71は平瓦。その他に手づくね・常滑甕・常滑壺が破片で出土している。

遺構62 (図8)

調査区外に遺構が延び、規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図10)

72は石製品。基石として使用か。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・備前播鉢・砥石・滑石鍋・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構64 (図8)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・拳大の泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。地業の一環であったかもしれない。

出土遺物 (図11)

73～88はかわらけ。89は青磁鑄蓮弁文碗。90は褐釉茶入れ。91は金属製品武具。92は石製品砥石。93～94は銭。その他に手づくね・常滑甕・瓦器碗・土器質火鉢・平瓦・鉄滓が破片で出土している。また実測したかわらけは16点だが、破片では(大)188片・(中)1片・(小)35片が出土した。

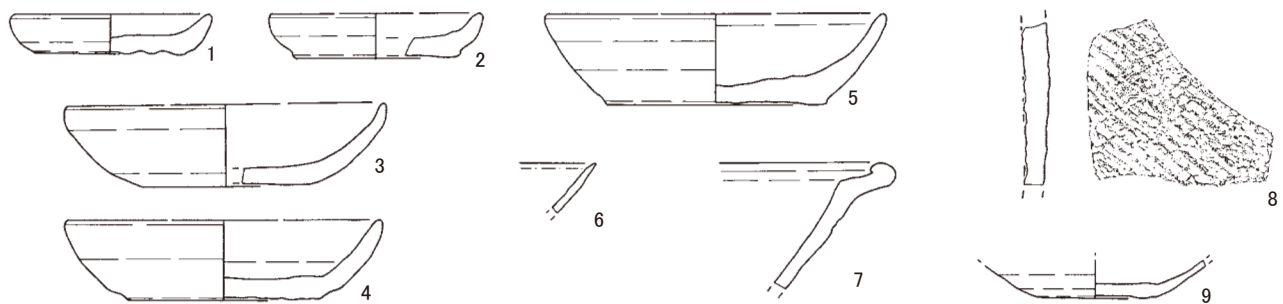
遺構65 (図8)

楕円形を呈するピットである。遺構51、遺構56に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

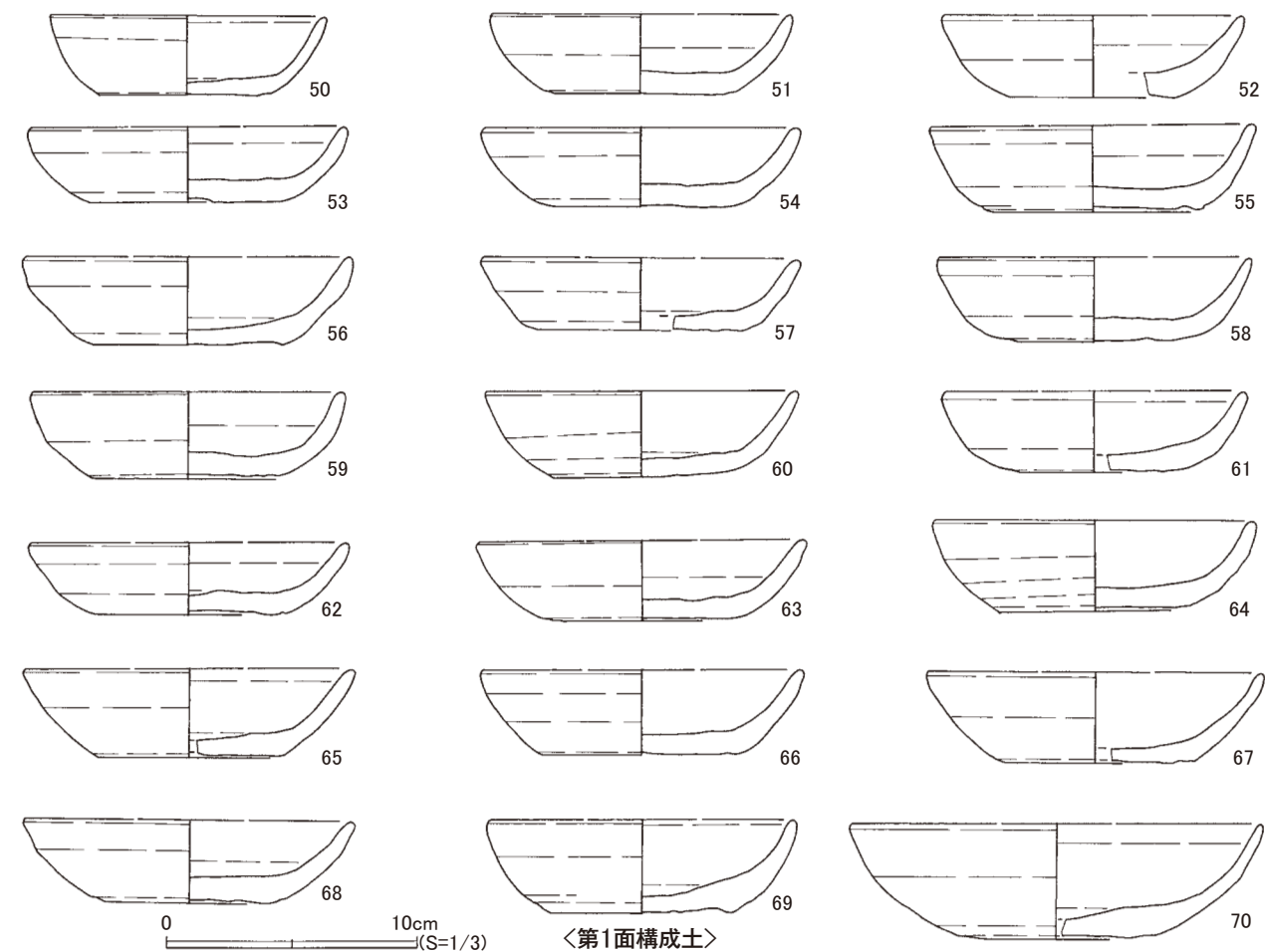
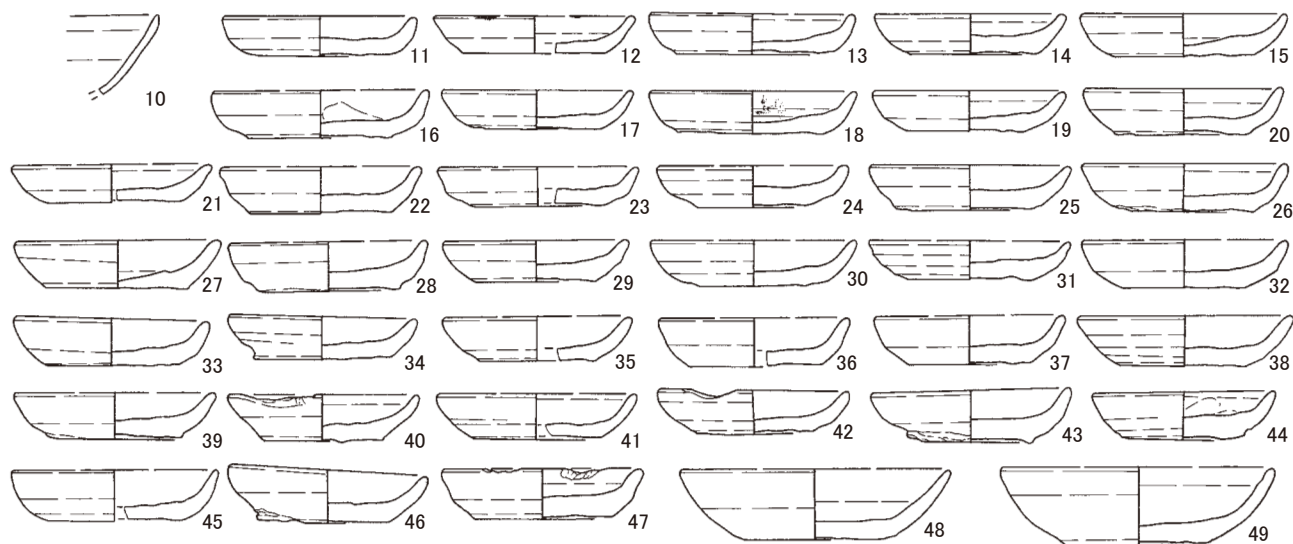
遺構66 (図8)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明である。遺構覆土は暗灰褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図11)



〈第1面面上〉



〈第1面構成土〉

図12 第1面面上・構成土出土遺物(1)

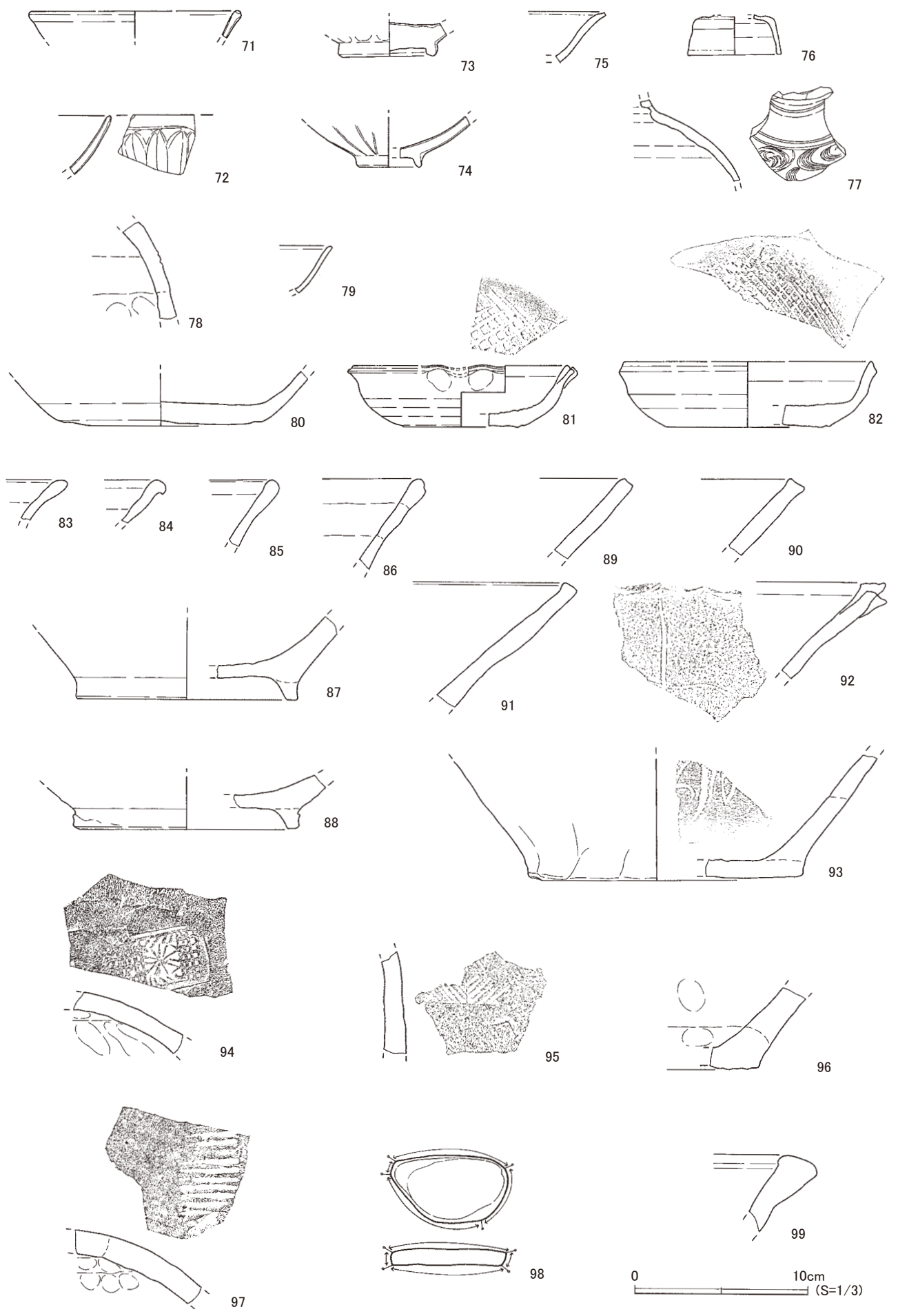


图13 第1面構成土出土遺物(2)

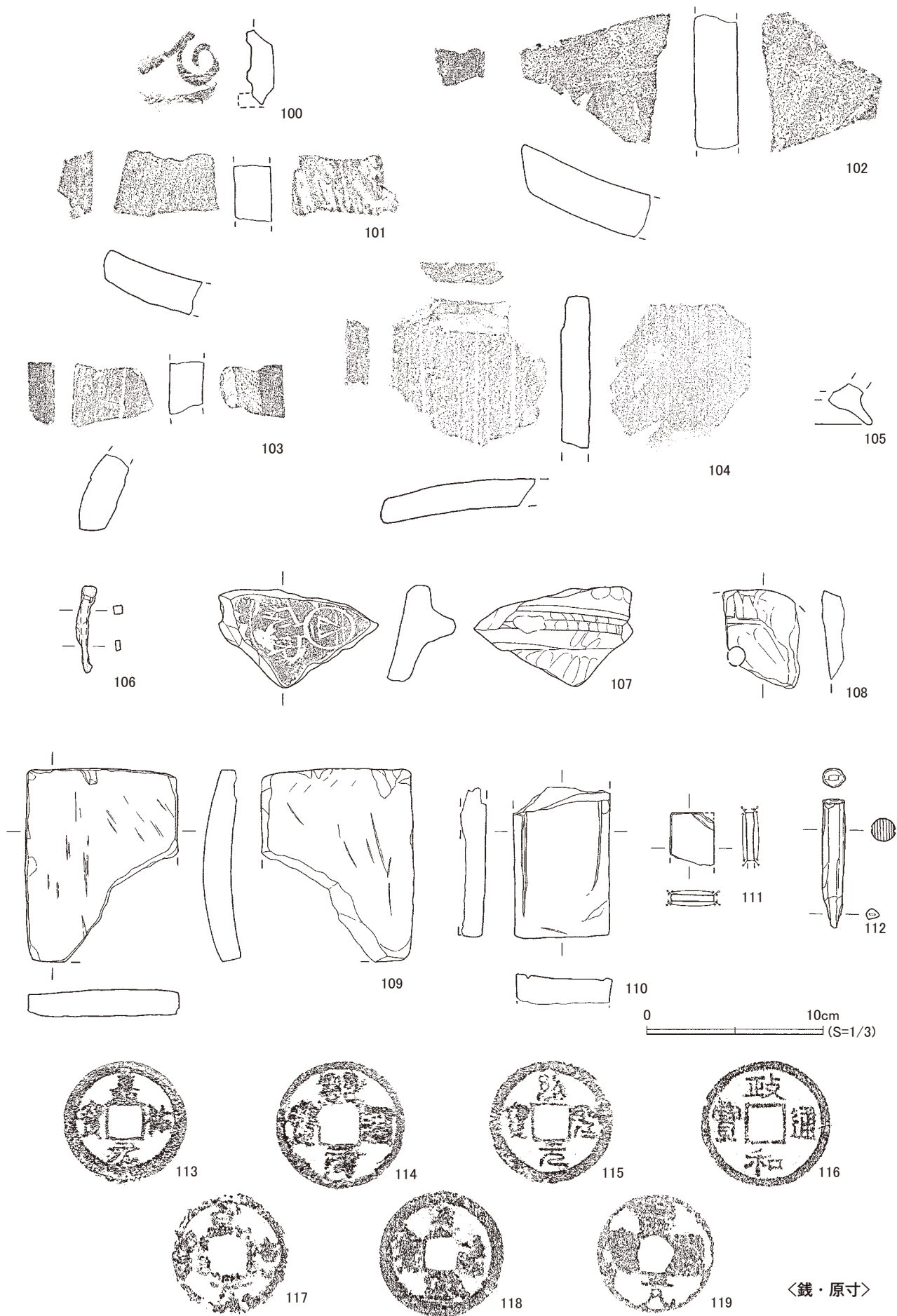


図14 第1面構成土出土遺物(3)

95は渥美甕。96は鉄製品釘。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構67(図8)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物(図11)

97はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構68(図8)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明である。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物(図11)

98は常滑甕。その他にかわらけが破片で出土している。

第1面面上出土遺物(図12)

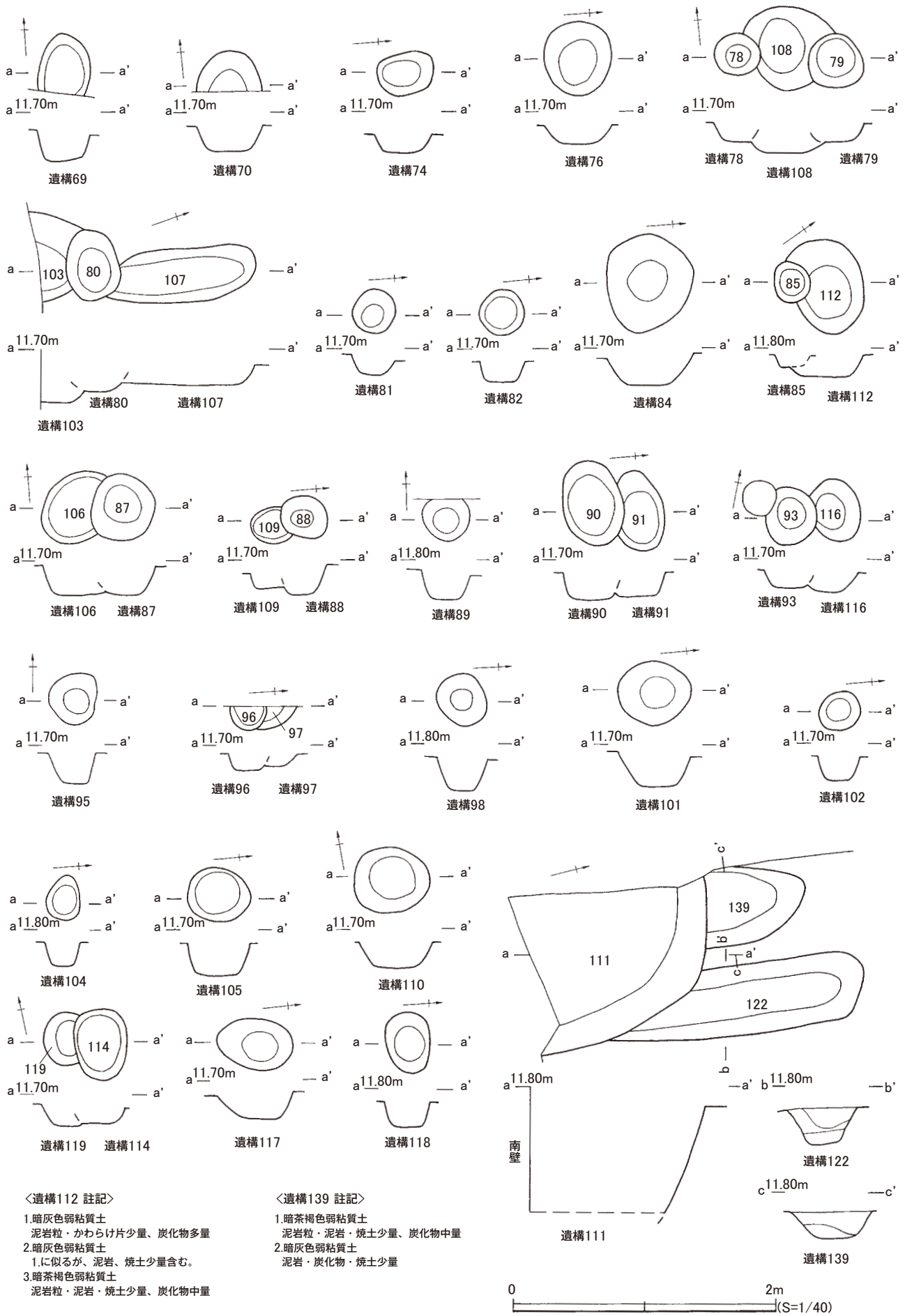
第1面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～5はかわらけ。6は白磁口元皿。7は瀬戸折縁深皿。8は亀山甕。9は吉備系土器碗。その他に手づくね・瀬戸入子・常滑甕・土器質火鉢が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)27片・(小)10片。手づくね(大)6片・(小)3片と、僅かではあるがかわらけの出土数が多い。

第1面構成土出土遺物(図12～図14)

第1面遺構検出後、第2面掘り下げ中に発見した遺物である。10は手づくね。11～70はかわらけ。71は青磁折腰皿。72・74は青磁鎬蓮弁文碗。73は青磁蓮弁文碗。75は白磁口元皿。76は青白磁梅瓶蓋。77は青白磁梅瓶。78は瀬戸壺。79は瀬戸入子。80は瀬戸折縁深皿。81～82は瀬戸卸皿。83は山茶碗。84～88は常滑片口鉢Ⅰ類。89～93は常滑片口鉢Ⅱ類。94～96は常滑甕。97は渥美甕。98は常滑甕転用品。99は土器質火鉢。100は軒平瓦。101～102は平瓦。103は丸瓦。104は鬘斗瓦。105はかわらけ質土製品。106は鉄製品釘。107は滑石鍋転用品用途不明。108～109は石製品温石。110は石製品硯。111は石製品砥石。112は木製品用途不明。113～119は銭。その他に青磁瓶子・青磁劃花文碗・白磁皿・瀬戸瓶子・瓦器質火鉢・伊勢系土鍋・土師器・獣骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)1016片・(小)159片。手づくね(大)36片・(小)3片で、かわらけ出土数の割合が高い。

第2節 第2面の遺構と遺物(図5・図15～図24)

調査区北側に約2.00m幅で泥岩・破碎泥岩・玉石を含む茶褐色弱粘質土の地業を確認した。調査区壁で観察すると、部分的にはあるが不整形な泥岩の層下に玉石が並べられ、その下層に破碎泥岩の層が堆積し地業を形成している様子が窺えた。(図5:スクリーン貼付部分)調査区内で直線的に断絶されたかのように地業は切れ、南側はやや脆弱な地業の様相を呈していたが、上層の遺構・堆積層によって削平を受けたものと考えている。南側でも玉石が散逸している状況を確認した。第1面同様に多くの遺構を発見しているが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。発見した遺構はピット64穴・土坑10基である。第2面の遺構確認レベルは海拔約11.60mである。



〈遺構112 註記〉
 1.暗灰色弱粘質土
 泥岩粒・かわらけ片少量、炭化物多量
 2.暗灰色弱粘質土
 1.に似るが、泥岩、焼土少量含む。
 3.暗茶褐色弱粘質土
 泥岩粒・泥岩・焼土少量、炭化物中量

〈遺構139 註記〉
 1.暗茶褐色弱粘質土
 泥岩粒・泥岩・焼土少量、炭化物中量
 2.暗灰色弱粘質土
 泥岩・炭化物・焼土少量

図15 第2面遺構(1)

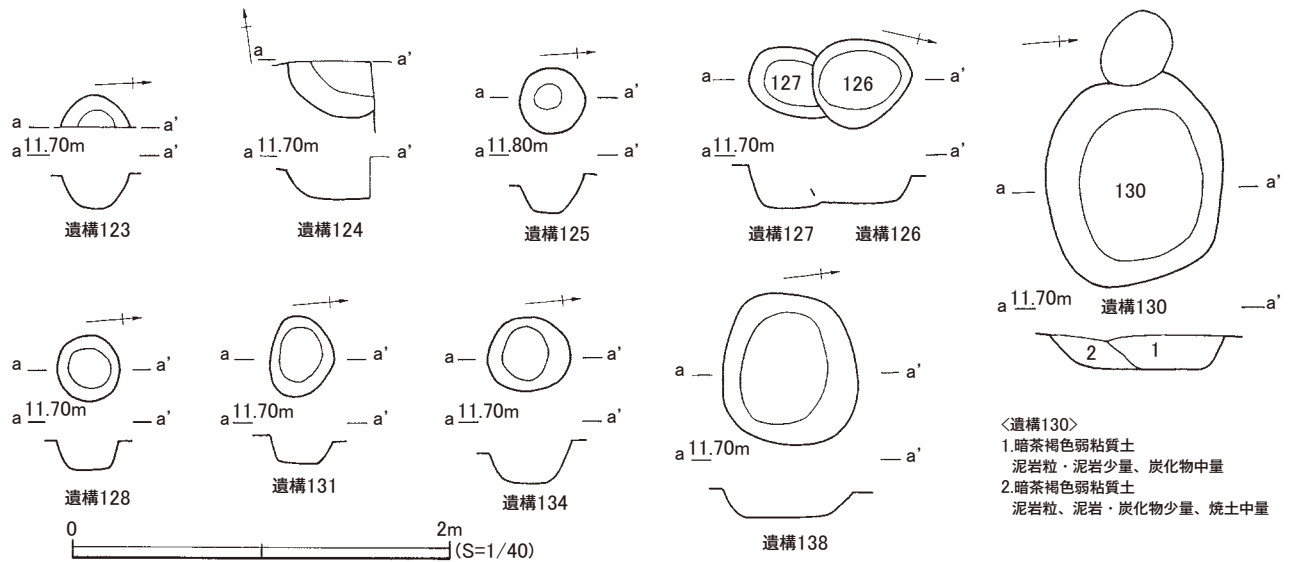


図16 第2面遺構(2)

遺構69 (図15)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

1は白磁壺、外面鎬蓮弁文。その他にかわらけ・手づくね・白磁碗が破片で出土している。

遺構70 (図15)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

2～4はかわらけ。その他に平瓦が破片で出土している。

遺構74 (図15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図17)

5はかわらけ。

遺構76 (図15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

6はかわらけ。7は常滑片口鉢I類。8は銭。

遺構78 (図15)

円形を呈するピットである。遺構108を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

9はかわらけ。10は白磁口元皿。11は金属製品、針か。その他に青磁蓮弁文皿が破片で出土している。

遺構79 (図15)

不正円形を呈するピットである。遺構108を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

12はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 80 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構 103・遺構 107 を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 17)

13は青磁鎚蓮弁文碗。14は青磁折腰鉢。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 81 (図 15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

15はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・常滑鉢が破片で出土している。

遺構 82 (図 15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

16は鉄製品環状金具。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・鉄製品釘・銭が破片で出土している。

遺構 84 (図 15)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

17はかわらけ。18は常滑玉縁壺。19は常滑甕。その他に手づくね・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・精製品硯・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 85 (図 15)

円形を呈するピットである。遺構 112 を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

20はかわらけ。21は銭。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 87 (図 15)

不正円形を呈するピットである。遺構 106 を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

22～23はかわらけ。その他に手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 88 (図 15)

不正円形を呈するピットである。遺構 109 を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・チャート・鉄滓が破片で出土している。

遺構 89 (図 15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 17)

24は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 90 (図 15)

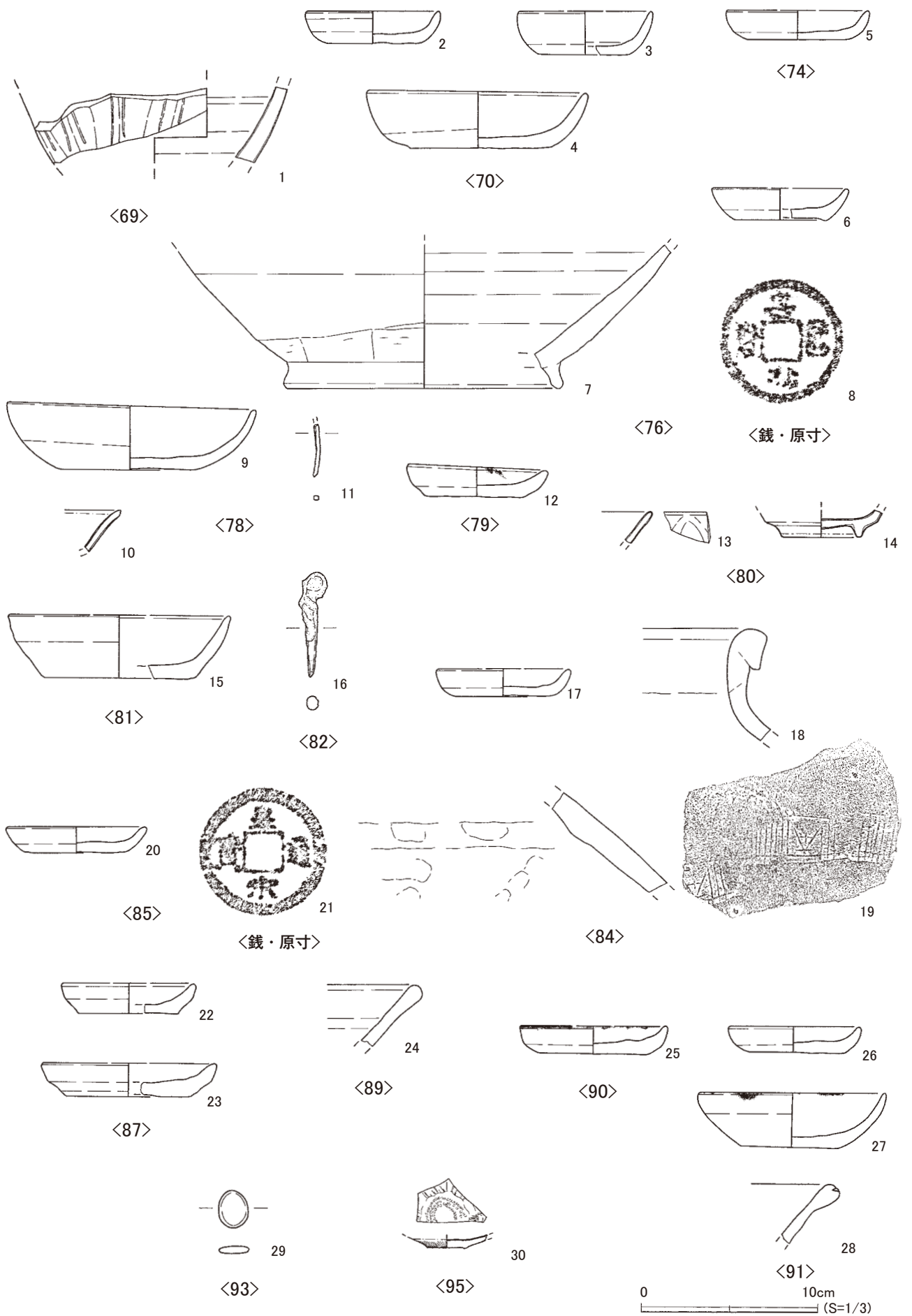


图 17 第 2 面遺構出土遺物 (1)

楕円形を呈するピットである。遺構91を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

25はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・平瓦・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構91 (図15)

楕円形を呈するピットである。遺構90に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図17)

26～27はかわらけ。28は常滑片口鉢Ⅰ類。その他に手づくね・常滑甕・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構93 (図15)

不正円形を呈するピットである。遺構92に切られ、遺構116を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒多を含む。

出土遺物 (図17)

29は石製品、基石か。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構95 (図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土粒多を含む。

出土遺物 (図17)

30は白磁皿。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構96 (図15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。ピットである。遺構97を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図18)

31～33はかわらけ。34は常滑甕。その他に手づくね・獣骨が破片で出土している。

遺構97 (図15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。ピットである。遺構97に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物は出土していない。

遺構98 (図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図18)

35は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構101 (図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図18)

36はかわらけ。37は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・緑釉盤・鉄滓が破片で出土している。

遺構102 (図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物は手づくね・青磁蓮弁文碗・青磁碗・緑釉盤・常滑甕・土器質火鉢が破片で出土している。

出土遺物 (図18)

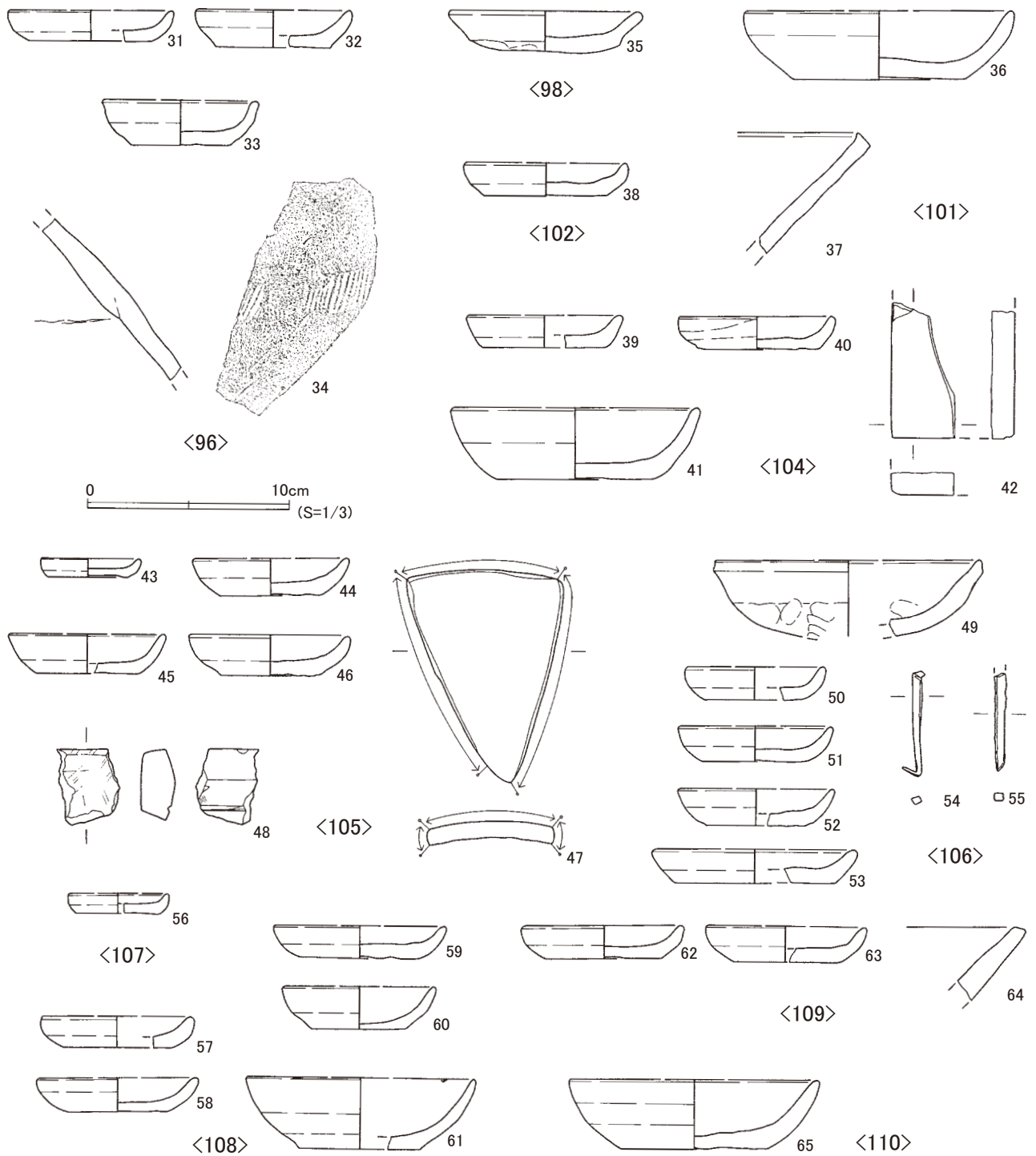


図18 第2面遺構出土遺物(2)

38はかわらけ。

遺構 103 (図15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。土坑である。遺構80に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくね・土師器甕が破片で出土している。

遺構 104 (図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図18)

39～41はかわらけ。42は石製品硯。その他に手づくね・石製品硯・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 105 (図 15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 18)

43～46はかわらけ。47は常滑片口鉢転用品、断面周囲が摩耗。48は滑石鍋転用品、加工途中端材か。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構 106 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構 87 に切られる。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 18)

49は手づくね。50～53はかわらけ。54～55は鉄製品釘。その他に白磁瓶子・常滑甕・土器質火鉢・チャート・土師器甕が破片で出土している。

遺構 107 (図 15)

長楕円形を呈する土坑である。遺構 80 に切られる。遺構覆土は灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 18)

56はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・土器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 108 (図 15)

不正円形を呈するピットである。遺構 78・遺構 79 に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図 18)

57～61はかわらけ。その他に手づくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・石製品砥石が破片で出土している。また手づくねの実測図を報告していないが、破片数ではかわらけ(大)10片・(小)35片に対し、手づくね(大)60片・(小)4片と、手づくねの出土比が多い。

遺構 109 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構 88 に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 18)

62～63はかわらけ。64は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 110 (図 15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 18)

65はかわらけ。その他に手づくね・青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

遺構 111 (図 15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。また、湧水により調査区壁が崩落する危険性があったため、遺構底面の確認を行っておらず深さも不明である。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・茶色有機質土を含む。井戸の可能性を考えている。

出土遺物 (図 19)

66～71は手づくね。66は口縁部内折れ。72～82はかわらけ。83は青磁浅型碗。84は白磁皿。85～86は瀬戸入子。87は瀬戸卸皿。88は常滑片口鉢Ⅰ類。89は常滑甕。90は平瓦。その他に手づくね・白磁碗・

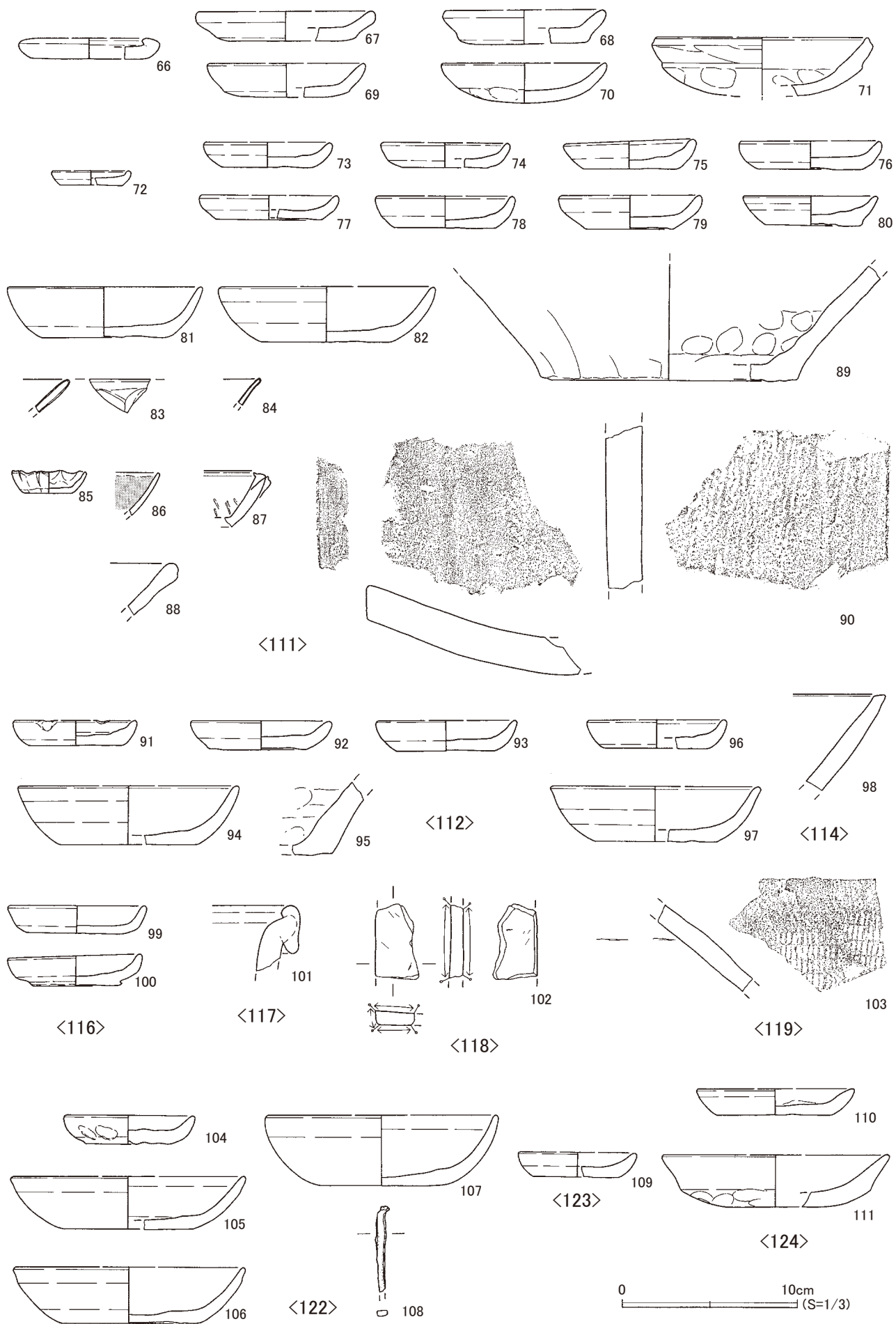


图 19 第 2 面遺構出土遺物 (3)

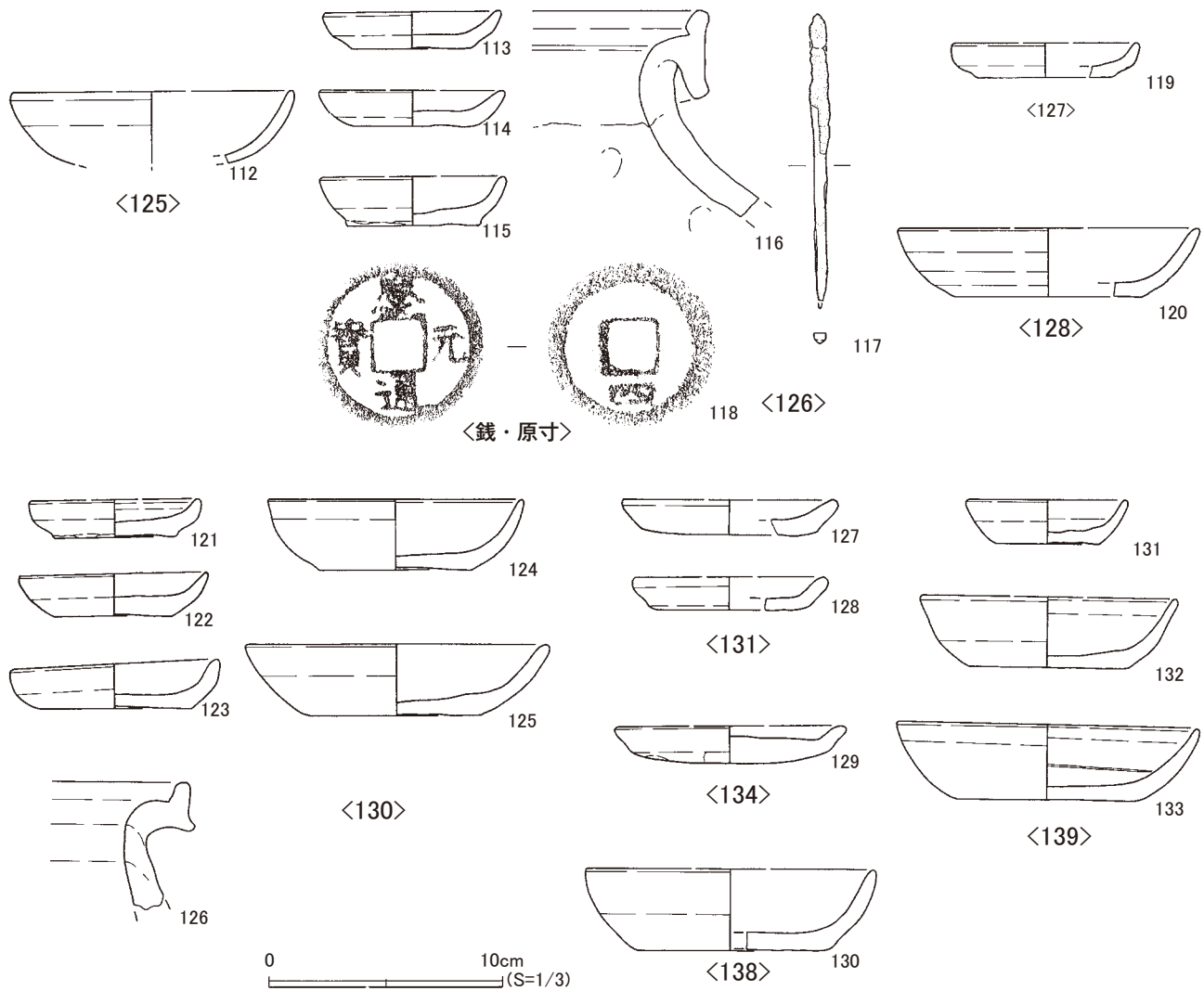


図20 第2面遺構出土遺物(4)

常滑甕・山茶碗・石製品硯・鉄製品釘・鞆の羽口・土師器甕・木片・獣骨が破片で出土している。また、手づくねは実測図を報告していないが、破片数ではかわらけ(大)53片・(小)32片に対し、手づくね(大)148片・(小)41片であった。

遺構112(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構85に切られる。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図19)

91～94はかわらけ。95は常滑甕。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・山茶碗が破片で出土している。

遺構114(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構119を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図19)

96～97はかわらけ。98は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に手づくね・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構116(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構93に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

99～100はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構 117 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

101は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 118 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

102は石製品砥石。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 119 (図 15)

楕円形を呈するピットである。遺構114に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

103は常滑甕。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 122 (図 15)

遺構111に切られる。長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

出土遺物 (図 19)

104～107はかわらけ。104の外側面に指頭による調整痕が残る。108は鉄製品釘。その他に手づくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・滑石鍋・獣骨が破片で出土している。

遺構 123 (図 16)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。ピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

109はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・伊勢系土鍋が破片で出土している。

遺構 124 (図 16)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 19)

110～111は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 125 (図 16)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 20)

112は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 126 (図 16)

不正円形を呈するピットである。遺構127を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図20)

113～115はかわらけ。116は常滑甕。117は鉄製品釘。118は銭。

遺構 127 (図16)

楕円形を呈するピットである。遺構126に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図20)

119はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構 128 (図16)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒多を含む。

出土遺物 (図20)

120はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 130 (図16)

楕円形を呈する土坑である。第1面遺構3に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図20)

121～125はかわらけ。126は常滑広口壺。その他に手づくね・青磁鉢・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・山茶碗・鉄製品釘・果核が破片で出土している。

遺構 131 (図16)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図20)

127～128は手づくね。

遺構 133 (図21)

楕円形を呈する土坑である。意図的にかわらけを廃棄した土坑であり、かわらけ以外の遺物は数点混在しているのみであった。発見したかわらけのほとんどは完形であった。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図21)

134～174はかわらけ。175は青白磁梅瓶蓋。176～177は常滑片口鉢Ⅰ類。178は銭。遺物は常滑甕・鉄製品釘・須恵蓋・獣骨が破片で出土している。出土したかわらけは枝番を付して採集し、それぞれの番号は観察表で報告している。重なって出土したものは同一の番号で記載している。報告したかわらけは(小)25個・(大)15個で、破片では(小)28片・(中)1片・(大)61片であった。小型のかわらけは大半が完形で遺存していた。

遺構 134 (図16)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図20)

129は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 138 (図16)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図20)

130はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

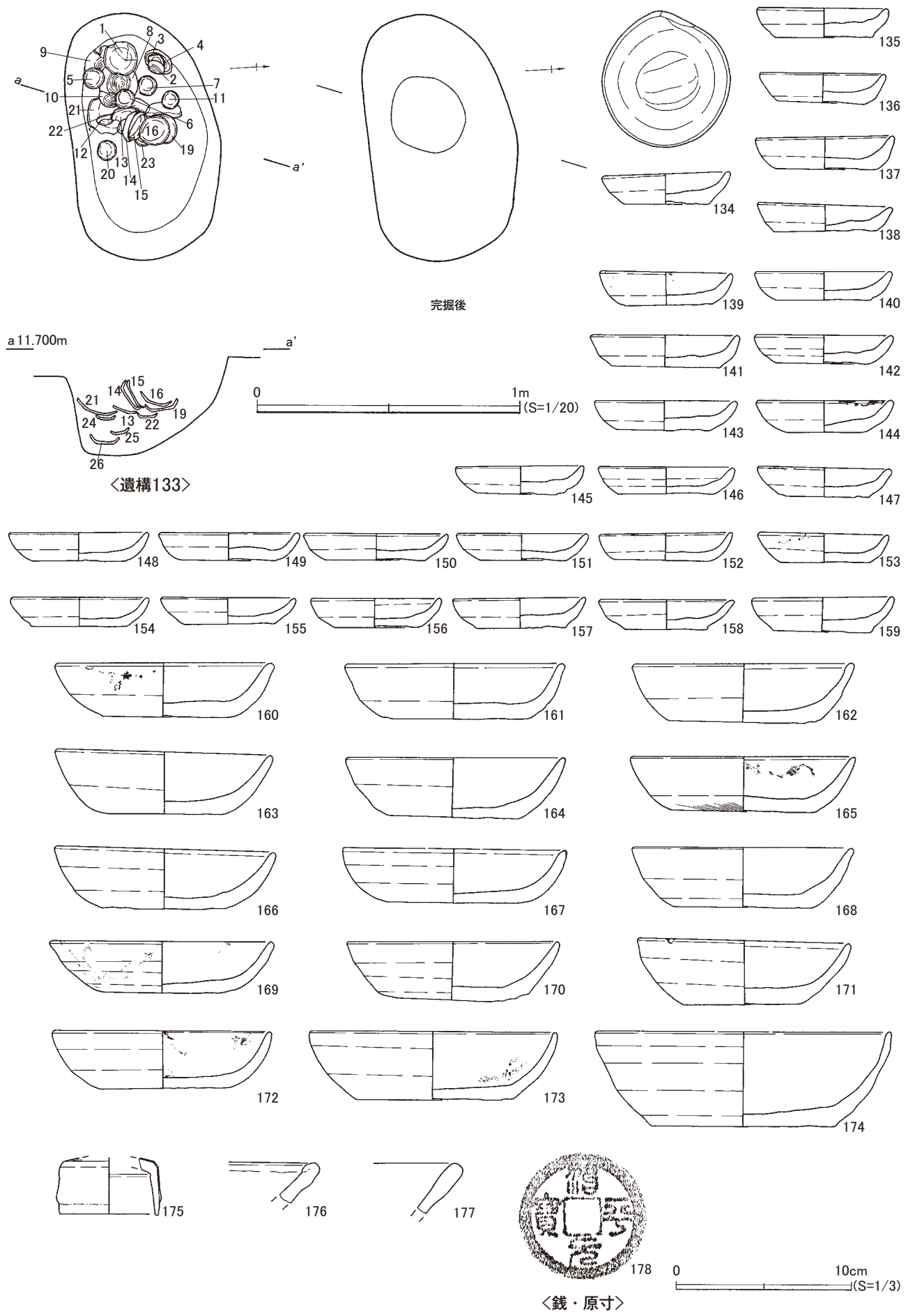


図21 第2面遺構133

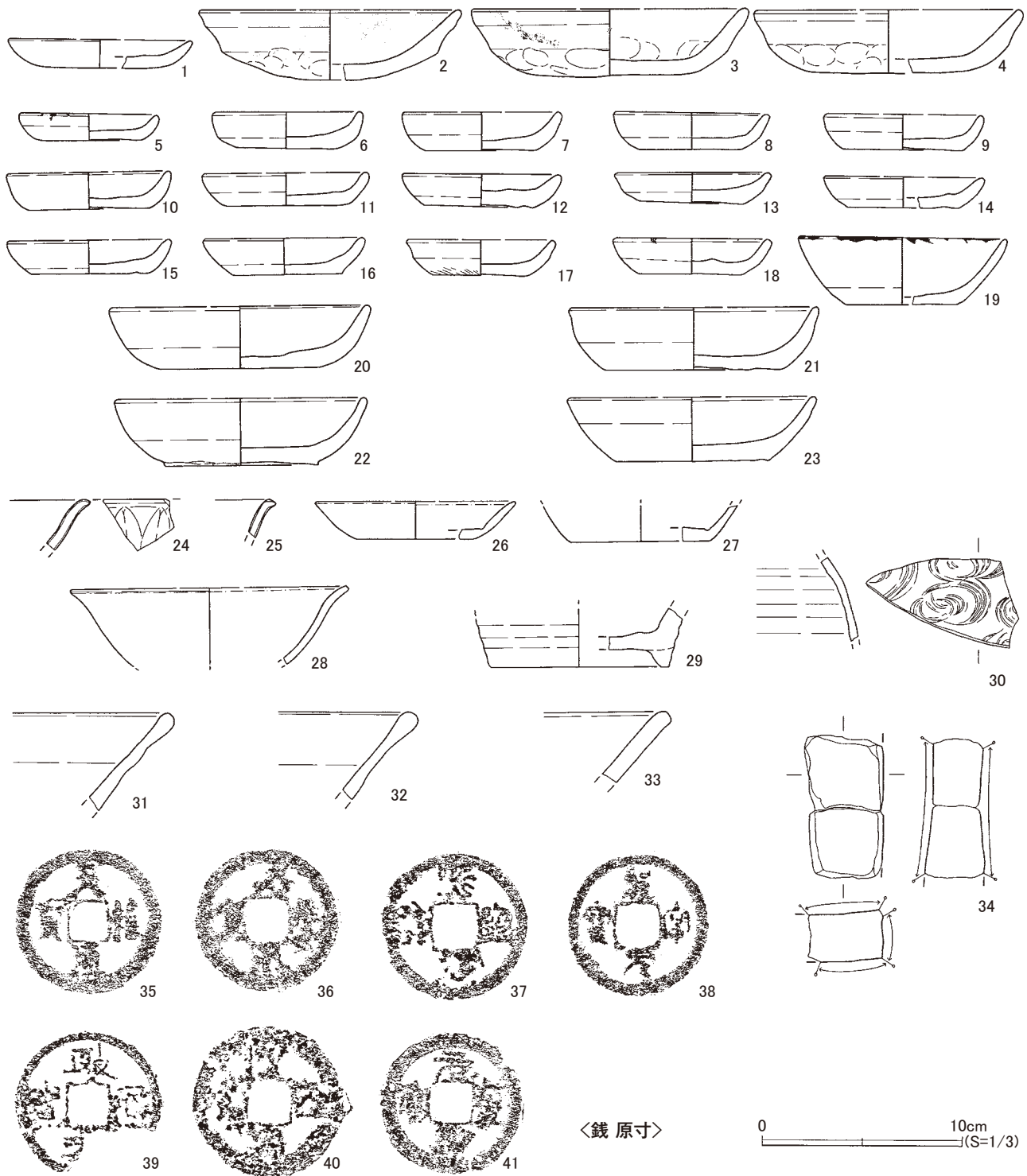


図22 第2面面上出土遺物

遺構 139 (図15)

遺構 111に切られ規模・形状は不明。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む

出土遺物 (図20)

131～133はかわらけ。大・中・小の3種類の法量を持つかわらけであるが、胎土は雲母が多く混入し、やや粗土である。その他に青磁鉢・青白磁梅瓶・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

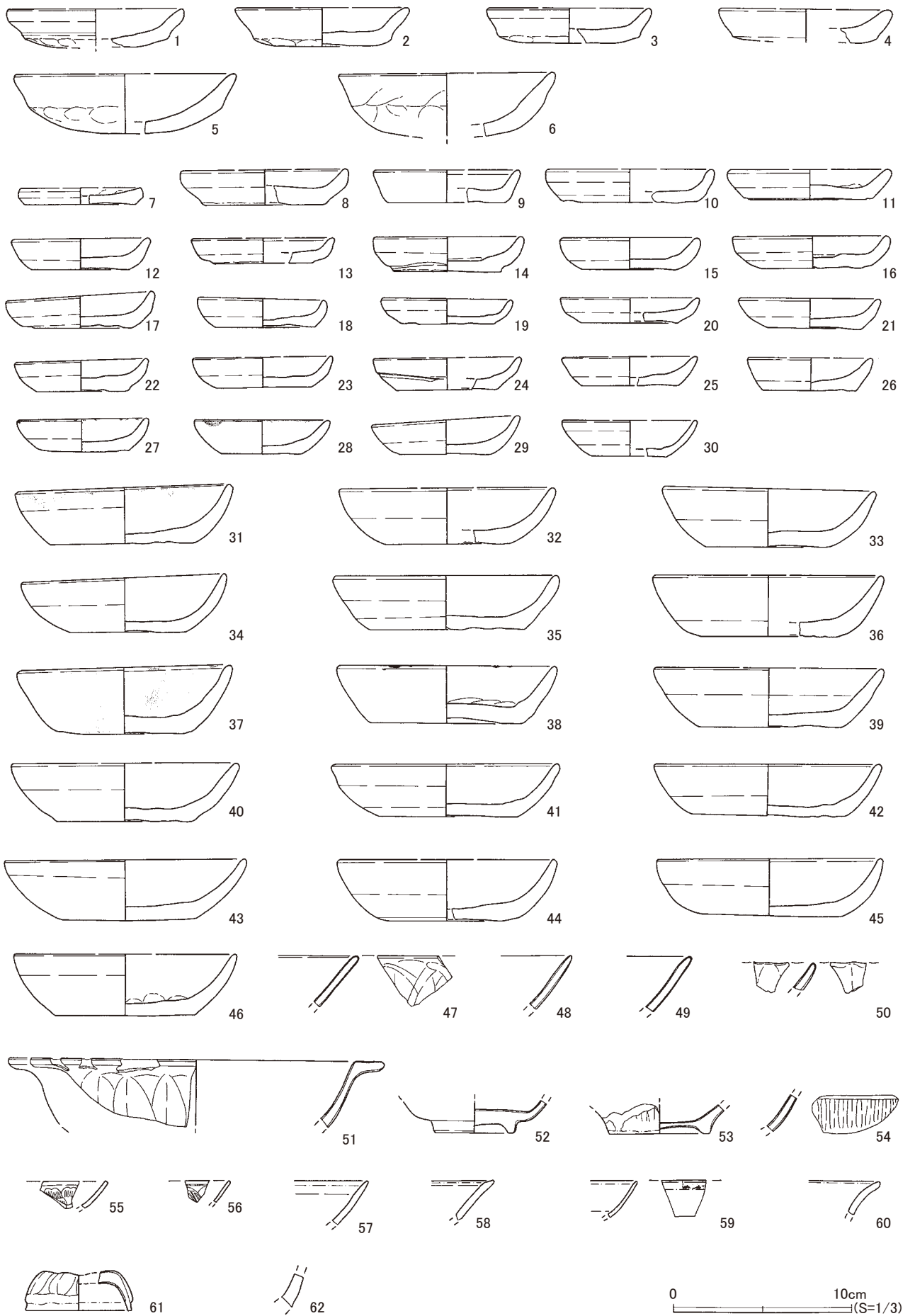


图23 第2面構成土出土遺物(1)

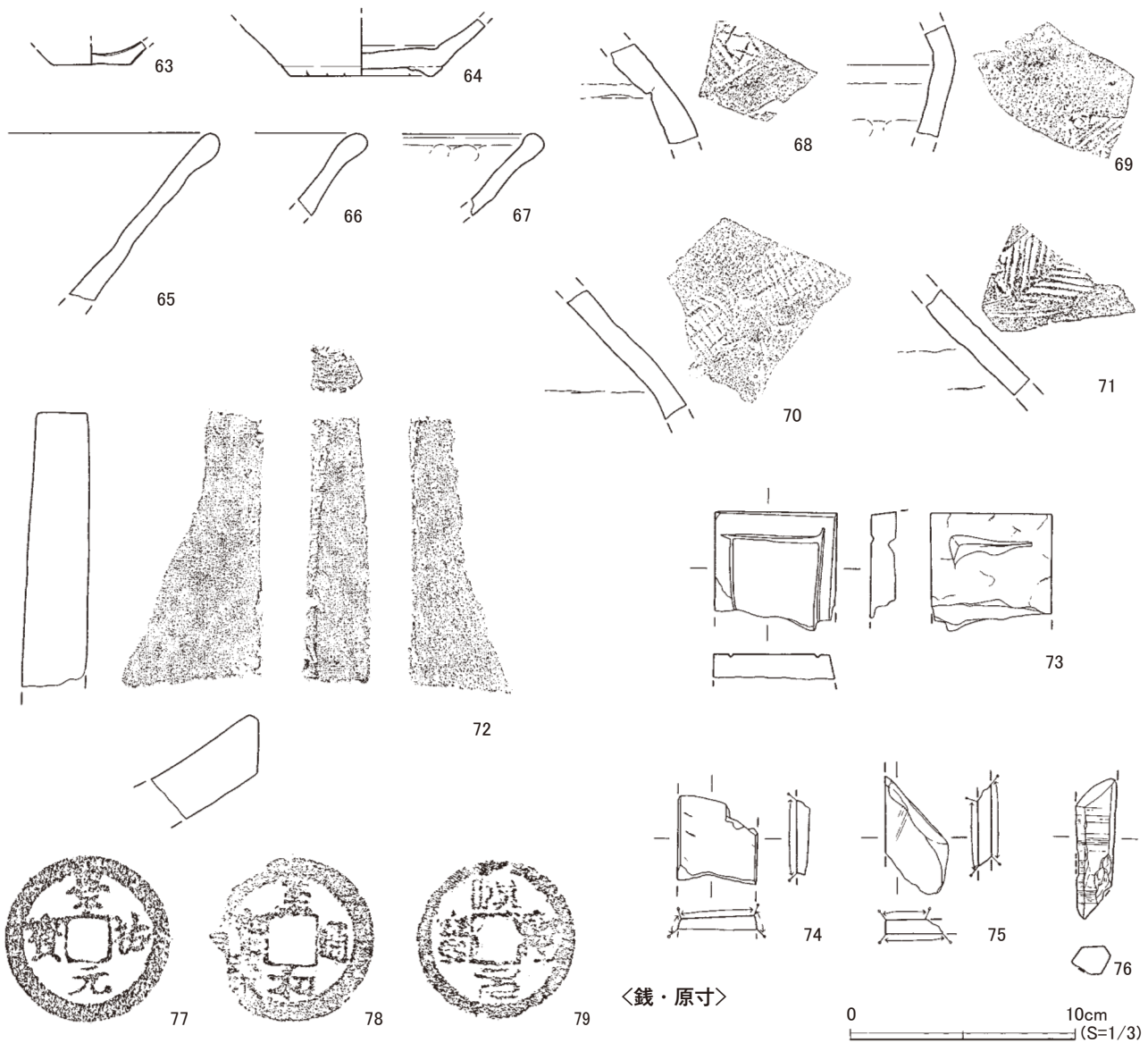


図24 第2面構成土出土遺物(2)

第2面面上出土遺物(図22)

第2面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～4は手づくね。5～23はかわらけ。24は青磁鎚蓮弁文碗。25は青磁折腰鉢。26は白磁口元皿。27は白磁皿。28は白磁口元碗。29～30は青白磁梅瓶。31～33は常滑片口鉢I類。34は石製品砥石。35～41は銭。その他に青磁碗・青磁鉢・青磁香炉・青白磁合子・褐釉茶入れ・瀬戸卸皿・瀬戸入子・常滑甕・常滑壺・山茶碗・吉備系碗・産地不明土器・瓦器質火鉢・鉄製品釘・鉄製品用途不明・鞆の羽口・木片・獣骨・軽石が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)8片・(中)1片・(小)65片。手づくね(大)177片・(小)37片で、手づくね出土数の割合が高い。

第2面構成土出土遺物(図23・図24)

第2面遺構検出後、第3面掘り下げ中に発見した遺物である。1～6は手づくね。7～46はかわらけ。47は青磁鎚蓮弁文碗。48～50は青磁碗。50は輪花型。51は青磁鉢・外面蓮弁文。遺存していないが内底に双魚文貼りつけか。52は青磁折腰鉢。53～54は青磁壺。55～56は白磁皿。57・60は白磁口元碗。

58・59は白磁口元皿。61は青白磁合子蓋。62は緑釉盤。63は瀬戸壺。64は山茶碗。65～67は常滑片口鉢Ⅰ類。68～71は常滑甕。72は軒平瓦。73は石製品硯。74～75は石製品砥石。76は自然石水晶、加工途中か。77～79は銭。その他に青磁香炉・青磁壺・白磁壺・青白磁梅瓶・青白磁皿・黄釉器種不明・瀬戸碗・常滑壺・常滑器種不明・土器質火鉢・滑石鍋・チャート・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)159片・(小)52片。手づくね(大)639片・(小)52片で、手づくね出土数の割合が高い。

第3節 第3面の遺構と遺物(図6・図25～図29)

第3面は豪雨と湧水の影響で調査区北壁が崩落してしまい、調査に危険が生じたため調査区をやや狭めて行った。第3面の遺構は破碎泥岩を多く含む茶褐色弱粘質土の堅く締まった地業層上で発見した。発見した遺構はピット48穴・土坑16基・溝1条で、3時期の遺構を確認している。堅く締まった地業を調査区内で二分するように東西に溝が走る。遺構底面に礎板を伴うピットや、木質の残るピットを発見しているが、調査区外に遺構が延びているためか、建物址を推定することはできなかった。第3面確認レベルは海拔11.40mである。

遺構141(図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構203に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構142(図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構185・遺構187を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図26)

1はかわらけ。2は常滑片口鉢Ⅰ類。3は常滑甕。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構146(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図26)

4は石製品砥石。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構147(図25)

円形を呈するピットである。遺構207を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構148(図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物(図26)

5はかわらけ。その他に常滑甕・銭が破片で出土している。

遺構150(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構171を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図26)

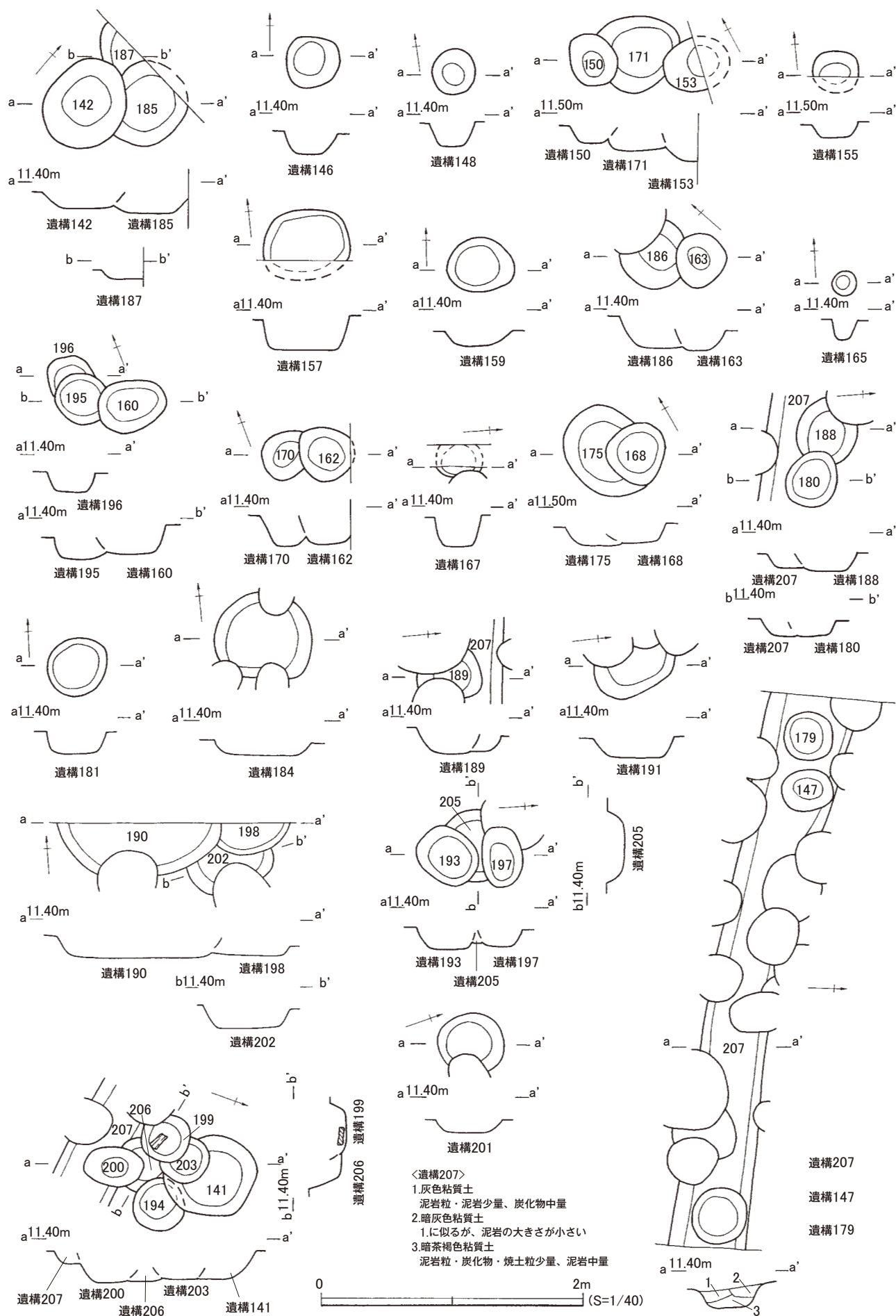


図25 第3面遺構

6は常滑片口鉢Ⅰ類。7は常滑甕。8は銭。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 153 (図25)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。遺構171を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

9はかわらけ。その他に手づくね・白磁碗・土師器甕が破片で出土している。

遺構 155 (図25)

調査区外に遺構が延びている。ピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

10はかわらけ。

遺構 157 (図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

11は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

遺構 159 (図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

12は青磁鎬蓮弁文碗。13は常滑片口鉢Ⅰ類。14は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・青磁碗が破片で出土している。

遺構 160 (図25)

楕円形を呈するピットである。遺構195を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

15は鉄製品釘。その他にかわらけ・手づくね・青磁碗・獣骨が破片で出土している。

遺構 162 (図25)

不正円形を呈するピットである。遺構170を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

16～18は手づくね。19～24はかわらけ。その他に丸瓦が破片で出土している。

遺構 163 (図25)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構 165 (図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

25は青磁碗。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 167 (図25)

調査区外に遺構が延びる。ピットである。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

26はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 168 (図25)

不正円形を呈するピットである。遺構 175 を切る。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

27～28は手づくね。その他に常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構 170 (図25)

不正円形を呈するピットである。遺構 162 に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくね・平瓦が破片で出土している。

遺構 171 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構 150・遺構 153 に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

29は青磁鎗蓮弁文碗。30は鍔釜。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 175 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構 168 に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

31～32は手づくね。その他にかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

遺構 179 (図25)

円形を呈するピットである。遺構 207 を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 180 (図25)

楕円形を呈するピットである。遺構 188・遺構 207 を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図26)

33は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 181 (図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図26)

34～35は手づくね。36は青白磁水注。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類・平瓦が破片で出土している。

遺構 184 (図25)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図27)

37は手づくね。38はかわらけ。39は常滑片口鉢Ⅰ類。40は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑甕が破片で出土している。

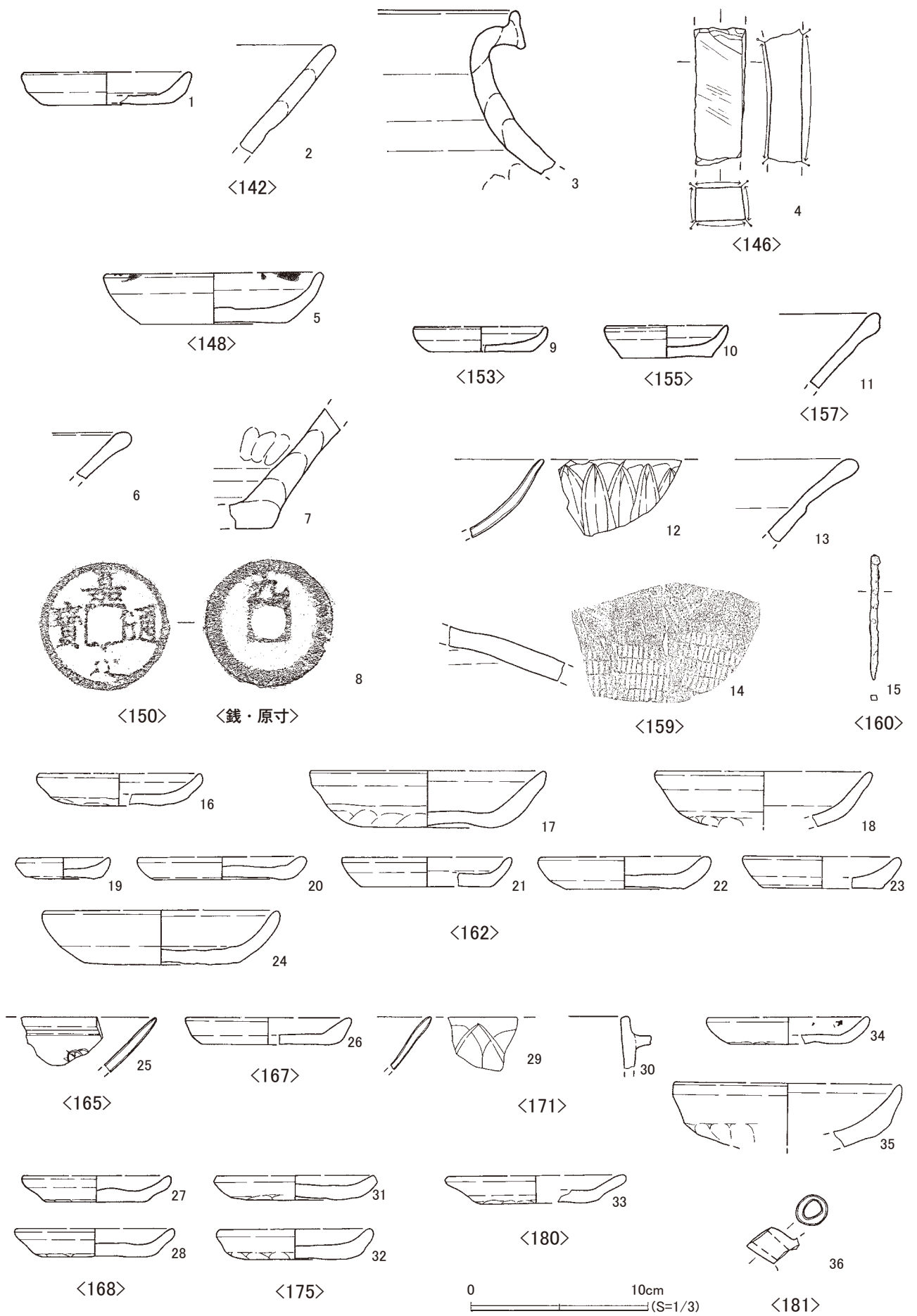


図26 第3面遺構出土遺物(1)

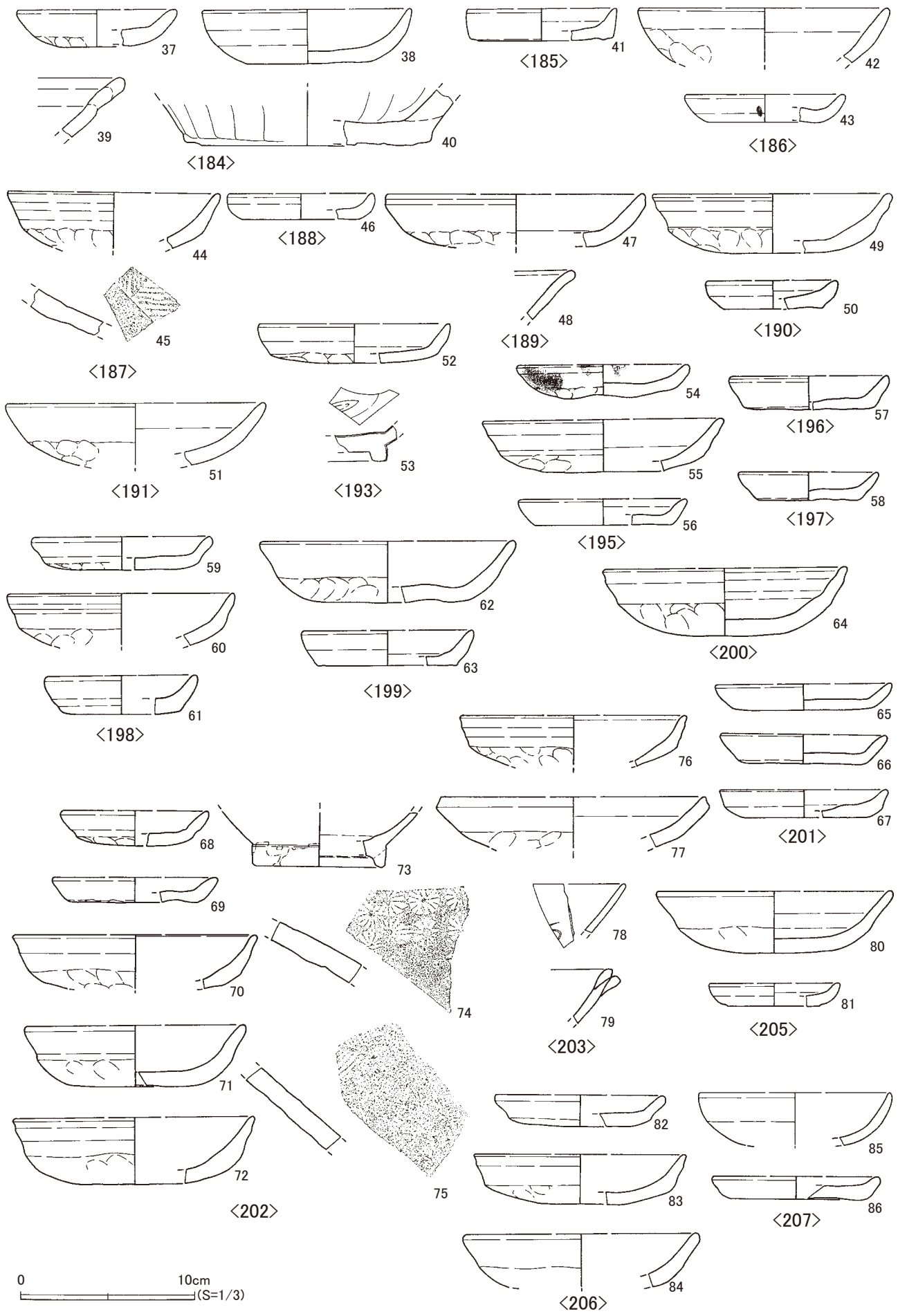


図27 第3面遺構出土遺物(2)

遺構 185 (図25)

楕円形を呈する土坑である。一部が調査区外に延びる。遺構142に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図27)

41はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・土師器甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 186 (図25)

円形を呈する土坑である。遺構163に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図27)

42は手づくね。43はかわらけ。

遺構 187 (図25)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。遺構142・遺構185に切られる。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物多を含む。

出土遺物 (図27)

44は手づくね。45は常滑甕。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 188 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構180に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図27)

46はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

遺構 189 (図25)

円形を呈するピットである。遺構140・遺構183に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図27)

47は手づくね。48は山茶碗。その他にかわらけ・土師器甕が破片で出土している。

遺構 190 (図25)

調査区外に遺構が延び規模は不明。遺構198を切る。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図27)

49は手づくね。50はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 191 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図27)

51は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 193 (図25)

楕円形を呈するピットである。遺構205を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図27)

52は手づくね。53は青磁碗、内底部印花文。その他にかわらけ・白磁口元皿が出土している。

遺構 194 (図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

遺構 195 (図 25)

円形を呈するピットである。遺構 160 に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

54～55は手づくね。56はかわらけ。

遺構 196 (図 25)

遺構 195 に切られる。ピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 27)

57は手づくね。

遺構 197 (図 25)

楕円形を呈するピットである。遺構 205 を切る。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

58は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 198 (図 25)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構 190 に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

59～60は手づくね。61はかわらけ。

遺構 199 (図 25)

円形を呈するピットである。遺構底面に礎板が遺存する。遺構 203 を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図 27)

62は手づくね。63はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 200 (図 25)

楕円形を呈するピットである。遺構 206 を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

64は手づくね。

遺構 201 (図 25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

65～66は手づくね。67はかわらけ。

遺構 202 (図 25)

楕円形を呈する土坑である。遺構 190・遺構 192 に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

出土遺物 (図 27)

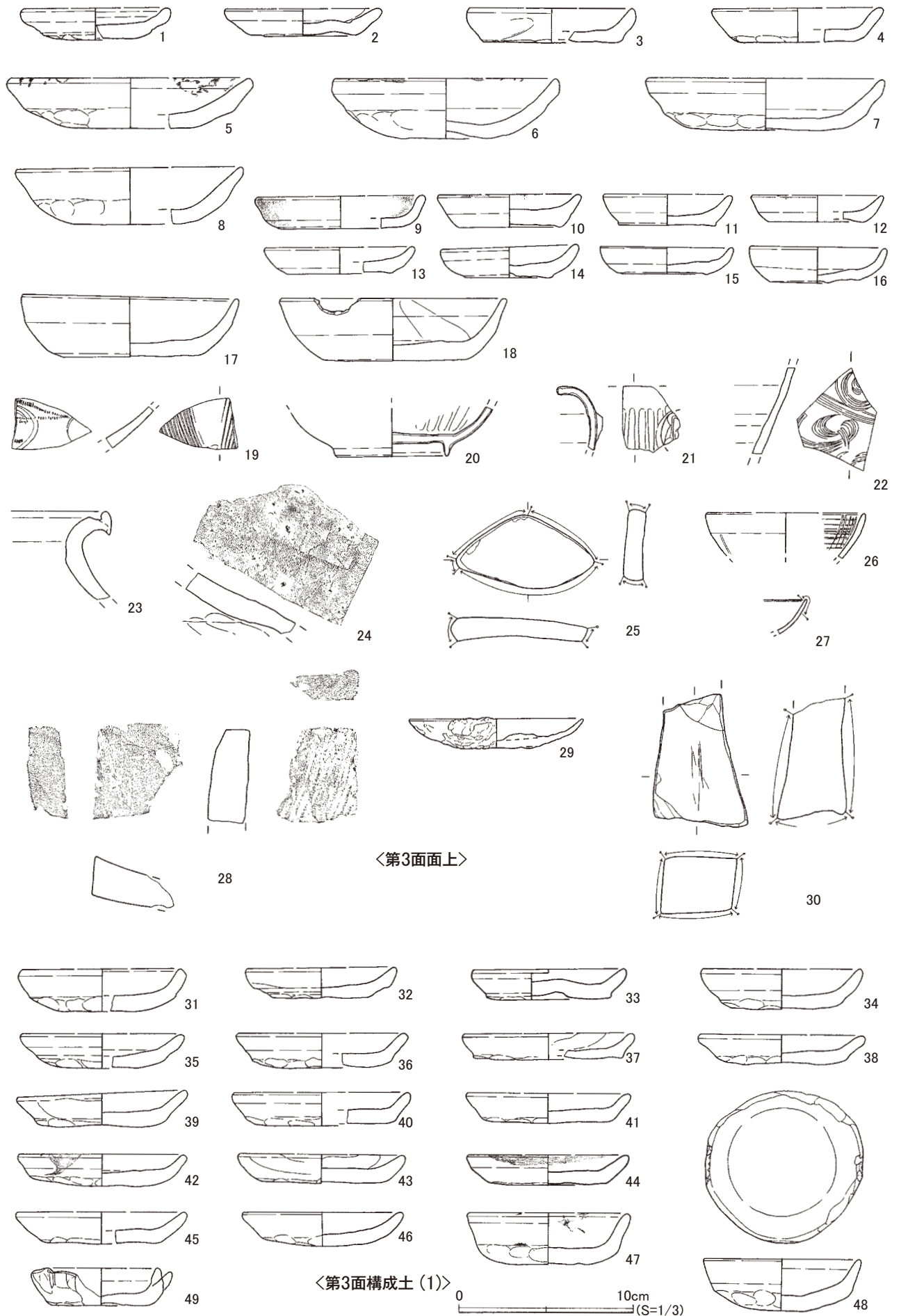


図28 第3面面上・構成土出土遺物(1)

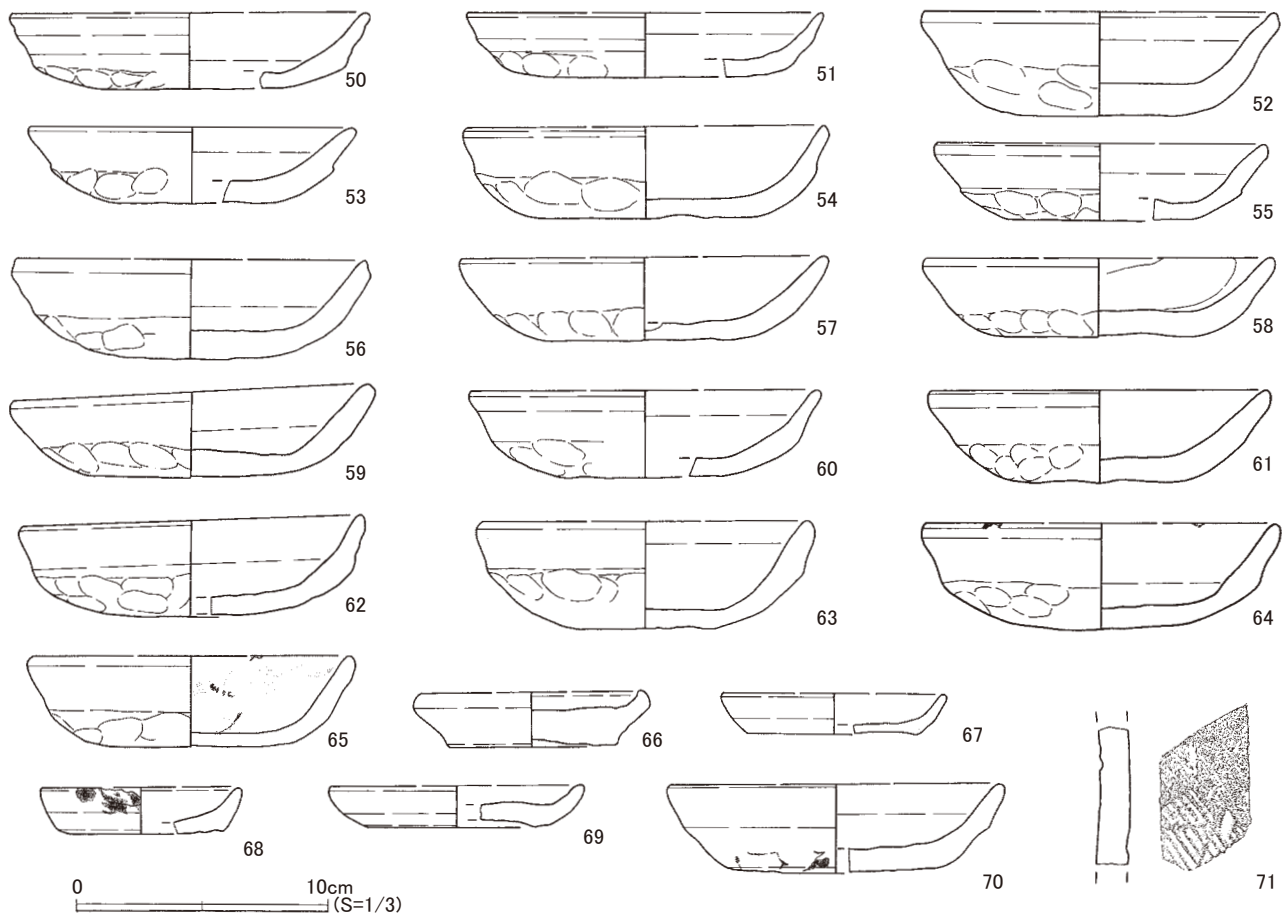


図29 第3面構成土出土遺物(2)

68～72は手づくね。73は白磁壺。74～75は常滑甕。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構203(図25)

円形を呈するピットである。遺構199に切られ、遺構141を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物(図27)

76～77は手づくね。78は青磁碗。79は常滑片口鉢I類。その他に山茶碗が破片で出土している。

遺構205(図25)

円形を呈するピットである。遺構193・遺構197に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物(図27)

80は手づくね。81はかわらけ。

遺構206(図25)

ピットである。遺構199・遺構200・遺構203と複数の遺構に切られ規模は不明。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物(図27)

82～84は手づくね。その他にかわらけ・獣骨が破片で出土している。

遺構207(図25)

調査区内を東西に走る溝である。断面逆台形を呈する。溝である。流下方向は西から東に走る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

出土遺物 (図27)

85は手づくね。86はかわらけ。その他に不明土製品・常滑甕が破片で出土している。

第3面面上出土遺物 (図28)

第3面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～8は手づくね。9～18はかわらけ。19は青磁櫛搔文碗。20は青磁鉢。21は青白磁水注。22は青白磁梅瓶。23～24は常滑甕。25は常滑甕転用品、断面四周が摩耗。26は瓦器碗。27は瓦器質黒縁皿。28は軒平瓦。29は鉄製品皿。30は石製品砥石。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)62片・(小)40片。手づくね(大)395片・(小)37片で、手づくね出土数の割合が高い。その他に青磁椀・青磁鉢・青磁香炉・白磁口元皿・緑釉器種不明・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・山茶碗・鉄製品釘・鉄滓・土師器甕・須恵器坏・獣骨が破片で出土している。

第3面構成土出土遺物 (図28・図29)

第3面遺構検出後、第4面掘り下げ中に発見した遺物である。31～65は手づくね。66～70はかわらけ。71は常滑甕。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)64片・(小)51片。手づくね(大)707片・(小)196片で、手づくねの出土数の割合が高い。その他に青磁器種不明・常滑甕転用品・常滑玉縁碗・山皿・砥石・不明鉄製品・不明木製品・木製品杭が破片で出土している。

第4節 第4面の遺構と遺物 (図6・図30～図42)

第4面は暗褐色弱粘質土・泥岩細片多・褐色有機質土を含む地業層上で確認した。発見した遺構はピット5穴・土坑4基・溝1条である。調査区の南壁に沿って数基の土坑を発見し、北側は大きく落ち込む溝状の遺構になると想定して掘り進め、北壁に沿って杭列を伴う溝(遺構218)を検出した。後に調査区中央に設けたトレンチの土層堆積の観察から、遺構218を含め4時期の溝に分かれる事を確認した。遺構218の下層で発見した遺構(溝)はトレンチを設けて土層の観察によって遺構を確認したため、全測図に平面図は報告していない。また、湧水が激しく調査区壁崩落の危険があったため発見した溝の底面を確認することはできなかった。調査区南側で発見した土坑は、溝(遺構215等)に沿った柵列等の可能性を考えたが、狭小な面積内では判断できなかった。また、礎石と礎板状の板材を面上から発見しているが、いずれもピット等の遺構を伴っておらず、上層の遺構の掘り残しであった可能性が大きい。第4面確認レベルは海拔11.20mである。また、中世の基盤層となる青灰色粘質土層は、遺構215・遺構219を確認したトレンチ壁の観察により海拔9.8mで確認している。

遺構208 (図30)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。遺構209を切る。遺構覆土は褐色弱粘質土・褐色砂質土多・泥岩・砂礫を含む。

出土遺物 (図30)

1～5は手づくね。6～7はかわらけ。8は青磁碗。9は産地・用途不明、火鉢Ⅰ類の底部に似る胎土を持つが、遺存する破片からは器種などが不明となった。参考遺物として掲載。10は平瓦、凹面に「宗清」のスタンプ。その他に瀬戸瓶子・常滑甕・木製品礎板・木製品篋が破片で出土している。

遺構209 (図30)

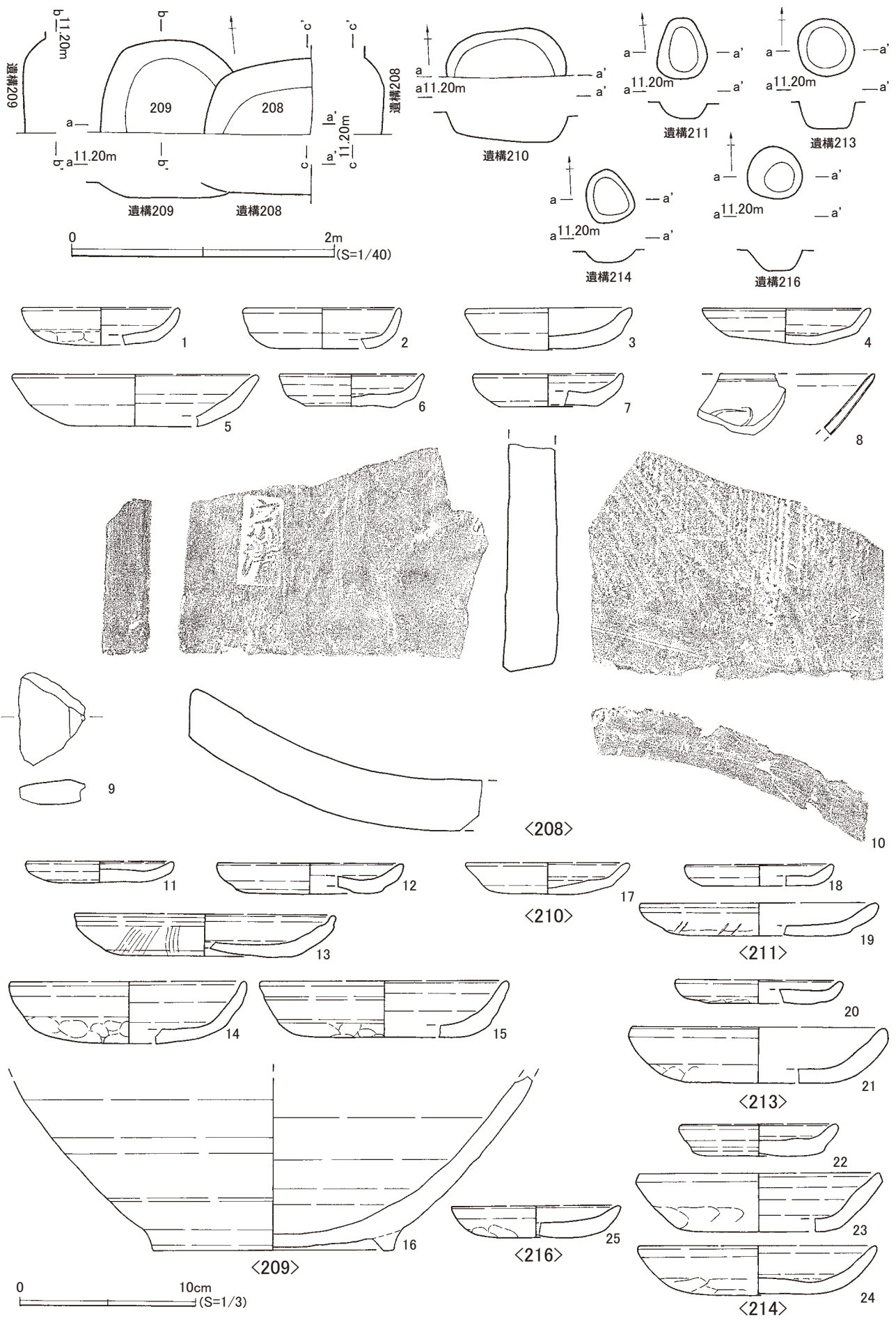


図30 第4面遺構・遺構出土遺物

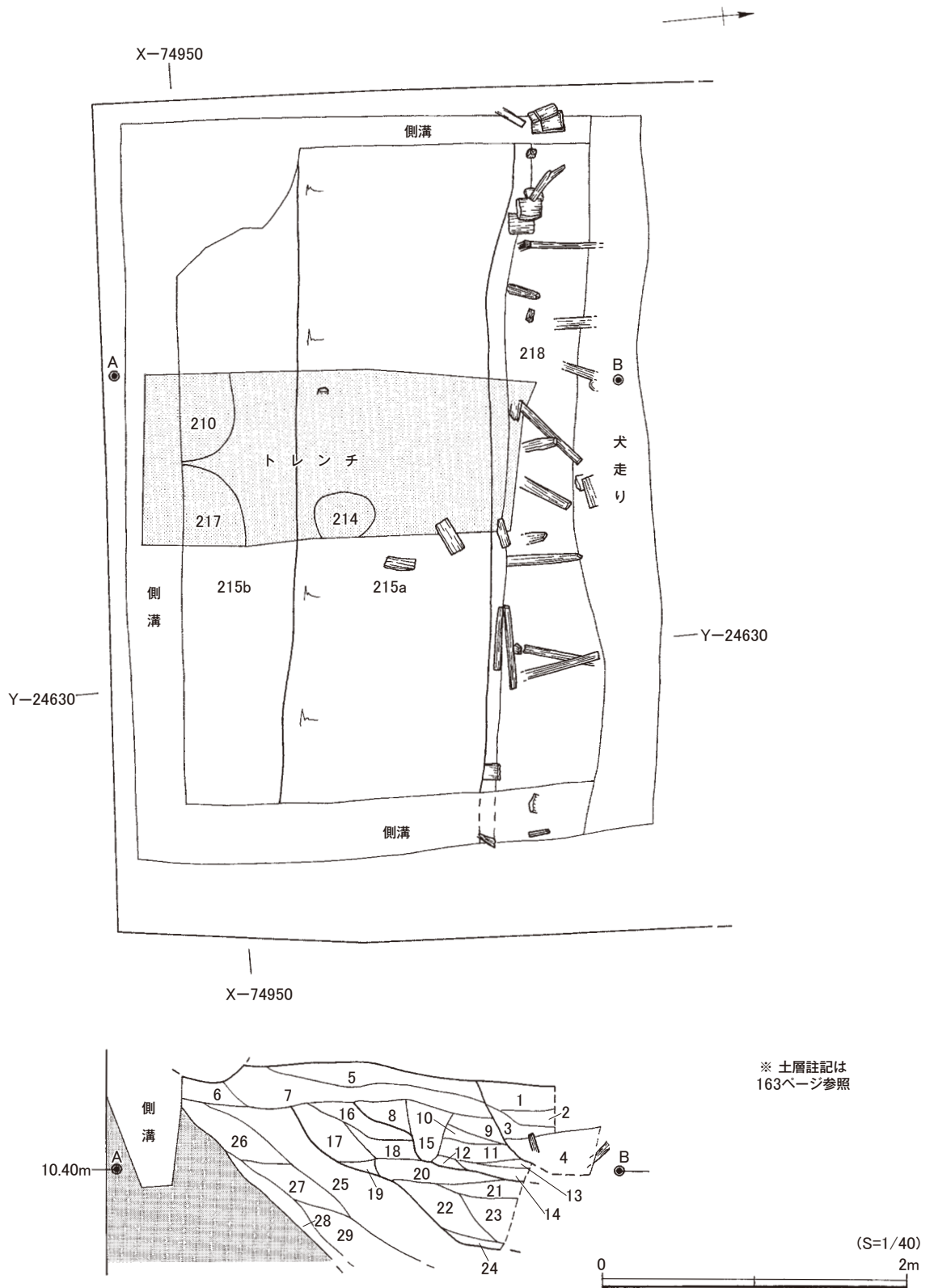


図31 第4面遺構215(a・b)・遺構218

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明である。土坑である。遺構217を切り、遺構208に切られる。遺構覆土は褐色弱粘質土・泥岩多・褐色砂質土を含む。

出土遺物(図30)

11～15は手づくね。16は渥美片口鉢。その他にかわらけ・白磁壺・常滑甕・常滑片口鉢I類・山茶

碗を破片で含む。

遺構210 (図30)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。遺構覆土は褐色弱粘質土・泥岩多・褐色砂質土を含む。

出土遺物 (図30)

17は手づくね。その他に青磁碗が破片で出土している。

遺構211 (図30)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図30)

18～19は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構213 (図30)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

出土遺物 (図30)

20～21は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構214 (図30)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

出土遺物 (図30)

22～24は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構216 (図30)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色粘質土・泥岩・炭化物を含む。

出土遺物 (図30)

25は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構215 (a・b)・遺構218・遺構219 (図31)

調査区内を東西に走り、緩やかに北に向かって下る溝状の遺構として遺構215の検出を進めたが、遺構215上層に杭列を伴う溝(遺構218)を検出中に確認し、第4面の遺構として報告した。掘削深度などの関係から遺構218下層の遺構を検出することが困難だったため、遺構218を検出後調査区の中央辺にトレンチを設け、後述する遺構215a・遺構215b・遺構219をトレンチ壁の土層堆積から確認した。それぞれ第4面を遡る遺構となるが、報告は第4面にまとめてある。遺構215a・遺構215b・218・219ともに、調査区外に遺構が延びているために規模、形状は不明となっているが、断面逆台形を呈する溝であったと考えている。遺構Noが前後するが、以下新しい遺構から順に報告する。

遺構218 (図31)

溝である。当初、北に向かって掘りこまれる大きな溝として遺構確認を行ったが、第4面構成土(5～7層)から掘りこまれる溝を調査区北端で発見したため、新たな遺構Noを付して確認作業を行った。堆積土層図の1～4層が溝覆土となる(覆土参照)。覆土内には、多くの木片・有機質土が堆積していた。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明だが、断面逆台形を呈すると思われる。溝壁に沿って約50cm～70cmの間隔で杭列が遺存していたが、規則性は感じられない。調査区北壁にも数本の杭を確認しており、検出した杭に対応するものであったと思われる。また、溝壁の側板は検出していない。溝の深さは約70cmを測るが、採集した杭の長さを測ると61cm～97cmを測り、溝高よりも高くなること

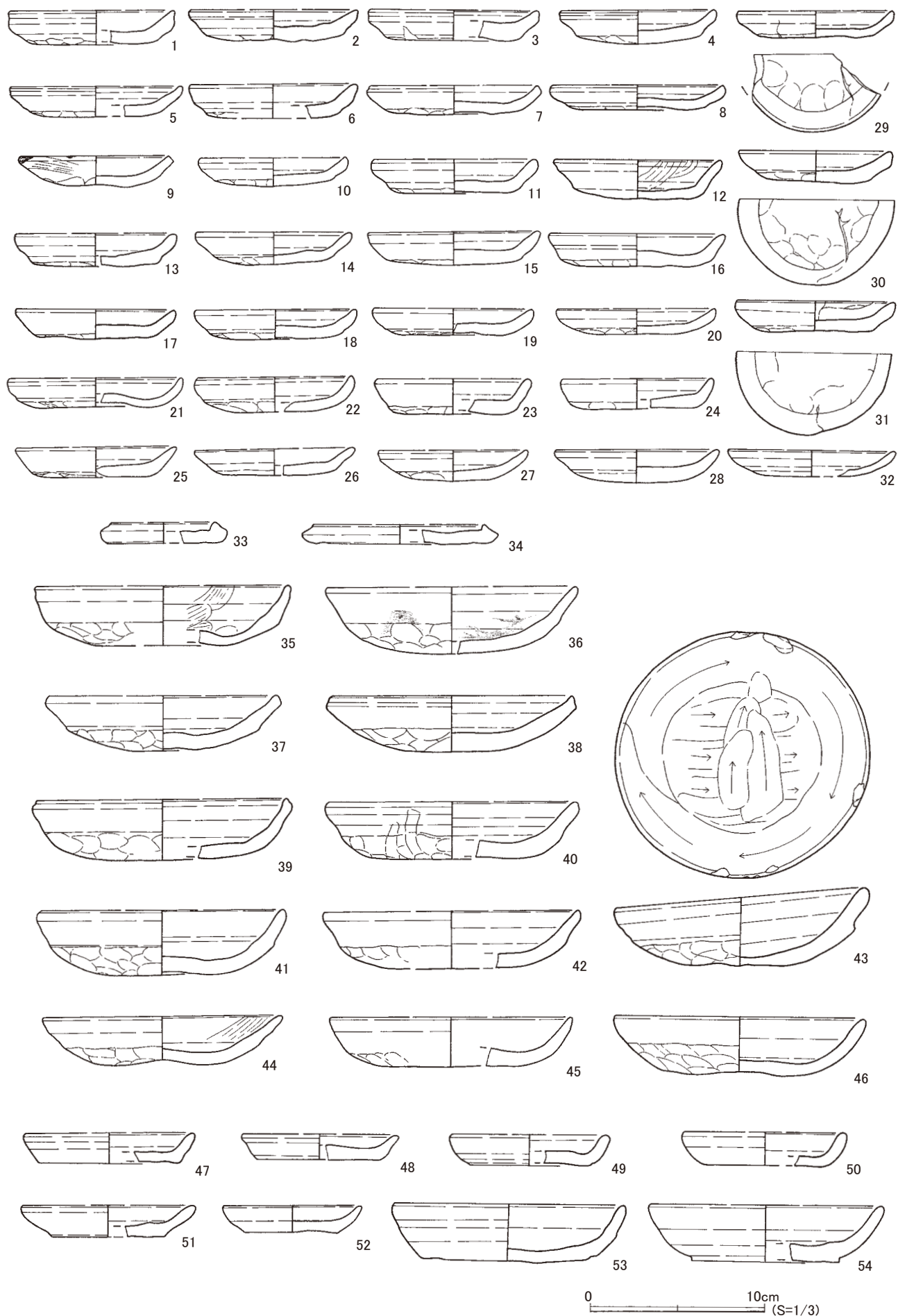


图32 第4面遺構218出土遺物(1)

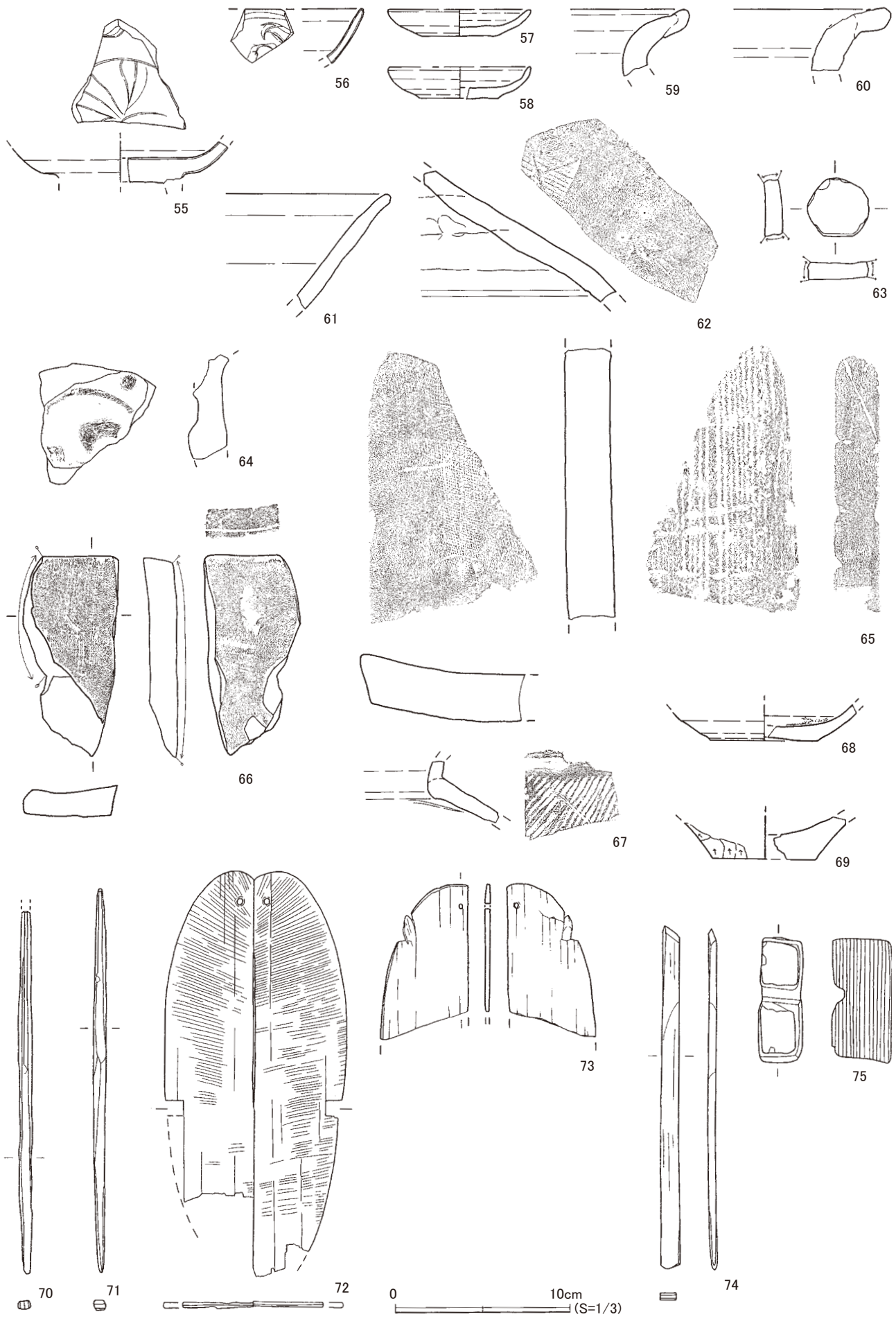


图33 第4面遺構218出土遺物(2)



図34 第4面遺構218出土遺物(3)

から溝の深さは100cm近くあったと思われ、溝上層は削平を受けたと考えている。

遺構218出土遺物(図32～図34)

1～46は手づくね。29～31は切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕が顕著に遺存する。43は内底のナデ方向が顕著に残る例として、ナデの順位・方向を図に示した。47～54はかわらけ。55～56は青磁碗。57～58は山皿。59～60は渥美甕。61は常滑片口鉢I類。62は常滑甕。63は常滑甕転用品。64は軒丸瓦。65は平瓦。66は瓦転用品。67は須恵器甕。68は産地不明白色土器。69は土器器種不明。70～71は木製品箸。72～73は木製品草履芯。74は木製品篋。75は木製品用途不明。76～80は木製品杭。端部を削り出すなど加工の痕跡が残る。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)44片・(小)26片。手づくね(大)543片・(小)134片で手づくね出土数の割合が高い。その他に青磁鉢・

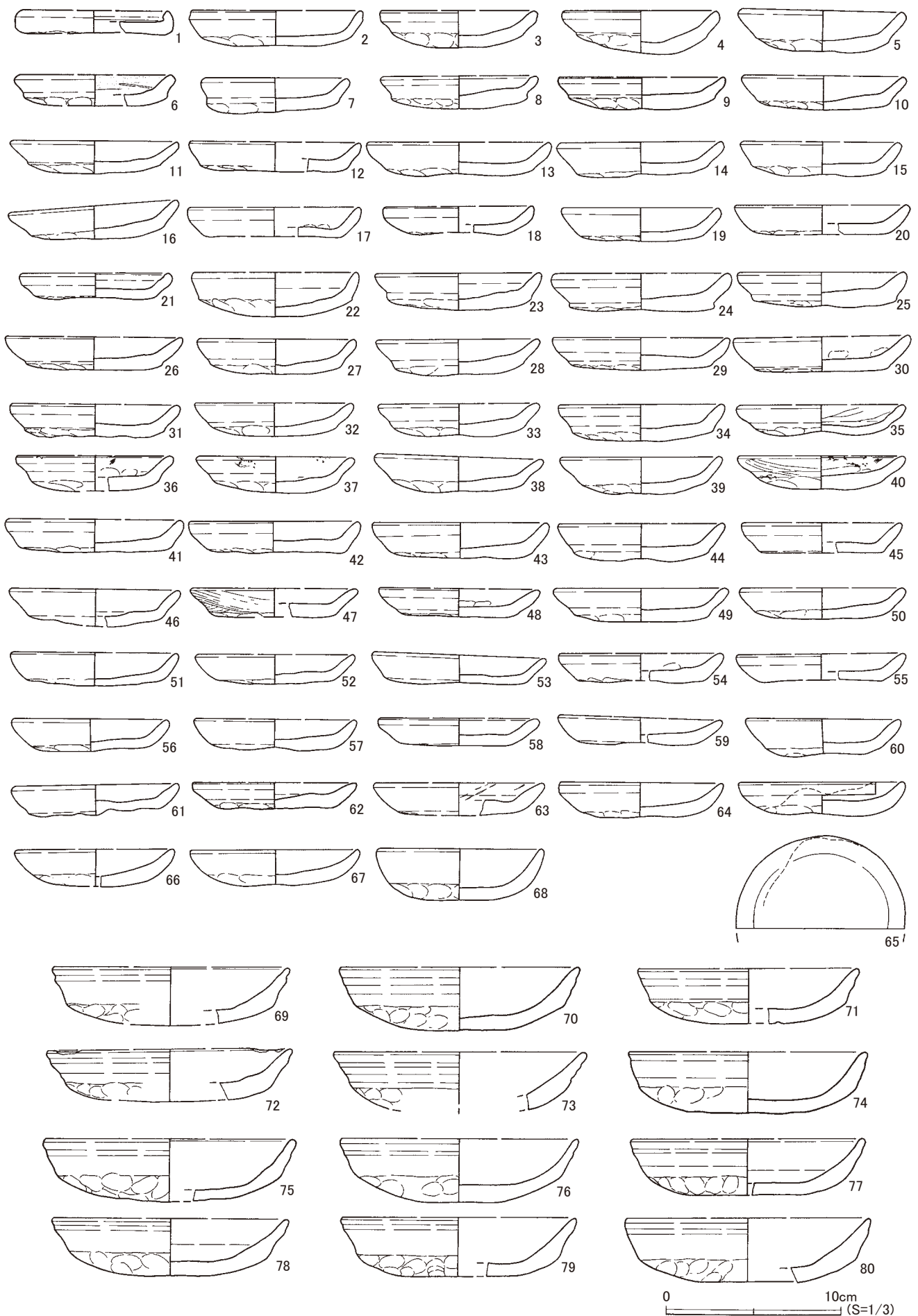


图35 第4面遺構215出土遺物(1)

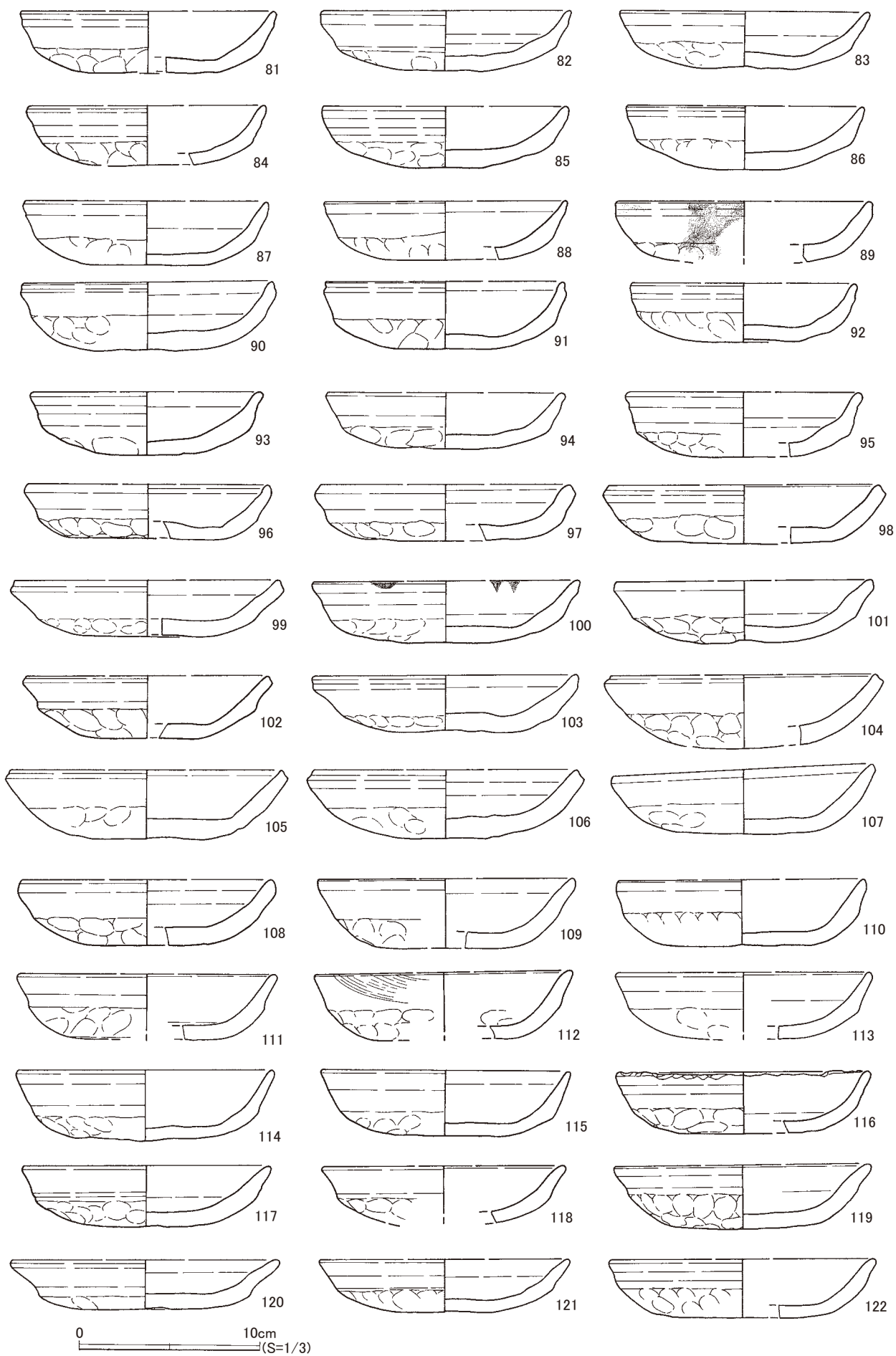


图36 第4面遺構215出土遺物(2)

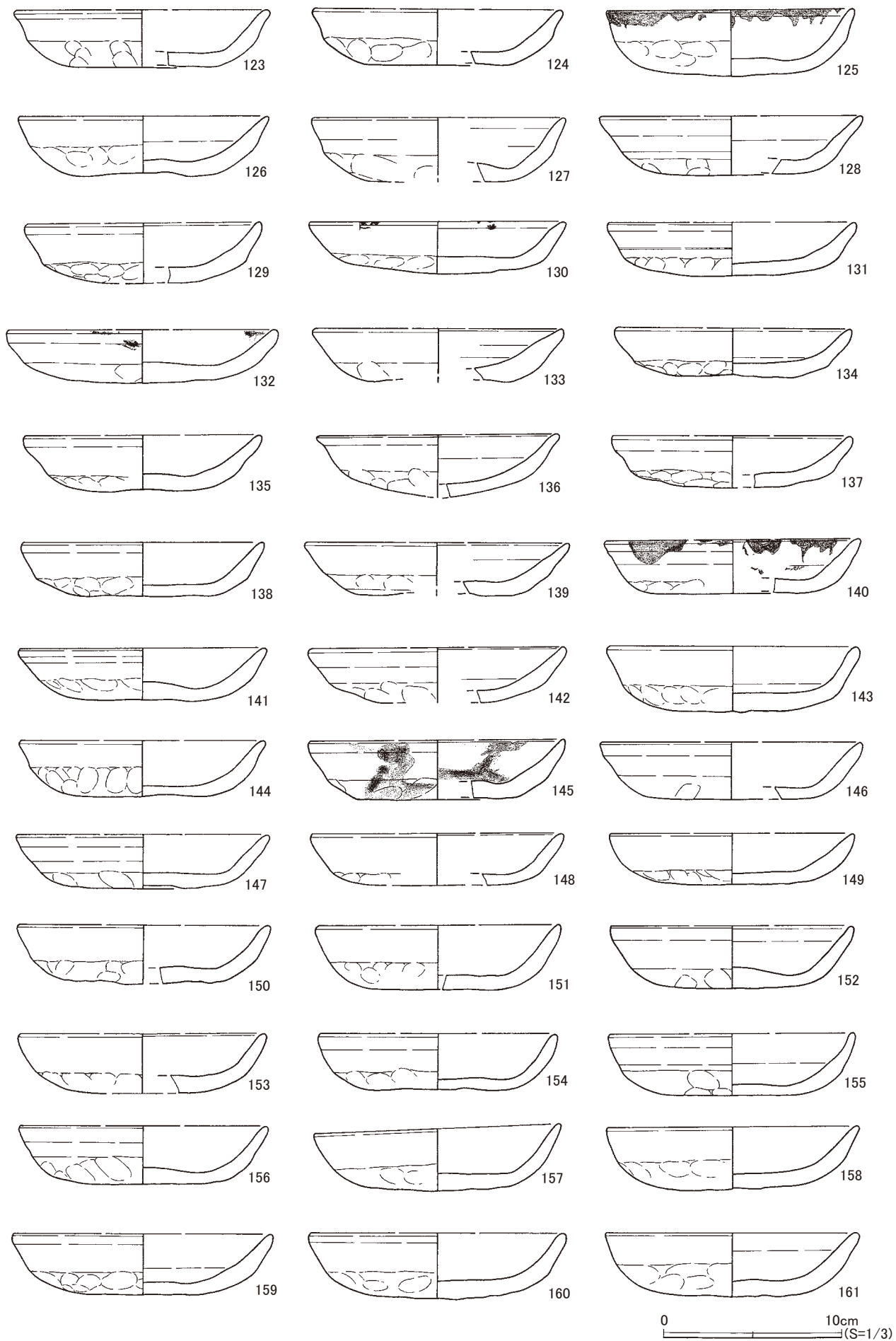


图37 第4面遺構215出土遺物(3)

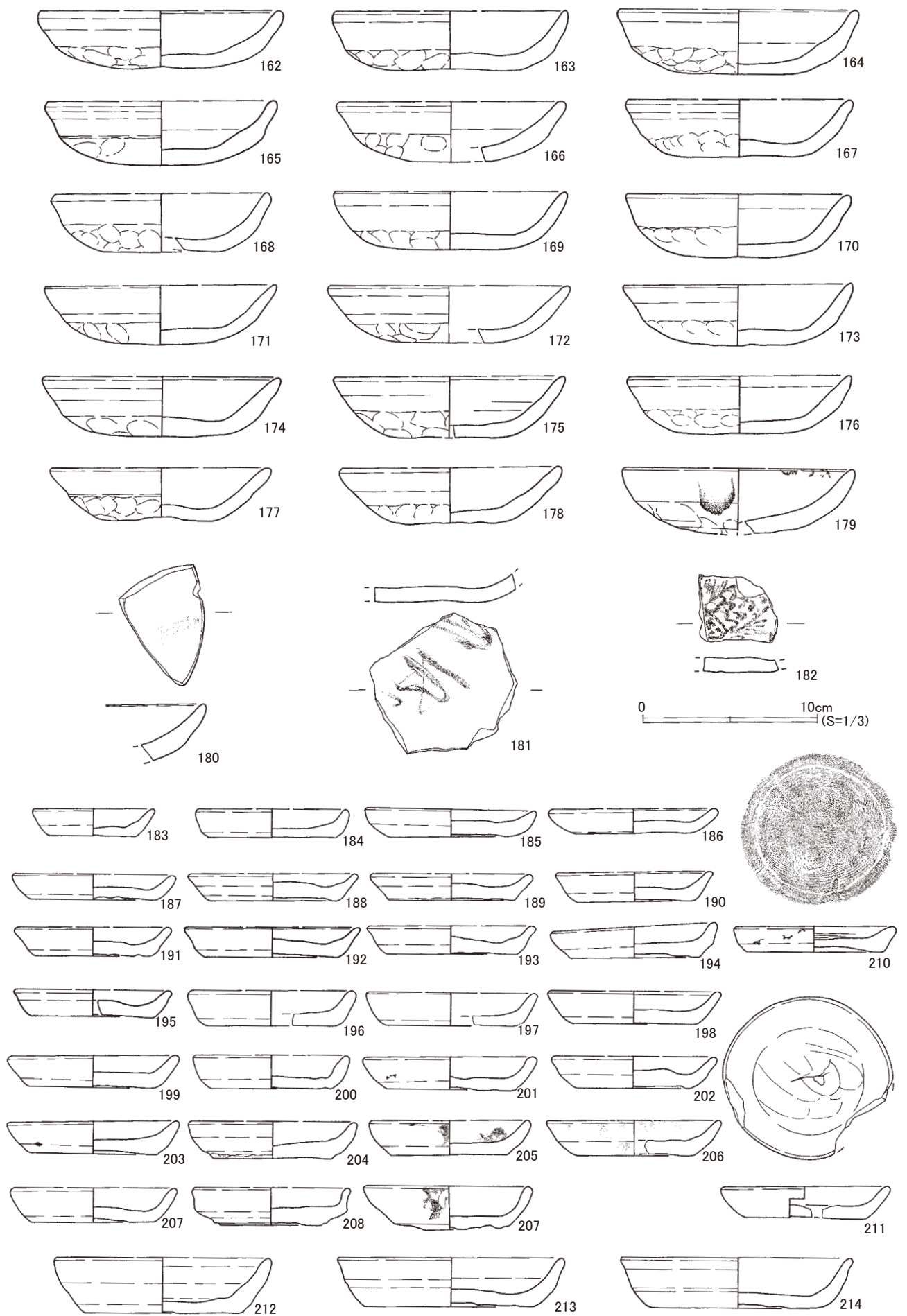


图38 第4面遺構215出土遺物(4)

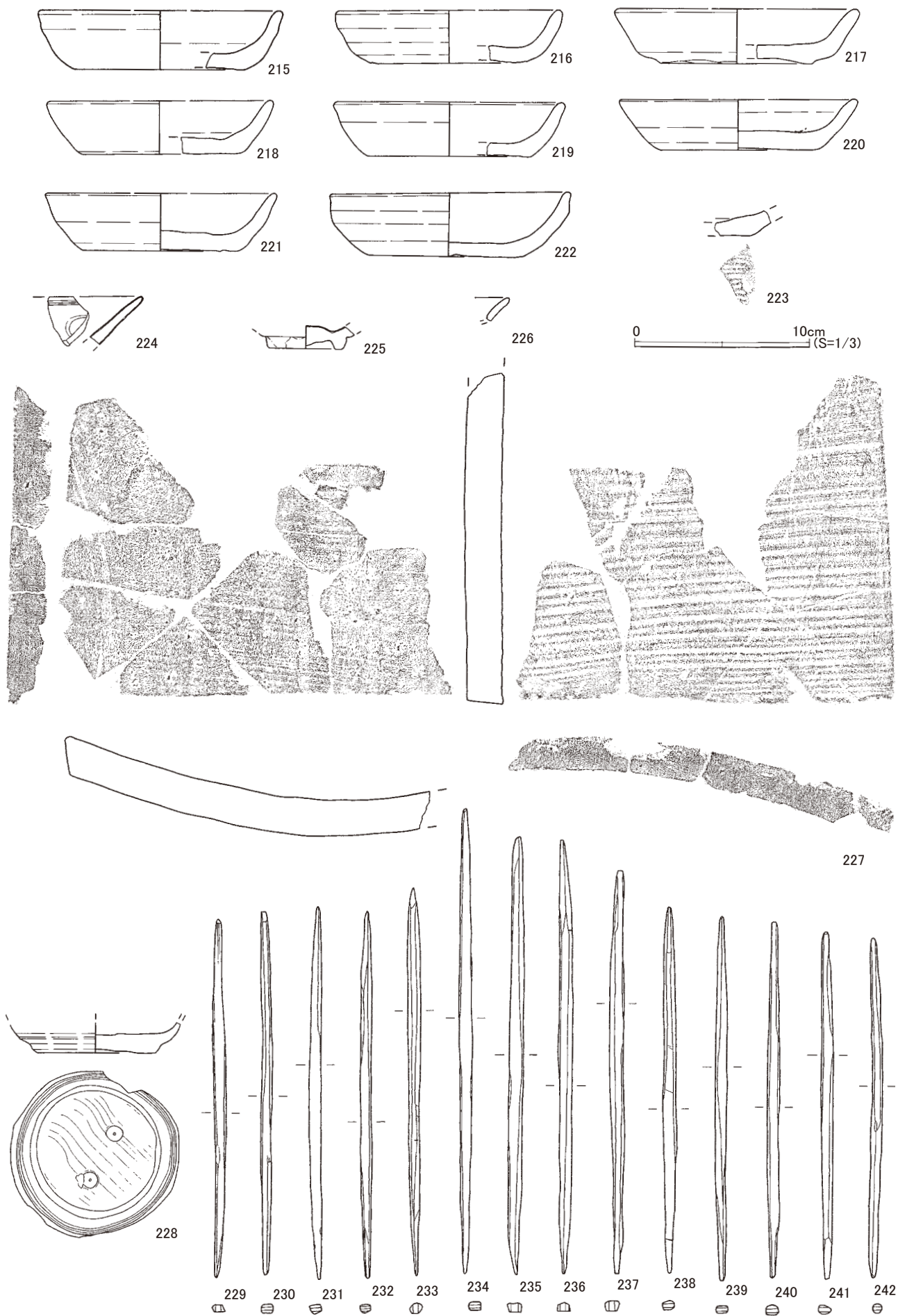


图39 第4面遺構215出土遺物(5)

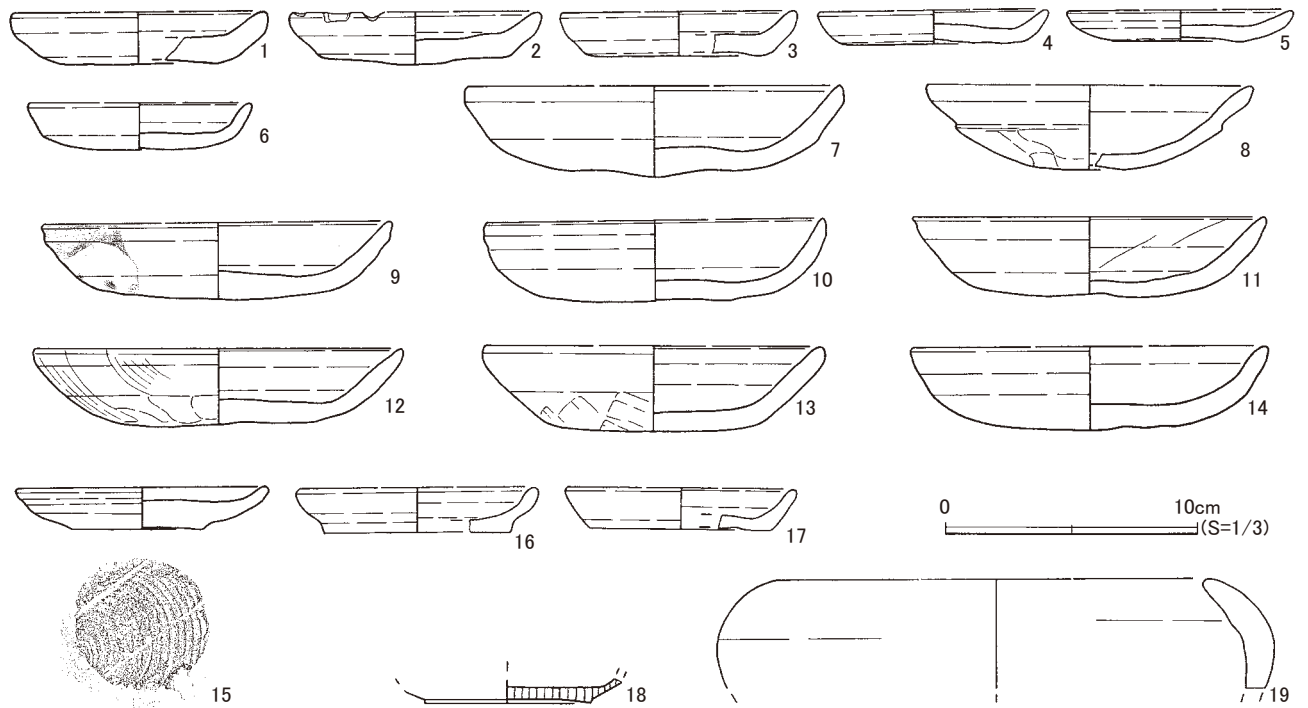


図40 第4面遺構219出土遺物

白磁壺・瀬戸皿・瀬戸瓶子・常滑片口鉢Ⅰ類・土師器甕・木製品折敷・木製品曲物・木製品杭・木製品礎板・木製品棒状・貝・獣骨が破片で出土している。

遺構215a(図31)

溝である。遺構218に切られる。堆積土層図の8～15層が溝覆土となる。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。遺構218同様に断面逆台形を呈すると考えている。15層は有機質土とともに、泥岩細片を多く含む覆土を持ち柱穴と考えている。北壁で15層検出層と同じ層位から杭を発見しており、遺構218同様に溝壁に杭を伴うと考えている。深さは約50cmを測る。

遺構215b(図31)

溝である。堆積土層図の16～24層が溝覆土となる。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。断面逆台形を呈する。深さは約90cmを測る。最下層の24層には貝砂と砂利が多く堆積していた。

遺構215a・遺構215b出土遺物(図35～39)

遺構215aと遺構215bは、調査時は一つの遺構として扱い、整理作業時に遺構を分けたため、遺物は一括して採集している。

1～182は手づくね。1はコースター型。7・33・65は切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕が残る。180～182は内外面一部に墨書痕。文字は判別できなかった。183～223はかわらけ。223は小片だが底部糸切り痕が静止糸切りの様子を呈しているため報告している。210は内底を櫛状工具によって整形していた。224～225は青磁碗。226は白磁皿。227は平瓦。228は漆器皿、外底部にロクロ目痕。229～242は木製品箸。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)2片・(小)109片。手づくね(大)2385片・(小)459片で、手づくね出土数の割合が高い。その他にかわらけ・青磁皿・青白磁器種不明・白磁口元碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑器種不明・山皿・渥美甕・鞆の羽口・土師器甕・土師器坏・木製品下駄・木製品部材・木製品篋・木製品礎板・木製品棒状・獣骨が破片で出土している。

遺構219(図31)

溝である。堆積土層図の25～29層が溝覆土となる。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。激しい湧水のため遺構底面を確認することはできなかった。27・28層の最下層からは、砂利、摩耗した遺物が検出されている。また、25層から静止糸切りのかわらけ、29層からは髹漆していない木地椀が出土している。深さ110cm以上を測る。

遺構219出土遺物(図40)

1～14は手づくね。15～17はかわらけ。15は底部静止糸切りのかわらけである。18は木製品皿か、生地のままのようにも見えるが漆が剥離した可能性もある。19は漆器鉢か。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・渥美甕・土師器甕・木製品箸・木製品折敷・木製品曲物・木製品篋・木製品礎板・木製品棒状・貝・獣骨が破片で出土している。

第4面面上出土遺物(図41)

第4面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～21は手づくね。22～25はかわらけ。26は青磁碗。27は常滑片口鉢Ⅰ類。その他に木製品棒状・獣骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)22片・(小)13片。手づくね(大)298片・(小)67片で、手づくね出土数の割合が高い。

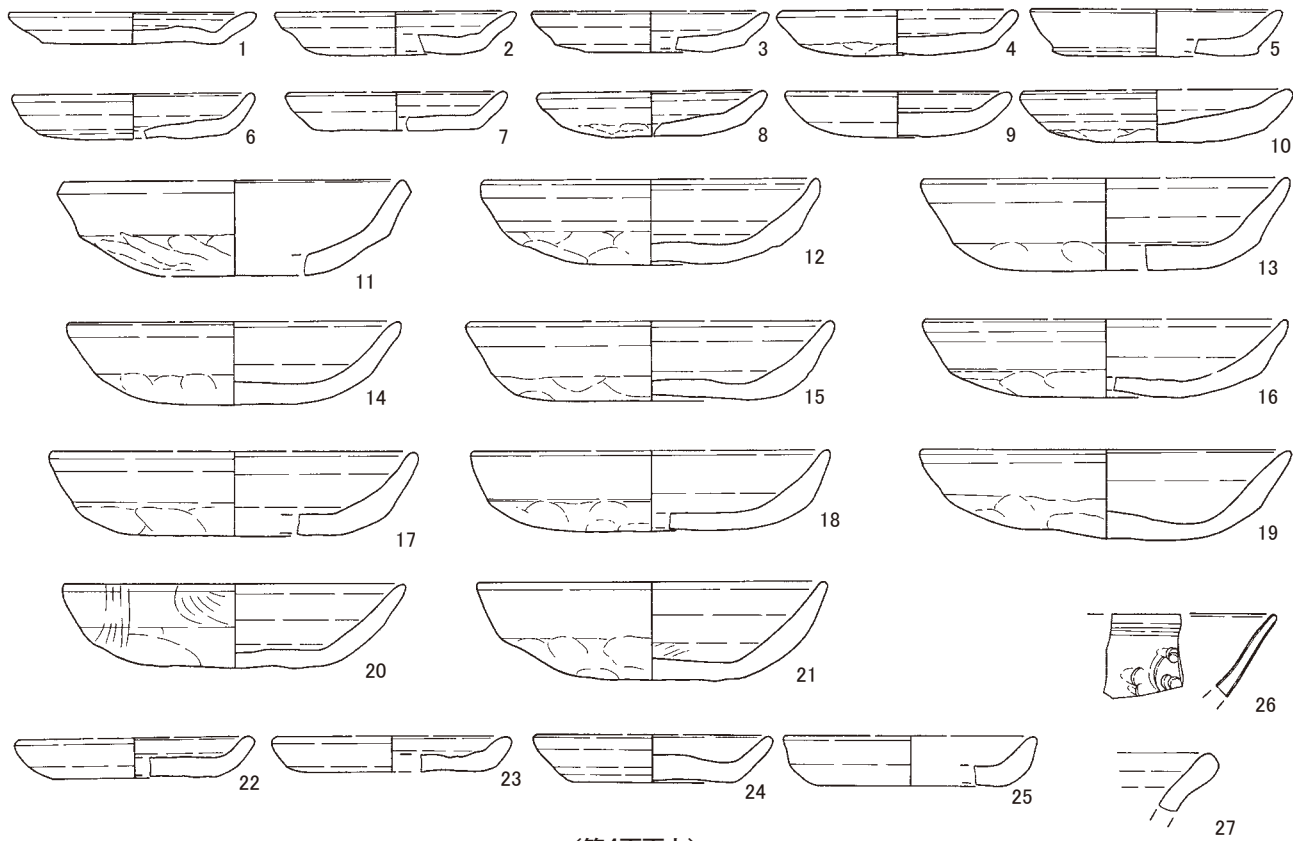
第4面構成土出土遺物(図41・図42)

堆積土層図(図31)の5～7層で出土した遺物である。28～69は手づくね。70～78はかわらけ。79は白磁四耳壺。80は渥美片口鉢。81～82は渥美甕。83～84は常滑甕。85は漆器器種不明、御所車の手描き施文。86～87は木製品用途不明。その他に青磁劃花文碗・平瓦・漆器椀・漆器皿・木製品箸・木製品草履芯・木製品部材・木製品篋・木製品棒状・獣骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)0片・(小)26片。手づくね(大)738片・(小)80片で、手づくね出土数の割合が圧倒的に高い。

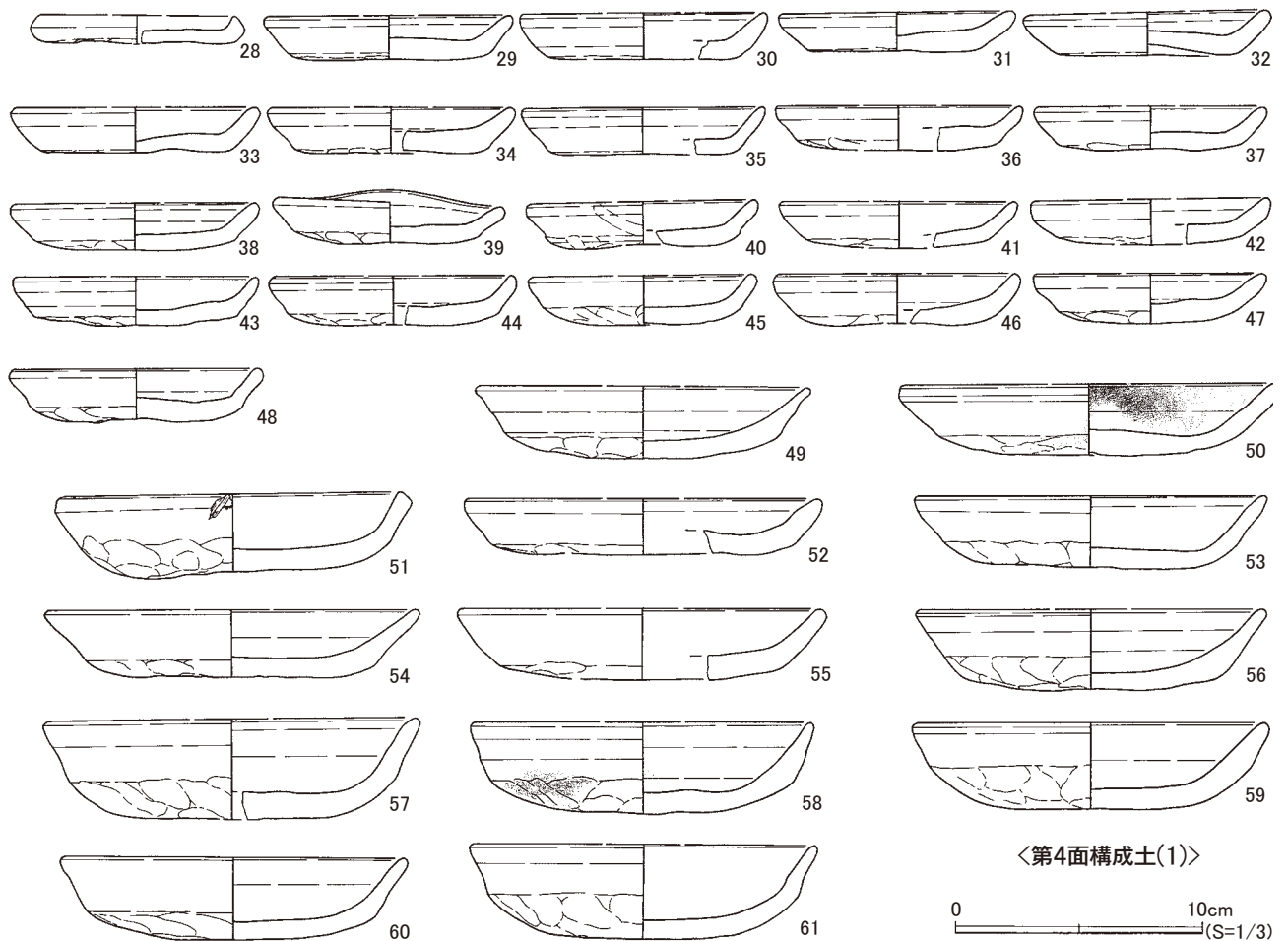
第5節 表土出土遺物(図43)

調査時に調査区内表土及び調査地域内から出土した遺物である。

1～16は手づくね。17～30はかわらけ。31は白磁口元皿。32は常滑片口鉢Ⅰ類。33は土器質火鉢。34～35は瓦。34は軒平瓦。35は丸瓦。36は土製品壺。37は鉄製品釘。38～40は銭。その他に青磁蓮弁文椀・青磁椀・青磁皿・白磁口元椀・白磁椀・青白磁梅瓶・青白磁合子・青白磁椀・瀬戸碗・瀬戸折縁深皿・瀬戸卸皿・緑釉器種不明・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・滑石製品・獣骨が破片で出土している。



〈第4面面上〉



〈第4面構成土(1)〉

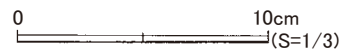


図41 第4面面上・構成土出土遺物(1)

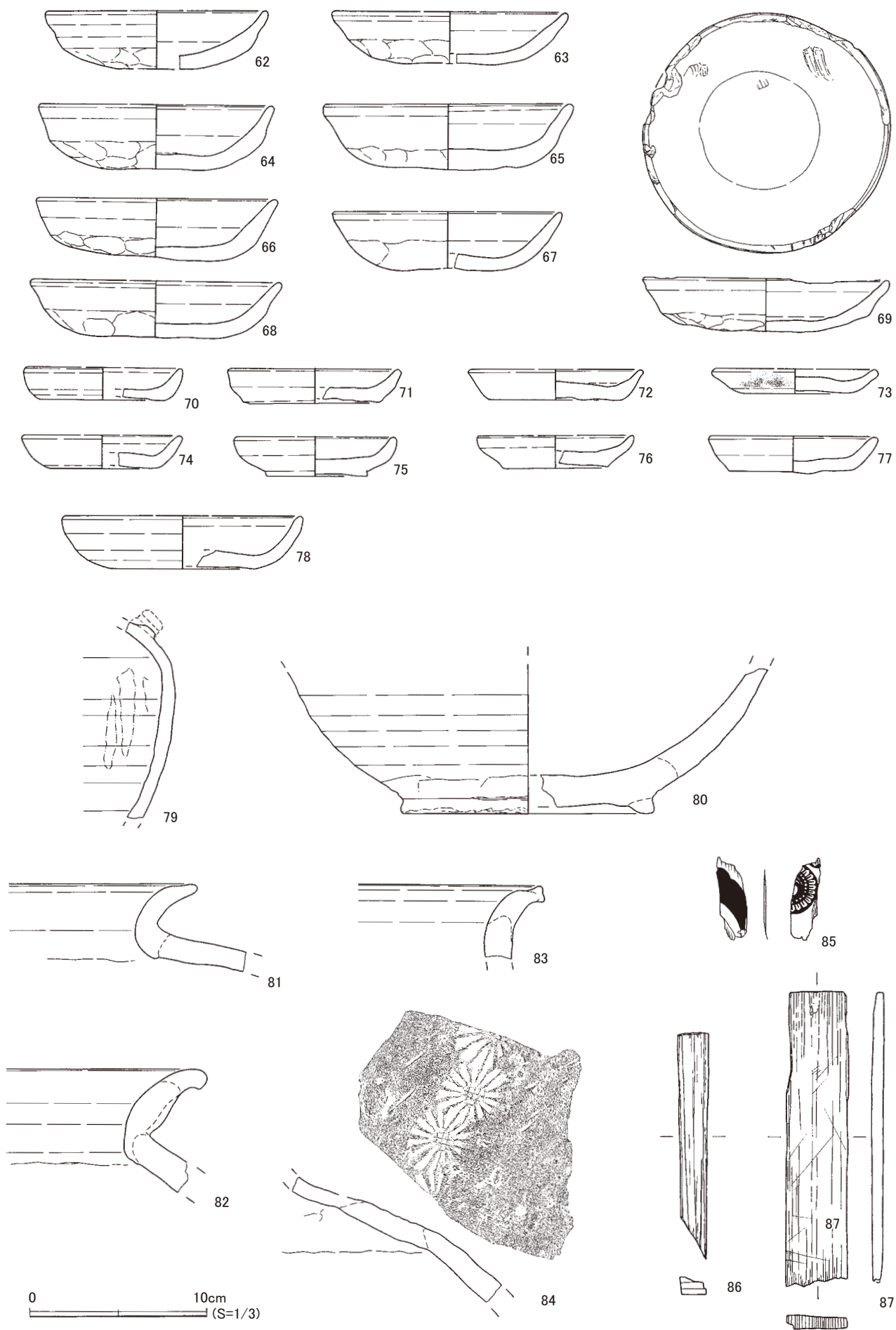
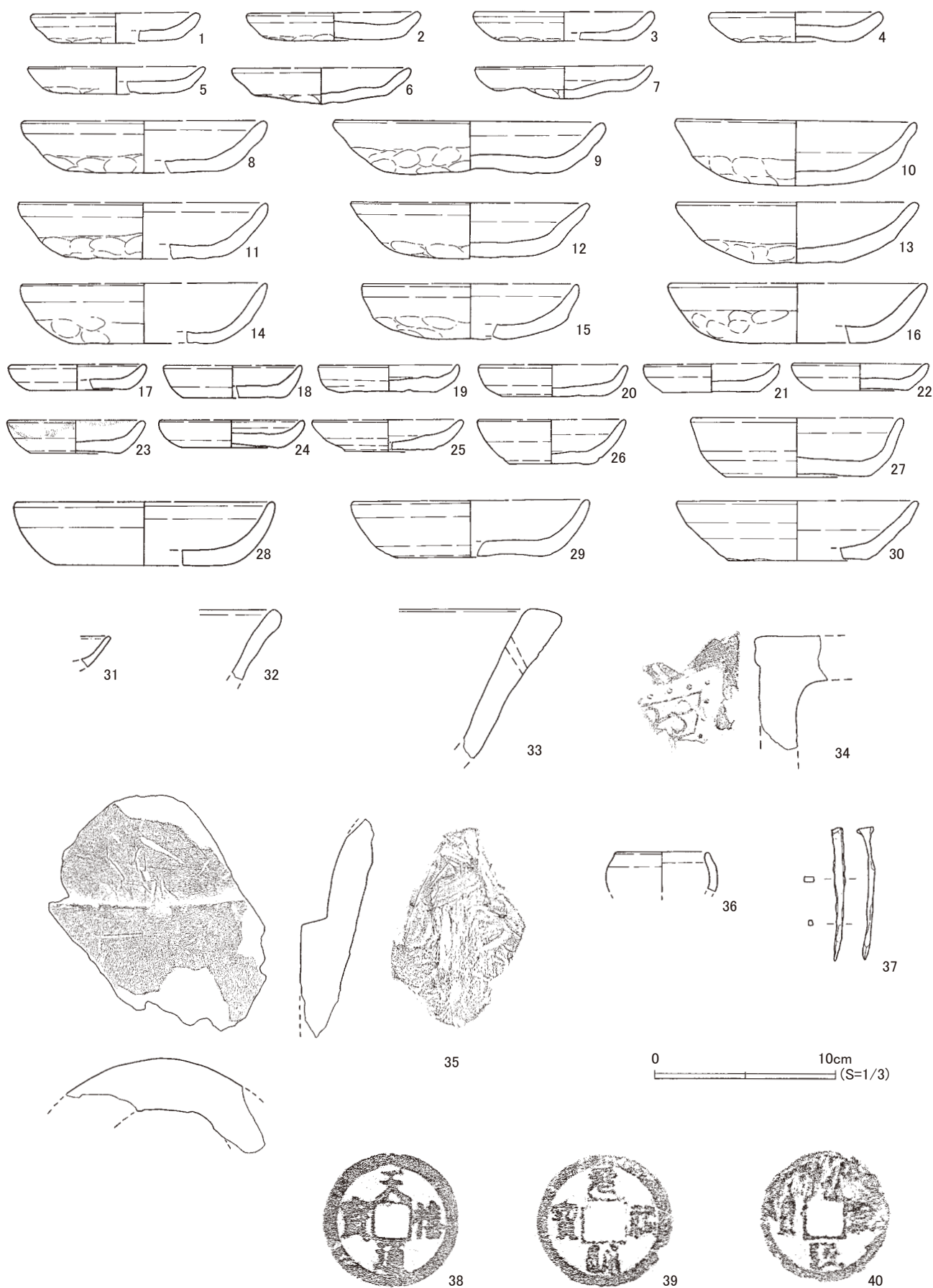


图42 第4面構成土出土遺物(2)



〈錢・原寸〉

圖43 表土採集遺物

第三章 まとめ

本調査地は大倉幕府跡推定域の南東隅にあたる。大倉幕府の範囲については、いまだ議論され結論を導く実証を得られていない。しかし、神奈川県遺跡台帳および、『鎌倉市史・総説編』では現横浜国立大学付属小学校の東縁を南北に走る道路を推定域の西限としているが、学校建設以前に筋違橋から校庭を横切り、現在も校庭北側に残る道路と繋がり南北に延びる道が幕府域の西限であったと考える説を、近年の調査成果は有力としている。また、南限についても中世から現在まで鎌倉市中と外域を結ぶ幹線道路として機能している県道金沢鎌倉線北側に沿った調査地で発見した中世の道路址、道に沿った柵、あるいは堀の柱穴列、大型の溝等の成果から幕府域の南限と推定されている。

以下、発見した順に遺構・遺物の簡単なまとめを行いたい。

(1) 検出した遺構と遺物

本調査では破碎泥岩を使用し堅く締まった地業層上で4枚の生活面を検出した。それぞれの面で発見した遺構は短期間に造り替えを行い、多くの遺構が切り合って発見されている。第3面調査時に、豪雨と湧水の影響で調査区の北壁が崩落したため、第3面以降は調査面積を狭めて調査を実施した。また、第4面では4時期の溝を発見しているが、湧水が激しく調査壁の崩落など調査に危険を生じたため、トレンチを設け下層の溝は土層堆積で確認し、遺構を検出する事は出来なかった。4枚に分けた生活面の年代はかわらけ、国産陶磁器の年代観から比定している。本調査で出土した遺物は整理箱数にして計55箱、内8箱が木製品であった。

第1面は2時期の遺構を発見した。現代埋土・近世耕作土によって削平を受けた遺構が多くあり、一部遺物が混乱してしまった不安が残る。地業層は破碎泥岩を使用し、固く締まった地業である。発見した遺構は南・東部に集中しているが、北・西部は近世に削平を受けたと考えている。遺構覆土には焼土粒や炭化物が多く含まれており、火災後に遺構を廃棄し埋めたのかもしれない。出土した遺物の多くは回転ロクロ成形のかわらけであった。手づくね成形のかわらけも出土しているが、その大半は細片であった為に報告した遺物はわずかである。第1面は概ね14世紀代の年代を与えているが、15世紀まで下る可能性もある。

第2面の地業は不整形な泥岩の層下に玉石が並べられ、その下層に細かく砕いた泥岩が堆積し地業を形成している様子を調査区壁で確認している。玉石を建物の前庭などに敷いて、装飾的な効果を求めるやり方は寺社や武家屋敷などで多くみられるが玉石を使った地業は珍しい。特異な場であったのだろうか。調査区内で直線的に南北が断絶されたかのように地業は切れ、南側はやや脆弱な地業の様相を呈していたが、南側の地業は上層の遺構・堆積層によって削平を受けたものと考えている。南側でも玉石・破碎泥岩が散逸している状況を確認している。第2面では、面上・遺構出土ではロクロ成形・手づくね成形のかわらけがほぼ同量の破片数であるが、構成土出土では手づくね成形かわらけがロクロ成形かわらけの3倍となる。また、常滑製品の出土量が多くなる。第1面同様に多くの遺構を発見しているが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。第2面は13世紀後半から14世紀の年代を与えている。

第3面は調査区北壁が豪雨と湧水の影響で崩落してしまったため、面積をやや狭めて調査を実施した。

破碎泥岩を多く含む茶褐色弱粘質土の堅く締まった地業層上で3時期の遺構を確認している。検出したピットの多くに、遺構底面に礎板の遺存するものや、柱材とも思える木質が遺構覆土に含まれるものを確認しているが、建物址を推察することはできなかった。調査区内を二分するように東西に溝が走るが、溝の南北で遺構や遺物の発見に大きな違いはない。第3面はロクロ成形のかわらけと手づくね成形のかわらけの破片数が大きく変化し、手づくね成形かわらけの破片数がロクロ成形かわらけの約5倍となる。第3面は13世紀第4四半期の年代を与えている。

第4面も調査区壁崩落の危険を考え、さらに面積を狭めて調査を実施した。湧水のために表層がやや脆弱となったが泥岩細片・褐色有機質土を多く含む地業層上で遺構を確認している。調査区の南壁に沿って数基の土坑を発見し、土坑の北側は大きく落ち込む溝状の遺構になると想定して掘り進めたが、北壁に沿って杭列を伴い東西に走る溝（遺構218）を検出したため、数基の土坑と溝（遺構218）を第4面遺構として報告した。第4面では、更に手づくね成形のかわらけの破片数が増え、手づくね成形かわらけの破片数がロクロ成形かわらけの約15倍となる。第4面は13世紀中頃の年代を与えている。溝（遺構218・215・219）からは、大量の木製品が出土しているが、その多くは加工後の端材であった。

全測図に遺構の報告はないが、調査区南側で検出した土坑の際から落ち込むように堆積していた土層は、調査区中央に設けたトレンチの土層堆積の観察から、第4面遺構218を含め4時期の溝に分かれる事を確認した。平面での調査をせず、トレンチ内で採集した一部の遺物から比定することは危ういが、遺構215aと遺構215bは出土遺物の年代観に大きな相違がなく、短期間に造り替えが行われたと考えている。出土遺物は遺構検出時に一部混乱してしまい、確実に遺構215bとわかるもの以外は上層の遺構215aに一括して報告している。遺構215aと遺構215bは出土遺物から13世紀第3四半期の年代を与えている。

遺構215a・遺構215b下層で検出した遺構219は湧水量が多く、遺構の底面を確認することができなかったが、青灰色粘土の中世基盤層を掘りこんでいる。遺構底面近くの覆土からは泥岩細片とともに、砂利、摩耗した手づくねなどが出土しているが、遺物の出土量は大きく減少する。底部を静止糸切りしたかわらけ、髹漆していない生地皿などが出土した。遺構219は13世紀第2四半期の年代を与えている。

(2) まとめ

本調査地の東に接する遺跡地、雪ノ下三丁目637番2外地点（以降A地点）では5枚の生活面を発見し、上層から第1面を14世紀以降、第2面を13世紀後半、第3面を13世紀中頃から後半、第4a面を13世紀中頃、第4b面の一部で弥生中期後半から古墳前期の年代を報告している。A地点第1面から第3面で発見した遺構・遺物は、武家屋敷の様相を示していると報告されているが、本遺跡地の第1面から第3面は検出レベルをほぼ同じくし、建物址を推察することはできなかったが、固く締まった地業層上で礎板・礎石を伴うピットをはじめとする遺構を発見しており、隣接するA地点同様に屋敷地の一角であった可能性を考えている。A地点第4a面では幅約5.1m、深さ2.7mの薬研掘りの溝（遺構91）と、同じ層位から薬研掘りの溝とは軸方位がやや異なる溝（遺構96）が発見されている。第4a面を検出した海拔は約11.30mである。薬研掘りの溝は大倉の地に幕府を構えたときに鬼門の守護神とした荏柄天神の参道に対して平行に近い軸方位を示していることや、推定ではあるが幅、深さともに規模の大きな溝であること等から幕府東限の境界溝ではと推定し、もう一条の溝、遺構96は薬研掘りとは軸方位がやや異なり、調査地の東に接して流れる東御門川と軸方位を同一とすることから、河川に沿うもので境界としての役割を



図44 本調査地とA地点位置図

担った溝ではないと報告されている。性格が違っていると報告される2条の溝だが出土遺物からは時期差を示すことが出来ず、共に埋没期を13世紀中頃と推察している。A地点第4a面とほぼ同じ検出レベルで発見した本遺跡地第4面の4条の溝は調査区外に遺構が延び正確な規模・形状は不明であるが、底面を境に左右対称の立ち上がりを持つと想定すると、上層の遺構218は、幅約140cm、深さ50～100cm。遺構215aは幅約240cm、深さ50cm。遺構215bは幅約360cm、深さ90cm。下層の遺構219は幅約380cm、深さ120cm以上になり、遺構218を除きやや大型の溝であったと考えられる。それぞれの溝は東に延びるとA地点第4面の溝に交わることになる。図面上では本調査地点で発見した溝とA地点遺構96はほぼ直交するが、大型の薬研掘りであるA地点遺構91は軸方位をやや異にする。

調査地の北側を東西に走る道、通称「桜道」と呼ばれる道路下には暗瀬となっている流路があり、以前は「堀川」と呼ばれる川が流れていた。また、中世に存在していたかは不明であるが、幕府指定域北

限となる道路下にも明治42～43年(1909～10)に開墾された「溝川」と呼ばれる河川があったといわれ、幕府郭内を区切る溝(掘り)が東西方向に何条か設けられていたと考え、本遺跡で発見した溝もその例であったのかもしれない。

<トレンチ壁・土層注記>

P145参照

1. 茶褐色弱粘質土 泥岩塊・泥岩細片中量・泥岩粒・炭化物少量
2. 暗褐色弱粘質土 木片・茶色有機質土、泥岩細片少量
3. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土、泥岩細片多量
4. 青灰色砂 暗褐色弱粘質土・茶色有機質土
5. 茶褐色弱粘質土 茶色有機質土、破碎泥岩・炭化物多量
6. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・茶色有機質土少量・炭化物多量
7. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・炭化物多量
8. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土、泥岩細片少量
9. 茶褐色有機質土 茶色有機質土
10. 茶褐色弱粘質土 茶色有機質土多量・破碎泥岩・泥岩粒少量
11. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土多量・泥岩細片少量
12. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土少量・木片多量
13. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土少量・貝砂多量
14. 暗褐色弱粘質土 貝砂を含む青灰色の砂利層が堆積
15. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・砂利・かわらけ片・木片多量(北壁の杭と1対となる柱穴)
16. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・粘性高い
17. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・粘性高い
18. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・暗褐色粘土
19. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土
20. 暗褐色弱粘質土 有機質土多量
21. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土
22. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土・締まりあり
23. 青灰色弱粘質土 泥岩細片多量・貝砂
24. 青灰色砂層 砂利・貝砂・わずかに褐色弱粘質土混入
25. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片が全体に混入・貝砂
26. 暗褐色粘土 泥岩細片・炭化物
27. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・炭化物
28. 暗褐色粘土 泥岩細片・炭化物少量
29. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・木片多量、下層に砂利層

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1	1	46	35	31	1	59	45	43	21
1	2	42	41	20	1	60	(46)	(18)	22
1	3	46	43	34	1	61	58	54	18
1	4	44	33	19	1	62	(58)	67	24
1	5	43	30	14	1	63	(30)	37	20
1	6	37	33	12	1	64	211	124	23
1	7	34	30	14	1	65	50	(36)	18
1	8	31	29	12	1	66	(47)	(32)	26
1	9	29	27	9	1	67	58	49	22
1	10	39	32	10	1	68	(33)	32	17
1	11	38	35	17	2	69	(44)	40	24
1	12	36	28	33	2	70	(32)	50	20
1	13	36	30	17	2	71	24	24	14
1	14	33	32	35	2	72	29	27	12
1	15	44	(38)	19	2	73	49	43	20
1	16	(30)	(34)	20	2	74	44	32	14
1	17	43	28	18	2	75	42	40	20
1	18	(72)	62	21	2	76	58	50	15
1	19	41	34	18	2	77	43	40	29
1	20	73	42	22	2	78	35	33	15
1	21	46	(22)	12	2	79	42	42	14
1	22	38	31	33	2	80	54	40	15
1	23	(43)	50	19	2	81	33	33	16
1	24	28	23	15	2	82	35	34	16
1	25	33	32	11.1	2	83	64	48	12
1	26	53	47	11	2	84	76	66	25
1	27	23	18	8	2	85	32	28	10
1	28	39	38	27	2	86	(26)	40	15
1	29	26	22	16	2	87	51	48	22
1	30	(26)	(24)	11	2	88	35	32	23
1	31	40	35	14	2	89	(32)	36	23
1	32	52	45	26	2	90	66	46	21
1	33	(39)	42	21	2	91	62	(30)	18
1	34	(43)	34	14	2	92	28	28	15
1	35	31	26	16	2	93	43	38	13
1	36	38	34	20	2	94	33	32	8
1	37	(21)	28	21	2	95	41	36	24
1	38	(47)	36	14	2	96	(18)	28	13
1	39	37	33	27	2	97	(23)	(16)	10
1	40	62	(33)	20	2	98	40	35	26
1	41	(36)	36	24	2	99	32	31	15
1	42	(20)	(20)	17	2	100	34	28	15
1	43	39	39	22	2	101	56	49	27
1	44	(18)	16	17	2	102	33	28	18
1	45	39	34	20	2	103	(40)	(69)	8
1	46	40	36	16	2	104	34	24	18
1	47	102	100	29	2	105	48	42	25
1	48	38	37	15	2	106	63	49	23
1	49	56	39	22	2	107	(103)	41	16
1	50	36	33	14	2	108	(70)	65	19
1	51	50	42	15	2	109	(24)	28	12
1	52	42	35	27	2	110	57	50	21
1	53	36	33	22	2	111	(150)	(124)	(80)
1	54	41	35	14	2	112	73	54	17
1	55	(38)	34	17	2	113	35	32	21
1	56	56	37	12	2	114	55	39	12
1	57	45	38	14	2	115	(91)	68	15
1	58	43	41	26	2	116	48	(34)	15

単位 (cm)

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
2	117	57	38	20	3	175	74	60	14
2	118	47	34	20	3	176	36	(25)	17
2	119	41	(23)	16	3	177	(34)	(33)	13
2	120	38	38	17	3	178	33	28	15
2	121	(32)	39	16	3	179	38	37	13
2	122	174	53	26	3	180	45	39	13
2	123	(17)	(37)	18	3	181	48	43	17
2	124	(44)	(31)	15	3	182	(23)	28	23.9
2	125	35	35	21	3	183	41	36	20
2	126	53	47	15	3	184	74	(64)	13
2	127	(35)	36	22	3	185	66	(50)	12
2	128	35	33	16	3	186	(34)	53	24
2	129	(32)	40	15	3	187	(38)	(23)	7
2	130	107	94	21	3	188	(27)	46	13
2	131	42	33	15	3	189	49	(37)	20
2	132	(28)	(30)	18	3	190	(126)	(39)	15
2	133	94	56	37	3	191	(58)	(34)	18
2	134	44	38	23	3	192	48	43	16
2	135	(45)	(16)	11	3	193	48	39	15
2	136	24	23	9	3	194	(32)	39	8
2	137	(26)	33	19	3	195	(33)	38	17
2	138	78	72	15	3	196	(14)	(36)	16
2	139	(76)	60	20	3	197	46	30	12
3	140	68	62	3	3	198	(51)	(24)	8
3	141	71	63	22	3	199	39	(31)	12
3	142	72	62	13	3	200	45	30	24
3	143	34	32	13	3	201	49	(38)	10
3	144	37	29	15	3	202	48	44	20
3	145	38	35	12	3	203	(38)	(20)	22
3	146	41	40	18	3	204	欠番		
3	147	40	32	14	3	205	55	(23)	9
3	148	35	33	19	3	206	(33)	(36)	24
3	149	30	13	13	3	207	(426)	67	20
3	150	40	36	14	4	208	(80)	(58)	9
3	151	38	36	7	4	209	(70)	(79)	12
3	152	欠番			4	210	89	(38)	24
3	153	(28)	42	20	4	211	47	37	13
3	154	33	(17)	28	4	212	(51)	(23)	14
3	155	35	(19)	11	4	213	44	42	21
3	156	(46)	47	21	4	214	40	37	10
3	157	66	(38)	24	4	215	本文参照		
3	158	44	42	18	4	216	42	39	16
3	159	52	42	12	4	217	92	(43)	52
3	160	53	39	23	4	218	(415)	(112)	33
3	161	40	36	9	4	219	本文参照		
3	162	45	41	22					
3	163	42	39	15					
3	164	46	40	19					
3	165	19	18	15					
3	166	27	20	20					
3	167	(34)	(8)	23					
3	168	48	46	15					
3	169	27	22	16					
3	170	(40)	35	23					
3	171	59	(55)	18					
3	172	31	26	8					
3	173	35	25	7					
3	174	(24)	38	21					

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
9	1	第1面 遺構1	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
9	2	第1面 遺構1	かわらけ	(12.5)	(8.0)	3.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・黒色粒・赤色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
9	3	第1面 遺構1	かわらけ	(13.4)	(8.4)	3.1	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
9	4	第1面 遺構2	かわらけ	4.4	4.0	0.8	a:ロクロ・内底不明瞭なナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部内折れ
9	5	第1面 遺構2	石製品 砥石	[3.0]	[3.1]	[0.5]	c:赤味のある灰白色 g:鳴滝産・仕上砥 表面のみ砥面 裏面は剥離 側面の一方のみ削り出し痕あり
9	6	第1面 遺構3	白磁 口元皿	(10.0)	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰白色 f:口縁部片 g:気泡わずかにあり
9	7	第1面 遺構3	石製品 不明	[3.0]	[3.4]	[0.9]	b:鳴滝産・仕上砥 c:灰白色 g:碗の形として成形中と思われるが石材からしてその使用は不可
9	8	第1面 遺構6	金属製品 銭	外径2.4・内径・孔径0.7			g:元豊通寶 初鑄:北宋1078年 篆書
9	9	第1面 遺構7	青磁 櫛搔文皿	—	—	—	a:ロクロ b:灰色 黒色粒 精良堅緻 d:灰緑色 e:堅緻 f:底部片 g:内底面に櫛搔文あり 底部露胎 同安窯
9	10	第1面 遺構8	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/3
9	11	第1面 遺構8	てづくね	(9.6)	—	1.8	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒 やや良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
9	12	第1面 遺構9	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:明灰色・精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
9	13	第1面 遺構9	石製品 石材片	—	—	—	c:灰褐色 f:細片 g:流紋岩質粗粒凝灰岩(伊予石か肥後硯川石ではないか・近世以降との指摘あり)
9	14	第1面 遺構10	かわらけ	8.1	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好 f:ほぼ完形
9	15	第1面 遺構12	かわらけ	7.5	5.3	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
9	16	第1面 遺構14	かわらけ	7.7	5.1	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/3
9	17	第1面 遺構15	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:暗褐色 砂粒・白色粒多・石英・小石粒 良土 c:褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
9	18	第1面 遺構15	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:暗褐色 砂粒・白色粒多い・石英・小石粒 良土 c:褐色～黒褐色 e:良好・硬質 f:底部片 g:内面摩耗
9	19	第1面 遺構16	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・小石粒 良土 c:灰色 d:暗灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片
9	20	第1面 遺構17	かわらけ	(4.6)	(3.0)	0.9	a:ロクロ b:微砂・雲母・赤色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/5 g:極少の器形・器壁がやや内湾・全体に器肌摩耗
9	21	第1面 遺構17	土器質 火鉢	(32.4)	(25.0)	8.8	a:輪積み b:暗灰色 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・白色粒・小石粒 良土 c:黄褐色 e:軟質 f:1/4 g:Ⅱ類 内面上部に炭化物付着
9	22	第1面 遺構18	てづくね	(7.8)	—	1.3	a:てづくね・内底ナデ・外底部丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/5 g:細片の復元値は参考
9	23	第1面 遺構18	かわらけ	10.7	6.4	3.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒 粉質良土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:薄い器壁を持つ
9	24	第1面 遺構19	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 黒色粒・白色粒・石英・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:4型式
9	25	第1面 遺構28	かわらけ	(7.8)	(5.2)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:薄い器壁を持つ 内面にわずかが赤色の付着物
9	26	第1面 遺構32	かわらけ	(7.3)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
9	27	第1面 遺構34	かわらけ	(8.1)	(5.1)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
9	28	第1面 遺構36	かわらけ	(6.9)	(4.8)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f:1/4
9	29	第1面 遺構39	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒多 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
9	30	第1面 遺構39	かわらけ	(7.7)	(4.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:底部黒色に変色
9	31	第1面 遺構39	かわらけ	7.2	5.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f:完形
9	32	第1面 遺構39	かわらけ	(7.9)	(5.5)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/4 g:内外面器壁剥離
9	33	第1面 遺構40	かわらけ	(8.5)	(6.3)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
9	34	第1面 遺構40	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/4
9	35	第1面 遺構40	白磁 輪花鉢	—	—	—	b:白色 わずかに微砂を含む精良堅緻 d:乳白色 e:良好 f:口縁部片 g:内面押しによる花唐草文 稜花・鉢・口縁部で口元を施す良質の品であり覆輪をめざした物
9	36	第1面 遺構40	青白磁 合子蓋	—	—	—	b:微砂・黒色粒 やや粗い土 c:青白色 d:水青色 e:良好 g:本体は瓜型か 良品
9	37	第1面 遺構40	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂質白色粒 良土 c:外面黒褐色 内面灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片
10	38	第1面 遺構41	かわらけ	(12.6)	(7.8)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
10	39	第1面 遺構41	青磁 鎚蓮弁文碗	—	(3.2)	—	a:ロクロ b:灰色 黒色粒 精良堅緻 d:暗緑色 e:良好 f:底部片
10	40	第1面 遺構45	かわらけ	(6.7)	(5.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
10	41	第1面 遺構45	鉄製品 釘	[4.9]	[0.4]	0.3	g:鍛造 断面方形 f:先端部欠損
10	42	第1面 遺構47	かわらけ	7.5	4.7	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+不明瞭な板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
10	43	第1面 遺構47	かわらけ	7.4	5.2	1.6	a:ロクロ・内底弱い横ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
10	44	第1面 遺構47	かわらけ	7.4	4.6	1.8	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容 a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
10	45	第1面 遺構 47	かわらけ	(7.0)	4.6	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/5 g:内外面器壁剥離
10	46	第1面 遺構 47	かわらけ	7.2	5.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5 g:内外面器壁剥離 内面黒色に変色 外面面に多量の鉄分付着 取版として使用か?
10	47	第1面 遺構 47	かわらけ	(11.4)	(6.7)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:口縁部に打掻き痕
10	48	第1面 遺構 47	かわらけ	11.9	7.7	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
10	49	第1面 遺構 47	かわらけ	12.2	8.6	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
10	50	第1面 遺構 47	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
10	51	第1面 遺構 47	かわらけ	(13.3)	(7.7)	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
10	52	第1面 遺構 47	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:淡灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:貫入あり 外面蓮弁文
10	53	第1面 遺構 47	瀬戸 折縁皿	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒を含む良土 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
10	54	第1面 遺構 47	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・石英 良土 c:褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
10	55	第1面 遺構 47	金属製品 銭	外径2.4・内径2.1・孔径0.7			g:開元通寶 初鑄:唐621年 真書
10	56	第1面 遺構 47	金属製品 銭	外径2.4・内径1.9・孔径0.7			g:元豊通寶 初鑄:北宋1078年 篆書
10	57	第1面 遺構 49	かわらけ	(10.7)	(8.4)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
10	58	第1面 遺構 53	かわらけ	(7.7)	(6.2)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
10	59	第1面 遺構 53	かわらけ	7.1	5.3	1.5	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
10	60	第1面 遺構 54	かわらけ	(7.3)	(4.5)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
10	61	第1面 遺構 54	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:灰色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:竜泉窯系 外面蓮弁文
10	62	第1面 遺構 56	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
10	63	第1面 遺構 57	かわらけ	7.2	6.2	1.4	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:底部回転糸切り痕を甑状工具によって整形か・底部から体部にかけて一部黒色に変色
10	64	第1面 遺構 57	かわらけ	11.5	8.4	3.2	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
10	65	第1面 遺構 58	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.7	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
10	66	第1面 遺構 58	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 良土 c:褐色 d:灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片
10	67	第1面 遺構 60	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
10	68	第1面 遺構 60	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
10	69	第1面 遺構 61	かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.3	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:内外面器壁剥離
10	70	第1面 遺構 61	瀬戸 片口鉢	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒多い・黒色粒を含む良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片
10	71	第1面 遺構 61	瓦 平瓦	—	—	—	a:凸面縄目叩き 凹面布目痕? 横れナデ 離れ砂付着 側面端面にケズリ b:明灰色 砂粒・白色粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 g:永福寺I期 (A類)
10	72	第1面 遺構 62	石製品 用途不明	[1.45]	[1.6]	[0.35]	c:黒色 g:黒色頁岩 墓石か
11	73	第1面 遺構 64	かわらけ	(6.5)	(5.0)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒 良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	74	第1面 遺構 64	かわらけ	7.3	5.4	1.5	a:ロクロ・内面回転ナデ・内底横ナデなし・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
11	75	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.7)	(6.2)	1.6	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:外面下部指頭による整形痕
11	76	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ不明・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:内外面器壁剥離
11	77	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.3)	(5.4)	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
11	78	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.3)	(5.1)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3 g:内外面器壁摩耗
11	79	第1面 遺構 64	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a:ロクロ・内面回転ナデ・内底横ナデなし・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部一か所に油煤痕
11	80	第1面 遺構 64	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.9	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面器壁剥離
11	81	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ不鮮明・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
11	82	第1面 遺構 64	かわらけ	(7.7)	(4.8)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面器壁摩耗
11	83	第1面 遺構 64	かわらけ	7.6	4.2	2.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面器壁摩耗 薄手の器壁を持つ
11	84	第1面 遺構 64	かわらけ	(9.8)	(5.2)	2.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:内外面器壁摩耗
11	85	第1面 遺構 64	かわらけ	11.0	7.1	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒多・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面器壁摩耗
11	86	第1面 遺構 64	かわらけ	(13.3)	(8.7)	3.1	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
11	87	第1面 遺構 64	かわらけ	(12.6)	8.4	3.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
11	88	第1面 遺構64	かわらけ	(122)	(75)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
11	89	第1面 遺構64	青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色微砂 精良堅緻 d:青緑色 e:堅緻 f:口縁部片 g:竜泉窯系 外面 蓮弁文
11	90	第1面 遺構64	褐釉 茶入れ	—	—	—	a:ロクロ b:褐灰色 精良堅緻 d:黒褐色 e:堅緻 f:口縁部片 g:舶載品・産地不明
11	91	第1面 遺構64	金属製品 武具	[6.1]	[5.0]	[0.2]	b:鉄 c:赤錆色 g:直径0.1~0.3cmの6個の孔を確認
11	92	第1面 遺構64	石製品 砥石	[6.9]	[2.1]	[0.9]	c:灰黄色 g:鳴滝産・仕上砥 流紋岩質細粒凝灰岩 4面使用 表面に数多くの刃物痕あり 両端に 形成痕あり
11	93	第1面 遺構64	金属製品 銭	外径2.4・内径・孔径0.7			g:皇宋通寶 初鑄:北宋1038年 真書
11	94	第1面 遺構64	金属製品 銭	外径2.4・内径・孔径0.6			g:元豊通寶 初鑄:北宋1078年 篆書
11	95	第1面 遺構66	渥美 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c:灰褐色 e:良好・硬質 f:胴部片
11	96	第1面 遺構66	鉄製品 釘	7.7	0.7	0.5	g:鍛造 断面方形
11	97	第1面 遺構67	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e: 良好 f:1/4
11	98	第1面 遺構68	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:褐色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f:口 縁部片 g:6a型式
12	1	第1面 面上	かわらけ	7.8	6.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・小石 粒 粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形 g:器表面に融着物(鉄分)あり
12	2	第1面 面上	かわらけ	(8.3)	(6.7)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/3程度
12	3	第1面 面上	かわらけ	(12.6)	(6.8)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕→糸切り痕をナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿 骨芯 やや良土 c:橙色 e:良好 f:1/3程度
12	4	第1面 面上	かわらけ	12.4	(7.4)	3.1	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器表面に融着物(鉄分)あり
12	5	第1面 面上	かわらけ	(13.4)	(8.6)	3.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	6	第1面 面上	白磁 口元皿	—	—	—	b:灰白色・堅緻 c:透明 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
12	7	第1面 面上	瀬戸 折縁深皿	—	—	—	a:ロクロ b:淡黄色 砂粒・黒色粒を含む粉質気味良土 d:淡灰緑色灰釉を薄く刷毛塗り e:良好 やや軟質 f:口縁部片 g:中期皿形式1325
12	8	第1面 面上	亀山 甕	—	—	—	a:輪積み技法 b:黒色粒・白色粒・小石粒を含む砂質気味やや粗土 c:灰黒色 e:還元焼成でやや 軟質 f:胴部片? g:外面は格子叩き目 内面は剥離
12	9	第1面 面上	吉備系 土器碗	—	4.2	—	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・砂質気味・良土 c:灰白色 e:良好・硬質 f: 底部のみ
12	10	第1面 構成土	てづくね	—	—	—	a:手づくね b:微砂 c:白色 e:良好 f:口縁部片 g:接合不可の同一個体片あり 外面指頭痕あり・ 白色土器
12	11	第1面 構成土	かわらけ	7.5	5.5	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/2 g:外面に鉄分付着
12	12	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄 褐色 e:良好 f:1/3 g:口唇部に油煤付着
12	13	第1面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.65	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 淡褐色 e:良好 f:1/4
12	14	第1面 構成土	かわらけ	7.45	5.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩 粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4以上 g:外面鉄分付着
12	15	第1面 構成土	かわらけ	8	5.6	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内底面ロクロ痕顕著 器表面に鉄分付着
12	16	第1面 構成土	かわらけ	(8.4)	(5.6)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/3 g:内面ナデの指抜き痕あり
12	17	第1面 構成土	かわらけ	7.4	5.1	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 淡褐色 e:良好 f:2/3
12	18	第1面 構成土	かわらけ	8	5.8	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内底面に黒ずみ・鉄分付着・外底面糸切り痕をナデ 消しか
12	19	第1面 構成土	かわらけ	7.5	4.7	1.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
12	20	第1面 構成土	かわらけ	7.8	5.2	1.9	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
12	21	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(4.9)	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	22	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.85	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c: 淡褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面に鉄分付着
12	23	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 淡褐色 e:良好 f:1/4
12	24	第1面 構成土	かわらけ	7.3	4.7	1.65	a:ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・ 泥岩粒 粗土 c:淡褐色 e:良好 f:2/3 内外面共に器壁摩耗
12	25	第1面 構成土	かわらけ	7.8	5.7	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:3/4以上 g:外面に鉄分付着
12	26	第1面 構成土	かわらけ	8	4.9	1.95	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4以上 g:外底面黒く変色部分あり
12	27	第1面 構成土	かわらけ	7.9	5.6	1.85	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	28	第1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.95	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/5 g:外面に鉄分付着
12	29	第1面 構成土	かわらけ	7.1	4.7	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c:黄 褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	30	第1面 構成土	かわらけ	8.0	5.4	1.8	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	31	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨芯・泥 岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	32	第1面 構成土	かわらけ	(8.0)	(4.7)	1.85	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒子・海綿骨芯・泥 岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
12	33	第1面構成土	かわらけ	7.5	5.2	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5以上
12	34	第1面構成土	かわらけ	7.25	5.4	1.75	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 2/3 g: 口唇部わずかに油煤痕付着・外底部雑な糸切り痕
12	35	第1面構成土	かわらけ	(7.4)	(4.6)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
12	36	第1面構成土	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4 g: 外面に鉄分付着
12	37	第1面構成土	かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナデの後見込み周囲をナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 淡橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 外面に鉄分付着
12	38	第1面構成土	かわらけ	8.3	5.1	2.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4以上
12	39	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 淡橙色 e: 良好 f: 1/4 g: 外面に鉄分付着
12	40	第1面構成土	かわらけ	7.4	4.8	1.9	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3 g: 口縁部一部歪む
12	41	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナデの後見込み周囲をナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
12	42	第1面構成土	かわらけ	7.4	4.6	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 完形 g: 口唇部に打ち欠きらしき痕跡あり
12	43	第1面構成土	かわらけ	7.7	4.5	2.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・小石粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 完形 g: 粗雑な糸切りの為底部高台状に残る
12	44	第1面構成土	かわらけ	7.15	5	1.9	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4以上 g: 内面ナデの指抜き痕あり
12	45	第1面構成土	かわらけ	(8.1)	(5.2)	2.05	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 内外面共に器壁摩耗
12	46	第1面構成土	かわらけ	7.75	5.1	2.1	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2 g: 外面に鉄分付着・外底部雑な糸切りの為高台状に残る
12	47	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母多い・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口唇部に工具による刻み痕
12	48	第1面構成土	かわらけ	(10.6)	6.0	2.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 薄手・粉質 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
12	49	第1面構成土	かわらけ	(10.7)	(5.8)	3.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c: 淡黄橙色 e: 良好 f: 1/3 外底部雑な糸切り痕
12	50	第1面構成土	かわらけ	10.8	6.4	3.15	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 粉質 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5 やや薄手の器厚・外面に鉄分付着
12	51	第1面構成土	かわらけ	(11.8)	6.8	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外面に鉄分付着
12	52	第1面構成土	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
12	53	第1面構成土	かわらけ	(12.5)	(7.8)	2.95	a: ロクロ・内底やや強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
12	54	第1面構成土	かわらけ	12.4	7.5	3.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
12	55	第1面構成土	かわらけ	(12.7)	(8.8)	3.4	a: ロクロ・内底やや強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
12	56	第1面構成土	かわらけ	(12.8)	(7.5)	3.5	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄橙色 やや粗土 e: 良好 f: 1/3 内底ナデの指抜き痕あり 外面鉄分付着
12	57	第1面構成土	かわらけ	(12.5)	(8.4)	2.9	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
12	58	第1面構成土	かわらけ	(12.4)	(6.8)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
12	59	第1面構成土	かわらけ	12.3	7.8	3.45	a: ロクロ・内底見込み周囲を強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形・内外面に鉄分付着
12	60	第1面構成土	かわらけ	12.3	7.0	3.4	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 4/5
12	61	第1面構成土	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
12	62	第1面構成土	かわらけ	(12.6)	(7.5)	2.85	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
12	63	第1面構成土	かわらけ	(12.9)	(7.9)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3 口唇部2か所に打ち抜き痕あり
12	64	第1面構成土	かわらけ	12.6	7.6	3.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 4/5
12	65	第1面構成土	かわらけ	(13.0)	(7.2)	3.5	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4 内外面破損後に火熱を受け黒色に変色
12	66	第1面構成土	かわらけ	(12.7)	(7.7)	3.3	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
12	67	第1面構成土	かわらけ	(13.2)	(7.9)	3.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4 外面鉄分付着 内面一部が黒色に変色
12	68	第1面構成土	かわらけ	(13.0)	(7.6)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
12	69	第1面構成土	かわらけ	(12.0)	(7.2)	3.7	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 内底見込みに鉄分付着
12	70	第1面構成土	かわらけ	(16.2)	(7.9)	4.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
13	71	第1面構成土	青磁 折腰鉢	(11.9)	—	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰白色 c: 薄青色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 内外面無文 竜泉窯
13	72	第1面構成土	青磁 鍋進弁文碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰黄色 c: 灰緑色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 内外面貫入 外面口唇部辺に一条の沈線が廻る 竜泉窯
13	73	第1面構成土	青磁 進弁文碗	—	(5.2)	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰白色 c: 緑青色 外面厚く施釉 e: 良好 f: 底部片 g: 高台部のみ円盤状に残る 内面無文 竜泉窯 13世紀前半
13	74	第1面構成土	青磁 鍋進弁文碗	—	(3.4)	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰白色 c: 灰緑色 e: 良好 f: 底部片 竜泉窯 13世紀中～14世紀前半
13	75	第1面構成土	白磁 口元皿	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰白色 c: 灰白色 e: 良好 f: 口縁部片
13	76	第1面構成土	青白磁 梅瓶蓋	(5.4)	—	—	a: ロクロ b: 精良・堅緻・灰白色 c: 薄青色 外面厚く施釉 e: 良好 f: 頂部片 g: 無文 竜泉窯

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
13	77	第1面 構成土	青白磁 梅瓶蓋	—	—	—	a:ロクロ 頸部貼り付け b:精良・堅緻・灰白色 c:薄青色 e:良好 f:肩部片 g:外面貫入
13	78	第1面 構成土	瀬戸 壺・瓶類	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 c:自然釉 e:良好 f:胴部片 g:3条の沈線が廻る
13	79	第1面 構成土	瀬戸 入子	—	—	—	a:ロクロ b:精良・堅緻・灰白色 c:自然釉 e:良好 f:口縁部片 g:内面に赤色の付着物あり、 紅か
13	80	第1面 構成土	瀬戸 折縁深皿	—	(12.2)	—	a:ロクロ 底部糸切り+篋による整形 b:灰黄色 釉漬け掛け e:良好 f:底部片
13	81	第1面 構成土	瀬戸 卸皿	(12.2)	(6.5)	3.5	a:ロクロ 底部糸切り b:灰色 精良 c:自然釉 e:良好 f:底部片 卸目摩耗なし
13	82	第1面 構成土	瀬戸 卸皿	(14.2)	(9.4)	3.75	a:ロクロ 底部糸切り b:精良・灰色 c:自然釉 e:良好 f:底部片 g:内面卸目顕著に摩耗
13	83	第1面 構成土	山茶碗	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片
13	84	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片
13	85	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片
13	86	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰白色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片 g:5形式
13	87	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(12.6)	—	a:輪積み b:灰白色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:底部片 g:内面摩耗・高台部貼り付け・ 6a形式
13	88	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(12.8)	—	a:輪積み・胴部下部篋による整形 b:灰白色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:底部片 g: 内面摩耗・高台部貼り付け・内底部一部黒色に変色・5形式
13	89	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:褐色・小石粒・微砂 c:褐色 e:良好 f:口縁部片 g:7形式
13	90	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み・外側面篋による縦位の整形 b:褐色・小石粒・微砂 c:褐色 e:良好 f:口縁部片 g: 8形式
13	91	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:褐色・小石粒・微砂 c:褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6a形式
13	92	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:褐色・小石粒・微砂 c:褐色 e:良好 f:口縁部片 g:8形式・内面に十字の線 刻あり
13	93	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	(15.8)	—	a:輪積み b:褐色・小石粒・微砂 c:褐色 e:良好 f:口縁部片 g:内面に線刻あり・文様不明・ 内面摩耗痕
13	94	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:暗褐色・白色粒・小石粒・微砂 c:明茶褐色 e:良好 f:肩部片 g:方形の中に 菊花と格子の押印
13	95	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:暗褐色・白色粒・小石粒・微砂 c:暗茶褐色 e:良好 f:胴部片 g:斜格子の押印
13	96	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:褐色・小石粒・微砂 c:明茶褐色 e:良好 f:底部片
13	97	第1面 構成土	渥美 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色・小石粒・微砂 c:暗茶褐色 e:良好 f:肩部片 g:縦線文の押印
13	98	第1面 構成土	常滑 転用品	6.6	3.9	0.9	b:暗褐色・微砂 c:暗茶褐色 e:良好 f:胴部片 g:断面全周が摩耗
13	99	第1面 構成土	土器質 火鉢	—	—	—	a:輪積み b:灰色・小石粒・微砂 c:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:l c類
14	100	第1面 構成土	瓦 軒平瓦	—	—	—	a:瓦当部唐草文・外区幅0.8cm・内区唐草文・瓦当部幅不明 b:灰色・雲母・白色粒・良土 e:軟質 g: I期・頸部のみ遺存
14	101	第1面 構成土	瓦 平瓦	—	—	1.6	a:凸面叩き痕・離れ砂付着・凹面布目ナデ消し・離れ砂付着・黒色処理・側面篋ケズリ整形後、側 縁ナデ b:灰茶色・微砂・白色粒・軟質・粗土 e:軟質 g:II期D類
14	102	第1面 構成土	瓦 平瓦	—	—	2.7	a:凸面微かに斜格子の叩き痕 ナデ消しか・離れ砂付着・凹面ナデ消し・離れ砂付着・側面篋ケズリ 整形 b:灰色・砂粒・石粒・白色粒・軟質・粗土 e:軟質 g:II期D類
14	103	第1面 構成土	瓦 丸瓦	—	—	1.95	a:凸面縄目叩き痕・凹面布目痕・筒部側縁篋削り整形・面取りの幅が広い b:橙色・微砂・軟質・ やや良土 e:軟質 g:I期A類
14	104	第1面 構成土	瓦 鬘斗瓦	—	—	1.7	a:凸面縄目痕・離れ砂付着 凹面篋ケズリ整形の痕ナデ消し・離れ砂付着 側面篋ケズリ b:灰色・ 砂粒・石粒・白色粒・軟質・粗土 e:軟質
14	105	第1面 構成土	かわらけ質 高台付土製品	—	—	—	a:ロクロ 内外面ナデ調整 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む 粉質気味 やや良土 c:橙色 e: 良好 f:脚部片 g:古代のロクロ土器高台杯の可能性もあり
14	106	第1面 構成土	鉄製品 釘	[4.85]	[0.5]	[0.45]	a:鍛造 g:断面方形
14	107	第1面 構成土	滑石鍋転用品 用途不明	[8.0]	[5.7]	[1.6]	g:滑石鍋転用品 鍋外側面煤付着・内面胡坐をかく男が線刻されている・仏画であろうか・鍋内面に線 刻があり、凹面となるためスタンプとしての利用は難しい
14	108	第1面 構成土	石製品 温石	[5.0]	[4.1]	[1.2]	g:滑石鍋転用品
14	109	第1面 構成土	石製品 温石	[8.45]	[10.8]	1.5	g:滑石鍋転用品
14	110	第1面 構成土	石製品 硯	[8.4]	[5.3]	[1.3]	a:側面削り出し痕はなく丁寧な整形 b:灰黒色 g:陸部遺存・陸部界線は雑な整形
14	111	第1面 構成土	石製品 砥石	[2.8]	[2.45]	[0.35~0.45]	a:側面削り出し痕 b:灰色 g:鳴滝産・仕上砥
14	112	第1面 構成土	木製品 用途不明	[7.2]	径 (1.1~1.3)		g:内部に0.5×0.3cmの方形を呈する鉄製品が挿入されている。工具の柄か
14	113	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.3 内径1.8 孔径0.6			g:嘉祐元寶 初鑄:北宋1056年 真書
14	114	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.4 内径2.1 孔径0.8			g:照寧元寶 初鑄:北宋1068年 篆書
14	115	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.35 内径1.8 孔径0.7			g:紹聖元寶 初鑄:北宋1094年 篆書
14	116	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.4 内径2.1 孔径0.65			g:政和通寶 初鑄:北宋1111年 隸書
14	117	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.2 内径1.9 孔径0.7			g:銭種不明
14	118	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.35 内径1.85 孔径0.6			g:銭種不明
14	119	第1面 構成土	金属製品 銭	外径2.2 内径2.0 孔径0.65			g:銭種不明
17	1	第2面 遺構 69	白磁 壺	—	—	—	a:ロクロ b:白色 黒色粒を含む精良堅緻 d:青色がかる乳白色半透明釉をやや薄く施釉 気泡あり e:堅緻 f:胴部片 (小片のため径・傾きは不確か) g:鍋蓮弁文

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
17	2	第2面 遺構70	かわらけ	(7.5)	(5.0)	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 表面に鉄分付着
17	3	第2面 遺構70	かわらけ	(7.4)	(5.2)	2.45	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 薄手碗型 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2
17	4	第2面 遺構70	かわらけ	12.2	8.0	3.25	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
17	5	第2面 遺構74	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
17	6	第2面 遺構76	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
17	7	第2面 遺構76	常滑 片口鉢Ⅰ類	(15.4)	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・赤色粒・長石多・石英・小石粒を含む粗土 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 底部1/6片 g: 5~6型式
17	8	第2面 遺構76	金属製品 銭	外径2.3 内径2.0 孔径0.7	—	—	g: 嘉祐通寶 初鑄年: 北宋1056年 楷書
17	9	第2面 遺構78	かわらけ	13.9	8.0	3.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 器壁薄い碗型 c: 褐色 e: 良好 f: 1/3
17	10	第2面 遺構78	白磁 口元皿	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黒色粒を含む精良堅緻 d: 灰かかると乳白色半透明釉をやや厚く施釉 口縁部釉面取り e: 堅緻 f: 口縁部片 g: 皿Ⅲ類 13c後半~14世紀前半
17	11	第2面 遺構78	金属製品 鉄針	[3.0]	0.2	0.3	f: 先端は欠損
17	12	第2面 遺構79	かわらけ	7.7	5.6	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c: 淡黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 内面体部わずかに黒く変色
17	13	第2面 遺構80	青磁 鍋連弁文碗	—	—	—	a: ロクロ b: 灰白色 黒色粒を含む精良堅緻 わずかに気孔あり d: 淡灰青色半透明釉 e: 堅緻 f: 口縁部片 g: 外面わずかに貫入あり 竜泉窯 碗Ⅱ類 13c中~14初頭
17	14	第2面 遺構80	青磁 折腰鉢	4.4	—	—	a: ロクロ b: 灰白色 黒色粒を含む精良堅緻 わずかに気孔あり d: 灰緑色不透明釉を薄く施釉 e: 堅緻 f: 底部1/2 g: 内外面に粗い貫入と使用によるキズあり 浅形杯Ⅲ類 竜泉窯 13c中~14初頭
17	15	第2面 遺構81	かわらけ	(12.4)	(8.5)	3.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c: 淡黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内面に鉄分付着
17	16	第2面 遺構82	鉄製品 環状金具	6.0	1.4	0.8	a: 断面形状に鑄造し、頂部は環状に接続か? g: 錆の付着激しい
17	17	第2面 遺構84	かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c: 淡黄灰色 e: 良好 f: 1/3
17	18	第2面 遺構84	常滑 玉縁壺	—	—	—	a: 輪積み b: 褐色 砂粒・長石・石英・小石粒を含む粗土 c: 灰色 d: 口縁部に淡灰緑色の自然釉 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 緑帯幅2.3cm g: 6b型式
17	19	第2面 遺構84	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 黒灰色 砂粒・長石・石英・小石粒を含む粗土 c: 暗褐色 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 縦線+格子+縦線の組み合わせ押印文
17	20	第2面 遺構85	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
17	21	第2面 遺構85	金属製品 銭	外径2.4 内径1.9 孔径0.7	—	—	g: 皇宋通寶 初鑄: 北宋1038年 楷書 裏面擦り
17	22	第2面 遺構87	かわらけ	(7.4)	(5.7)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好 f: 1/4程度
17	23	第2面 遺構87	かわらけ	(9.6)	(7.0)	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2程度
17	24	第2面 遺構89	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a型式
17	25	第2面 遺構90	かわらけ	(8.2)	(6.3)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 口縁部に油煤痕
17	26	第2面 遺構91	かわらけ	7.3	5.4	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好 f: 完形
17	27	第2面 遺構91	かわらけ	10.4	5.6	3.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粉質良土 薄手丸深 c: 暗褐色 e: 良好 f: 2/3程度 g: 口縁部に油煤痕
17	28	第2面 遺構91	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・黒色粒・長石 c: 口縁部に自然釉あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a型式 一部沈線のような窪みあり
17	29	第2面 遺構93	石製品 基石	2.2	1.7	0.4	a: 全体的に磨いて丸く加工 b: 安山岩? c: 黒灰色 f: 完形 g: 基石として加工か
17	30	第2面 遺構95	白磁 皿	—	2.2	—	a: 底部糸切り平高台・体部下位はカンナ痕 b: 白色 黒色粒を含む精良堅緻 わずかに気孔あり d: 乳白色半透明釉 e: 堅緻 f: 底部片 g: 内底面に印花文・外底部露胎
18	31	第2面 遺構96	かわらけ	(8.0)	(6.1)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4程度
18	32	第2面 遺構96	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好 f: 1/3程度
18	33	第2面 遺構96	かわらけ	(7.5)	(4.8)	2.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 碗型タイプ c: 暗褐色 e: 良好 f: 1/3程度
18	34	第2面 遺構96	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 茶褐色 砂粒・長石・石英・小石粒を含む粗土 c: 褐色 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 縦線+格子+縦線の押印文
18	35	第2面 遺構98	てづくね	(9.2)	—	2.1	a: てづくね・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3程度
18	36	第2面 遺構101	かわらけ	(13.1)	(8.6)	3.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 2/3程度
18	37	第2面 遺構101	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a: 輪積み b: 黒灰色 砂粒・黒色粒・長石 c: 口縁部に自然釉あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6b型式
18	38	第2面 遺構102	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 2/3程度 g: 器表面に鉄分付着
18	39	第2面 遺構104	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 内面の指頭ナデ指抜き痕顕著
18	40	第2面 遺構104	かわらけ	7.5	6.1	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
18	41	第2面 遺構104	かわらけ	(12.0)	(7.7)	3.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3程度
18	42	第2面 遺構104	石製品 硯	[6.7]	[3.1]	[1.2]	b: 黒色粘板岩 c: 赤味がかった黒色 g: 鳴滝産・方形硯
18	43	第2面 遺構105	かわらけ	4.8	4.0	0.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 極小かわらけ 器壁部分的に黒く変色 煤けてる
18	44	第2面 遺構105	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
18	45	第2面 遺構105	かわらけ	(7.6)	(5.0)	(1.9)	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
18	46	第2面 遺構105	かわらけ	7.7	5.0	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
18	47	第2面 遺構105	常滑片口鉢 転用磨製品	[10.4]	[7.7]	1.0	a:輪積み b:砂粒・黒色粒・白色粒・長石を含む灰色 c:灰色 d:灰黒色(自然釉) e:良好・硬質 f: 口縁部小片 g:口縁部を底面として使用
18	48	第2面 遺構105	滑石鍋 転用未製品	[3.7]	[3.0]	1.7	c:銀灰色 f:口縁部片 g:滑石鍋転用スクラップ加工途中品か? 鈹部分を削り、磨いている
18	49	第2面 遺構106	てづくね	(13.0)	—	—	a:てづくね 外底指頭痕 口縁部面取り+一段ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/6 g:口唇部面取り
18	50	第2面 遺構106	かわらけ	(6.8)	(4.8)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/6
18	51	第2面 遺構106	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 g:口唇部わずかに油煤痕?
18	52	第2面 遺構106	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/4
18	53	第2面 遺構106	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:淡褐色 e:良好 f:1/4 g:全体的に摩耗
18	54	第2面 遺構106	鉄製品 釘	5.1	0.4	0.3	a:四角形状に鍛造 f:先端部欠損 g:錆の付着が激しい
18	55	第2面 遺構106	鉄製品 釘	(4.8)	0.5	0.35	a:四角形状に鍛造 f:頂上部欠損 g:錆の付着が激しい
18	56	第2面 遺構107	かわらけ	(4.8)	(4.0)	1.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/3 口縁部内折れ
18	57	第2面 遺構108	かわらけ	(7.3)	(5.3)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/4 g:器表面に鉄分付着
18	58	第2面 遺構108	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/3
18	59	第2面 遺構108	かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 や や粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
18	60	第2面 遺構108	かわらけ	(7.4)	(4.6)	2.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/2
18	61	第2面 遺構108	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粉質精良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/5 g:口縁部わずかに油煤痕?
18	62	第2面 遺構109	かわらけ	7.8	5.8	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:2/3
18	63	第2面 遺構109	かわらけ	(7.7)	(5.2)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/4
18	64	第2面 遺構109	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:茶褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c:黒褐色 体部内面に灰緑色の降灰あり e:良 好・硬質 f:口縁部片 g:6b型式
18	65	第2面 遺構110	かわらけ	(13.2)	(7.2)	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/6 g:内底面に煤付着
19	66	第2面 遺構111	てづくね	(6.2)	—	1.2	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6 口縁部内折れ
19	67	第2面 遺構111	てづくね	(10.0)	—	1.7	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや良土 c:黄橙色 e: 良好 f:1/3
19	68	第2面 遺構111	てづくね	(9.0)	—	1.9	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
19	69	第2面 遺構111	てづくね	(8.8)	—	1.9	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや良土 c:黄橙色 e: 良好 f:1/4 f:口縁部に油煤痕
19	70	第2面 遺構111	てづくね	(9.2)	—	2.3	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
19	71	第2面 遺構111	てづくね	(12.0)	—	—	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良 好 f:1/4 g: 口唇部面取り 体部外面のヨコナデが強く入る、体部内面に削痕のようなキズあり
19	72	第2面 遺構111	かわらけ	(4.4)	(3.6)	0.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/2 g:口唇部内折れ
19	73	第2面 遺構111	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/5
19	74	第2面 遺構111	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/3
19	75	第2面 遺構111	かわらけ	7.3	5.4	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:完形
19	76	第2面 遺構111	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
19	77	第2面 遺構111	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
19	78	第2面 遺構111	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
19	79	第2面 遺構111	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/3
19	80	第2面 遺構111	かわらけ	7.5	5.5	1.65	a:ロクロ・内底ナデ強・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙 色 e:良好 f:完形
19	81	第2面 遺構111	かわらけ	11.0	7.1	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄褐色 e:良好 f:完形
19	82	第2面 遺構111	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e:良好 f:1/2
19	83	第2面 遺構111	青磁 浅形碗	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒を含む精良堅緻 わずかに気孔あり d:灰緑色不透明釉を薄く施釉 e: 堅緻 f:底部1/2 g:内外面に粗い貫入と使用によるキズあり 浅形碗Ⅲ類13c中~14初頭
19	84	第2面 遺構111	白磁 皿	—	—	—	a:ロクロ b:白色 黒色粒・赤色粒を含む精良堅緻 d:青味がかる乳白色半透明釉を薄く施釉 e: 堅緻 f:口縁部片
19	85	第2面 遺構111	瀬戸 入り	4.3	2.8	1.2	a:ロクロ 内外面ヨコナデ 内底ナデ 外底面は糸切り→ヘラズリ b:灰色 砂粒 黒色粒 白色 粒 c:灰色 d:口縁部に自然釉あり e:良好・硬質 f:前期後半 g:輪花型
19	86	第2面 遺構111	瀬戸 入り	—	—	—	a:ロクロ 内外面ヨコナデ 内底ナデ 外底面は糸切り→ヘラズリ b:灰色 砂粒 黒色粒 白色 粒 c:灰色 d:口縁部に自然釉あり e:良好・硬質 f:前期後半 g:内面に薄く紅付着
19	87	第2面 遺構111	瀬戸 鉢皿	—	—	—	a:ロクロ b:淡黄色 砂粒・小石粒を含む粉質気味良土 c:灰緑色 d:淡灰緑色釉を薄く刷毛塗り →全体的に剥けている e:良好・硬質 f:口縁部片 接合しない同一個体あり g:中期前半
19	88	第2面 遺構111	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・石英・赤色粒 c:灰色 体部内外面に降灰あり e:良好・硬質 f: 口縁部片 g:6b型式
19	89	第2面 遺構111	常滑 甕	—	(14.6)	—	a:輪積み b:黒灰色 砂粒・長石多・石英 c:褐色 体部内面に灰緑色の降灰あり e:良好・硬質 f:底部1/6片

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
19	90	第2面 遺構111	瓦 平瓦	—	—	2.0	a: 凸面縄目叩き・離れ砂付着 凹面縦指ナデ 離れ砂付着 側縁ヘラケズリ 角丸ナデ仕上げ b: 灰色 粗砂・小石粒 c: 灰色 e: 良好・硬質 g: 永福寺1期 (A類)
19	91	第2面 遺構112	かわらけ	(6.9)	(5.4)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 口縁部指押さえの痕跡あり
19	92	第2面 遺構112	かわらけ	7.8	5.6	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
19	93	第2面 遺構112	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6
19	94	第2面 遺構112	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6 g: 器表面に鉄分付着
19	95	第2面 遺構112	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 黒灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c: 暗褐色 d: 内面底部に部分的に灰色の自然降灰あり e: 良好・硬質 f: 底部片
19	96	第2面 遺構114	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 1/4
19	97	第2面 遺構114	かわらけ	(11.7)	(7.0)	3.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 1/6
19	98	第2面 遺構114	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a: 輪積み b: 黒褐色 砂粒・白色粒・長石多・石英 c: 黒褐色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6b型式 (『中世常滑窯編年の再検討』の片口鉢Ⅱ類のD類相当=第3類(6b))
19	99	第2面 遺構116	かわらけ	7.6	5.7	1.65	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
19	100	第2面 遺構116	かわらけ	7.4	5.1	1.75	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
19	101	第2面 遺構117	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c: 暗褐色 d: 内面口縁部に自然降灰あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a~6b型式
19	102	第2面 遺構118	石製品 砥石	(4.3)	(2.5)	0.8	a: 底面は表裏第2面、裏面剥離で不明 片面面切り出し痕 b: 流紋岩質細粒凝灰岩 c: 淡黄白色 g: 鳴滝産・仕上げ
19	103	第2面 遺構119	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 黒褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c: 黒褐色 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 格子の押印文
19	104	第2面 遺構122	かわらけ	7.3	4.9	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 体部外面下に指頭痕あり
19	105	第2面 遺構122	かわらけ	(13.2)	(7.4)	3.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/4
19	106	第2面 遺構122	かわらけ	(13.0)	(7.8)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/6
19	107	第2面 遺構122	かわらけ	(13.0)	(7.6)	4.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粉質良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3 薄手丸深系
19	108	第2面 遺構124	鉄製品 釘	[4.9]	0.6	0.3	a: 四角形状に鍛造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着が激しい
19	109	第2面 遺構123	かわらけ	(6.6)	(5.0)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/6 g: 器表面に鉄分付着
19	110	第2面 遺構124	てづくね	(8.8)	—	1.4	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質灰味やや良土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 1/8
19	111	第2面 遺構124	てづくね	(12.8)	—	3	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6
20	112	第2面 遺構125	てづくね	(12.0)	—	—	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒を含む粉質良土 c: 桃色味がかった白色 e: 良好 f: 1/6 g: 白かわらけ
20	113	第2面 遺構126	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 口唇部に油煤痕
20	114	第2面 遺構126	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/7 g: 器表面に鉄分付着
20	115	第2面 遺構126	かわらけ	(7.7)	(5.6)	2.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 器表面に鉄分付着
20	116	第2面 遺構126	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 黒灰色 砂粒・長石・小石粒 c: 暗褐色 d: 口縁部と肩部に自然降灰あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6b~7型式
20	117	第2面 遺構126	鉄製品 釘	[12.3]	0.5	0.4	a: 四角形状に鍛造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着が激しい
20	118	第2面 遺構126	金属製品 銭	外径2.4	内径1.8	孔径0.7	g: 慶元通寶 背面「四」 初鑄: 南宋1195年 楷書
20	119	第2面 遺構127	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 器表面に鉄分付着
20	120	第2面 遺構128	かわらけ	(12.8)	(8.0)	2.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6 g: 器表面に鉄分付着
20	121	第2面 遺構130	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/4
20	122	第2面 遺構130	かわらけ	7.8	5.0	2.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
20	123	第2面 遺構130	かわらけ	8.7	6.4	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色~灰褐色 e: 良好 f: 完形 g: 内面一部黒色に変色
20	124	第2面 遺構130	かわらけ	10.8	6.4	3.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯 粉質良土 薄手丸深型 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3 g: 口唇部に油煤痕
20	125	第2面 遺構130	かわらけ	12.7	7.7	3.05	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 3/4
20	126	第2面 遺構130	常滑 広口壺	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・長石・小石粒 c: 灰色 d: 口縁部と肩部に自然降灰あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6b型式
20	127	第2面 遺構131	てづくね	(9.0)	—	1.5	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4
20	128	第2面 遺構131	てづくね	(8.0)	—	1.4	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/6
20	129	第2面 遺構134	てづくね	(9.8)	—	1.6	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4 g: 器表面に鉄分付着
20	130	第2面 遺構138	かわらけ	(12.2)	(8.6)	3.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/3
20	131	第2面 遺構139	かわらけ	6.7	4.5	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 砂質良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
20	132	第2面 遺構139	かわらけ	(10.8)	(6.8)	3.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粉質良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
20	133	第2面 遺構139	かわらけ	(12.7)	7.5	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粉質良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3 g: 体部内面に胎土中の石の移動による顕著なキズあり

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
21	134	第2面 遺構133-8	かわらけ	7.1	5.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部に注ぎ口のような歪みあり、成形時の失敗か?
21	135	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.3	5.5	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
21	136	第2面 遺構133-18	かわらけ	7.1	5.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形
21	137	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.7	5.8	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
21	138	第2面 遺構133-24	かわらけ	7.6	5.8	1.5	a:ロクロ・内底ナデ強い・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
21	139	第2面 遺構133-22	かわらけ	7.4	5.2	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面に薄く黒く変色
21	140	第2面 遺構133-12	かわらけ	7.6	5.3	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 器形の歪み大
21	141	第2面 遺構133-6	かわらけ	8.3	6.3	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
21	142	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.7	5.3	1.65	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2程度
21	143	第2面 遺構133-8	かわらけ	8	5.5	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	144	第2面 遺構133-8	かわらけ	7.6	5.0	1.85	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕
21	145	第2面 遺構133-21	かわらけ	7.2	5.2	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	146	第2面 遺構133-11	かわらけ	7.6	5.4	1.55	a:ロクロ・内底ナデ強・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内底面ナデ調整を失敗した痕あり
21	147	第2面 遺構133-3	かわらけ	7.5	5.1	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部に油煤痕
21	148	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.8	5.3	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	149	第2面 遺構133-10	かわらけ	7.8	5.4	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	150	第2面 遺構133-7	かわらけ	8	5.7	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:外面口縁部にわずかに黒く変色
21	151	第2面 遺構133-8	かわらけ	7.3	5.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:3/2程度
21	152	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.4	5.6	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部わずかに油煤痕?
21	153	第2面 遺構133-25	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部わずかに煤付着
21	154	第2面 遺構133-5	かわらけ	7.7	5.3	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
21	155	第2面 遺構133-2	かわらけ	7.5	5.3	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
21	156	第2面 遺構133-1	かわらけ	7.2	4.8	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:口縁部一部欠損・ほぼ完形
21	157	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.4	5.1	1.65	a:ロクロ・内底ナデ強・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	158	第2面 遺構133-23	かわらけ	7.6	4.5	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部一部欠損 g:口唇部ゆがむ
21	159	第2面 遺構133一括	かわらけ	7.9	5.5	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	160	第2面 遺構133-7	かわらけ	12.1	7.5	4.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:口縁1/4~底部完形 g:外面体部わずかに黒く変色
21	161	第2面 遺構133-17	かわらけ	12.2	8.0	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	162	第2面 遺構133-4	かわらけ	12.3	8.3	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	163	第2面 遺構133-15	かわらけ	12.2	7.5	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	164	第2面 遺構133-14	かわらけ	12.3	7.9	3.35	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	165	第2面 遺構133-26	かわらけ	12.7	8.0	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:内面口縁部わずかに黒く変色
21	166	第2面 遺構133-8	かわらけ	12.4	7.7	3.45	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	167	第2面 遺構133-9	かわらけ	(12.6)	(7.6)	4.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2程度
21	168	第2面 遺構133-1	かわらけ	12.4	7.9	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	169	第2面 遺構133-13	かわらけ	12.5	7.0	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4程度 g:外面体部に煤付着
21	170	第2面 遺構133-16	かわらけ	12.0	8.0	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
21	171	第2面 遺構133一括	かわらけ	11.9	6.6	3.65	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多 粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:口唇部わずかに黒く変色
21	172	第2面 遺構133-20	かわらけ	12.3	7.4	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面に部分的に黒く変色
21	173	第2面 遺構133-8	かわらけ	13.9	8.8	3.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内面わずかに黒く変色
21	174	第2面 遺構133-19	かわらけ	(16.7)	10.6	5.35	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:3/4以上 g:内面磨減あり
21	175	第2面 遺構133一括	青白磁 梅瓶蓋	(5.6)	—	[3.2]	a:ロクロ b:白色 黒色粒を含む精良堅緻 d:青白色不透明釉を薄く施釉 e:堅緻 f:1/8程度 g:頂部が残存していない為、文様不明
21	176	第2面 遺構133一括	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:色調と共に暗灰色 黒色粒・白色粒・長石・小石粒 d:口唇部~内面に灰色の自然降灰あり e:良好・硬質 f:口縁部小片 g:6a型式
21	177	第2面 遺構133一括	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:色調と共に色 黒色粒・白色粒・長石・小石粒 d:口縁部に灰緑色の自然降灰あり e:良好・硬質 f:口縁部暗灰小片 g:6a型式

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
21	178	第2面 遺構 133	金属製品 銭	外径 2.4	内径 2.1	孔径 0.7	g: 治平元寶 初鑄: 北宋 1064年 篆書
22	1	第2面 面上	てづくね	(9.0)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 1/3
22	2	第2面 面上	てづくね	(12.8)	—	3.5	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 内外面黒色に変色
22	3	第2面 面上	てづくね	(13.6)	—	3.4	a: てづくね 外底指頭 良土 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 外面口縁部~体部に油煤? 付着
22	4	第2面 面上	てづくね	(13.0)	—	3.15	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
22	5	第2面 面上	かわらけ	6.75	5.2	1.35	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口唇部油煤痕
22	6	第2面 面上	かわらけ	7.15	5.0	1.85	a: ロクロ・内底雑なナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 4/5
22	7	第2面 面上	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.95	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 2/3
22	8	第2面 面上	かわらけ	7.4	5.1	1.85	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 4/5
22	9	第2面 面上	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/2
22	10	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.85	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 2/3
22	11	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.65	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 1/2
22	12	第2面 面上	かわらけ	7.6	5.4	1.6	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c: 橙色 e: 完形
22	13	第2面 面上	かわらけ	7.5	5.1	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
22	14	第2面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.55	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 1/3
22	15	第2面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/2
22	16	第2面 面上	かわらけ	7.7	5.5	1.85	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4
22	17	第2面 面上	かわらけ	7.5	5.1	1.8	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口唇部1ヶ所に油煤痕
22	18	第2面 面上	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.8	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4
22	19	第2面 面上	かわらけ	10.2	5.5	3.35	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 口唇部油煤痕
22	20	第2面 面上	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.1	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
22	21	第2面 面上	かわらけ	(12.1)	(8.8)	3.1	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 内外面黒色に変色
22	22	第2面 面上	かわらけ	(12.0)	(7.6)	3.25	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 3/4
22	23	第2面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.6)	3.35	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2 g: 底部雑な糸切りの為高台状に盛り上がる
22	24	第2面 面上	青磁 鍋蓋弁文碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰青色 e: 良好 f: 口縁部片
22	25	第2面 面上	青磁 折腰鉢	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰青色 e: 良好 f: 口縁部片
22	26	第2面 面上	白磁 口元皿	(9.8)	(5.8)	1.9	a: ロクロ b: 黒色微砂・精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰白色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 口縁部露胎
22	27	第2面 面上	白磁 皿	—	(7.0)	—	a: ロクロ b: 黒色微砂・精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰白色 e: 良好 f: 底部片
22	28	第2面 面上	白磁 口元碗	(13.4)	—	—	a: ロクロ b: 黒色微砂・精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰白色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 口縁部露胎
22	29	第2面 面上	青白磁 梅瓶	—	(8.8)	—	b: 精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰青色 e: 良好 f: 底部片 底部露胎
22	30	第2面 面上	青白磁 梅瓶	—	—	—	b: 精良堅緻 c: 灰白色 d: 灰青色 e: 良好 f: 胴部片
22	31	第2面 面上	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・長石・小石粒 c: 灰褐色 d: 灰褐色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a形式
22	32	第2面 面上	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a: 輪積み b: 暗灰色 砂粒 c: 暗灰色 d: 灰褐色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a形式
22	33	第2面 面上	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a: 輪積み b: 白色粒・砂粒 c: 暗灰色 d: 灰色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 6a形式
22	34	第2面 面上	石製品 砥石	(7.2)	(4.0)	(3.0)	a: 2面遺存 c: 黄白色 g: 伊予産・中砥
22	35	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.4・内径 2.0・孔径 0.6			g: 天禧通寶 初鑄: 北宋 1017年 楷書
22	36	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.3・内径 1.9・孔径 0.7			g: ■■■寶
22	37	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.4・内径 2.0・孔径 0.7			g: 熙寧元寶 初鑄: 北宋 1068年 篆書
22	38	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.3・内径 1.9・孔径 0.7			g: 聖宋元寶 初鑄: 北宋 1101年 篆書
22	39	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.4・内径 2.1・孔径 0.7			g: 政和通寶 初鑄: 北宋 1111年 分楷
22	40	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.5・内径 2.0・孔径 0.7			g: 銭種不明
22	41	第2面 面上	金属製品 銭	外径 2.3・内径 1.8・孔径 0.7			g: 元豊通寶 初鑄: 北宋 1078年 篆書
23	1	第2面 構成土	てづくね	(9.8)	—	(2.1)	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
23	2	第2面 構成土	てづくね	(9.5)	—	2.1	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
23	3	第2面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
23	4	第2面 構成土	てづくね	(9.4)	—	(1.8)	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:1/3
23	5	第2面 構成土	てづくね	(12.2)	—	3.3	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
23	6	第2面 構成土	てづくね	(12.0)	—	—	a:てづくね 内底ナデ・指頭痕顕著 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
23	7	第2面 構成土	かわらけ	(6.7)	(6.2)	0.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:茶褐色 e:良好 f:1/2 g:内底部の凹みが浅く内底と口唇部がほぼ水平となる 外側面は匏ケズリ整形によって稜を形成
23	8	第2面 構成土	かわらけ	(9.2)	(6.6)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
23	9	第2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.8)	1.85	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:1/3
23	10	第2面 構成土	かわらけ	(9.1)	(7.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
23	11	第2面 構成土	かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕強 糸切り痕をナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
23	12	第2面 構成土	かわらけ	7.5	5.4	1.75	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
23	13	第2面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
23	14	第2面 構成土	かわらけ	8.2	6.0	1.95	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
23	15	第2面 構成土	かわらけ	7.55	5.6	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c:赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形
23	16	第2面 構成土	かわらけ	8.5	5.6	1.8	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
23	17	第2面 構成土	かわらけ	8.1	5.4	1.8	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂多・雲母多・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 内面・口唇部に鉄分付着
23	18	第2面 構成土	かわらけ	7.0	5.6	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
23	19	第2面 構成土	かわらけ	7.2	5.3	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 g:器壁摩耗
23	20	第2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.4)	(1.4)	a:ロクロ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
23	21	第2面 構成土	かわらけ	7.8	5.5	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
23	22	第2面 構成土	かわらけ	7.3	5.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
23	23	第2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.3)	(1.7)	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
23	24	第2面 構成土	かわらけ	(8.1)	(5.7)	(1.8)	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:糸切りの糸痕が側壁にまで上がつている
23	25	第2面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
23	26	第2面 構成土	かわらけ	(6.4)	(4.6)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
23	27	第2面 構成土	かわらけ	7.2	5.0	1.85	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4 g:口唇部油煤痕
23	28	第2面 構成土	かわらけ	7.4	4.5	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 g:口唇部油煤痕
23	29	第2面 構成土	かわらけ	8.1	5.3	1.95	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
23	30	第2面 構成土	かわらけ	(7.4)	(4.4)	2.0	a:ロクロ・外底回転系切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 粉質良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 g:器面全体摩耗
23	31	第2面 構成土	かわらけ	11.8	8.1	3.2	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:4/5 g:口唇部一部黒色に変色
23	32	第2面 構成土	かわらけ	(11.8)	(6.9)	3.2	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
23	33	第2面 構成土	かわらけ	11.7	7.0	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
23	34	第2面 構成土	かわらけ	11.3	6.6	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
23	35	第2面 構成土	かわらけ	12.3	8.7	3.05	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
23	36	第2面 構成土	かわらけ	(12.7)	(7.6)	3.45	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
23	37	第2面 構成土	かわらけ	11.7	7.6	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5 g:内外面に鉄分付着 一部黒色に変色
23	38	第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4 g:口唇部油煤痕
23	39	第2面 構成土	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
23	40	第2面 構成土	かわらけ	(12.5)	(7.5)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
23	41	第2面 構成土	かわらけ	12.5	7.6	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
23	42	第2面 構成土	かわらけ	12.6	8.6	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
23	43	第2面 構成土	かわらけ	13.4	7.4	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
23	44	第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
23	45	第2面 構成土	かわらけ	12.5	8.5	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
23	46	第2面 構成土	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
23	47	第2面 構成土	青磁 鎚連弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
23	48	第2面 構成土	青磁 碗	—	—	—	a:ロクロ b:黒色微砂・精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:無文
23	49	第2面 構成土	青磁 碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:無文 外面に制作時からの傷が残る
23	50	第2面 構成土	青磁 碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:輪花型
23	51	第2面 構成土	青磁 鉢	(20.8)	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:青緑色 e:良好 f:口縁部片 g:外面鎚連弁文 火熱を受け釉剥離
23	52	第2面 構成土	青磁 折腰鉢	—	4.4	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 e:良好 f:底部片 g:無文 高台内部露胎・高台部は雑に施釉・火熱を受け釉剥離
23	53	第2面 構成土	青磁 壺	—	(5.6)	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:青緑色 e:良好 f:底部片 g:外面に鎚状の連続した文様 小型 53と54は同一個体の可能性あり
23	54	第2面 構成土	青磁 壺	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:青緑色 e:良好 f:胴部片 g:外面に鎚状の連続した文様 小型 53と54は同一個体の可能性あり
23	55	第2面 構成土	白磁 皿	—	—	—	b:精良堅緻 c:白色 d:不透明 白色 e:良好 f:口縁部片 g:内面印花文
23	56	第2面 構成土	白磁 皿	—	—	—	a:ロクロ b:白色 精良堅緻 d:白色透明釉を薄く施釉 e:良好 f:口縁部片 g:内面印花文
23	57	第2面 構成土	白磁 口元碗	—	—	—	a:ロクロ b:黒色微砂・精良堅緻 c:灰白色 d:淡灰黄色 e:良好 f:口縁部片 g:口縁部露胎
23	58	第2面 構成土	白磁 口元皿	—	—	—	a:ロクロ b:黒色微砂・精良堅緻 c:灰白色 d:淡灰黄色 e:良好 f:口縁部片 g:口縁部露胎
23	59	第2面 構成土	白磁 口元皿	—	—	—	a:ロクロ b:白色 精良堅緻 d:乳白色半透明釉 薄い e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎 口唇部外側に黒色の付着物あり
23	60	第2面 構成土	白磁 口元碗	—	—	—	a:ロクロ b:黒色微砂・精良堅緻 c:灰白色 d:淡灰黄色 e:良好 f:口縁部片 g:口縁部露胎
23	61	第2面 構成土	青白磁 合子蓋	(5.8)	—	2.0	a:型づくり b:精良堅緻 c:白色 d:淡水色 e:良好 f:口縁部片 g:輪花型
23	62	第2面 構成土	緑釉 盤	—	—	—	f:胴部小片 内面銀化
24	63	第2面 構成土	瀬戸 器種不明	—	(3.4)	—	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・黒色粒 やや粗土 c:灰色 e:良好 f:底部片 g:壺か
24	64	第2面 構成土	山茶碗	—	(6.2)	—	a:ロクロ b:砂粒・長石・小石粒・石英 c:灰色 e:良好・軟質 f:1/4 g:尾張型・7形式
24	65	第2面 構成土	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:灰色 d:内面自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:内面下部摩耗・6a形式
24	66	第2面 構成土	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:灰色 d:口唇部・内面自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 6a形式
24	67	第2面 構成土	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 6a形式
24	68	第2面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:暗褐色 d:茶褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:斜格子文の押印
24	69	第2面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:暗褐色 d:茶褐色 e:良好・硬質 f:肩部片 g:文様不明の押印
24	70	第2面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:暗褐色 d:茶褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
24	71	第2面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:暗褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c:暗褐色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:矢羽文の押印
24	72	第2面 構成土	瓦 軒平瓦	—	—	2.6	a:凸面縄目痕・離れ砂付着・凹面縦方向のナデ・離れ砂付着・側面丁寧な篋ケズリ整形・磨き b:灰色・砂粒・石粒・白色粒・軟質・良土 e:軟質
24	73	第2面 構成土	石製品 硯	(5.2)	5.45	(1.05)	a:両面に制作を試みた痕跡あり・製作途中 c:茶褐色
24	74	第2面 構成土	石製品 砥石	(3.7)	3.5	(0.55)	c:黄橙色 g:鳴滝(蒲葺ヶ谷)産・仕上砥
24	75	第2面 構成土	石製品 砥石	(3.5)	(2.75)	0.6	a:1面のみ遺存 側面切り出し痕 c:黄灰色 g:鳴滝(中山)産・仕上砥
24	76	第2面 構成土	自然石 水晶	(6.3)	(1.7)	(1.3)	g:加工途中か? 割り出し痕あり
24	77	第2面 構成土	金属製品 銭	外径2.4・内径1.95・孔径0.65			g:景祐元寶 初鑄:北宋1034年 真書
24	78	第2面 構成土	金属製品 銭	外径2.4・内径1.9・孔径0.7			g:至和通寶 初鑄:北宋1054年 真書
24	79	第2面 構成土	金属製品 銭	外径2.3・内径2.0・孔径0.6			g:照寧元寶 初鑄:北宋1068年 篆書
26	1	第3面 遺構142	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
26	2	第3面 遺構142	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片
26	3	第3面 遺構142	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
26	4	第3面 遺構146	石製品 砥石	[7.7]	2.9	2.1	c:黄白色 g:伊予産・中砥 4面使用
26	5	第3面 遺構148	かわらけ	(12.0)	(8.2)	2.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・黒色粒・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内底と内外口唇部一部が黒色に変色 糸切りの回転速度がやや緩やか
26	6	第3面 遺構150	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:灰色 d:自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:5型式
26	7	第3面 遺構150	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:橙色 砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石粒 良土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:底部片
26	8	第3面 遺構150	金属製品 銭	外径2.4・内径2.4・孔径0.7			g:嘉定通寶 初鑄:南宋1208年 楷書 背文:九
26	9	第3面 遺構153	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
26	10	第3面 遺構155	かわらけ	(6.8)	(5.0)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
26	11	第3面 遺構157	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒 c:灰色 d:自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
26	12	第3面 遺構159	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:灰緑色 e:堅緻 f:口縁部片
26	13	第3面 遺構159	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 d:自然降灰 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
26	14	第3面 遺構159	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:黒灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c:黒褐色 e:良好・硬質 f:肩部片 g:格子状の叩き文
26	15	第3面 遺構160	鉄製品 釘	7.1	0.5	0.3	f:ほぼ完形 g:断面方形
26	16	第3面 遺構162	てづくね	(9.1)	—	1.8	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
26	17	第3面 遺構162	てづくね	(13.0)	—	3.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:2/3
26	18	第3面 遺構162	てづくね	(12.0)	—	—	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
26	19	第3面 遺構162	かわらけ	4.9	4.3	12	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部やや内折れを呈する
26	20	第3面 遺構162	かわらけ	(9.3)	(7.5)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
26	21	第3面 遺構162	かわらけ	(9.0)	(7.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 硬質 c:橙色 e:良好 f:1/3
26	22	第3面 遺構162	かわらけ	(9.5)	(6.8)	1.85	a:ロクロ・内底ナデ・指抜き痕・底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・小石粒 粗土 c:赤褐色 e:良好 f:2/3
26	23	第3面 遺構162	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
26	24	第3面 遺構162	かわらけ	(13.1)	(8.6)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・指抜き痕・底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・小石粒 粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/2
26	25	第3面 遺構165	青磁 碗	—	—	—	a:ロクロ b:暗灰色 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:貫入あり 内面口唇部辺に二条の沈線が廻り内側面に印花文
26	26	第3面 遺構167	かわらけ	(9.2)	(7.6)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/4
26	27	第3面 遺構168	てづくね	(8.2)	—	1.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/2
26	28	第3面 遺構168	てづくね	(8.8)	—	1.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:褐色 e:良好 f:3/4
26	29	第3面 遺構171	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a:ロクロ b:暗灰白色 精良堅緻 d:灰緑色透明釉をやや薄く施釉 e:良好 f:口縁部片
26	30	第3面 遺構171	土製品 銅釜	—	—	—	b:砂粒・白色粒・赤色粒・雲母 良土 c:黄褐色 e:良好 f:口縁部片
26	31	第3面 遺構175	てづくね	(8.8)	—	1.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:3/4
26	32	第3面 遺構175	てづくね	(8.4)	—	1.7	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:褐色 e:良好 f:1/3
26	33	第3面 遺構180	てづくね	(9.8)	—	1.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/6 g:細片の為復元値は参考
26	34	第3面 遺構181	てづくね	(9.0)	—	1.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4 g:内面の一部黒色に変色
26	35	第3面 遺構181	てづくね	(12.6)	—	3.5	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/4
26	36	第3面 遺構181	青白磁 水注	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 c:灰緑色 e:良好 f:注口片
27	37	第3面 遺構184	てづくね	(9.0)	—	2.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/4
27	38	第3面 遺構184	かわらけ	(11.8)	(6.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3 g:底面意図的に磨耗か
27	39	第3面 遺構184	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・赤色 良土粒 c:灰色 d:自然降灰 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
27	40	第3面 遺構184	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	(14.0)	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・雲母 c:暗褐色 e:良好 f:底部片 1/6 g:内面に篋状工具による調整痕
27	41	第3面 遺構185	かわらけ	(8.4)	(8.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/8 細片の為復元値は参考
27	42	第3面 遺構186	てづくね	(14.2)	—	3.0	a:てづくね 外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
27	43	第3面 遺構186	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・赤色粒・白色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/6 g:細片の為復元値は参考
27	44	第3面 遺構187	てづくね	(12.0)	—	3.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
27	45	第3面 遺構187	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:黒灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 良土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:矢羽の押印
27	46	第3面 遺構188	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/6 g:口縁部やや内湾する 細片の為復元値参考
27	47	第3面 遺構189	てづくね	(14.6)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/5
27	48	第3面 遺構189	山茶碗	—	—	—	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:尾張型・7形式
27	49	第3面 遺構190	てづくね	(13.6)	—	3.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
27	50	第3面 遺構190	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
27	51	第3面 遺構191	てづくね	(14.6)	—	3.5	a:てづくね 外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・白色粒・黒色粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/6
27	52	第3面 遺構193	てづくね	(10.8)	—	2.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
27	53	第3面 遺構193	青磁 碗	—	—	—	a:ロクロ b:暗灰白色 精良堅緻 d:灰緑色 e:不良 外底部茶色 f:底部片 g:貫入あり 高台底部露胎 内底部印花文
27	54	第3面 遺構195	てづくね	(9.6)	—	1.9	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:内外面一部黒色に変色
27	55	第3面 遺構195	てづくね	(13.6)	—	3.0	a:てづくね 外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:内底にナデによる粘土の然り痕 雑な整形

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
27	56	第3面 遺構 195	かわらけ	(9.4)	(7.8)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	57	第3面 遺構 196	てづくね	(8.9)	—	1.95	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
27	58	第3面 遺構 197	てづくね	(7.9)	—	1.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
27	59	第3面 遺構 198	てづくね	(10.0)	—	1.9	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/6 g: 細片の為復元値は参考
27	60	第3面 遺構 198	てづくね	(12.8)	—	2.9	a: てづくね 外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/6 g: 細片の為復元値は参考
27	61	第3面 遺構 198	かわらけ	(8.4)	(6.8)	2.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/6 g: 細片の為復元値は参考
27	62	第3面 遺構 199	てづくね	(14.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
27	63	第3面 遺構 199	かわらけ	(7.6)	(8.0)	2.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/6 g: 細片の為復元値は参考
27	64	第3面 遺構 200	てづくね	(13.6)	—	4.0	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	65	第3面 遺構 201	てづくね	(10.0)	—	1.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
27	66	第3面 遺構 201	てづくね	(9.4)	—	1.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	67	第3面 遺構 201	かわらけ	(9.4)	(7.4)	1.6	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 糸切り痕をナデ消した痕跡あり b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
27	68	第3面 遺構 202	てづくね	(8.2)	—	2.0	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・黒色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/6 g: 外面の一部黒色に変色 g: 細片の為復元値は参考
27	69	第3面 遺構 202	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
27	70	第3面 遺構 202	てづくね	(14.8)	—	3.05	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	71	第3面 遺構 202	てづくね	(12.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
27	72	第3面 遺構 202	てづくね	(13.6)	—	3.8	a: てづくね 外底指頭痕+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	73	第3面 遺構 202	白磁 壺	—	(7.1)	—	a: ロクロ b: 白色 砂粒・黒色粒を含む精良堅緻 d: 灰緑色 e: 良好・軟質 f: 底部片 g: 高台貼り付け・高台部露胎・外底糸切り
27	74	第3面 遺構 202	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土 c: 黒灰色 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 14弁の菊花文押印
27	75	第3面 遺構 202	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 黒灰色 砂粒・白色粒・小石粒 やや粗土 c: 黒褐色 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 格子文押印
27	76	第3面 遺構 203	てづくね	(12.8)	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
27	77	第3面 遺構 203	てづくね	(15.0)	—	2.9	a: てづくね 外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/6 g: 細片の為復元値は参考
27	78	第3面 遺構 203	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 灰白色 精良堅緻 d: 灰緑色 e: 堅緻 f: 口縁部片 g: 貫入あり 内面劃花文
27	79	第3面 遺構 203	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a: 輪積み b: 砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c: 灰色 d: 口縁部の上に自然降灰 e: 良好・硬質 f: 口縁部片
27	80	第3面 遺構 205	てづくね	(13.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
27	81	第3面 遺構 205	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
27	82	第3面 遺構 206	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
27	83	第3面 遺構 206	てづくね	(12.0)	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・白色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2
27	84	第3面 遺構 206	てづくね	(13.2)	—	3.0	a: てづくね 外底指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
27	85	第3面 遺構 207	てづくね	(10.8)	—	3.0	a: てづくね b: 微砂・雲母・黒色粒 良土 c: 白色 e: 良好 f: 1/4 g: 口唇内面に褐色の付着物 白かわらけ
27	86	第3面 遺構 207	かわらけ	(9.4)	(7.4)	1.3	a: ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
28	1	第3面 面上	てづくね	(8.2)	—	1.65	a: てづくね 外底部ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
28	2	第3面 面上	てづくね	(8.7)	—	1.45	a: てづくね 内底ナデ・外底部ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
28	3	第3面 面上	てづくね	(9.2)	—	1.8	a: てづくね 外底部ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
28	4	第3面 面上	てづくね	(9.5)	—	1.8	a: てづくね 内外底部ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
28	5	第3面 面上	てづくね	(13.6)	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 内面黒色の付着物
28	6	第3面 面上	てづくね	(12.6)	—	3.4	a: てづくね 外底部指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 口唇部油煤痕
28	7	第3面 面上	てづくね	(13.4)	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
28	8	第3面 面上	てづくね	(12.8)	—	3.2	a: てづくね 外底部指頭痕ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
28	9	第3面 面上	かわらけ	(9.4)	(6.8)	1.85	a: ロクロ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4 内外面・断面が黒色に変色
28	10	第3面 面上	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.90	a: ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4 内底中央・口唇部・断面が黒色に変色
28	11	第3面 面上	かわらけ	(7.2)	(5.6)	1.75	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
28	12	第3面 面上	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.5	a: ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 内底中央・口唇部一部油煤痕
28	13	第3面 面上	かわらけ	(8.3)	(6.0)	1.55	a: ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
28	14	第3面上	かわらけ	7.6	5.05	1.8	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:内面に鉄分付着
28	15	第3面上	かわらけ	7.4	5.0	1.55	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
28	16	第3面上	かわらけ	7.6	5.2	2.05	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
28	17	第3面上	かわらけ	12.2	8.0	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
28	18	第3面上	かわらけ	12.7	8.15	3.55	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 口唇部1ヶ所に、意図的に工具を使用して打ち掻いている
28	19	第3面上	青磁 柳掻文碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良 堅緻 c:灰色 d:朽葉色 e:良好 f:胴部片 g:同安窯系 内外面共に傷が残る・使用痕か 12世紀中～後半
28	20	第3面上	青磁 鉢	—	(6.3)	—	a:ロクロ b:精良 堅緻 c:灰色 d:緑青色 e:良好 f:底部片 g:内面蓮弁文・内外面に貫入 高台部露胎
28	21	第3面上	青白磁 水注	—	—	—	a:ロクロ b:精良 堅緻 c:灰色 d:淡水青色 e:良好 f:胴部片 g:外面蓮弁文
28	22	第3面上	青白磁 梅瓶	—	—	—	a:ロクロ b:精良 堅緻 c:灰色 d:淡水青色 e:良好 f:胴部片
28	23	第3面上	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰色・小石粒・微砂 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片 5形式
28	24	第3面上	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:灰褐色・小石粒・微砂 c:緑褐色 e:良好 f:胴部片 不鮮明だが放射状文の押印
28	25	第3面上	常滑甕 転用品	[7.9]	[4.2]	1.0	g:胴部片四周が摩耗
28	26	第3面上	瓦器碗	(9.0)	—	—	a:ロクロ b:微砂・長石 堅緻 c:灰色 d:灰黒色 e:良好 f:口縁部片 g:内外面黒色処理 内面横位の後縦位のヘラ磨き 輪花型
28	27	第3面上	瓦器質 黒緑皿	—	—	—	a:ロクロ b:微砂 c:灰色 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部黒色処理
28	28	第3面上	瓦 軒平瓦	—	—	2.1	a:凸面布目痕・離れ砂付着・凹面縄目痕・離れ砂付着・側面鋭角ズリ整形・丁寧な磨き b:灰色・砂粒・石粒・白色粒・軟質・粗土 e:軟質
28	29	第3面上	鉄製品 皿	(9.8)	(4.0)	1.7	g:全体に錆が付着
28	30	第3面上	石製品 砥石	[7.6]	[5.2]	3.2	a:四面使用か b:白色 g:伊予産・中砥
28	31	第3面 構成土	てづくね	(9.0)	—	2.4	a:てづくね 外底部指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
28	32	第3面 構成土	てづくね	(8.4)	—	1.7	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:橙色 e:良好 f:2/3
28	33	第3面 構成土	てづくね	(8.5)	—	1.7	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
28	34	第3面 構成土	てづくね	(9.0)	—	2.3	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
28	35	第3面 構成土	てづくね	(9.0)	—	2.0	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
28	36	第3面 構成土	てづくね	(9.4)	—	2.0	a:てづくね 外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
28	37	第3面 構成土	てづくね	(10.0)	—	1.5	a:てづくね 内底回転ナデ・指抜き痕・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
28	38	第3面 構成土	てづくね	(9.2)	—	1.7	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
28	39	第3面 構成土	てづくね	9.55	—	1.9	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
28	40	第3面 構成土	てづくね	(10.0)	—	1.9	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
28	41	第3面 構成土	てづくね	(9.2)	—	1.7	a:てづくね 外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
28	42	第3面 構成土	てづくね	9.35	—	1.85	a:てづくね 内底回転ナデ・指抜き痕・外底部雑な指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5 外面鉄分付着
28	43	第3面 構成土	てづくね	(9.3)	—	1.6	a:てづくね 内底回転ナデ・指抜き痕・外底部指頭ナデ消し・工具痕あり b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
28	44	第3面 構成土	てづくね	(9.0)	—	1.7	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4 口縁部油煤痕
28	45	第3面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.8	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
28	46	第3面 構成土	てづくね	8.85	—	2.0	a:てづくね 内底回転ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:4/5
28	47	第3面 構成土	てづくね	(9.0)	—	2.9	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 内面鉄分付着
28	48	第3面 構成土	てづくね	8.9	—	2.9	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 13世紀末か
28	49	第3面 構成土	てづくね	(7.8)	—	2.05	a:てづくね 外底部指頭ナデ消し・輪花状に口唇部を内面に押し込んだ後工具によって口唇部外側を削り出している b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4 輪花型入子(瀬戸前期1期)の模倣か
29	50	第3面 構成土	てづくね	(14.0)	—	2.95	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/5
29	51	第3面 構成土	てづくね	(14.0)	—	2.5	a:てづくね 外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
29	52	第3面 構成土	てづくね	(13.9)	—	4.1	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
29	53	第3面 構成土	てづくね	(12.8)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 粉質良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
29	54	第3面 構成土	てづくね	(14.2)	—	3.6	a:てづくね 内底ナデの後器壁ナデ・指抜き痕・外底部雑な指頭ナデ消し b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
29	55	第3面 構成土	てづくね	(13.0)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・指抜き痕・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 内面一部黒色に変色
29	56	第3面 構成土	てづくね	(13.7)	—	3.95	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 外側面一部に黒色の付着物
29	57	第3面 構成土	てづくね	(14.3)	—	3.3	a:てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版 番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
29	58	第3面 構成土	てづくね	13.6	—	3.15	a: てづくね 内底ナデ・指抜き痕・外底部雑な指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 4/5
29	59	第3面 構成土	てづくね	14.1	—	3.3	a: てづくね 外底部雑な指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
29	60	第3面 構成土	てづくね	(13.8)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
29	61	第3面 構成土	てづくね	13.3	—	3.7	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
29	62	第3面 構成土	てづくね	13.5	—	3.8	a: てづくね 内底ナデ・外底部雑な指頭ナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4
29	63	第3面 構成土	てづくね	(12.8)	—	4.3	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
29	64	第3面 構成土	てづくね	(13.8)	—	4.2	a: てづくね 内底ナデ・外底部雑な指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 2/3 口唇部一か所油煤痕
29	65	第3面 構成土	てづくね	(12.6)	—	3.65	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4 内面黒色に変色・煤か
29	66	第3面 構成土	かわらけ	(8.6)	(6.5)	2.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 口唇部やや内折れ形を呈する
29	67	第3面 構成土	かわらけ	(8.7)	(6.8)	1.65	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや硬質 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
29	68	第3面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4 口唇部に油煤痕あり・破損断面にも油煤付着
29	69	第3面 構成土	かわらけ	(10.0)	(7.0)	1.65	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
29	70	第3面 構成土	かわらけ	(13.0)	(8.5)	3.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4 内外面規則性なく黒色の付着物あり・破損断面にも黒色の付着物
29	71	第3面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 暗褐色・白色粒・小石粒・微砂 c: 暗茶褐色 e: 良好 f: 胴部片 g: 格子の押印
30	1	第4面 遺構 208	てづくね	(8.8)	—	2.1	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
30	2	第4面 遺構 208	てづくね	(8.70)	—	2.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/5
30	3	第4面 遺構 208	てづくね	9.4	—	2.35	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂多・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 赤褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
30	4	第4面 遺構 208	てづくね	9.4	—	2.1	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3 g: 内面煤痕
30	5	第4面 遺構 208	てづくね	(13.7)	—	2.9	a: てづくね・内底ナデ・指抜き痕・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4
30	6	第4面 遺構 208	かわらけ	(8.20)	(5.0)	1.8	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
30	7	第4面 遺構 208	かわらけ	(8.2)	(5.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 1/4
30	8	第4面 遺構 208	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅緻 c: 灰色 d: 灰緑色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 竜泉窯・内面劃花文
30	9	第4面 遺構 208	産地不明 用途不明	—	—	—	b: 微砂・石英・雲母多・赤色粒 c: 灰褐色 e: 良好 g: 火鉢I類の底部に似る・内外面丁寧な磨き
30	10	第4面 遺構 208	瓦 平瓦	[16.6]	[12.9]	2.8	a: 凸面縦目痕・離れ砂付着・凹面布目痕・縦方向のナデ・離れ砂付着・側面丁寧な鋭角整形・磨き b: 灰色・砂粒・雲母多・石粒・白色粒・軟質・良土 e: 軟質 g: 凹面「宗清」のスタンプ
30	11	第4面 遺構 209	てづくね	(8.2)	—	1.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	12	第4面 遺構 209	てづくね	(10.4)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	13	第4面 遺構 209	てづくね	(14.6)	—	2.4	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	14	第4面 遺構 209	てづくね	(13.1)	—	3.5	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
30	15	第4面 遺構 209	てづくね	(13.8)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4
30	16	第4面 遺構 209	渥美 片口鉢	—	(13.6)	—	a: 輪積み b: 白色粒・小石粒・砂粒 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 底部片 g: 2b形式
30	17	第4面 遺構 210	てづくね	(9.10)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4
30	18	第4面 遺構 211	てづくね	(8.2)	—	1.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
30	19	第4面 遺構 211	てづくね	(13.5)	—	1.85	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ・外側面に工具痕か b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	20	第4面 遺構 213	てづくね	(9.4)	—	1.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ b: 微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4
30	21	第4面 遺構 213	てづくね	(14.4)	—	3.1	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4 内外面ともに黒色に変色
30	22	第4面 遺構 214	てづくね	(8.9)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	23	第4面 遺構 214	てづくね	(13.7)	—	3.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
30	24	第4面 遺構 214	てづくね	(13.4)	—	2.8	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
30	25	第4面 遺構 216	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
32	1	第4面 遺構 218	てづくね	(9.2)	—	1.9	a: てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
32	2	第4面 遺構 218	てづくね	9.3	—	1.8	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
32	3	第4面 遺構 218	てづくね	(9.5)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
32	4	第4面 遺構 218	てづくね	8.7	—	1.9	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
32	5	第4面 遺構 218	てづくね	(9.5)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 内面に指頭による調整痕

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
32	6	第4面 遺構218	てづくね	(9.2)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
32	7	第4面 遺構218	てづくね	(9.5)	—	1.6	a:てづくね・内底ナデの後側面回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
32	8	第4面 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.4	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
32	9	第4面 遺構218	てづくね	(8.5)	—	1.75	a:てづくね・内底回転ナデ・指抜き痕・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形 口唇部一部に油煤痕
32	10	第4面 遺構218	てづくね	(8.2)	—	1.6	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
32	11	第4面 遺構218	てづくね	(9.0)	—	1.9	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 内外面黒色に変色
32	12	第4面 遺構218	てづくね	9.4	—	2.25	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
32	13	第4面 遺構218	てづくね	(8.8)	—	1.9	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 g:内底部に切りこみ円盤技法と思われる粘土接合痕
32	14	第4面 遺構218	てづくね	(8.6)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
32	15	第4面 遺構218	てづくね	9.5	—	2.0	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 口唇部油煤痕
32	16	第4面 遺構218	てづくね	(9.8)	—	1.9	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
32	17	第4面 遺構218	てづくね	8.9	—	1.7	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:完形
32	18	第4面 遺構218	てづくね	(8.7)	—	1.7	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
32	19	第4面 遺構218	てづくね	(8.9)	—	1.5	a:てづくね・内底ナデ不明瞭・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
32	20	第4面 遺構218	てづくね	(8.9)	—	1.45	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
32	21	第4面 遺構218	てづくね	(9.7)	—	1.65	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 g:内底部に油煤痕
32	22	第4面 遺構218	てづくね	9.0	—	1.75	a:てづくね・内底ナデ不明瞭・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・白色粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4 内外面黒色に変色・煤痕か
32	23	第4面 遺構218	てづくね	(8.6)	—	2.0	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し・板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
32	24	第4面 遺構218	てづくね	(8.6)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
32	25	第4面 遺構218	てづくね	(8.6)	—	2.0	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕
32	26	第4面 遺構218	てづくね	(9.0)	—	1.5	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
32	27	第4面 遺構218	てづくね	(8.3)	—	1.75	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
32	28	第4面 遺構218	てづくね	9.2	—	1.9	a:てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ b:微砂・雲母多・海綿骨芯・小石粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
32	29	第4面 遺構218	てづくね	(8.8)	—	1.45	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 g:外底部に切りこみ円盤技法と思われる粘土接合痕
32	30	第4面 遺構218	てづくね	8.5	—	1.8	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:完形 内面油煤痕 外底部に切りこみ円盤技法と思われる粘土接合痕
32	31	第4面 遺構218	てづくね	8.9	—	1.8	a:てづくね・内底一方方向の回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒多 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 歪み大 切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕
32	32	第4面 遺構218	てづくね	(9.2)	—	1.5	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・白色粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
32	33	第4面 遺構218	てづくね	(5.8)	—	1.1	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:口縁部内折れ コースター状 最大径7.9cm
32	34	第4面 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.1	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:口縁部内折れ コースター状 最大径11.0cm
32	35	第4面 遺構218	てづくね	(14.6)	—	3.45	a:てづくね・内側面回転ナデの後内底ナデか・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
32	36	第4面 遺構218	てづくね	(14.2)	—	3.8	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 内底部油煤痕 外側面一部黒色に変色
32	37	第4面 遺構218	てづくね	(12.9)	—	3.1	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯多・黒色粒多 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 歪み激しい
32	38	第4面 遺構218	てづくね	(13.7)	—	3.2	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母多・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い f:3/4
32	39	第4面 遺構218	てづくね	(14.2)	—	3.4	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い f:1/3 g:内外側面黒色に変色
32	40	第4面 遺構218	てづくね	(14.0)	—	3.2	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
32	41	第4面 遺構218	てづくね	(13.7)	—	3.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 外底面煤付着 歪み激しい
32	42	第4面 遺構218	てづくね	(14.4)	—	3.35	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
32	43	第4面 遺構218	てづくね	14.1	—	3.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:完形 g:実測図にナデの順位・方向を示している内底面横ナデの後内側面回転ナデをし、その後再度内面のナデを行っていた
32	44	第4面 遺構218	てづくね	(13.5)	—	2.75	a:てづくね・内底ナデの後、内側面回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・白色粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
32	45	第4面 遺構218	てづくね	(13.6)	—	2.8	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
32	46	第4面 遺構218	てづくね	14.1	—	3.3	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:灰黄色 e:甘い f:3/4
32	47	第4面 遺構218	かわらけ	(9.4)	(8.0)	1.7	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
32	48	第4面 遺構218	かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 g:内面黒色に変色 内底指頭痕 底部糸切り痕をナデ消し
32	49	第4面 遺構218	かわらけ	(8.8)	(6.9)	1.7	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・黒色粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版 番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考 a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
32	50	第4面 遺構 218	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 甘い f: 1/6
32	51	第4面 遺構 218	かわらけ	(9.6)	(6.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・白色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/2 g: 底部黒色に変色
32	52	第4面 遺構 218	かわらけ	7.8	5.3	1.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 完形
32	53	第4面 遺構 218	かわらけ	13.0	9.7	3.3	a: ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 底部粘土盤による成形
32	54	第4面 遺構 218	かわらけ	(13.0)	(8.4)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 赤橙色 e: 良好 f: 1/4 g: 底部粘土盤成形か
33	55	第4面 遺構 218	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅緻 c: 灰色 d: 緑青色 e: 良好 f: 底部片 g: 内底部劃花文 高台底部露胎
33	56	第4面 遺構 218	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅緻 c: 灰白色 d: 緑青色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 内面劃花文
32	57	第4面 遺構 218	山皿	(8.0)	(4.2)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 雲母・白色粒 やや粗土 c: 青灰色 e: 良好 f: 1/3 g: 東遠系
32	58	第4面 遺構 218	山皿	(8.0)	(4.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 白色粒・小石粒 やや良土 c: 青灰色 e: 良好 f: 1/4 g: 東遠系 内面に鉄分付着
33	59	第4面 遺構 218	渥美 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 微砂 c: 灰白色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 2b 形式
33	60	第4面 遺構 218	渥美 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 微砂 c: 灰白色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 2b 形式
33	61	第4面 遺構 218	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a: 輪積み b: 白色粒・黒色粒 c: 暗灰白色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 5~6a 形式
33	62	第4面 遺構 218	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 微砂・白色粒・黒色粒 c: 暗褐色 e: 良好・硬質 f: 胴部片 g: ×文+縦線文の押印
33	63	第4面 遺構 218	常滑甕 転用品	(3.4)	(3.2)	1.0	b: 微砂・白色粒・小石粒 やや粗土 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 胴部片 g: 円形を呈し断面摩耗
33	64	第4面 遺構 218	瓦 軒丸瓦	—	—	—	a: 瓦当表面に珠文と巴文 裏面指頭による整形痕 b: 灰色・砂粒・雲母多・石粒・硬質・良土 e: 良好 f: 瓦当部片
33	65	第4面 遺構 218	瓦 平瓦	—	—	2.6	a: 凸面縄目痕・離れ砂付着 凹面布目痕・離れ砂付着 側縁部へラによる丁寧な整形 b: 灰色・砂粒・雲母多・白色粒・軟質・良土 e: 良好
33	66	第4面 遺構 218	瓦 転用品	—	—	1.6	a: 凹面布目痕 b: 灰色・砂粒・白色粒・軟質・良土 e: 良好 f: 側縁部遺存・断面一部が磨耗していたため転用品と考えた
33	67	第4面 遺構 218	須恵器 甕	—	—	—	b: 白色粒・砂粒 c: 灰白色 e: 良好・硬質 f: 胴部片
33	68	第4面 遺構 218	産地不明 白色土器	—	(6.0)	—	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 黒色粒 やや良土 c: 白色 e: 良好 f: 1/5 g: 内底部黒色に変色
33	69	第4面 遺構 218	土器 器種不明	—	6.0	—	b: 微砂・砂粒・石英 c: 暗褐色 e: 良好・硬質 f: 胴部片 g: 弥生時代・硬質な胎土
33	70	第4面 遺構 218	木製品 箸	(20.8)	0.7	0.45	
33	71	第4面 遺構 218	木製品 箸	21.9	0.7	0.55	
33	72	第4面 遺構 218	木製品 板草履	(23.1)	10.3	0.4	
33	73	第4面 遺構 218	木製品 草履芯	[12.8]	[4.8]	0.3	f: 先端部片
33	74	第4面 遺構 218	木製品 篋	19.6	1.0	0.4	
33	75	第4面 遺構 218	木製品 建具材?	7.1	2.5	3.4	
34	76	第4面 遺構 218	木製品 杭	92.2	4.4	3.2	g: 両端部削り出し痕あり
34	77	第4面 遺構 218	木製品 杭	81.2	5.0	3.5	g: 端部削り出し痕あり
34	78	第4面 遺構 218	木製品 杭	96.7	4.8	3.5	g: 両端部削り出し痕・刃物痕あり
34	79	第4面 遺構 218	木製品 杭	91.3	4.2	3.2	g: 端部削り出し痕あり
34	80	第4面 遺構 218	木製品 杭	93.2	5.9	3.8	g: 端部削り出し痕あり
35	1	第4面 遺構 215	てづくね	(8.3)	—	1.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4 コースター型
35	2	第4面 遺構 215	てづくね	(9.7)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭籠状工具によるナデ消し b: 微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 2/3
35	3	第4面 遺構 215	てづくね	(8.8)	—	2.1	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
35	4	第4面 遺構 215	てづくね	8.7	—	2.4	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し+不明瞭な板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: やや甘い f: 4/5 内底部大きく凹む
35	5	第4面 遺構 215	てづくね	9.1	—	2.35	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 完形
35	6	第4面 遺構 215	てづくね	(8.6)	—	1.75	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/3 内面全体に煤痕
35	7	第4面 遺構 215	てづくね	8.1	—	2.0	a: てづくね・切り込み円盤技法か・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: ほぼ完形
35	8	第4面 遺構 215	てづくね	(8.8)	—	1.9	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
35	9	第4面 遺構 215	てづくね	(9.3)	—	1.8	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/5
35	10	第4面 遺構 215	てづくね	(9.0)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 2/3 内面に鉄分付着
35	11	第4面 遺構 215	てづくね	9.35	—	1.9	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4
35	12	第4面 トレンチ 15	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
35	13	第4面 遺構 215	てづくね	(10.4)	—	1.9	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 2/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
35	14	第4面遺構215	てづくね	9.3	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:3/4
35	15	第4面遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.9	a:てづくね・内底雑なナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:4/5 口唇部一か所に油煤痕
35	16	第4面遺構215	てづくね	9.5	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	17	第4面遺構215	てづくね	(9.7)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
35	18	第4面遺構215	てづくね	(8.4)	—	1.6	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・海綿骨芯 良土 c:赤橙色 e:良好 f:1/3
35	19	第4面遺構215	てづくね	8.8	—	1.95	a:てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
35	20	第4面遺構215	てづくね	(9.7)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	21	第4面遺構215	てづくね	(8.4)	—	1.5	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	22	第4面遺構215	てづくね	(9.2)	—	2.5	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し+不明瞭な板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
35	23	第4面遺構215	てづくね	9.3	—	2.1	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:3/4
35	24	第4面遺構215	てづくね	(10.0)	—	2.1	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4
35	25	第4面遺構215	てづくね	9.4	—	1.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:完形
35	26	第4面遺構215	てづくね	(10.0)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
35	27	第4面遺構215	てづくね	8.9	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
35	28	第4面遺構215	てづくね	9.1	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
35	29	第4面遺構215	てづくね	(10.0)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:1/4
35	30	第4面遺構215	てづくね	(9.9)	—	2.0	a:てづくね・内底回転ナデ・外底指頭篋状工具によるナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
35	31	第4面遺構215	てづくね	(9.4)	—	1.8	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:2/3
35	32	第4面遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.95	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	33	第4面遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.8	a:てづくね・切り込み円盤技法か・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
35	34	第4面遺構215	てづくね	9.2	—	2.15	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	35	第4面遺構215	てづくね	—	—	—	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	36	第4面遺構215	てづくね	(8.7)	—	2.05	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3 口唇部・内面一部に油煤痕
35	37	第4面遺構215	てづくね	8.7	—	2.1	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
35	38	第4面遺構215	てづくね	9.4	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:4/5
35	39	第4面遺構215	てづくね	9.0	—	2.15	a:てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	40	第4面遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
35	41	第4面遺構215	てづくね	(9.8)	—	1.85	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
35	42	第4面遺構215	てづくね	9.6	—	1.8	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	43	第4面遺構215	てづくね	9.8	—	2.05	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	44	第4面遺構215	てづくね	(9.4)	—	2.0	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 内外面僅かに黒色に変色
35	45	第4面遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	46	第4面遺構215	てづくね	9.5	—	2.1	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し+不明瞭な板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:3/4
35	47	第4面遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.6	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
35	48	第4面遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.6	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
35	49	第4面遺構215	てづくね	9.65	—	1.95	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形
35	50	第4面遺構215	てづくね	(9.2)	—	1.8	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
35	51	第4面遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
35	52	第4面遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
35	53	第4面遺構215	てづくね	9.8	—	1.6	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:2/3
35	54	第4面遺構215	てづくね	(9.2)	—	1.6	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
35	55	第4面遺構215	てづくね	(9.4)	—	1.5	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
35	56	第4面遺構215	てづくね	8.7	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
35	57	第4面遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容 a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
35	58	第4面 遺構 215	てづくね	(9.0)	—	1.6	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
35	59	第4面 遺構 215	てづくね	(9.1)	—	1.6	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4
35	60	第4面 遺構 215	てづくね	8.6	—	2.0	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 3/4
35	61	第4面 遺構 215	てづくね	9.3	—	1.75	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
35	62	第4面 遺構 215	てづくね	(9.2)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
35	63	第4面 遺構 215	てづくね	(9.5)	—	1.85	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
35	64	第4面 遺構 215	てづくね	9.1	—	2.0	a: てづくね・内底雑な回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄橙色 e: やや甘い f: ほぼ完形
35	65	第4面 遺構 215	てづくね	9.3	—	1.8	a: てづくね・切り込み円盤技法・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 完形
35	66	第4面 遺構 215	てづくね	(8.8)	—	2.1	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
35	67	第4面 遺構 215	てづくね	9.5	—	1.95	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: ほぼ完形
35	68	第4面 遺構 215	てづくね	9.3	—	2.0	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5
35	69	第4面 遺構 215	てづくね	(13.6)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
35	70	第4面 遺構 215	てづくね	(13.4)	—	3.6	a: てづくね 切り込み円盤技法 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
35	71	第4面 遺構 215	てづくね	(12.4)	—	3.1	a: てづくね 内底雑なナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
35	72	第4面 遺構 215	てづくね	(13.8)	—	2.8	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4 g: 口唇部一部を意図的に平に整形
35	73	第4面 遺構 215	てづくね	(14.4)	—	—	a: てづくね 内底ナデ不明・外底指頭痕 b: 微砂・雲母 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4 g: 外面上段回転ナデによって複数の段が形成される 細片の復元値は参考
35	74	第4面 遺構 215	てづくね	(13.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
35	75	第4面 遺構 215	てづくね	(14.0)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
35	76	第4面 遺構 215	てづくね	(13.4)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・黒色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
35	77	第4面 遺構 215	てづくね	(13.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
35	78	第4面 遺構 215	てづくね	(13.2)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3 g: 内面は丁寧な整形
35	79	第4面 遺構 215	てづくね	(13.2)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
35	80	第4面 遺構 215	てづくね	(13.8)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 良好 f: 1/2
36	81	第4面 遺構 215	てづくね	(13.8)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
36	82	第4面 遺構 215	てづくね	13.6	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 完形
36	83	第4面 遺構 215	てづくね	13.6	—	3.2	a: てづくね 外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
36	84	第4面 遺構 215	てづくね	(12.8)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
36	85	第4面 遺構 215	てづくね	(13.4)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 2/3
36	86	第4面 遺構 215	てづくね	(13.0)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 内面は丁寧な整形
36	87	第4面 遺構 215	てづくね	(13.2)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 2/3
36	88	第4面 遺構 215	てづくね	(13.3)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
36	89	第4面 遺構 215	てづくね	(14.0)	—	3.3	a: てづくね・内底ナデ・指抜き痕・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4 外側面全体に油煤痕
36	90	第4面 遺構 215	てづくね	13.6	—	3.8	a: てづくね 切り込み円盤技法 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 完形
36	91	第4面 遺構 215	てづくね	(13.0)	—	3.65	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/2
36	92	第4面 遺構 215	てづくね	(12.4)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 赤橙色 e: 良好 f: 2/3
36	93	第4面 遺構 215	てづくね	(12.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
36	94	第4面 遺構 215	てづくね	(13.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
36	95	第4面 遺構 215	てづくね	(12.6)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
36	96	第4面 遺構 215	てづくね	(13.2)	—	3.0	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
36	97	第4面 遺構 215	てづくね	(13.6)	—	3.1	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
36	98	第4面 遺構 215	てづくね	(15.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
36	99	第4面 遺構 215	てづくね	(14.6)	—	3.1	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2
36	100	第4面 遺構 215	てづくね	(14.4)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 口縁部一部欠損 g: 内外面口唇部の一部油煤痕
36	101	第4面 遺構 215	てづくね	(14.0)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
36	102	第4面 遺構215	てづくね	(13.3)	—	3.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3 g:内外面の一部黒色に変色
36	103	第4面 遺構215	てづくね	14.4	—	3.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:完形
36	104	第4面 遺構215	てづくね	(14.8)	—	3.9	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3 g:口唇部段になる
36	105	第4面 遺構215	てづくね	(14.8)	—	3.8	a:てづくね 内底ナデ不明瞭・外底指頭痕+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:3/4
36	106	第4面 遺構215	てづくね	(14.4)	—	3.8	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:3/4
36	107	第4面 遺構215	てづくね	14.2	—	3.9	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:3/4
36	108	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	3.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3
36	109	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.8	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
36	110	第4面 遺構215	てづくね	(13.4)	—	3.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
36	111	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
36	112	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.7	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕・外面上方横ナデ痕が顕著に残る b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
36	113	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.7	a:てづくね 外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
36	114	第4面 遺構215	てづくね	13.8	—	3.9	a:てづくね 外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:ほぼ完形
36	115	第4面 遺構215	てづくね	13.4	—	3.6	a:てづくね 外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:ほぼ完形
36	116	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	3.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3 g:口唇部一部打ち掻いている
36	117	第4面 遺構215	てづくね	13.4	—	3.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒 良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:3/4
36	118	第4面 遺構215	てづくね	(13.2)	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
36	119	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
36	120	第4面 遺構215	てづくね	(14.6)	—	2.7	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:口唇部一部に油煤痕
36	121	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	2.9	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
36	122	第4面 遺構215	てづくね	(14.6)	—	3.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
37	123	第4面 遺構215	てづくね	(13.9)	—	3.2	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭筒状工具による整形 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/2
37	124	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
37	125	第4面 遺構215	てづくね	13.6	—	3.8	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:内外面口縁部に厚く油煤痕付着
37	126	第4面 遺構215	てづくね	13.8	—	3.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:ほぼ完形
37	127	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.6	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
37	128	第4面 遺構215	てづくね	(14.4)	—	(3.3)	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
37	129	第4面 遺構215	てづくね	(13.0)	—	3.4	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
37	130	第4面 遺構215	てづくね	14.2	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:内外面黒色に変色 口唇部一部に油煤痕
37	131	第4面 遺構215	てづくね	(13.7)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
37	132	第4面 遺構215	てづくね	(14.8)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:外面一部黒色に変色
37	133	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	3.0	a:てづくね 切り込み円盤技法 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・すだれ状の圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
37	134	第4面 遺構215	てづくね	(12.8)	—	2.7	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
37	135	第4面 遺構215	てづくね	(13.0)	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
37	136	第4面 遺構215	てづくね	(13.4)	—	3.5	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
37	137	第4面 遺構215	てづくね	(13.2)	—	2.9	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
37	138	第4面 遺構215	てづくね	13.4	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
37	139	第4面 遺構215	てづくね	(14.6)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3
37	140	第4面 遺構215	てづくね	(14.2)	—	3.0	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4 g:内外口唇部油煤痕
37	141	第4面 遺構215	てづくね	13.6	—	3.0	a:てづくね 外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形
37	142	第4面 遺構215	てづくね	(14.0)	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母多・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
37	143	第4面 遺構215	てづくね	13.8	—	3.7	a:てづくね 外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b:微砂・雲母・白色粒・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:赤褐色 e:良好 f:3/4
37	144	第4面 遺構215	てづくね	(13.6)	—	3.1	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
37	145	第4面 遺構 215	てづくね	(141)	—	3.3	a: てづくね 切り込み円盤技法 内底ナデ・外底指頭痕雑なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3 g: 内外面の一部黒色に変色 外面不明瞭なヘラ状工具による整形
37	146	第4面 遺構 215	てづくね	(144)	—	3.2	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
37	147	第4面 遺構 215	てづくね	(140)	—	3.0	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 2/3 g: 内外面煤痕
37	148	第4面 遺構 215	てづくね	(138)	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
37	149	第4面 遺構 215	てづくね	(136)	—	2.85	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消しナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2
37	150	第4面 遺構 215	てづくね	(140)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
37	151	第4面 遺構 215	てづくね	(134)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/2
37	152	第4面 遺構 215	てづくね	(134)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒・小石粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
37	153	第4面 遺構 215	てづくね	(136)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
37	154	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.1	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
37	155	第4面 遺構 215	てづくね	(135)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
37	156	第4面 遺構 215	てづくね	(137)	—	3.25	a: てづくね 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
37	157	第4面 遺構 215	てづくね	136	—	3.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: ほぼ完形
37	158	第4面 遺構 215	てづくね	140	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: ほぼ完形
37	159	第4面 遺構 215	てづくね	(142)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4
37	160	第4面 遺構 215	てづくね	(142)	—	3.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 3/4 g: 内外面の一部黒色に変色
37	161	第4面 遺構 215	てづくね	138	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し・不明瞭な板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: ほぼ完形
38	162	第4面 遺構 215	てづくね	(136)	—	3.3	a: てづくね 内底雑なナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
38	163	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
38	164	第4面 遺構 215	てづくね	(136)	—	3.7	a: てづくね 内底強くナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
38	165	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.7	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
38	166	第4面 遺構 215	てづくね	(127)	—	3.45	a: てづくね 外底指頭丁寧なナデ消し・不明瞭な板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
38	167	第4面 遺構 215	てづくね	(128)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・不明瞭な板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
38	168	第4面 遺構 215	てづくね	(120)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
38	169	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2
38	170	第4面 遺構 215	てづくね	126	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・粘土粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
38	171	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕ナデ消し+板状圧痕 底部鋭状工具による整形痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黒色粒 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4
38	172	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.3	a: てづくね 外底指頭痕丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
38	173	第4面 遺構 215	てづくね	128	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
38	174	第4面 遺構 215	てづくね	(132)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し・不明瞭な板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
38	175	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.5	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
38	176	第4面 遺構 215	てづくね	125	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
38	177	第4面 遺構 215	てづくね	(122)	—	3.0	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
38	178	第4面 遺構 215	てづくね	(124)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 赤橙色 e: 良好 f: 1/3
38	179	第4面 遺構 215	てづくね	(130)	—	3.6	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4 g: 口唇部油煤痕 内面器壁剥離
38	180	第4面 遺構 215	てづくね	—	—	—	a: てづくね 内底ナデ不明・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 口縁部片 g: 内面に墨書あり
38	181	第4面 遺構 215	てづくね	—	—	—	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 底部片 g: 外底に墨書あり・判読不明 内底全面と外底の一部黒色に変色
38	182	第4面 遺構 215	てづくね	—	—	—	a: てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 底部片 g: 内底に墨書あり・判読不明
38	183	第4面 遺構 215	かわらけ	6.8	4.9	1.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 2/3
38	184	第4面 遺構 215	かわらけ	(8.4)	(7.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
38	185	第4面 遺構 215	かわらけ	9.5	7.0	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 2/3
38	186	第4面 遺構 215	かわらけ	(9.2)	(6.2)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2
38	187	第4面 遺構 215	かわらけ	(9.0)	(7.1)	1.45	a: ロクロ・内底ナデ不明瞭・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
38	188	第4面遺構215	かわらけ	(9.4)	(7.3)	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e:良好 f:2/4 g:見込みを強く回転ナデ整形したために内底部が盛りあがる
38	189	第4面遺構215	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.5	a:ロクロ・内底横ナデの後回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
38	190	第4面遺構215	かわらけ	(8.7)	(6.6)	1.65	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 赤橙色 e:良好 f:1/2
38	191	第4面遺構215	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.65	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f:1/2
38	192	第4面遺構215	かわらけ	(9.8)	(7.6)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:2/3
38	193	第4面遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:2/3 g:見込みを強く回転ナデ整形したために内底部が盛りあがる
38	194	第4面遺構215	かわらけ	9.25	7.5	1.75	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e:やや甘い f:2/3
38	195	第4面遺構215	かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
38	196	第4面遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.4)	2.05	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/4
38	197	第4面遺構215	かわらけ	(9.5)	(7.3)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/5
38	198	第4面遺構215	かわらけ	(9.6)	(7.1)	1.9	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:2/3
38	199	第4面遺構215	かわらけ	9.4	7.2	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e:やや甘い f:ほぼ完形
38	200	第4面遺構215	かわらけ	(8.5)	(6.8)	1.9	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:2/3
38	201	第4面遺構215	かわらけ	9.5	7.2	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 赤橙色 e: 良好 f:完形
38	202	第4面遺構215	かわらけ	(9.1)	(6.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e:良好 f:2/3 見込みを強く回転ナデ整形したために内底部が盛りあがる
38	203	第4面遺構215	かわらけ	9.5	7.2	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形
38	204	第4面遺構215	かわらけ	(9.2)	(6.6)	2.1	a:ロクロ・内底横ナデの後回転ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
38	205	第4面遺構215	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.95	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 赤橙色 e:良好 f:1/2 g:内外面部分的に油煤痕
38	206	第4面遺構215	かわらけ	9.7	6.8	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e:やや甘い f:1/2 g:内外面黒色に変色
38	207	第4面遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.95	a:ロクロ・内底横ナデの後回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
38	208	第4面遺構215	かわらけ	(8.8)	(6.5)	2.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f:2/3 g:粗い回転糸切りの為高台状の底部
38	209	第4面遺構215	かわらけ	9.25	6.6	2.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:完形 g:外側面一部が黒色に変色
38	210	第4面遺構215	かわらけ	9.0	7.8	1.45	a:ロクロ・内底搦状工具による回転ナデの後内底中央を横ナデ・雑な外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形
38	211	第4面遺構215	かわらけ	9.3	6.8	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:ほぼ完形 見込み中央に穿孔(扶雑物が抜けた痕跡の可能性もあり)
38	212	第4面遺構215	かわらけ	(12.0)	(9.0)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
38	213	第4面遺構215	かわらけ	12.6	9.6	2.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
38	214	第4面遺構215	かわらけ	13.0	9.8	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
39	215	第4面遺構215	かわらけ	(13.6)	(9.6)	3.35	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/4
39	216	第4面遺構215	かわらけ	(12.7)	(8.9)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:1/3
39	217	第4面遺構215	かわらけ	(13.6)	(8.7)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:1/4 g:底部糸切りが雑な為高台状に残る
39	218	第4面遺構215	かわらけ	(12.6)	(9.0)	3.05	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/2
39	219	第4面遺構215	かわらけ	(12.8)	(9.3)	3.15	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:1/4
39	220	第4面遺構215	かわらけ	(13.2)	(8.8)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 橙色 e:良好 f:5/6
39	221	第4面遺構215	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.3	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e:やや甘い f:2/3 g:内外面全体が黒色に変色
39	222	第4面遺構215	かわらけ	13.4	8.8	3.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・白色粒 良土 c: 黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
39	223	第4面遺構215	かわらけ	—	—	—	a:ロクロ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e:やや甘い f:底部片 g: 静止糸切りか
39	224	第4面遺構215	青磁碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c: 灰色 d: 灰緑色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 竜泉窯・内面口縁部辺に2条の沈線が廻る・内面側壁劃花文
39	225	第4面遺構215	青磁碗	—	—	—	f: 底部片 g: 底部を円盤状に遺存か 高台部露胎 内底灰緑色の釉が厚く溜まる
39	226	第4面遺構215	白磁皿	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c: 灰白色 d: 透明 e: 良好 f: 口縁部片 g: 内外面無文 Ⅲ皿～Ⅳ期
39	227	第4面遺構215	瓦平瓦	[20.7]	[18.8]	2.0	a: 凸面横方向ケズリ・離れ砂付着・凹面横方向ケズリ・布目痕・離れ砂付着・側面丁寧なケズリ b: 灰色・砂粒・雲母・石粒・白色粒・軟質・やや粗土 e: 良好 g: A類Ⅰ期
39	228	第4面遺構215	漆器皿	—	6.7	—	f: 口唇部欠損 g: 内外面黒色漆塗漆・無文・外底部にロクロ目痕
39	229	第4面遺構215	木製品箸	20.5	0.7	0.4	
39	230	第4面遺構215	木製品箸	20.8	0.7	0.5	
39	231	第4面遺構215	木製品箸	21.3	0.7	0.55	

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
39	232	第4面 遺構 215	木製品 箸	21.0	0.7	0.5	
39	233	第4面 遺構 215	木製品 箸	22.1	0.7	0.6	
39	234	第4面 遺構 215	木製品 箸	26.8	0.7	0.5	
39	235	第4面 遺構 215	木製品 箸	25.1	0.8	0.55	
39	236	第4面 遺構 215	木製品 箸	24.8	0.7	0.55	
39	237	第4面 遺構 215	木製品 箸	23.0	0.8	0.6	
39	238	第4面 遺構 215	木製品 箸	20.9	0.7	0.5	
39	239	第4面 遺構 215	木製品 箸	20.8	0.65	0.4	
39	240	第4面 遺構 215	木製品 箸	20.3	0.7	0.55	
39	241	第4面 遺構 215	木製品 箸	19.9	0.7	0.5	
39	242	第4面 遺構 215	木製品 箸	19.5	0.5	0.5	
40	1	第4面 遺構 219	てづくね	(9.8)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	2	第4面 遺構 219	てづくね	(9.6)	—	1.9	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 2/3
40	3	第4面 遺構 219	てづくね	(9.2)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	4	第4面 遺構 219	てづくね	(8.9)	—	1.3	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 3/4
40	5	第4面 遺構 219	てづくね	(8.8)	—	1.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	6	第4面 遺構 219	てづくね	(8.6)	—	1.9	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 2/3
40	7	第4面 遺構 219	てづくね	(14.6)	—	3.6	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	8	第4面 遺構 219	てづくね	(12.8)	—	3.4	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
40	9	第4面 遺構 219	てづくね	(13.6)	—	3.1	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4 g: 内外面に油煤痕
40	10	第4面 遺構 219	てづくね	(13.2)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	11	第4面 遺構 219	てづくね	13.8	—	3.15	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形
40	12	第4面 遺構 219	てづくね	14.4	—	3.1	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 4/5
40	13	第4面 遺構 219	てづくね	(13.2)	—	3.4	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭鑑状工具によるナデ消し b: 微砂・雲母多・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3 g: 内外面黒色の付着物あり
40	14	第4面 遺構 219	てづくね	(14.0)	—	3.25	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 2/3
40	15	第4面 遺構 219	かわらけ	9.8	5.2	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯・白色粒・赤色粒・土丹 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 糸切り痕の回転が緩やか
40	16	第4面 遺構 219	かわらけ	(9.3)	(7.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
40	17	第4面 遺構 219	かわらけ	(8.95)	(7.1)	1.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
40	18	第4面 遺構 219	木製品 器種不明	—	6.7	—	f: 底部片 g: 生地 平高台
40	19	第4面 遺構 219	漆器 器種不明	(17.0)	—	—	g: 内外面全体に黒漆 g: 輪か鉢か
41	1	第4面 面上	てづくね	(9.6)	—	1.3	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4
41	2	第4面 面上	てづくね	(9.3)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/3
41	3	第4面 面上	てづくね	(9.10)	—	1.6	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
41	4	第4面 面上	てづくね	(9.2)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
41	5	第4面 面上	てづくね	(9.8)	—	1.85	a: てづくね・内底回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
41	6	第4面 面上	てづくね	(9.3)	—	1.75	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 1/4
41	7	第4面 面上	てづくね	(8.5)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
41	8	第4面 面上	てづくね	(8.8)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
41	9	第4面 面上	てづくね	(8.7)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/3
41	10	第4面 面上	てづくね	(10.5)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
41	11	第4面 面上	てづくね	(10.5)	—	2.0	a: てづくね・外底指頭痕 口縁端部面取り+一段ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4 g: 器表面に鉄分付着
41	12	第4面 面上	てづくね	(13.1)	—	3.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭鑑状工具によるナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 2/3
41	13	第4面 面上	てづくね	(14.2)	—	3.1	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し+板状圧痕 b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/2
41	14	第4面 面上	てづくね	(13.0)	—	3.3	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/2

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
41	15	第4面上	てづくね	(14.1)	—	3.15	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭雑なナデ消し b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
41	16	第4面上	てづくね	(14.2)	—	3.1	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
41	17	第4面上	てづくね	(14.2)	—	3.3	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
41	18	第4面上	てづくね	(14.0)	—	3.2	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭丁寧なナデ消し b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 内底見込みが黒色に変色
41	19	第4面上	てづくね	14.5	—	3.65	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・指抜き痕・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
41	20	第4面上	てづくね	13.4	—	3.3	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
41	21	第4面上	てづくね	13.6	—	3.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母多・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
41	22	第4面上	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・小石粒・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
41	23	第4面上	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
41	24	第4面上	かわらけ	(9.1)	(6.5)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
41	25	第4面上	かわらけ	(9.9)	(7.2)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
41	26	第4面上	青磁碗	—	—	—	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:竜泉窯・内面側壁劃花文
41	27	第4面上	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石・小石粒 c:灰褐色 d:灰褐色 e:良好 硬質 f:口縁部片 g:6a形式
41	28	第4面構成土	てづくね	(7.8)	—	1.2	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4 口縁部内折れ
41	29	第4面構成土	てづくね	(9.7)	—	1.8	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
41	30	第4面構成土	てづくね	(9.7)	—	(1.8)	a:てづくね・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
41	31	第4面構成土	てづくね	9.2	—	1.6	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:完形
41	32	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
41	33	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	1.8	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
41	34	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	(1.8)	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
41	35	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	(1.8)	a:てづくね・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
41	36	第4面構成土	てづくね	(9.7)	—	(1.7)	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:口唇部面取り?
41	37	第4面構成土	てづくね	(9.0)	—	1.7	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3
41	38	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4
41	39	第4面構成土	てづくね	9.0	—	1.9	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:完形 歪みが強い
41	40	第4面構成土	てづくね	(8.9)	—	(1.7)	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:口唇部面取り?
41	41	第4面構成土	てづくね	(9.4)	—	(1.9)	a:てづくね・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
41	42	第4面構成土	てづくね	(9.1)	—	(1.8)	a:てづくね・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/4 g:器表面が全体的に黒く変色煤けてる
41	43	第4面構成土	てづくね	(9.7)	—	2.0	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
41	44	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	(2.0)	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
41	45	第4面構成土	てづくね	(8.8)	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
41	46	第4面構成土	てづくね	(9.6)	—	(2.0)	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3
41	47	第4面構成土	てづくね	(9.2)	—	2.0	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
41	48	第4面構成土	てづくね	7.3	—	1.5	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 良土 c:黄灰色 e:やや甘い f:2/3
41	49	第4面構成土	てづくね	(13.1)	—	2.9	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い f:1/3 g:二段ナデ
41	50	第4面構成土	てづくね	(14.9)	—	2.8	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:破損後に火を被り、器表面・断面共に煤ける(二次焼成)
41	51	第4面構成土	てづくね	13.6	—	3.3	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:全体的に黒く変色 口縁部に1箇所焼成前より引っ掻き痕が残る 口唇部面取り
41	52	第4面構成土	てづくね	(14.0)	—	(2.2)	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
41	53	第4面構成土	てづくね	13.9	—	3.0	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/4
41	54	第4面構成土	てづくね	(14.6)	—	2.70	a:てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b:微砂・赤色粒子・海綿骨芯 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
41	55	第4面構成土	てづくね	(14.4)	—	2.8	a:てづくね・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c:灰黄色 e:やや粗土 f:1/4 g:器壁はびび割れ、底部内外面は黒く変色
41	56	第4面構成土	てづくね	(13.8)	—	3.2	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
41	57	第4面構成土	てづくね	(14.7)	—	4.0	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c:灰黄色 e:やや甘い f:1/2
41	58	第4面構成土	てづくね	(13.5)	—	3.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:底部外面は黒く変色

単位：cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
41	59	第4面構成土	てづくね	(14.0)	—	3.40	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/2
41	60	第4面構成土	てづくね	13.6	—	3.3	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 5/6
41	61	第4面構成土	てづくね	(13.8)	—	3.8	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
42	62	第4面構成土	てづくね	(12.4)	—	(3.2)	a: てづくね・内底ナデの後回転ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・赤色粒子・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
42	63	第4面構成土	てづくね	(13.6)	—	2.9	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
42	64	第4面構成土	てづくね	(13.0)	—	3.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
42	65	第4面構成土	てづくね	13.7	—	3.7	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/3
42	66	第4面構成土	てづくね	(13.9)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕・板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
42	67	第4面構成土	てづくね	(12.6)	—	3.4	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
42	68	第4面構成土	てづくね	(13.9)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
42	69	第4面構成土	てづくね	13.7	—	3.0	a: てづくね・内底ナデ・外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口唇部が平面状に磨られ、部分的に打ち欠けている 体部内面に工具等のキズあり
42	70	第4面構成土	かわらけ	(8.6)	(7.1)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2程度
42	71	第4面構成土	かわらけ	9.4	7.2	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 4/5
42	72	第4面構成土	かわらけ	(9.6)	(7.5)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/3
42	73	第4面構成土	かわらけ	(8.9)	(5.8)	1.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 破損後に部分的に黒く変色(二次焼成)
42	74	第4面構成土	かわらけ	(8.7)	(5.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂多・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
42	75	第4面構成土	かわらけ	(8.8)	5.6	2.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/2
42	76	第4面構成土	かわらけ	(8.7)	(6.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕不明瞭 b: 微砂・雲母・赤色粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 1/4
42	77	第4面構成土	かわらけ	9.2	7.0	2.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕強 b: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4
42	78	第4面構成土	かわらけ	(13.3)	(8.0)	3.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
42	79	第4面構成土	白磁 四耳壺	—	—	—	a: 輪積み→ロクロ b: 灰色 黒色粒を含む精良堅緻 d: 灰色不透明釉をやや厚く施釉 e: 堅緻 f: 胴部片 g: 耳の部分かわずかに残る
42	80	第4面構成土	渥美 片口鉢	—	(14.0)	—	a: 輪積み 底部糸切り後ナデ調整 b: 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 底部片 g: 体部内面は磨減 内面部分的に黒く変色(二次焼成)
42	81	第4面構成土	渥美 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・白色粒 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 2b型式 f: 肩部に2本の糸線あり
42	82	第4面構成土	渥美 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・白色粒 c: 灰色 d: 口縁内部に暗灰緑色の自然降灰あり e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 2b型式 f: 頸部は気孔によって膨らんでいる
42	83	第4面構成土	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰白色 砂粒・長石・白色粒・小石粒 c: 赤褐色 e: 良好・硬質 d: 口縁部に暗灰緑色の自然降灰あり f: 口縁部片 g: 第4型式
42	84	第4面構成土	常滑 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 c: 暗褐色 d: 内面は暗灰緑色の自然降灰 e: 良好・硬質 f: 肩部片 g: 菊花(中央に格子)の押印文 横小路遺跡で同一スタンプ出土(緊急31-2)
42	85	第4面構成土	漆器 器種不明	—	—	—	g: 内外面黒色漆塗漆、内外面に手描き施文・御所車文・円文
42	86	第4面構成土	木製品 用途不明	12.8	1.7	0.7~1.0	f: 柾目材 端部ヘラ状に切りだされる
42	87	第4面構成土	木製品 用途不明	16.7	3.4	0.6	f: 柾目材 下端部は刃物で筋をつけてから折りとり? 両面共に刃物によるキズが顕著
43	1	表探	てづくね	(9.1)	—	1.6	a: てづくね 外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
43	2	表探	てづくね	(9.4)	—	1.6	a: てづくね 外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 口唇部一部が黒色に変色
43	3	表探	てづくね	(9.7)	—	1.6	a: てづくね 内底ナデの後回転ナデ 外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
43	4	表探	てづくね	(9.2)	—	1.6	a: てづくね 内底ナデ・外底部雑に指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 3/4 器形の歪み大
43	5	表探	てづくね	(9.6)	—	1.5	a: てづくね 外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
43	6	表探	てづくね	(9.6)	—	1.95	a: てづくね 内底ナデの後回転ナデ 外底指頭痕 b: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒 良土 c: 灰黄色 e: やや甘い f: 1/2
43	7	表探	てづくね	9.6	—	1.75	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 完形 見込み中央が大きく凹む・意図的かは不明
43	8	表探	てづくね	(13.2)	—	2.85	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
43	9	表探	てづくね	14.8	—	2.9	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: ほぼ完形
43	10	表探	てづくね	(13.2)	—	3.6	a: てづくね 内底横ナデ・外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
43	11	表探	てづくね	(13.6)	—	3.1	a: てづくね 外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
43	12	表探	てづくね	(13.0)	—	3.1	a: てづくね 外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
43	13	表探	てづくね	(13.1)	—	3.4	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
43	14	表探	てづくね	(13.4)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底部指頭雑にナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/3
43	15	表探	てづくね	(11.8)	—	3.05	a: てづくね 外底部指頭ナデ消し b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

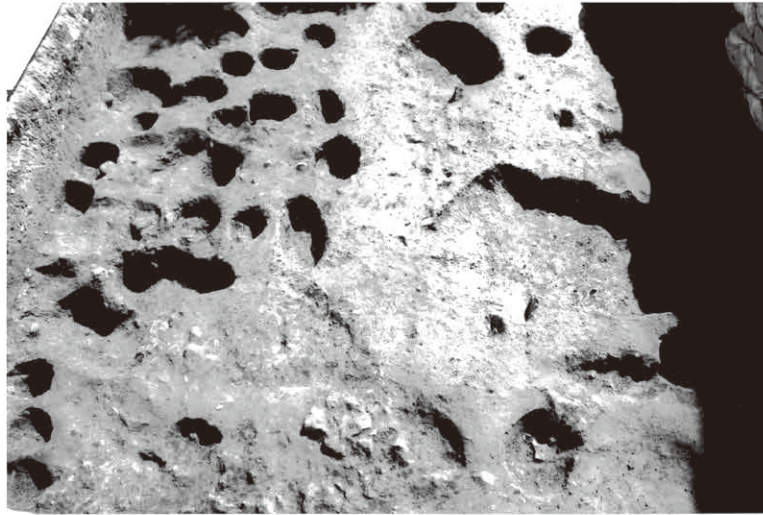
出土遺物観察表

図版 番号	枝番	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚	観察内容
							a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考
43	16	表採	てづくね	(14.0)	—	3.3	a:てづくね 内底ナデ・外底指頭痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い f:1/4
43	17	表採	かわらけ	(7.4)	(5.5)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・黒色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
43	18	表採	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
43	19	表採	かわらけ	7.6	5.4	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯・小石粒を含む 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:雑な造り
43	20	表採	かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
43	21	表採	かわらけ	(7.3)	(5.3)	1.55	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c:橙色 e:良好 f:2/3
43	22	表採	かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.45	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
43	23	表採	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2 内外面口唇部辺が黒色に変色
43	24	表採	かわらけ	(7.8)	5.6	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
43	25	表採	かわらけ	(8.2)	(4.9)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
43	26	表採	かわらけ	(8.1)	(4.6)	2.45	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 口唇部油煤痕 器壁やや薄手
43	27	表採	かわらけ	(11.5)	(8.0)	3.25	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
43	28	表採	かわらけ	(14.0)	(9.8)	2.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・黒色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
43	29	表採	かわらけ	(12.9)	(8.0)	3.1	a:ロクロ・内底ナデの後見込み周囲をナデ・外底回転糸切+板状圧痕 糸切りの回転が遅い b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
43	30	表採	かわらけ	(13.2)	(7.9)	3.25	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
43	31	表採	白磁 口元皿	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒・精良堅緻 d:灰白色 f:口縁部片 g:口唇部露胎
43	32	表採	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a:輪積み b:茶褐色・小石粒・微砂 c:明褐色 e:良好 f:口縁部片
43	33	表採	土器質 火鉢	—	—	—	a:輪積み b:灰色・微砂・赤色粒 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片 I b類
43	34	表採	瓦 軒平瓦	—	—	2.5	a:凸面ヘラによる整形・凹面縄目痕・側面・側縁鋭ケズリ整形 顎貼り付け b:橙色・砂粒・石粒・白色粒・良土 e:やや硬質 g:Ⅱ期C類 瓦当部:脇区幅0.9cm・外区幅約1.2cm・唐草文を界線と小さい珠文で囲む
43	35	表採	瓦 丸瓦	—	—	—	a:凸面叩き痕をヘラによるナデ消し・凹面布目痕・側面鋭ケズリ整形 b:灰色・砂粒・石粒・白色粒・粗土 e:軟質 g:Ⅱ期C類
43	36	表採	土製品 壺	(5.0)	—	—	a:ロクロ b:微砂・雲母・黒色粒・白色粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部片
43	37	表採	鉄製品 釘	[7.4]	0.5	0.2	g:鍛造 断面方形
43	38	表採	金属製品 銭	外径2.4 内径2.0 孔径0.6			g:天禧通寶 初鑄:北宋1017年 楷書
43	39	表採	金属製品 銭	外径2.4 内径2.0 孔径0.8			g:元祐通寶 初鑄:北宋1086年 篆書
43	40	表採	金属製品 銭	外径2.4 内径2.0 孔径0.7			g:銭種不明

単位: cm ()=復元値 []=残存値

遺物破片数表

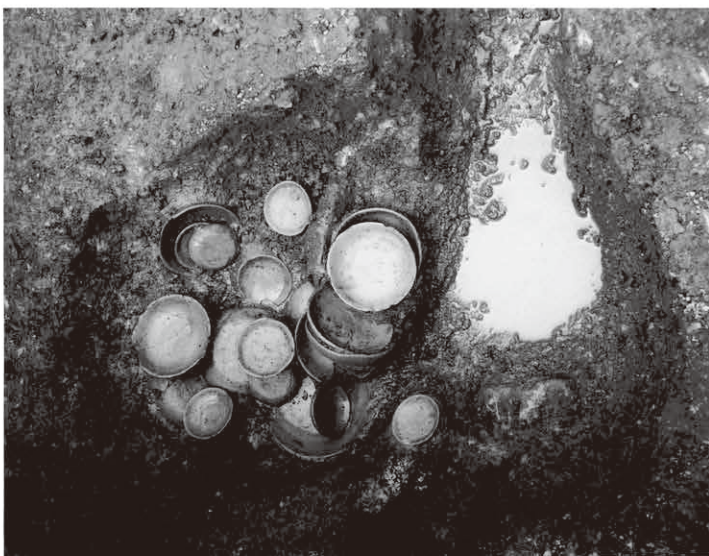
出土遺物			1面			2面			3面			4面			表土採集			合計	%		
			面上	遺構	構成土	面上	遺構	構成土	面上	遺構	構成土	面上	遺構	構成土	面上	上層遺構	下層遺構			構成土	
かわらけ	手づくね	大	6	177	36	177	826	639	395	1040	707	298	934	2464	738			81	8518	50.24	
		小	3	33	3	37	127	52	37	236	196			1	245	487	80	13	1616	9.53	
		極小											1						1	0.01	
	糸切り	大	27	859	1016	8	836	159	62	159	64	22	125	4				275	3616	21.33	
		中		4		1	1			1									7	0.04	
		小	10	211	159	65	293	52	40	130	51	13	40	117	26			49	1256	7.41	
		極小		2			1			1	2								6	0.04	
	白	手・大	1			1	1	1	1				1					2	7	0.04	
		手・小					1			20	4			1	2	1			29	0.17	
		糸・大	1										1					2	4	0.02	
		糸・小	1			1													2	4	0.02
船載陶磁器	青磁 同安窯系	櫛椀文皿		1					1										2	0.01	
		蓮弁文碗		7	13	6	6	1		2		1						10	46	0.27	
	青磁 竜泉窯系	画花文碗			1					2			2	5	1				11	0.06	
		皿・碗・折腰鉢	2	3	3	3	10	1	4				1	3				3	33	0.19	
		鉢類		2	1	2	1	1	1										8	0.05	
		香炉・壺 瓶子・水注類	1	1	2		4	1	1										10	0.06	
		不明									1				2				3	0.02	
	白磁	口兀皿・碗	1	2	5	7	1	4	1	1	1			1				2	25	0.15	
		皿・碗		4	1	1	4	1	1					1				1	14	0.08	
		壺・瓶子類					2	1	1				2				1		7	0.04	
		皿・碗					1	1											2	4	0.02
合子					2	1	1											2	6	0.04	
青白磁	梅瓶(蓋)	3	2	4	1	1	1	1										1	13	0.08	
	壺・水注類	2						1	1										4	0.02	
	不明	1																	1	0.01	
	緑釉	壺				2	1	1											4	0.02	
	褐釉	茶入・小壺	1	1	1														3	0.02	
国産陶器	瀬戸	皿・碗						1						1				4	6	0.04	
		入子	1		3	1	2												7	0.04	
		鉢皿			5	1	3											1	10	0.06	
		折縁深皿	1	1	1													2	5	0.03	
		瓶子類	1	3									3						7	0.04	
		不明			1														1	0.01	
	渥美	片口鉢												1					1	0.01	
		壺		3										4	3	3			13	0.08	
	常滑	山茶碗・山皿	1	1	1	3	1	1	2	2			1	1					14	0.08	
		片口鉢I類	16	19	17	31	11	6	20		1	2	4	1			5	133	0.78		
		片口鉢II類	4	4		7	4	4									4	27	0.16		
		壺	9	54	111	36	84	72	20	33	1	10	3	6	41	480			2.83		
		壺類	3		1	4	1	1	1										11	0.06	
		撥り常滑			1		1	1		1									4	0.02	
		不明						1							1	1			3	0.02	
	亀山	壺	1																1	0.01	
		備前		1															1	0.01	
土器・土製品	火鉢	瓦質	1	4	3														8	0.05	
		土器質	1	3	1		4	1											5	15	0.09
		碗	1							1	1								3	0.02	
	吉備	碗			1															1	0.01
		瓦器質製品			1															1	0.01
	瓦	軒平瓦			1															1	0.01
		平瓦	5	16	6	9	6	4					7	6	2	9	70			0.41	
		丸瓦		3		1				1									6	0.04	
		敷斗瓦		1																1	0.01
		近世瓦	1																	1	0.01
	土鍋	鑄釜					1													1	0.01
		南伊勢系			1															2	0.01
		不明			2	2					1				1				1	7	0.04
	金属製品	鉄製品	釘(環状金具)	19	2	13	34	1	2	4									2	77	0.45
			鎌			1															1
			輪の羽口			1	1											1		3	0.02
			鉄皿								1									1	0.01
			武器	1																1	0.01
		鉄滓	2			4			1										7	0.04	
		不明	1	3	2	1					1								8	0.05	
		銅製品	6	9	7	4	3			1								3	33	0.19	
石製品		滑石	鍋	1	3	2	1													7	0.04
			温石		2															2	0.01
			不明	1			1												1	3	0.02
		硯	1	1		3	1												6	0.04	
		砥石	7	1	1	3	5	1	1										19	0.11	
		中砥			1				1	1	1								4	0.02	
	チャート					2	1												3	0.02	
	磨石		1		2	1							1					5	0.03		
	軽石				1														1	0.01	
	石英石核						1												1	0.01	
	不明		2	1		1													4	0.02	
漆器	飲食具	皿・碗・盥														1	2		3	0.02	
		木器皿															1		1	0.01	
木製品	箸・箸箸	折敷												28	181	12		221	1.3		
		下駄													1	1	6		8	0.05	
		草履芯															1		4	0.02	
		容器												1	1				2	0.01	
		工具										1		5	4	3			13	0.08	
	建築部材	部材	礎板												3	2	11			16	0.09
			礎板													4	18			22	0.13
			杭								1				3					4	0.02
		加工品		1		1	2						1	74	139	46			264	1.56	
	自然遺物	獣骨類	貝	5	1	2	9	21	1	5			6	2	2	1	1		56	0.33	
			種	1			1							5	1	1				9	0.05
		不明				1													1	0.01	
古代	土師器	壺釜類				3		2	6					3	3						



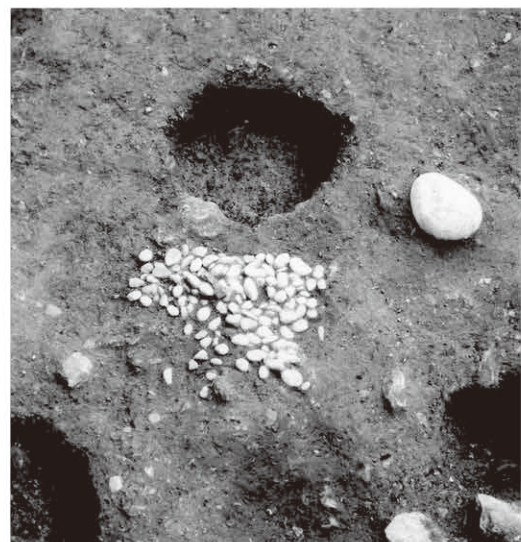
▲第一面全景（北から）



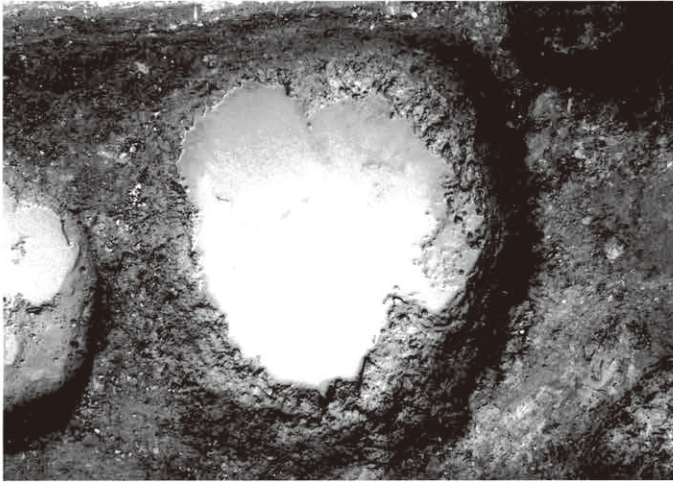
▲第二面全景（北から）



▲第二面・イコウ133（東から）



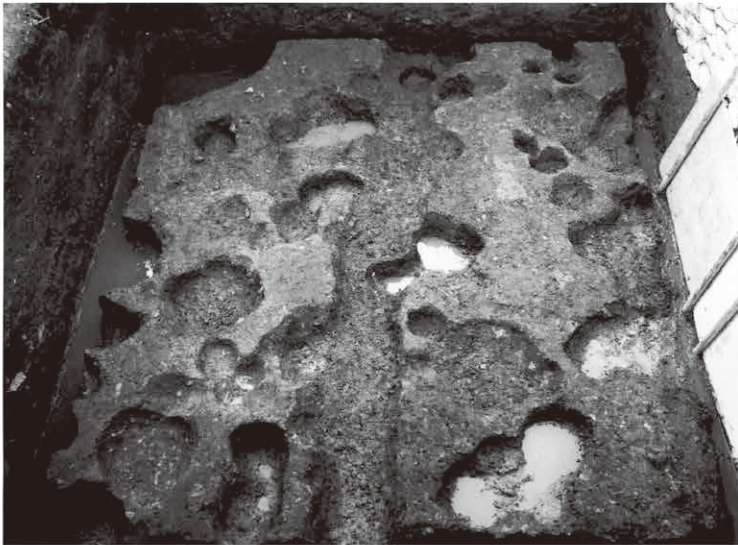
▲第二面・北側玉石検出状況（北から）



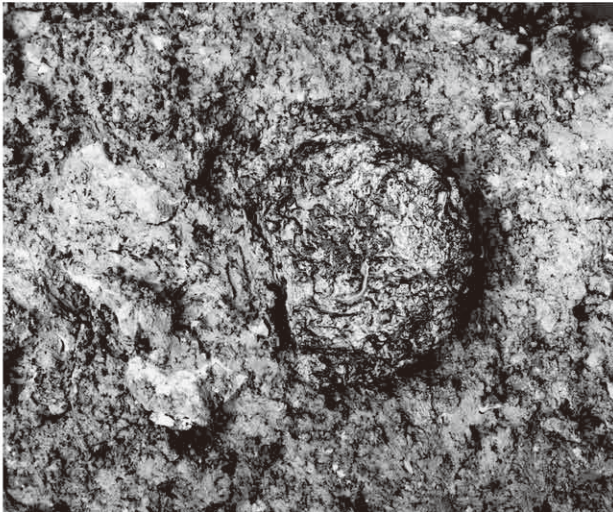
▲第二面・イコウ130 (東から)



▲第二面構成土
水晶出土状況



▲第三面全影 (東から)



▲第三面・面上 鉄製品出土状況



▲第三面・イコウ207 (東から)



◀ 第四面・イコウ215・218

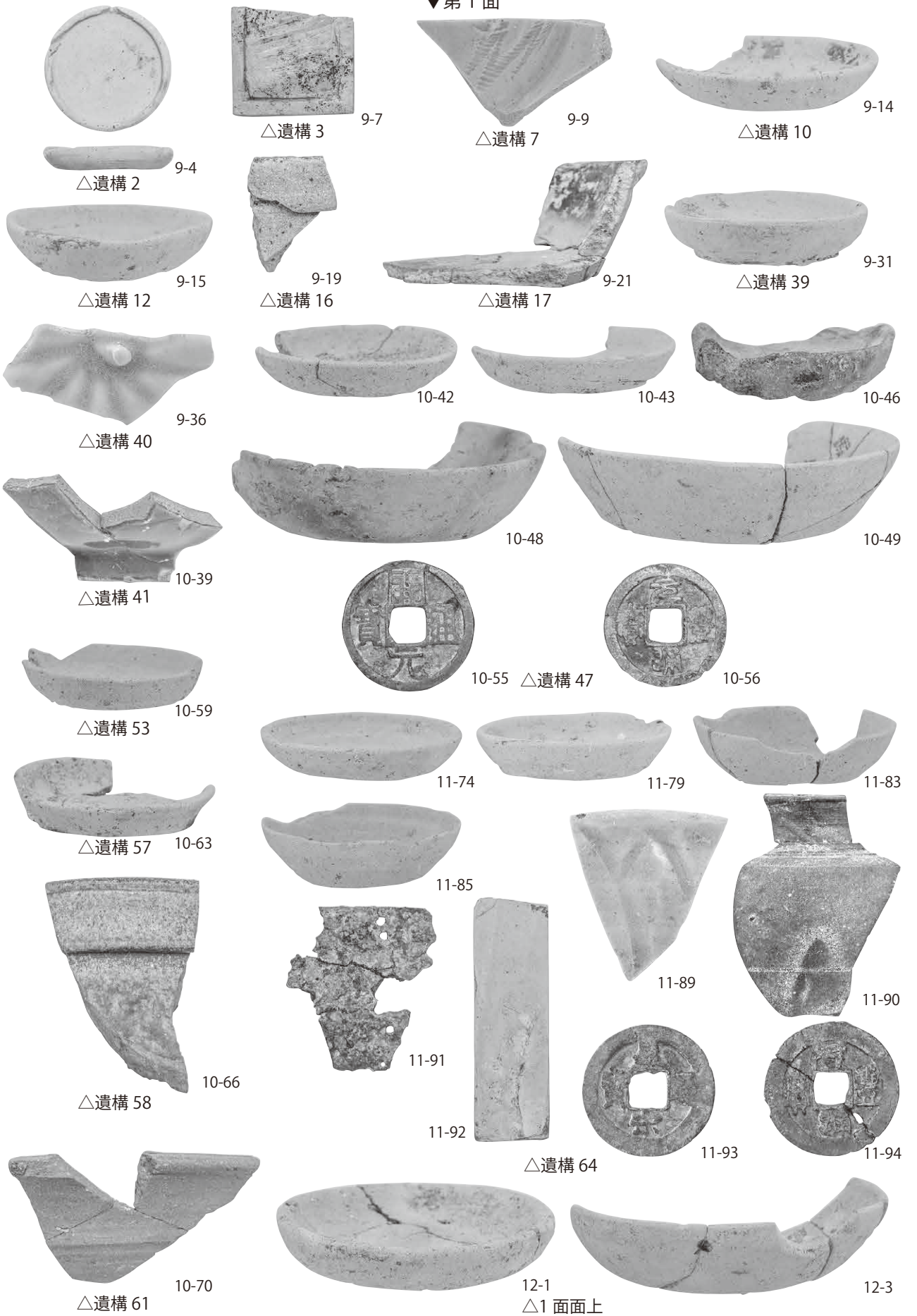


第四面・イコウ218 ▶

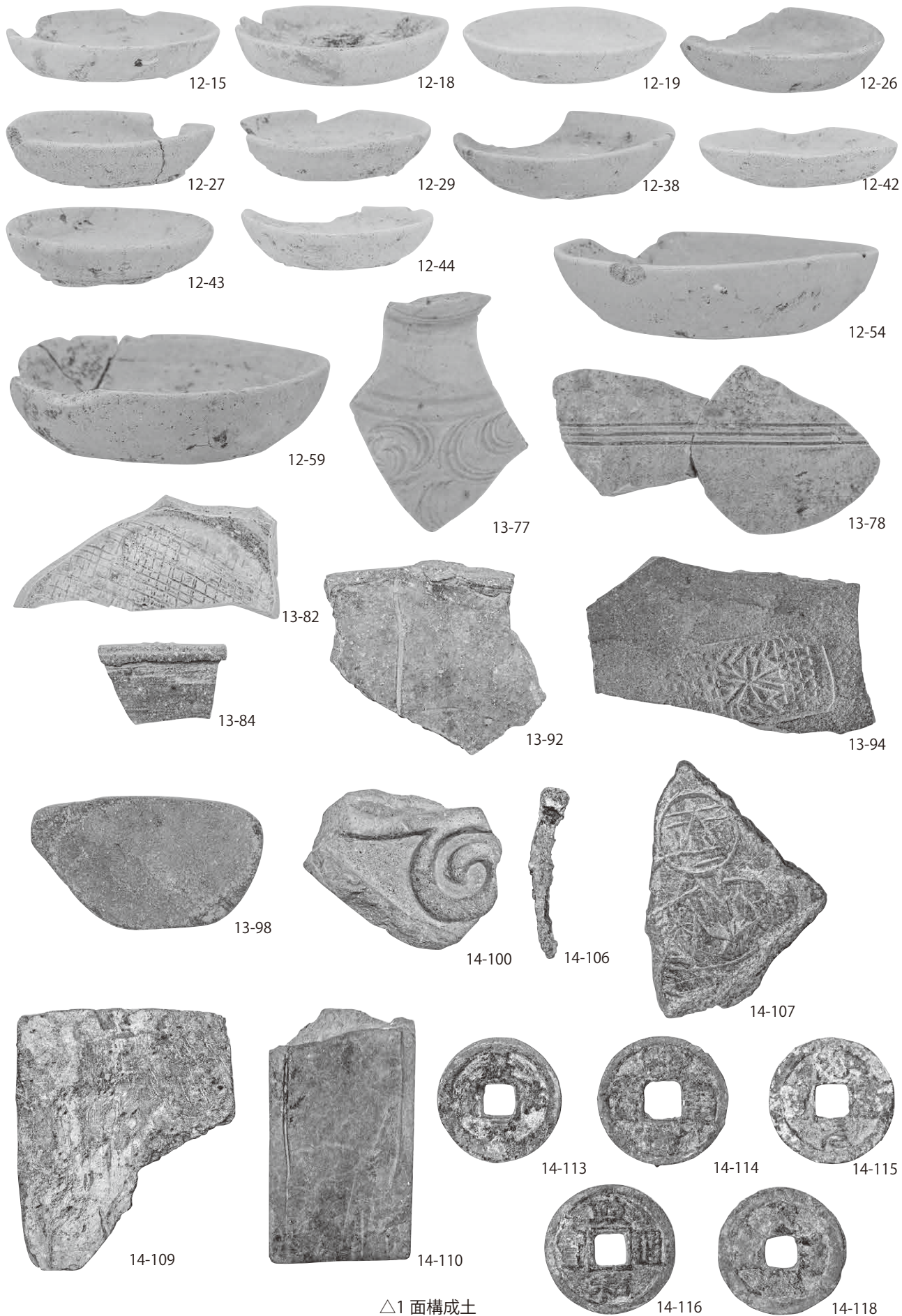


◀ 最終Tr全景

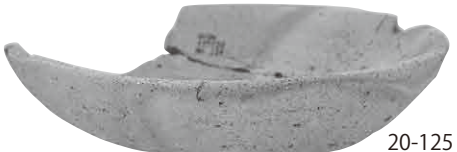
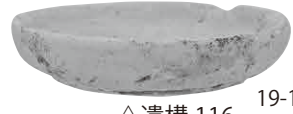
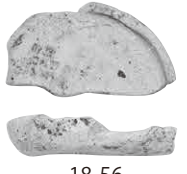
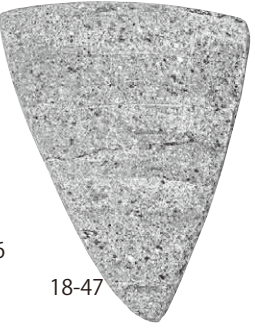
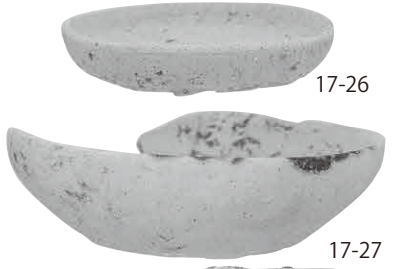
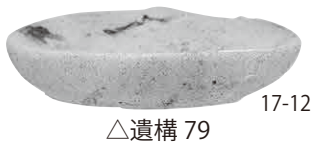
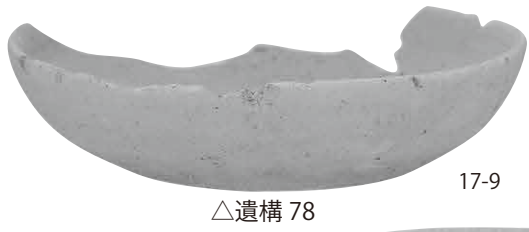
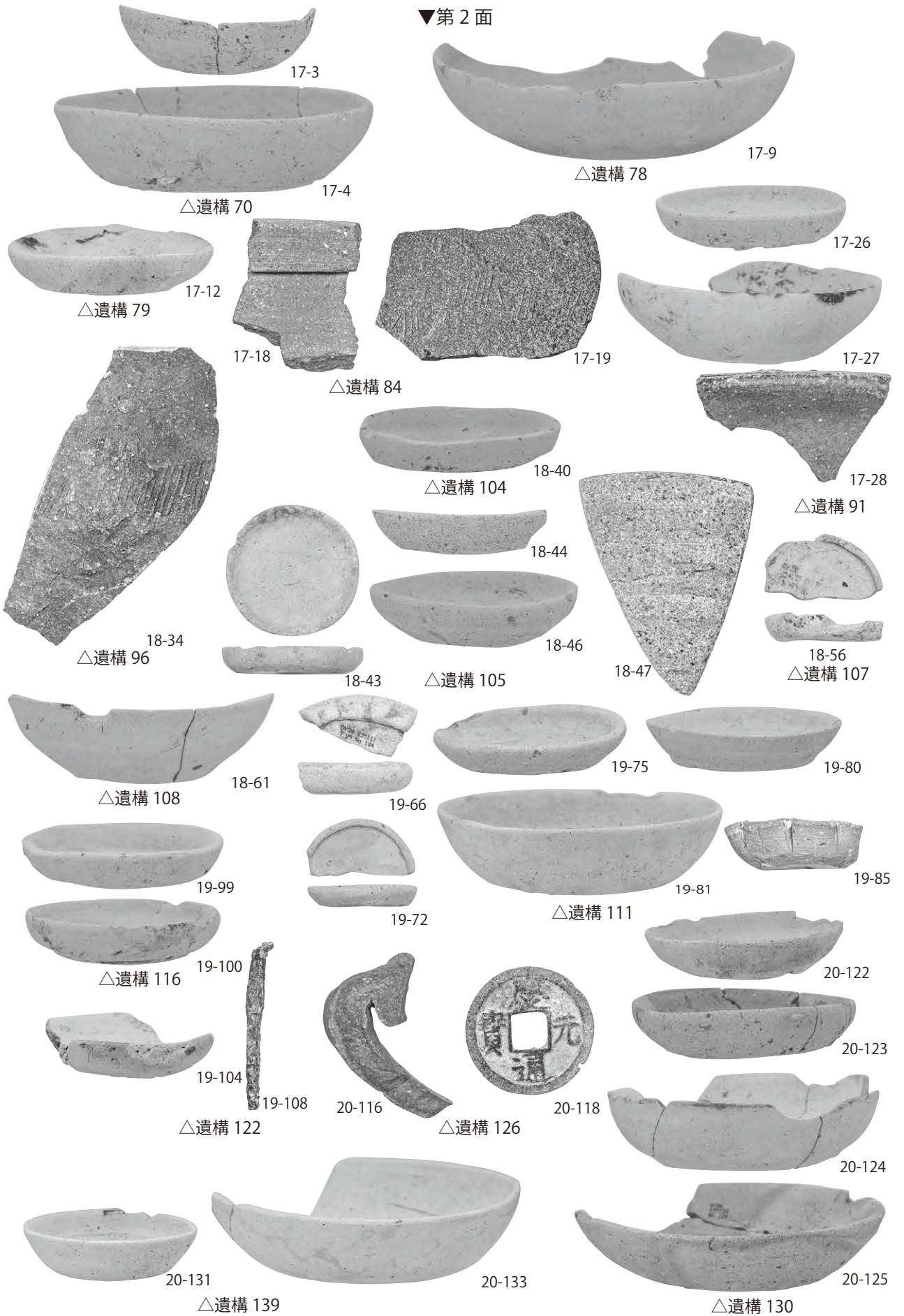
▼第1面



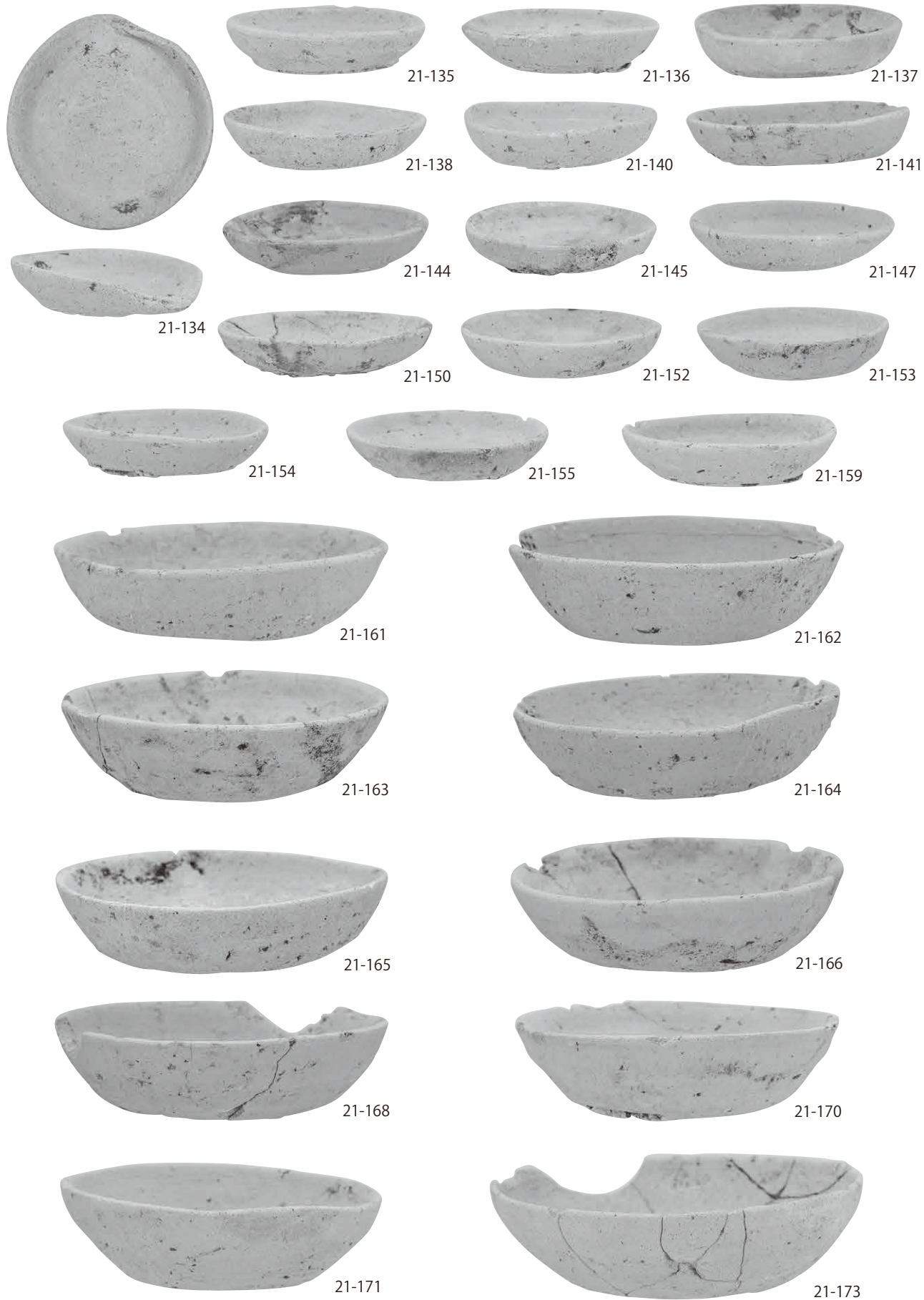
图版5



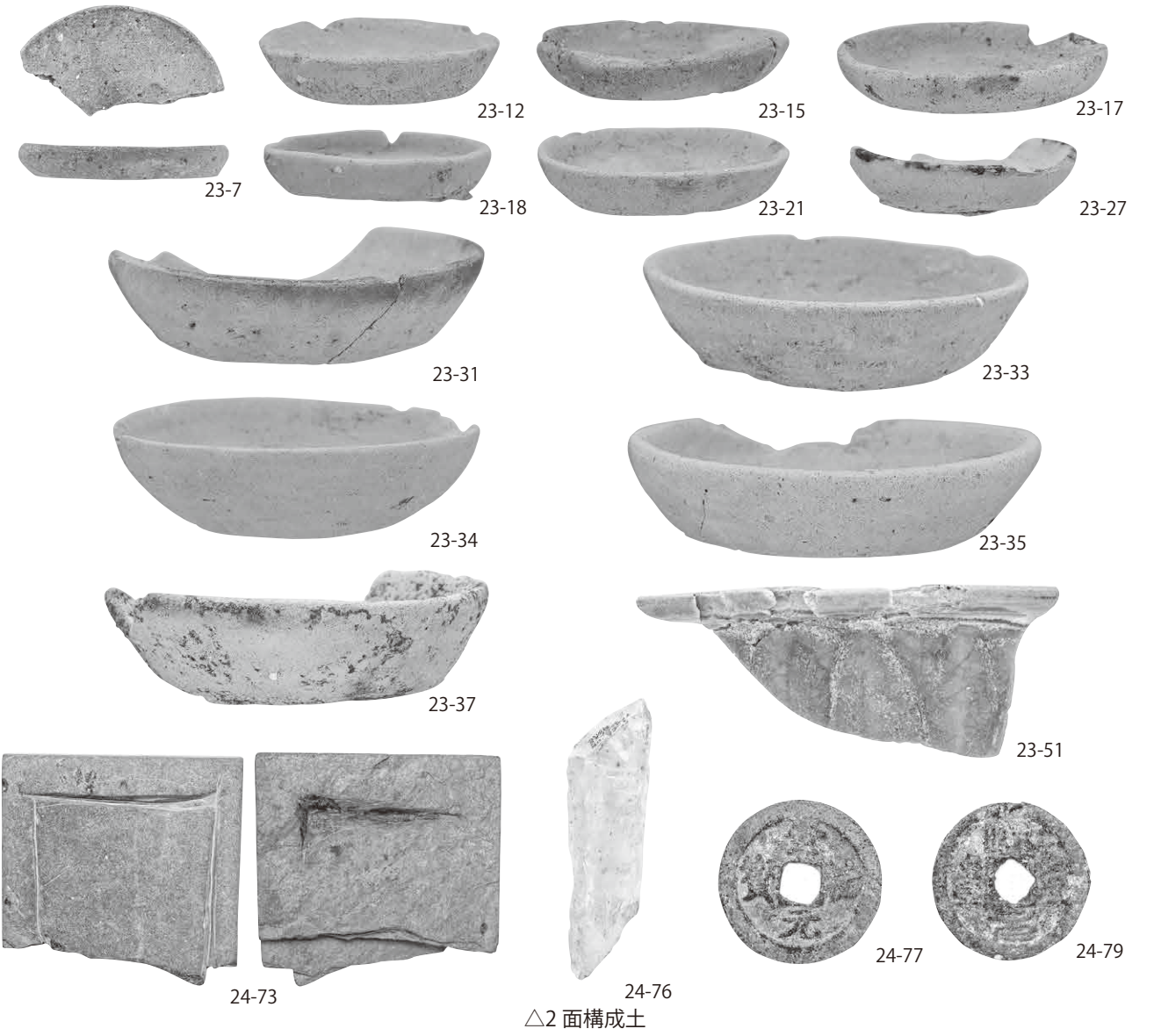
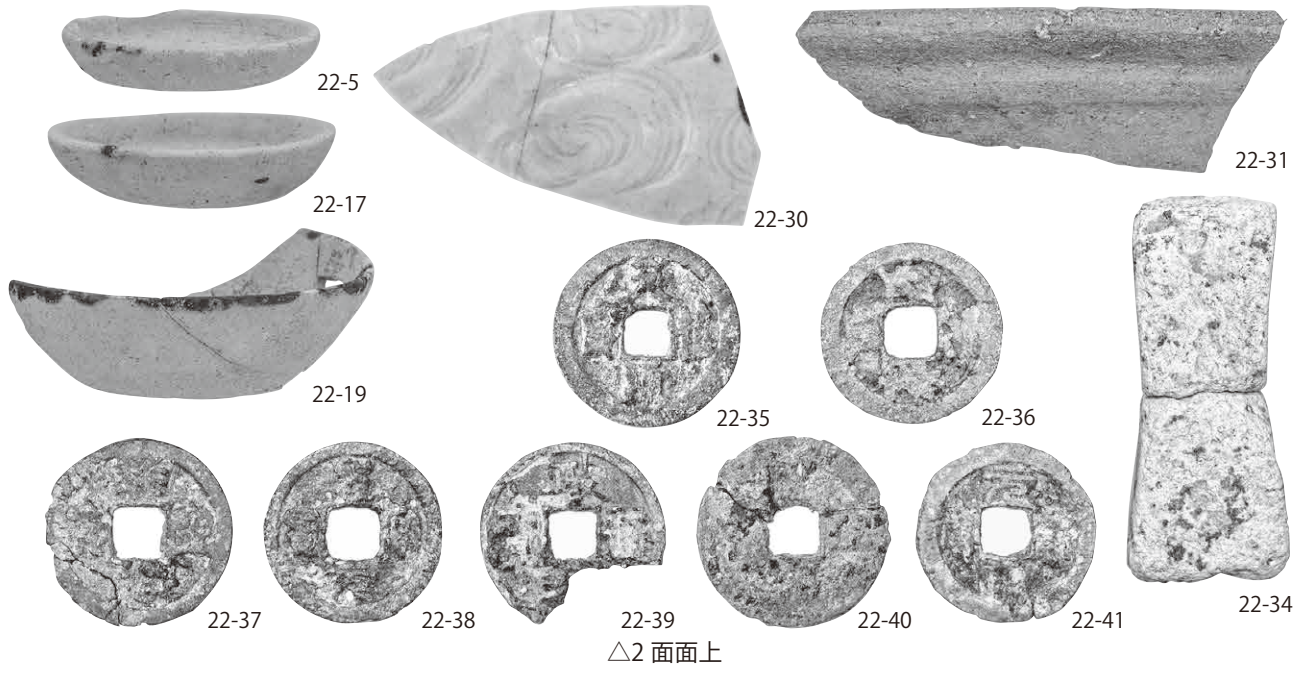
▼第2面



图版 7



△遺構 133

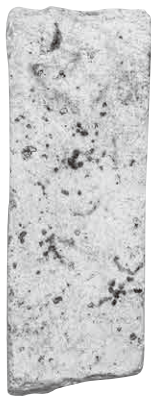


▼第3面



26-3

△遺構 142



26-4

△遺構 146



26-12

△遺構 159



26-13



26-15

△遺構 160



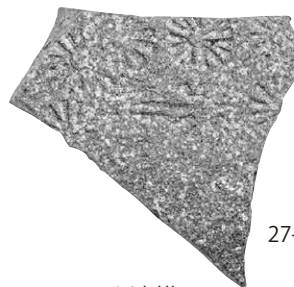
26-19

△遺構 162



27-47

△遺構 189



27-74

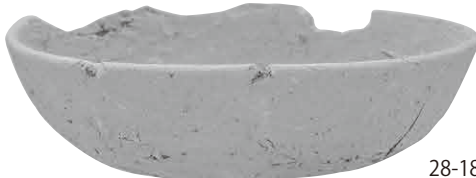
△遺構 202



28-14



28-17



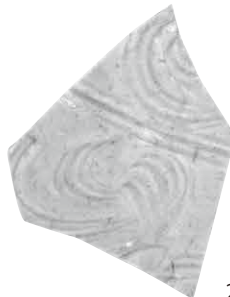
28-18



28-15



28-21



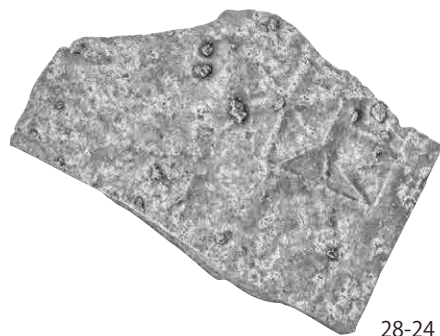
28-22



28-23



28-16



28-24



28-25



28-30

△3 面面上



28-42



29-52



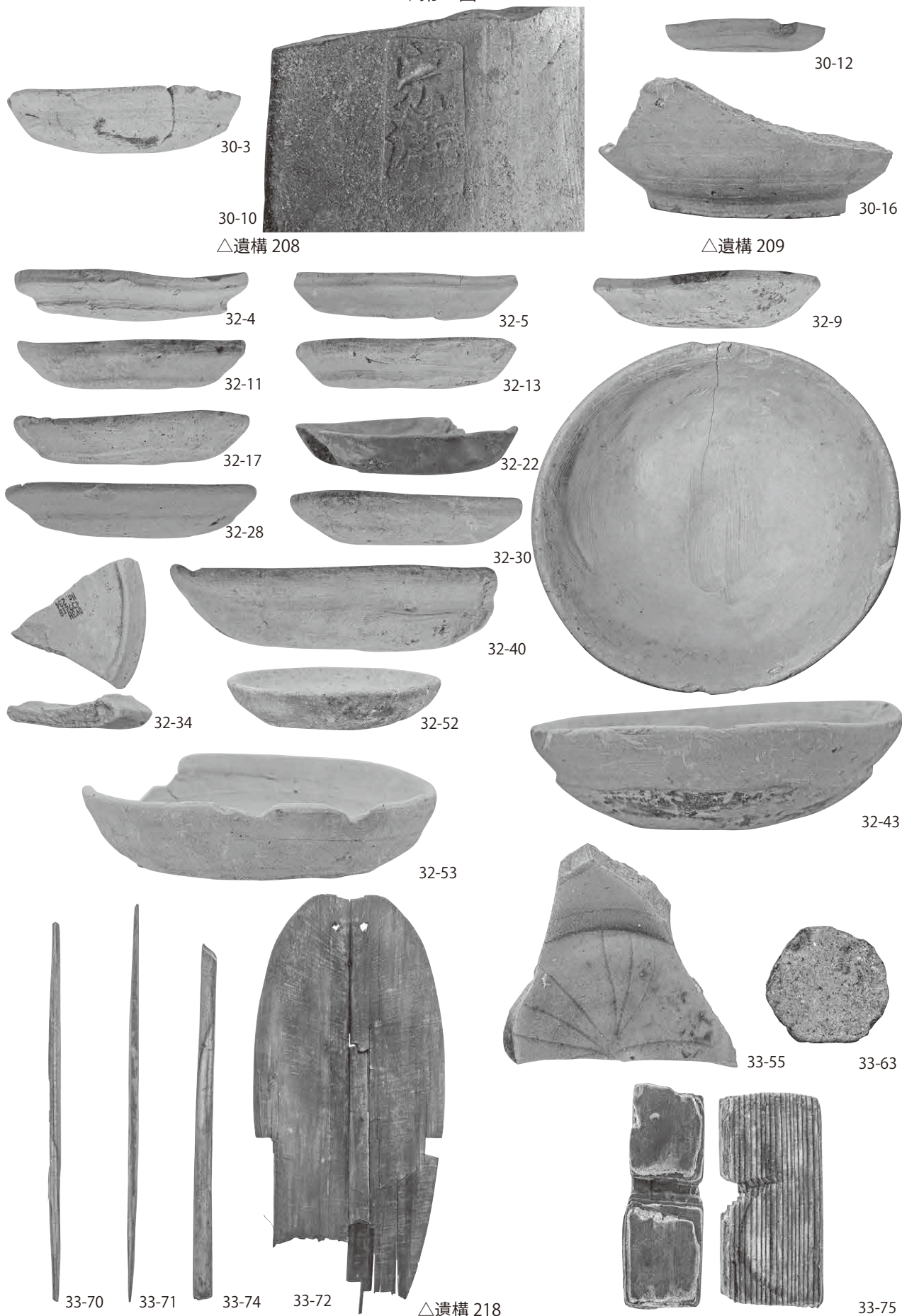
29-58



29-61

△3 面構成土

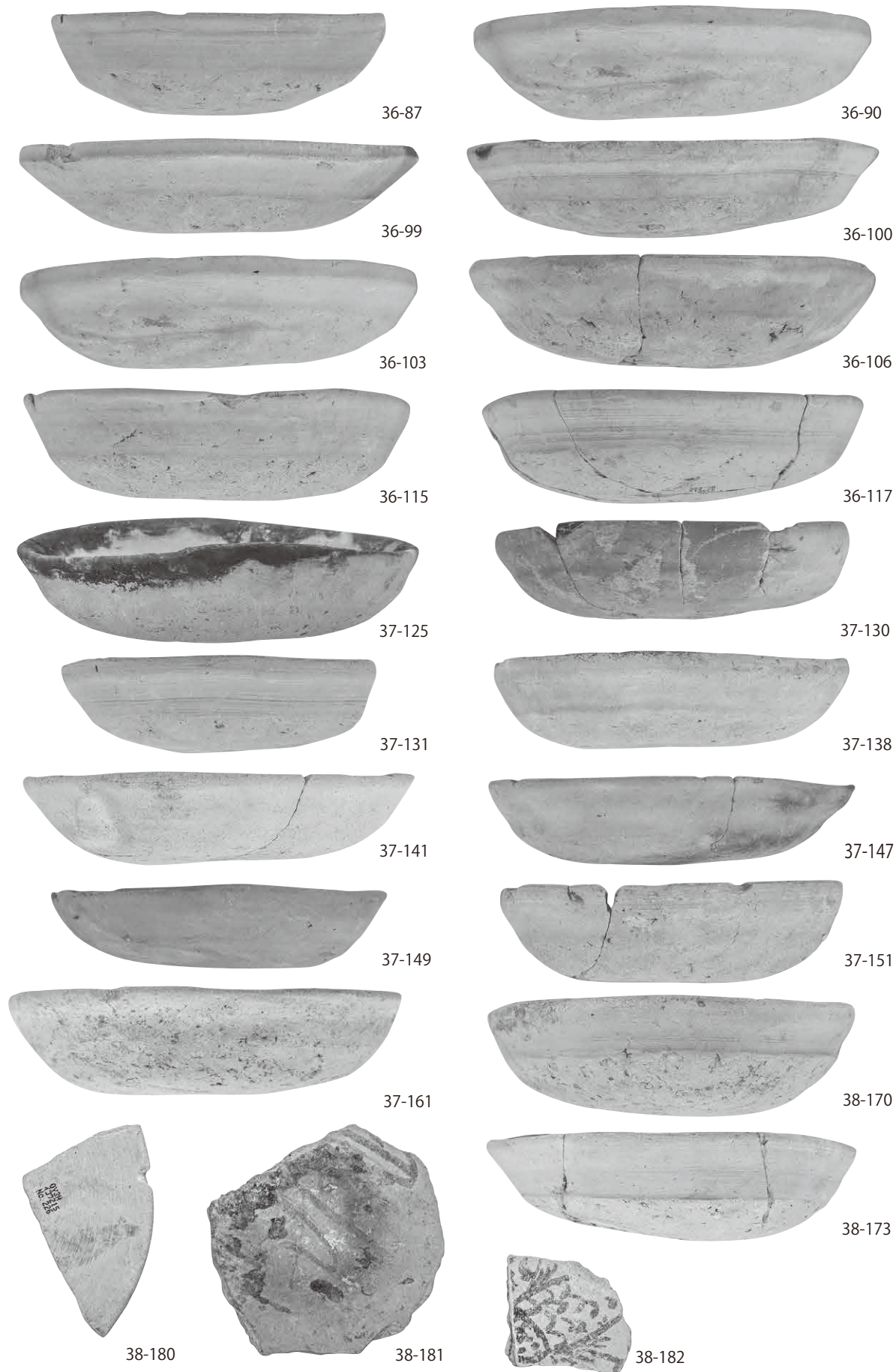
▼第 4 面





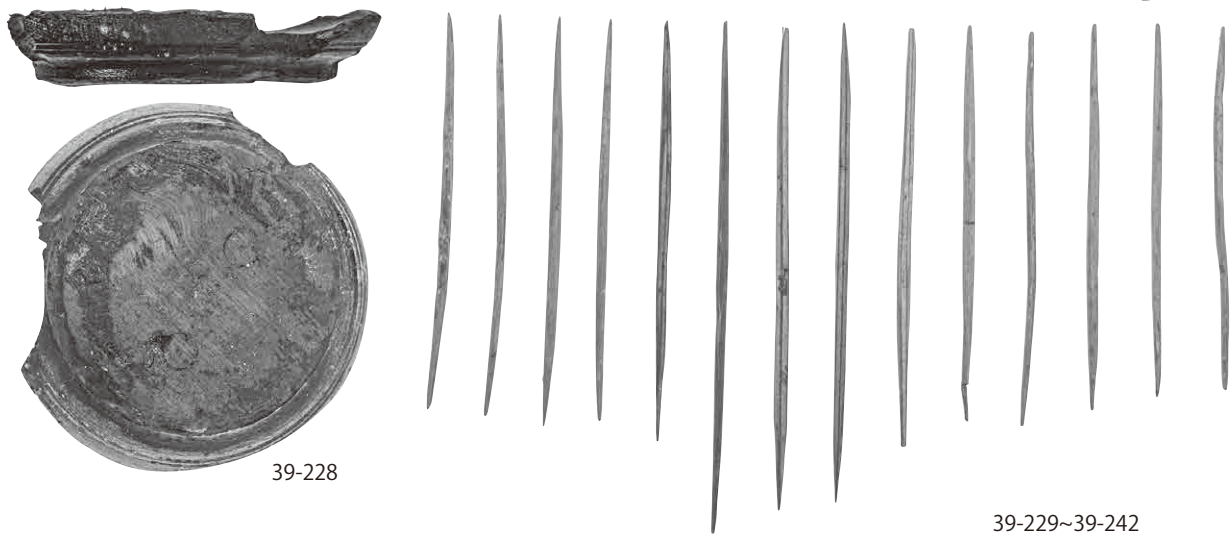
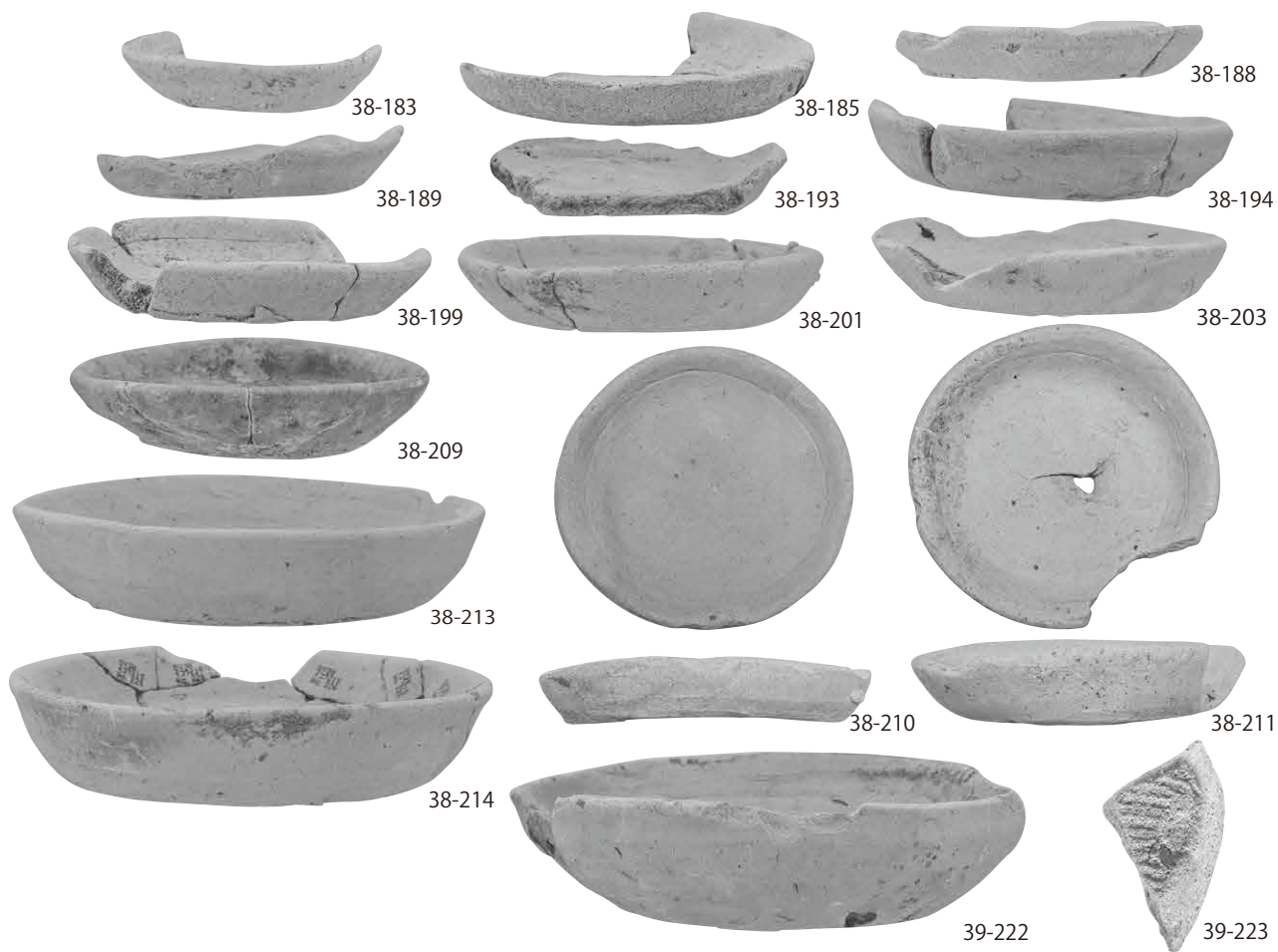
△遺構 218



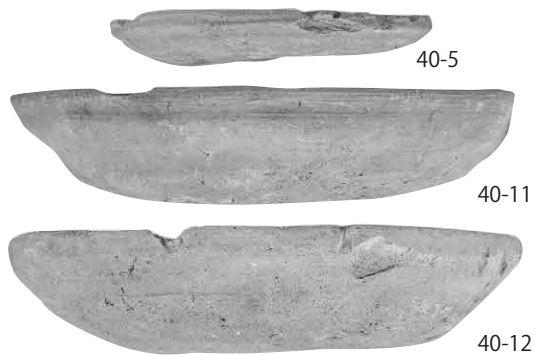


△遺構 215

图版 13



△遺構 215



△遺構 219

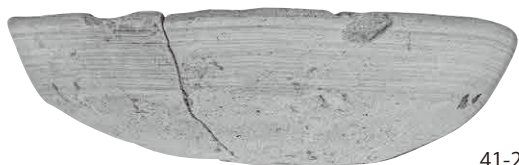




41-19



41-20



41-21
△4 面面上



41-26



41-28



41-31



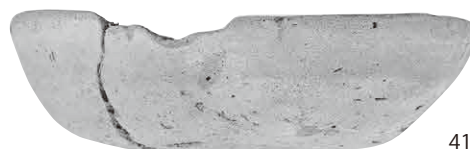
41-47



41-51



41-53



41-59



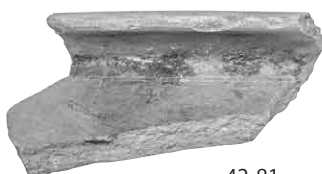
42-65



42-66



42-71



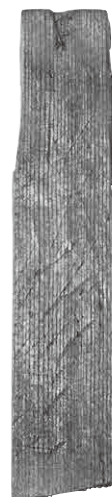
42-81



42-84



42-86



42-87



42-80



42-83

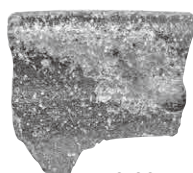
△4 面構成土



43-3



43-7



43-32



43-34



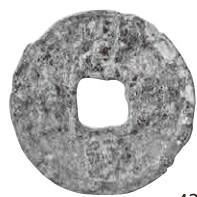
43-37



43-38



43-39



△表土・表採 43-40

台山遺跡 (No.29)

山ノ内860番1地点

例 言

1. 本報は鎌倉市山ノ内860番1地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約30㎡を対象とし、平成22年1月12日から2月17日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り
担当者 伊丹まどか
調査員 松原康子
作業員 牛嶋道夫・大塚尚城・田口康雄・田島道夫・根市真古人（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報作成は以下の分担で行った。
遺物実測 岩崎卓司・須佐直子
遺物図版作成 清水由加里・田畑衣理
遺構図版作成 清水由加里・田畑衣理
遺物観察表 田畑衣理
遺構計測表 伊丹まどか・清水由加里
遺構写真 伊丹まどか
遺物写真 田畑衣理
写真図版作成 田畑衣理
執筆・編集 田畑衣理
5. 本調査に係る出土遺物・図面・写真等の記録資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は調査段階では「DMI」としていたが、市教育委員会の統一基準により「DI0914」として整理した。
6. 本報の凡例は以下の通りである。
・挿図縮尺 遺構全測図：1／60 個別遺構図：1／40 実測遺物図：1／3 銭：1／1
なお各挿図にはスケールを表示してある。
・遺構図版 遺構のレベルは海拔標高の数値を示す。
・遺物図版 釉薬の範囲は・－・－、加工痕・使用痕は♀←→♀、生産地加工痕 ♀← ♀
7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に（ ）を、最大遺存値に〔 〕を付して表している。
8. 遺物の分類及び編年は下記を参考にした。
瀬戸窯製品・尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
常滑・渥美窯製品：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県／藤澤良祐他
2015「中世常滑窯編年の再検討－5型式以降を中心に－」『上県2号窯跡第9次調査発掘調査概要報告書』
愛知学院大学文学部歴史学科
舶載陶磁器：大宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡X V－陶磁器分類編－』
火鉢：河野真知郎1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢 神奈川第2集』神奈川県考古学会
9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)
押木弘己・汐見一夫・福田誠・藤澤良祐・渡邊美佐子

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	213
第1節 遺跡の位置と歴史的環境 (図1)	
第2節 周辺遺跡の調査成果 (図1)	
第二章 調査の概要	217
第1節 調査の経過・方法と調査区設定 (図2)	
第2節 堆積土層図 (図3)	
第三章 発見された遺構と遺物	221
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図5～6)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図7～9)	
第4節 第4面の遺構と遺物 (図10～11)	
第5節 第5面の遺構と遺物 (図12)	
第6節 最終トレンチ・表採遺物 (図13)	
第四章 調査成果のまとめ	237

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡.....	214	図8 第3面各遺構・構成土・出土遺物.....	227
図2 調査区配置図.....	218	図9 第3面遺構94・出土遺物.....	230
図3 堆積土層図.....	219	図10 第4面全測図.....	231
図4 第1面各遺構・出土遺物.....	222	図11 第4面各遺構・出土遺物.....	233
図5 第2面全測図.....	223	図12 第5面全測図・各遺構出土遺物.....	234
図6 第2面各遺構・出土遺物.....	225	図13 最終トレンチ・表採出土遺物.....	236
図7 第3面全測図.....	226	図14 周辺の岩盤検出状況.....	238

表目次

表1 調査地点の遺構年代.....	216	表3 遺物破片数表.....	242
表2 出土遺物観察表.....	239	表4 遺構計測表.....	243

図版目次

図版1	244	図版5	248
1. 第1面全景(南から)		1. 第2面遺構46(南から)	
2. 第2面全景(南から)		2. 第3面遺構104(東から)	
3. 第3面全景(南から)		3. 第3面遺構57・58(北から)	
図版2	245	図版6	249
1. 第4面全景(南から)		1. 第3面遺構94遺物出土状況(北から)	
2. 第5面全景(東から)		2. 第3面遺構94遺物出土状況(西から)	
3. 最終トレンチ(東から)		3. 第3面北西隅遺構群(南から)	
図版3	246	図版7	250
1. 調査区西壁①(東から)		1. 第4面遺構73・74・78・80・81・82・150(南から)	
2. 調査区西壁②(東から)		2. 第4面遺構88・91・92・99・98・100・147(北から)	
3. 調査区西壁③(東から)		3. 第5面遺構109・110・123・124(東から)	
図版4	247	図版8	251
1. 調査区西壁④(東から)		図版9	252
2. 調査区北壁①(南から)		図版10	253
3. 調査区北壁②(南から)			

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と歴史的環境（図1）

台山遺跡は鎌倉市北部に位置し、山ノ内道（現在の主要地方道横浜鎌倉線）とJR横須賀線北鎌倉駅の西側、柏尾川へと流下する小袋川を見下す標高93.3mの台峯の東の支脈上にある。支脈は標高50m前後の南と東に開けた斜面に位置し、遺跡範囲は長さ約700m×幅約300mの規模をもつ。本遺跡の南東辺に位置する地点3・8・6は付近の字名を加えて「台山藤源台遺跡」とされ、今回の調査地点はその北側・JR北鎌倉駅から300m西の丘陵中腹部の雛壇状に造成された宅地内に位置する。

本遺跡の南側は西方奥へ深く入り込んだ西瓜ヶ谷の谷戸を形成し、多数のやぐら群が存在する。東側に走る山ノ内道は鎌倉市域に入る主要な道として配し、山ノ内地域は建保元年（1213）に幕府より北条義時に与えられ、幕府滅亡までは北条氏の私領、その後は山内上杉氏の居館が構えられている。また中世鎌倉の北の境界として機能し、数多くの寺院が建立されている。東側は横須賀線を挟んで13世紀末創建の円覚寺、瓜ヶ谷を流れる小袋川には十王堂の名を残す橋が架かっている。十王堂は『鹿山略記』によれば延寿堂（薬師堂）の右にあり、堂前の橋を十王堂と称したとしており、宗旨は不明。

台山遺跡内においては調査地点北東側に光照寺がある。西台山英月院と号し、時宗。開山は一向、開基は不明。本尊は阿弥陀如来像（正長二年（1429）修理銘）で、もと藤沢清浄光寺（遊行寺）の末である。客物として明治五年（1872）廃寺の東溪院旧蔵釈迦如来坐像があり、山門も同院からの移築という。境内には正中二年（1325）銘の阿弥陀三尊種子板碑がある。現在は本堂・庫裏・日限地藏堂・山門などがある。一説には、弘安五年（1282）執権北条時宗に鎌倉入りを拒絶された一遍が、当寺のある辺りで野宿し布教したとされる。

西側には臨濟宗箱根早雲寺の末である徳蔵山東溪院跡とされる。延宝八年（1680）豊後国大野郡原城主中川久清が娘の供養のために建立した位牌堂であった。当寺は明治五年（1872）に廃絶し、先述通り、山門と本尊の釈迦如来坐像は光照寺に移されている。徳蔵山東溪院跡の北側には室町期造立の地藏堂跡（現台公会堂）がある。堂内には地藏菩薩坐像と半跏像が納められていた。坐像は室町前期の造立とされ、宝暦八年（1758）の修理銘がある。半跏像は胎内に延宝三年（1675）、明治十三年（1880）、明治四十二年（1909）の修補文書が納められていた。延宝三年の文書には念仏講の人々を中心となって寄付をつのり、仏師（三橋）但馬に依頼して修補を行なうことができたとある。現在、鎌倉国宝館に寄託されている。

この他には、南東側に位置する北鎌倉女子学園がある一帯は「藤源治」という名字が付され、『相模国鎌倉郡村誌』によれば、字名の由来については「古刀銘尽大全」から引いて肥前の鍛冶助直（＝東源治）が正元元年（1259）～文永五年（1268）まで住した処とされる。なお、少字名「藤源治」は「藤源氏」・「藤願寺」とあてられることもあったようだ。後者の「寺」に着目すると、かつて山ノ内には東現寺という寺があったことが『風土記稿』に見え、「藤源治」の由来に何らかのかかわりがあるかもしれない。また『鎌倉市史・考古編』においては、先史・古代の遺跡の遺物散布地として記されている。北鎌倉駅裏・山内水道山・鎌倉山・大船平戸山・手広（弥生時代）、水道山・鎌倉山・手広（古墳時代）水道山1980年、手広1983年に調査され、弥生時代中期から平安時代までの住居址と遺物が確認されている。台山遺跡は台地上に広範囲に存在する縄文時代～中世にかけての複合遺跡であり、特に弥生時代から古墳時代にかけては大集落の存在が予想されるとしている。



【調査地点一覧】

1. 本調査地点
2. 丑野 毅 1974「神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告書(台1737番)」『人文科学紀要』第59輯 東京大学教養学部人文科学科
3. 手塚直樹他 1985『台山桃源台遺跡 第1次調査報告(台字藤源治914番)』台山遺跡発掘調査団
4. 斎木秀雄・宗臺秀明 1985「3.台山遺跡(山ノ内字藤源治874番2)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』鎌倉市教育委員会
5. 玉林美男他 1988「6.台山遺跡(台西ノ台1730番1.1732番1)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
6. 大河内 勉 1996「台山桃源台遺跡 第2次調査報告(山ノ内字藤源治914番)」台山遺跡発掘調査団
7. 大上周三 1992「4.台山遺跡(台字西ノ台1624番外)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
8. 宗臺秀明 1993「台山桃源台遺跡 第3次調査報告(台字藤源治914番)」台山桃源台遺跡発掘調査団
9. 野本賢二 1997「台山遺跡(台字西ノ台1627番地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第1分冊)』
鎌倉市教育委員会
10. 若松美智子 1998『台山遺跡発掘調査報告書(西ノ台1733-1外地点)』台山遺跡埋蔵文化財調査団・東国歴史考古学研究所
1999「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
11. 継 実 2001「台山遺跡(台字西ノ台1718番3)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
12. 森 孝子 2002「台山遺跡発掘調査報告書(山ノ内藤源治860番1地点)」有限会社 博通
13. 伊丹まどか 2004「台山遺跡(山ノ内字宮下小路819番1外地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』
鎌倉市教育委員会
14. 2007年度調査・未報告
15. 押木弘己 2016「台山遺跡(台字西ノ台1418番10地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第2分冊)』
鎌倉市教育委員会
16. 押木弘己 2017「台山遺跡(山ノ内860番2地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33(第2分冊)』鎌倉市教育委員会

図1 調査地点と周辺の遺跡

第2節 周辺遺跡の調査成果（図1）

台山遺跡では本調査地点を含め現在までに16地点の発掘調査が実施されており、主な調査成果を順に説明する。

地点2は東京大学教養学部が三上次男氏を団長として発掘調査が行われ、3軒の住居址（弥生後期・古墳後期・時期不明）を検出。遺物は採集品で中世かわらけ・縄文時代の石鏃も発見されており、付近に縄文時代の遺跡の存在する可能性を示唆している。

地点3・6・8は北鎌倉女子学園の校舎建設に伴い3次にわたる調査が行われ、付近の字名から「台山藤源台遺跡」としている。第1次調査（地点3）では、縄文時代の陥し穴1基、弥生時代の竪穴住居址18軒（中期2、後期11、時期不明5）他、古墳時代の竪穴住居址13軒（前期4、中期1、後期4、時期不明4）他、平安時代の竪穴住居址5軒・土坑群2基・溝1条他、中世の道路状遺構と削平面を検出。道路状遺構は台地の縁辺を走行するもので、断面は逆台形を呈し（幅1m前後）、底面は硬化している。東西方向で山ノ内道（現在の主要地方道横浜鎌倉線）と平行・分岐して西瓜ヶ谷に入り、山崎・梶原方面に抜ける山越えの支道の可能性が考えられる。遺物は14世紀初頭～16世紀にかけての多様な種類の遺物が検出。以上から13世紀末の円覚寺の創建に伴い、旧市街以外地が開発されだした可能性を示唆している。第2次調査（地点6）では、縄文時代の陥し穴2基（早期～前期）、弥生時代の竪穴住居址1軒（後期）、古墳時代の明確な遺構は認められず、遺物は前期～後期にわたる。古代の竪穴住居址1軒（8世紀後葉～9世紀）、中世は14～16世紀頃の遺物のみを検出。第3次調査（地点8）は上下2段の平坦面からなり、下段の段築は中世期に造成されている。遺構確認面はローム層（ハードローム）上面で、中世期の削平によって上段平坦面の古代遺構もかなり削られている。竪穴住居址7軒（弥生後期後半～古墳前期1、古墳中期2、古墳後期2、平安前期1、不明1）、中世の切岸を伴う段築・柵列ピットを検出し、概ね14～15世紀代の遺物が出土。柵列ピットから出土した密教系法具の銅製六器や周辺の宗教施設等の存在との関連から「藤源治」に寺院跡の可能性を示唆している。

地点4は竪穴住居址6軒確認し、うち調査は3軒（弥生後期1、時期不明2）、縄文時代～中世にかけての遺物を検出。地点5は狭い範囲のトレンチ調査であるが、竪穴住居址2軒（弥生後期1、古墳後期1）弥生時代～中世にかけての遺物を検出。地点7は谷戸の奥の調査であり、確認面から溝底まで1.70mを測る溝状遺構を主として落ち込み遺構・ピットが検出。遺物が非常に少なく年代特定は難しいが、概ね中世後半頃としている。地点9も谷戸の奥の調査で、狭い調査範囲内で溝・土坑・ピット8基が検出。地点7と至近距離にあり、遺構の方向性（溝）はほぼ同一なものの、連続性は認められない。遺物も地点7同様に中世後半以降と思われる。地点10は弥生時代の竪穴住居址4軒（後期）、古墳時代の竪穴住居址3軒（前期1・後期2）・掘立柱建物址1棟（後期1）・土坑1基（中期）、奈良時代の横穴（室か）を伴う竪穴住居址1軒（貯蔵施設か）を検出。古代以前の掘立柱建物や奈良時代の竪穴住居は、台山遺跡では初めての確認例である。これまで明確に奈良時代に位置づけられる住居址は少なく、一時的に集落が衰退したのではないかとされていたが、該期にも一定の規模の集落が存続することがわかった。地点11は弥生時代後期～古墳時代前期のピット2基のみを検出し、弥生時代から中世に至る幅広い時代の遺物が含まれる。

地点12・16は本調査地点と同じ雛壇状の造成平場に立地している。地点12は掘削深度の制限の為、遺物包含層の確認調査にとどまり、遺構の検出までには至っていない。遺物は古代遺物も混じるが、概ね14世紀後半～15世紀前半を主体とする。地点16は中世段階で丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面として利用しており、計2枚の中世遺構面を検出。丘陵裾に沿って排水目的の溝が開削、造成開始期は14世紀前半まで遡る可能性があるが、遺物の様相から、土地利用の

中心は14世紀末～15世紀代であったと考えられる。

地点13は丘陵の北向き斜面に立地し、雛壇状の平場において中世の遺構面3枚、遺構は土坑・ピット・ピット列を検出。遺物の様相から、15世紀中葉～15世紀後葉を中心に土地利用がなされていたと考えられる。地点15はローム層上面で竪穴遺構3基、ピット10基等を検出。うち1基は古墳時代後期(終末期)にあたる7世紀中葉前後の竪穴住居等である。その他の遺構からも同時期の遺物が多く出土し、古墳時代後期に属する集落の広がりを見える結果となっている。西ノ台地区は近代に入り海軍将校の宅地造成により丘陵稜線が大幅に削平されているが、損壊を免れている。

以上を表1と共にまとめると、台山遺跡では丘陵上を中心に広範囲にわたって各時代の集落が展開されている。縄文時代の検出遺構は早期～前期の陥とし穴のみで生活の痕跡はほとんど認められないが、鎌倉における縄文時代の様相を知る上で貴重な資料の一つである。弥生時代中期以降に人の移住が始まり、弥生時代後期～古墳時代前期と古墳時代後期に大規模集落の存在があったことが推察でき、集落の規模は縮小しつつも連綿と平安前期頃までは存続するようである。そして一旦古代末～中世前葉に廃絶するが、14世紀以降より中世鎌倉の北の境界として機能し、山ノ内に数多く建立する寺院の関連で本遺跡付近にもおそらく寺院が建立されて16世紀ごろまで存続したものと推測される。

表1 調査地点の遺構年代

	縄文	弥生			古墳			奈良	平安	中世
	早期・前期～	前期	中期	後期	前期	中期	後期		前期	14c～
地点1										○
地点2	遺物(石鏃)のみ			○	○		○			
地点3	○(陥とし穴)		○	○	○	○	○		○	○
地点4				○	○		○			
地点5				○	○		○			
地点6	○(陥とし穴)			○					○	
地点7										○
地点8				○	○	○	○		○	○
地点9										○
地点10				○	○	○	○	○		
地点11					○					
地点12										○
地点13										○
地点14(未報告)										
地点15							○			
地点16										○

【引用・参考文献】

- ・『鎌倉市史 総説編』高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 社寺編』高柳光寿・貫達人 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』赤星直忠 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉廃寺事典』貫達人・川副武胤 有隣堂1980年
- ・『鎌倉事典』白井英二 東京堂出版 1976年
- ・『日本歴史体系14巻 神奈川県の名』下中邦彦 平凡社 1984年
- ・『神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌』神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 神奈川県図書館協会 1991年

第二章 調査の概要

第1節 調査の経過・方法と調査区設定（図2）

本調査は鎌倉市山ノ内860番1地点における、個人専用住宅建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が平成21年7月21・23日の二日間に行った確認調査の結果に基づき実施された。この結果、地表下約22cmの表土層直下で中世の遺物包含層が、地表下約88cmでは黄茶褐色粘土を主体とした褐色粘土・泥岩粒を含む地業層上面を第1面の生活面とし、地表下約134cmで検出された砂岩質の岩盤を地山とし、掘削深度200cmまでに少なくとも2枚以上の中世遺構面の存在があることを確認した。以上の調査結果を受け、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

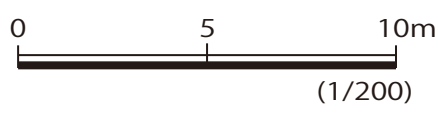
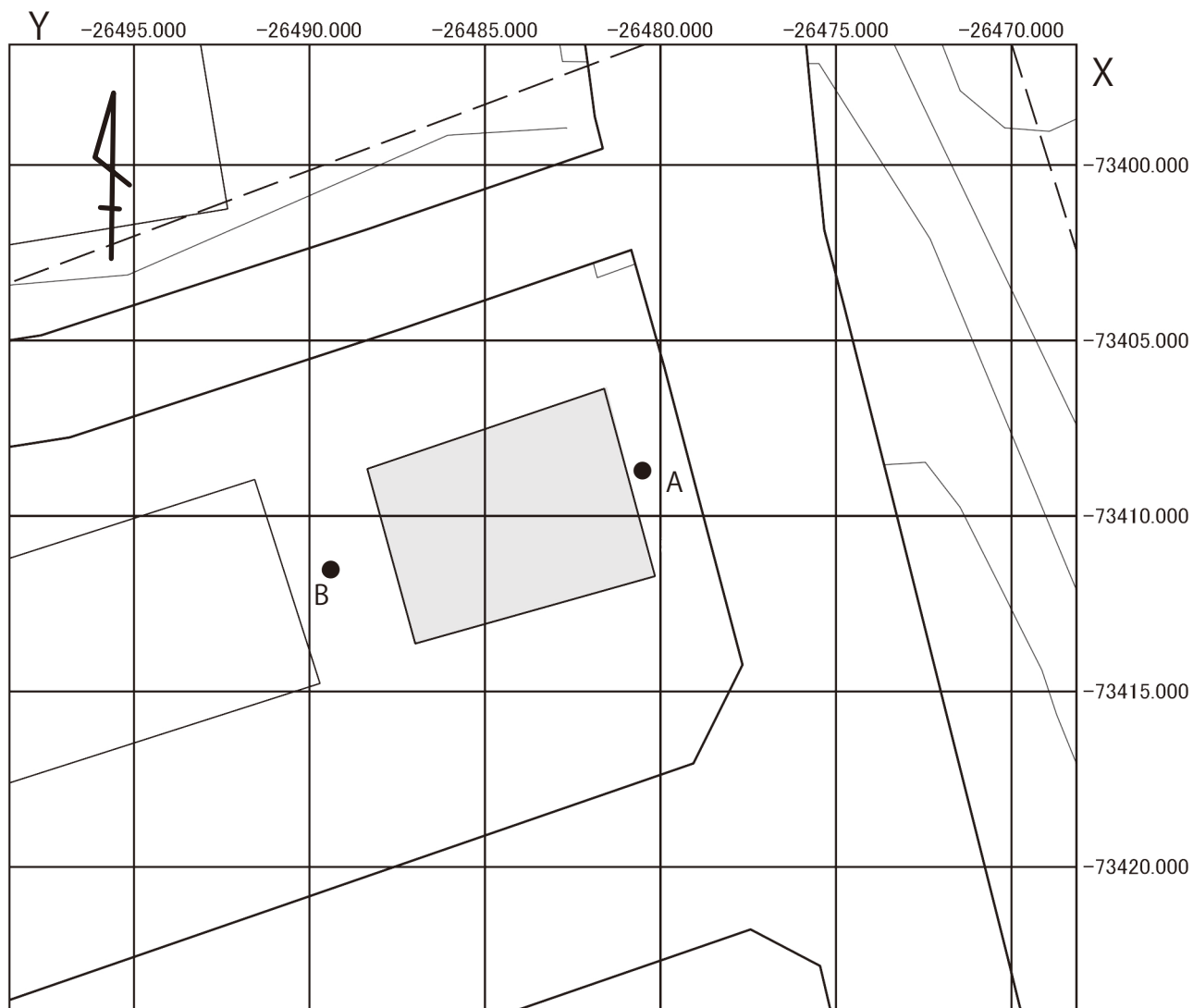
調査期間は平成22年1月12日から2月17日まで、調査面積は30（5m×6m）㎡。地表下60cmまでは重機で掘削し、以下は人力による掘削に移行した。地下室築造部分の狭い範囲を一括全面調査で行い、それに伴う残土は敷地内処理している。掘削深度200cm時点で安全性に配慮して調査途中H鋼内に矢板の打ち込みを行い、残土も考慮した上で下層での調査については調査面積を狭めトレンチを設定し確認した。

測量に当たっては調査区に任意の方眼紙を設け、基本点Aと見返り点Bを設定して遺構の測量・図面作成に使用。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表（K097・K098）に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行なった。現地では日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用し、本報告作成に際して国土地理院が公開する座標変換ソフトweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換し、図2に表記した。

第2節 堆積土層図（図3）

本調査地点は丘陵中腹部の斜面地形に位置し、南側の「藤源治」稜線に沿った北に開口する雛壇状の平場を形成している。確認調査において現地表下134cmで検出された砂質凝灰岩の岩盤は、南東側（海拔26.8m）から北西側（海拔26.6m）に下る緩やかな傾斜を形成するが、東壁から西へ1.2m以降はやや急激に落ち込むことが北壁堆積土層より確認できた。同平場に位置する地点16同様に、地形を利用しながら丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面として利用していることがわかる。調査区北壁・西壁と確認調査の南壁の土層堆積図を基に説明する。崩落防止の犬走り設置の為、図示した調査区壁の堆積土層図は平面調査の検出状況とは合致しないことを前以て明記する。

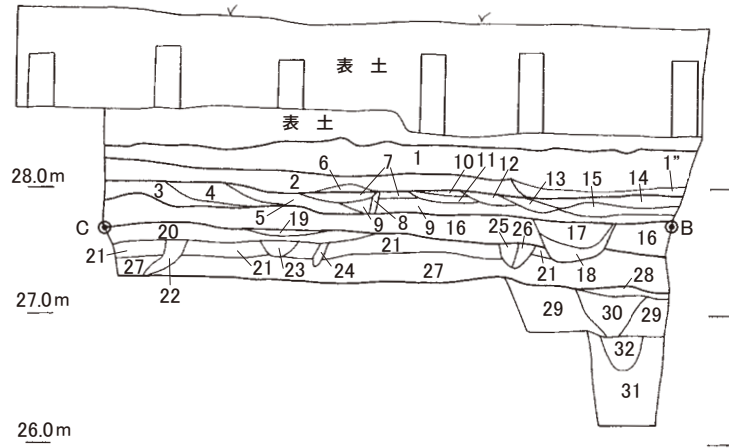
調査前の現地表海拔は29.1～29.4m前後ではほぼ平坦な造成を形成していた。現地表下80～110cmの表土を除去した海拔28.3m前後で検出された暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む泥岩地業の黄茶褐色弱粘質土（第1層）上を第1a面、20cm下の炭化物・泥岩粒・褐鉄・玉石を含む硬く締まる暗茶褐色弱粘質土（第2層）上を第1b面とし、図示は第1面としてまとめた。第2面以降は東から西に下る緩やかな傾斜を形成する。第2面は海拔28.0～27.8m前後で検出された泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩を含む茶褐色～暗茶褐色弱粘質土（第3～15層）上としたが、第1面を構成する地業堆積の一環と捉えている。第3面は海拔27.9～27.7m前後で検出された泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む締まりのある暗茶褐色弱粘質土（第16層）上、第4面は海拔27.7～27.5m前後で検出された泥岩粒・炭化物を含む粘性が強い締まりのある暗茶褐色弱粘質土（第21・27層）上とした。第3～4面間の遺構の新旧関係をみる限り、時期差は殆どみられない。第5面は調査区を2分割した北側半分とし、海拔27.6～27.2m前後で検出された泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄・玉石を含む茶褐色弱粘質土（第29層）上とした。調査区北側のトレンチ調査で海拔26.6～26.8m前後で地山岩盤を検出している。



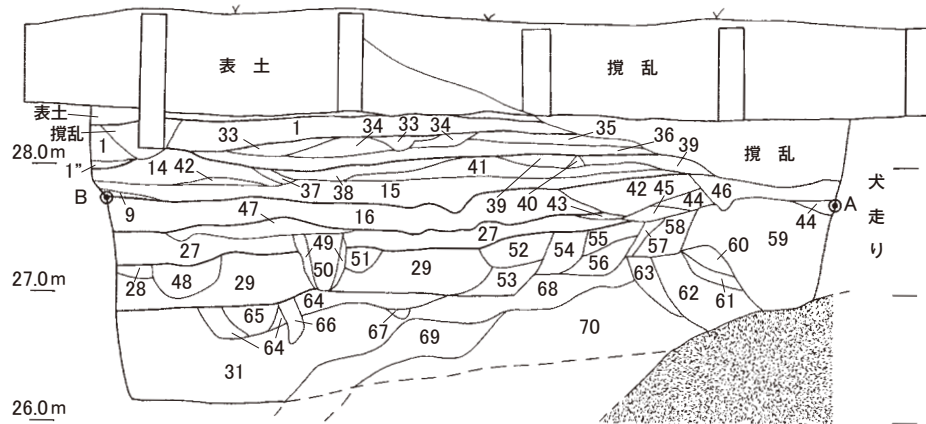
地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-73765.428	-26187.168	-73408.7191	-26480.5004
B	-73768.260	-26196.101	-73411.5507	-26489.4332
K097(市4級基準点)	-73726.980	-26354.986	-73370.2564	-26648.3156
K098(市4級基準点)	-73732.986	-26360.003	-73376.6230	-26653.3328

図2 調査区配置図

<西壁>



<北壁>



<南壁(試掘坑)>

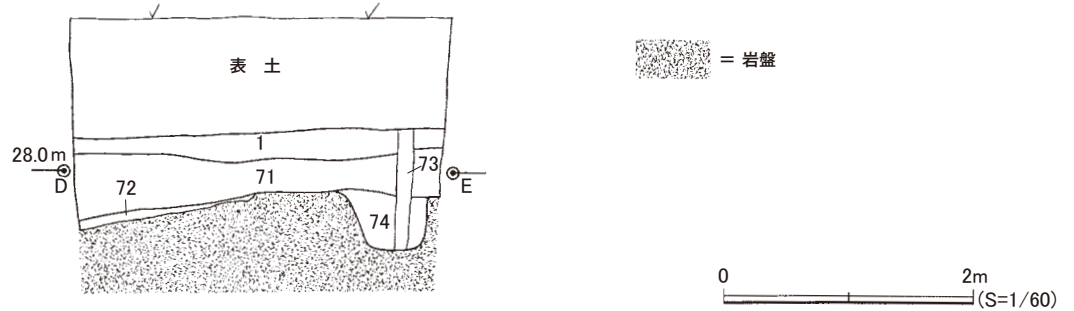


図3 堆積土層図

<土層注記>

- | | |
|---|---|
| <p>1. 黄褐色弱粘質土 黄褐色・褐色粘土、炭化物を含む泥岩地業層、しまり・粘性あり</p> <p>1". 明茶褐色弱粘質土 1.に近似した砂質混入土</p> <p>2. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物多量、褐鉄、玉石、砂質混入土</p> <p>3. 暗茶褐色弱粘質土 茶褐色粘土、泥岩粒、炭化物、褐鉄</p> <p>4. 暗茶褐色弱粘質土 3.に近似、泥岩粒、砂質凝灰岩</p> | <p>5. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、砂質凝灰岩</p> <p>6. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化粒</p> <p>7. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化粒多量</p> <p>8. 茶褐色弱粘質土 杭痕か?泥岩粒・炭化物・褐鉄</p> <p>9. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩、砂質凝灰岩、玉石</p> <p>10. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物、砂質凝灰岩</p> <p>11. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化粒多量</p> |
|---|---|

12. 暗褐色弱粘質土 炭化粒多量、砂質凝灰岩、有機質土
13. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化粒、褐鉄、粘性あり
14. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、褐鉄
15. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物多量
16. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物、褐鉄、しまりあり
17. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、粘性あり
18. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量・粘性あり
19. 茶褐色弱粘質土 褐鉄、粘性あり
20. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物微量、しまり・粘性あり
21. 暗茶褐色弱粘質土 炭化物微量、褐鉄、しまり・粘性あり
22. 暗茶褐色弱粘質土 炭化物多量、褐鉄、砂質凝灰岩
23. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量、砂質凝灰岩
24. 暗茶褐色弱粘質土 杭痕か？泥岩粒・炭化物・褐鉄
25. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量、炭化物多量、砂質凝灰岩
26. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、褐鉄、粘性あり
27. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物微量、粘性あり
28. 茶褐色弱粘質土 褐鉄
29. 茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物少量、褐鉄、玉石
30. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物、褐鉄
31. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物微量、玉石、しまり・粘性あり
32. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量、褐鉄、砂質凝灰岩
33. 暗茶色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物
34. 黄褐色弱粘質土 泥岩地業（1 b 面構成土）
35. 黄褐色弱粘質土 泥岩地業（1 b 面構成土）
36. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物、粘性あり
37. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物、砂質凝灰岩
38. 褐色弱粘質土 9.に近似・砂質凝灰岩による地業
39. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物、しまりあり
40. 暗褐色弱粘質土 粘性あり
41. 茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、褐色、玉石
42. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物、砂質凝灰岩
43. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、しまりあり
44. 茶褐色弱粘質土 泥岩少量、泥岩粒、砂質土
45. 茶褐色弱粘質土 泥岩微量、泥岩粒、褐鉄、粘性あり
46. 茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、褐鉄、砂質凝灰岩
47. 褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物微量、褐鉄、玉石
48. 褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量
49. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化粒微量、褐鉄、しまりあり
50. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化粒、砂質凝灰岩
51. 暗褐色弱粘質土 泥岩微量、泥岩粒、褐鉄、砂質土
52. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、玉石
53. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物微量、褐鉄、粘性あり
54. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物微量、褐鉄
55. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒、砂質土、粘性あり
56. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量、褐鉄
57. 褐色弱粘質土 根痕か？有機質土
58. 褐色弱粘質土 有機質土混入
59. 黄褐色弱粘質土 砂質凝灰岩と山砂？粘土・有機質土混入
60. 黄褐色弱粘質土 砂質凝灰岩、砂質土
61. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒、粘性あり
62. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物微量、砂質土
63. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物、褐鉄、粘性あり
64. 暗褐色弱粘質土 粘性あり
65. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物
66. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒微量・炭化物多量
67. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒微量、砂質凝灰岩
68. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物微量、褐鉄
69. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒少量、褐鉄、しまりあり
70. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒微量、炭化物少量、砂質土、砂質凝灰岩
71. 褐色土 泥岩粒少量・炭化物・かわらけ片・しまりややあり・粘性なし
72. 明茶褐色弱粘質土 しまりややあり、粘性あり
73. 茶褐色弱粘質土 しまり・粘性なし
74. 黄褐色弱粘質土 砂質土 しまり・粘性なし

第三章 発見された遺構と遺物

本調査では現地表から約60cm下まで重機によって表土掘削を行ない、その後は人力によって遺構の発見・記録をした。調査区は南北5.8m×東西7.5mで、本報告では5面とした。報告の際の遺構番号は遺構確認時点もしくは整理段階で付したものであり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では各面の特徴的な遺構・遺物出土のある遺構のみを説明しており、その他は遺構計測表にまとめて提示した。

出土遺物は遺物整理箱に総数4箱と非常に少なく、その大半は小破片のため報告数は少ない。各面で発見した遺物の詳細は出土遺物観察表にまとめ、その他の遺物の様相は遺物破片数表を提示した。以下、発見した遺構は上層から下層の順に第1面から第5面・最終トレンチと分けて調査日誌を参考に事実記載を記した。調査開始前現地表の海拔は29.1～29.4m前後である。

第1節 第1面の遺構と遺物 (図4)

海拔28.3m前後で検出された暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む泥岩地業の黄茶褐色弱粘質土(第1層)上で遺構を確認し、第1a面とした。宅地造成による埋土で上層は削平されており、遺構深度は10cm内外と浅い。その20cm下で炭化物多量・泥岩粒・褐鉄・玉石を含む砂質混じりの硬く締まった暗茶褐色弱粘質土(第2層)を確認、第1b面として調査した。生活面とするには地業が弱く、数穴の遺構と北西部分に第1a面構成土に近似した泥岩層を覆土とする南東から北西に下がる浅い落込みを検出したことから、この層は第1面を構成する地業の一つとして捉え、時期的な段階を追って1面が造成されたものと考えた。落込み部分はドットで、第1a～第1b面の2枚の地業面は第1面全測図としてまとめて示した。検出遺構は土坑5基、ピット43穴、内ピットと言い難い小穴も含まれている。遺物は伴わず、更に構成土から出土した遺物も僅かである。

遺構7 (図4)

調査区中央で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸40cm×短軸34cm、確認面からの深さ12cm(海拔28.2m)前後を測る。覆土は泥岩粒・小石粒を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構底面に長軸0.9cm×短軸0.7cm×深さ0.5cmの柱痕かと思われる小穴あり。南北軸方位はN-24°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけの小片1点出土。

遺構22 (図4)

調査区北部で検出された不整形円形状ピット。検出規模は長軸32cm×短軸28cm、確認面からの深さ8cm(海拔28.2m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-4°-Wを示す。

出土遺物：土師器甕の小片1点出土。

遺構38 (図4)

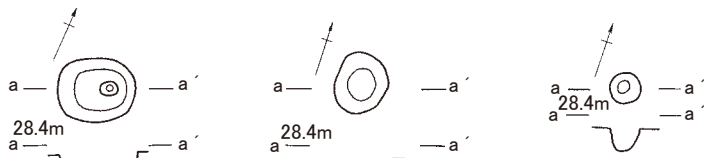
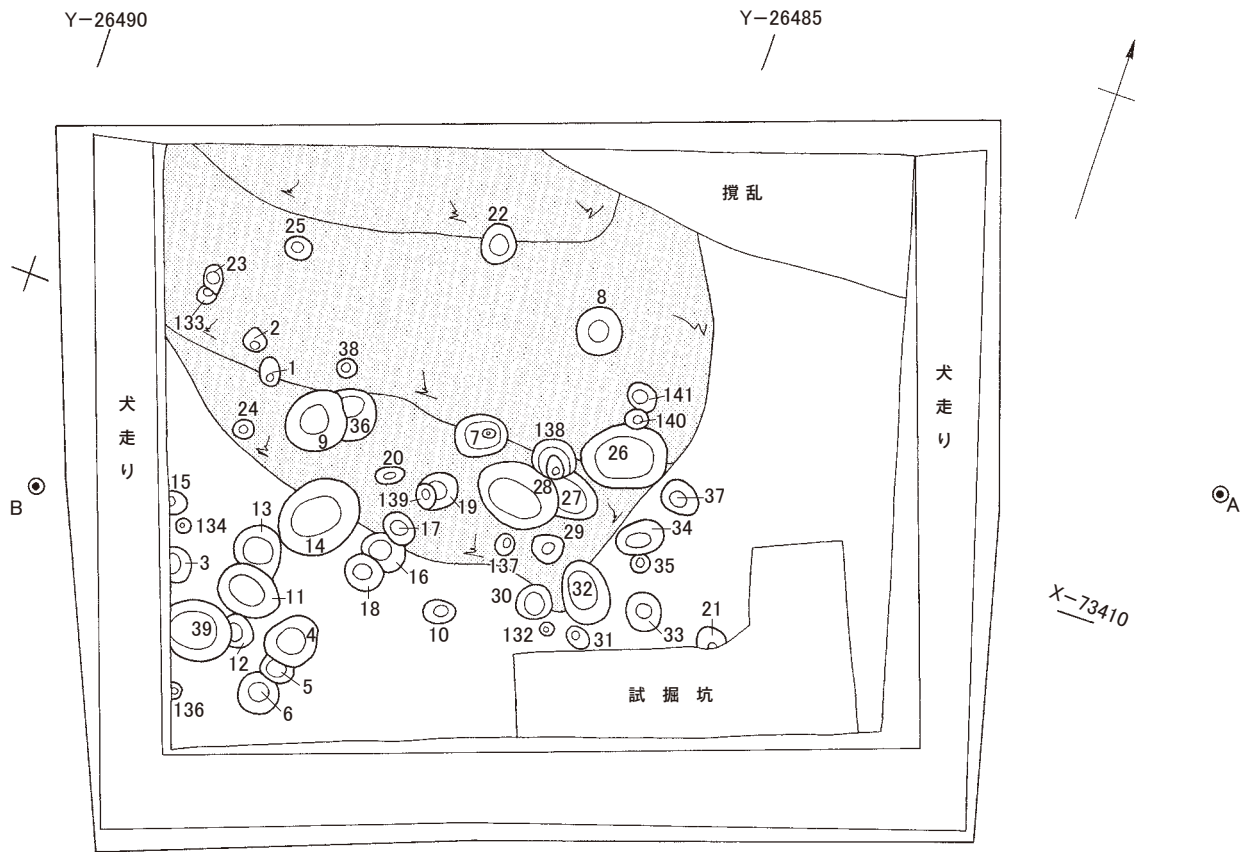
調査区北部で検出された円形状小ピット。検出規模は長軸15cm×短軸15cm、確認面からの深さ12cm(海拔28.2m)前後を測る。覆土は微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-31°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけの小片1点出土。

第1面面上・構成土・出土遺物 (図4)

図4-1は面上出土遺物。1は常滑甕の肩部小片。一斜線格子目文のスタンプあり。

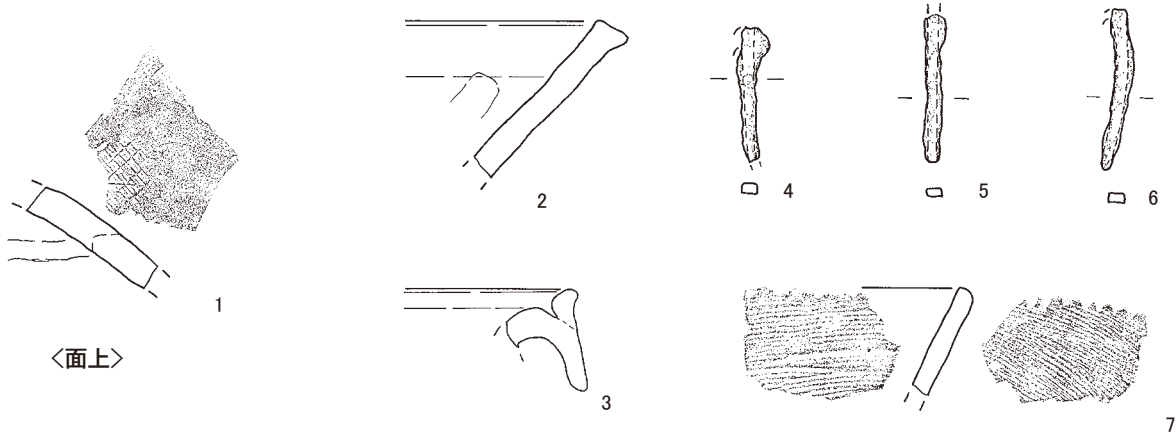
図4-2～7は構成土出土遺物。2は常滑片口鉢Ⅱ類の口縁部片。3は常滑甕の口縁部片。常滑窯製品は中野編年8型式の所産と推定する。4～6は鉄釘。7は弥生末期～古墳前期の土師器甕口縁部小片。



〈遺構 7〉

〈遺構 22〉

〈遺構 38〉



〈面上〉

〈構成土〉



図4 第1面各遺構・出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物 (図5～6)

第2面は海拔28.0～27.8m前後で検出された東から西に緩やかに下る泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩を多く含む暗(茶)褐色弱粘質土上とした。生活面とするには地業が弱く、遺構プランも明確に判別し難い状況であったが、泥岩粒・炭化物・粘性の強い暗茶褐色弱粘質土を覆土とした土坑3基・ピット8穴を検出した。出土遺物は概ね大型ロクロかわらけで、第1a～第1b面との時期差も殆ど見いだせない。以上のことから、第2面として報告したが、第1b面同様に第1面を構成する地業堆積の一環と捉えている。

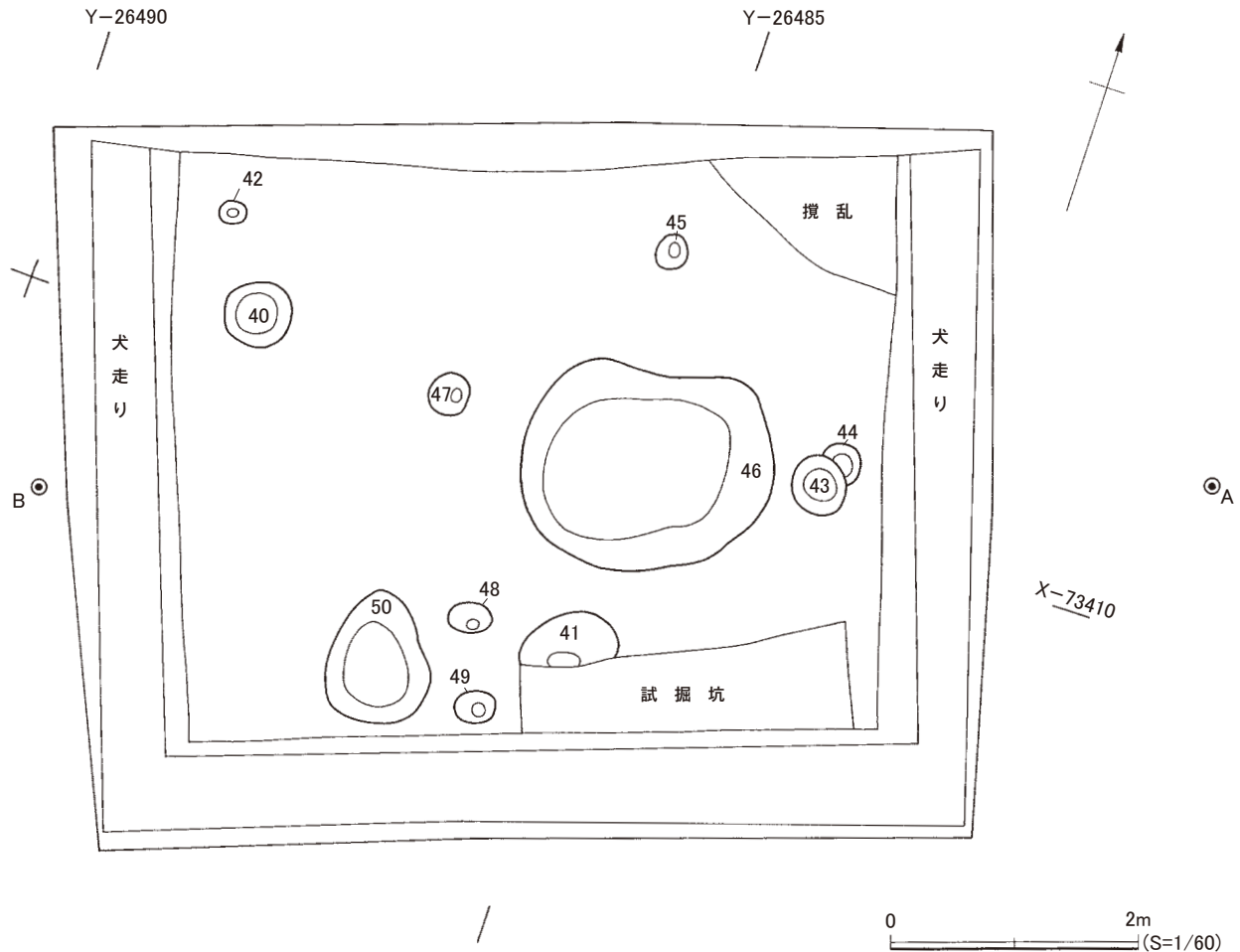


図5 第2面全測図

遺構40 (図5・6)

調査区北西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸52cm×短軸50cm、確認面からの深さ15cm(海拔27.75m)前後。覆土は砂質凝灰岩・炭化物・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Wを示す。

出土遺物：図6-1は鉄釘。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

遺構41 (図5・6)

調査区南部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸81cm×短軸47以上cm、確認面からの深さ56cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を密に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-19°-Wを示す。

出土遺物：図6-2は鉄釘。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

遺構43(図5・6)

調査区東部で検出された楕円形状ピット。遺構44を切る。検出規模は長軸48cm×短軸42cm、確認面からの深さ19cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は砂質凝灰岩を含む粘性強い暗茶褐色弱粘質土。遺構底面に長軸0.9cm×短軸0.7cm×深さ0.5cmの柱痕かと思われる小穴あり。南北軸方位はN-6°-Eを示す。

出土遺物：大型～小型のロクロかわらけ出土。

遺構45(図5・6)

調査区北東部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸26cm×短軸25cm、確認面からの深さ13cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-28°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構46(図5・6)

調査区中央部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長軸200cm×短軸156cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は泥岩粒・砂質凝灰岩・炭化物少量・玉石少量を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-16°-Eを示す。

出土遺物：図6-3は小型ロクロかわらけ。4は鉄釘。その他に破片で大型～小型のロクロかわらけ、白磁口元皿、鉄釘、土師器高坏。

遺構47(図5・6)

調査区中央部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸34cm×短軸33cm、確認面からの深さ38cm(海拔27.65m)前後を測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土を呈し、炭化物が遺構底面に堆積していた。南北軸方位はN-1°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構48(図5・6)

調査区北部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸35cm×短軸24cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Eを示す。

出土遺物：図6-5は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

遺構49(図5・6)

調査区南部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸32cm×短軸27cm、確認面からの深さ9cm(海拔27.8m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・玉石を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Eを示す。

出土遺物：大型～小型のロクロかわらけ出土。

遺構50(図5・6)

調査区南西部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸104cm×短軸82cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-13°-Wを示す。

出土遺物：図6-6は鉄釘。

第2面構成土出土遺物(図6)

図6-7～23は構成土出土遺物。7～10は小型、11～13は大型のロクロかわらけ。14は龍泉窯系青磁鎬連弁文碗。15は白磁碗の底部。16は青白磁小皿の口縁部片。17は瀬戸入子の底部片。18は瀬戸卸皿の底部片。共に中期前半の製品。19は常滑甕の口縁部片で、第8型式の製品。20は常滑甕体部転用の研磨製品。21は銅銭。22は鳴滝産仕上砥、23は火打石か。

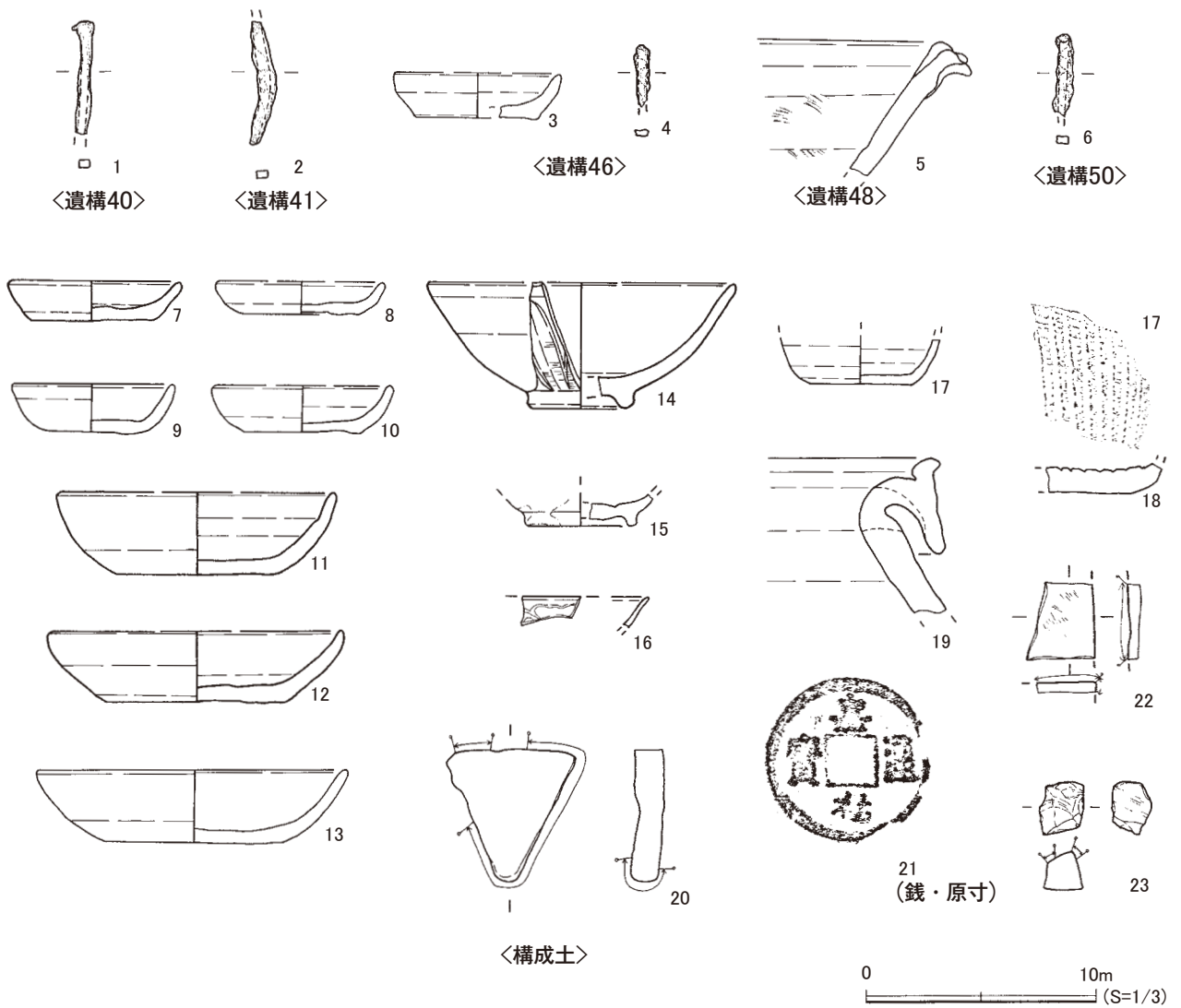
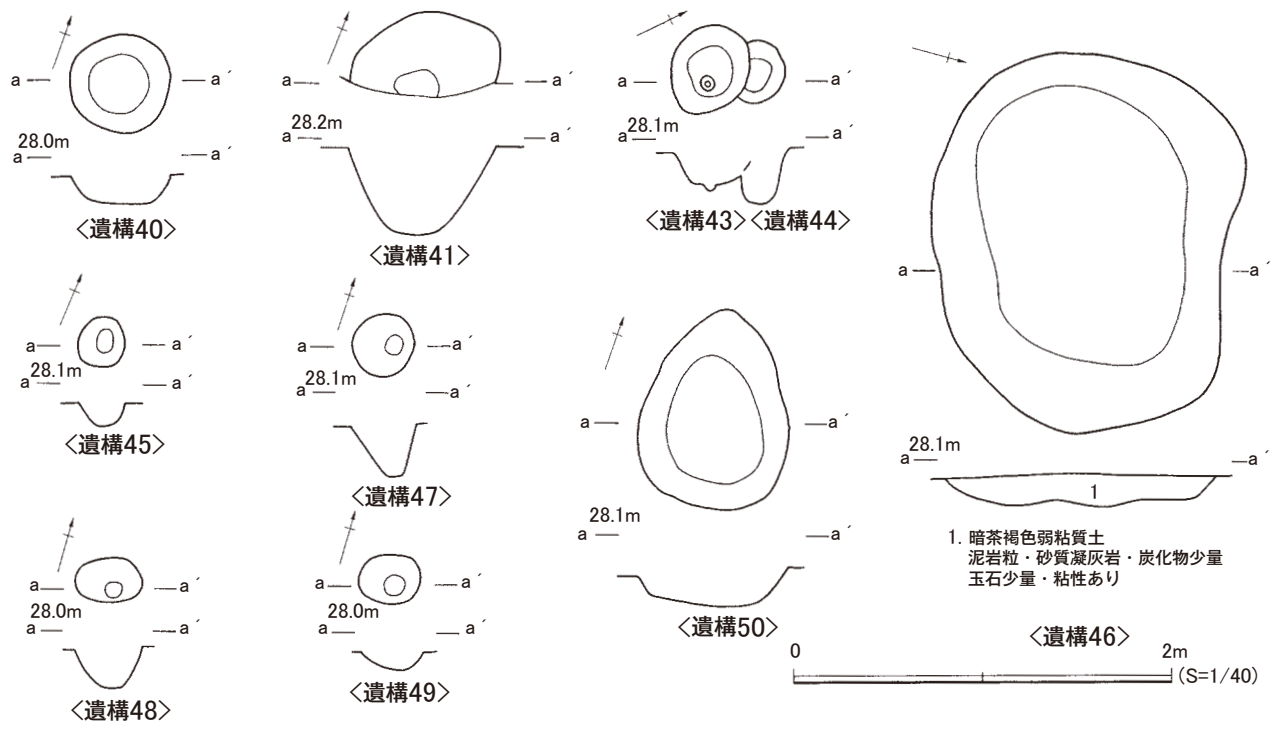


図6 第2面各遺構・出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物 (図7～9)

第3面は海拔27.9～27.7m前後で検出された東から西に緩やかに下がる泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む締まりのある暗茶褐色弱粘質土上とした。遺構覆土や調査区壁の土層堆積図を参考に第3～4面間の遺構の新旧関係を再考し、その結果を図示した。その為、調査時の全測図・全景写真とは異なることを明記しておく。遺構は溝状土坑1基・土坑6基・ピット21穴を検出した。遺構に伴う遺物の出土が少ない中で、遺構94の大量のロクロかわらけの一括廃棄は本調査地点の年代を推定するにあたって貴重な資料と言える。

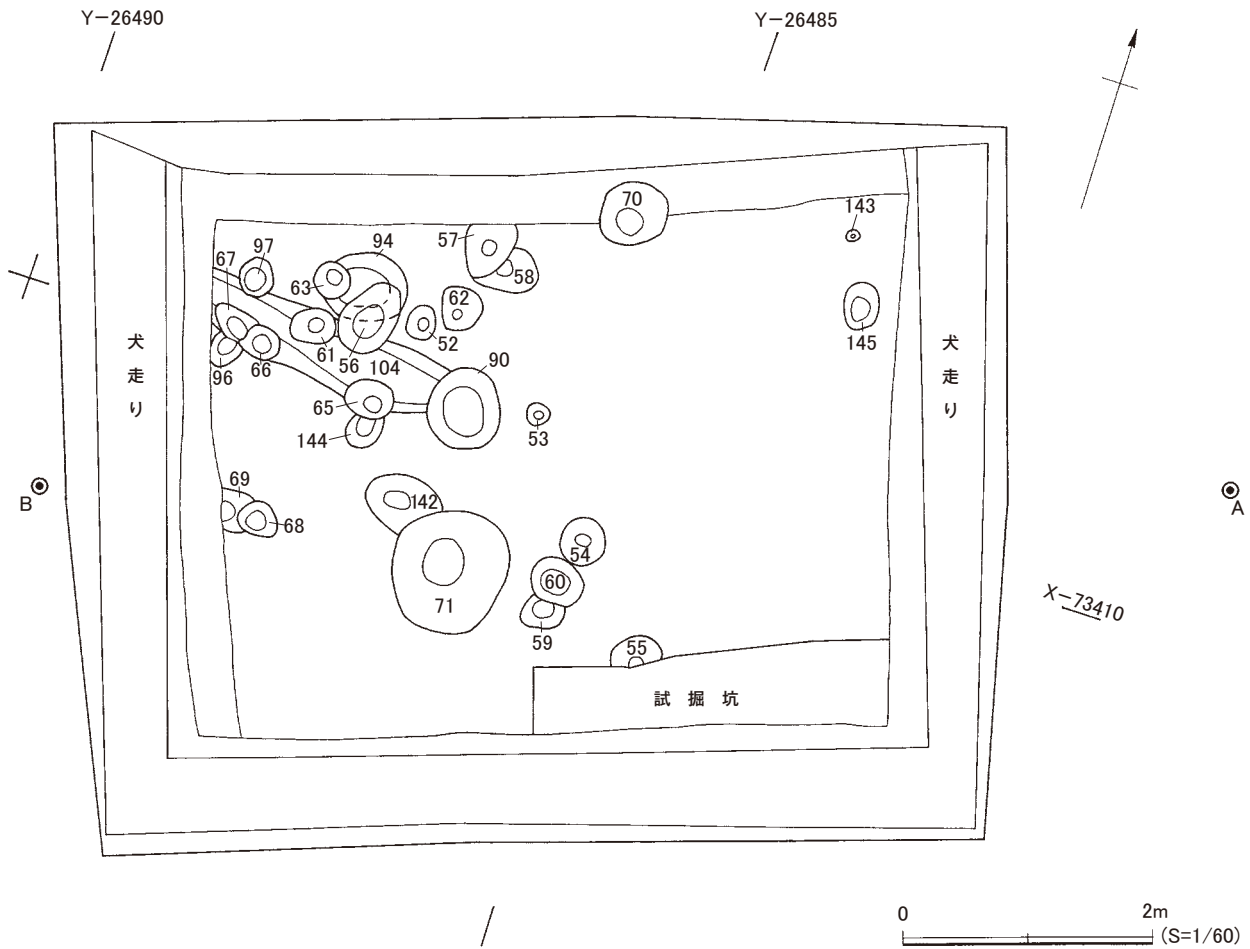


図7 第3面全測図

遺構52 (図7・8)

調査区北西部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸27cm×短軸23cm、確認面からの深さ15cm(海拔27.55m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・玉石を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-16°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ。

遺構54 (図7・8)

調査区南部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸38cm×短軸35cm、確認面からの深さ40cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-6°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ。

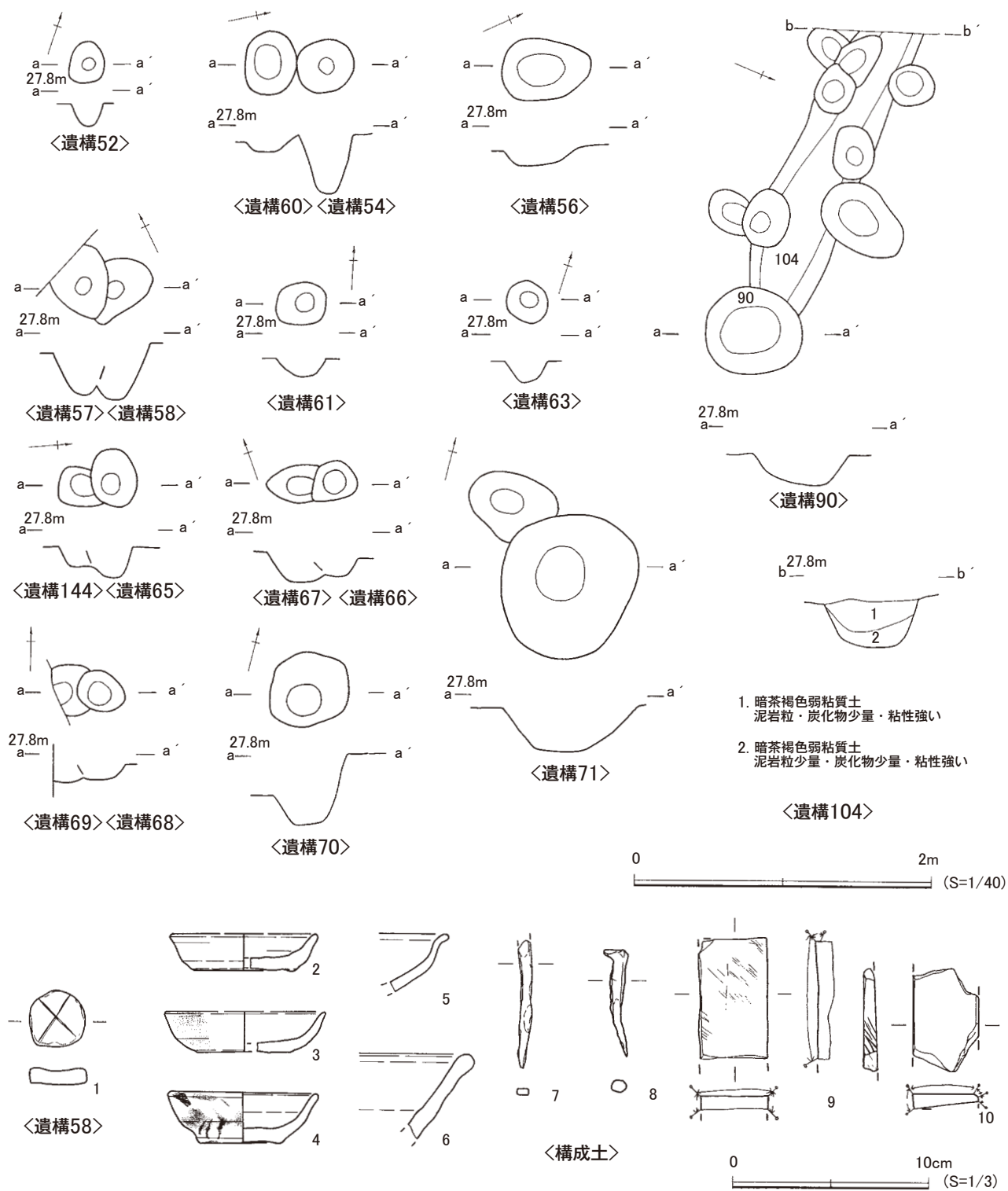


図8 第3面各遺構・構成土・出土遺物

遺構 56 (図7・8)

調査区北部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長軸61cm×短軸43cm、確認面からの深さ8cm（海拔27.55m）前後を測る。覆土は炭化物を多量に含む暗茶褐色弱粘質土で、遺構ではなく第3面直上の炭化層落込みの可能性もある。南北軸方位はN-23°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、土師器甕が出土。

遺構57(図7・8)

調査区北部で検出された不整円形状ピット。遺構58を切る。検出規模は長軸41cm以上×短軸41cm、確認面からの深さ34cm(海拔27.4m)前後。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、青磁鎗連弁文碗。

遺構58(図7・8)

調査区北部で検出された不整円形状ピット。遺構57に切られる。検出規模は長軸40以上cm×短軸34cm、確認面からの深さ38cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：図8-1はロクロかわらけ底部転用の円盤状土製品。表面に「×」印の刻みがある。その他に大型ロクロかわらけ出土。

遺構61(図7・8)

調査区北西部で検出された方形形状ピット。検出規模は長軸35cm×短軸29cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構63(図7・8)

調査区北西部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸30cm×短軸25cm、確認面からの深さ13cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む締まりのない暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構65(図7・8)

調査区西部で検出された楕円形状ピット。遺構144を切る。検出規模は長軸40cm×短軸32cm、確認面からの深さ20cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物大量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-4°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構66(図7・8)

調査区北西部で検出された不整円形状ピット。遺構67を切る。検出規模は長軸32cm×短軸25cm、確認面からの深さ16cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-5°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構67(図7・8)

調査区北西部で検出された楕円形状ピット。遺構66に切られる。検出規模は長軸32cm以上×短軸24cm、確認面からの深さ21cm(海拔27.45m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-21°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、土師器甕出土。

遺構68(図7・8)

調査区西部で検出された楕円形状ピット。遺構69を切る。検出規模は長軸33cm×短軸27cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。

南北軸方位はN - 6° - Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構69 (図7・8)

調査区西部で検出された楕円形状ピット。遺構68に切られる。検出規模は長軸27cm以上×短軸34cm、確認面からの深さ11cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 25° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構70 (図7・8)

調査区北部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長軸56cm×短軸48cm、確認面からの深さ47cm(海拔27.3m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物多量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 20° - Wを示す。中央に炭化物を多く伴う。

出土遺物：大型・小型ロクロかわらけ、獣骨出土。

遺構71 (図7・8)

調査区南部で検出された楕円形状土坑。遺構142を切る。検出規模は長軸97cm×短軸90cm、確認面からの深さ30cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 11° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、獣骨出土。

遺構90 (図7・8)

調査区中央部で検出された楕円形状土坑。遺構104を切る。検出規模は長軸67cm×短軸52cm、確認面からの深さ20cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 25° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、不明金属製品出土。

遺構94 (図7・9)

調査区南西部で検出された楕円形状土坑で、調査時は第4面の海拔27.6m前後で確認しているが、土層覆土の様相から第3面とした。検出規模は長軸67cm×短軸50cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩粒・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土で砂質凝灰岩・炭化物と共にまとまった量のかかわりが検出し、一括廃棄土坑と考えられる。南北軸方位はN - 86° - Eを示す。

出土遺物：図9-1～13・15～25は大型、14は中型ロクロかわらけ。半数は被火して黒く変色している。図面に各かわらけの出土位置付近の場所を示した。小型は出土しておらず、他は軽石1点のみ。遺物を伴う遺構の検出が少ない中で、廃棄年代が推察できる唯一の遺構と言える。全体的に体部外面に稜をもち、やや背高い器壁が薄いタイプが多い。さらに中型かわらけ1点を含む事も踏まえ、概ね14世紀前半と推定する。

遺構104 (図7・8)

調査区北西部で検出された溝状土坑。調査時は第4面の海拔27.6m前後で確認したが、西壁堆積土層図より第3面の遺構とした。検出規模は長軸193cm以上×短軸60cm、確認面からの深さ30cm(海拔27.3m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む粘性の強い暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 92° - Eを示す。

出土遺物：大型～小型ロクロかわらけ、鉄釘、土師器坏・甕、器種不明品出土。

第3面構成土・表土出土遺物 (図8)

図8-2～10は構成土出土遺物。2～4は小型のロクロかわらけ。5は後期I～IIと推定する瀬戸浅碗の口縁部片。6は第6a型式の常滑片口鉢I類の口縁部片。7～8は鉄釘。9～10は石製品仕上砥。

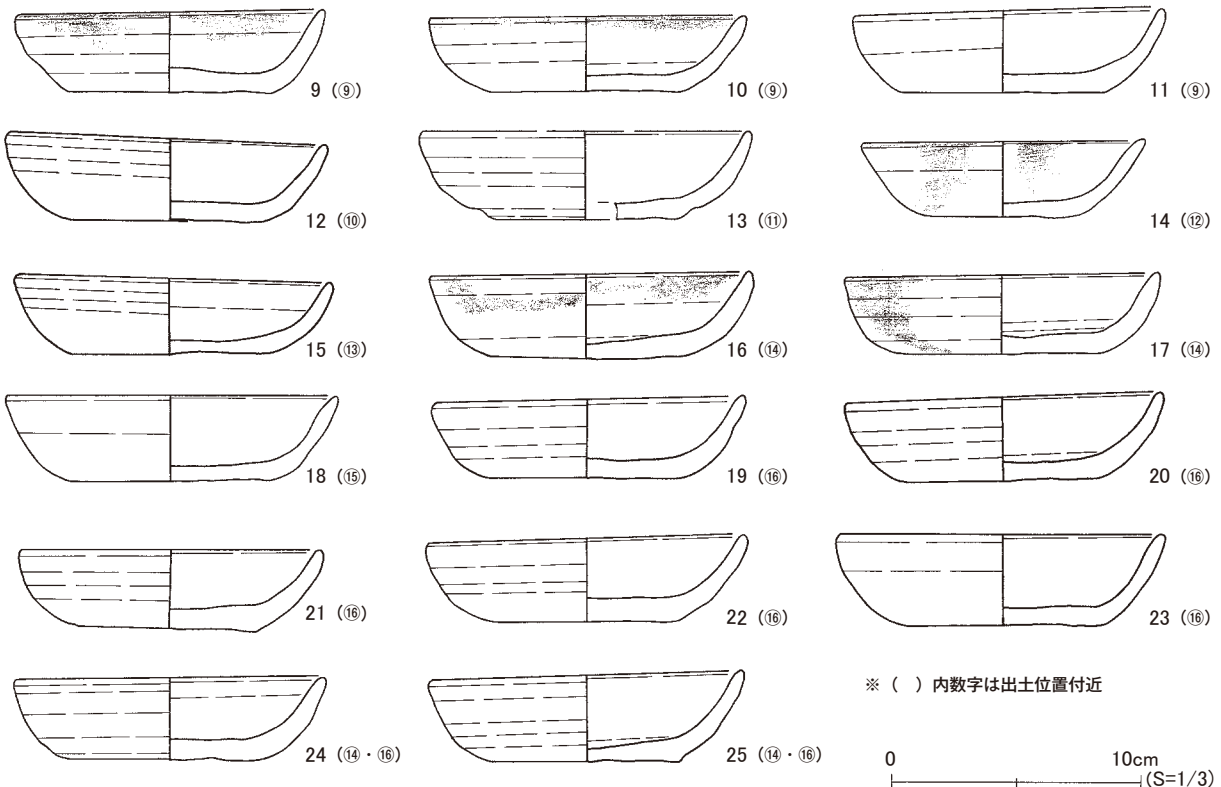
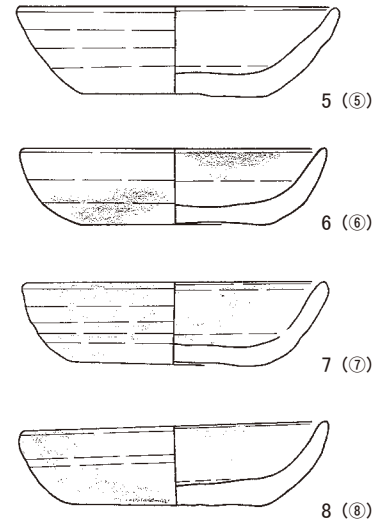
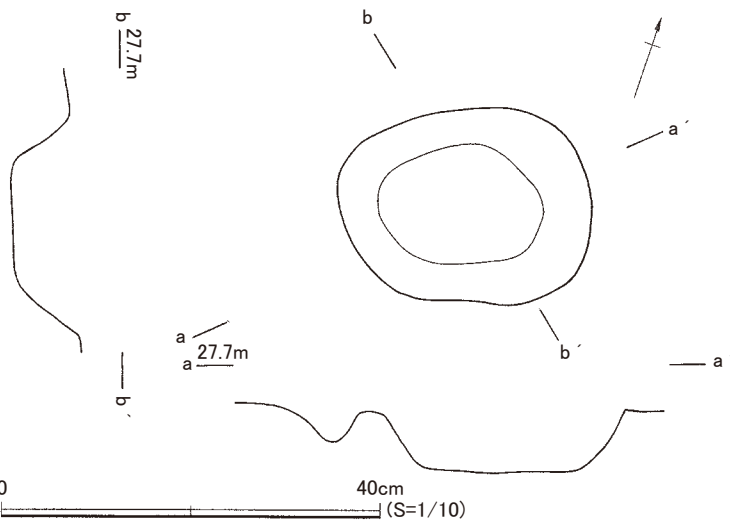
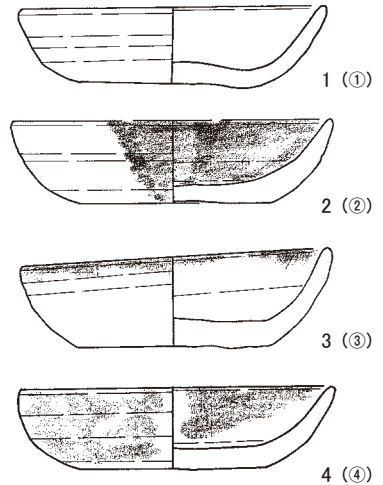
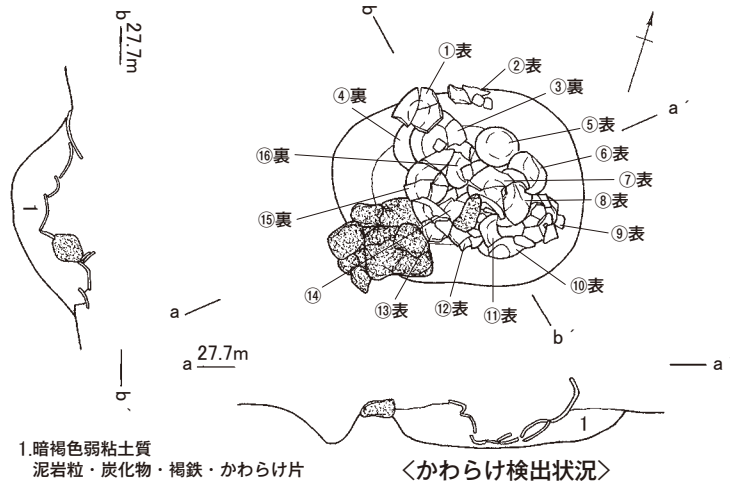


図9 第3面遺構94・出土遺物

第4節 第4面の遺構と遺物 (図10～11)

第4面は海拔27.7～27.5m前後で検出された東から西に緩やかに下がる泥岩粒・炭化物を含む粘性の強い締まりのある暗茶褐色弱粘質土上とした。第3～4面間の遺構の新旧関係をみる限り、時期差はみられない。遺構は土坑6基・ピット30穴を検出した。第4面として報告したが、第3面を構成する地業堆積の一環と捉えている。

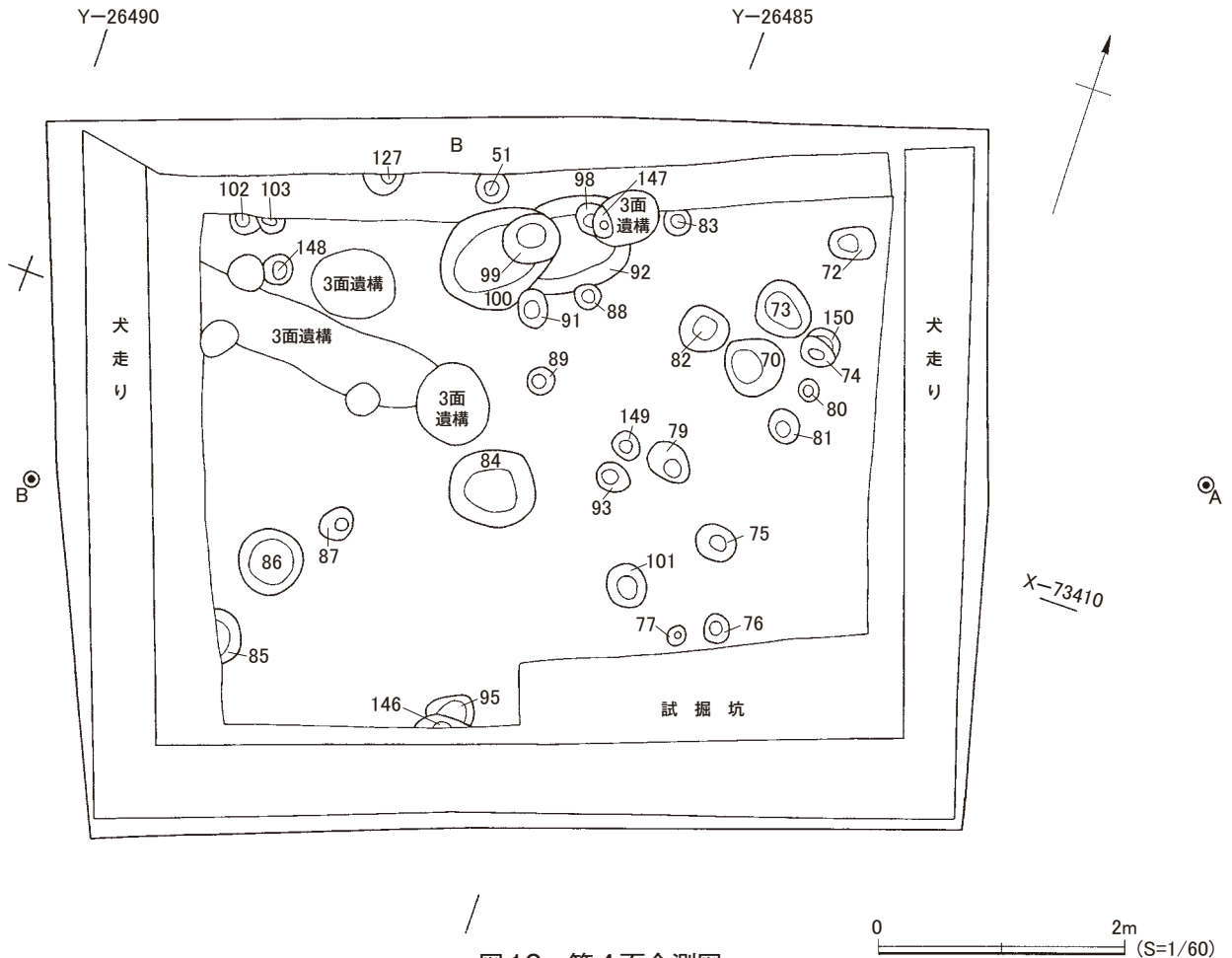


図10 第4面全測図

遺構51 (図10・11)

調査区北部で検出された円形状ピット。検出規模は長23cm以上×短軸25cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.3m)前後。覆土は泥岩粒・炭化物多量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-39°-Wを示す。

出土遺物：常滑甕、鉄釘出土。

遺構72 (図10・11)

調査区北東部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸36cm×短軸28cm、確認面からの深さ14cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-21°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構74 (図10・11)

調査区東部で検出された不整形円形状ピット。検出規模は長軸30cm×短軸20cm、確認面からの深さ22cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構78 (図10・11)

調査区東部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸48cm×短軸48cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.55m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む砂質土混じりの茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-36°-Wを示す。

出土遺物：図11-1は白磁口元皿。その他に大型ロクロかわらけ出土。

遺構81 (図10・11)

調査区東部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸25cm×短軸24cm、確認面からの深さ16cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-25°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構82 (図10・11)

調査区東部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸39cm×短軸36cm、確認面からの深さ58cm(海拔27.15m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-12°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構85 (図10・11)

調査区南西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸46cm×短軸18cm以上、確認面からの深さ16cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-22°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構86 (図10・11)

調査区北西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸50cm×短軸52cm、確認面からの深さ19cm(海拔27.45m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-15°-Wを示す。

出土遺物：図11-2は大型ロクロかわらけ出土。

遺構87 (図10・11)

調査区西部で検出された不整円形状ピット。検出規模は長軸27cm×短軸26cm、確認面からの深さ26cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-10°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構91 (図10・11)

調査区北部で検出された楕円形状ピット。遺構92・100を切る。検出規模は長軸30cm×短軸27cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物微量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-29°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構95 (図10・11)

調査区南部で検出された不整円形状ピット。遺構146に切られる。検出規模は長軸44cm×短軸25cm以上、確認面からの深さ12cm(海拔27.65m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物・褐鉄・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-15°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

遺構100 (図10・11)

調査区北部で検出された不整円形状土坑。遺構92を切り、遺構91・99に切られる。検出規模は長軸

101cm × 短軸73cm、確認面からの深さ25cm（海拔27.35m）前後を測る。覆土は大きめの炭化物粒・黄灰色砂岩粒・土器片を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 21° - Eを示す。

出土遺物：図11-3は石製品の砥石中砥出土。

第4面構成土出土遺物（図11）

図11-4～11は構成土出土遺物。4は小型、5～6は大型のロクロかわらけ。体部外面に稜を持ち、やや薄い器壁を開きながら立ちが上がる。7は小型の瀬戸輪花型入子。ヘラ押しで八弁輪花状を施す。中期前半頃の製品。8は鉄釘。9～11は石製品の砥石。9～10は鳴滝産仕上砥、11は天草産中砥。

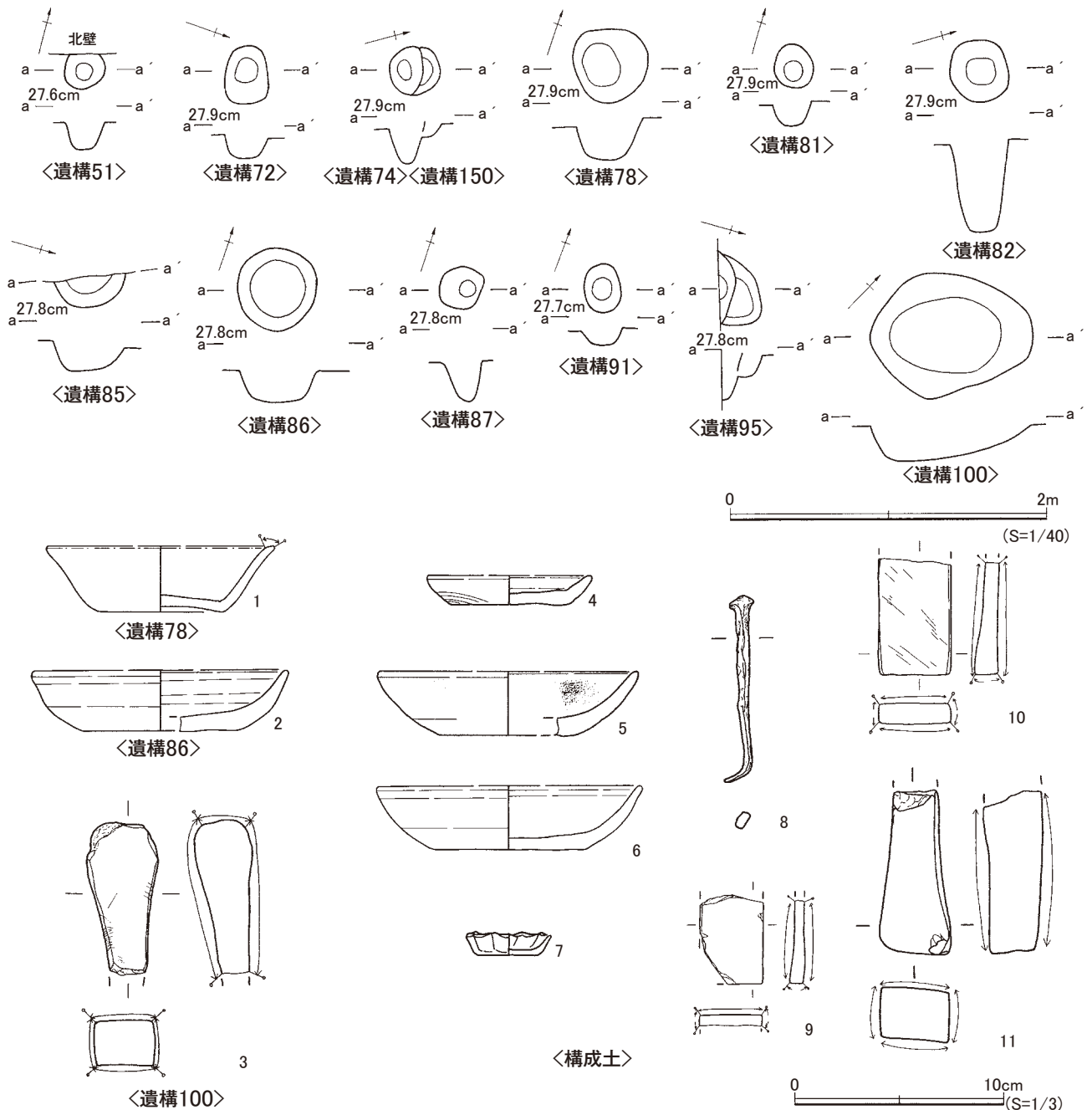


図11 第4面各遺構・出土遺物

第5節 第5面の遺構と遺物 (図12)

第5面は調査区を2分割して北側半分のみとし、南側半分は大量の残土を処理するため試掘坑部分を除いて排土山とした。海拔27.6～27.2m前後で検出された東から西に緩やかに下る泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄・玉石を含む茶褐色弱粘質土上とした。遺構は土坑2基、ピット24穴、内ピットと言ひ難い小穴も含まれている。遺構に伴う遺物の出土は少なく、概ねロクロかわらけの他は、土師器甕が出土している。

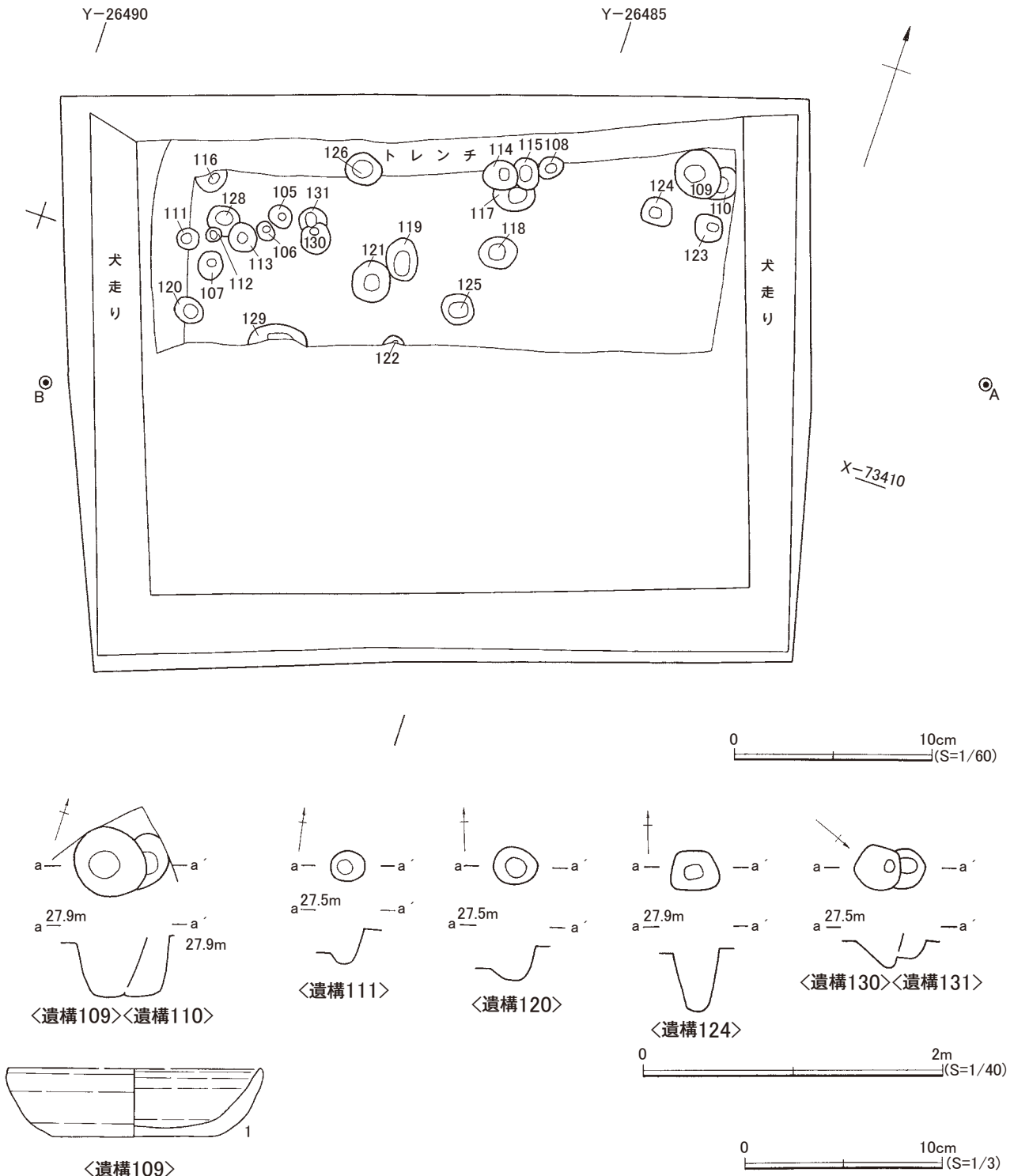


図12 第5面全測図・各遺構出土遺物

遺構 109 (図 12)

調査区北東部で検出された円形状土坑。検出規模は長49cm×短軸44cm、確認面からの深さ36cm(海拔27.2m)前後を測る。覆土は破碎砂質凝灰岩・炭化物少量を含む砂質混じりの茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-44°-Wを示す。

出土遺物：図12-1は大型かわらけ。その他にも大型かわらけが4点出土。

遺構 110 (図 12)

調査区北東部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸33cm×短軸15cm以上、確認面からの深さ40cm(海拔27.2m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-21°-Wを示す。

出土遺物：大型・小型かわらけ出土。

遺構 111 (図 12)

調査区北西部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸23cm×短軸21cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.15m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物微量・褐鉄を含む粘性のある黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN-1°-Eを示す。

出土遺物：大型かわらけ出土。

遺構 120 (図 12)

調査区北部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸31cm以上×短軸25cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.15m)前後を測る。覆土は砂質凝灰岩・炭化物微量・褐鉄を含む締まりのない黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN-8°-Eを示す。

出土遺物：大型かわらけ。

遺構 124 (図 12)

調査区北東部で検出された不整円形状ピット。検出規模は長軸32cm×短軸27cm、確認面からの深さ41cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物少量・褐鉄・砂質土を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-8°-Wを示す。

出土遺物：大型かわらけ出土。

遺構 130 (図 12)

調査区北西部で検出された円形状ピット。遺構131を切る。検出規模は長軸30cm×短軸29cm、確認面からの深さ18cm(海拔27.25m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量・褐鉄を含む砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-31°-Wを示す。

出土遺物：土師器甕出土。

第6節 最終トレンチ・表採遺物 (図 13)

調査区南側に位置する試掘坑で砂質凝灰岩の地山岩盤が検出(現地地表下134cm)され、南東部では岩盤掘り込みの遺構を伴う平坦面を形成し、南東側(海拔27.9m)から北西側(海拔27.5m)にむかって緩やかに下がる傾斜面となっている。第5面検出後の下層堆積を確認するため調査区北側にトレンチを設け、試掘坑で検出した岩盤の確認を試みた。その結果、岩盤は南東側(海拔26.8m)から北西側(海拔26.6m)にむかって下がる緩やかな傾斜を形成するが、東壁から西へ1.2m以降はやや急激に落ち込むことが北壁堆積土層より確認できた。試掘坑南東部では岩盤掘り込みの遺構が数穴検出しており、南壁

にかかる遺構132は岩盤面からの深さ40cm（海拔27.4 m前後）の楕円形状土坑と推測できるが、遺構133は岩盤面からの深さ10cm（海拔27.5 m前後）で、意図的に掘り込まれたものではないかもしれない。トレンチから遺物は出土していない。

表採集出土遺物 (図13)

図13-1は小型ロクロかわらけ。2は瀬戸平碗。3は石製品砥石の中砥。

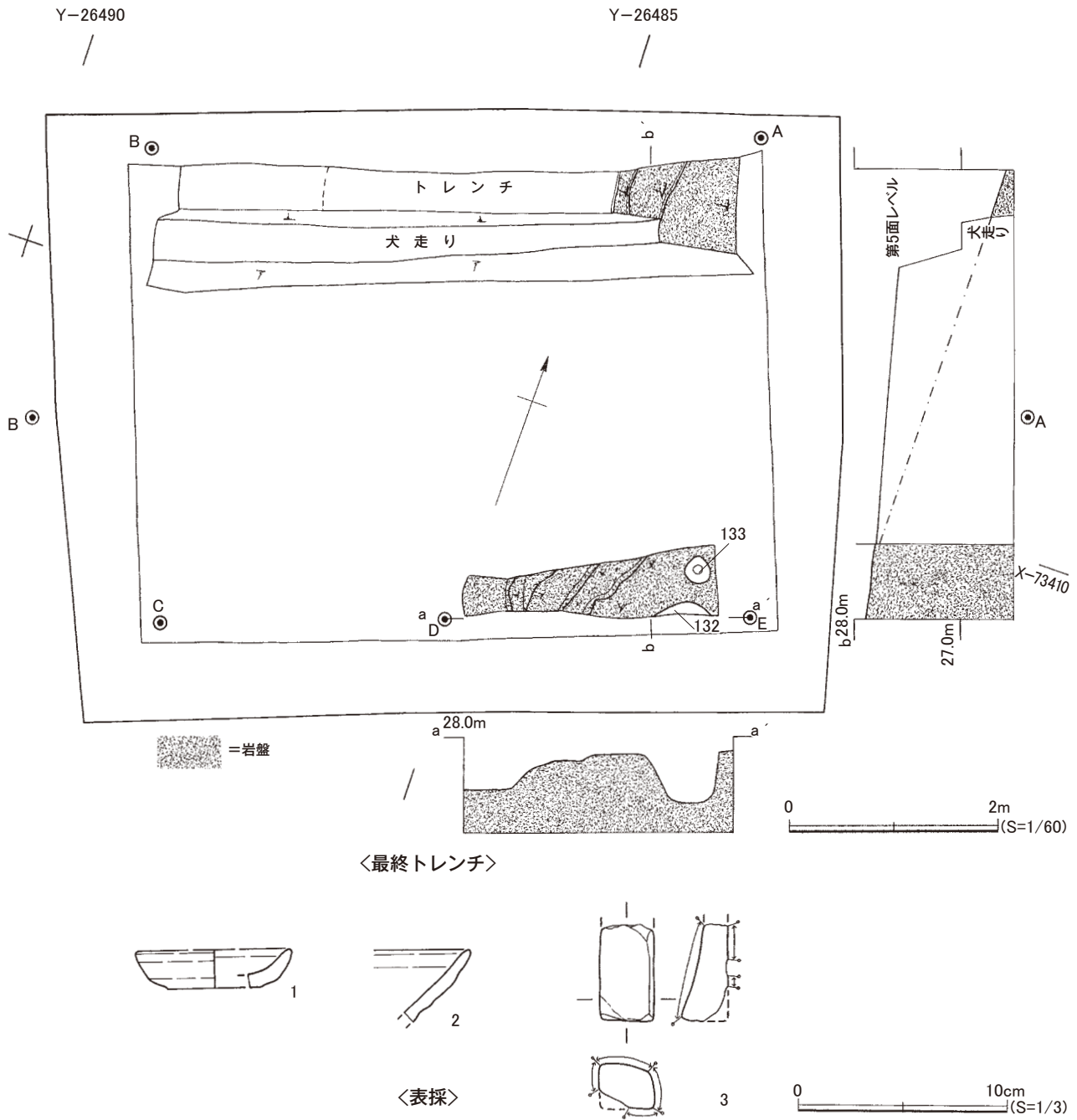


図13 最終トレンチ・表採出土遺物

第四章 調査成果のまとめ

本調査地点は、南側の「藤源治」稜線に沿った北に開口する斜面地形を利用した雛壇状に位置する。同じ雛壇状の造成平場に立地する地点15の地山岩盤検出状況は北西側(海拔29.4～30.0m)から南東側(海拔28.8～29.0m)へ、本調査地点は南東側(海拔27.4～27.9m)から北西側(海拔26.6～26.7m)へ傾斜しており、地形的に窪地状を呈した丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面としていたと思われる(図14参照)。本報告では5枚の生活面としたが、遺物を観察する限りでは面ごとに明確な時期差は見出せず、細かい地業の変化を面として捉えていたことがわかる。地点15が中世遺構面を2枚としていることから、本来は第1面～第2面で1枚、第3～4面で1枚、地山岩盤面に付随する第5～6面で1枚の計3枚の地業面として捉えるべきかもしれない。地点12は掘削深度の制限の為、遺物包含層の確認調査にとどまり、遺構の検出までには至っていない。

本調査地点の遺物出土点数は、接合後の破片数で2,591点(遺物整理箱4箱)を数える。その大半が小破片であるため図示できた報告数は少ない。出土遺物の傾向としては90%強をロクロかわらけが占め、そのほとんどが大型である。第5面遺構109より出土した大型ロクロかわらけが最も古く、13世紀末～14世紀前葉と推定する。遺構密度の高い第3～4面より検出した遺構94土坑の中型・大型ロクロかわらけを主に、常滑窯が概ね第8型式(1350～1450年)、瀬戸窯は第3面構成土より後期Ⅰ～Ⅱ期(1360～1420年)まで下る浅碗が出土している。以上のことから、本遺跡の年代は13世紀末～14世紀前葉頃より岩盤削平の平場造成が開始し、14世紀代～15世紀前半頃にかけて土地利用していたと考えられる。13世紀末の円覚寺創建に伴う旧市街以外地が開発されだした可能性を示唆し、遺物は14世紀初頭～16世紀にかけての多様な種類の遺物が検出するという、中世における「台山遺跡」における他の調査地とも概ね同様な傾向である。古代は遺物のみの検出で、全体の2%程であった。

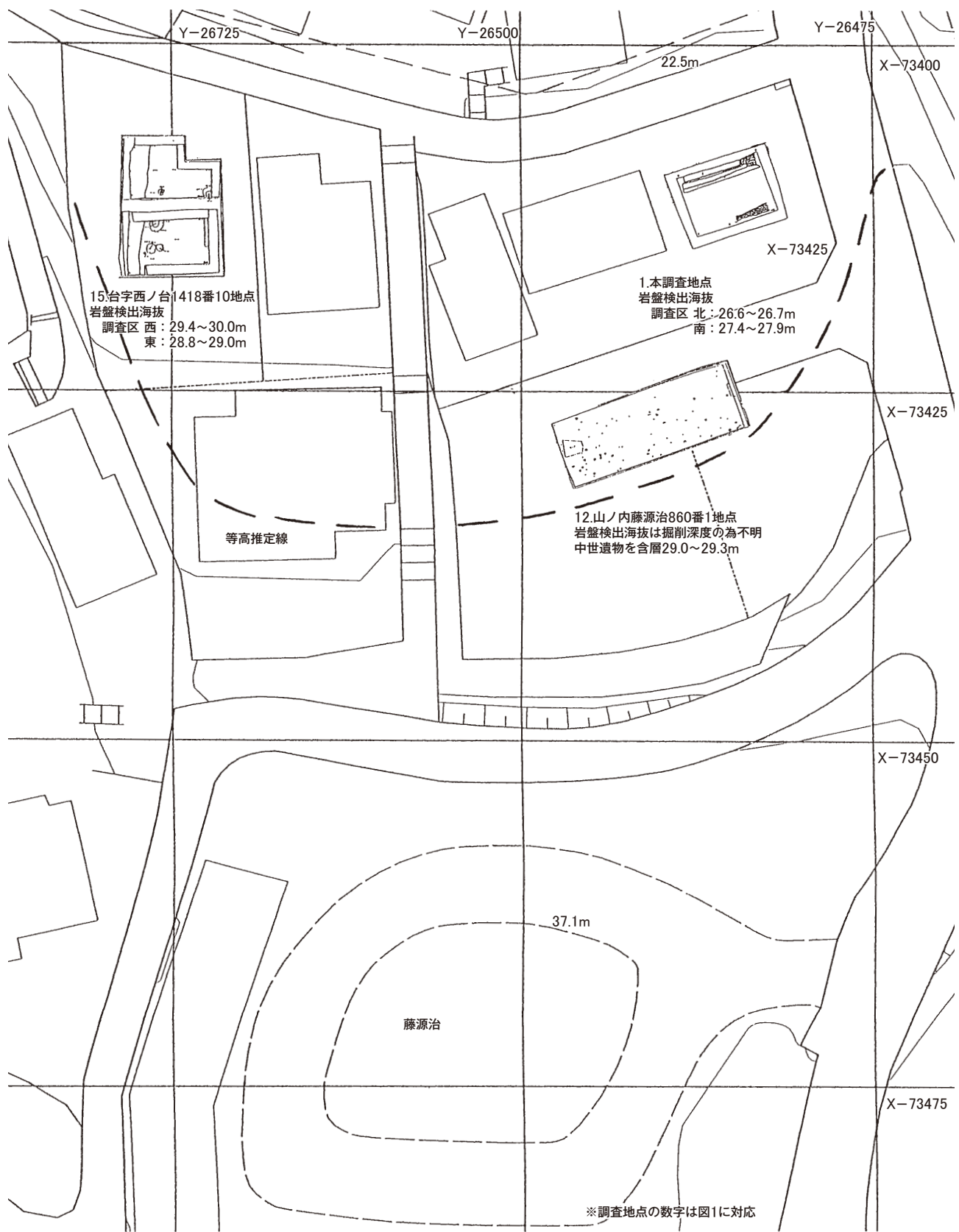


図14 周辺の岩盤検出状況

表2 出土遺物観察表(1)

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ			底径/幅			器高/厚さ			観察内容
			単位: cm / (): 復元値 [] : 残存最大値									
図 4-1	第1面 面上	常滑 甕										a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考 a: 輪積み成形 b: 灰褐色 長石・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 茶褐色 e: 硬質 f: 肩部片 g: 一斜線格子目文のスタンプあり
-2	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類										a: 輪積み成形 b: 灰褐色 長石・石英・白色粒多・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 茶褐色 e: 硬質 f: 口縁部片 g: 中野編年8型式
-3		常滑甕	緑帯幅: 4.0									a: 輪積み成形 b: 暗灰色 長石・石英・白色粒・黒色粒・小石粒・砂粒 (夾雑物多) c: 暗赤褐色 e: 硬質 f: 口縁部小片 g: 中野編年8型式
-4		鉄製品 釘	[5.2]			0.4				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 両端部欠損 g: 錆の付着激しい
-5		鉄製品 釘	[5.7]			0.5				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着激しい
-6		鉄製品 釘	[6.2]			0.5				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着激しい
-7		土師器 甕										a: 輪積み成形 内面は横位の刷毛、外面は斜位の刷毛調整、口唇部はキサミあり b: 橙色 砂粒・雲母・黒色粒多・赤色粒を含む良土 c: 橙色 e: 良好 f: 口縁部少片 g: 弥生末期～古墳前期
図 6-1	第2面 遺構 40	鉄製品 釘	[4.9]			0.4				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着激しい
-2	第2面 遺構 41	鉄製品 釘	[5.3]			0.4				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 頂部欠損 g: 錆の付着激しい
-3	第2面 遺構 46	かわらけ	(7.0)			(5.2)				1.9		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥 岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
-4		鉄製品 釘	[2.7]			0.5				0.2		a: 断面形状に鑄造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着激しい
-5	第2面 遺構 48	常滑 片口鉢Ⅱ類										a: 輪積み成形 b: 灰褐色 長石・石英・白色粒多・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 暗褐色 e: 硬質 f: 口縁部片 g: 中野編年8型式
-6	第2面 遺構 50	鉄製品 釘	[3.5]			0.4				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 先端部欠損 g: 錆の付着激しい
-7	第2面 構成土	かわらけ	7.2			5.3				1.7		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥 岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
-8		かわらけ	(7.0)			(5.0)				1.4		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥 岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
-9		かわらけ	(6.8)			(3.9)				2.0		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥 岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3
-10		かわらけ	(7.4)			(5.0)				2.0		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・泥 岩粒・粉質気味やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
-11		かわらけ	(11.7)			(6.9)				3.5		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥 岩粒・粉質気味やや良土 c: 暗黄褐色 e: 良好 f: 1/6 g: 破片後に再火により黒く変色
-12		かわらけ	(12.4)			(7.8)				3.0		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨 芯多・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄褐色 e: 良好 f: 1/5
-13		かわらけ	(13.2)			(7.7)				3.1		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿 骨芯・泥岩粒・粉質気味やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4
-14		青磁 鎗蓮弁文碗	(13.1)			(4.2)				5.4		a: ロクロ 削り出し高台 b: 灰白色 黒色粒を含む精良緻密土 d: 内面～高台畚付にか けて不透明な緑灰色釉をやや厚く施釉 e: 堅緻 f: 口縁小片～底部1/3 g: 大宰府編年 龍泉窯系統Ⅱ-b類
-15		白磁 碗	高台径 (4.6)									a: ロクロ 削り出し高台 内底面に削り工具の筋目を残す b: 灰白色 黒色粒を含む精 良緻密土 d: 内面～体部外面下半まで不透明な淡青灰色釉を薄く施釉 e: 堅緻 f: 高 台部1/2 g: 大宰府編年白磁碗Ⅱ類か
-16		青白磁 小皿										a: ロクロ b: 白色 精良緻密土 d: 半透明な淡青灰色釉を薄く施釉 気泡あり f: 口 縁部小片 g: 内面に花卉を配する
-17		瀬戸 入子				(4.0)						a: ロクロ 底部糸切り痕 b: 淡黄灰色 微砂・良土 c: 淡黄灰色 d: 内面～口唇部に 自然降灰 e: 硬質 f: 体部～底部1/2 g: 中期
-18		瀬戸 卸皿										a: ロクロ 底部糸切り痕 b: 淡黄色 微砂・白色粒 c: 淡黄色 d: 淡灰緑色釉を薄 くハケ塗り 外底部露胎 e: やや軟質 f: 底部1/4 g: 中期前半 卸目が深くてキツイ、 未使用
-19		常滑 甕	緑帯幅: 4.0									a: 輪積み成形 b: 暗灰色 長石多・石英・白色粒多・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 暗赤褐色 e: 硬質 f: 口縁部片 g: 中野編年8型式
-20		常滑転用 研磨製品										a: 所謂すり常滑 輪積み成形 b: 暗灰色 長石・石英・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 褐色 e: 硬質 f: 甕体部片の転用
-21		金属製品 銅銭	外径2.4 内径2.0 孔径0.6									g: 嘉祐通寶 初鑄: 北宋1056年 楷書
-22		石製品 砥石・仕上砥	[3.3]			[2.5]				[0.5]		a: 砥面は表面のみ、裏面は剥離、側面は切り出し痕 b: 凝灰岩 c: 薄桃色 g: 鳴滝産 (菖 蒲ヶ谷?)
-23		石製品 火打石	[2.2]			[1.7]				[1.6]		a: チャート b: 石英 砂粒 c: 乳白色～暗灰色 g: 二次焼成のため、全体的に黒く変 色
図 8-1	第3面 遺構 58	かわらけ転用 円盤状土製品	径 2.7 × 厚さ 0.7 ~ 0.8									a: ロクロ成型のかわらけ底部を転用し、円盤状に削りを施す b: 微砂・雲母・黒色粒・ 赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 淡褐色 e: 良好 f: 完形 g: 内面「×」 印の刻み
-2	第3面 構成土	かわらけ	(7.2)			(5.2)				1.85		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母多・黒色粒・赤色粒・海 綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
-3		かわらけ	(8.0)			(4.6)				2.0		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b: 微砂・雲母多・黒色粒・赤色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/5 g: 外面部分的に黒く変色
-4		かわらけ	7.4			4.3				2.5		a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色 粒・やや粗土 c: 橙色 e: やや不良 f: 4/5 g: 外面全体的に黒く変色
-5		瀬戸 浅碗										a: ロクロ b: 淡黄灰色 微砂・白色粒・やや粗土 d: 灰緑色 (灰釉) 内面～外面体部 中位までツケ掛け・気泡多 e: やや軟質 f: 口縁部小片 (傾きに不安あり) g: 後期Ⅰ ～Ⅱ期
-6		常滑 片口鉢Ⅰ類										a: 輪積み成形 b: 灰色 長石・石英・白色粒・黒色粒・小石粒多・砂粒 c: 灰色 e: 良好・硬質 f: 口縁部片 g: 中野編年6a型式
-7		鉄製品 釘	[6.3]			[0.6]				0.3		a: 断面形状に鑄造 f: 頭頂部欠損 g: 錆の付着激しい
-8		鉄製品 釘	5.3			0.8				0.6		a: 頭部は折り曲げ、断面は方形に鑄造 f: 完形 g: 錆の付着激しい

表2 出土遺物観察表(2)

図版番号	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm / (): 復元値 [] : 残存最大値			
図 8-9	第3面 構成土	石製品 砥石・住上砥	[5.9]	3.3	[0.8]	a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考 a: 砥面は表面のみ、裏面は剥離、小口・側面は切り出し痕 b: 凝灰岩 c: 黄白色 g: 鳴滝産(中山?)
-10		石製品 砥石・住上砥	[5.1]	[3.2]	[0.7]	a: 砥面は表面のみ、裏面は剥離、側面は切り出し痕 b: 凝灰岩 c: 薄桃色 g: 鳴滝産(蒲葺ヶ谷?)
図 9-1	第3面 遺構 94	かわらけ	12.1	7.2	3.0	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒多・粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 出土位置①
-2		かわらけ	(12.6)	7.6	3.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 内外面共に部分的に黒く変色 出土位置②
-3		かわらけ	12.2	7.4	3.3	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒・粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 内外面口唇部に黒く変色 出土位置③
-4		かわらけ	12.3	7.3	3.2	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒多・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 内外面体部に黒く変色 出土位置④
-5		かわらけ	12.5	7.4	3.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒多・やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 完形 g: 口唇部に押しし痕あり 出土位置⑤
-6		かわらけ	12.0	7.	3.0	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒・粉質気味やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 部分的に黒く変色 出土位置⑥
-7		かわらけ	12.6	7.6	3.5	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ弱(ロクロ痕残る) b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面体部に黒く変色 出土位置⑦
-8		かわらけ	12.1	7.5	3.1	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面共に部分的に黒く変色 出土位置⑧
-9		かわらけ	12.1	8.0	3.1	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: 3/4 g: 内外面口縁部に黒く変色 出土位置⑨
-10		かわらけ	12.4	7.4	2.9	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ弱(ロクロ目痕残る) b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面口縁部に黒く変色 出土位置⑨
-11		かわらけ	12.2	8.0	3.9	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面口縁部に部分的に黒く変色 出土位置⑨
-12		かわらけ	12.4	7.4	3.2	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ弱(ロクロ痕残る) b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 出土位置⑩
-13		かわらけ	(13.0)	7.2	(3.4)	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: 1/2 g: 出土位置⑩
-14		かわらけ	11.2	6.0	3.1	a: 中型 ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・粉質気味やや良土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5 g: 内外面体部に黒く変色 出土位置⑫
-15		かわらけ	12.3	7.6	3.13	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 出土位置⑬
-16		かわらけ	12.6	7.7	3.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面体部部分的に黒く変色 出土位置⑭
-17		かわらけ	12.4	7.5	3.1	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面部分的に黒く変色 出土位置⑭
-18		かわらけ	13.0	8.0	3.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒多・白色粒・やや良土 c: 橙色 e: 良好 f: 4/5 g: 出土位置⑮
-19		かわらけ	12.2	7.4	3.1	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・泥岩粒・小石粒・粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内面土中の鉄分付着 出土位置⑯
-20		かわらけ	12.4	7.4	3.3	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・泥岩粒多・小石粒・粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 出土位置⑮
-21		かわらけ	11.8	7.0	3.0	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5 g: 内外面口縁部に黒く変色 出土位置⑯
-22		かわらけ	12.3	7.1	3.2	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5 g: 出土位置⑯
-23		かわらけ	12.22	7.22	3.21	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内外面体部に黒く変色 出土位置⑯
-24		かわらけ	12.2	7.6	3.5	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ弱(ロクロ痕残る) b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 4/5 g: 出土位置⑰・⑱
-25		かわらけ	12.2	7.4	3.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒多・赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 出土位置⑰・⑱
図 11-1	第4面 遺構 78	白磁 口元皿	(10.6)	(5.8)	3.2	a: ロクロ b: 灰白色 黒色粒 精良緻密土 d: 灰白色 不透明釉をやや厚め 気泡わずかにあり 口縁端部・外底部は施釉後に掻き取り(部分的に釉付着) e: 堅緻 f: 1/2 g: 大宰府編年白磁ⅢⅣ類
-2	第4面 遺構 86	かわらけ	12.0	7.2	2.9	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4
-3	第4面 遺構 100	石製品 砥石・中砥	[7.2]	1.9~3.3	1.3~2.7	a: 砥面は4面使用 b: 凝灰岩 c: 灰黒色(二次焼成) g: 産地不明
-4	第4面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.4	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・黒色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 1/4 g: 底部糸切の痕跡が体部中位から入る

表2 出土遺物観察表 (3)

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm / (): 復元値 [] : 残存最大値			
図 11-5	第4面 構成土	かわらけ	12.2	6.6	3.0	a: 成形・調整 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 遺存値 g: 備考
-6		かわらけ	12.3	7.2	3.0	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明・内底ナデ b: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 暗黄橙色 e: 良好 f: 1/5 g: 内外面体部黒く変色
-7		瀬戸 輪花型入子	4.0	2.6	1.1	a: ロクロ・外底部糸切り痕 b: 淡灰色 微砂・良土 c: 淡黄灰色 d: 口唇部～内底面に自然降灰 e: やや軟質 f: 完形 g: ヘラ押しで八弁輪花状を呈する 中期前半
-8		鉄製品 釘	9.4	0.8 (頭1.2)	0.5	a: 頭部は折り曲げ、断面は方形に鑄造 f: 完形 g: 錆の付着激しい
-9		石製品 砥石・仕上砥	[4.2]	3.0	0.6	a: 砥面は表面1面のみ、小口・側面は切り出し痕 b: 凝灰岩 c: 緑味かかる淡黄白色 g: 鳴滝産 (中山?)
-10		石製品 砥石・仕上砥	[5.5]	3.4	1.1	a: 砥面は表裏2面、側面・小口は切り出し痕 b: 凝灰岩 c: 灰桃色 e: 軟質 g: 鳴滝産 (菖蒲ヶ谷?)
-11		石製品 砥石・中砥	[7.7]	3.4	2.8	a: 砥面は4面使用 b: 凝灰岩 c: 赤味を帯びた黄白色 (マーブル調で表面に黒い斑点あり) e: 軟質 g: 天草産
図 12-1	第5面 遺構 109	かわらけ	12.4	8.0	3.3	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b: 微砂・雲母・黒色粒・赤色粒多・海・白色粒・綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
図 13-1	表土 採集	かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.8	a: ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 淡橙色 e: 良好 f: 1/5
-2		瀬戸 平碗				a: ロクロ b: 淡灰黄色 微砂・黒色粒・小石粒 d: 淡灰緑色 (灰釉) 漬け掛け e: 良好・やや軟質 f: 口縁部片 g: 後期前半
-3		石製品 砥石・中砥	[4.5]	2.6	1.2 ~ 1.9	a: 砥面は4面使用 b: 凝灰岩 c: 黄色味かかる白色 表面に鉄サビが浮き出る e: やや軟質 g: 上野産か?

表3 遺物破片数表

		第1面 面上	第1面 遺構	第1面 構成土	第2面 面上	第2面 遺構	第2面 構成土	第3面 面上	第3面 遺構	第3面 構成土	第4面 遺構	第4面 構成土	第5面 遺構	表土 攪乱他	合計	%
かわらけ	糸・大	12	2	695	56	176	650	26	136	430	38	3	12	66	2302	88.85
	糸・小			20		7	22	6	3	24	1		1	3	87	3.36
舶載磁器	青磁	蓮弁文碗					5		1						6	0.23
		無文碗			1	1				1					3	0.12
	白磁	壺						1							1	0.04
		口元碗					1								1	0.04
		口元皿			1						1	1			3	0.12
		不明			1			1			1				3	0.12
	青白磁	皿					1								1	0.04
国産陶器	瀬戸	入子			1		1					1			3	0.12
		卸皿						1							1	0.04
		平碗												1	1	0.04
		浅碗			1					1					2	0.08
	常滑	甕	1		8			11			5	1		4	30	1.16
		片口鉢Ⅰ類									1				1	0.04
		片口鉢Ⅱ類			3		1	1							5	0.19
		山茶碗								1					1	0.04
		転用研磨製品 (すり常)						1							1	0.04
		器種不明			1										1	0.04
亀山	甕			1									1	2	0.08	
土器・ 土製品類	火鉢	土器質			1					1					2	0.08
		瓦質						2							2	0.08
	黒縁椀			2										2	0.08	
	円盤(線刻)								1					1	0.04	
石製品	砥石	仕上砥			3		1			2		2			8	0.31
		中砥			1					1	1	1		1	5	0.19
	その他	火打ち石						1							1	0.04
		磨り石			1										1	0.04
		玉石(使用痕有)						1							1	0.04
		輝緑凝灰岩			1										1	0.04
軽石									1				1	0.04		
金属製品	鉄釘			19	3	7	7		3	7	2	2		50	1.93	
	銅銭						1							1	0.04	
	不明								1					1	0.04	
自然遺物	獣骨						2		2					4	0.15	
	種子						1		1					2	0.08	
古代遺物	土師器	甕	6	1	12	2	2		4	3		2	1		33	1.27
		台付甕			1										1	0.04
		壺			2			5							7	0.27
		杯	1		2			1		1	2				7	0.27
		埴			1										1	0.04
		高坏			1		1								2	0.08
		不明								1					1	0.04
	灰釉陶器	瓶						1							1	0.04
合計	20	3	780	62	193	720	32	155	481	44	11	14	76	2591	100.00	
%	0.77	0.12	30.10	2.39	7.45	27.79	1.24	5.98	18.56	1.70	0.42	0.54	2.93	100.00		

表4 遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1	1	24	17	18	2	42	22	18	10	4	85	46	(18)	16
1	2	24	19	21	2	43	48	42	19	4	86	50	52	19
1	3	26	(18)	6	2	44	33	(18)	30	4	87	27	26	26
1	4	43	41	13	2	45	26	25	13	4	88	22	22	7
1	5	26	(15)	11	2	46	200	156	17	4	89	23	20	10
1	6	32	32	12	2	47	34	33	38	4	91	30	27	12
1	7	40	34	12	2	48	35	24	24	4	92	(129)	(58)	10
1	8	38	35	12	2	49	32	27	9	4	93	28	22	9
1	9	52	45	17	2	50	104	82	17	4	95	44	(25)	12
1	10	24	17	13	3	52	27	23	15	4	98	24	(15)	25
1	11	50	38	12	3	53	17	17	9	4	99	43	39	12
1	12	26	(18)	6	3	54	38	35	40	4	100	101	73	25
1	13	37	(32)	13	3	55	40	(24)	17	4	101	37	31	12
1	14	68	57	13	3	56	61	43	8	4	102	(22)	(15)	11
1	15	18	(15)	12	3	57	(41)	41	34	4	103	23	(14)	12
1	16	35	(19)	9	3	58	(40)	34	38	4	127	32	(15)	39
1	17	28	21	13	3	59	33	(23)	10	4	146	45	(10)	28
1	18	32	27	13	3	60	44	35	17	4	147	26	16	15
1	19	29	(18)	6	3	61	35	29	12	4	150	(32)	30	30
1	20	24	15	11	3	62	33	33	27	4	147	25	16	16
1	21	24	(16)	10	3	63	30	25	13	4	148	25	(22)	8
1	22	32	28	8	3	64	33	(27)	10	4	149	23	20	7
1	23	24	15	6	3	65	40	32	20	4	150	29	(10)	6
1	24	16	15	13	3	66	32	25	16	5	105	23	24	25
1	25	21	20	12	3	67	(32)	24	21	5	106	16	15	18
1	26	66	49	7	3	68	33	27	12	5	107	27	26	31
1	27	(40)	34	16	3	69	(27)	34	11	5	108	24	23	19
1	28	67	47	17	3	70	56	48	47	5	109	49	44	36
1	29	25	21	15	3	71	97	90	30	5	110	33	(15)	40
1	30	29	27	11	3	90	66	58	17	5	111	23	21	24
1	31	20	15	10	3	94	67	52	17	5	112	16	15	25
1	32	50	35	13	3	96	32	23	9	5	113	28	27	26
1	33	30	27	11	3	97	29	29	8	5	114	27	(17)	12
1	34	40	27	17	3	104	(193)	60	20	5	115	32	(24)	15
1	35	15	15	5	3	142	(53)	40	18	5	116	31	(21)	16
1	36	40	(23)	23	3	143	10	8	17	5	117	42	(26)	25
1	37	29	25	10	3	144	(23)	27	11	5	118	33	32	28
1	38	15	15	12	3	145	36	27	6	5	119	42	32	25
1	39	47	(47)	10	4	51	(23)	25	17	5	120	31	25	24
1	132	10	12	6	4	72	36	28	14	5	121	42	37	31
1	133	16	(12)	4	4	73	48	43	11	5	122	18	(8)	15
1	134	12	11	10	4	74	30	20	22	5	123	28	27	41
1	135	47	(47)	10	4	75	33	28	20	5	124	32	27	41
1	136	13	(10)	14	4	76	25	21	6	5	125	32	31	19
1	137	18	14	6	4	77	16	14	9	5	126	37	33	18
1	138	34	30	7	4	78	48	48	24	5	128	32	30	23
1	139	22	15	24	4	79	39	28	17	5	129	56	(16)	24
1	140	19	16	12	4	80	17	16	5	5	130	30	29	18
1	141	25	(20)	11	4	81	25	24	16	5	131	27	(17)	12
2	40	52	50	15	4	82	39	36	58	6	132	70	(10)	46
2	41	81	(47)	56	4	84	68	61	16	6	133	25	25	10

※調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を（ ）で表記した。

(単位：cm)



◁ 1. 第1面全景 (南から)



2. 第2面全景 (南から) ▷



◁ 3. 第3面全景 (南から)



△ 1. 第4面全景(南から)



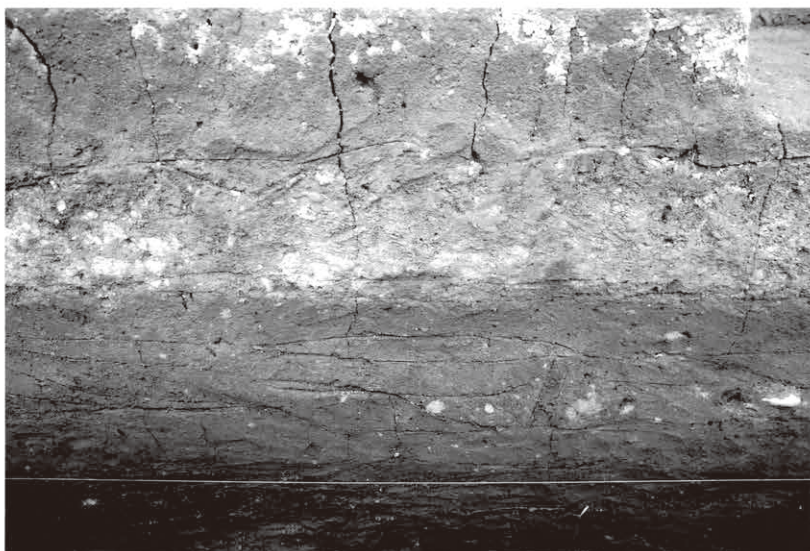
△ 2. 第5面全景(東から)



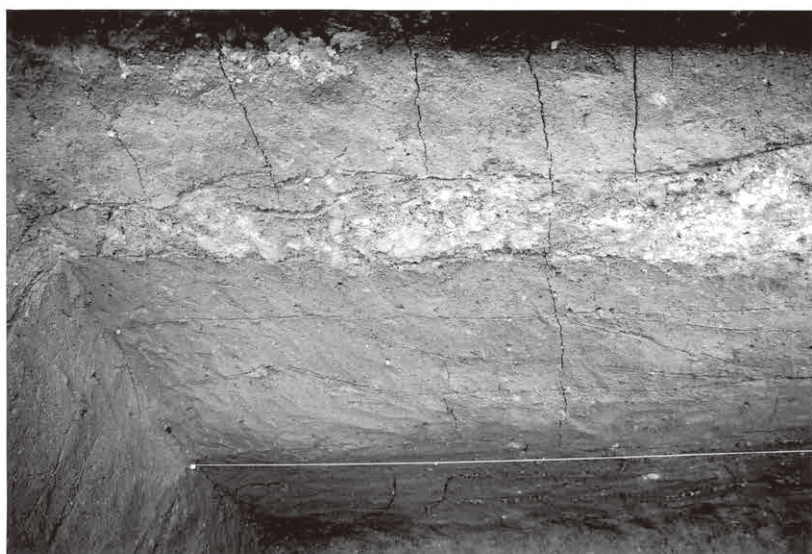
△ 3. 最終トレンチ(東から)



◁ 1. 調査区西壁①(東から)



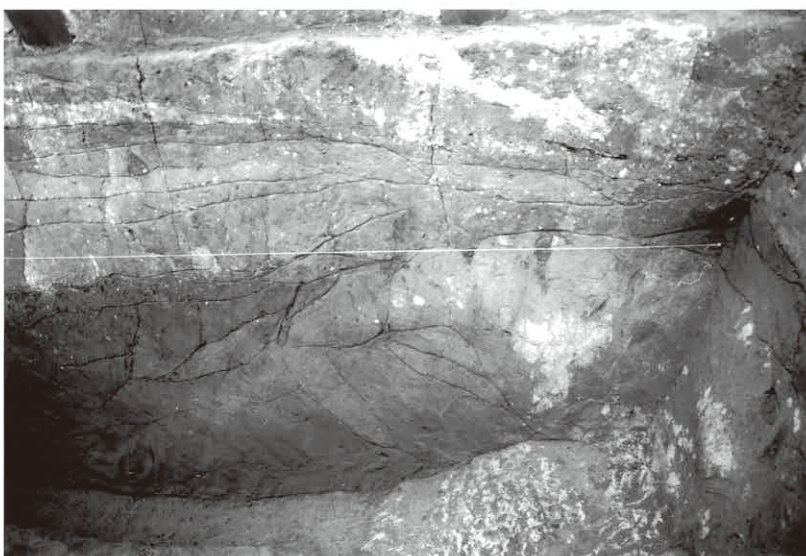
2. 調査区西壁②(東から) ▷



◁ 3. 調査区西壁③(東から)



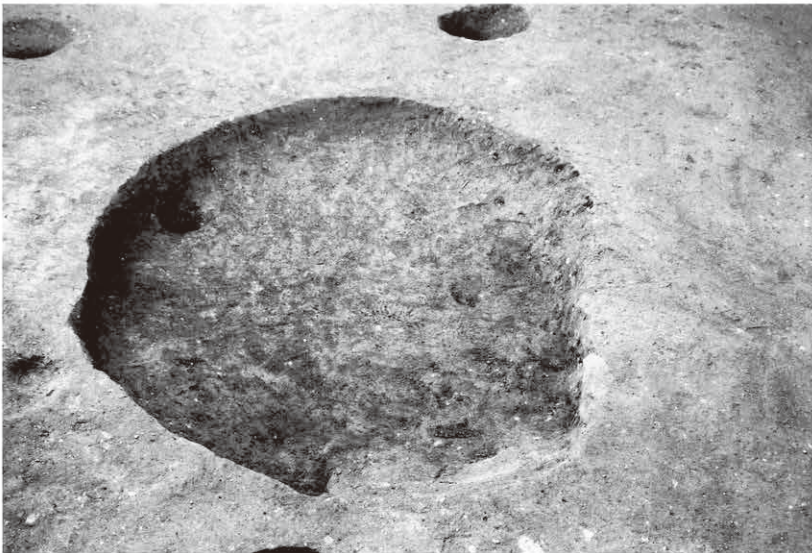
◁ 1. 調査区西壁④(東から)



2. 調査区北壁①(南から) ▷



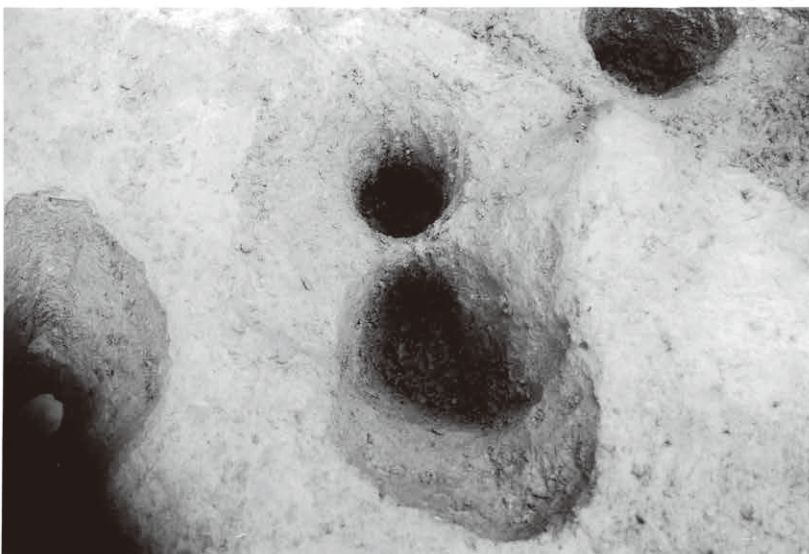
◁ 3. 調査区北壁②(南から)



◁ 1. 第2面遺構46(南から)



2. 第3面遺構104(東から) ▷



◁ 3. 第3面遺構57・58(北から)



◁ 1. 第3面遺構94
遺物出土状況(北から)



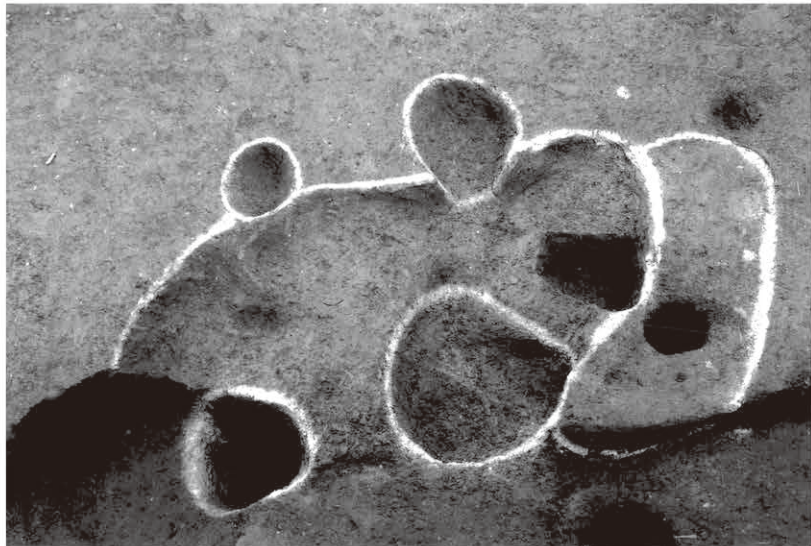
2. 第3面遺構94
遺物出土状況(西から) ▷



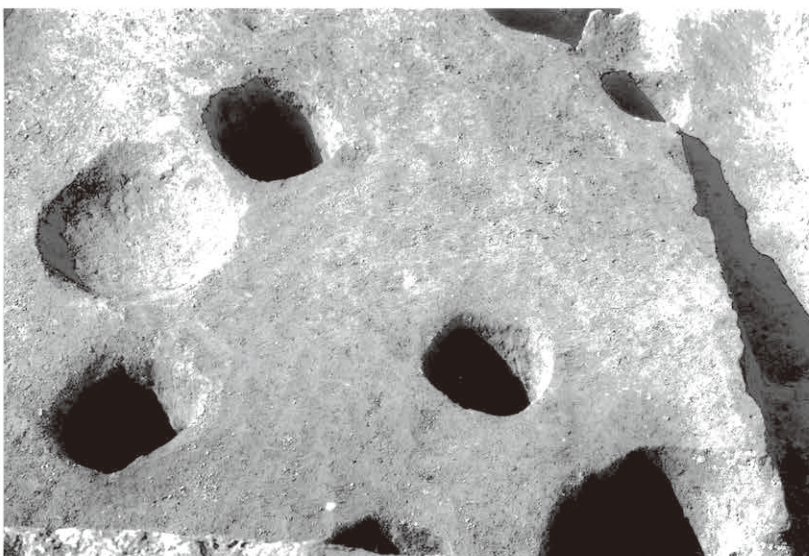
◁ 3. 第3面北西隅遺構群(南から)



△ 1. 第4面遺構 73・74・78・80
81・82・150 (南から)

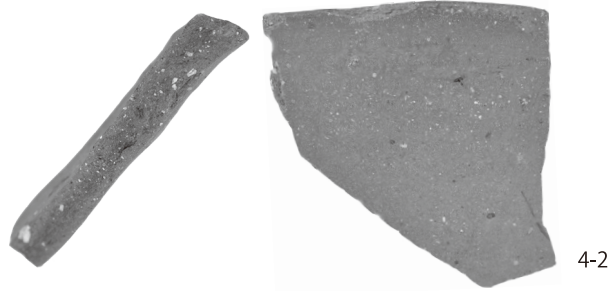
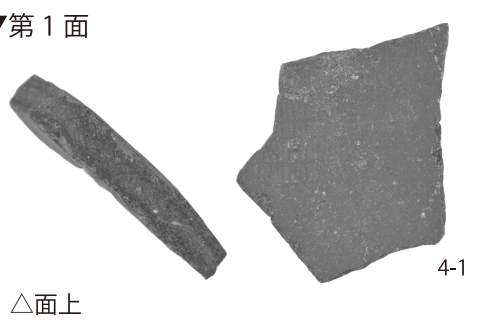


2. 第4面遺構 88・91・92・99
98・100・147 (北から) ▷



△ 3. 第5面遺構 109・110
123・124 (東から)

▼第1面



△面上



4-3



4-7



4-5

△構成土

▼第2面



6-1



6-3



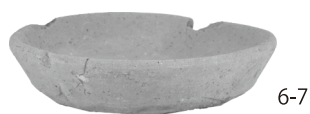
6-5



△遺構 48

△遺構 40

△遺構 46



6-7



6-9



6-13



6-14



6-15



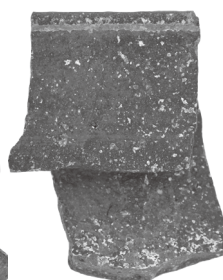
6-18



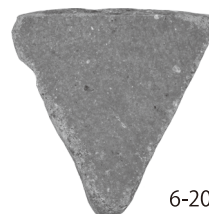
6-17



6-19



6-16



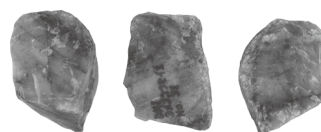
6-20



6-21



6-22



6-23

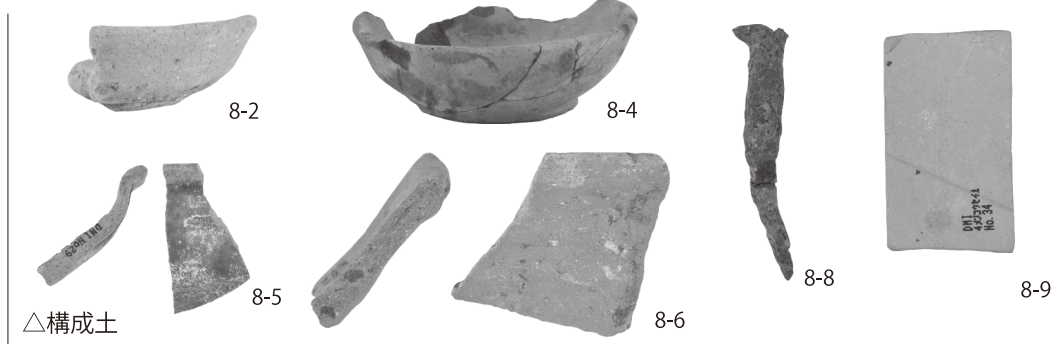
△構成土

図版9

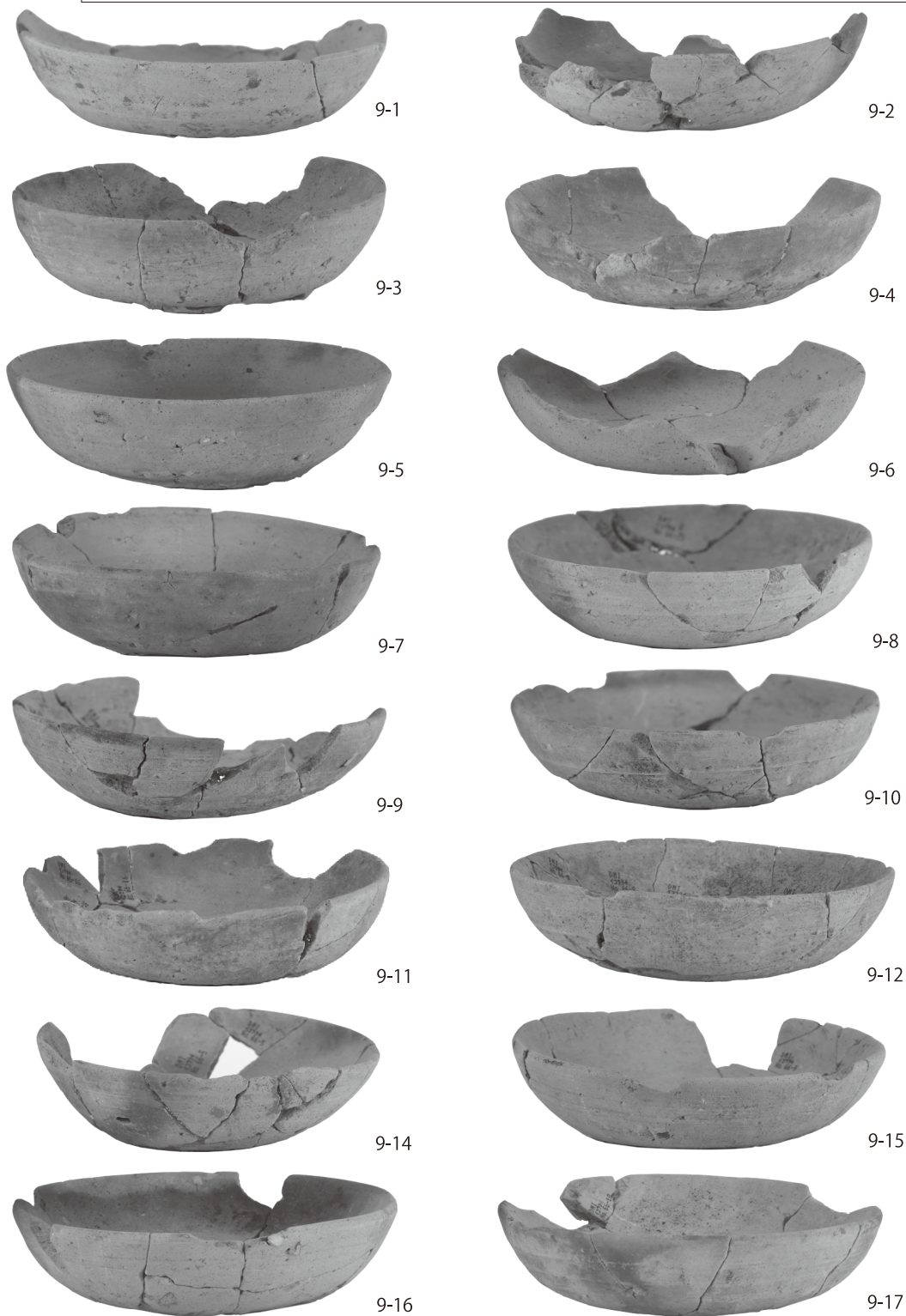
▼第3面



△遺構 58



△構成土



△遺構 94

▼第 3 面



9-18



9-19



9-20



9-21



9-22



9-23



9-24



9-25

△遺構 94

▼第 4 面



△遺構 78

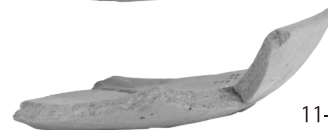


11-3

△遺構 100



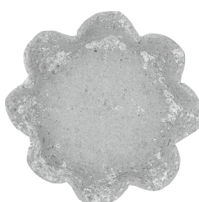
11-4



11-6



11-10



11-7

△構成土



11-8



11-11

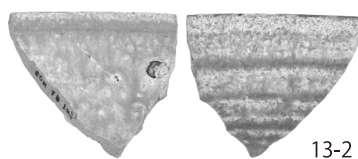
▼第 5 面



12-1

△遺構 109

▼表採



13-2



13-3

東勝寺跡 (No.246)

小町三丁目529番1、4、5地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市小町三丁目529番1、4、5において実施した、東勝寺跡（鎌倉市No.246）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成27年9月3日から同年12月25日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、83.01㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。
調査指導 永田史子（鎌倉市文化財課）
調査担当者 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員 吉田桂子、小野夏菜、菅野智子、佐藤千尋（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作業員 安達越郎、安藤宗幸、江津兵太、遠藤雅廣、久島忠敬、永野幹晴、高柳雅一、寺尾征夫、岡 利文、西澤靖明、二宮久友
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
整理作業参加者 押木弘己、吉田桂子、正木恵子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「T S T 1 5 0 3」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系:東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡X V—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会 2000
◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	259
第1節 遺跡の立地と沿革	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過	261
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層	262
第四章 発見された遺構と遺物	265
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第五章 調査成果のまとめ	274

挿図目次

図1 周辺の発掘調査地点.....	260	図8 3面 岩盤面の遺構.....	269
図2 調査区配置図.....	262	図9 3面全体図(2).....	270
図3 土層断面図.....	263	図10 I区出土遺物(1).....	271
図4 1面全体図.....	265	図11 I区出土遺物(2).....	272
図5 2面全体図.....	266	図12 I区出土遺物(3).....	273
図6 2面遺構2 遺物出土状況.....	267	図13 I区出土遺物(4).....	274
図7 3面全体図(1).....	268	図14 II区出土遺物.....	275

表目次

表1 東勝寺跡(No.246)の調査地点一覧.....	261	表3 出土遺物観察表.....	282
表2 出土遺物カウント・計量表.....	276		

図版目次

図版1.....	287	6. I区2面 遺構2上層 かわらけ出土状況 (東から)
1. 現地調査前(北東から)		7. I区2面 遺構2中層 かわらけ出土状況 (北から)
2. I区 表土掘削状況(南東から)		8. 同上 近景(南から)
3. I区1面 攪乱除去後(北から)		
4. I区1面 検出状況(東から)		
5. I区2面 検出状況(北から)		

図版 2	288	図版 5	291
1. I 区 2面 遺構 2 南壁面 (北から)		1. I 区 岩盤斜面上堆積 (南西から)	
2. I 区 2面 遺構 3 断面 (南から)		2. I 区 岩盤斜面上堆積 (北西から)	
3. I 区 2面 遺構 3 (南から)		3. 調査地点近景 (北から)	
4. I 区 2面 調査風景 (北西から)		4. I 区調査終了後 空撮作業風景 (東から)	
5. I 区 2面 全景 (北から)		5. I 区調査完了時 上空撮影 (上が北)	
6. I 区 2面 北半部 (南西から)		図版 6	292
7. I 区 2面下 断面 (南西から)		1. II 区 表土掘削状況 (北西から)	
8. I 区 3面 遺構 8 上 かわらけ出土状況 (南東から)		2. II 区 1面 全景 (南から)	
図版 3	289	3. II 区 2面 全景 (南から)	
1. I 区 3面 清掃作業 (南東から)		4. II 区 2面下 全景① (南から)	
2. I 区 3面 全景 (北から)		5. II 区 2面下 全景② (南から)	
3. I 区 3面 全景 (西から)		6. II 区 2面下 琥珀片出土状況 全景 (西から)	
4. I 区 3面 遺構 4・5 (北東から)		7. II 区 3面下 最終全景 (南から)	
5. I 区 3面 遺構 4 断面 (北から)		8. II 区 3面下 最下層 土層断面 (南から)	
6. I 区 3面 遺構 4 (北西から)		図版 7	293
7. I 区 3面 遺構 5 (南西から)		1. I 区 3面下 最下層 土層断面 (南西から)	
8. I 区 3面 岩盤斜面 (北西から)		2. II 区 3面下 かわらけ出土状況 (東から)	
図版 4	290	3. 調査地～鶴岡八幡宮を望む (南上空から)	
1. I 区 3面 遺構 6～8 (北東から)		図版 8	I 区 出土遺物 (1) 294
2. I 区 3面 遺構 9 断面 (西から)		図版 9	I 区 出土遺物 (2) 295
3. I 区 3面 岩盤上階段状痕跡 (南から)		図版 10	I・II 区 出土遺物 296
4. I 区 北壁 土層断面 (南から)			
5. I 区 北壁断面 (2面遺構 2 の落ち込み:北から)			
6. I 区 南壁 土層断面 (北から)			
7. I 区 東壁 土層断面 (西から)			
8. I 区 岩盤斜面上堆積確認トレンチ (東から)			

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の立地と沿革

青龍山東勝寺は臨濟宗寺院で、鎌倉旧市街北東部の葛西ヶ谷に所在する。北条泰時が嘉禎三年（1237）に母の追善のため建立した。開山は寿福寺2世などを務めた退耕行勇で、彼は仁治二年（1241）に当寺で没している。元亨三年（1323）の北条貞時13回忌供養では当寺から53人の供僧が参列したというから、この段階には一定規模の伽藍を誇っていたと推察される。元弘三年（1333）五月二十二日、新田義貞の鎌倉攻めに抗しきれず得宗北条高時は一族とともに東勝寺で自害して果てた。鎌倉幕府の滅亡である。

葛西ヶ谷は衣張山から西に延びる丘陵の突端部にあり、これより西は滑川を隔てて鎌倉の中央平野に移行する。南西・中央・北東の大きく三支谷からなり、中央支谷の最奥部斜面地には鎌倉幕府滅亡時の伝承を残す「腹切やぐら」が所在する。今回の調査地点は北東支谷でも最も標高の高い北端部に所在し、現況では標高25m強の宅地平坦面となっている。この平坦面から西方眼下には、高時邸跡地に後醍醐天皇が建立したと伝える宝戒寺を望むことができる。

第2節 周辺の調査成果

本遺跡では、これまでに確認調査も含め12回の発掘調査が実施されている（平成29年12月現在）。

中央支谷および北東支谷では、第1～4次調査において複数のトレンチが設定されている。中央支谷南部の第1・2次調査では、凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）を敷き並べた遺構が数多く確認されている。谷戸奥に向かう坂道やこれに付随する石垣、門に推定されるカギ形の区画施設、小堂基壇などで、小堂の建築以前には厚い炭層の検出から大規模な火災があったことが想定され、『太平記』に語られた高時自害後の東勝寺焼失との関連も指摘されている。第3・4次調査では、「腹切やぐら」前面の平場が調査され、やはり元弘三年の火災に推定される炭層が検出され、この時に焼失したと思しき梁間4間×桁行7間以上の総柱式掘立柱建物が検出されている。掘立柱である点から仏堂の施設ではなく住宅的建物で、しかも規模が大きいことから方丈の可能性が高いと報告されている。これら一連の考古学成果を受け、平成11年（1999）には中央支谷を中心に国史跡に指定されている。

北東支谷・南東支谷での調査は断片的であり、各々の成果を直接結び付けることは難しいが、概ね13世紀後葉～14世紀前・中葉に活発な土地利用の痕が窺われ、地点によっては15世紀後葉における利用痕跡も確認されている。創建期とされる13世紀前半（第2四半期）に遡る遺構・遺物はきわめて希薄であり、この段階の土地利用は葛西ヶ谷のうちでも限定的であったと思われる。第3・4次調査で検出された方丈的建物の下層については遺構保存のために調査が及んでいないが、これより約40cm下位で中世基盤層が確認されており、この間に鎌倉末期以前の営為痕跡を想定できる。

本調査地点の東側隣接地では、宅地造成工事に伴う調査が平成24年に実施されている（図2-10）。ここでは岩盤を削平した平坦面が検出され、溝や井戸、ピットなどの中世遺構が確認されている。明確な建物の確認には及んでいないが、溝で区画された小規模建物の存在が想定され、寺域の塔頭のような性格が指摘されている。また出土量は少ないものの手づくねかわらけも散見されており、13世紀前半に土地利用が始まったことが考えられている。

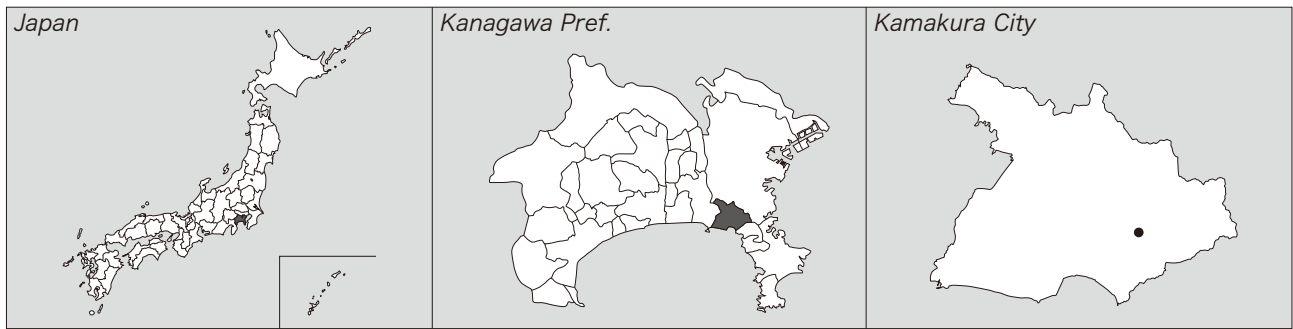


図1 周辺の発掘調査地点（鎌倉市発行 1: 2,500都市計画基本図を使用・改変）

表1 東勝寺跡 (No.246) の調査地点一覧

No.は図1に対応

No.	地番	調査年度	面積 (㎡)	所収報告書(正式報告のみ)
1・2	小町三丁目497番	1975・76年度	550	『東勝寺跡発掘調査報告書』東勝寺遺跡発掘調査団編・鎌倉市教育委員会 赤星直忠ほか1983
3・4	小町三丁目506番・523番	1996・97年度	432	『東勝寺跡一第3・4次遺構確認調査報告書』鎌倉市教育委員会 菊川英政ほか1998
5	小町三丁目468番2外	1999年度	326	『東勝寺跡発掘調査報告書』東勝寺跡発掘調査団・宮田事務所 宮田 眞・滝澤晶子2000
6	小町三丁目523番14	1999年度	90	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫ほか2001
7	小町三丁目468番10	2000年度	27	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 宮田 眞2002
8	小町三丁目538番8	2004年度	43	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志2011
9	小町三丁目538番3	2004年度	65	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志2011
10	小町三丁目529番6外	2010年度	241	『東勝寺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄2015
11	小町三丁目529番1外	2015年度	83	本報告
12	小町三丁目485番5外	2016年度	108	未報告
13	小町三丁目467番6	2017年度	460	未報告

第二章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、個人住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的に実施した。住宅基礎下の地盤は最大深度6.89mの柱状改良工事を施す計画であり、東隣接地(図1-10)で実施された発掘調査の成果を参考にすると現地地表下100cmまでに3枚の中世遺構面が遺存することが予測されたため、鎌倉市教育委員会文化財課は工事の実施に先立って発掘調査を行う必要があるとの判断に至った。

第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から南半部のⅠ区と北半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区→Ⅱ区の順に調査を進めた(図2)。表土掘削はⅠ・Ⅱ区ともに重機で行った。遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、遺構の確認と掘削を行った後、写真撮影・測量図作成などの記録作業を進めた。

測量に当たっては国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設け、光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は市道上に設置された4級基準点「T071」と「T072」の二点間関係から開放トラバース法で行った。4級基準点の座標値は旧測地系に基づくことから、国土地理院が公開する座標変換ソフト「Web版TKY2JGD」で新測地系(JGD2011)座標値に変換してから移設を行った。標高は都市再生街区多角点「2A075」(9.474m)を起点に、直接水準測量を繰り返して敷地内の測量杭に移した。

第3節 調査の経過

Ⅰ区の表土掘削は平成27年9月1日に実施した。翌日には調査用具を搬入して本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影などの記録作業を進め、11月6日にはⅠ区の埋め戻しとⅡ区の表土掘削を行った。Ⅱ区でも掘削と記録を順次進め、12月16日には全ての記録作業を終え、21日にⅡ区の埋め戻し、25日には調査用具を撤収して現地での調査工程を全て終了した。

出土品および記録類の整理作業は、平成28・29年度に鎌倉市教育委員会文化財課分室で行った。

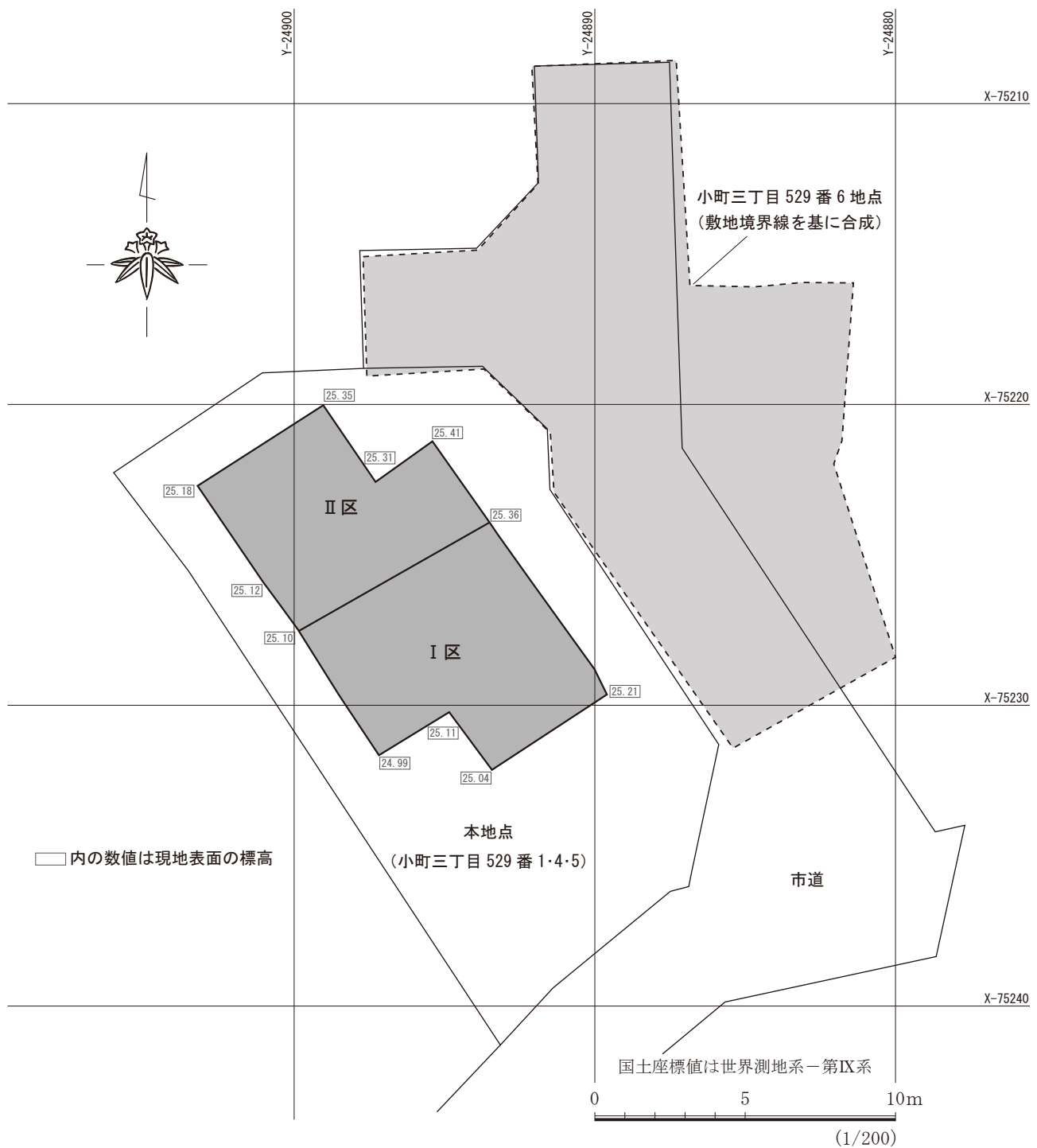


図2 調査区配置図

第三章 基本土層

現地表面の標高は図2に示した通りで、南西側が最も低くなっている。

図3には、本地点の土層堆積状況を示した。I区南東隅では西に向けて急激に落ち込む岩盤面を確認し、この上位で黒色粘質土(g層)の堆積を確認した。同層からは手づくねかわらけが出土し、13世紀前半以降に堆積が進んだとみられる(次章第2節参照)。この後、泥岩粒を含む整地層上に柱穴や土坑などの遺構が形成されていた。13世紀後半～14世紀前半を中心とする土地利用の痕跡と考えられる。

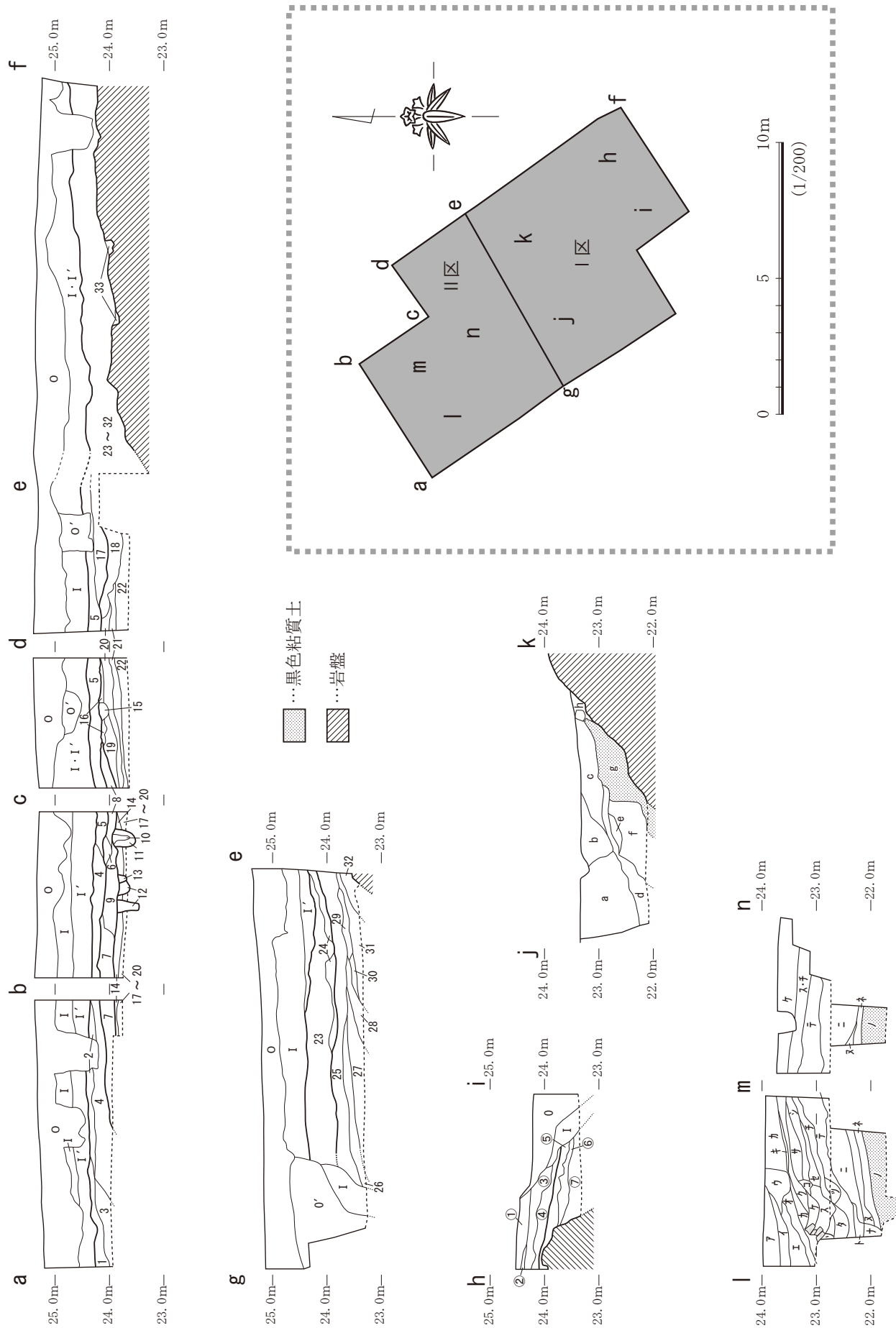


図3 土層断面図

土層説明（図3に対応）

<a ~ g>

- 0 灰褐色土 表土。
 0' 灰褐色土 現代攪乱。泥岩ブロック多量。
 I 灰褐色土 砂質土。近世耕作土か。
 I' 灰褐色土 I層をベース土とし、泥岩粒少量。
- 1 黄褐色土 泥岩ブロックが主体。1面構築土。
 2 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。
 3 黒褐色土 泥岩粒多量。
 4 暗黄褐色土 泥岩粒多量。 **1面構築土**
- 5 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。
 6 暗黄褐色土 泥岩粒多量。
 7 暗褐色土 粘質土。
 8 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 9 黒色土 粘質土。
 10 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 11 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 12 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量。
 13 暗褐色土 泥岩粒少量。
 14 暗褐色土 泥岩粒多量で密度濃い箇所あり。
3面構築土
 15 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 16 暗褐色土 泥岩粒多量。
 17 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。
 = 24層。
 18 暗褐色土 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。
 = 25層。 **2面構築土**
 19 黒褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
 20 黒褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
 21 黒褐色土 粘質土。泥岩粒微量。
 22 黒色土 粘質土。
 23 暗褐色土 泥岩粒・ブロックやや多い。 **1面構築土**
 24 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。
 25 暗褐色土 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。
2面構築土
 26 暗褐色土 泥岩粒多量。締まりあり。
 27 暗褐色土 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。
 28 黒褐色土 粘質土。泥岩粒・ブロック少量。
 29 黒褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。
 30 黒褐色土 粘質土。29層より泥岩粒多い。
 31 黒色土 強粘質土。泥岩粒少量。
 32 黒色土 強粘質土。崩落岩盤が流入。
 33 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりややあり。

<h-i>

- ① 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 ② 暗褐色土 泥岩粒少量。
 ③ 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 ④ 暗褐色土 泥岩粒少量。
 ⑤ 暗褐色土 泥岩粒・ブロックやや多い。2面構築土。
 ⑥ 黒褐色土 泥岩粒少量。
 ⑦ 暗褐色土 泥岩ブロック多量。

<j-k>

- ア 暗褐色土 泥岩粒多量、泥岩ブロック少量。
 イ 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 ウ 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 エ 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 オ 黄褐色土 泥岩ブロック密。
 カ 黒褐色土 泥岩粒少量。
 キ 黒色土 粘質土。
 ケ 黒褐色土 泥岩ブロック多量。
 コ 黒褐色土 粘質土。
 サ 黒色土 粘質土。泥岩粒少量。
 シ 黒褐色土 泥岩粒多量。
 ス 黒色土 粘質土。泥岩粒少量。
 セ 暗黄褐色土 泥岩粒が主体。
 ソ 黒褐色土 泥岩ブロック多量。
 タ 黒褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
 チ 黒褐色土 泥岩粒多量。
 ツ 黄褐色土 泥岩粒多量。
 テ 黒色土 粘質土。泥岩粒多く集中箇所あり。
 ト 黒色土 粘質土。
 ナ 黒褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。
 ニ 黒色土 強粘質土。
 ネ 暗青灰色土 泥岩粒やや多い。
 ノ 黒色土 粘質土。締まり弱い。

<l ~ n>

- a 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
 b 暗褐色土 泥岩粒・ブロック多量。
 c 黒褐色土 泥岩ブロック多量。
 d 黒褐色土 泥岩ブロック少量。
 e 黒褐色土 泥岩ブロックごく少量。
 f 黒褐色土 泥岩ブロック多量。
 g 黒色土 粘性あり。手づくねかわらけ片微量。
 h 黒色土 崩落岩盤が流入。

第四章 発見された遺構と遺物

第1節 検出遺構

今回の調査では3枚の中世遺構面を確認したが、各面の整地状況は良好でなく、ここで検出に及んだ遺構も小規模かつ不明瞭なものが多かった。急傾斜地という地形上の制約もあって、簡便な埋め立てを繰り返すだけでは安定した地盤を得ることができなかった結果、低調な土地利用に留まったと推察している。以下、上層の遺構面から順に、概要を述べる。

(1) 1面

表土直下の中世遺物包含層上面を1面とした。標高24.15～24.5mで、北西側での確認レベルが低い。調査区の南東側1/3程は大型の泥岩ブロックで埋め立てられた現代の斜面であった。

I区北部で深さ5cmほどの溝状の落ち込みを確認したが(遺構1)、人為的造作であるかは定かでない。

II区南東部では、標高24.2m前後で薄い炭層の広がりを確認している。

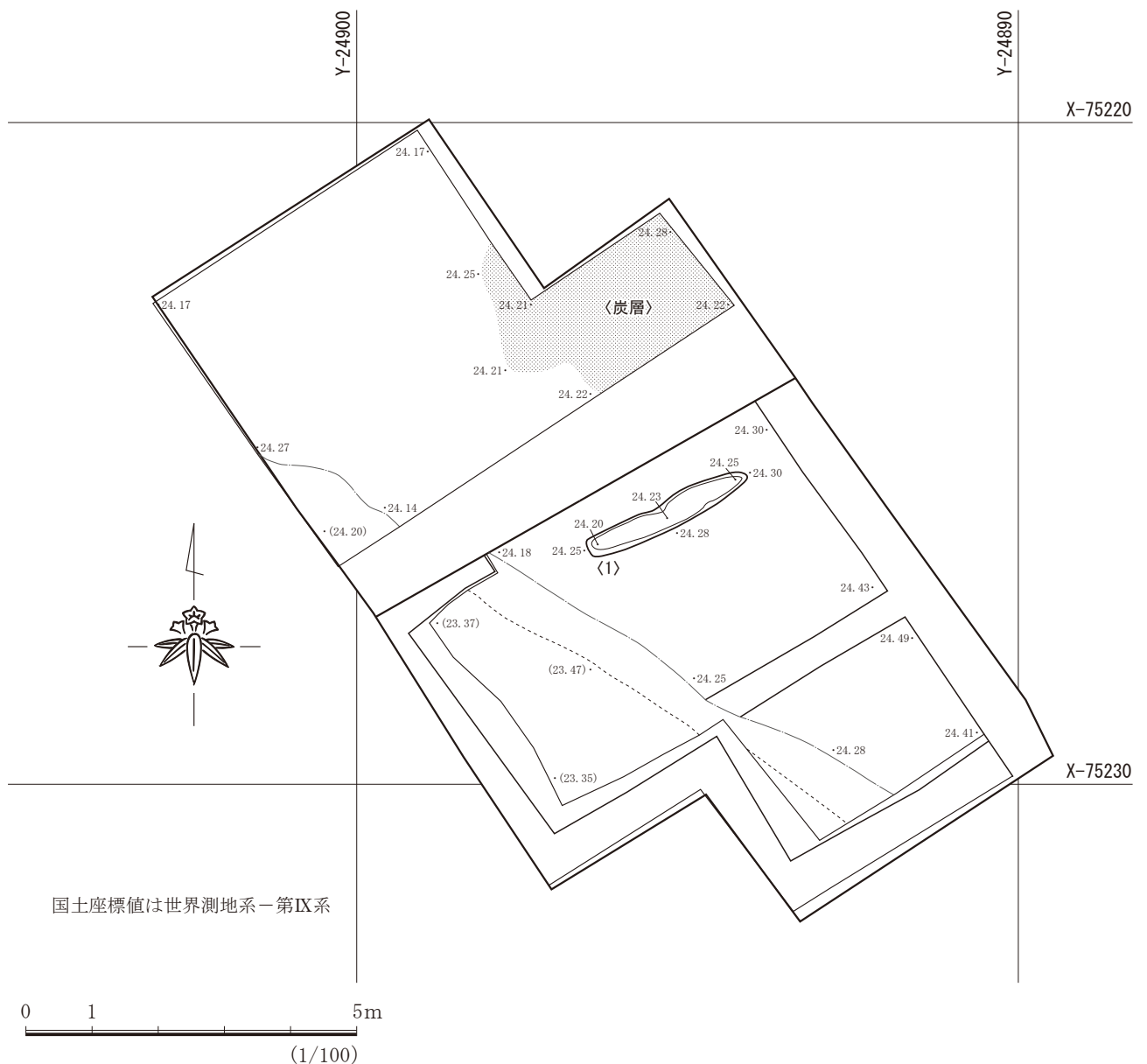


図4 1面全体図

(2) 2面

標高23.6～24.2m前後で確認し、北西側の検出レベルが低い。

I区の北東部では東西3m以上×南北2.3m以上の円形状プランをもつ深さ30cmほどの窪みが確認され(遺構2)、南東側の上場縁辺などが焼けて赤く変色していた。埋土は炭化物粒を多く含み、層中からは完形、もしくはそれに近いロクロかわらけが一定量出土している。

I区では他に小規模のピット2基も確認しているが、並ぶ訳でもなく、性格については不明とせざるを得ない。

(3) 3面

中世遺構面としては最下層に位置する。標高23.4～24.1m前後で確認され、上位遺構面2枚と同様、北西側の検出レベルが最も低い。I区南東部では岩盤の平坦面と西向き斜面が検出され、平坦面の縁辺から斜面部にかけてはピットの外、人工的造作かは定かでないが、階段状の痕跡を確認している。

2基のピット(遺構4・5)はともに一辺60cm弱の方形プランを呈し、相互の中心間距離が約110cmを計測する。遺構4の埋土には柱材の腐食痕と思しき軟質層が見て取れることから、両ピットが柱穴列として並んでいた可能性が考えられる。

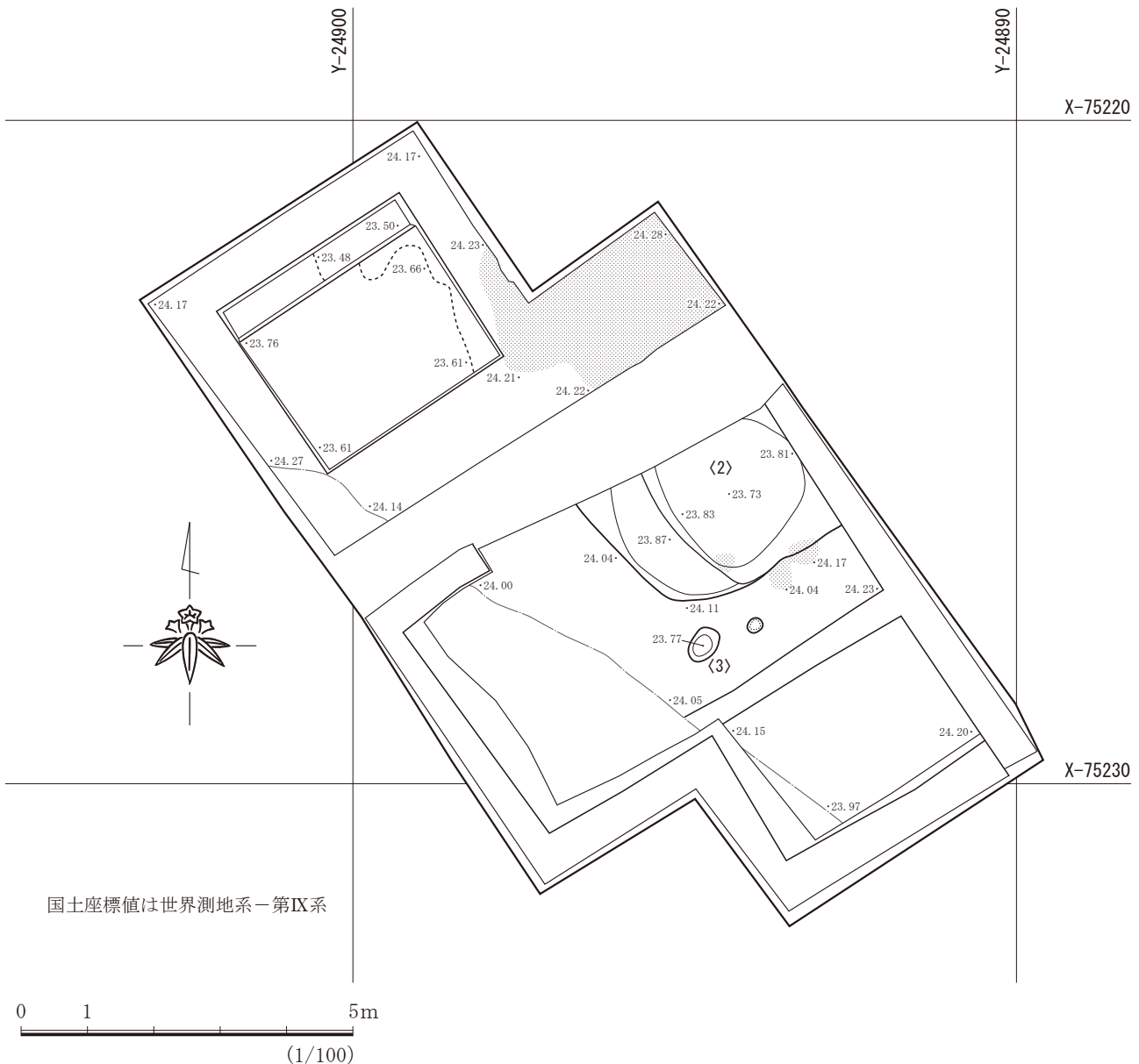


図5 2面全体図

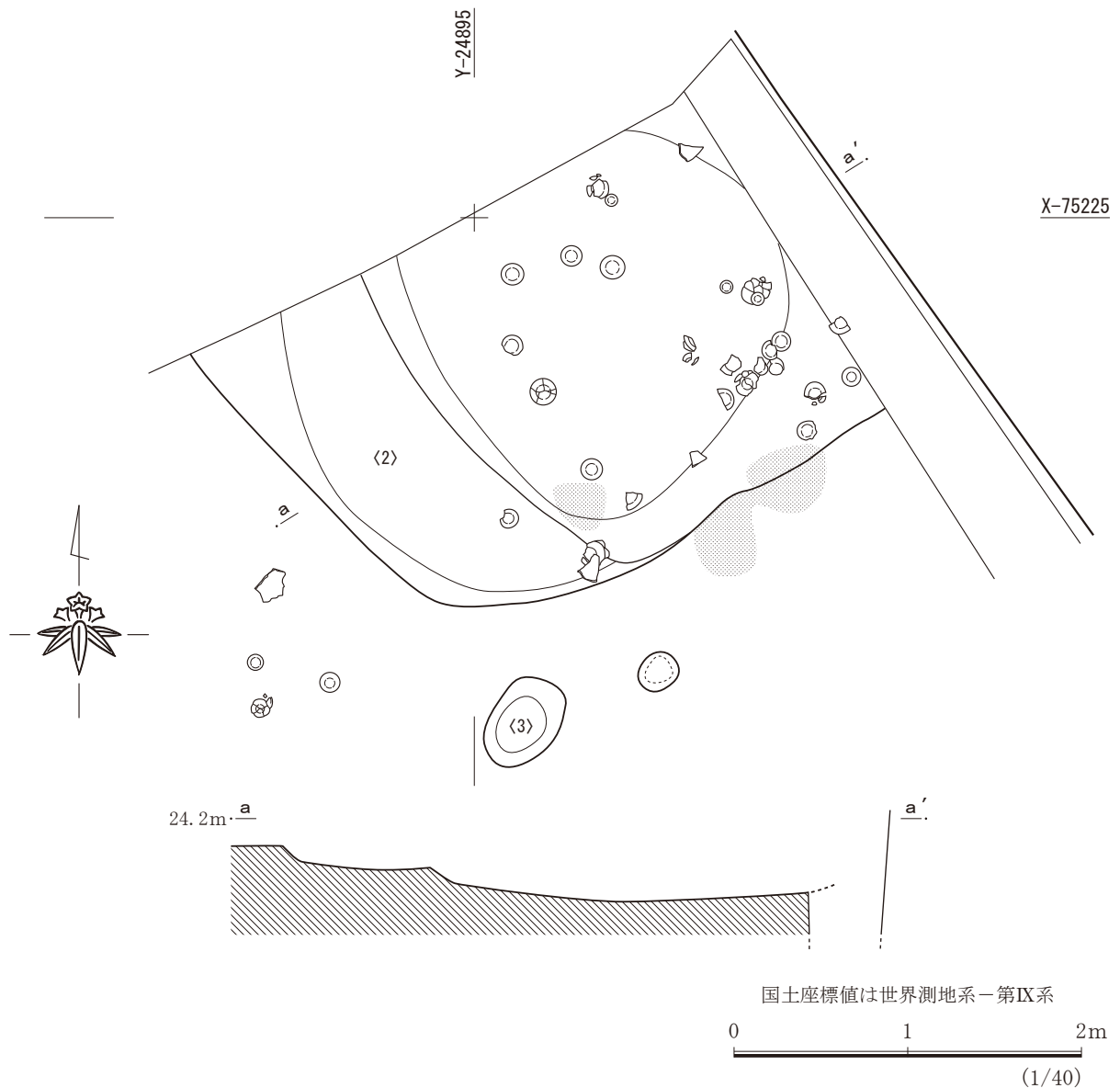


図6 2面遺構2 遺物出土状況

I区北部からII区にかけては岩盤面を確認できず、岩盤上に堆積した黒褐色土を掘り込んだ小規模なピット群が確認された。検出範囲が限定的でもあり、明確なピットの並びは把握できなかった。II区は西半部が斜面地形であり、ピットとして残る何らかの構築物も斜面際までしか展開していなかったか、或いは後世の地滑りなどで失われてしまったという二通りの可能性が考えられる。

斜面部に関しては狭いトレンチ調査に留めたため平面的な広がり確認できていないが、人頭程度の泥岩ブロックを法面に沿って積み上げたかのような状況も見受けられた(図3のi-m断面図、図版5-1・2など)。石垣と呼ぶには粗略に過ぎるが、簡易的な土留めであった可能性を示しておきたい。

第2節 出土遺物

今回の調査では、中世の土器・陶磁器を中心にコンテナにして22箱分の遺物が出土した。

表2には、層位・遺構ごとの遺物量を示した。「1面下①～⑤」といった表記であれば、基本的には⑤

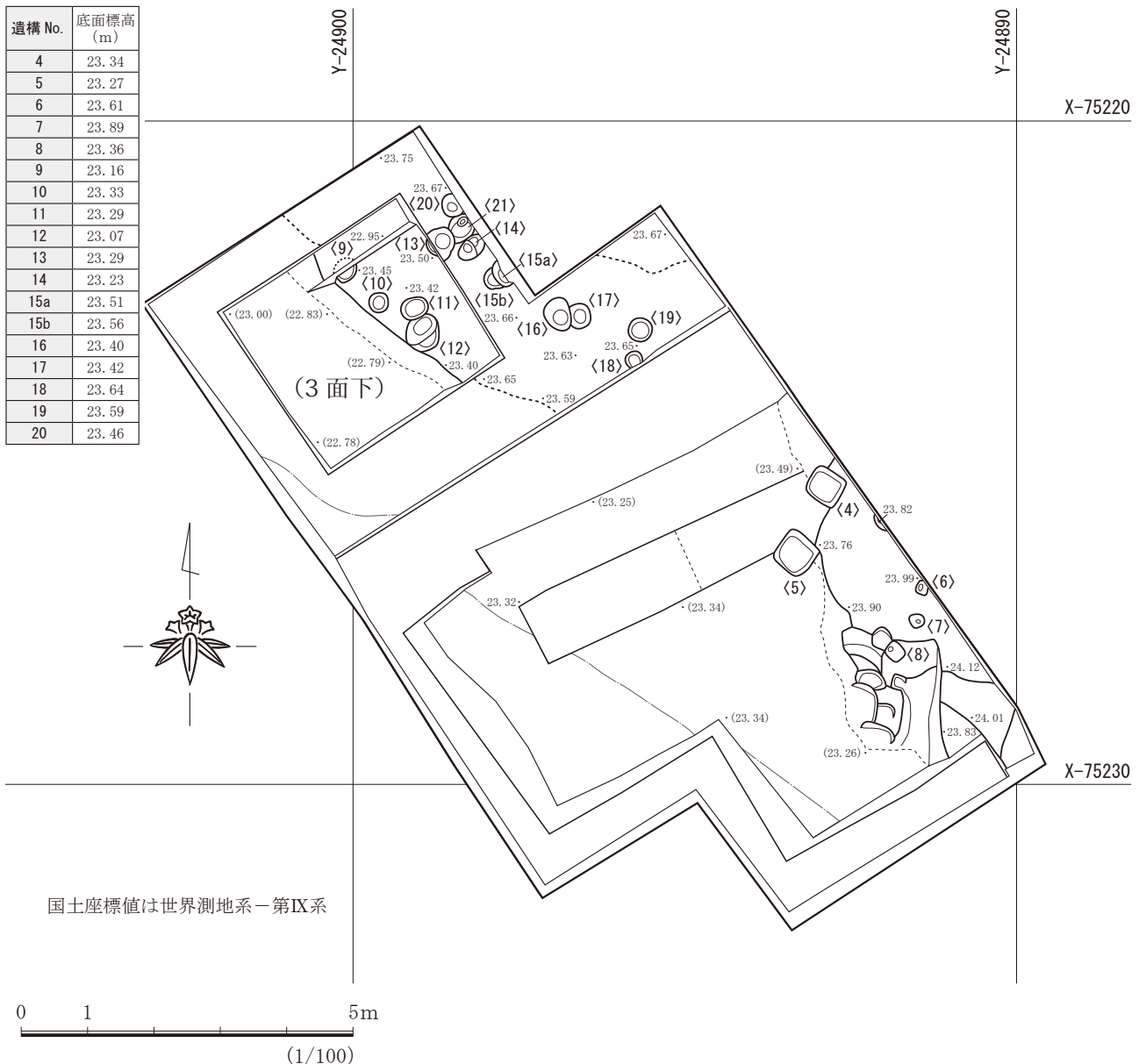


図7 3面全体図(1)

の方が標高の低いところを掘った際に出土したものであることを示すが、本来が斜面堆積のところを水平ベースで掘り広げて調査しているところも多くあり、出土層位を厳密に反映したデータとはなっていない。層位として一定の限定性を担保できるのは、「黒色地山」や「黒色土」に限られる。

こうした調査上の不備は認めつつも、本地点出土の遺物傾向としては次のことがいえる。

1面下=中世遺物層含層や2面遺構2からの出土かわらけはロクロ成形品で占められ、大・小を主体に少量の中型品を含んでいる。三法量とも身深で強く内湾する器形を呈している。陶磁器類はきわめて少なく、細片資料に限られるので参考にしにくい。古瀬戸前期様式でも後半以降の卸皿(図11-44)や常滑6型式の甕(図4-72)があり、13世紀後半以降の資料群と見なすことができる。I区2面下①でもかわらけの主体は身深・内湾基調のロクロ成形品であるが、ここでは「薄手丸深」と呼ばれる胎土・作りともに精製の中型品が一定量あった(図12-103～106)。これらの出現・確立時期は、13世紀後葉～14世紀前葉に位置付けられている(宗墓2005)。

表2で手づくねかわらけの出土量を見ると、2面下②で散見され、2面下③以下では定量的出土傾向

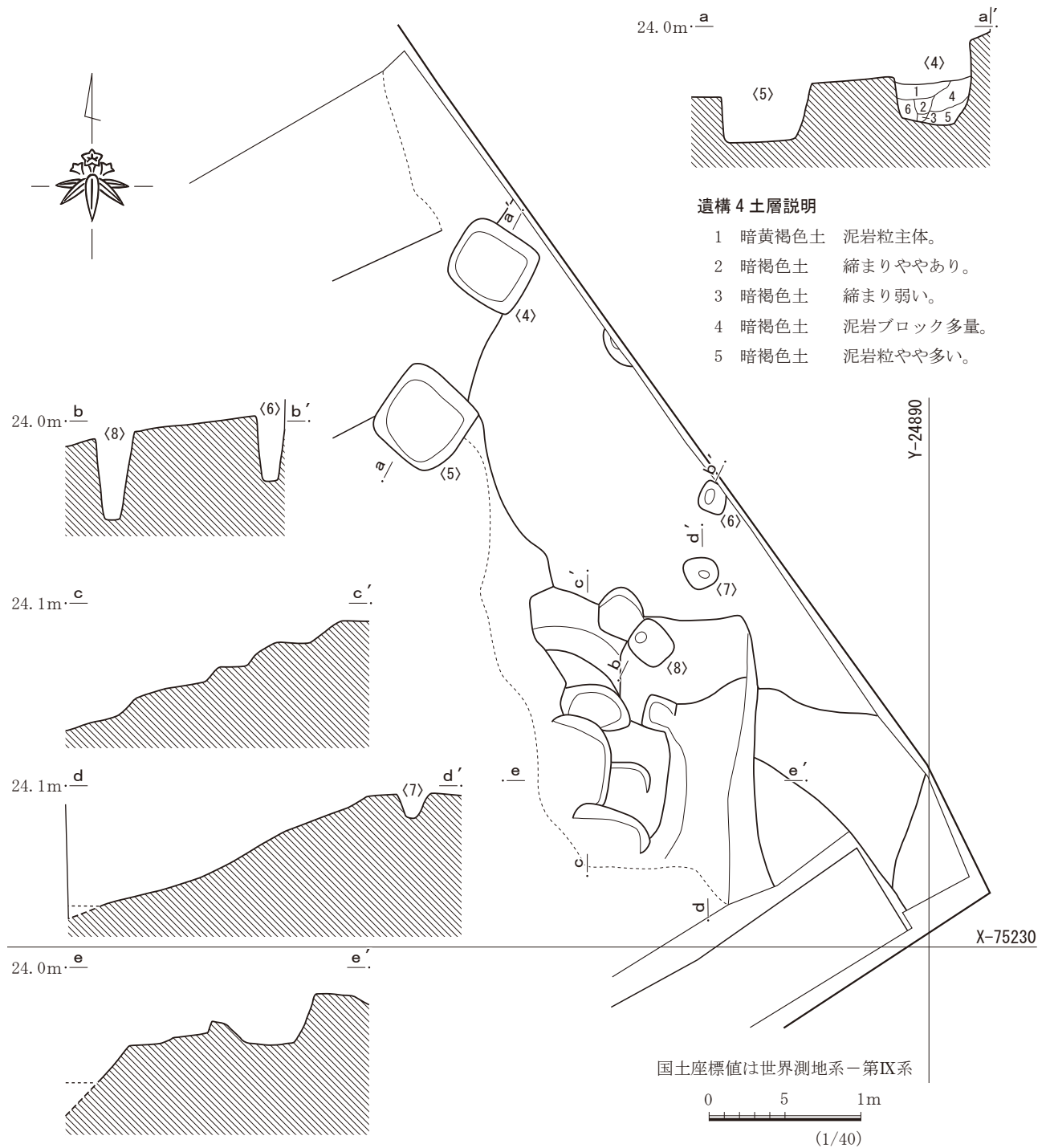


図8 3面 岩盤面の遺構

を示している。前述のように層位の厳密性は担保できないが、2面下③以下で手づくね製品がかわらけの中での構成主体となっていく状況が読み取れる。表2の取り上げ記録には反映されていないが、現地での観察所見として以下のことがいえる。泥岩粒を殆ど含まない黒色土～黒褐色土層(図3-g層など)は岩盤上に堆積する中世基盤層がベースであるが、斜面に流失した二次堆積層と考えている。包含遺物が僅少である中、手づくねかわらけが主体であった。従って、元々手づくねかわらけが使用されていたのは調査地東隣の平場で、本地点で2面が形成される以前には中世基盤層に混入する形で斜面地に流れ込んだのではないだろうか。本地点のI区東端部から東隣地の調査区の大部分にかけては削平岩盤面が

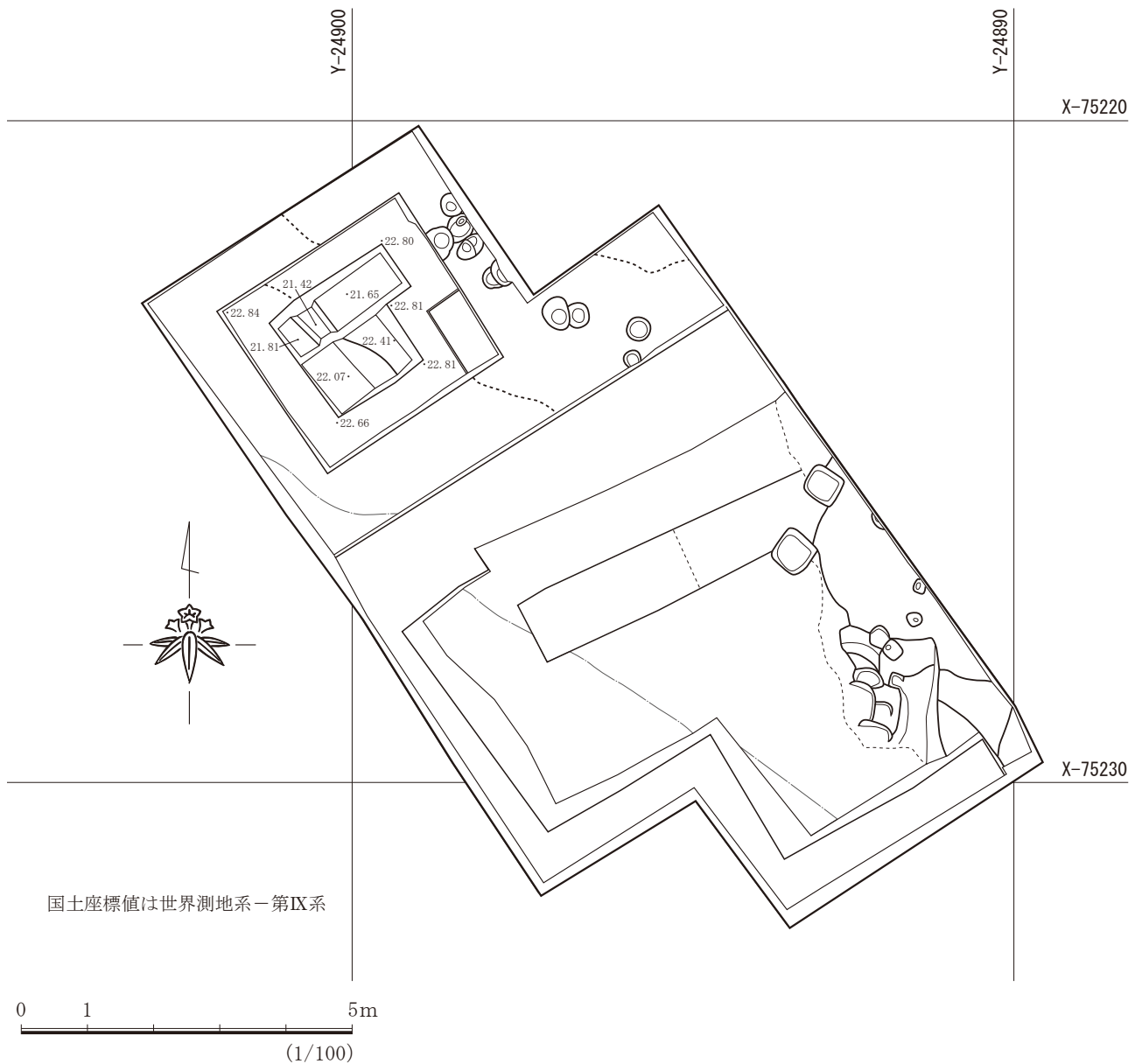


図9 3面全体図(2)

検出されているが、本来この上位に堆積していた筈の中世基盤層は残っておらず、厚さ10～20cm程度で泥岩粒を多く含む暗褐色土層が堆積していた。本地点では、1面構築土の図3-23層や、2面構築土の図3-18・25層などが相当する。本地点では、I区東端部の岩盤面上と、レベル的にはやや低いII区東部の暗褐色土層(図3-14層)上面を3面とした。手づくねかわらけの出土が目立つのは14層よりも下位(表2-2面下③以下)であることから、岩盤面の削平=3面構築は、同種が消失に向かう時期以降の事象と考えられる。

出土状況の補足説明が長くなったが、出土した手づくねかわらけは大・小とも器壁が厚く、口端部の面取り状ナデ整形を施さない資料が主体をなす。大皿は図示できた個体数が少ないが(図13-115・125)、やや身深で口径が12cm台後半～13cm台前半に収まる。これらの特徴から、13世紀第2四半期～中葉頃に位置付けられる(宗墓前掲)。

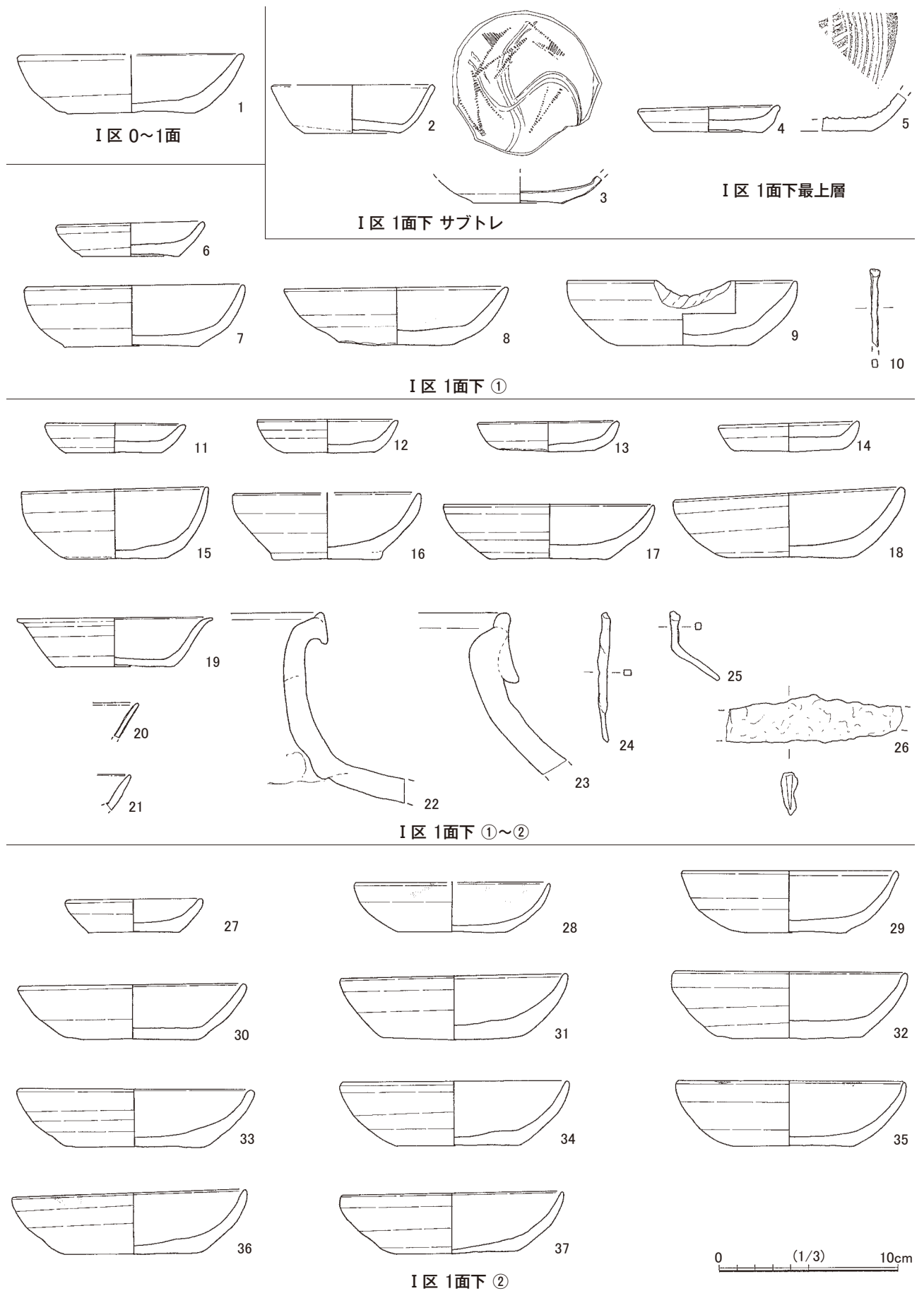
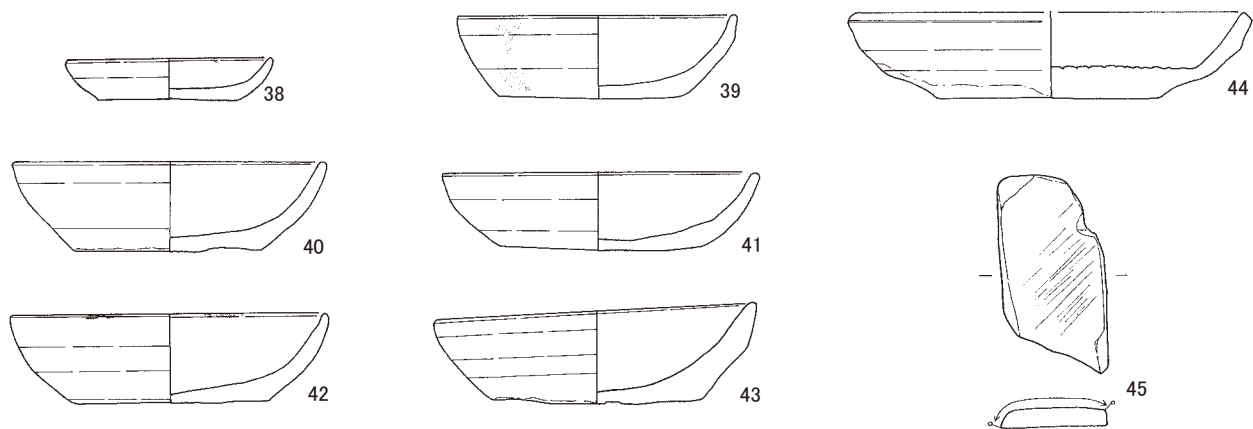
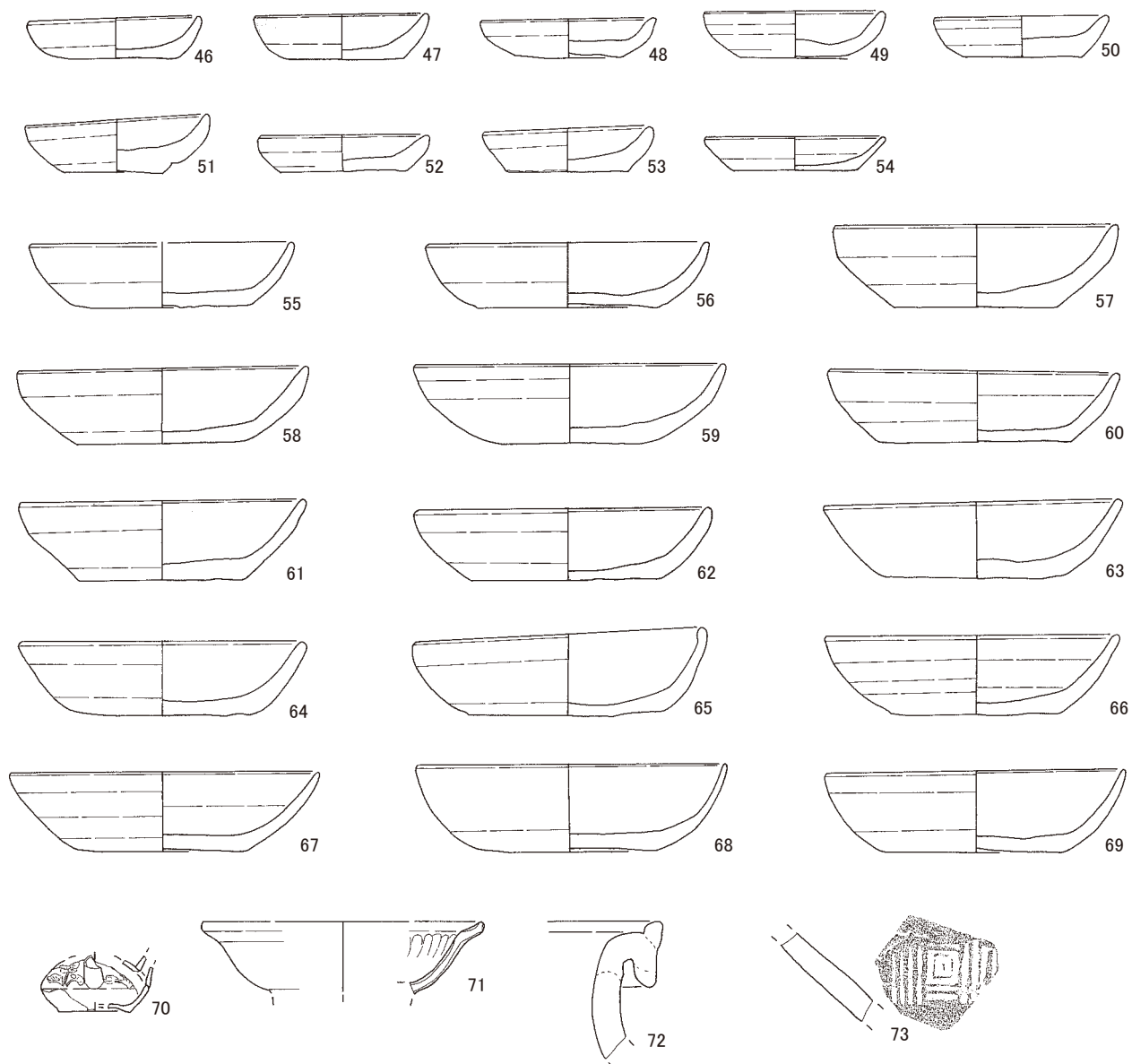


図10 I区出土遺物(1)



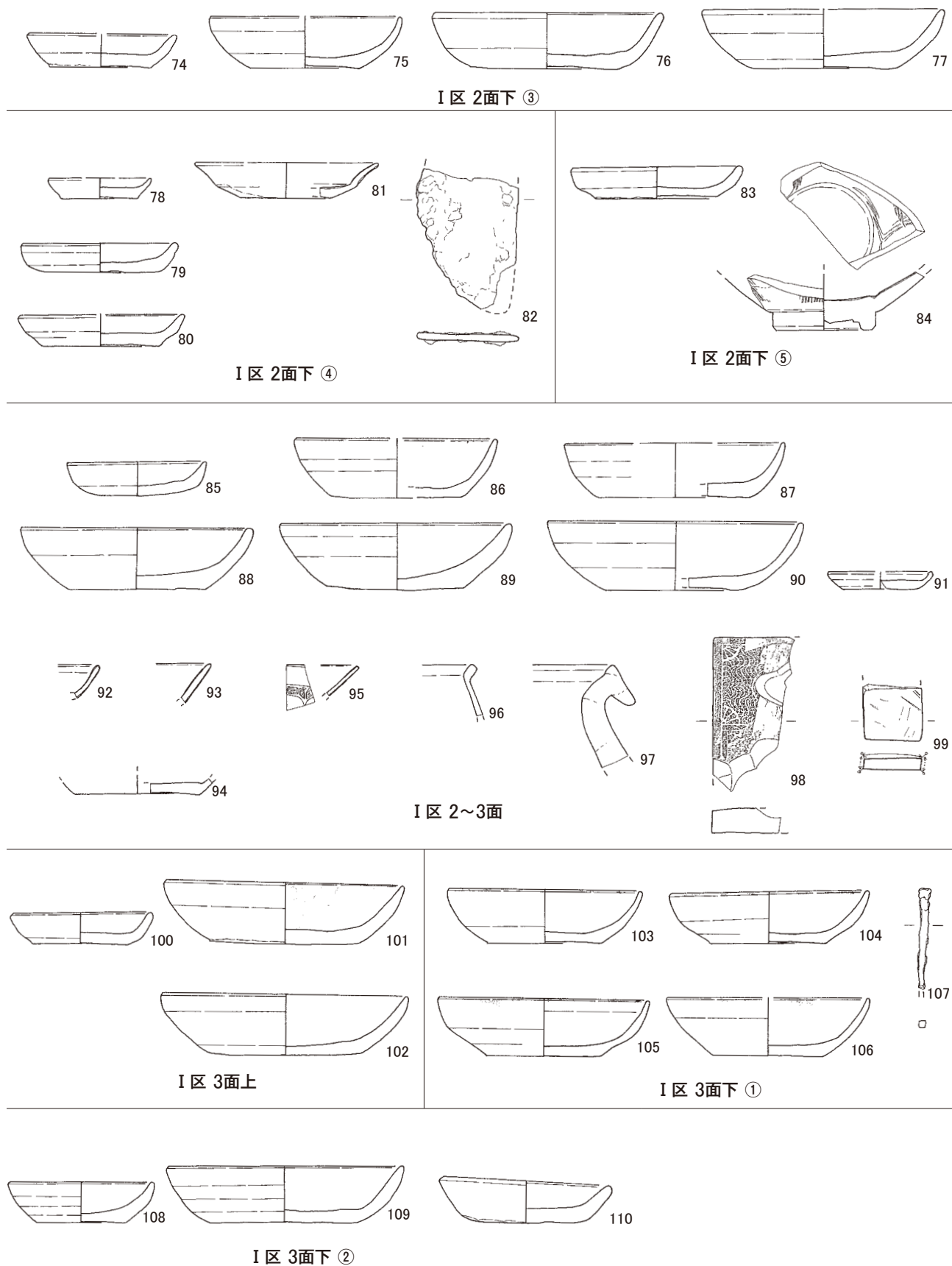
I 区 2面遺構2



I 区 2面遺構2 下層

0 (1/3) 10cm

图 11 I 区出土遺物 (2)



0 (1/3) 10cm

图 12 I 区出土遗物 (3)

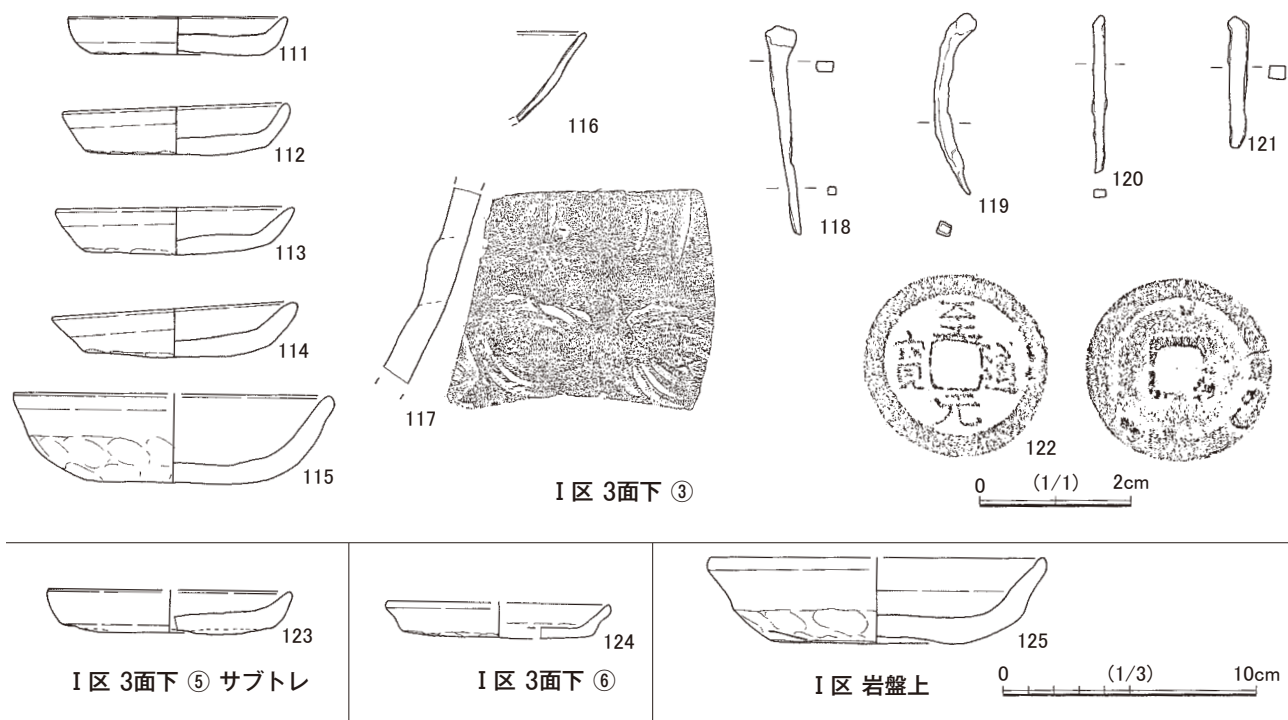


図13 I区出土遺物(4)

第五章 調査成果のまとめ

ここまで簡略な説明を進めてきた。調査範囲の大部分が西に向けた斜面地という旧地形であったが、それを面的に再現する調査をできず、結果として遺物の出土層位も精密さを欠いた点は反省している。

前章の第2節ではこうした状況を補うべく、現地での観察所見も提示した。本章では土地利用の状況と年代的位置付けについて整理し、粗略な報告のまとめとしたい。

土地利用の状況について、本来の地形が急な斜面地ということもあり、中世における利用の在り方も活発といえるものではなかった。2面では完形のかかわりを含める炭層の落ち込み(遺構2)を確認し、3面では削平岩盤面とこれにレベルを合わせた埋め土整地面上でピット群を検出したものの、建物等の復元提示には至らなかった。本地点東隣りでは溝で区画された空間に方2間程度の礎石建物等の存在を想定しているの、生活・土地利用の中心は同地にあったといえよう。3面以前には斜面上に手づくねかわりを含める黒色土=中世基盤層の流出土が堆積し、上段にあった生活空間から流れ込んだ可能性を考えた。斜面の埋没が一定程度進んだ後、岩盤の削平を伴う3面が整えられ、以後2面→1面へと後続するが、本地点の土地利用は低調な状況が続いた。

前章で述べた土器様相の変化から、3面以前の斜面堆積が13世紀中葉までに進み、3面の整地・利用が13世紀後葉～14世紀初頭頃に、間を置かずして14世紀前葉頃に2面の利用が行われたと想定している。鎌倉幕府滅亡後は、葛西ヶ谷での土地利用が中央支谷など旧来の中心伽藍でも限定されたエリアに集約された可能性を考え、北周縁である本地点での14世紀中葉以降の土地利用を想定しなかった。

なお、本報告の脱稿後、葛西ヶ谷の沿革を考証した下記文献に接した。第一章の説明不足を補う良書である。併せて参照されたい。

田中奈保 2017「葛西ヶ谷 滑川と六浦道の交差点」『鎌倉の歴史 谷戸めぐりのススメ』高橋慎一郎編 高志書院

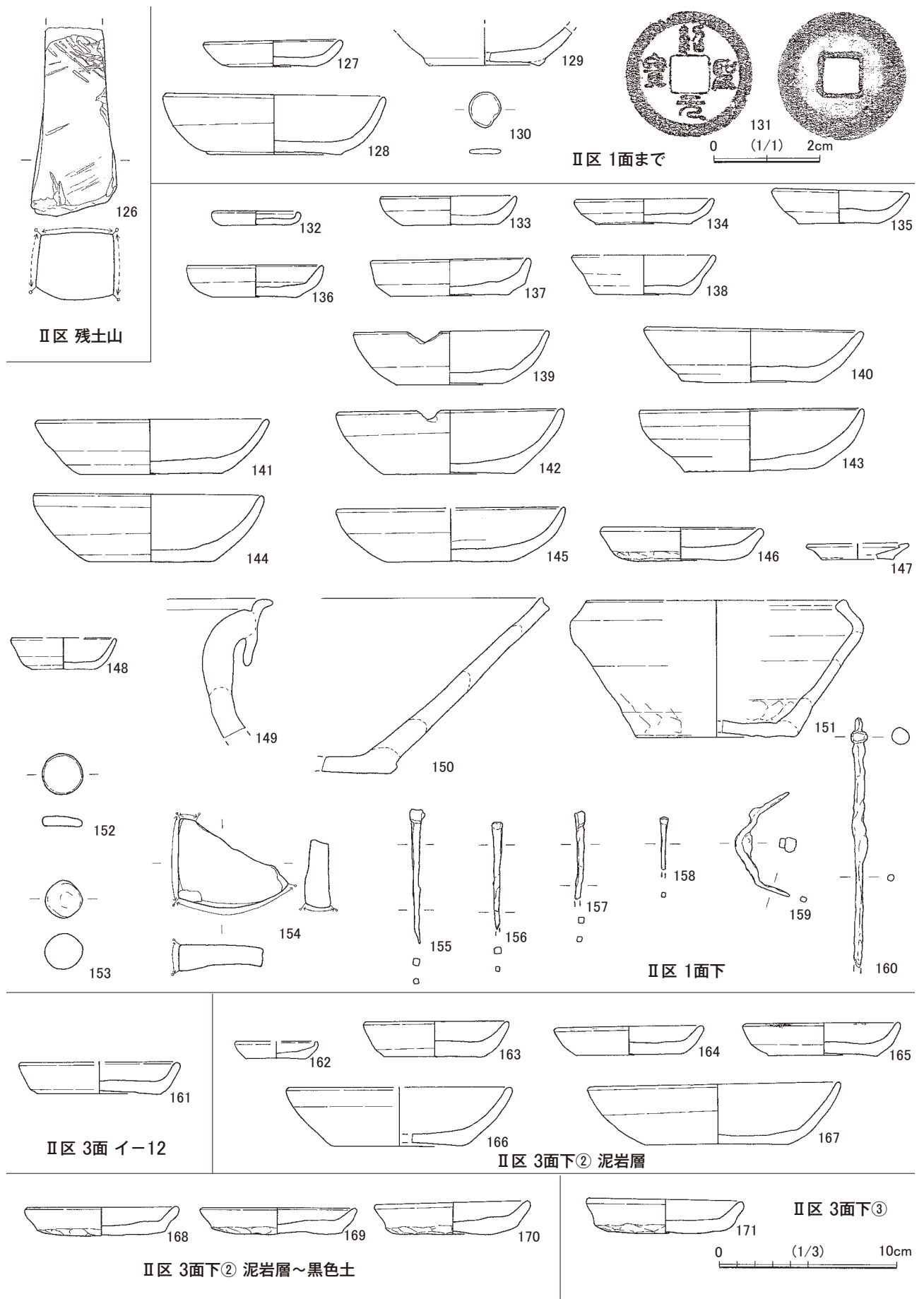


図14 II区出土遺物

表2 出土遺物カウント・計量表

面	遺構・ 層位	かわらけ												白磁															
		ロクロ						手づくね						内折れ						小片									
		大		中		小		内折れ		大		小		内折れ		小片		口禿皿 (IX類)		印花口禿皿 (X類)		碗・皿		瓶類		小片			
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
攪乱	攪乱1	2	45							1	8																		
1面まで		234	2617						2	15																			
1面下				276	2996				15	186	8	53	1	6	1214	4526													
2面下①				2	63																								
2面下②		47	844						12	164	1	15																	
2面下③		57	1097						15	217	1	15	1558	21	191	105	449												
2面下④		5	119						5	80																			
2面下⑤		4	377						1	47																			
3面																													
3面下①		83	1406	4	367				6	128																			
3面下②		25	243						3	13																			
3面下③		207	2340						26	196																			
3面下④	西側泥岩層	11	83						4	17																			
3面下⑤	サブトレ	14	123						3	53																			
3面下⑥	黒色土								1	6																			
3面岩盤上	個別																												
小計		694	9771	4	367	376	4082	1	15	368	4992	136	1423	2	11	2014	7677	2	19	10	74	1	1	4	13	1	12	3	3

面	遺構・ 層位	青白磁												龍泉窯系青磁												瀬戸・美濃											
		梅瓶				型押皿				劃花文碗 (I類)				蓮弁文碗 (II or III類)				碗				皿				碗・皿				泉州窯系 黄釉器				船載陶器			
		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数		重量 (g)		破片数	
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)				
攪乱	攪乱1																																				
1面まで																																					
1面下		2	8																																		
2面下①																																					
2面下②																																					
2面下③																																					
2面下④																																					
2面下⑤																																					
2面																																					
3面下①																																					
3面下②																																					
3面下③																																					
3面下④	西側泥岩層																																				
3面下⑤	サブトレ																																				
3面下⑥	黒色土																																				
3面岩盤上	個別																																				
小計		2	8	1	1	4	27	12	96	4	68	4	88	6	37	3	33	2	299	7	355	2	11	2	39	1	12	3	3	2	2	4	4				

I 区遺構外②

面	遺構・層位		渥美・湖西		尾張・常滑				土器		瓦器		黒縁瓦器質		瓦質土器		瓦							
	遺構	層位	甕	片口鉢	甕	広口壺	山茶碗	片口鉢		火鉢	不明	坏	碗	碗	碗	火鉢	丸瓦							
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)						
攪乱																								
1面まで	5	679	20	779				1	16						1	28								
1面下	1	35	92	6552	1	264	1	7	10	484	9	304			1	27								
2面下①																								
2面下③			1	77																				
2面下④	4	204																						
2面下⑤																								
3面			1	45																				
3面下①			1	57																				
3面下②			3	113																				
3面下③	1	170	6	380																				
3面下④			2	79																				
3面下⑤	1	82	1	132																				
3面下⑥																								
3面岩盤上																								
小計	8	966	131	8418	1	264	1	7	11	500	14	582	2	83	1	8	1	1	1	55	2	5	1	205
面	遺構・層位		銅製品		鉄製品・鉄滓				石製品		須恵器		肥前系磁器		近代磁器		不明陶器		骨					
	遺構	層位	破片数	重量 (g)	刀子	釘	鉄滓	不明	視	砥石	坏	染付碗	不明	不明陶器	獣骨	魚骨								
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)				
攪乱																								
1面まで	1	2																						
1面下			1	45	4	34	1	36	1	19														
2面下①					1	4																		
2面下③																								
2面下④																								
2面下⑤																								
3面																								
3面下①																								
3面下②																								
3面下③	1	3																						
3面下④																								
3面下⑤																								
3面下⑥																								
3面岩盤上																								
小計	2	5	1	45	14	118	1	36	2	75	1	62	1	13	1	5	1	2	10	57	1	16	6	1

II区遺構外①

面	遺構・層位	かわらけ												白磁															
		ロクロ						手づくね						口系皿 (IX類)						瓶類									
		大			小			内折れ			転用円盤			小片			碗・皿			水注			小片						
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)				
表土		58	670	8	62																								
1面まで		252	2850	33	326																								
1面下		1863	26067	248	2730	3	15	41	527	8	120	0	0	1	4	2272	9679												
2面下	泥岩～黒色土	4	37					9	82	20	341																		
2面下	泥岩層	529	9003	62	758	1	5	66	895	17	234	1	4																
2面下	泥岩層																												
3面下	黒色地山																												
3面下	黒色土	1	14					11	88	3	13																		
3面下	個別									1	75																		
小計		2707	38641	351	3876	4	20	128	1600	50	790	1	4	1	4	3831	15705	1	12	3	19	3	20	2	30	7	142	3	7

面	遺構・層位	青白磁												龍泉窯系青磁												高麗青磁						瀬戸・美濃								
		梅瓶			瓶類			合子身			劃花文碗 (I類)			蓮弁文碗 (II or III類)			坏 (皿類)			碗・皿・坏			小片			四耳壺			褐袖壺			卸皿			天目碗			入子		
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)			
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)					
表土		1	4																																					
1面まで		1	17	1	4																																			
1面下		4	71					1	22																															
2面下	泥岩～黒色土																																							
2面下	泥岩層	3	18					2	45	1	12																													
2面下	泥岩層																																							
3面下	黒色地山																																							
3面下	黒色土																																							
3面下	個別																																							
小計		9	110	1	4	4	2	9	3	67	2	39	5	48	5	45	10	18	1	33	2	114	1	4	1	2	2	17												

II 区遺構外②

面	遺構・層位	尾張・常滑												銅製品		鉄製品・鉄滓													
		甕	広口壺	山茶碗	小皿	片口鉢		片口碗	備前	吉備系土器	瓦質土器	火鉢	銭	釘・錠・棒状	鉄滓	不明													
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	I類	II類	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)												
表土	表土	14	564			2	34																						
1面まで		29	2132	1	42			2	25	1	55			2	7	1	27												
1面下		141	9586	1	21			23	727	7	364	3	144	8	394	6	661												
2面下	泥岩～黑色土	1	56																										
2面下	泥岩層	31	1653	1	180			10	273			1	4	2	247	3	103												
2面下																													
3面下	黑色地山																												
3面下	黑色土																												
3面下	個別																												
小計		216	13991	3	243	1	29	1	10	37	1059	8	419	3	144	1	119	1	4	13	737	1	3	32	194	10	791	1	11

面	遺構・層位	石器・石製品												骨								
		基石	硯	砥石	球状	滑石鍋	琥珀	漆喰	土師器	不明陶器	獸骨	魚骨										
		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)					
表土	表土																					
1面まで		1	2																			
1面下				1	5											2						
2面下	泥岩～黑色土					1	10	4	250							6						
2面下	泥岩層			1	3			2	66													
2面下										1	1											
3面下	黑色地山											2	19									
3面下	黑色土																					
3面下	個別																					
小計		1	2	1	3	1	5	1	10	6	316	1	1	1	15	2	19	1	3	10		

出土地不明

面	遺構・ 層位	かわらけ										白磁		青白磁		龍泉窯系青磁						
		ロクロ		手づくね		小片		口衾皿 (IX類)		碗		梅瓶		蓮弁文碗 (II or III 類)		碗						
		大	小	大	小	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)					
—	残土山	37	575	4	85	3	27	13	40	1	9	2	7	2	5	1	7	1	12	1	5	
不明	不明	45	868	7	39	14	179	5	167							1	12					
小計		82	1443	11	124	17	206	5	167	33	113	1	9	2	5	1	7	1	12	1	5	
面	遺構・ 層位	尾張・常滑										銅製品										
		瀬美・湖西		尾張・常滑		近代磁器		一銭銅貨														
		大	小	大	小	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)							
—	残土山	1	40	3	237	1	15	2	62			1	4									
不明	不明			1	66			1	42													
小計		1	40	4	303	1	15	2	62	1	42	1	4									

表3 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状	板状	スノコ状		
I 区出土遺物 (1) (図 10)													
1	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	7.2	3.3	2/3		○		○		橙	白針 泥っばい
2	磁器	白磁 口禿皿	(9.0)	5.3	2.7	口小～ 底完存						灰白 半透明	大宰府Ⅸ類
3	磁器	同安窯系青磁 皿	—	5.0	[1.5]	底完存						明青灰 半透明	大宰府Ⅰ類
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.1	1.5	ほぼ完形	55.0	○		○		橙	白針
5	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	[2.1]	底部片						明灰	
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.5	2.0	3/4		○		○		黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.6	3.5	2/3		○				橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	6.6	3.2	4/5		○		○		黄橙	白針 内底面黒色に変色、墨か？ 口縁部歪み
9	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.0	3.6	ほぼ完形	204.0	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
10	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損	[2.8]					—	
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.6	5/6		○		○		橙	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.8	3/4		○		○		黄橙	白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.7	5/6		○				黄橙	白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.6	4/5		○				黄橙	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・中	10.4	6.0	3.9	3/4		○		○		黄橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	6.0	3.7	2/3		○		○		橙	白針
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	6.8	3.1	1/2		○				橙	白針
18	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.8	3.6	3/4		○		○		黄橙	白針
19	磁器	白磁 口禿皿	(10.8)	(6.6)	2.7	1/3						灰白 半透明	大宰府Ⅸ類 外底面施釉
20	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.0]	口小片						灰白 半透明	大宰府Ⅸ類
21	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.0]	口小片						灰白 半透明	大宰府Ⅸ類 貫入あり 口唇露胎部 黒色に変色
22	陶器	常滑 甕	—	—	[10.8]	口小片						褐	6a 型式 白色粒・黒色粒 (広口壺 の可能性)
23	陶器	常滑 甕	—	—	[9.1]	口小片						褐	6b～7 型式長石粒・石英粒
24	鉄製品	釘	長さ 7.3	幅 0.4	厚さ 0.3	完形	4.0					—	
25	鉄製品	釘	長さ 4.9	幅 0.5	厚さ 0.3	完形	4.0					—	
26	鉄製品	刀子	長さ [9.8]	幅 [1.8]	厚さ 0.1～0.4	両端欠損	[41.0]					—	
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	1.9	完形	59.0	○		○		黄橙	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	6.2	2.7	3/4		○				黄橙	白針 口縁部煤付着
29	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	6.4	3.4	4/5		○		○		橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	7.4	3.6	完形	164.0	○				黄橙	白針、砂質
31	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.8	3.6	ほぼ完形	198.0	○		○		黄橙	白針
32	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.2	3.6	4/5		○		○		黄橙	白針
33	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.0	3.2	完形	221.0	○		○		橙	白針 内底面粘土塊貼り付け
34	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.4	3.6	完形	206.0	○		○		橙	白針
35	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	7.4	3.7	4/5		○		○		橙	砂質 口縁部煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状	板状	スノコ状		
36	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.0	3.7	4/5		○		○		黄橙	白針 口縁部煤付着
37	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.1	3.5	ほぼ完形	152.0	○		○		橙	白針、砂質
I 区出土遺物 (2) (図 11)													
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.6	1.7	完形	52.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 白針 口縁部煤付着
39	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	7.6	3.3	3/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 白針 外面及び内底 面黒色に変色
40	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.4	3.5	4/5		○				黄橙	◆2面遺構 2 白針
41	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.2	3.1	4/5		○		○		橙	◆2面遺構 2 白針
42	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.0)	3.5	1/2		○		○		橙	◆2面遺構 2 白針 口縁部煤付着
43	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.4	3.7	4/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 白針
44	陶器	瀬戸 卸皿	(15.4)	(8.8)	3.4	1/3						明灰黄	◆2面遺構 2 前Ⅲ期か 軟質 外面 ハケ状工具によるナデ痕 灰釉刷毛塗り
45	陶器	常滑 転用研磨具	長さ 6.8	幅 4.2	厚さ 0.7	完形	36.0					灰	◆2面遺構 2 片口鉢 I 類体部片を 転用 長石粒・石英粒
46	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	1.9	完形	50.0	○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	2.0	完形	62.0	○		○		灰黄	◆2面遺構 2 下層 白針 口縁～体 部黒色に変色
48	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	1.7	完形	49.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.8	2.1	2/3		○				黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.8	3/4		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.4	2.3	5/6		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.6	1.6	3/4		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
53	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.9	完形	56.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
54	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.5	完形	33.0	○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 白針 薄作りで シャープ (上手) 口縁部淡黒色に変色
55	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.5)	7.8	2.9	1/3		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針 体部外面の一部ヘラ削り状
56	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.0	2.9	ほぼ完形	172.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
57	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	7.2	3.6	4/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
58	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	7.6	3.4	4/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
59	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	7.6	3.5	4/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針 器形歪みあり
60	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.5	3.3	完形	178.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層
61	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.4	3.6	3/4		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針 内外面淡黒色に変色
62	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.5	3.2	4/5		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針 内外面淡黒色に変色
63	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.2	3.4	5/6		○		○		黄灰	◆2面遺構 2 下層 白針
64	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.6	3.3	ほぼ完形	190.0	○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針
65	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	9.1	4.0	5/6		○		○		黄橙	◆2面遺構 2 下層 白針 器形歪み顕著
66	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	7.4	3.6	口 5/6 ~ 底完存		○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 砂質
67	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.6	3.5	ほぼ完形	180.0	○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 白針 薄手丸深
68	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	7.8	3.9	ほぼ完形	177.0	○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 白針、砂質感強 薄手丸深
69	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.8	3.7	3/4		○		○		橙	◆2面遺構 2 下層 白針 薄手丸深
70	磁器	青白磁 水滴	—	(3.2)	[2.5]	胴 1/3 ~ 底 1/6						白 透明	◆2面遺構 2 下層 ロクロ型打成形 陽刻草花文

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状	板状	スノコ状		
71	磁器	龍泉窯系青磁折縁皿 (坏)	(12.3)	—	[3.1]	1/8						灰オリーブ半透明	◆2面遺構2下層 坏皿類
72	陶器	常滑甕	—	—	[6.0]	口小片						褐	◆2面遺構2下層 6a～6b型式 長石粒
73	陶器	常滑甕	—	—	[3.9]	肩小片						灰	◆2面遺構2下層
I区出土遺物 (3) (図12)													
74	土器	ロクロかわらけ・小	7.9	5.5	1.8	2/3		○		○		橙	白針
75	土器	ロクロかわらけ・中	(10.3)	6.0	2.8	2/3		○		○		橙	白針、砂質 薄手丸深
76	土器	ロクロかわらけ・大	12.1	8.0	3.0	2/3		○		○		橙	白針
77	土器	ロクロかわらけ・大	(12.9)	8.0	3.2	2/3		○		○		橙	白針
78	土器	ロクロかわらけ・小	(5.5)	4.0	1.1	2/5		○		○		橙	白針
79	土器	ロクロかわらけ・小	8.2	6.7	1.6	2/3		○		○		橙	白針
80	土器	ロクロかわらけ・小	(8.7)	6.3	1.7	3/5		○		○		橙	白針
81	磁器	同安窯系青磁皿	(9.8)	(4.8)	1.9	1/6						淡灰透明	大宰府I類 口唇部敲打痕 露体部 淡黒色に変色
82	鉄製品	板状製品	長さ [7.5]	幅 5.4	厚さ 0.4	両端欠損	[37.6]					—	
83	土器	ロクロかわらけ・小	9.0	6.5	1.7	2/3		○		○		橙	白針、砂質
84	磁器	同安窯系青磁劃花文碗	—	5.2	[3.1]	底1/2						灰緑透明	大宰府I類
85	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.4	1.8	4/5		○		○		淡黄橙	白針
86	土器	ロクロかわらけ・中	(10.8)	(7.0)	3.2	1/3		○				橙	白針 口縁部煤付着 器面剥落
87	土器	ロクロかわらけ・大	(11.8)	(8.0)	2.9	1/5		○				黄橙	白針
88	土器	ロクロかわらけ・大	(12.4)	7.6	3.3	4/5		○		○		黄橙	白針 89とほぼ同法量
89	土器	ロクロかわらけ・大	12.4	7.4	3.5	ほぼ完形	201.0	○				黄橙	白針 88とほぼ同法量
90	土器	ロクロかわらけ・大	(13.6)	(8.0)	3.7	1/2		○		○		橙	白針
91	土器	ロクロかわらけ・内折	(5.4)	(3.8)	0.9	1/4		○				黄橙白	白かわらけ
92	磁器	白磁皿	—	—	[1.8]	口小片						淡青灰半透明	
93	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.0]	口小片						灰白半透明	大宰府IX類
94	磁器	白磁口禿皿	—	(6.8)	[0.8]	底1/4						淡灰オリーブ半透明	大宰府IX類 外底面も施釉
95	磁器	白磁口禿印花皿	—	—	[1.7]	口小片						淡青白半透明	
96	舶載陶器	泉州窯系黄釉盤	—	—	[2.8]	口小片						緑灰	軟質
97	陶器	常滑甕	—	—	[5.5]	口小片						暗褐	6a型式 白色粒・黒色粒
98	石製品	硯	長さ [8.2]	幅 [3.7]	厚さ 1.3	不明	[62.0]					暗灰	鳴滝硯 (若王子石) 方硯雲形硯 水滴座 (筆舟も在)
99	石製品	仕上砥	長さ [3.0]	幅 3.2	厚さ 0.6	片端欠損	[12.4]					明灰黄	鳴滝 仕上砥
100	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.1	1.7	ほぼ完形	48.0	○		○		橙	白針
101	土器	ロクロかわらけ・大	12.8	8.1	3.5	2/3		○		○		橙	白針 内面煤付着
102	土器	ロクロかわらけ・大	13.1	8.2	3.4	完形	181.0	○		○		橙	白針
103	土器	ロクロかわらけ・中	10.3	6.2	3.0	2/3		○		○		橙	口縁部煤付着 薄手丸深
104	土器	ロクロかわらけ・中	10.5	6.2	2.8	3/4		○		○		橙	口縁部煤付着 薄手丸深
105	土器	ロクロかわらけ・中	11.2	6.2	3.2	ほぼ完形	112.0	○				橙	口縁部煤付着 薄手丸深

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状	板状	スノコ状		
106	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.0	3.1	2/3		○		○		橙	口縁部煤付着 薄手丸深
107	鉄製品	釘	長さ [5.4]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損	[2.8]					—	
108	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	2.2	4/5		○				黄橙	白針
109	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.0	3.0	4/5		○		○		黄橙	白針
110	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.3	4/5		○				灰黄	白針
I 区出土遺物 (4) (図 13)													
111	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.8	1.5	ほぼ完形	58.0	○		○		赤橙	白針
112	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.8	5/6		○				黄橙	白針
113	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	5/6		○				黄橙	白針
114	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.9	完形	77.0	○				橙	白針 器形歪み顕著
115	土器	手づくね かわらけ・大	(12.6)	—	3.5	2/3		○				黄橙	白針
116	磁器	白磁 口禿碗	—	—	[3.5]	口小片						灰白 半透明	大宰府Ⅸ類
117	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	胴小片						褐	
118	鉄製品	釘	長さ 8.4	幅 0.4～ 0.7	厚さ 0.3～ 0.4	完形	9.0					—	
119	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.5	厚さ 0.3	完形	8.0					—	
120	鉄製品	釘	長さ 6.3	幅 0.4	厚さ 0.3	完形	5.0					—	
121	鉄製品	釘	長さ 5.1	幅 0.6	厚さ 0.5	完形	6.0					—	
122	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	2.6					—	至道元寶 (真書) 中国北宋代 995年初鑄
123	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(8.2)	1.7	1/2		○		○		赤橙	白針 外底面に別の板状粘土が貼り 付く
124	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.4	1/3		○				黄橙	白針 口縁部面取り 薄作り
125	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.4	2/3		○				橙	白針 粘土板結合法成形 外底棒状 圧痕 内底面淡黒色に変色
残土山・Ⅱ区出土遺物 (図 14)													
126	石製品	中砥	長さ [10.7]	幅 4.8	厚さ 3.8	片端欠損	[309.0]					明灰	上野 中砥
127	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.5	2/3		○		○		橙	白針
128	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.6	3.5	2/3		○		○		橙	白針
129	陶器	尾張型 山茶碗	—	(6.0)	[2.1]	底 1/4						明灰	長石粒
130	石製品	基石	長さ 2.0	幅 1.8	厚さ 0.3	完形	2.1					黒	
131	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.9					—	紹聖元寶 (篆書) 中国北宋代 1094年初鑄
132	土器	ロクロ かわらけ・内折	4.7	3.8	1.8	1/2		○		○		黄橙	
133	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.6	ほぼ完形	60.0	○		○		黄橙	白針
134	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.3	1.4	完形	49.0	○		○		黄灰	白針
135	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	2.0	3/4		○		○		橙	白針
136	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.6	1.8	ほぼ完形	60.0	○		○		黄橙	白針
137	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.7	2.1	4/5		○				橙	白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.5	2.3	2/3		○		○		黄橙	白針
139	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.0	3.1	4/5		○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状	板状	スノコ状		
140	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.9	3.2	3/4		○		○		橙	白針、砂質 内面淡黒色に変色
141	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.3	3.1	3/4		○		○		橙	白針、砂質
142	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.3	3.7	完形	2120	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き 口縁部煤付着
143	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.4	3.5	3/4		○		○		黄橙	白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	7.5	3.9	2/3		○		○		橙	白針
145	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	7.0	3.0	3/5		○		○		橙	白針 口縁部内面淡黒色に変色
146	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.9	2/3		○				橙	白針
147	土器	ロクロ かわらけ・小	(5.6)	(4.0)	0.9	1/4						白	白かわらけ 内折れ
148	陶器	瀬戸 入子	(5.8)	(3.6)	1.8	口1/6～ 底1/3						明灰	白色粒・黒色粒
149	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小片						褐	6b 型式 長石粒
150	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	9.9	口～ 底部片						褐	6b～7 型式 長石粒
151	陶器	常滑 片口(無頸壺)	(14.8)	(8.8)	7.7	1/6						褐	長石粒
152	土製品	円盤	長さ 2.2	幅 2.2	厚さ 0.5	完形	3.6					橙	土師質土器片を転用 白針
153	陶器	陶丸	長さ 2.1	幅 2.1	厚さ 2.0	完形	10.1					灰白	陶器片を転用 白色粒
154	陶器	常滑 転用研磨具	長さ 5.0	幅 6.2	厚さ 1.4	完形	43.0					明灰	片口鉢Ⅰ類片を転用 長石粒
155	鉄製品	釘	長さ 7.6	幅 0.8	厚さ 0.6	完形	6.0					—	
156	鉄製品	釘	長さ [6.1]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損	[2.9]					—	
157	鉄製品	釘	長さ [4.9]	幅 0.5	厚さ 0.7	下端欠損	[2.8]					—	
158	鉄製品	釘	長さ [3.0]	幅 0.5	厚さ 0.3	下端欠損	[0.7]					—	
159	鉄製品	鏝?	長さ 8.5	幅 0.1～ 0.5	厚さ 0.1～ 0.3	完形	6.5					—	
160	鉄製品	棒状具	長さ [14.1]	幅 0.4/0.9	厚さ 0.4/0.9	下端欠損	[13.1]					—	簪状
161	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.8	1/2		○		○		黄橙	◆3面遺構 12 (Pit) 白針
162	土器	ロクロ かわらけ・内折	(4.6)	(3.4)	1.0	1/4		○		○		橙	体部外面の一部ヘラ削り状
163	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	2.1	3/4		○		○		黄橙	砂質
164	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.7	完形	64.0	○		○		橙	白針、砂質 口縁部煤付着
165	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.2	1.9	3/4		○		○		黄橙	白針 口縁部煤付着
166	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.2)	3.3	1/3		○				橙	
167	土器	ロクロ かわらけ・大	14.0	8.2	3.5	5/6		○		○		黄橙	薄手丸深
168	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	—	1.6	4/5		○				黄橙	白針 粘土板結合法による成形
169	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.5	4/5		○				黄橙	白針 粘土板結合法による成形
170	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.9	完形	72.0	○				橙	白針 粘土板結合法による成形
171	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.0	2/3		○				橙	白針



1. 現地調査前（北東から）



5. I区2面 検出状況（北から）



2. I区 表土掘削状況（南東から）



6. I区2面 遺構2上層 かわらけ出土状況（東から）



3. I区1面 攪乱除去後（北から）



7. I区2面 遺構2中層 かわらけ出土状況（北から）

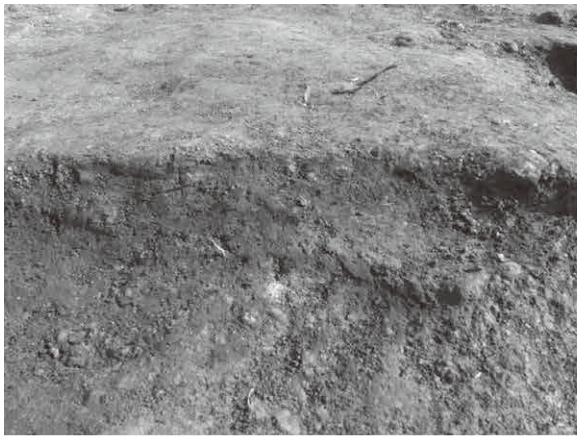


4. I区1面 検出状況（東から）



8. 同上 近景（南から）

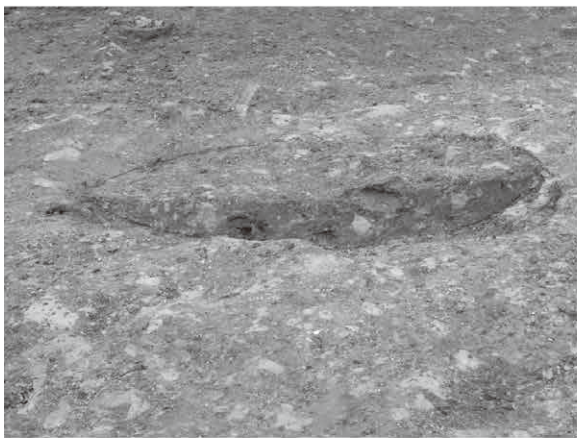
図版2



1. I区2面 遺構2 南壁面 (北から)



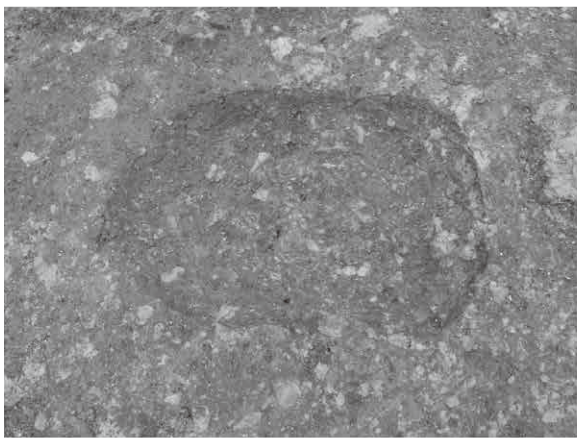
5. I区2面 全景 (北から)



2. I区2面 遺構3 断面 (南から)



6. I区2面 北半部 (南西から)



3. I区2面 遺構3 (南から)



7. I区2面下 断面 (南西から)



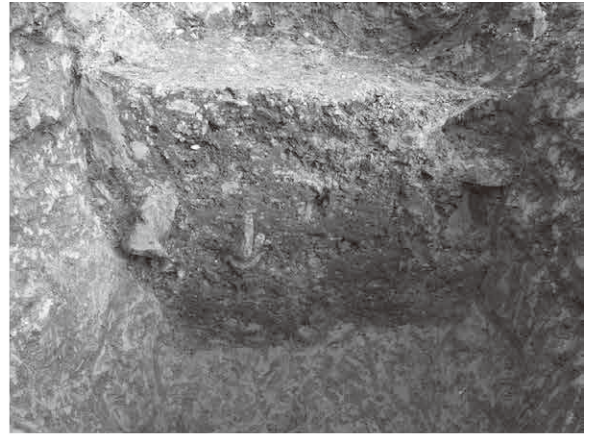
4. I区2面 調査風景 (北西から)



8. I区3面 遺構8上 かわらけ出土状況 (南東から)



1. I区3面 清掃作業 (南東から)



5. I区3面 遺構4断面 (北から)



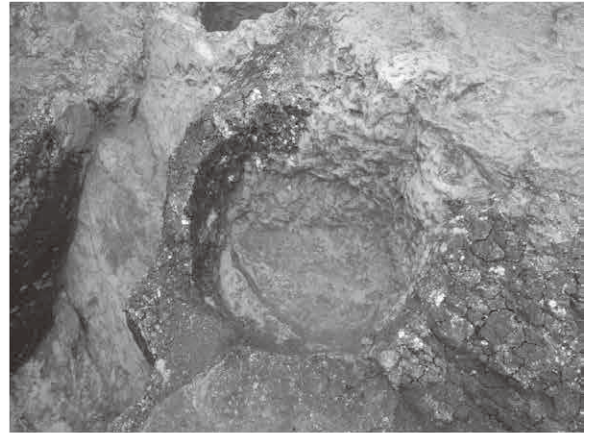
2. I区3面 全景 (北から)



6. I区3面 遺構4 (北西から)



3. I区3面 全景 (西から)



7. I区3面 遺構5 (南西から)



4. I区3面 遺構4・5 (北東から)



8. I区3面 岩盤斜面 (北西から)

図版4



1. I区3面 遺構6～8 (北東から)



5. I区 北壁断面(2面遺構2の落ち込み:北から)



2. I区3面 遺構9断面(西から)



6. I区南壁 土層断面(北から)



3. I区3面 岩盤上階段状痕跡(南から)



7. I区東壁 土層断面(西から)



4. I区北壁 土層断面(南から)



8. I区 岩盤斜面上堆積 確認トレンチ(東から)



1. I区 岩盤斜面上堆積 (南西から)



3. 調査地点近景 (北から)



2. I区 岩盤斜面上堆積 (北西から)

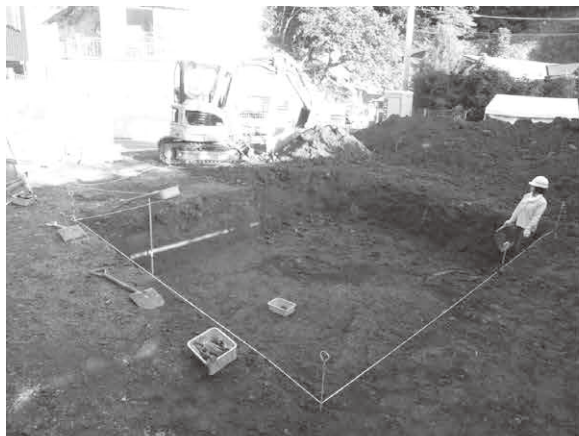


4. I区調査終了後 空撮作業風景 (東から)



5. I区調査完了時 上空撮影 (上が北)

図版6



1. II区 表土掘削状況 (北西から)



2. II区1面 全景 (南から)



3. II区2面 全景 (南から)



4. II区2面下 全景① (南から)



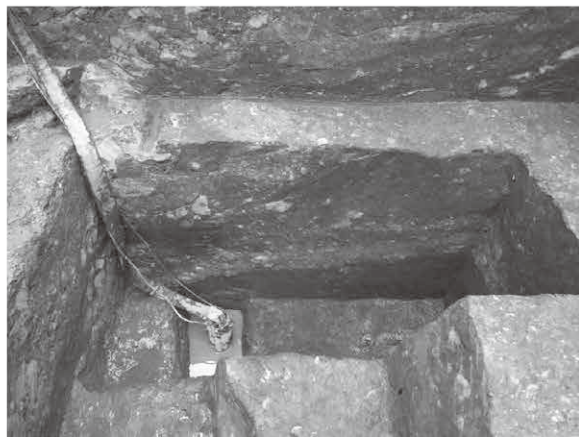
5. II区2面下 全景② (南から)



6. II区2面下 琥珀片出土状況 全景 (西から)



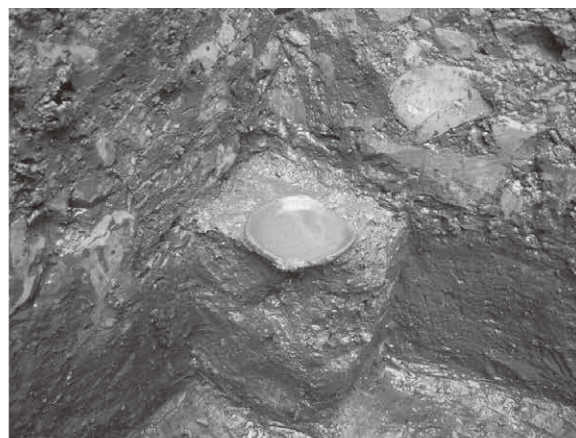
7. II区3面下 最終全景 (南から)



8. II区3面下最下層 土層断面 (南から)



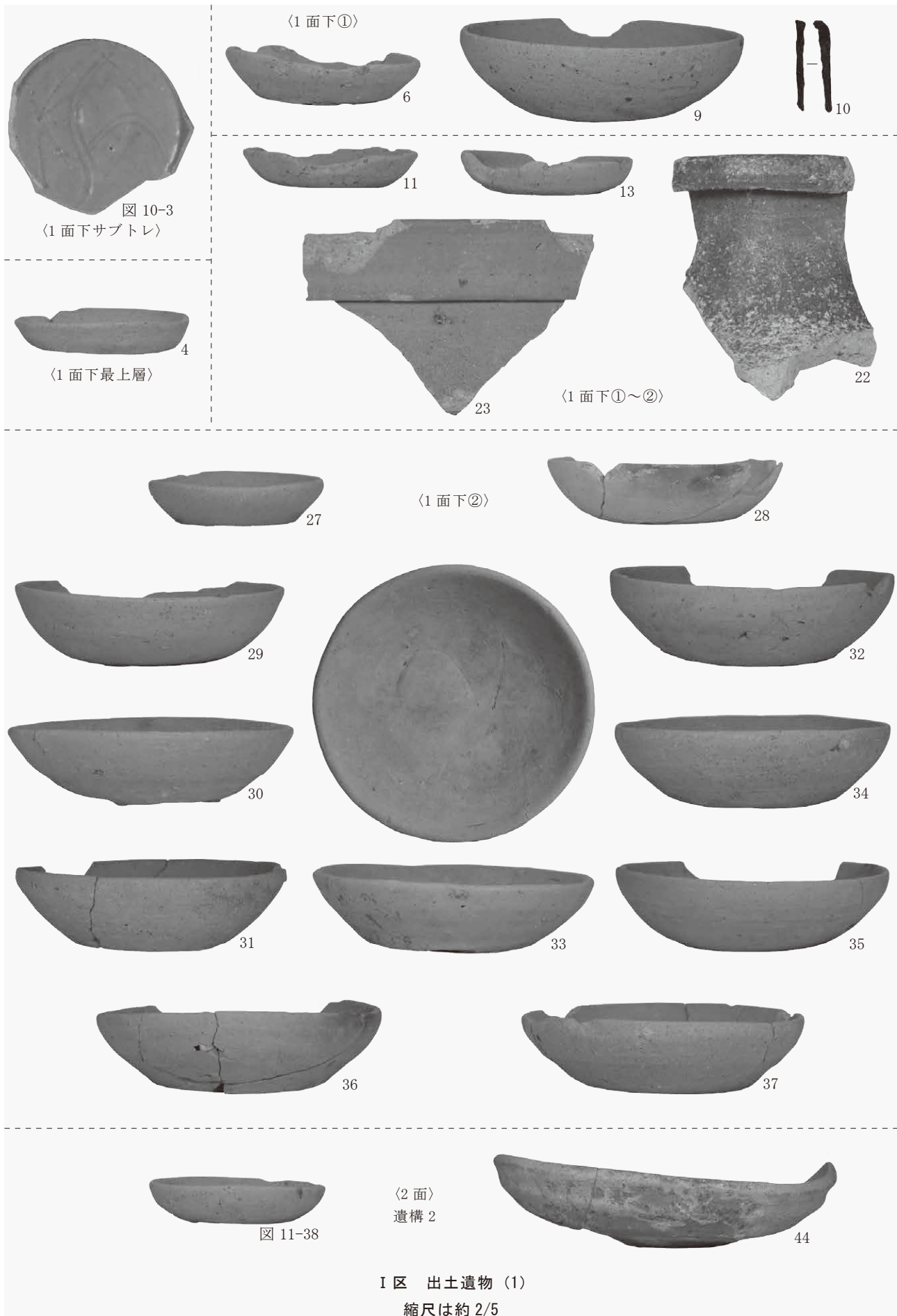
1. I区3面下最下層 土層断面 (南西から)

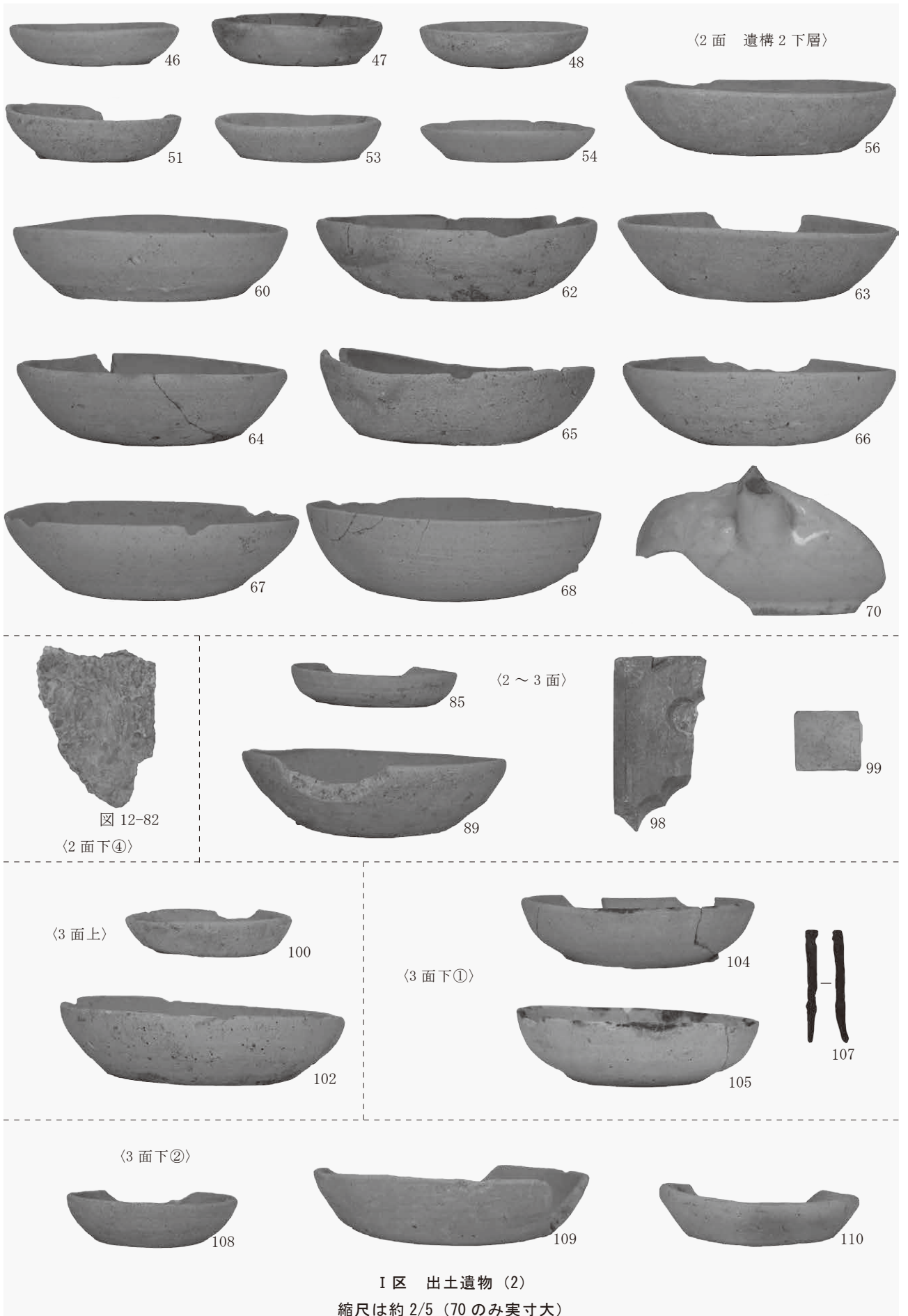


2. II区3面下 かわらけ出土状況 (東から)

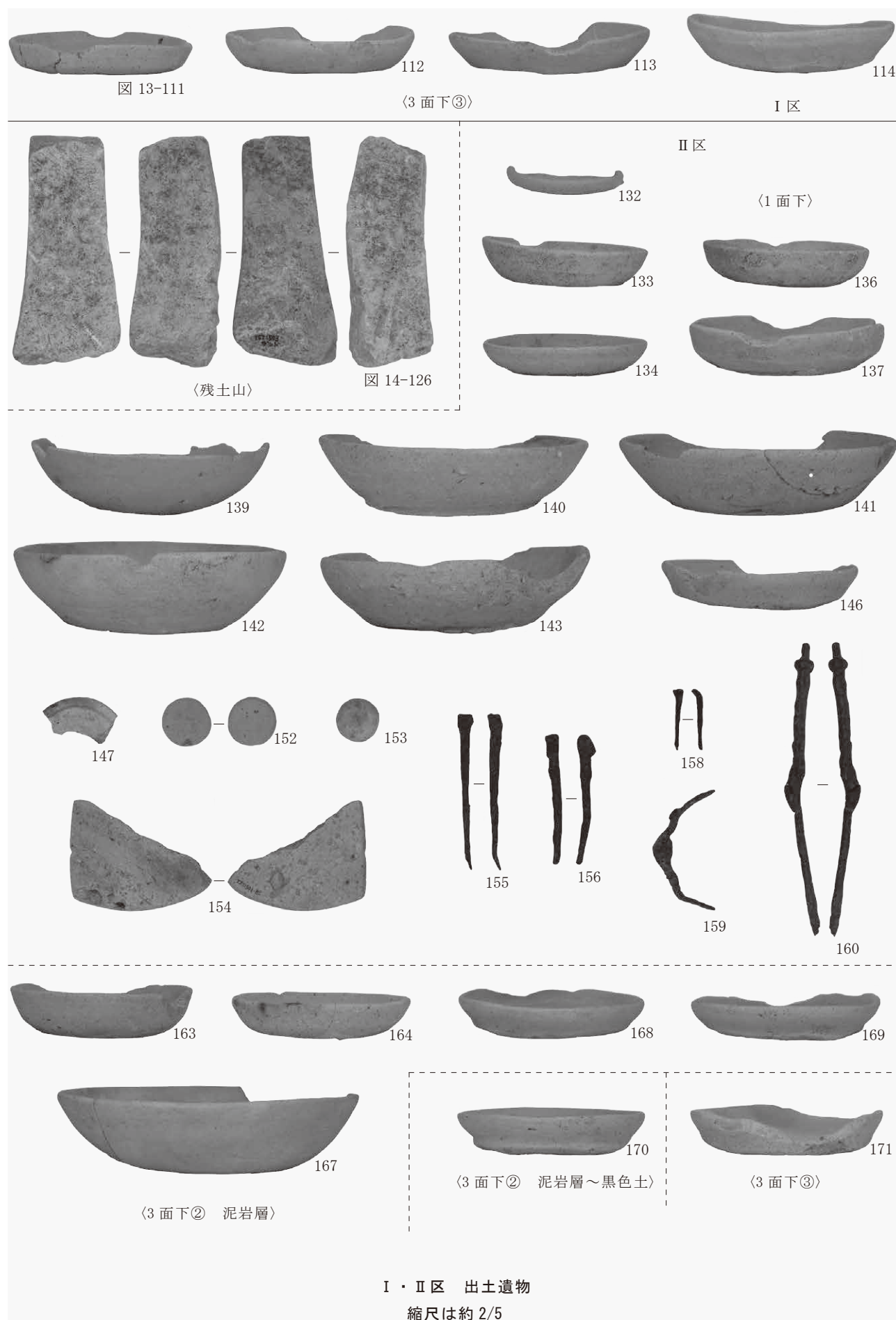


3. 調査地～鶴岡八幡宮を望む (南上空から)





図版 10



I・II区 出土遺物
縮尺は約 2/5

大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

二階堂字荏柄12番8地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市二階堂字荏柄12番8において実施した、大倉幕府周辺遺跡群（鎌倉市No.49）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成28年5月11日から同年7月15日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、64.43㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。
主任調査員 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員 榎岡ケイト、松吉里永子、菅野知子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作業員 安達越郎、永野幹晴、星 栄人、高柳雅一、本村一行、平林 泉、小松原一郎
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
整理作業参加者 押木弘己、吉田桂子、菅野知子、神田倫子、正木恵子
（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「OBS1602」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09′ 25″ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
 - ◆火鉢：河野真知郎 1992「鎌倉の搬入土器と在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅷ』日本中世土器研究会（A～G類表記）
：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において」『考古論叢神奈河』第2集 神奈川県考古学会（I～VI類表記）
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	301
第1節 遺跡の立地と沿革	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過	305
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層	306
第四章 発見された遺構と遺物	309
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第五章 調査成果のまとめ	338
付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析	339

挿図目次

図1 周辺の発掘調査地点	302	図9 最終掘削深度	315
図2 調査区配置図	306	図10 表面採集・表土出土遺物	316
図3 土層断面図	307	図11 上層遺構面までの出土遺物	317
図4 上層遺構群	309	図12 上層遺構出土遺物(1)	318
図5 上層遺構 東西溝・柱穴列	310	図13 上層遺構出土遺物(2)	319
図6 上層遺構 南北溝	312	図14 下層遺構面までの出土遺物	320
図7 下層遺構群	313	図15 下層遺構出土遺物	320
図8 下層 溝状遺構群	314		

表目次

表1 周辺調査地点一覧	303	表3 出土遺物カウント・計量表	321
表2 上層遺構観察表	311	表4 出土遺物観察表	335

図 版 目 次

図版 1	345	図版 5	349
1. 現地調査前 (南東から)		1. II区上層① 全景 (西から)	
2. I区 表土掘削状況 (南から)		2. II区上層② 全景 (西から)	
3. I区上層 全景 (西から)		図版 6	350
4. I区上層 遺構 1001・1036 (東から)		1. II区上層③～下層①全景 (西から)	
5. 同左 低位から (東から)		2. II区上層③ 遺構 1036 (西から)	
図版 2	346	3. II区下層① 遺構 2009・2010 (西から)	
1. I区上層 遺構 1001・1036 (西から)		4. II区下層① 遺構 2010 土器出土状況 (西から)	
2. I区上層 遺構 1001 断面 (西から)		図版 7	351
3. I区上層 遺構 1036 断面 (東から)		1. II区下層② 全景 (西から)	
4. I区上層 遺構 1002 (南から)		2. II区下層② 遺構 2011 検出状況 (北から)	
5. I区上層 遺構 1002 断面 (南から)		3. II区下層② 遺構 2011 (南から)	
6. I区上層 遺構 1014 断面 (西から)		4. II区下層② 遺構 2011 断面 (北から)	
7. I区上層 遺構 1014 底面 (西から)		図版 8	352
8. I区上層 遺構 1014 底面の礎板痕跡 (西から)		1. II区下層② 遺構 2013 (東から)	
図版 3	347	2. 同上 低位から (南西から)	
1. I区下層 全景 (南から)		3. I区下層調査時 上層遺構 1162(北から)	
2. I区下層 遺構 2009・2010・2014 (東から)		4. 同上 断面 (北から)	
3. I区下層 遺構 2009・2010 断面 (東から)		5. II区下層調査時 上層遺構 1036 断面 (東から)	
4. I区下層 遺構 2013 断面 (東から)		6. II区下層 遺構 2011 断面 (北から)	
5. I区下層下 トレンチ掘削状況 (南西から)		7. II区上層遺構 1174・下層遺構 2009 断面 (東から)	
図版 4	348	8. II区北壁断面 土層サンプリング箇所 (南から)	
1. I区下層下 全景 (北から)		図版 9 出土遺物	353
2. I区下層下 トレンチ①底面 (東から)			
3. I区下層下 トレンチ①断面 (北から)			
4. I区下層下 トレンチ①断面 (西から)			
5. I区下層下 トレンチ② (西から)			
6. I区下層下 トレンチ②断面 (西から)			
7. I区下層下 トレンチ②断面 (北から)			
8. I区下層下 トレンチ②・③断面 (北西から)			

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の立地と沿革

大倉幕府周辺遺跡群は鎌倉中心市街地の北東部に所在し、治承四年(1180)以降、頼朝以下源氏三代将軍が居住した大倉御所(幕府)推定地の東西と南を「コ」字状に取り囲む形で展開している(図1)。現在、御所推定地は「大倉幕府跡」の遺跡名で登録され、その西限は横浜国立大学附属小・中学校校地の東辺とされているが、かつては県道の「筋違橋」から校地内を縦断して西御門の谷戸へ抜ける道路が存在していたことから、これを幕府西限の名残とする理解がある。現在、清泉小学校南西角の市道上には「大蔵幕府旧跡」の碑が建つが、今までのところ推定地中心部での発掘例は皆無に近く、御所本体の存在を裏付ける考古学的知見は得られてない。推定地内では鎌倉時代初期の地表面に達するまでに3m以上の深さを測るケースが多く、荏柄天神社参道付近と比べ相対的に低い土地であったことが明らかとなりつつあることから、史料考証に基づいた従来の評価を疑問視する向きもある。ただ、図1-地点⑨では御所東辺とされる東御門川の前身とも見なせる鎌倉時代初期の南北大溝2条が検出されるなど御所の傍証となり得る発見もある。限定的かつ断片的な発掘成果しかない現時点では、土地の高低差のみを根拠に従来の考証結果を覆すことは性急に過ぎるだろう。資料の増加に伴い、地道に検討を積み重ねる努力が必要である。

本地点は「関取場跡」の石碑から国史跡永福寺跡へと向かう市道の南に位置し、この市道は『吾妻鑑』寛喜三年(1231)や建長三年(1251)の火災記事に登場する「二階堂大路」の後身と見なせる。同大路の開通時期に関する記録は残っていないが、永福寺の創建にあたり、礎石や木材・瓦といった膨大な量の資材が運搬されたことを想起すれば、本格的造営に先立つ建久初年(1190)頃には一定規模の道路が開通していたと考えるのが自然であろう。

建保七(1219)年正月に起きた三代将軍実朝の横死を受け、同年(承久元年に改元)七月には摂関家から幼少の三寅(九条頼経)が将軍継嗣として迎えられ、北条義時「大倉亭」の郭内南方に新造なった邸宅が居所とされた。義時の大倉亭は史料検討を通じて二階堂大路の東にあったと考証され、嘉禄元年(1225)十二月に宇津宮辻子新御所に移転するまでの間、仮御所が郭内に所在したとされている(秋山2010・高橋2016)。現代の地理感覚からすると二階堂大路の東という理解では字句通りに受け止め難いところがあるので、東=南辺と意識して考えるべきだろうか。ちなみに、頼経の将軍任命は新御所移転の翌年、嘉禄二年(1226)正月のことである。

奈良～平安時代の当地区に目を向けると、正倉院文書の「相摸国天平七年封戸租交易帳」(735)①や、承平年間(931～938)成立の『和名類聚抄』②に見える鎌倉郡「荏草(えがや)郷」が、現存する小字名「荏柄」に通じるとされている。②は鎌倉郡所在郷として他に、鎌倉・尺度・沼浜・埼玉・梶原・大島の各郷名を掲げている。この時期の鎌倉郡衙(郡家)は今小路西遺跡(御成小学校地点)の調査で発見されており、①・②に加え、綾瀬市宮久保遺跡出土の天平五年銘木簡にも記載されている「鎌倉郷」を郡衙周辺に当てはめる見方が有力である。

本地点は、地形的には滑川右岸の沖積微高地上に立地し、現況での標高は約12.4mを測る。次節で述べる周辺成果から、旧二階堂大路関連遺構や古代遺構の発見が期待された。



図1 周辺の発掘調査地点（鎌倉市発行1：2,500都市計画基本図を使用・改変）

表1 周辺調査地点一覧

No.	地番	調査年度	面積 (㎡)	所収報告書(正式報告のみ)
大倉幕府周辺遺跡群(No.49)				26・⑤・⑦・⑧は横小路周辺遺跡の旧範囲内
1	雪ノ下四丁目620番1	1980年度	280	未報告
2	雪ノ下四丁目600番	1980年度	トシテ	未報告
3	雪ノ下四丁目581番2	1981～1982年度		未報告
4	雪ノ下四丁目620番2	1983年度	240	未報告
5	雪ノ下四丁目610番2	1983年度	620	未報告
6	雪ノ下四丁目565番4	1989年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会 菊川英政1991
7	二階堂字荏柄38番1	1991年度	1000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄1993
8	雪ノ下三丁目606番1	1991年度	350	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政1993
9	雪ノ下三丁目607番	1992年度	140	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政1994
10	雪ノ下字天神下562番29	1994年度	30	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか1996
11	雪ノ下四丁目620番5	1996年度	252	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄1998
12	雪ノ下字大倉耕地562番16	1999年度	78	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川 泉2001
13	雪ノ下四丁目580番10	1999年度	129	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか2001
14	二階堂字荏柄58番4外	2000年度	281	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか2002
15	雪ノ下三丁目607番1	2001年度	44	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 降矢順子ほか2004
16	雪ノ下四丁目567番7	2002年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄2004
17	二階堂字荏柄27番3の一部	2002年度	54	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志2006
18	雪ノ下四丁目581番5	2003年度	1630	『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄ほか2007
19	二階堂字荏柄76番7外	2005年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどかほか2014
20	雪ノ下四丁目570番1	2006年度	32	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄2014
21	二階堂字荏柄3番6外	2006年度	122	未報告
22	二階堂字荏柄76番4	2006年度	42	未報告
23	雪ノ下字天神前562番30	2007年度	26	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 沖元 道2016
24	二階堂字荏柄3番6外	2007～2008年度	54	未報告
25	二階堂字荏柄38番2	2011～2012年度	1552	未報告
26	二階堂字荏柄12番8	2016年度	64	本報告
⑤	二階堂字横小路110番3	1996年度	18	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 野本賢二1998
⑦	二階堂字荏柄10番6	1998年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか2000
⑧	二階堂字荏柄10番1	2000年度	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか2003
大倉幕府跡(No.253)				
①	雪ノ下四丁目569番	1989年度	162	『大倉幕府周辺遺跡群』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 馬淵和雄1990
②	雪ノ下三丁目707番1	1990年度	30	未報告
③	雪ノ下三丁目651番8	1997年度	15	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫1999
④	雪ノ下三丁目618番4	2000年度	24	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫2002
⑤	雪ノ下三丁目701番14	2002年度	45	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子2005
⑥	雪ノ下三丁目701番3	2002年度	81	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄ほか2005
⑦	雪ノ下三丁目701番1	2003年度	16	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 鍛冶屋勝二2005
⑧	雪ノ下三丁目704番3外	2005年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠2011
⑨	雪ノ下三丁目637番4	2006年度	68	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 熊谷 満2011
⑩	雪ノ下三丁目629番1	2007年度	170	『大倉幕府跡発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 真 他2011
⑪	雪ノ下三丁目637番6外	2007年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか2018
⑫	雪ノ下三丁目635番2外	2008年度	47	『大倉幕府跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 熊谷 満ほか2012
⑬	雪ノ下三丁目693番8	2009年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己2015
⑭	雪ノ下三丁目648番3	2009年度	38	未報告
⑮	雪ノ下三丁目694番18	2009年度	42	『大倉幕府跡(No.253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか2013
⑯	雪ノ下三丁目693番1	2009年度	56	『大倉幕府跡(No.253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか2013
⑰	雪ノ下三丁目648番8	2010年度	54	未報告
⑱	雪ノ下三丁目618番8、 653番10	2013年度	29	『大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか2017
⑲	雪ノ下三丁目628番1	2014年度		未報告
横小路周辺遺跡(No.259)				
③	二階堂字荏柄9番1	1987～1988年度	500	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会 菊川英政1990

⑤・⑦・⑧は現在の遺跡範囲では大倉幕府周辺遺跡群に含まれるが、横小路周辺遺跡として報告

第2節 周辺の調査成果

大倉幕府周辺遺跡群では、現在までに29地点で発掘調査が実施され、この中には横小路周辺遺跡として報告された字荏柄の3地点も含まれている(図1・表1)。本地点の東100mに位置する**地点7**では旧二階堂大路に並行する大規模な溝が検出され、鎌倉時代初期から近世にかけて20数回もの造り替えが確認されている。位置的に見て二階堂大路の北側溝と考えると大過なく、鎌倉時代前期には北岸に沿う形で柱穴が並列することから、板塀など遮蔽施設が付帯する時期もあったと考えられる。また、**図1**の範囲からは東に外れてしまうが、本地点から北東に230m離れた横小路周辺遺跡の一地点でも調査区の南端部で南東に落ち込む斜面堆積が確認されており(野本1999)、この北肩のラインが旧二階堂大路と概ね並行することから、これも大路北側溝の延伸部であった可能性を指摘できる。

先述したように大倉御所推定地の東側一帯は微高地となっており、中世基盤層の検出レベルも高い。こうした幕府中枢近くの微高地上では、頼朝入部後のごく早い段階から武家の宿館や寺院地として土地利用が進んでいったことが発掘調査の結果により明らかとされている。**地点7・25**では鎌倉時代前半の土器(かわらけ)一括廃棄土坑が複数基検出され、特に**地点25**での古相かわらけの一括出土を受けて、近年では在地土器編年の再構築に向けた取り組みが活発化している(八重樫・高橋2016など)。ただ、**地点25**については正式報告書が未刊行であるため、土器が示す各年代における土地利用の実態は詳らかとなっていない。

微高地エリアでは、古代以前に遡る遺構・遺物の検出事例も多い。詳しい報告はないが、**地点7・25**では古墳時代～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物・井戸に加え、幾筋かの蛇行する旧河道が確認されている。**地点25**では中世基盤層下から大型の薬研堀も発見され、出土した灰釉陶器の碗から10世紀後半以降の開削であることが指摘でき(押木2016)、具体的な年代とともに、堀の性格や開削主体者の実像が注目される。このほか、本地点の東方150mの横小路周辺遺跡(市立第二小学校地点=向荏柄遺跡)では平安時代の竪穴住居7軒が、西方190mの大倉幕府跡**地点⑫**では中世基盤層の下で2間×2間以上の総柱式掘立柱建物1棟が検出されるなど、古代「荏草郷」を構成する集落が点在していた状況が把握されつつある。

県道金沢鎌倉線の南側では、**地点11・18**で弥生時代中期後葉～後期後半の竪穴住居が数多く分布し、近在の未報告地点でも同時期の住居が多数確認されているという。鎌倉平野部では最も古く、まとまりをもった住居展開といえ、微高地上を居住域とし、周囲の低地帯を水田生産域に置いた拠点集落として評価できる。**地点18**では古墳時代前期初頭の方形周溝墓が単基で確認され、居住域から墓域への土地利用の変化のみならず、地域を統括する首長墓の萌芽をも窺うことができる。

主要参考文献

- ・野本賢二ほか 1999「横小路周辺遺跡(No.259) 二階堂字横小路93番11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- ・秋山哲雄 2010『都市鎌倉の中世史』吉川弘文館
- ・押木弘己 2016「相模国における古代末期の土器様相」『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』鎌倉かわらけ研究会
- ・高橋慎一郎 2016「御所と邸宅」『現代語訳吾妻鑑』別巻 吉川弘文館
- ・八重樫忠郎・高橋一樹編 2016『中世武士と土器かわらけ』高志書院
- ・特定非常利活動法人鎌倉考古学研究所 2016『「二階堂地域を学ぶI」資料集』

この他、表1に掲載した調査報告書は割愛した。

第二章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯

本調査は、個人住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的に実施した。建築に当たり、建物の基礎下に最大深度7.25 mの鋼管杭を打ち込む設計であったことから、鎌倉市教育委員会文化財課では平成27年9月8日に埋蔵文化財の遺存状況について確認調査を実施した。その結果、現地表下10cmで中世の整地面を確認し、以下、地表下86cmまでに最大で5枚の中世遺構面が遺存している状況が確認された。この結果を受け、杭打ち施工に先立ち発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から東半部のⅠ区と西半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区からⅡ区の順に調査を進めた(図2)。

表土掘削はⅠ・Ⅱ区とも重機によって行い、遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。

測量に当たっては、国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設定し、主に光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は市道上に設置された都市再生街区多角補助点「3A071」と「3A029」との二点間関係をもとに開放トラバース法で行った。標高は、多角点「20A31」(14.235 m)を起点に、光波測距儀で高低差測量を繰り返して敷地内の測量杭に移した。測量の基準として使用した多角点および補助点の国家座標値は、東日本大震災後の補正值である(JGD2011)。

第3節 調査の経過

Ⅰ区の表土掘削は平成28年5月10日に実施した。翌日には調査用具を搬入し、本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影など記録作業を進め、6月8・9日にはⅠ区の埋め戻しとⅡ区の表土掘削を行った。Ⅱ区でも掘削と記録を順次進め、7月8日には全ての記録作業を終え、12・13日にⅡ区の埋め戻し、15日には調査用具を撤収して、現地での調査工程を全て終了した。

出土品および記録類の整理作業は平成28年度後半から着手し、報告書の執筆・編集作業は29年度の後半に進めた。これら一連の整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

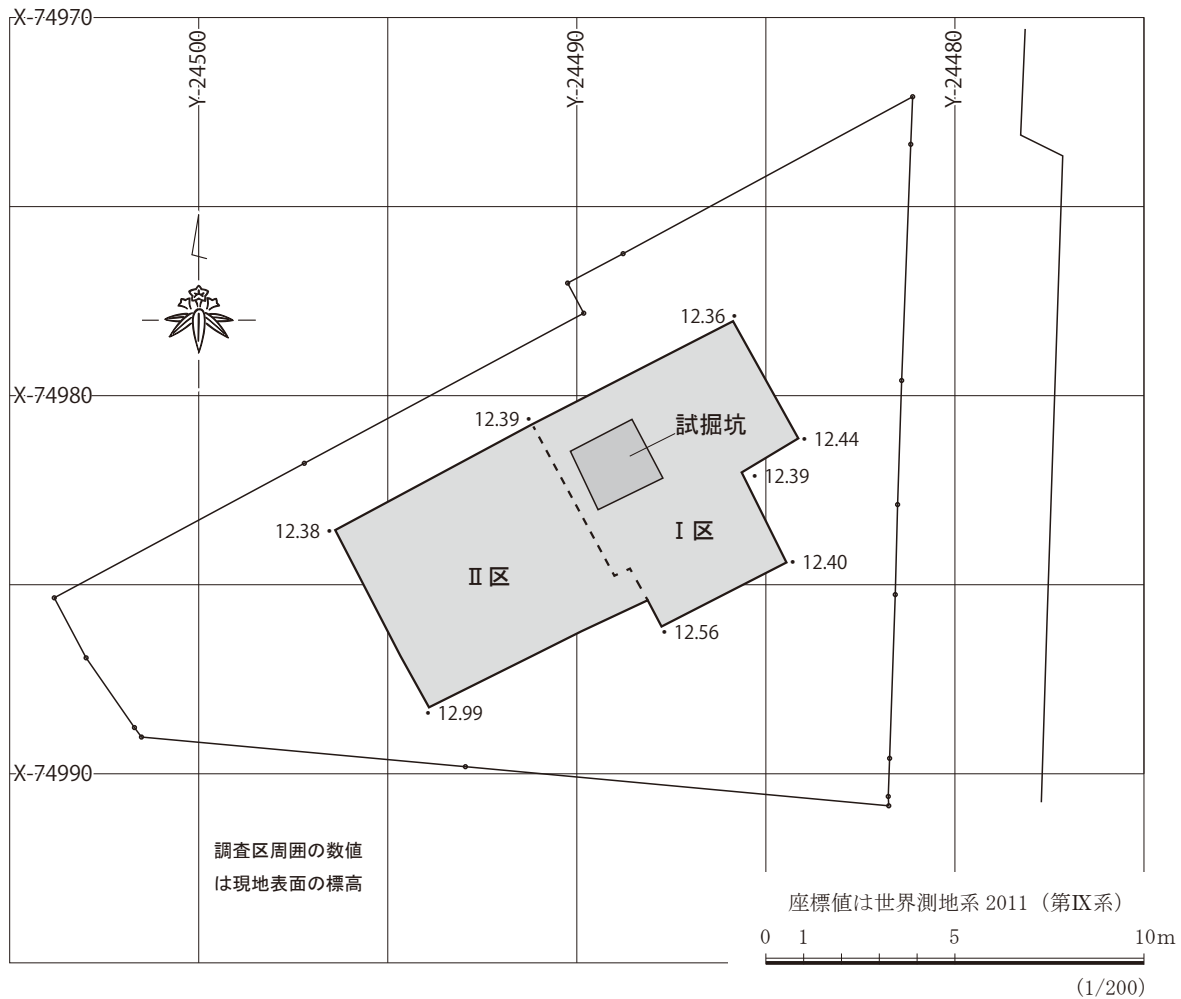


図2 調査区配置図

第三章 基本土層

現地表面の標高は図2に示した通りで、敷地の南西側が最も高くなっている。

図3には、本地点の土層堆積状況を示した。基本土層は大きくI～V層に分層でき、Ⅲ・Ⅳ層は色調の変化などにより、さらに細分できた。図中ではⅡ層の具体的位置は明示されていないが、Ⅰ層とⅢ層に挟まれた中世の整地層全般を指す。Ⅲ層は中世基盤層がベースの黒色～黒灰色の粘質土で、鎌倉の発掘従事者は「ネチャ」と呼んでいる。

本報告では、Ⅱ層で確認した遺構を上層遺構群、Ⅲ層で確認した遺構を下層遺構群としてまとめた。調査区全体を掘り下げたのはⅣa層上面までで、ここで下層遺構の見落としがないか確認した。以下はⅠ区に確認トレンチを設定して、下部の堆積状況および遺構・遺物の有無について確認を試みた。その結果、Ⅳ層中での出土遺物は古墳時代以前の土器小片に限られ、基本的に水平堆積で層序の乱れも認められなかった。Ⅴ層は部分的な確認となったが、南東から北西に向けて緩やかに下がる様子が見て取れた。黒褐色土をベースに凝灰岩の砂礫を多く含み、検出範囲の限りでは、出土遺物はなかった。明確な根拠はないが、一時的な水流などに伴う自然堆積層と考えている。

確認トレンチの最深部標高は10.75 mで、これ以下の掘り下げは行わなかった。

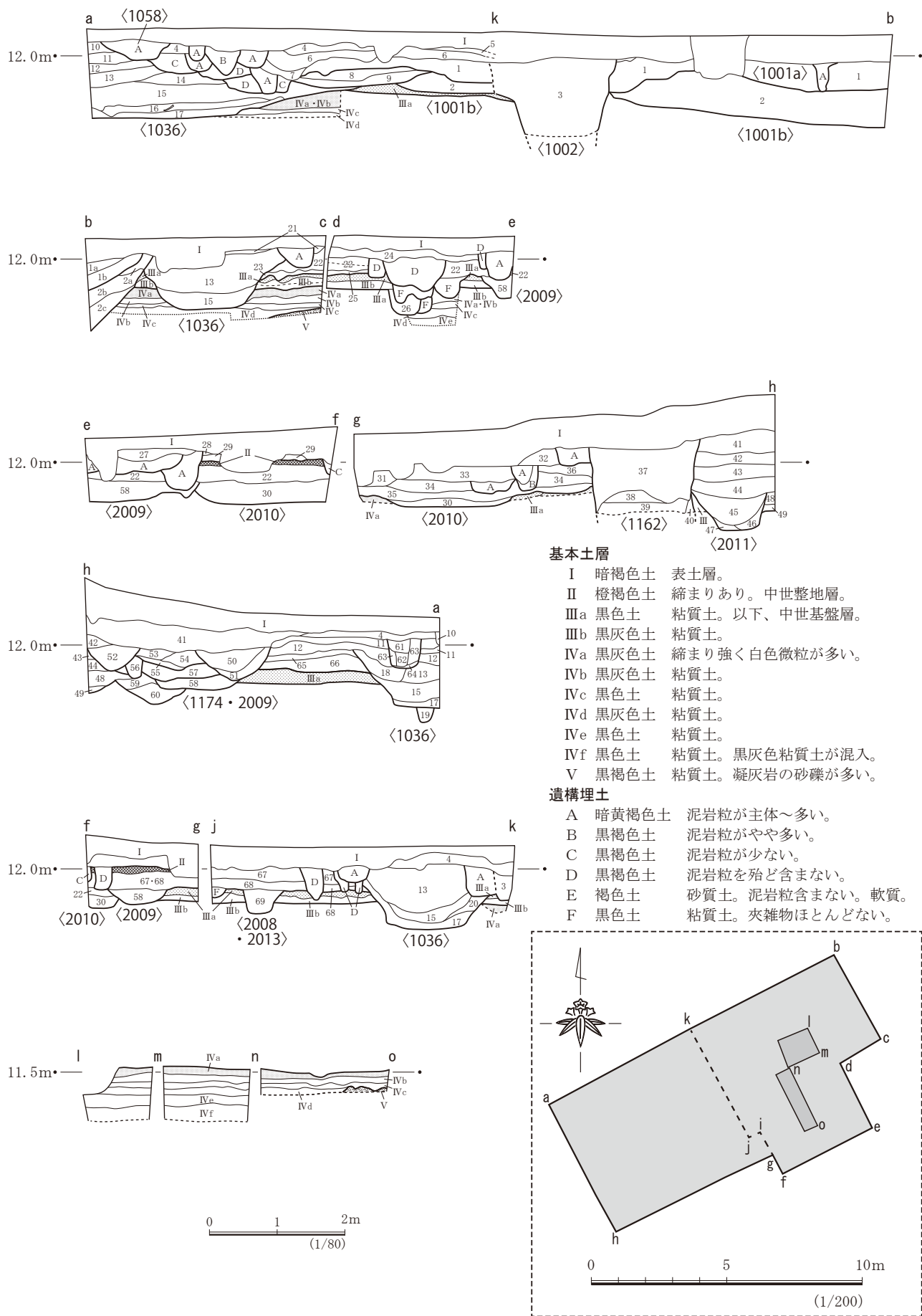


図3 土層断面図

調査区壁断面 土層説明 (図3に対応)

1	黄褐色土	拳大の泥岩ブロック密。	33	暗褐色土	泥岩粒多量。
1a	黄褐色土	泥岩粒主体。 (1001a)	34	黒色土	粘質土。
1b	黄褐色土	拳大の泥岩ブロック密。	35	黒灰色土	粘質土。
2	暗褐色土	泥岩粒少量。	36	黄褐色土	泥岩粒主体。
2a	黄褐色土	泥岩粒主体。 (1001b)	37	暗褐色土	泥岩粒多量。
2b	暗褐色土	泥岩粒少量。	38	黒色土	粘質土。上部に砂が堆積。(1162)
2c	暗褐色土	泥岩粒微量。	39	黒灰色土	粘質土。上部に砂が堆積。
3	黄褐色土	拳～人頭大の泥岩塊主体。	40	黒色土	締まり弱い。
4	黄褐色土	泥岩粒が主体。	41	暗褐色土	泥岩粒多量。
5	暗黄褐色土	泥岩粒多量。	42	暗褐色土	泥岩ブロック多量。
6	暗褐色土	泥岩粒多量。	43	暗褐色土	泥岩粒多量。
7	黒色土	粘質土。	44	黒色土	粘質土。
8	黒褐色土	泥岩粒微量。	45	黒色土	粘質土。
9	黒色土	粘質土。泥岩粒多量。	46	暗灰色土	粘質土。 (2011)
10	暗褐色土	泥岩粒主体。	47	黒色土	粘質土。泥岩粒多量。
11	黒褐色土	粘質土。泥岩粒やや多い。	48	黒色土	粘質土。
12	黒色土	粘質土。泥岩粒微量。	49	黒褐色土	粘質土。泥岩粒多量。
13	黒褐色土	粘質土。泥岩粒微量。	50	暗褐色土	泥岩粒、炭粒少量。 (1113・1114)
14	暗灰色土 + 黒色土	粘質土。	51	暗灰色土	粘質土。炭粒少量。
15	黒色土	粘質土。	52	暗褐色土	粘質土。炭粒少量。 (2016)
16	暗灰色土	粘質土。泥岩粒多量。 (1036)	53	暗褐色土	炭粒少量。
17	黒色土	粘質土。締まり弱い。	54	暗褐色土	泥岩粒、炭粒少量。
18	黒灰色土	粘質土。	55	暗褐色土	炭粒少量。
19	暗灰色土	粘質土。締まり弱い。	56	暗褐色土	炭粒少量。
20	黒色土	粘質土。泥岩粒微量。	57	黒灰色土	粘質土。炭粒多量。 (1174)
21	黒褐色土	泥岩粒少量。	58	黒灰色土	粘質土。炭粒微量。 (2009)
22	黒褐色土	泥岩粒微量。	59	暗灰色土	粘質土。中世基盤層塊を含む。
23	黒褐色土	泥岩粒多量。	60	暗灰色土	粘質土。 (2015)
24	暗褐色土	泥岩粒少量。	61	黒色土	粘質土。泥岩粒少量。
25	黒褐色土	泥岩粒微量。	62	黒色土	泥岩粒多量。
26	黒灰色土	粘質土。	63	黒色土	泥岩粒多量。
27	暗褐色土	泥岩粒少量。	64	黒色土	粘質土。締まり強い。 (1116)
28	黒褐色土	締まりややあり。	65	黒色土	泥岩粒微量。
29	灰褐色土	締まりあり。	66	黒色土	～5mm大の橙色粒子微量。
30	黒灰色土	粘質土。 (2010)	67	黒色土	粘質土。白色粒子微量。
31	暗過褐色土	泥岩粒多量。	68	黒色土	粘質土。泥岩粒、白色粒子微量。
32	黄褐色土	泥岩粒主体。	69	黒色土	粘質土。炭粒微量。(2008・2013)

第四章 発見された遺構と遺物

第1節 検出遺構

基本土層のⅡ層上面と層中では、溝やピットなどの中世遺構が濃密に分布していた。明確な整地面としては捉えられなかったものの遺構掘り込み面は複数枚あり、上位の遺構を掘削して記録を取った後、薄く掘り下げて下位の遺構を確認・掘削・記録という手順で調査を進めた。本来、より上位層でプラン確認すべき遺構を見落としてしまった可能性も否定できないことから、本報告では上面・層中を問わずⅡ層で確認した遺構を上層遺構として一括提示した(図4)。上層遺構の番号は1001番(=1面001番)から付け始め、原則として切り合い関係で新しい遺構に若い番号を与えている。また、確認順に番号を付したため、必然的に上位層で確認した遺構の方が下位の遺構より番号が若い、Ⅱ区上層遺構の多くは遺構1036より確認が後れたため、遺構間の新旧関係と逆転している例も多々ある。

Ⅲa層=中世基盤層の上面を確認面とする遺構を、本報告では下層遺構群とした。Ⅲa層と各遺構の

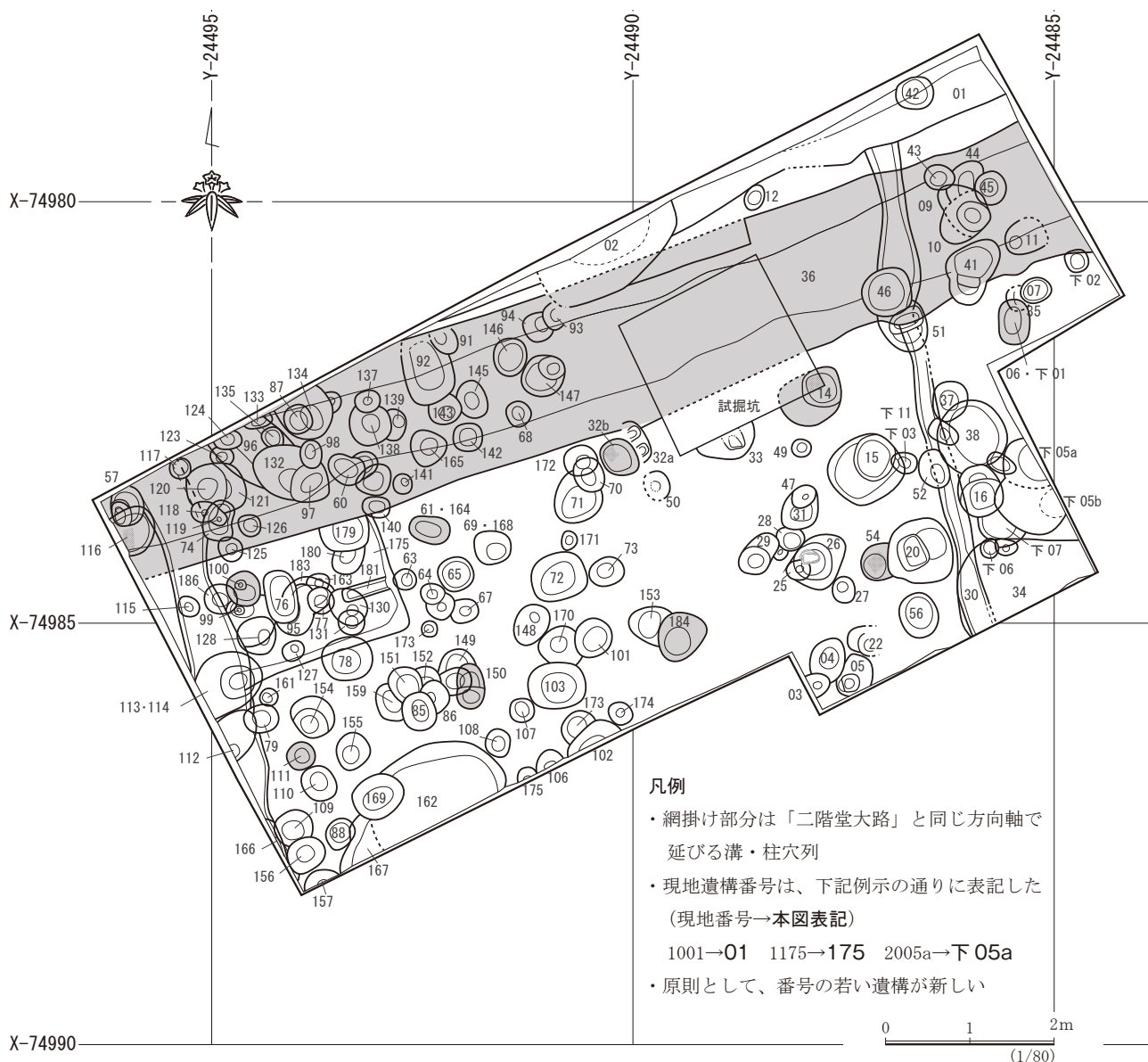


図4 上層遺構群

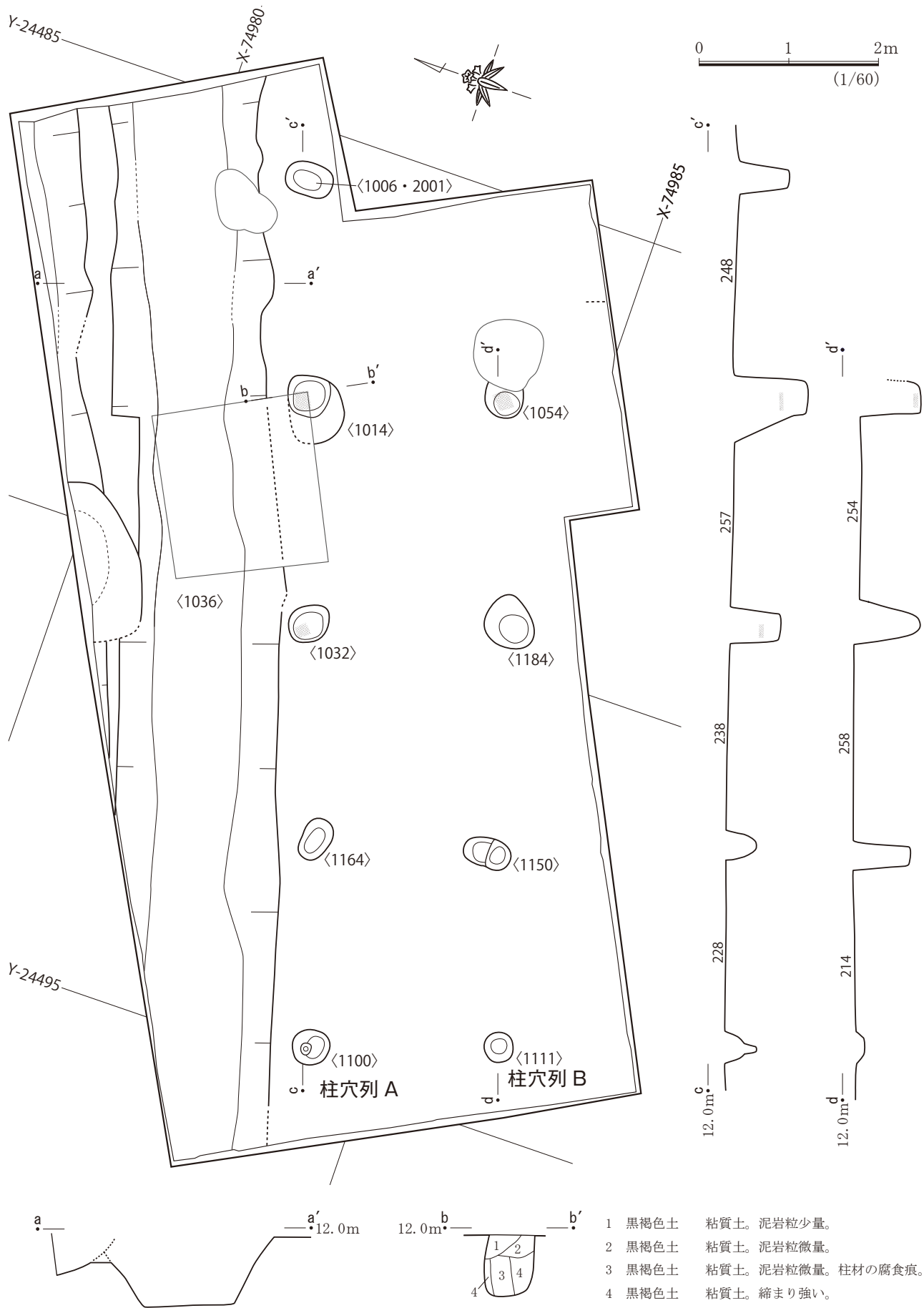


図5 上層遺構 東西溝・柱穴列

表2 上層遺構観察表

埋土タイプ (A～F) の内容は、図3を参照

遺構No.	埋土	底面標高(m)	遺構No.	埋土	底面標高(m)	遺構No.	埋土	底面標高(m)	遺構No.	埋土	底面標高(m)	遺構No.	埋土	底面標高(m)
1001	A	(11.50)	1033	D	11.56	1066	欠番	—	1099	A	11.61	1132	C	11.53
1002	A	(10.81)	1034	B	11.67	1067	A	11.85	1100	A	11.66	1133	D	11.49
1003	C	11.72	1035	B	11.84	1068	A	11.76	1101	C	11.74	1134	C	11.04
1004	C	11.87	1036	D	11.04	1069	E	11.36	1102	B	11.39	1135	C	11.64
1005	C	11.62	1037	C	11.38	1070	A	11.71	1103	B	11.48	1136	C	11.69
1006	C	11.77	1038	B	11.78	1071	A	11.77	1104	欠番	—	1137	C	11.17
1007	B	11.85	1039	欠番	—	1072	B	11.79	1105	欠番	—	1138	B	11.60
1008	B	11.13	1040	C	11.36	1073	C	11.80	1106	A	11.59	1139	C	11.40
1009 (1010)	B	11.66	1041	D	11.13	1074	C	11.88	1107	B	11.56	1140	C	11.56
1011	B	11.39	1042	A	11.39	1075	A	—	1108	B	11.69	1141	C	11.44
1012	B	11.76	1043	A	11.42	1076	B	11.83	1109	B	11.75	1142	D	11.74
1013	欠番	—	1044	A	11.55	1077	C	11.79	1110	C	11.63	1143	C	11.37
1014	C	11.23	1045	A	11.44	1078	B	11.85	1111	C	11.76	1144	欠番	—
1015	C	11.52	1046	D	11.02	1079	B	11.93	1112	B	11.32	1145	C	11.65
1016	B	11.30	1047	A	11.66	1080	欠番	—	1113 (1114)	C	11.69	1146	A	11.75
1017	欠番	—	1048	欠番	—	1081	欠番	—	1115	C	11.71	1147	B	11.46
1018	欠番	—	1049	A	11.54	1082	欠番	—	1116	B	11.61	1148	B	11.46
1019	欠番	—	1050	A	11.51	1083	欠番	—	1117	C	11.74	1149	B	11.63
1020	C	11.25	1051	D	11.36	1084	欠番	—	1118	B	11.59	1150	B	11.32
1021	欠番	—	1052	B	11.42	1085	B	11.62	1119	B	11.73	1151	E	11.73
1022	C	11.94	1053	A	11.33	1086	B	11.60	1120	A	11.59	1152	D	11.73
1023	欠番	—	1054	D	11.15	1087	A	11.74	1121 (1122)	C	11.38	1153	A	11.33
1024	欠番	—	1055	A	11.71	1088	A	11.86	1122	B	11.67	1154	C	11.44
1025	C	11.69	1056	A	11.45	1089	欠番	—	1123	B	11.67	1155	D	11.70
1026	B	11.25	1057	B	11.75	1090	欠番	—	1124	B	11.45	1156	D	11.64
1027	C	11.62	1058	A	11.89	1091	A	11.76	1125	C	11.73	1157	C	11.76
1028	A	11.70	1059	欠番	—	1092	A	11.72	1126	C	11.68	1158	欠番	—
1029	A	11.60	1060	A	11.69	1093	A	11.65	1127	D	11.35	1159	E	11.63
1030	C	11.76	1061	A	11.83	1094	A	11.63	1128	D	11.49	1160	D	11.70
1031	A	11.81	1062	欠番	—	1095	C	11.30	1129	C	11.48	1161	D	11.70
1032ab	C	11.60	1063	A	11.79	1096	B	11.80	1130	D	11.64	1162	A	(11.28)
1032c	A	11.40	1064	B	11.56	1097	A	11.45	1131	D	11.51	1163	C	11.48
			1065	A	11.92	1098	欠番	—				1164	D	11.64

覆土が近似することから、調査ではⅢb層上面まで掘り下げて遺構確認に当たった。また、Ⅳa層上面でも遺構の見落としがないか、最終確認している。ここまで来ると遺構埋土との色調・土質の差は明瞭であり、遺漏はないものと考えている。

(1) 上層遺構群 (図4～6)

Ⅱ層の上面および層中で検出された遺構群で、明確な整地面の把握には至らなかった。Ⅰ区南部での検出レベルは12.20、12.05、11.75 m前後で、各レベル検出の遺構埋土に顕著な違いは認められない。傾向としては、上位層で確認できた遺構の方が泥岩粒の混入が目立っていた印象がある。確認レベルの違いは、当然のように層序の新旧を示すものだが、遺構確認時の見落としも考慮して上層遺構群としてまとめた。検出遺構としては旧二階堂大路と同方向軸で延びる大型の溝やピット、井戸と思われる断面円筒形の土坑などがある。ピットは小規模なものが多く、Ⅱ区に集中する傾向が見られた。柱材の腐食痕跡や底面に柱当たりの硬化面を残す例もあり、わずかながら柱穴列として復元できる可能性も見出すことができた。

東西溝 (遺構1036・図5)

調査区北辺で検出された東西溝で、東・西とも調査区外へ続く。長さは12 mまで確認でき、調査区の壁断面での計測値として、上幅200cm強、下底部幅90～115cm前後、深さ100cm弱を測る。上部は後世の削平を受けている可能性が高く、本来は上幅・深さともに計測値より大きかったと考えられる。横断面は逆台形を呈し、溝壁上部は外方に開く。下底面は平坦で、西に向けてわずかに低くなる。

走行軸はN-110° -Wで、調査地北側の現行市道 (旧二階堂大路) のN-118° -Nより若干北に振れる。この市道は荏柄天神社参道より西ではN-110° -W前後で延び、本遺構と同じ方向軸を取る。

埋土は中世基盤層に近似した黒色粘質土がベースで、若干量の泥岩粒を含む。後節に示す遺物様相と

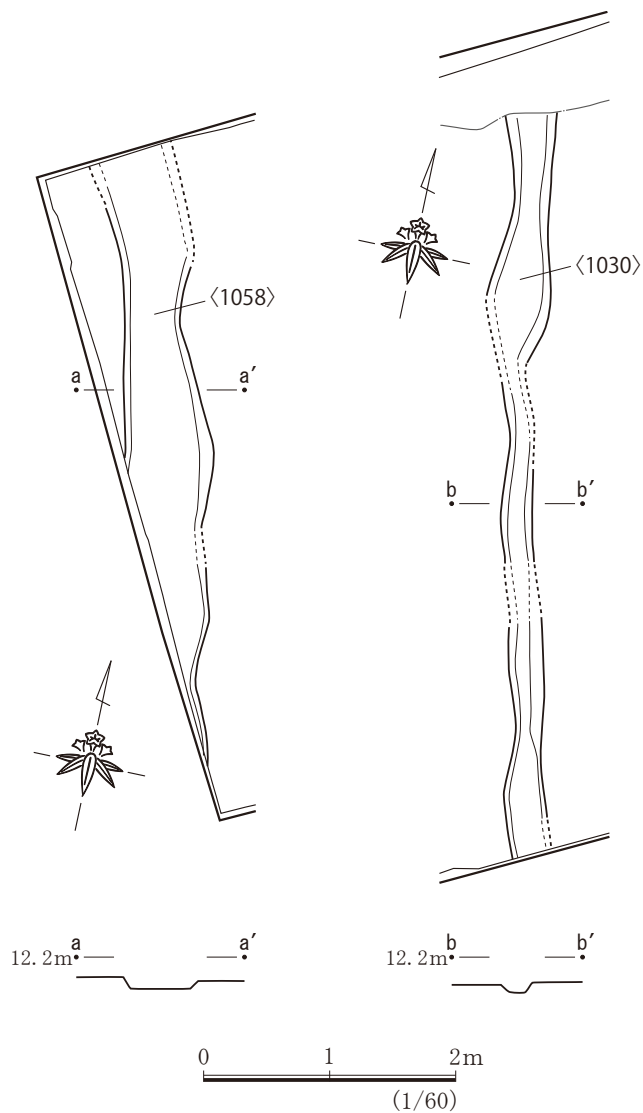


図6 上層遺構 南北溝

先述した柱間隔のばらつきも含め、今回確認できた限りでは両柱穴列が一体の構造物を成していたのか、断定することは難しい。一体と仮定すれば建物としての可能性が考えられ、一方で版築層などの痕跡は全く確認できていないものの両列が一对となって垣（築地塀）を構成していた可能性も想定可能である。両列が単独で延びていたとすれば、板塀など、より簡便な遮蔽施設であったことが推測でき、その場合、両列の存続時期には新旧を考える必要がある。いずれのケースとしても、柱穴列Aは東西溝と近接し過ぎた観があり、本来の掘り込み面を考慮すると両者が重複していた可能性が高く、同時存在は考えにくい。

その他の上層遺構（図4）

以上の他、大部分が調査範囲外に出てしまうため完掘できなかった遺構として、東西溝（遺構1001）・南北溝（遺構1030・1058）や井戸と思しき断面円筒形の土坑（遺構1102・1162）がある。

遺構1001は調査区北東部で確認された東西溝で、南肩のみ長さ5.5mほど検出し得たに過ぎない。そのため走行軸も不明確だが、N-112°-Nと、遺構1036と概ね同方向か、わずかに南に傾く可能性がある。断面観察の結果、1036を切って構築され、泥岩ブロックを充填した埋土であることが確認された。部分的な検出に留まったため断定できないが、遺構1036の埋没後、同じ役割を担った東西溝であった可能性を考えている。

併せ、鎌倉時代でも比較的早い段階＝13世紀前半のうちには廃絶・埋没過程に至ったと考えられる。

柱穴列（図5）

遺構全測図から東西溝（遺構1036）に並行する2本の柱穴列を抽出・復元することができた。溝に近い順に、柱穴列A・Bと名称を付した。溝中心から柱穴列中心までの距離は、Aが120cm、Bが360cmを測り、A-B間の距離は210～220cmで調査区西側での間隔が狭い。A・Bともに柱穴間距離は240cmを基調とするが、やはり調査区西側では狭くなる傾向が窺える。調査範囲が限られていることもあり即断できないが、調査区の西半部と東半部では柱間隔の異なる別の柱穴列が存在した可能性がある。

柱穴列の中心軸はAがN-110°-N、BがN-109°-Nで、ともに東西溝と同じ軸線で展開する。

列Aでは遺構1014・1032、列Bでは遺構1054の各柱穴で基底部に柱加重による硬化面が確認され、1014では埋土断面に柱材の腐食痕とみられる垂直方向の粘質土堆積がみられた。その幅は22cmを測り、上部は欠失することから抜き取り時に切断されたようだ。

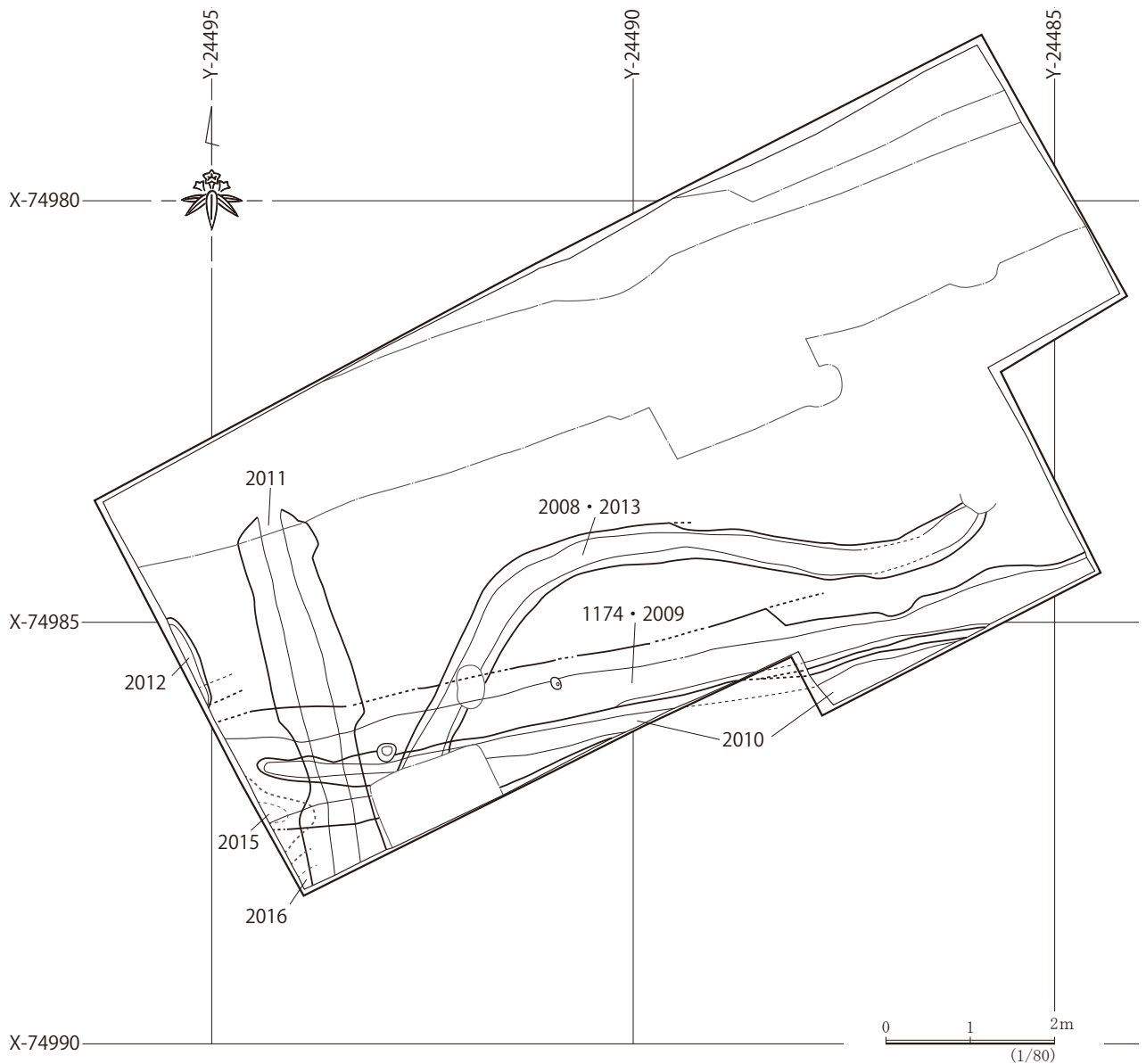


図7 下層遺構群

遺構1030はI区で検出された。北側を遺構1001に切られ、南側が調査区外に続く。長さ5.8mまでを確認した。断面観察の結果、同質埋土の遺構と切り合うため東側の立ち上がりが不明瞭であったことが分かり、深さは23cmを確認した。底面標高は11.76m～11.98mを測り、北側が低い。調査区北側の東西溝に流し込む溝であったのだろう。

遺構1058はII区西端部で検出された。南北とも調査区外に続き、長さ4.8mまでを確認した。断面観察による上幅は105cm、深さ30cmを測り、若干蛇行するがN-16°-Wで延びる。底面標高は11.89～11.96mで、南に向けて僅かに低くなる。

遺構1002はI区北西隅で確認した。遺構番号とは逆順に、遺構1001（東西溝）の埋没後に構築されている。井戸と思われる断面円筒形の土坑で、北半部は調査区外に続く。断面観察による直径は約180cm、深さは120cmまでを確認したが、調査区壁の崩落を回避するため、これ以上の掘削は断念した。埋土は人頭大の泥岩ブロックで短期間に埋め立てられた様子で、多量の瓦片が混じっていた。泥岩・瓦片ともに火を受けて変色しており、また炭化物も付着していたことから、火災後の復旧に際して埋められたと考えている。遺構間の切り合い及び遺物様相から見て、本地点では最も新しい段階の遺構と考えられる。

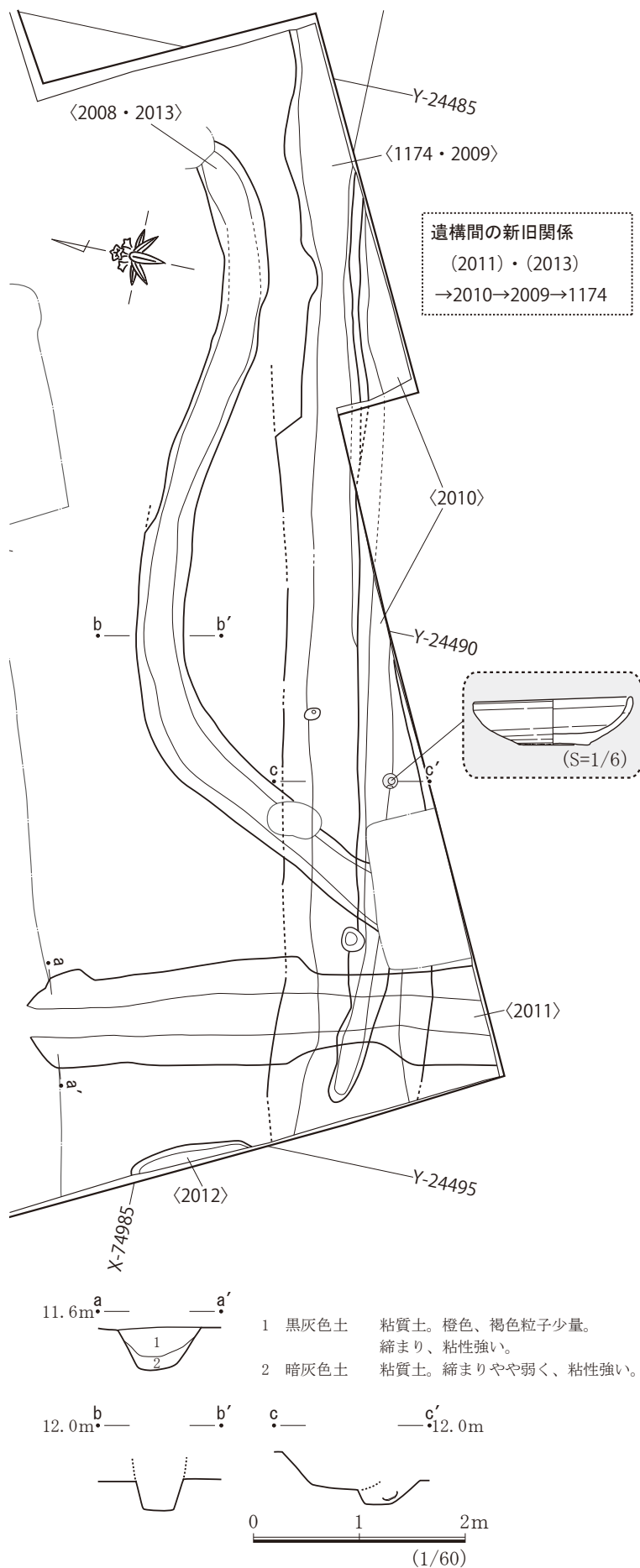


図8 下層 溝状遺構群

遺構1162は調査区の南西部で検出され、南側1/2ほどが調査区外に続くとみられる。断面観察では直径160cm、深さ110cm以上となることを確認したが、ここでも崩落の危険性に配慮して、これ以下の掘り下げを断念した。垂直な落ち込みをもち、井戸であった可能性が高い。埋土は暗褐色土がベースで、下位に向かうに連れて固く締まり、水平に均した様子が窺えた。廃絶後は丁寧に埋め戻されたのだろう。図4では円形基調の平面形を呈するが、下部に行くほど壁が直線的となることから、本来は方形基調の掘り方であったと考えている。埋土と周辺の整地土からは、比較的多くの遺物が出土している。本遺構の出土かわらけは、手づくね製品が主体となる(表3-上層遺構⑩)。

この他、ピット・土坑など小規模遺構の観察結果を表2にまとめた。平面規模については、図4から計測されたい。

(2) 下層遺構群(図7・8)

中世基盤層であるⅢa層の上面が掘り込み面で、遺構確認はⅢb層上面となる標高11.5m前後で行った。ここでは2000番台の遺構を検出したが、2001～2007は上層遺構の確認漏れと判断した結果、小規模な溝で構成される遺構群であることが明らかとなった。各溝の埋土はⅢa層と似ており、全体として出土遺物は僅少で、古代遺物の比率が高い中、中世初期の遺物も散見された。

以下、各溝の概要を記す。

遺構2009・2010は調査区南辺で検出した東西溝で、切り合って並行する。埋土が相似するため概ね同時期の遺構と見られ、曖昧さは残すが2009が新しい遺構と判断した。ともにN-102°-W前後で延び、調査区外に続く。断面逆台形を呈し、断面観察による深さは2009が20cm、2010が30cmを測る。底面標高は2009が11.40～11.47m、2010が11.23～11.40mで、ともに西へ向けて緩やかに下がる。

2010の底面付近では土師質土器の完形杯が正位で出土している。手づくねかわらけ導入以前の資料と考えられ、伴出した常滑甕の型式から12世紀後半の所産と考えられる。

遺構2008・2011は2009・2010より古い遺構と判断したが、埋土が近似するため大きな時期差は考えにくい。2008は、Ⅱ区では2013の番号を付した。蛇行しながら東に延び、両端を上層遺構に切られるため全長は不明である。断面U字形を呈し、断面観察での規模は上幅60cm、下底幅30cm、深さ36cmを計測した。底面の標高は11.2m前後で推移し、どちらか一方へ落ちる様子は見られなかった。

2011は調査区の西辺付近で検出された南北溝で、北部は上層遺構1036に切れ、南部は調査区外に続く。中心軸はN-13°-Wで、2009・2010と直交関係にあると見てよい。上幅90cm、下底幅40cmを測り、断面逆台形を呈する。確認面からの深さは50cmで、底面標高は10.98～11.08mを測り、検出された中央部が最も高く、南北両方向に低くなる。

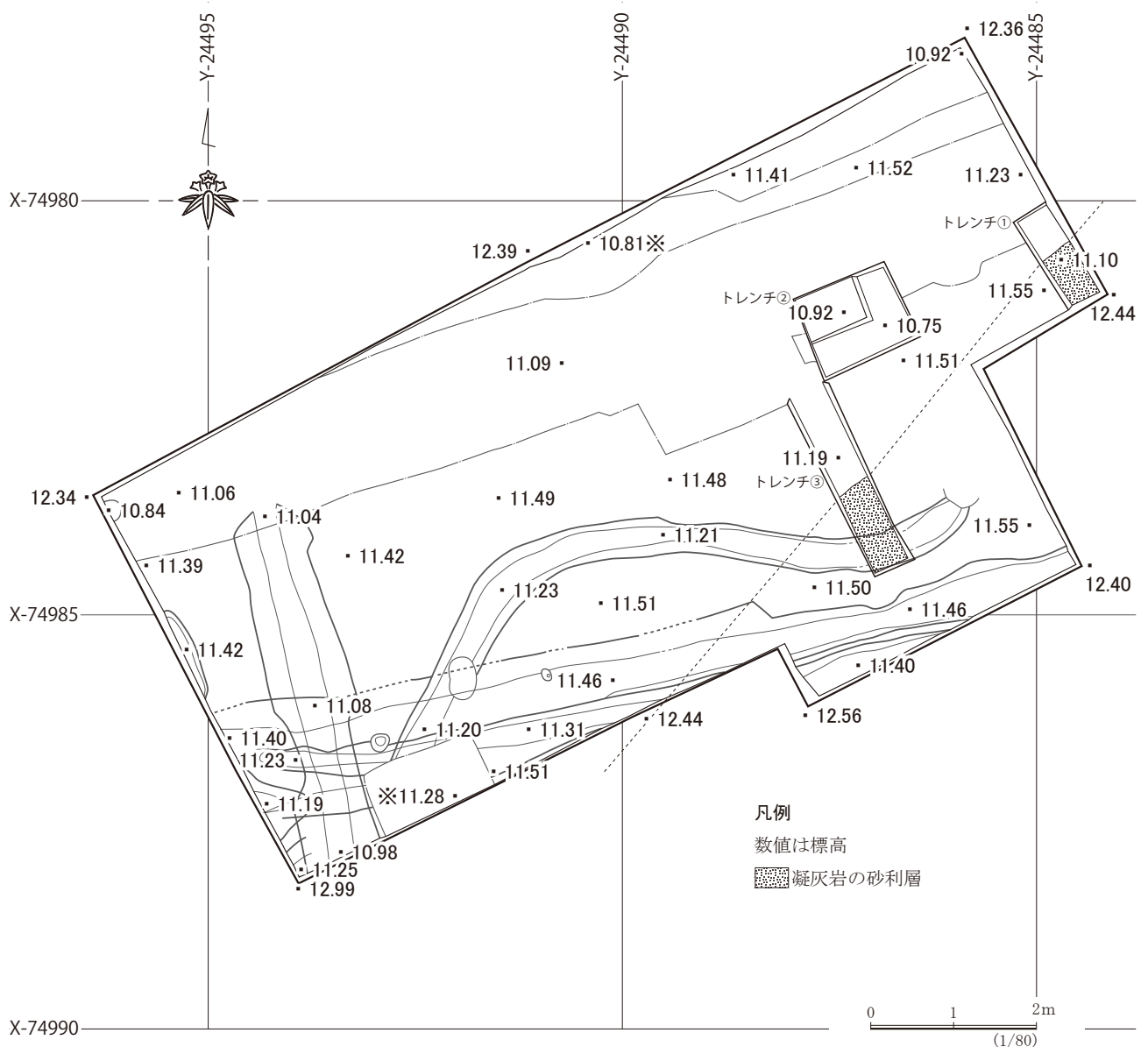


図9 最終掘削深度

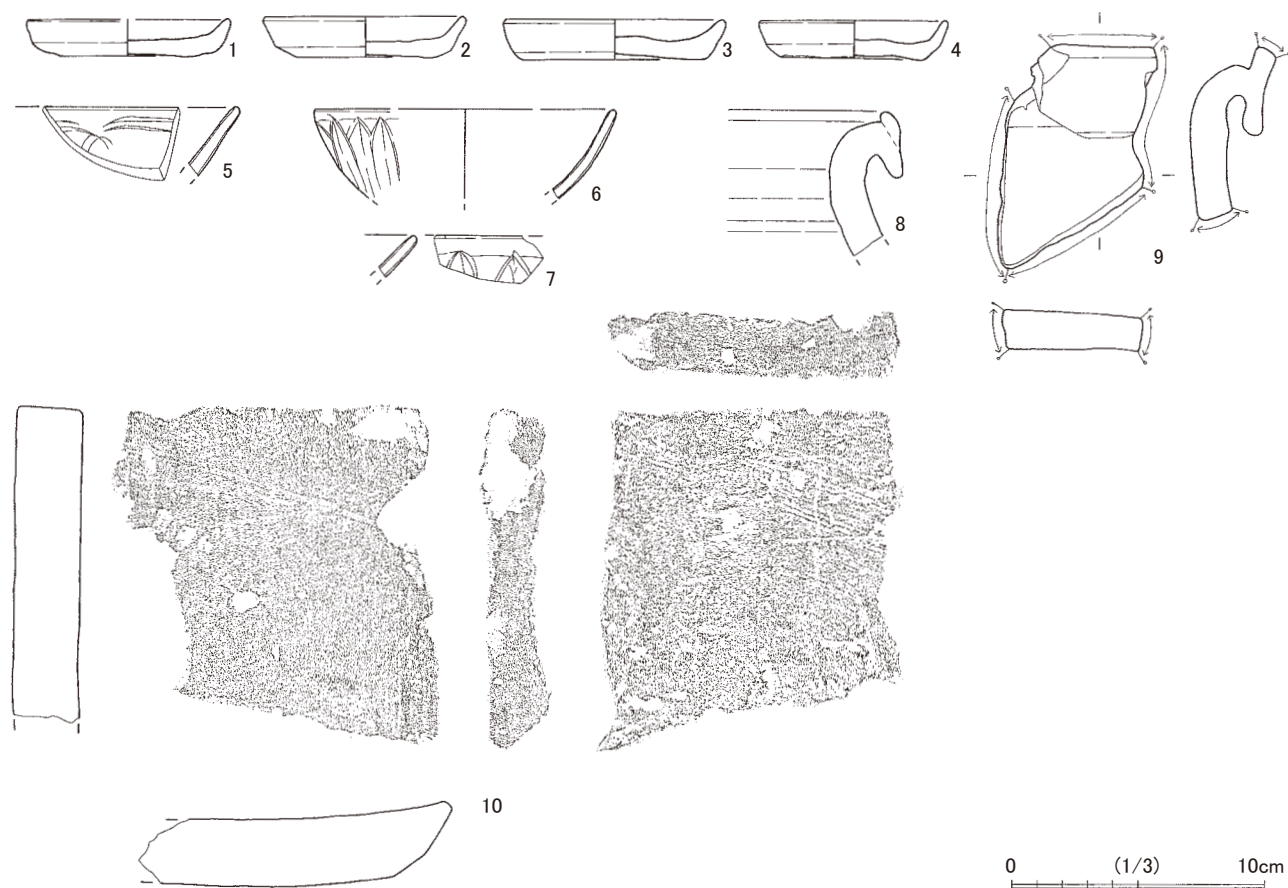


図10 表面採集・表土出土遺物

(3) 中世基盤層下 (図9)

下層遺構群の調査後、調査区全体をIV a層上面(標高11.4～11.55 m前後)まで掘り下げて遺構の見落としがないか確認を試みた。遺構2008の溝肩など部分的な掘り残しを確認した以外に、新たな遺構の検出はなかった。IV b層以下については1区に確認トレンチを設定して掘り下げたものの、古墳時代以前の土器小片が3点出土したに過ぎず、この時期の生活痕跡を見出すことはできなかった。土層堆積の概況については、第三章で述べたとおりである。トレンチ最深部の標高は、現地表面から1.7 m下の10.75 mである。

第2節 出土遺物

図10～15には、出土遺物の実測図を掲げた。遺物個々の特徴は図と観察表(表4)を参照されたく、本節では遺物様相全体の印象、および特徴的な遺物の説明に留めたい。

今回の調査地は表土直下で鎌倉時代前期の遺構群を確認しており、鎌倉後期以降の整地面は削平され失われてしまった可能性が高い。そのため、13世紀後半～14世紀前半という消費拡大期の遺物は溝や井戸など深い掘り込みをもつ一部の遺構から出土したに過ぎない。中世遺物の主体は手づくねかわらけで、身深・内弯器形のロクロかわらけを大きく上回る出土量であった。

今回は、古代以前の出土遺物も多く見られた。殆どが中世遺構の埋土から出土したもので、弥生時代～古墳時代の土器や、奈良～平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器などがあつた。下層遺構群は平安末～鎌倉初期に属すると見られ、竪穴住居など集落居住域の確認には及ばなかったが、遺物量や周辺での調

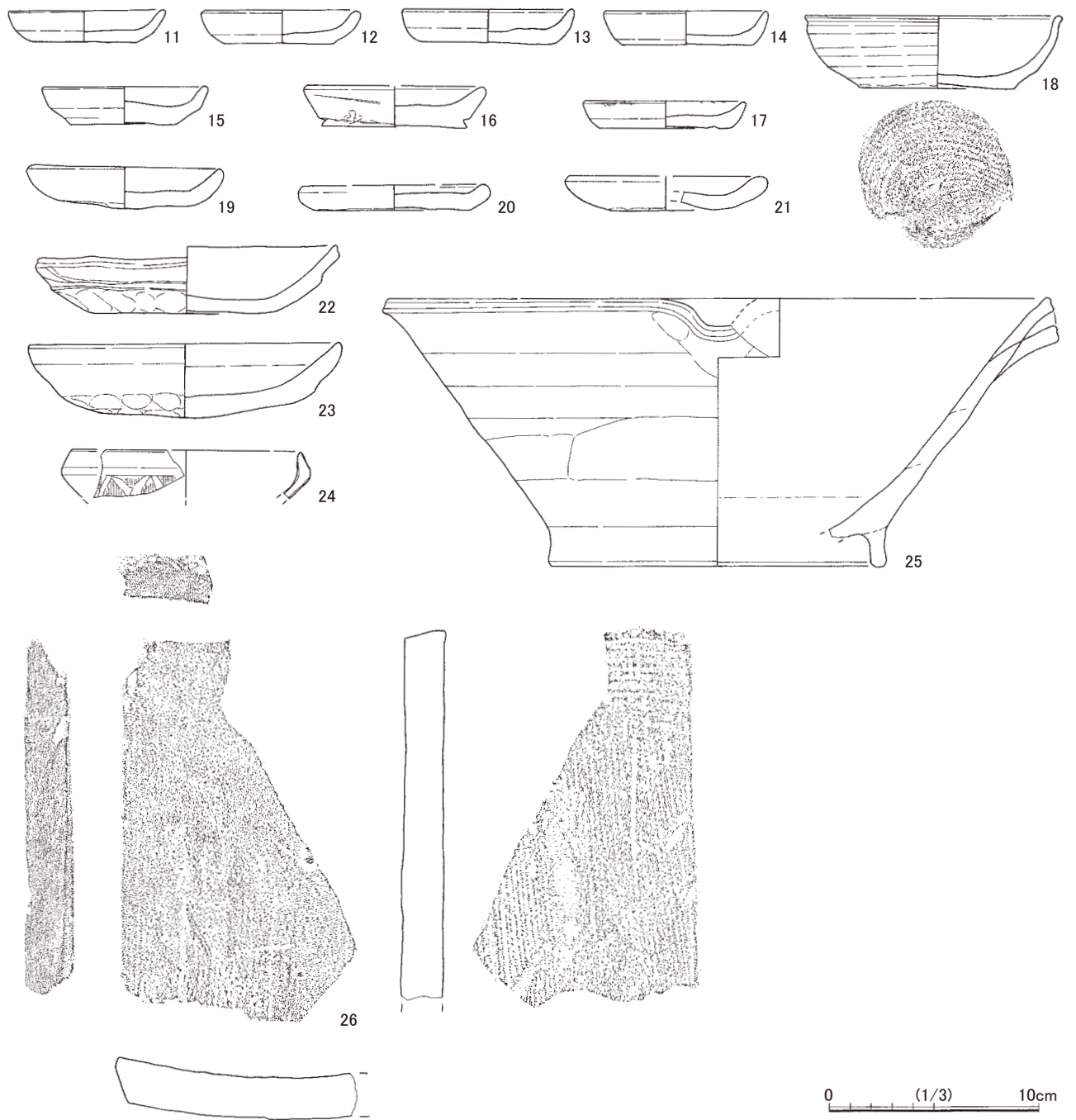


図11 上層遺構面までの出土遺物

査成果から、集落が近在していた可能性は高いだろう。

前節で述べたように、下層遺構群の東西溝（遺構 2010）では土師質土器坏が出土した（図 15-96）。土圧により一部破損していたが、破片は散逸しておらず、接合により完形に復元できた。溝底が僅かに埋没した上に完存品が伏せた状態で廃棄されていた。器形・法量・調整技法・胎土などの諸点で鎌倉で大量に消費されたロクロかわらけと差異が認められ、出土層位や伴出遺物の様相からも京都系手づくね土器の導入、そしてその影響を受けた中世「かわらけ」成立以前の在地土器という評価ができる。伴出した常滑甕（97）は2型式または3型式と見なされ、大よそ12世紀後半という所産年代を当てることができよう。鶴岡八幡宮や永福寺創建以前の土器との比較から、治承四年（1180）の頼朝入部後、永福寺造営が始まる建久初年（1190年代初頭）までの土器と見なすのが穏当な評価といえるだろうが、これ

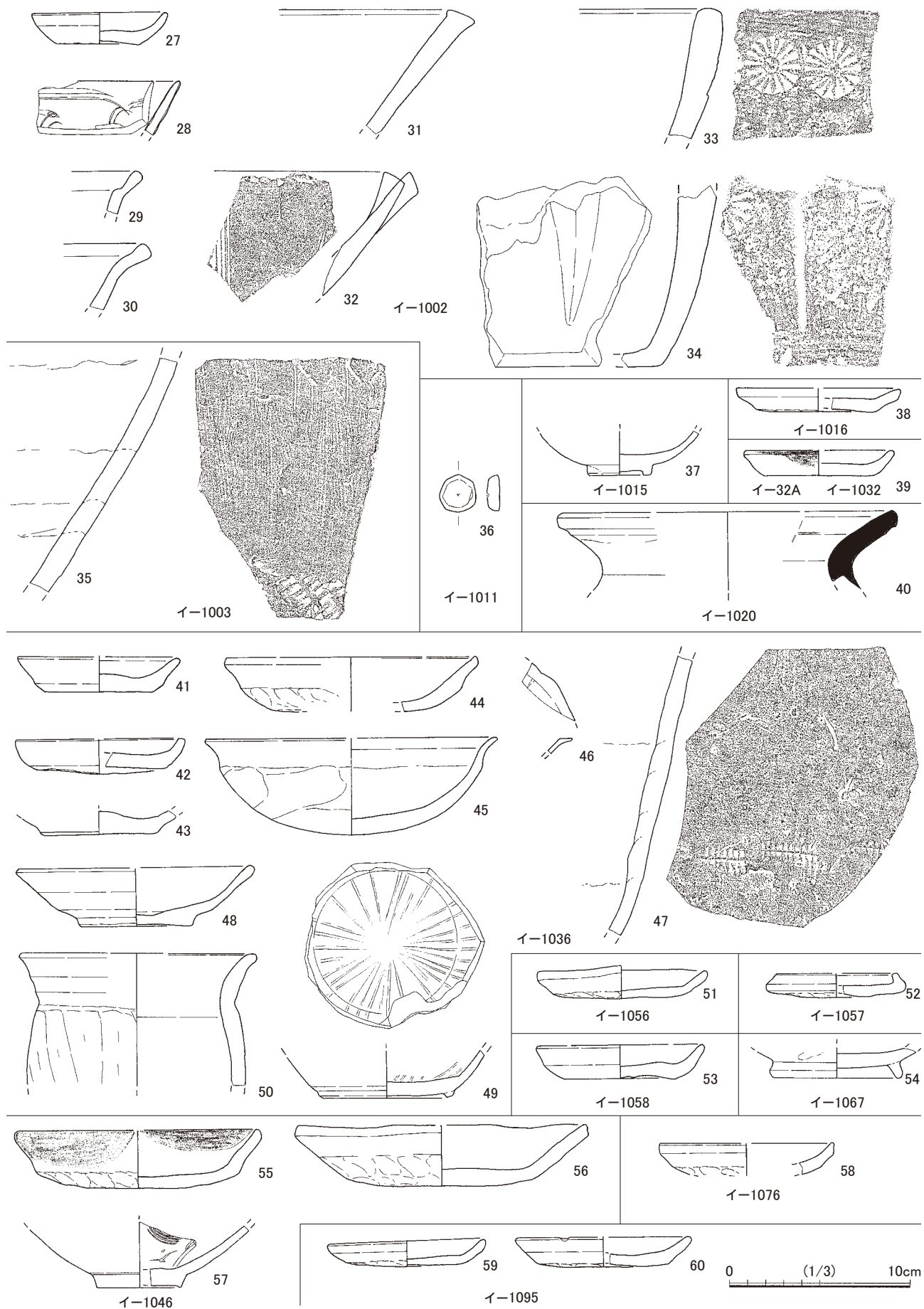


図12 上層遺構出土遺物(1)

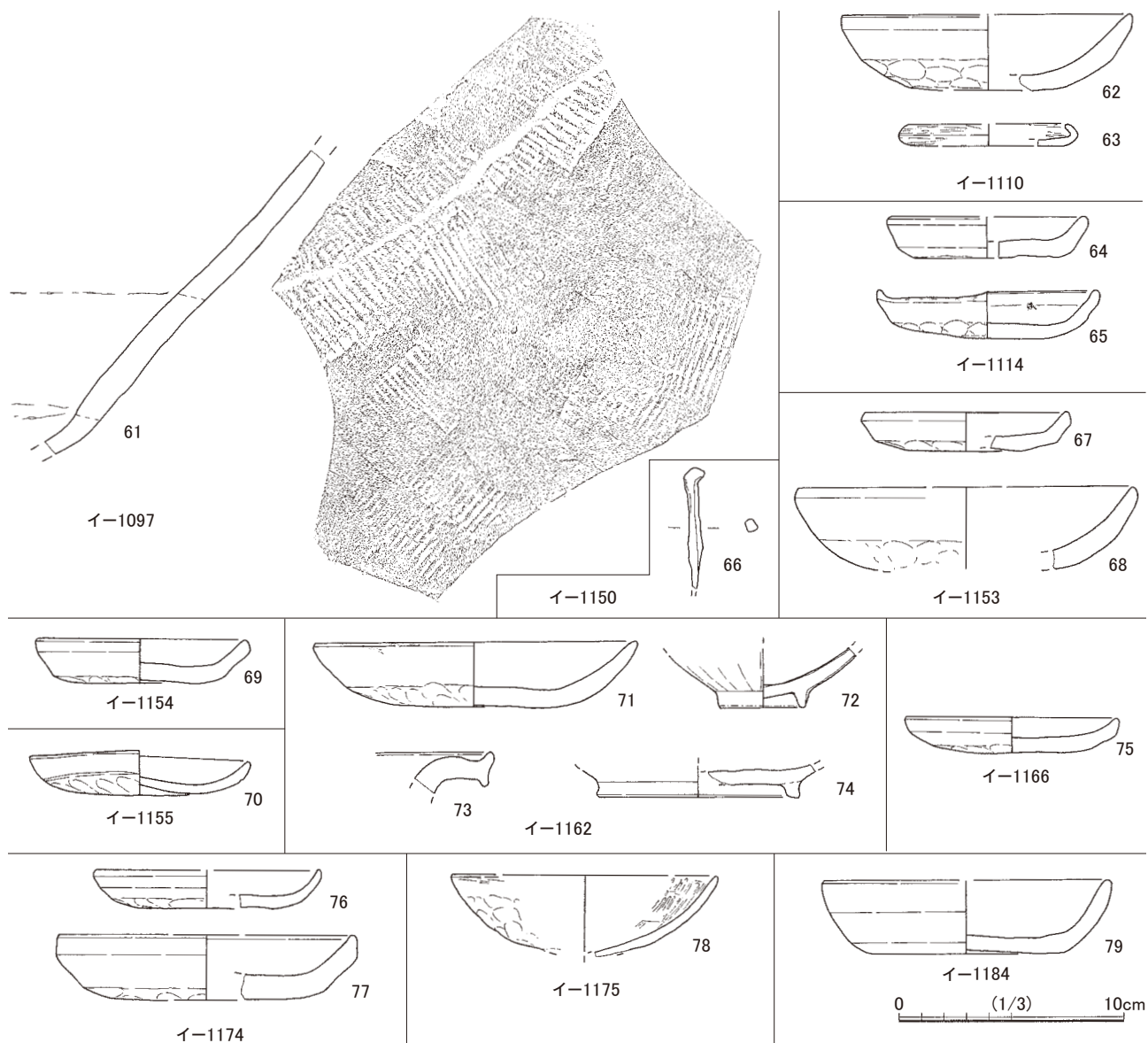


図13 上層遺構出土遺物(2)

より遡る可能性も皆無とはいえない。頼朝入部以前、12世紀第3四半期の鎌倉は父義朝や兄義平の活動拠点であり、彼らを支えた三浦氏一族の杉本氏は当地点の至近にある杉本寺にその名を残している。1点の土器を以てこれ以上の言及はできないが、こうした視点を与えてくれる希少な考古資料であることは述べておきたい。

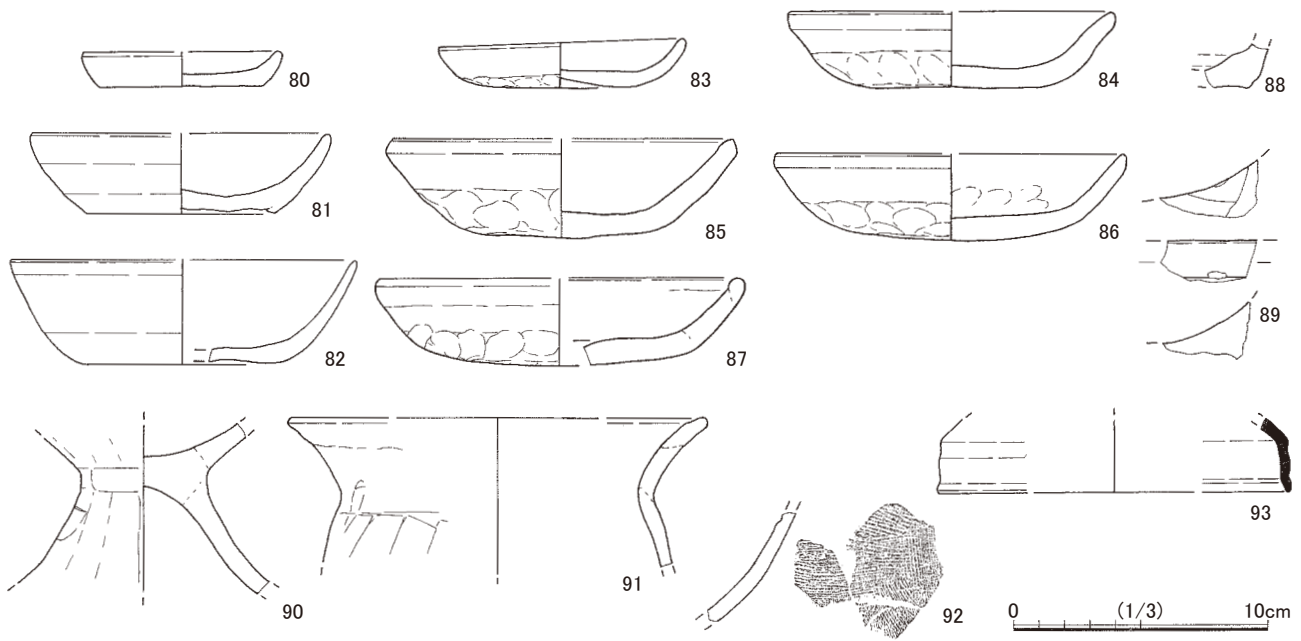


図14 下層遺構面までの出土遺物

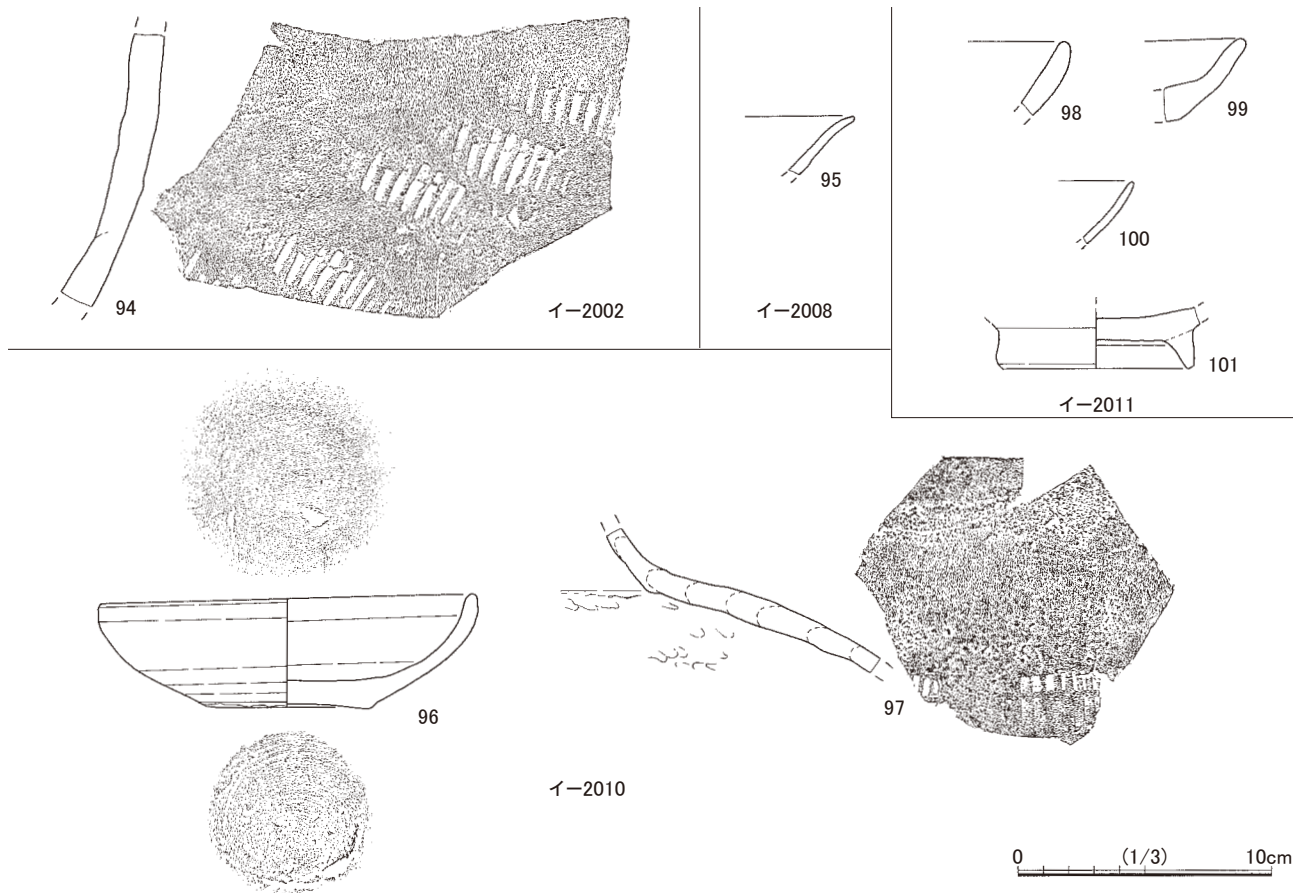


図15 下層遺構出土遺物

表3 出土遺物カウント・計量表

面	地区	かわらけ										白かわらけ		白磁					
		ロクロ					手づくね					手づくね	小	碗	水注	瓶類			
		大	中	小	内折れ	大	小	大	小	内折れ	小片	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)
不明	不明	2	22			2	16	1	6										
表探	I・II区	4	39	3	9	1	8												
表土	I・II区	154	970	58	671	177	2398	19	220	36	126					1	4	12	
攪乱	I・II区	15	138	6	40	14	113	5	41										
上層遺構面まで	I・II区	243	3313	188	1946	2	32	581	8430	163	1392	117	384	1	1	3	8		
下層遺構面まで	I・II区	48	654	18	165			255	3560	80	535	72	272						
下層遺構面まで	遺構1162周辺	55	478	19	110			233	2356	34	192	1	3	1	3	1	4		
下層遺構面下	サブトレ③																		

遺構外①

面	地区	青白磁												龍泉窯系青磁												泉州窯系陶器																							
		梅瓶				瓶類				碗				合子蓋				不明				劃花文碗(Ⅰ類)				蓮弁文碗(Ⅱ or Ⅲ類)				劃花文碗				曲口碗				碗				皿				不明		緑釉盤	
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)												
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)														
不明	不明																																																
表探	I・II区			1	4																																												
表土	I・II区					1	4	1	3																																								
攪乱	I・II区							1	2																																								
上層遺構面まで	I・II区	1	2																																														
下層遺構面まで	I・II区																																																
下層遺構面まで	遺構1162周辺																																																
下層遺構面下	サブトレ③																																																

遺構外②

面	地区	瀬戸・美濃				瀧美・湖西				尾張・常滑								瓦器				瓦質土器				南伊勢系鍋				土器						
		瓶類		甕		甕		壺		山茶碗		片口鉢				碗		火鉢		火鉢		火鉢		火鉢		火鉢		火鉢		火鉢						
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)			
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)			
不明	不明																																			
表探	I・II区																																			
表土	I・II区			4	216																															
攪乱	I・II区																																			
上層遺構面まで	I・II区	1	33	2	42	159	8217	1	17	1	25	8	628	3	64																					
下層遺構面まで	I・II区			2	88	17	818	1	26																											
下層遺構面まで	遺構1162周辺																																			
下層遺構面下	サブトレ③																																			

遺構外③

遺構	かわらけ						白かわらけ		白磁				青白磁				同安窯系青磁				龍泉窯系青磁			
	ロクロ		手づくね		手づくね		皿		梅瓶		碗		合子身		橢圓文碗		劃花文碗 (I類)		蓮弁文碗 (II or III類)		碗			
	大・中	小	大	小	大	小	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
1001																								
1002	46	496		12	130												1	24	1	14				
1003				1	7																			
1004						1	4	1	6															
1005	7	71	4	20	8	94	2	7																
1008	4	25			2	48																		
1011					2	10																		
1014					1	5																		
1015							2	17	1	5											1	12		
1016	4	22	1	9	14	124	4	50																
1020	5	67			4	34	1	15	1	8														
1022																								
1025				1	7	1	17																	
1026	1	12	1	1	17	155	5	31																
1027					2	6																		
1028	2	11	2	9	3	23																		
1029	1	17			6	68	1	18																
1030	4	44	2	6	9	78	1	21																
1030					2	19	1	4																
1034					3	24	2	9																
1031	2	10	2	5	3	24	2	9																
1032			1	22	2	15	0																	
1032 or 1050	1	6			2	45	1	7																
1034	4	19	2	25	13	136	4	14																
1036	9	65	8	111	25	274	14	46	1	2	1	1							2	9				
1037					5	55	2	6			1	2												
1038	16	119	13	49	37	279	15	66																
1040	11	69	3	16	5	31																		
1041																								
1042																								
1043	1	3			2	10	1	3																
1044																								
1045																								
1046					6	235					1	22	1	1										

遺構	瀬戸・美濃						瀨美・湖西						尾張・常滑						備前						土器					
	折縁皿		入子		筒形香炉		不明		甕		甕		I類		II類		すり鉢		燭台		火鉢		転用品		不明		小片			
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
1001																														
1002	5	156	1	27	1	64	2	53											1	62	6	590					2	7		
1003									1	267																				
1004																														
1005																														
1008																														
1011																														
1014																														
1015																														
1016																														
1020																														
1022																														
1025																														
1026																														
1027																														
1028																														
1029																														
1030																														
1030																														
1034																														
1031																														
1032																														
1032 or1050																														
1034																														
1036																														
1037																														
1038																														
1040																														
1041																														
1042																														
1043																														
1044																														
1045																														
1046																														

遺構	瓦質土器		瓦				銅製品		鉄製品		石製品・石															
	火鉢		平瓦	丸瓦	不明	銭	釘	軽石	砥石	緑泥片岩	滑石片	石英	軽石		砥石		緑泥片岩		滑石片		石英					
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
1001																										
1002	6	590	12	160	3	623			1	23		1	156													
1003																										
1004																										
1005									2	19																
1008																										
1011																										
1014																										
1015																		1	516							
1016																										
1020																										
1022																										
1025																										
1026																										
1027									1	4																
1028																										
1029																										
1030																										
1030																										
1034																										
1031																										
1032																										
1032 or1050									1	3																
1034																										
1036																										
1037																										
1038																										
1040																										
1041																										
1042																										
1043																										
1044																										
1045																										
1046																										

遺構	古式土師器				須惠器								灰釉陶器				骨					
	甕		壺		坏		高台付坏		坏蓋		甕		瓶類		碗			瓶		不明		
	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)		破片數	重量 (g)		破片數	重量 (g)
1001																						
1002	2	5									3	80										
1003																						
1004																						
1005											1	29										
1008											2	64										
1011																						
1014											2	27										
1015																						
1016																						
1020											1	111										
1022																						
1025																						
1026											2	20										
1027																						
1028																						
1029																						
1030										1	7	1	142									
1030																						
1034																						
1031																						
1032																						
1032?																						
1050?																						
1034										1	7											
1036	21	267	7	122	20	153	2	35	3	37	42	1035	9	129	6	7	2	7		1		
1037																						
1038										1	3	6	142	1	5							
1040																						
1041																						
1042																						
1043																						
1044																						
1045											1	3										
1046																						

遺構	かわらけ												龍泉窯系青磁				瀬戸・美濃		尾張・常滑		東播		土器				瓦			
	ロクロ			手づくね			白磁			劃花文碗 (I類)		皿		小壺		甕		鉢		鉢		小片		平瓦 A類		不明				
	大・中	小	大	小	大	小	内折れ	端反碗 (V類)	劃花文碗 (I類)	皿	小壺	甕	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢			
	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
1049			1	3																										
1050																														
1051		1	3	1	12	1	5																							
1052		1	2	4	53	1	15																							
1054				1	15																									
1056	1	30		7	61	2	58																							
1057	1	32	1	7			1	15																						
1058	39	293	20	138	27	300	4	33	1	3	1	8	7	417																
1060																														
1061					1	7																								
1063					1	7																								
1064				2	19																									
1065						1	8																							
1067					1	4																								
1069					12	108	5	48																						
1070	3	15	1	2	1	6																								
1071	3	24	2	10	9	100	2	11																						
1072	2	26			1	9																								
1073	3	38	2	40																										
1074	2	12			3	16	2	5																						
1076					1	5	2	19																						
1078	7	58	2	13	6	54	1	3	1	6																				
1079				1	6	1	12																							
1085	1	8			5	37	1	3																						
1086				1	11																									
1087																														
1088					5	30	4	9																						
1092					3	26																								
1093					1	11																								
1094					1	13																								
1095	2	19			4	36	7	141																						
1097	1	10			2	17	2	8																						

上層遺構⑥

遺構	鐵製品		石		土師器				古式土師器				須惠器						灰釉陶器				不明陶器		不明								
	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)	破片數	重量 (g)			
1049			1	8	1	9																											
1050									1	23																							
1051																																	
1052	1	6			3	9																											
1054			4	12	2	32																											
1056					1	10																											
1057					1	4																											
1058			3	18	4	40																											
1060																																	
1061																																	
1063					1	2																											
1064					1	8																											
1065																																	
1067																																	
1069			1	2	4	38																											
1070																																	
1071			8	25	3	40																											
1072					1	25																											
1073																																	
1074																																	
1076																																	
1078																																	
1079					1	7																											
1085																																	
1086																																	
1087																																	
1088																																	
1092																																	
1093	2	9	1	7	1	11																											
1094					1	5																											
1095			1	17	2	21	1	7																									
1097			2	17	2	66																											

上層遺構⑦

遺構	かわらけ										白磁				瀬美・湖西				尾張・常滑				土器		瓦器		瓦		鉄製品	
	口クロ				手づくね				小片		白かわらけ				碗		甗		尾張・常滑		小片		内折れ皿		丸瓦A類		釘			
	大・中	小	大	小	大	小	大	小	大	不明	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
1101	1	14	13	106	4	41																								
1102	3	23	21	217	3	10																								
1103	9	145	14	201	5	23																								
1106	1	12																												
1108																														
1099	3	25	1	5	6	182	3	9																						
1110	3	24	7	97	2	30																								
1111	1	21	4	30																										
1112			4	43	2	5																								
1113			3	56																										
1114	7	59	7	74	150	1542	59	371																						
1115			1	6																										
1116			2	8	11	79	8	49																						
1117																														
1118																														
1120			9	65	3	18																								
1121	3	41	1	13																										
1123																														
1124																														
1125																														
1126																														
1127	2	14	1	15	1	13																								
1128																														
1129	3	17	2	12	4	36	5	39																						
1131			2	22																										
1132																														
1133			1	11																										
1134			1	8	2	7																								
1135	1	13																												
1137																														
1138			2	14																										
1139			12	154																										
1140																														

上層遺構⑧

遺構	土師器						須惠器						灰釉陶器			不明								
	坏		甗		壺		不明		坏		甗		瓶		不明		瓶		不明					
	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)		
1101																								
1102			2	9																				
1103										1	33													
1106																								
1108																								
1099	1	5	2	8								1	11								1	5		
1110																								
1111																								
1112			3	35						2	11													
1113																								
1114	1	4	2	7						1	10										1	24		
1115			1	7																				
1116			5	15	1	16															1	2		
1117			1	5																				
1118																								
1120																								
1121	4	16	2	8						1	31	1	10											
1123																								
1124	2	8	2	5																				
1125																								
1126	1	4								1	1													
1127			1	7																				
1128			3	14										1	47									
1129			2	16																				
1131			2	7						1	4													
1132					1	16																		
1133																								
1134	5	26	2	17																				
1135																								
1137			3	9																	1	6		
1138																								
1139			1	10																				
1140			2	9						1	3													

上層遺構⑨

遺構	かわらけ												龍泉窯系青磁				尾張・常滑				土器		瓦器		瓦質土器		鉄製品								
	ロクロ			手づくね						白かわらけ			劃花文碗 (1類)		甕		片口鉢 1類		小片		碗		火鉢		釘										
	大・中 破片数	重量 (g)	破片数	大 破片数	重量 (g)	小 破片数	重量 (g)	内折れ 破片数	重量 (g)	小片 破片数	重量 (g)	手づくね 小 破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)						
1141						1	8								2	301					2	6													
1142				1	38																														
1143				2	12																														
1145				1	14																														
1146																																			
1147	6	51	1	7	100	2	19															5	12												
1148				1	48																														
1149																																			
1150	2	9		4	49	1	5															2	7												
1153	6	55	1	24	238	16	105															3	10												
1153	1	5		2	78	1	7															12	38												
1154	1	7		6	52	1	85															6	13												
1155						1	56															4	13												
1156				3	38	1	3															3	8												
1159																																			
1162	4	54	8	54	92	15	68	1	5	15	46										1	26													
1163																																			
1164																																			
1165																																			
1166																																			
1167	3	16	1	10	20	172	7	67	1	10																									
1168																																			
1172				1	16																														
1173				2	14																														
1173				1	5																														
1174			3	20	19	274	5	31																											
1175			1	6	8	89																													
1176																																			
1178				1	10																														
1179																																			
1183																																			
1184	1	97	1	7	5	55																													

上層遺構⑩

遺構	白色石		土師器						ロクロ土師器・土師質土		古式土師器		須惠器						灰軸陶器		骨							
	破片数	重量 (g)	坏		相模型甕		甕		破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)				
			破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)																	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)
1141																												
1142																												
1143																												
1145			1	2																								
1146																												
1147																												
1148			1	9																								
1149																												
1150																												
1153																												
1153			1	3																								
1154																												
1155																												
1156																												
1159																												
1162			6	22	6	57																						
1163			1	6																								
1164																												
1165																												
1166																												
1167																												
1168																												
1172																												
1173																												
1173																												
1174	1	45	19	179	31	241																						
1175																												
1176																												
1178																												
1179																												
1183																												
1184																												

遺構	かわらけ						常滑		土器		石		土師器						ロクロ土師器・土師質土		須恵器			
	手づくね			内折れ			転用片		小片		白色石		坏		台付甕		甕		不明		皿		長頸壺	
	大		小	破片数		重量(g)	破片数		重量(g)	破片数		重量(g)	破片数		重量(g)	破片数		重量(g)	破片数		破片数		重量(g)	重量(g)
	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)
1185	3	22	1	3				4	7							1	6							
2001										1	30					1	12							
2002							1	381																
2004																					2	15		
2005														1	2	1	5				5	31	2	22
2006																1	8							
2007																			1	4			1	9
2014													1	2					1	4				

上層遺構⑫

遺構	土師器						ロクロ土師器・土師質土		古式土師器				須恵器						土器		灰釉陶器		骨					
	常滑		坏		相模型甕		甕		碗		甕		壺		坏		高台付坏		甕		瓶		小片・不明		碗		獸骨	
	破片数		重量(g)		破片数		重量(g)		破片数		重量(g)		破片数		重量(g)		破片数		重量(g)		破片数		重量(g)		破片数		重量(g)	
	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)
2008			6	51																								
2009	2	80	2	18											2	11	1	11										
2010	1	208	1	5	1	8				1	241				1	23												
2011			28	115	31	142									3	15	1	22	5	114	2	12		1	34			
2012																												
2013			3	7																								
2015			1	5																								
2016																												

下層遺構

表4 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			行*	サリ状	板状	スリ口状		
表面採集・表土出土遺物(図10)													
1	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.4)	1.5	1/3		○			○	黄灰	雲母
2	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	5.2	1.6	2/3		○			○	黄灰	雲母
3	土器	ロクロかわらけ・小	8.7	7.3	1.6	ほぼ完形	[62]	○		○		灰黄	白針・雲母、砂質
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	5.7	1.5	ほぼ完形	[49]	○		○		黄橙	白針・雲母
5	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[2.8]	口小片						緑灰半透明	大宰府I-4類
6	磁器	龍泉窯系青磁蓮弁文碗	(12.0)	—	[3.6]	口～体1/6						緑灰半透明	大宰府III類カ
7	磁器	龍泉窯系青磁蓮弁文碗	—	—	[1.7]	口小片						緑灰半透明	大宰府II類カ
8	陶器	常滑甕	—	—	[5.7]	口小片						褐	6a型式 白色粒・黒色粒
9	陶器	常滑転用研磨具	長さ7.8	幅5.7	厚さ1.5	甕口片	107					暗赤褐	甕6b型式 口縁部片を転用 白色粒・黒色粒
10	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.6	狭端面片側面						灰	D類 小礫・赤色粒・気泡 凸面斜格子文叩き+ハケメ
上層遺構面までの出土遺物(図11)													
11	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.1	1.5	1/2		○				淡黄橙	白針・雲母
12	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	5.3	1.6	4/5		○		○		黄橙	白針・雲母
13	土器	ロクロかわらけ・小	8.1	6.4	1.6	口1/2～底完形		○		○		黄橙	白針・雲母 内外面煤付着
14	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	6.2	1.6	2/3		○		○		黄橙	白針・雲母
15	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.1	1.8	口1/2～底完形		○				明黄灰	白針・雲母
16	土器	ロクロかわらけ・小	(8.5)	(7.0)	2.0	1/2		○				橙	白針・雲母
17	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	6.3	1.3	ほぼ完形	[45]	○		○		黄橙	白針 口縁部煤付着
18	土器	ロクロかわらけ・大	12.1	7.4	3.4	ほぼ完形	[146]	○				灰橙	白針・雲母、細砂質 硬質
19	土器	手づくねかわらけ・小	9.2	—	2.0	4/5		○				淡黄	白針・雲母 ロクロ成形の可能性あり
20	土器	手づくねかわらけ・小	(8.8)	—	1.2	1/4		○				橙	内折れ 白針
21	土器	手づくねかわらけ・小	(9.2)	—	1.6	1/3		○				橙	白針・雲母 ボックスキン状の内底ナデ
22	土器	手づくねかわらけ・大	14.3	—	3.2	ほぼ完形	[184]	○				淡黄	白針・雲母、砂質 口縁部指抜き痕強く残る
23	土器	手づくねかわらけ・大	14.9	—	3.5	ほぼ完形	[288]	○				淡黄橙	白針・雲母
24	磁器	龍泉窯系青磁束口碗	(11.0)	—	[2.3]	口1/8						緑灰半透明	大宰府I-6b類
25	陶器	常滑片口鉢I類	(31.0)	(15.9)	12.8	口1/8～底1/5						灰	長石・黒色粒
26	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.0	1/4以下						黒灰	凹面離れ砂 凸面縄目叩き+離れ砂
上層遺構出土遺物(1)(図12)													
27	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	4.6	1.8	ほぼ完形	[52]	○		○		黄灰	遺構1002上層 白針・雲母
28	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.0]	口小片						灰緑透明	遺構1002上層 大宰府I-4類
29	陶器	瀬戸折縁皿	—	—	[2.4]	口小片						灰白	遺構1002上層 軟質 施釉
30	陶器	瀬戸折縁深皿	—	—	[3.7]	口小片						淡黄灰	遺構1002上層 軟質 施釉
31	陶器	常滑片口鉢II類	—	—	[6.8]	口小片						褐	遺構1002上層 白色粒
32	陶器	備前播鉢	—	—	[6.9]	口小片						褐	遺構1002上層
33	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.2]	口小片						暗灰	遺構1002上層 河野B(III)類 菊花文スタンプ

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			行	サリ状	板状	スリ状		
34	瓦質土器	火鉢	—	—	[10.6]	底小片						灰	遺構1002 河野B(III)類 輪花形 菊花文スタンプ
35	陶器	渥美甕	—	—	[12.9]	胴小片						灰	遺構1003 白色粒
36	土器	転用円盤	長さ 2.0	幅 2.1	厚さ 0.7	完形	2.6					橙	遺構1011 雲母 八角形カ
37	磁器	龍泉窯系青磁 小碗	—	3.2	[2.5]	底2/3						暗灰緑 不透明	大宰府I類カ
38	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.3	1/2		○				淡橙	遺構1016 雲母
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.4	1/4		○		○		黄灰	遺構32A 雲母、砂質 口縁部煤付着
40	陶器	須恵器 甕	(18.4)	—	[4.3]	口1/6						暗灰	遺構1020 石英
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.0)	2.0	1/4		○				赤橙	遺構1036 白針・雲母、細砂質
42	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.3	2.0	3/4		○					遺構1036 白針・雲母
43	土器	ロクロ かわらけ・大	—	6.2	[1.3]	3/4		○				橙褐	遺構1036 白針・雲母
44	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.0	1/8		○				灰白	遺構1036 白針
45	土器	土師器 杯	(16.2)	—	5.3	口小～ 底2/3						黄橙	遺構1036 白針 外底焼けむらによる黒斑
46	磁器	青白磁 輪花皿	—	—	[0.8]	口小片						淡青 透明	遺構1036
47	陶器	常滑 甕	—	—	[15.4]	胴小片						褐	遺構1036 長石・黒色粒
48	土器	土師質土器 杯	(13.0)	6.2	3.2	口小～ 底2/3		○				橙	遺構1036 白針・雲母、砂質感強い
49	土器	土師器 高台付杯	—	6.8	[2.3]	底完形						黄橙	遺構1036 白針 硬質 内底面放射状暗文 甲斐型模倣
50	土器	土師器 甕	(12.8)	—	[7.3]	口1/6						橙	遺構1036 白針・雲母
51	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.9	1/2		○				橙	遺構1056 白針・雲母
52	土器	手づくね かわらけ・内折	(6.6)	—	1.6	1/4		○				橙	遺構1057 雲母
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.0)	2.2	口小～ 底1/2		○		○		黄灰	遺構1058 白針・雲母
54	陶器	灰釉陶器 碗	—	(7.0)	[1.7]	底1/4						灰	遺構1067 K90 or 053窯式 白色粒
55	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.3	1/4		○				黄灰	遺構1046 白針・雲母 口縁部煤付着
56	土器	手づくね かわらけ・大	(16.0)	—	3.4	1/4		○				橙～黄灰	遺構1046 白針・雲母、砂質
57	磁器	青白磁 劃花文碗	—	(4.8)	[3.6]	体～ 底1/6						青灰 半透明	遺構1046
58	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	[1.7]	口1/3						黄灰	遺構1076 白針・雲母
59	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	—	1.4	完形	49	○				橙	遺構1095 白針・雲母
60	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/2		○				黄灰	遺構1095 白針・雲母、砂質 焼成前に竹管状圧痕
上層遺構出土遺物(2)(図13)													
61	陶器	常滑 甕	—	—	[13.4]	胴小片						暗褐	遺構1097 白色粒 硬質 胴部外面ランダム押印
62	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	[3.4]	1/4		○				黄橙	遺構1110 白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.4)	1.9	1/3		○				灰黄	遺構1114 白針
64	土器	手づくね かわらけ・小	9.7	—	2.3	ほぼ完形	[73]	○				橙	遺構1114 白針 口外面～内面煤付着
65	鉄製品	釘	長さ (5.4)	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠損	[4.1]					—	遺構1150
66	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/3		○				橙	遺構1153 白針・雲母
67	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	[3.7]	口～ 体1/4		○				橙	遺構1153 白針・雲母
68	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	2.0	完形	85.0	○				灰黄～橙	遺構1154 白針 口唇部煤付着

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			行	サリ状	板状	スノ状		
69	土器	手づくね かわらけ・小	9.9	—	2.0	完形	56	○				橙	遺構1155 白針・雲母
70	土器	手づくね かわらけ・大	14.3	—	3.0	ほぼ完形	[201]	○				にぶい橙	遺構1162 白針・雲母 口縁部煤付着
71	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	3.8	[2.6]	底1/2						青灰 不透明	遺構1162 大宰府Ⅲ類
72	陶器	常滑 甕	—	—	[1.8]	口小片						暗褐	遺構1162 白色粒・黒色粒
73	陶器	須恵器 高台付坏	—	(9.0)	[1.4]	底1/4						灰	遺構1162 白色粒
74	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.7	完形	75	○				黄灰	遺構1166 白針・雲母
75	土器	手づくね かわらけ・小	(10.0)	—	1.7	口～ 体1/4		○				黄灰	遺構1174 白針
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	2.9	口～ 体1/6		○				黄灰	遺構1174 白針・雲母
77	土器	吉備系 碗	(11.8)	—	[3.6]	1/6						灰白～暗灰	遺構1175 高台剥落 口縁部煤付着
78	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	9.0	3.3	1/2		○		○		黄橙	遺構1184 白針
下層遺構面までの出土遺物(図14)													
79	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.5)	1.4	1/2		○				橙	白針
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.5)	3.2	1/2		○				黄橙	白針 外面～口縁部内面淡黒色 に変色
81	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(7.5)	4.1	1/2		○				橙	白針
82	土器	手づくね かわらけ	(7.0)	—	1.0	口～ 体1/4						暗灰	内折れ 堅緻 内外面ミガキ調整
83	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.7	1/2		○				黄灰	白針
84	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	1/2						淡黄灰	白針・雲母 口縁部煤付着
85	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.9	口1/4～ 底3/4		○				黄橙	白針
86	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.4	1/4		○				黄橙	白針 粘土板結合法による成形
87	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.5	1/3		○				橙	白針
88	陶器	緑釉陶器 器種不明	—	—	[1.7]	底小片						緑灰	
89	瓦質土器	風炉	—	—	[1.7]	小片						暗灰	
90	土器	土師器 高坏	—	—	[6.6]	坏底～ 脚片						淡黄灰	白針・角閃石 古墳後期
91	土器	土師器 甕	(16.4)	—	[5.8]	口～ 胴1/4							角閃石 口縁部煤付着
92	土器	土師器 甕	—	—	[4.3]	胴小片						橙	下層遺構面下7 ^{cm} トV ^③ 白色粒・黒色粒
93	陶器	須恵器 坏蓋	(13.8)	—	[2.9]	口1/8						灰	
下層遺構出土遺物(図15)													
94	陶器	常滑or渥美 甕	—	—	[10.7]	胴小片						明褐	遺構2002 白色粒、砂質感強い
95	土器	ロクロ土師器 皿	—	—	[2.3]	口小片						にぶい橙	遺構2008 白針・雲母
96	土器	土師質土器 坏	14.9	6.4	4.6	完形	241					内面淡橙褐 外面黒～灰橙	遺構2010 白針・石英粒 外底全面黒色に変色
97	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	頸小片						褐	遺構2010 長石粒
98	土器	土師質土器 坏	—	—	[2.9]	口小片						橙	遺構2011 白色粒
99	土器	土師質土器 坏	—	—	[3.2]	口小片						橙	遺構2011 白針・雲母
100	土器	土師質土器 碗	—	—	[2.4]	口小片						黄灰	遺構2011 雲母 外面煤付着
101	陶器	灰釉陶器 碗	—	(7.3)	[2.4]	底1/6						灰	遺構2011 白色粒

第五章 調査成果のまとめ

ここまで、簡略な説明を行ってきた。64.43㎡という狭い範囲の調査であり、鎌倉後期以降の整地面が削平により失われてはいたが、こうした中でも平安末期～鎌倉前期を中心とした幾つかの知見を得ることができた。以下、要点を整理して本報告のまとめとしたい。

上層遺構群は鎌倉前期以降に属し、掘り込み面は削平されていたものの、鎌倉後期～南北朝期の井戸や東西溝といった遺構も検出されている。注目されるのは鎌倉前期の東西溝（遺構1036）と、これに並行する柱穴列2列で、前者は永福寺方面に向かう「二階堂大路」の南側溝である可能性が高い。断面形態・埋土様相・出土遺物の傾向などから、鎌倉前期でも比較早い段階に埋没したことが想定される。明確な根拠を示せず多分に感覚的な見解に過ぎないが、13世紀第2四半期でも早期にうちに機能廃絶、埋没に至ったと考えている。この北隣では、概ね同方向で延びる新しい段階の東西溝（遺構1001）をごく部分的だが確認しているので、13世紀中頃前後には大路側溝が北に移動した可能性を指摘できる。柱穴列については、2列同時存在の可能性も含め明確な復元案を示せないが、埋土様相から東西溝1036と同時期に存在した可能性が高く、溝に近接し過ぎている点から、建物よりは板塀（2列併存であれば築地塀）など区画・遮蔽施設であった可能性が高い。二階堂大路に関する考古学的知見については第一章で述べた通りであるが、今後、関連事例の成果が蓄積される中で検討が進むことに期待したい。また、二階堂大路や関連施設の在り方とともに、そこに接して展開したであろう土地利用の具体像についても注目したい。

下層遺構群は中世基盤層の上面を掘り込み層としており、層位的には上述した遺構1036など、鎌倉初期～前期の遺構より確実に古い。東西・南北・蛇行など数条の小規模な溝が検出され、概して埋土中からの出土遺物は僅少であった。こうした中、東西溝（遺構2010）からは溝底付近で完存する土師質土器の坏が出土しており、器形・法量・整形技法などの諸点で鎌倉出土の「かわらけ」でも最古の部類、或いはそれを若干遡る可能性に言及した。その可否は今後の土器研究に委ねたいが、遺物自体の特徴に加え、出土層位・伴出遺物に関しても一定の情報を提示できたことで、研究の進展に寄与できるものと期待している。おそらく、大倉地区では中世基盤層まで調査できれば本例と同様の事例が僅かずつでも追加されて行くだろう。筆者自身、今後の調査に当たっては十分に留意したい。

今回、中世の遺構埋土や遺物包含層中から古代以前の出土遺物が一定量みられた。中世基盤層の上面や、その下位層でも所産時期を確定できる古代の遺構は確認されなかったが、中世層への遺物混入量を見ると、下層遺構群の溝の中には平安時代を遡る事例があるかもしれない。本地点でなくとも、近隣に古代遺構が展開することは、周辺での調査例からも明らかである。本地点では古墳時代前・後期の土器が目立つ印象を受けたが、奈良・平安時代の資料も確実に存在する。いずれにせよ、大倉地区が「頼朝以前」の鎌倉を再現するに当たり重要なエリアであることは間違いない。

参考文献は第一章末（304頁）に記載した。

付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

大倉幕府周辺遺跡群（神奈川県鎌倉市雪ノ下に所在）は、大倉幕府跡（大倉御所）の推定地をコの字状に取り囲む範囲とされており、源頼朝入府以前から交通の要害となっていたとされる。大倉御所の周囲には御家人などの屋敷が存在していたと推定されており、鎌倉時代後期になると商業地域となっていたと推定されている。これまでの発掘調査の結果、建物跡や井戸跡などが検出されている。今回は、調査区周辺の古植生などに関する情報を得るために、花粉分析と植物珪酸体分析を実施した。

1. 試料

Ⅱ区北壁の土層断面より採取され、分析調査用に選択された土壌試料3点（試料番号1,2,4）である。

これら3試料は、試料番号1が黒褐色砂質シルト～粘土、試料番号2が赤黒色礫混じり砂質シルト～粘土、試料番号4が黒色礫混じり砂質シルト～粘土からなる。なお、分析の際は、同一試料を各分析項目で分割して用いた。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。

残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中

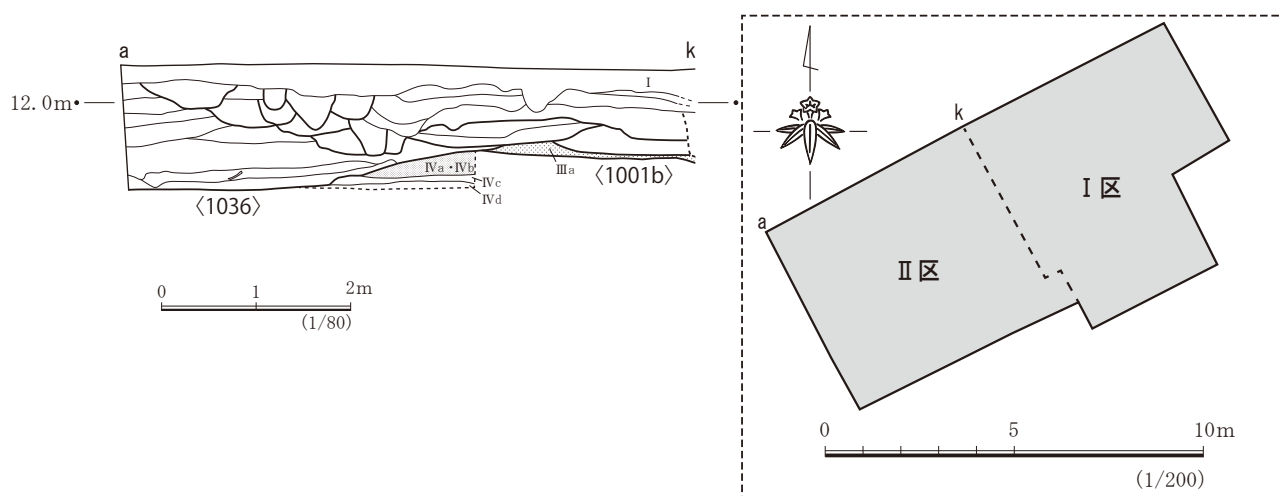


図1 試料採取箇所

村 (1980)、三好ほか (2011) などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

(2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量 (同定した数を乾土1gあたりの個数に換算) を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の分類群と植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め (100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を表1に示す。Ⅱ区北壁の3点 (試料番号1,2,4) では、いずれも検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られない。

僅かに検出された種類は、木本花粉ではモミ属、マツ属、スギ属、草本花粉ではイネ科やアカザ科である。

これらの保存状態は悪く、花粉外膜が壊れている、あるいは溶解している状態である。

なお分析残渣中には、微細な炭化植物片 (いわゆる微粒炭) が含まれている。プレパラート内の状況写真を図版1に示す。

(2) 植物珪酸体分析

結果を表2、図1に示す。

Ⅱ区北壁の3点 (試料番号1,2,4) からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔 (溶食痕) が認められる。

植物珪酸体含量は各試料で異なり、試料番号1が8,100個/g、試料番号2が6,700個/g、試料番号4が12,100個/gである。

各試料での産状は同様であり、メダケ属を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属などを伴う。また栽培植物であるイネ属が産出し、葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。

表1 花粉分析結果

種 類	Ⅱ区北壁		
	1	2	4
木本花粉			
モミ属	1	-	-
マツ属	-	-	2
スギ属	-	1	-
草本花粉			
イネ科	-	-	1
アカザ科	1	-	-
シダ類孢子			
イノモトソウ属	2	3	30
他のシダ類孢子	10	-	21
合 計			
木本花粉	1	1	2
草本花粉	1	0	1
シダ類孢子	12	3	51
合計	14	4	54

その含量は少なく、試料番号1と2がともに短細胞珪酸体200個/g、機動細胞珪酸体400個/g、試料番号4の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がいずれも100個/g未満である。試料番号1と2では粉(穎)に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列も検出される。

イネ科以外に、樹木起源としてクスノキ科葉部に由来した植物珪酸体が多く検出される。また植物珪酸体の他に珪藻殻も認められる。

4. 考察

Ⅱ区北壁から採取された3試料では、花粉化石がほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。一般的に花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。検出された木本類はモミ属、マツ属、スギ属で、いずれも針葉樹由来である。草本類のイネ科やアカザ科は、抵抗性の強い種類や分解が進んでも同定可能な種類である。花粉外膜が破損している、あるいは溶解している状況も踏まえると、堆積時に取り込まれた花粉は後代の経年変化により分解や消失したと考えられる。しかし、検出された種類からⅡ区北壁の土層が形成された頃に少なくともモミ属やマツ属、スギ属などの針葉樹、イネ科やアカザ科などの草本類が周辺地域に生育しており、そのような場所から花粉が飛来したと考えられる。

また、植物珪酸体で検出された分類群からは、イネ科の中にメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属が含まれていたことがうかがえる。堆積物1gあたりに含まれる植物珪酸体含量は3試料ともそれほど大差なく、また全体的に少ない。このことから、比較的堆積速度が速かったことが想定される。また、産出の目立ったタケ亜科の植物珪酸体は他のイネ科と比較して風化に強く、生産量の多い点がこれまでの研究から指摘されており(近藤,1982;杉山・藤原,1986)、他の種類よりも残留しやすいことが知られている。今回の産状もタケ亜科が土層中に相対的に多く残留したために、その産出が目立つ結果になったと考えられる。

そのほか、クスノキ科葉部の植物珪酸体が多く検出されたことから、針葉樹の他に樹木が生育していたと思われる。クスノキ科は、日本ではタブノキをはじめ常緑広葉樹林の構成種を多く含む。また、これらの種類の花粉は分解しやすい性質なため花粉分析において検出されることがない。おそらく、遺跡の後背地など比較的付近には、これらクスノキ科などをはじめとして常緑樹が生育していたとみられる。

表2 植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	Ⅱ区北壁		
	1	2	4
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	200	200	<100
メダケ属	600	500	1,300
タケ亜科	700	600	1,900
ヨシ属	100	200	800
ススキ属	<100	100	<100
不明	1,200	1,100	1,500
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	400	400	<100
メダケ属	800	900	1,400
タケ亜科	1,100	900	2,400
ヨシ属	500	400	600
ススキ属	200	200	-
不明	2,000	1,500	2,000
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	3,000	2,500	5,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	5,100	4,200	6,500
植物珪酸体含量	8,100	6,700	12,100
珪化組織片			
イネ属穎珪酸体	*	*	-
イネ属短細胞列	*	-	-
樹木起源珪酸体			
クスノキ科	**	**	**
その他			
珪藻殻片	*	*	**

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

<100:100個/g未満

-:未検出,*:含有,**:多い

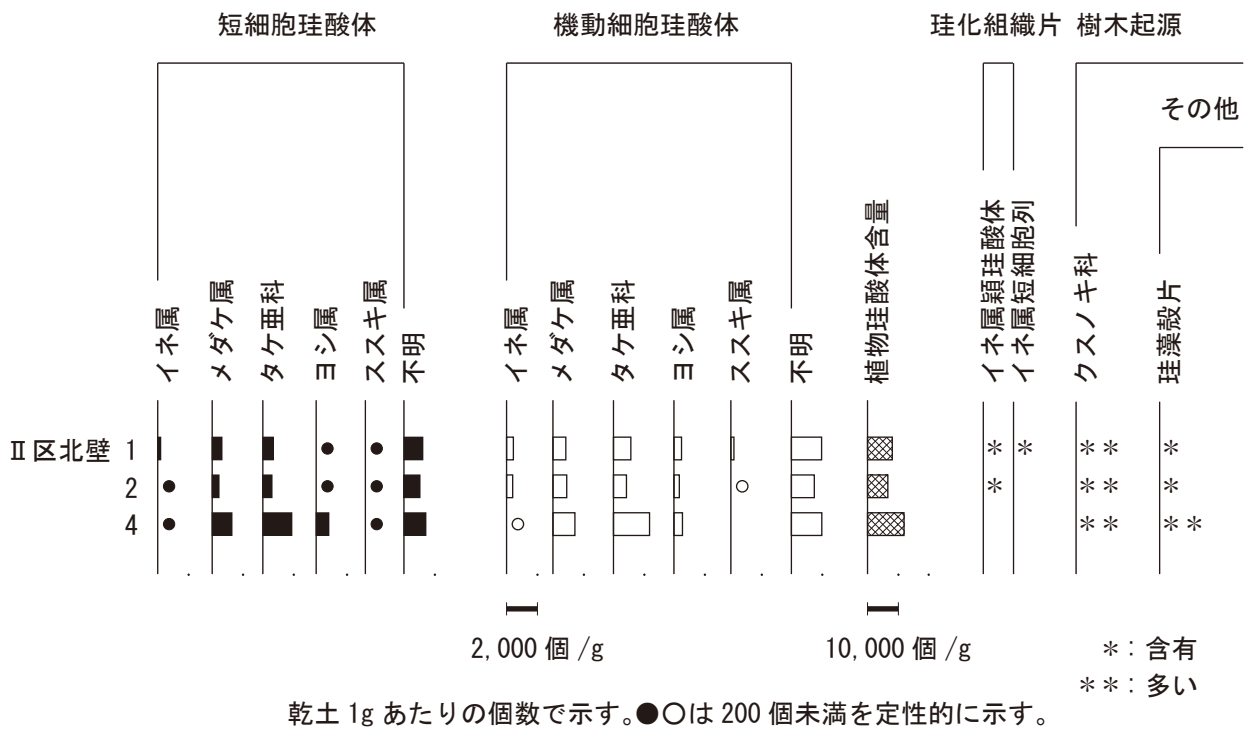


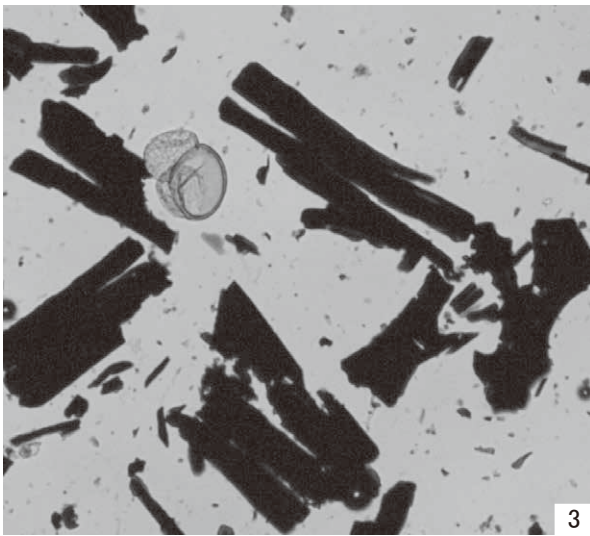
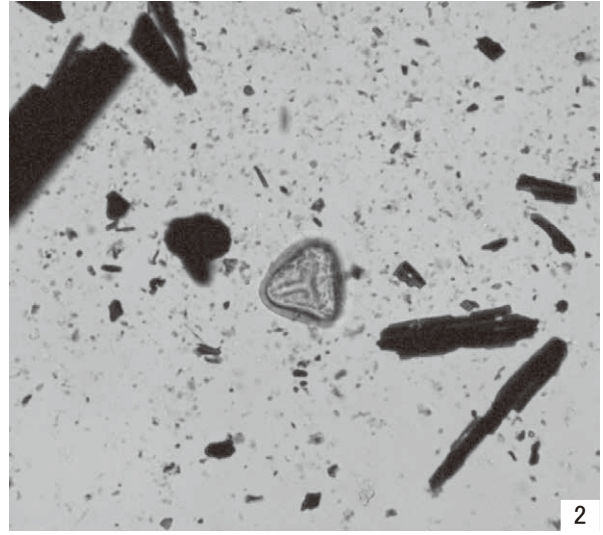
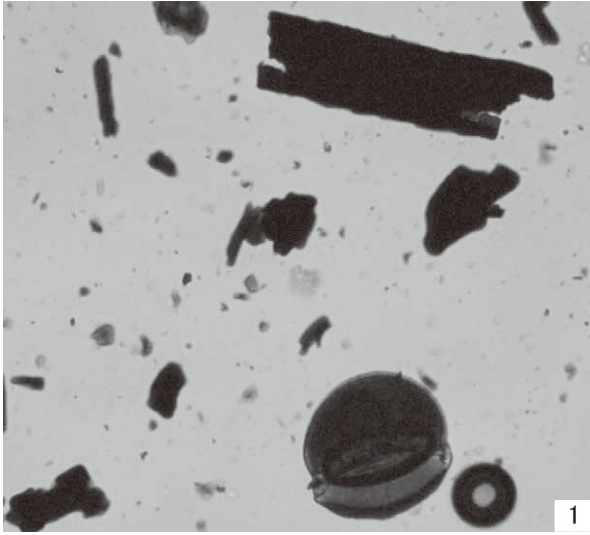
図2 大倉幕府周辺遺跡群の植物珪酸体含量

なお各試料からは、栽培植物であるイネ属がわずかに産出した。これより、II区北壁の土層が形成された頃に周辺で稲作が行われた可能性あるいはイネ属の植物体が何らかの生活資材（燃料材や住居構築材など）として利用された可能性が想定される。この点については、今後さらに当該期の土層を対象として堆積環境や植生に関する分析調査を実施し、発掘調査所見を含めて検討することが望まれる。

引用文献

- 近藤鍊三,1982,Plant opal分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究.昭和56年度科学研究費(一般研究C)研究成果報告書,32p.
- 近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.
- 三宅 尚・中越信和,1998,森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態.植生史研究,6,15-30.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑.北海道大学出版会,824p.
- 中村 純,1967,花粉分析.古今書院,232p.
- 中村 純,1980,日本産花粉の標徴 I II (図版).大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 杉山真二・藤原 宏志,1986,機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-.考古学と自然科学,19,69-84.
- 徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

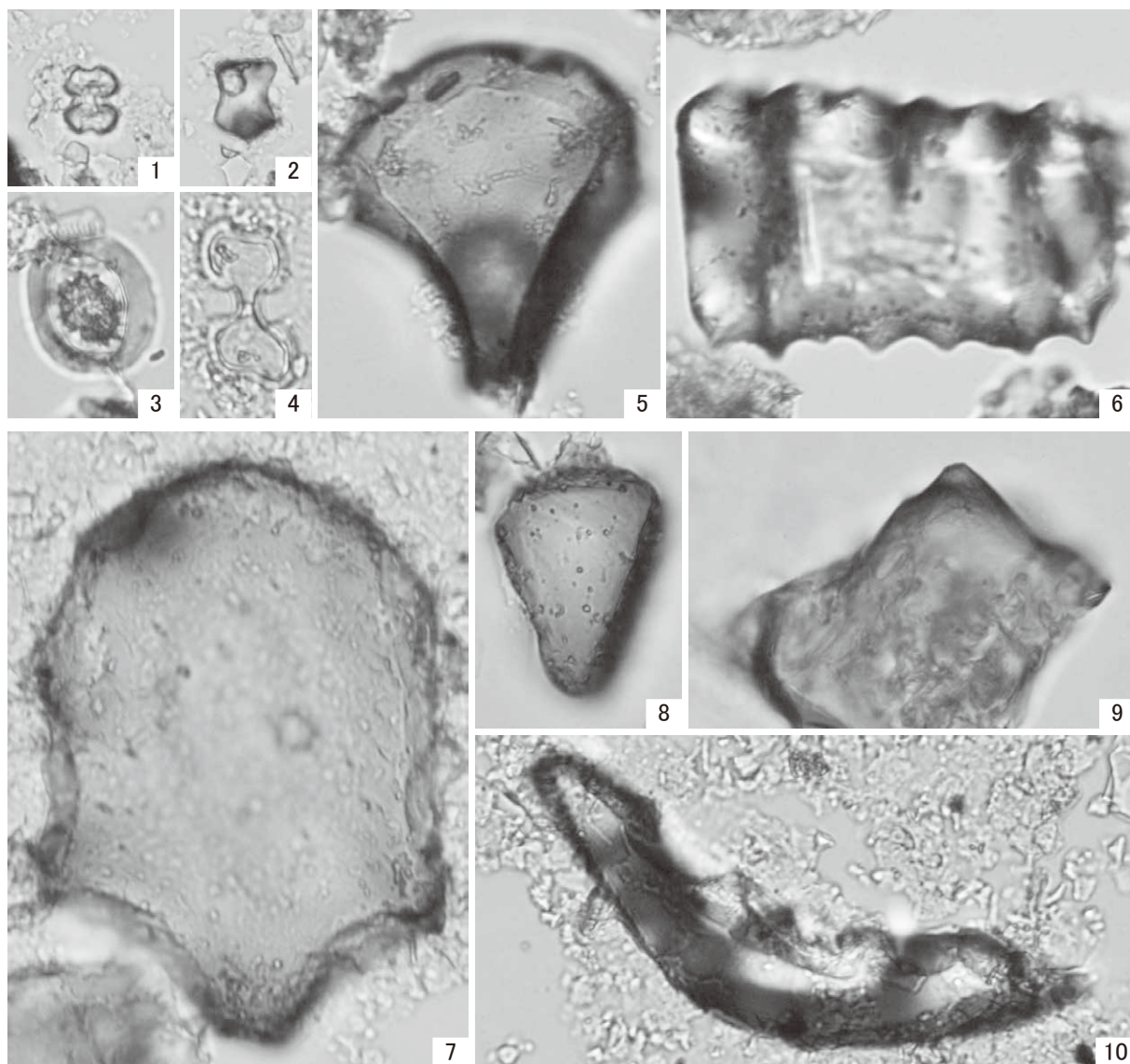
図版1 花粉分析プレパラートの状況



50 μ m

1. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁;1)
2. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁;2)
3. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁;4)

図版2 植物珪酸体



50 μm

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;2) | 2. メダケ属短細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;4) |
| 3. ヨシ属短細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;1) | 4. ススキ属短細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;2) |
| 5. イネ属機動細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;1) | 6. メダケ属機動細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;1) |
| 7. ヨシ属機動細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;4) | 8. ススキ属機動細胞珪酸体(Ⅱ区北壁;2) |
| 9. イネ属穎珪酸体(Ⅱ区北壁;2) | 10. クスノキ科葉部珪酸体(Ⅱ区北壁;4) |



1. 現地調査前 (南東から)



2. I区 表土掘削状況 (南から)



3. I区上層 全景 (西から)



4. I区上層 遺構 1001・1036 (東から)



5. 同左 低位から (東から)

図版2



1. I区上層 遺構 1001・1036 (西から)



5. I区上層 遺構 1002 断面 (南から)



2. I区上層 遺構 1001 断面 (西から)



6. I区上層 遺構 1014 断面 (西から)



3. I区上層 遺構 1036 断面 (東から)



7. I区上層 遺構 1014 底面 (西から)



4. I区上層 遺構 1002 (南から)



8. I区上層 遺構 1014 底面の礎板痕跡 (西から)



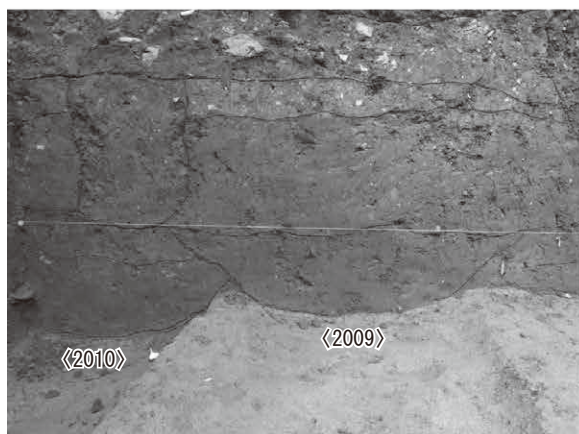
1. I区下層 全景 (南から)



2. I区下層 遺構 2009・2010・2014 (東から)



4. I区下層 遺構 2013 断面 (東から)

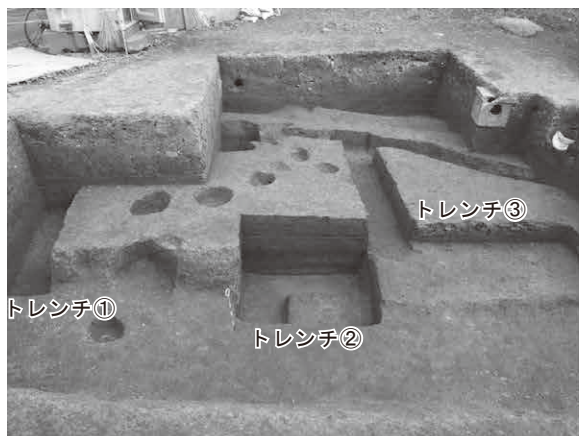


3. I区下層 遺構 2009・2010 断面 (東から)



5. I区下層下 トレンチ掘削状況 (南西から)

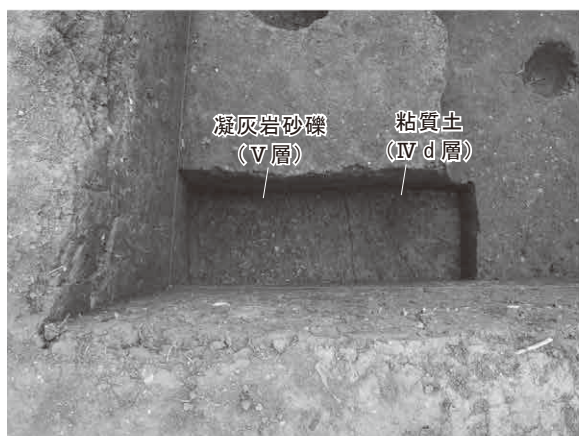
図版4



1. I区下層下 全景 (北から)



5. I区下層下 トレンチ② (西から)



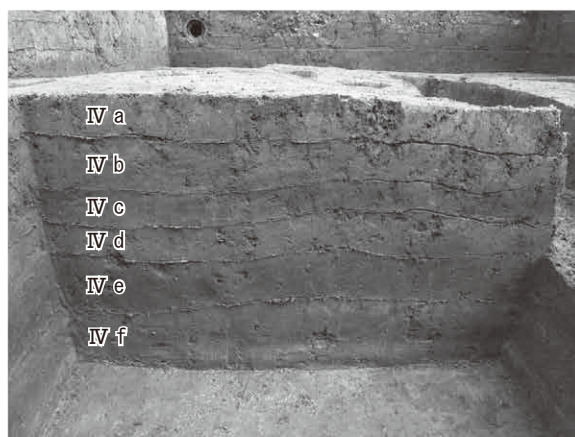
2. I区下層下 トレンチ①底面 (東から)



6. I区下層下 トレンチ②断面 (西から)



3. I区下層下 トレンチ①断面 (北から)



7. I区下層下 トレンチ②断面 (北から)



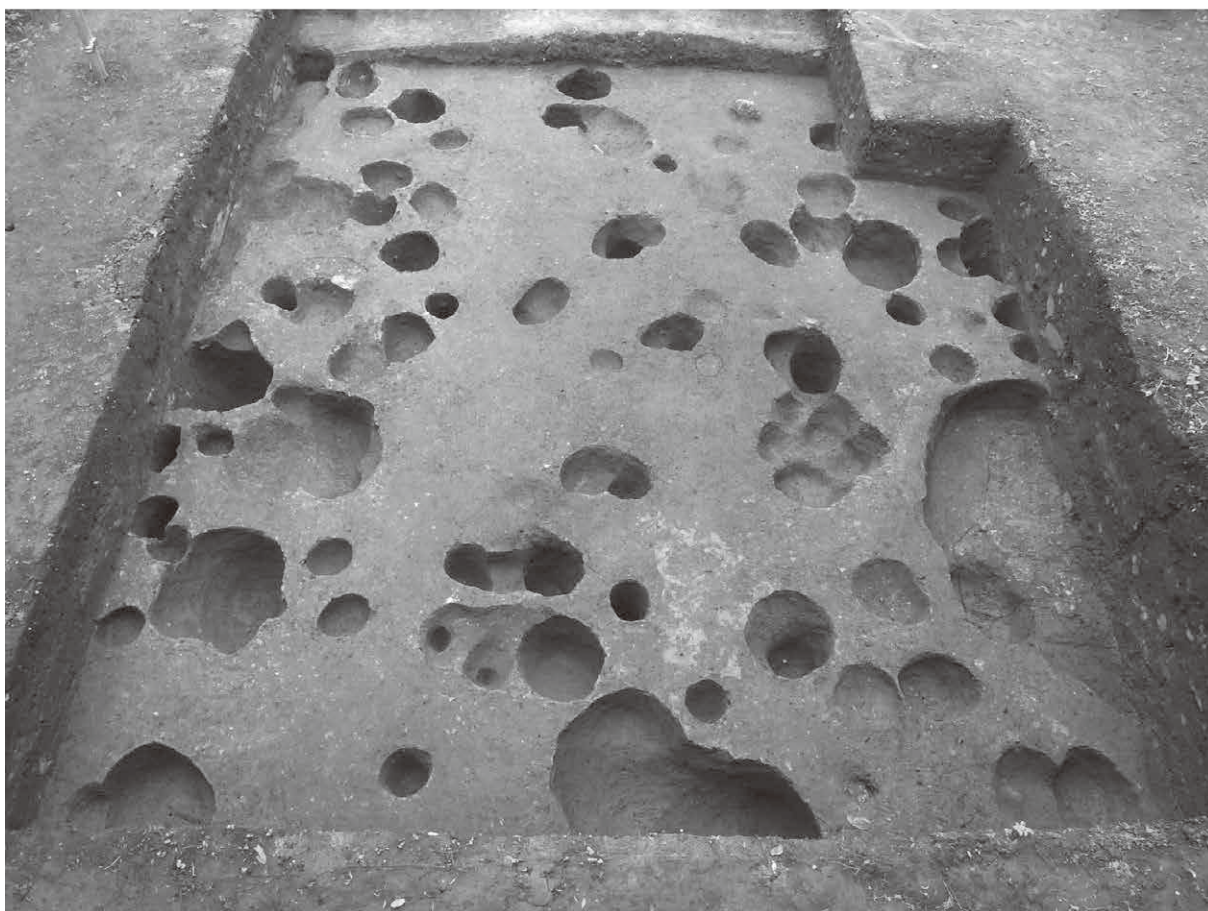
4. I区下層下 トレンチ①断面 (西から)



8. I区下層下 トレンチ②・③断面 (北西から)



1. II区上層① 全景 (西から)



2. II区上層② 全景 (西から)



1. II区上層③～下層①全景（西から）



2. II区上層③ 遺構 1036（西から）



3. II区下層① 遺構 2009・2010（西から）



4. II区下層① 遺構 2010 土器出土状況（西から）



1. II区下層② 全景 (西から)



2. II区下層② 遺構 2011 検出状況 (北から)



3. II区下層② 遺構 2011 (南から)



4. II区下層② 遺構 2011 断面 (北から)

図版8



1. II区下層② 遺構 2013 (東から)



5. II区下層調査時 上層遺構 1036 断面 (東から)



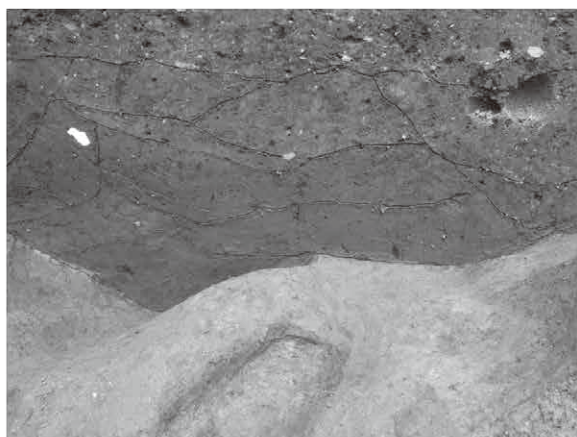
2. 同上 低位から (南西から)



6. II区下層 遺構 2011 断面 (北から)



3. I区下層調査時 上層遺構 1162 (北から)



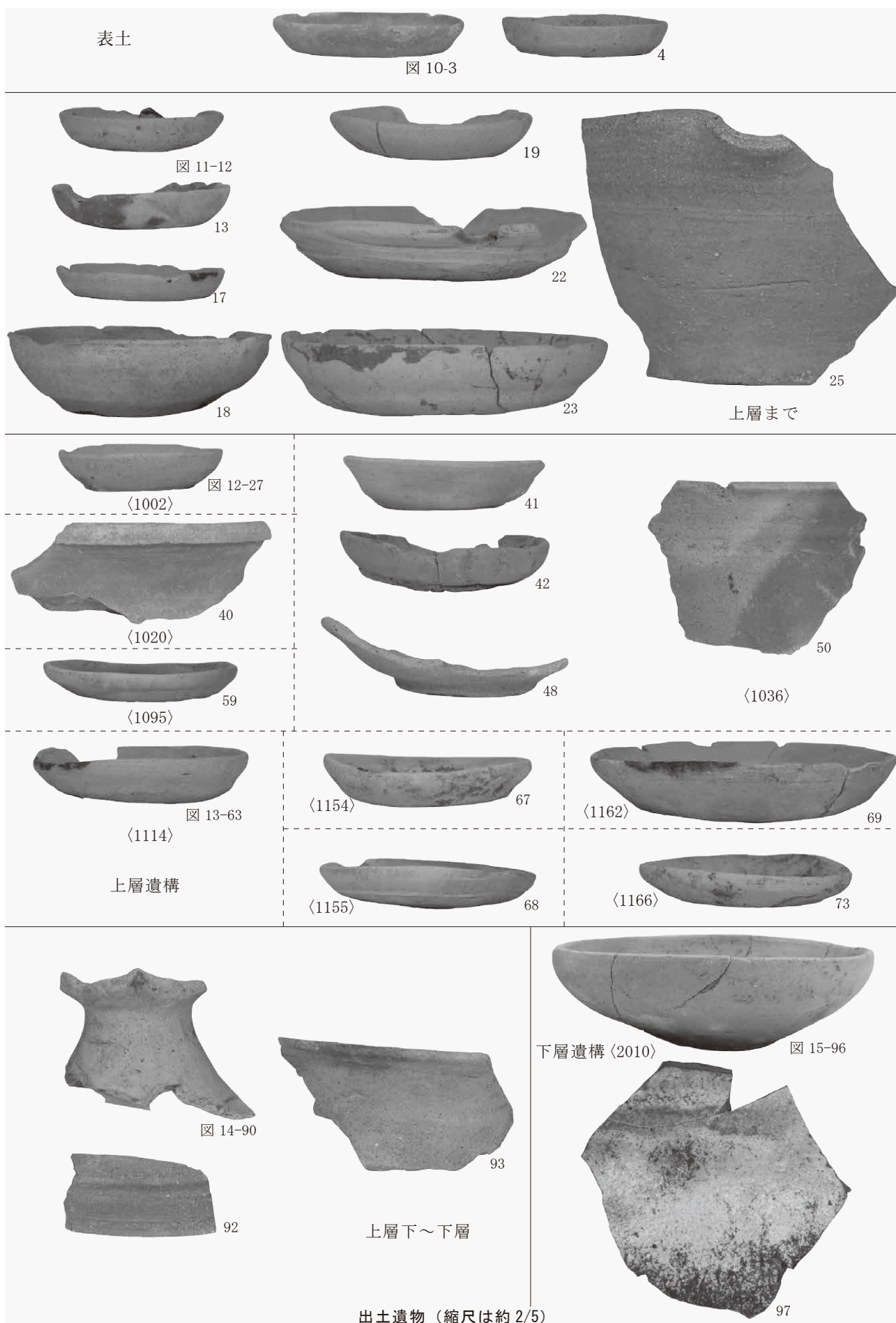
7. II区上層遺構 1174・下層遺構 2009 断面 (東から)



4. 同上 断面 (北から)



8. II区北壁断面 土層サンプリング箇所(南から)



鎌倉城 (No.87)

西御門一丁目 68番94 地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市西御門一丁目68番94において実施した、鎌倉城（鎌倉市No.87）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成29年5月22日から同年6月9日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、47.42㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者	押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員	岡田慶子、松吉里永子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作業員	遠藤雅廣、鈴木道明、永野幹晴、山口芳治
	（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
整理作業参加者	押木弘己、後藤 健、榎岡ケイト、松吉里永子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本調査の実施にあたり、(株) 斉藤建設より同社が実施した調査測量図および国土座標データを提供していただいた。記して謝意を表したい。
7. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「K J 1 7 0 1」とし、出土品への注記などに使用した。

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	359
第1節 遺跡の立地	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過	362
第1節 調査の経緯と経過	
第2節 調査の方法	
第三章 基本土層	363
第四章 検出遺構と出土遺物	365
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第3節 立ち会い調査の遺構と遺物	
第五章 調査成果のまとめ	372

挿図目次

図1 調査地点の位置.....	360	図7 出土遺物	369
図2 調査区配置図.....	362	図8 立ち会い調査時 炭化物・かわらけ集中範囲.....	371
図3 土層断面図.....	364	図9 立ち会い調査時 かわらけ集中範囲出土遺物.....	372
図4 2面全体図.....	366		
図5 3面全体図.....	367		
図6 3面下(調査規制深度)全体図.....	368		

表目次

表1 周辺調査地点一覧.....	361	表4 立会調査時 かわらけ集中範囲 出土遺物観察表.....	372
表2 3面 礎石所見.....	365	表5 出土遺物カウント・計量表.....	373
表3 出土遺物観察表.....	370		

図版目次

図版1	375	図版2	376
1. 現地調査前(南東から)		1. ③調査区3面 礎石A周辺(北から)	
2. ②調査区2面(東から)		2. ③調査区3面 礎石B(西から)	
3. ③調査区2面(西から)		3. ④調査区3面 礎石C(南から)	
4. ④調査区2面(東から)		4. ④調査区3面 礎石D(南から)	
5. ①調査区トレンチ3面(南東から)		5. ④調査区3面 礎石E(南から)	
6. ②調査区トレンチ3面(西から)		6. ④調査区3面 礎石F(東から)	
7. ③調査区トレンチ3面(西から)		7. ④調査区トレンチ3面下(南から)	
8. ④調査区トレンチ3面(東から)		8. ④調査区3面下 土坑1(東から)	
		図版3 出土遺物	377

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09′ 25″ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
 - ◆火鉢：河野真知郎 1992「鎌倉の搬入土器と在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅷ』日本中世土器研究会（A～G類表記）
：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において」『考古論叢神奈河』第2集 神奈川県考古学会（I～VI類表記）
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

本調査地は鎌倉市西御門一丁目68番94に所在する。鶴岡八幡宮の北東約500mに位置し、樹枝状に開かれた丘陵谷戸内に立地する(図1)。調査着手時の標高は28.8m前後であったが(図2)、既に宅地造成が一定程度進んだ中での計測値であり、造成前は標高29～30m前後の平場であった(図8)。

遺跡としての「鎌倉城」(鎌倉市No.87)は旧鎌倉市街を三方に取り巻く丘陵地に散在的に展開しており、西は極楽寺・稲村カ崎、北は山之内、東は大町・浄明寺方面まで及んでいる。遺跡名は九条兼実の日記『玉葉』に表現された「鎌倉城」に由来するが、実態としては城郭に関わる要素は希薄である。土地の来歴に基づく相応の名称が史料または伝承の上でも見当たらない場合、行政手続き上、便宜的に適用されている面もあるだろう。後述するように、本地点でも城郭の存在を示す知見は得られていない。

第2節 周辺の調査成果

西御門地区の谷戸内は宅地化が進んでいるものの発掘調査の件数は少なく、図1の範囲では6地点を数えるに過ぎない。このため現時点では当地区全体の歴史を考古学の成果から語ることは叶わないが、以下に、断片的ながら周辺での調査成果を列挙しておく。

本地点と同じ谷戸内(①)では、今回の調査に先立つ平成29年1月～5月に宅地造成工事に伴う発掘調査が実施されている。調査終了から間もないため成果の詳細は明らかとなっていないが、中世の整地面が累重して検出され、土地利用の継続性が窺われた。本地点3面の礎石配列や3面上炭層の面的広がりを探る上で、今後の報告が期待される。また、本地点より下層まで調査が及んでいるので、土地利用の開始時期や変遷・画期といった情報にも留意したい。

西御門遺跡(No.325)の地点②では中世の遺構面3枚が検出され、当地点での土地開発は13世紀末に始まり、15世紀前葉まで続いたと報告されている。最下層の第3面(13世紀末～14世紀前半)では木組み護岸をもつ新旧2段階の東西溝が検出されている。

地点③では2回に分けて小規模なトレンチ調査が実施されている。調査範囲が限定的でありながらも中世に属する6枚以上の遺構面が確認され、上位の3枚については出土遺物から戦国時代～近世の所産と考えられている。戦国期には南北方向の浅い溝状遺構が検出され、東に接する現行の道路と近似した軸線をもつものであった。

報恩寺跡(No.251)の地点④では、市立第2中学校の校地整備に伴い昭和49年6月と昭和51年1月～2月に緊急調査が実施されている。両調査とも、今のところ略報が公刊されているのみなので成果の具体的内容を知ることはできない。谷戸内に残る平場5段(上から順に第1～第5平場)のうち、下段の第4・5平場が調査対象とされた。第4平場では東西方向の石列が検出され、その規模や谷戸内での位置から一辺16m前後の方形基壇としての復元案が示された上で、仏殿であった可能性が指摘されている。最下段の第5平場では新旧2段階の凝灰岩切石列や井戸、南北に走る近年までの古道が検出され、石列については築地垣の基礎または石垣に、古道については前身遺構として報恩寺参道があった可能性が示唆されている。『鎌倉廃寺事典』に拠ると、報恩寺は「山号南陽、報恩護国禅寺。開山義堂周信、開基上

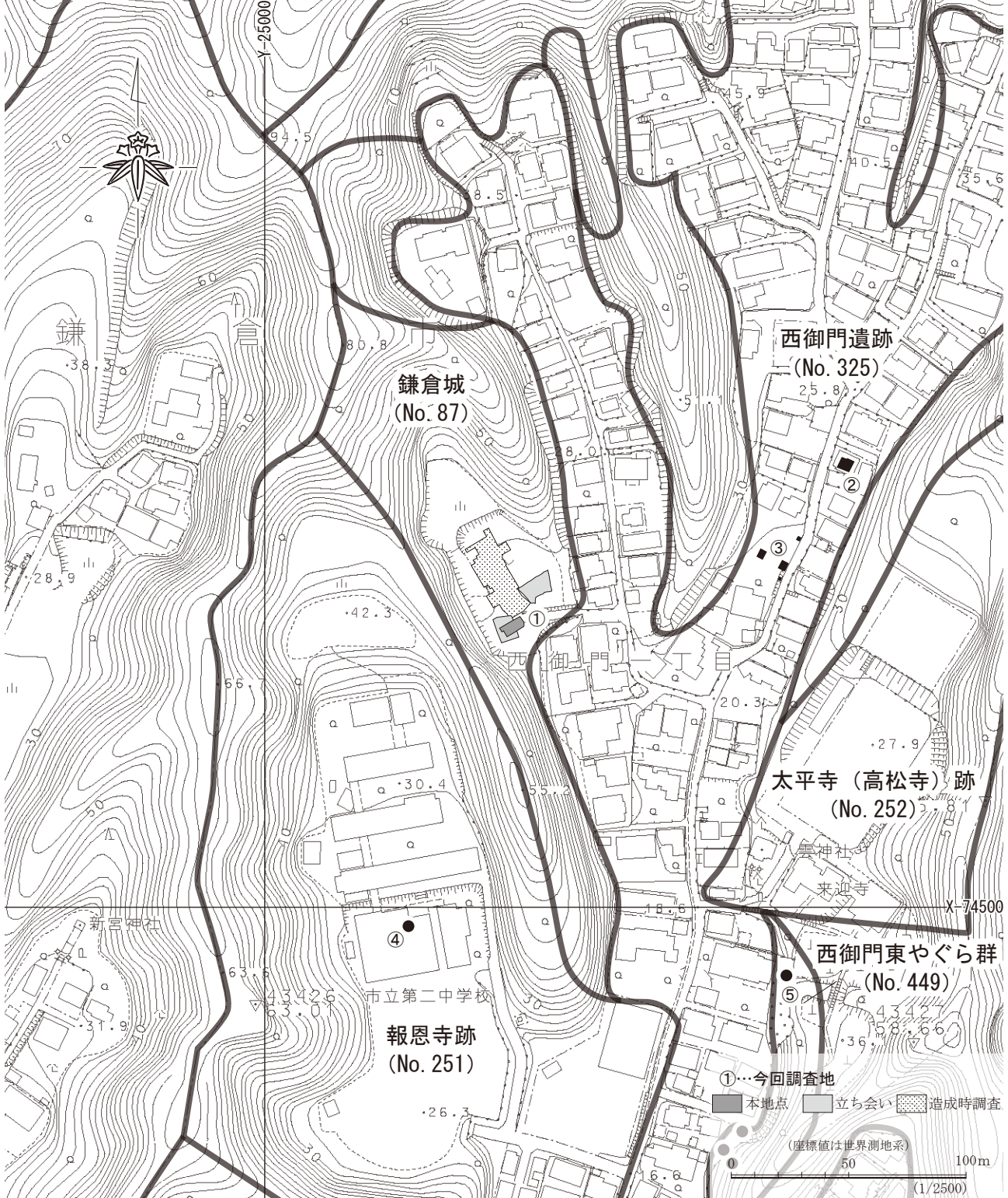
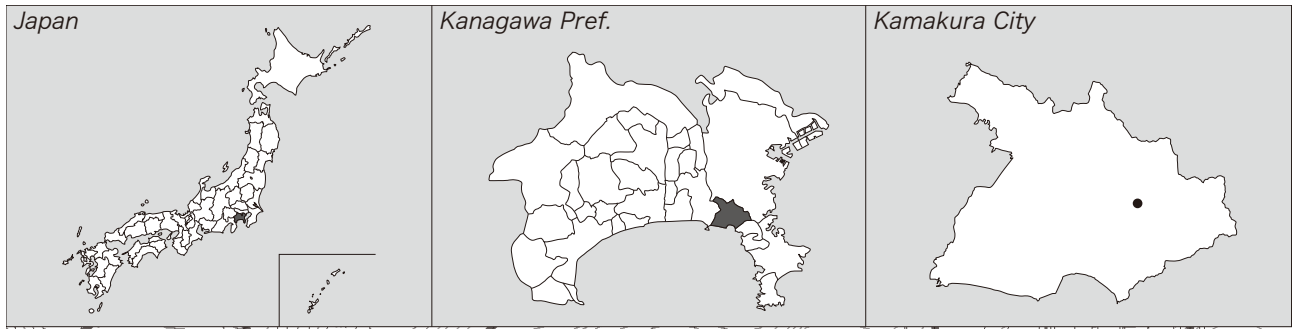


図1 調査地点の位置 (鎌倉市発行1:2,500都市計画基本図を使用・改変)

表1 周辺調査地点一覧(①～⑤は図1に掲載)

No.	地番	調査年度	面積 (m ²)	所収報告書(正式報告のみ)
鎌倉城(No.87)				
①	西御門一丁目68番94	2017年度	47.42	本報告
	西御門一丁目68番16	2016年度		未報告
西御門遺跡(No.325)				
②	西御門一丁目55番5	2006年度	30	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 森 孝子2012
—	西御門一丁目11番14	2006年度	43	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか他2016
—	西御門一丁目681番1		153	
③	西御門一丁目62番1	2011年度	26	『西御門遺跡発掘調査報告書』(株)齊藤建設 長澤保崇・菊川英政2011 『西御門遺跡第2次発掘調査報告書』(株)博通 熊谷 満2012
	西御門一丁目62番1の一部	2011年度	7	
報恩寺跡(No.251)				
④	西御門一丁目91番3外	1975年度	700	『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』鎌倉市教育委員会 松尾宣方・玉林美男1983
西御門東やぐら群(No.449)				
⑤	西御門一丁目31番	2003年度	42	『西御門東やぐら群II』(財)かながわ考古学財団 鈴木庸一郎・栗原伸好2005
保寿院跡(No.250)				
—	西御門一丁目922番4	2003年度	76	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子他2012

杉能憲」で、「創建は応安四年(1371)」という。略報では、史料に基づいて第1平場に半雲亭、第2平場に雲臥庵、第3平場に方丈の存在を推定している。

西御門東やぐら群(No.449)では、平成13～15年度に10基のやぐらが調査されている。地点⑤の位置には10号やぐらが所在し、1～9号やぐらで構成される南側のやぐら群とは80mほど隔てた場所に単基で発見されている。やぐら群全体としては下層出土遺物から14世紀前半～中葉、上層出土遺物から15世紀中葉～後半という利用期間が考えられ、やぐらの構築が14世紀前半より遡る可能性も指摘されている。

太平寺(高松寺)跡(No.252)での発掘調査例はない。現在の来迎寺および八雲神社から北側に位置し、大平寺・高松寺ともに尼寺であった。史料上、太平寺は弘安五・六年(1282・83)には存在したようで、禅宗寺院とされる。南北朝期、鎌倉公方の足利基氏室が中興したとされ、応安四年(1371)頃には伽藍整備が進み、持氏・成氏ら歴代公方の女子が住持を務めて尼五山の第一に列せられた。16世紀半ばに里見義弘が鎌倉を攻めた際、住持青岳尼が本尊とともに安房に連れ去られて退廃し、後北条氏の治世下には仏殿が円覚寺に移築された(国宝舍利殿)。なお、里見氏に奪われた本尊は東慶寺観音堂の建立に伴い、鎌倉に戻されたという。高松寺は日蓮宗で山号を寿延山という。寛永十九年(1642)、大平寺跡に創建されたという。

図1の範囲からは南に外れるが、鶴岡八幡宮から丘陵を挟んだ北東側の谷戸には保寿院という禅院も所在したとされる。北条氏一門赤橋氏の出身で、足利尊氏室となる清江禅尼(応安元年=1368歿)の菩提寺であった。以後、史料からは15世紀中頃までの存続を窺えるが、その後いつの頃か、瑞泉寺の塔頭として同寺境内に移されたという。旧境内域での発掘調査例は1件のみと少ないが、ここでは中世に属する10枚の遺構面が検出され、13世紀初頭～15世紀前半における土地利用の痕が確認されている。この120mほど東に位置する西御門遺跡内の調査地2地点でも最大12枚の遺構面が把握され、13世紀前半～15世紀の継続的土地利用を窺わせる成果が得られている。

以上のように、西御門地区は文献・考古ともに南北朝～室町時代前期の動向を示す資料が比較的良く残されており、当該期の鎌倉全体を考える上でも鍵となるエリアといえるだろう。

参考文献(表1掲載分以外)

貫 達人・川副武胤 1980 『鎌倉廃寺事典』 有隣堂

第二章 調査の方法と経過

第1節 調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会（市教委）が実施した。今回の調査に先立って宅地造成工事が実施され、これに伴う立ち会い調査が平成27年度後半に、道路

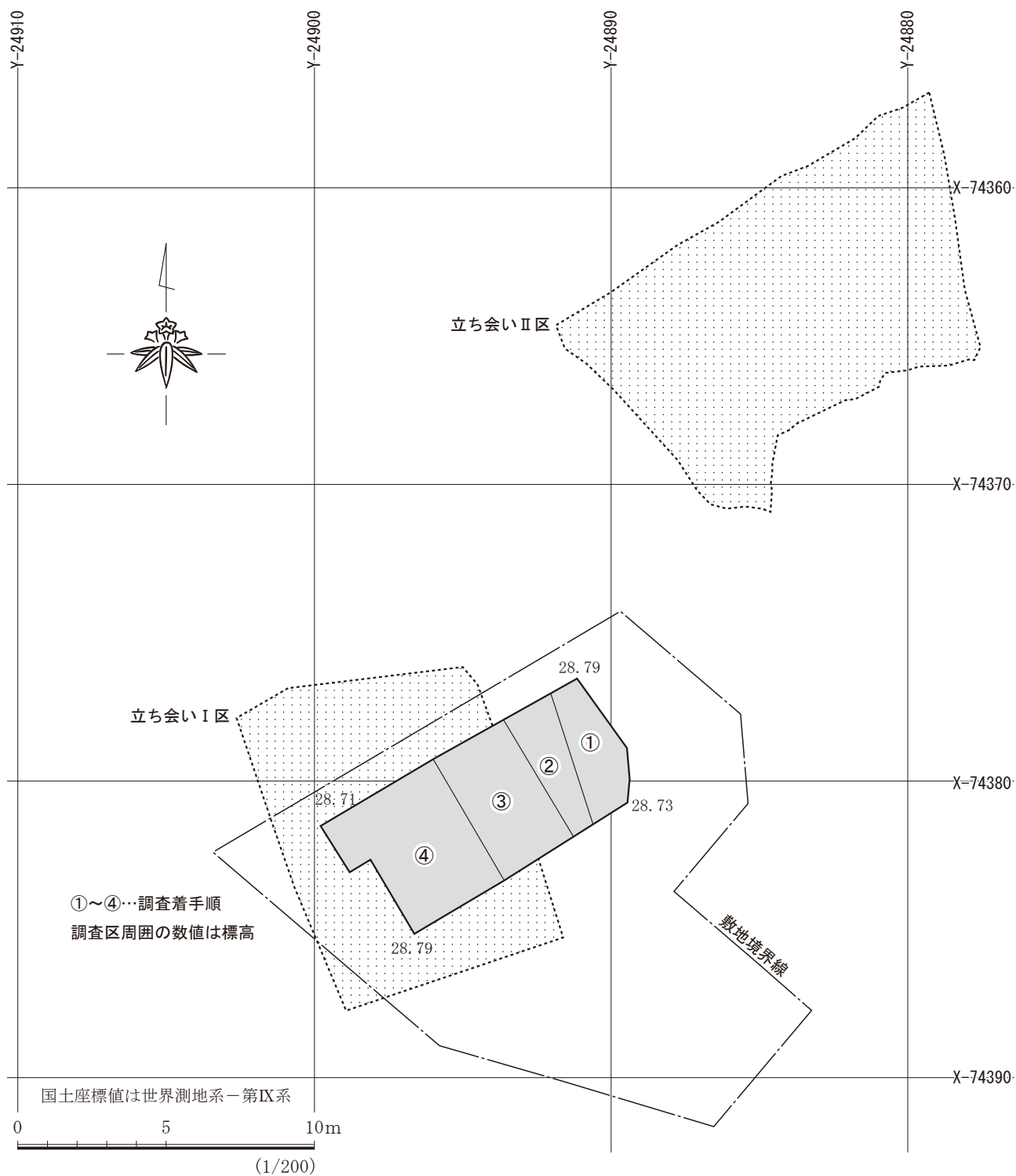


図2 調査区配置図

新設部分についての発掘調査が平成28年度末～29年度初めに実施されている。本調査地は造成工事が終了した箇所であり、立ち会い調査の結果、現状の地表面（標高28.8m前後）が中世の遺物包含層であることが把握されていた。このため、住宅建設に伴う確認調査は実施されず、市教委と施工者側との協議・調整を経て平成29年5月22日から発掘調査を実施することとなった。平成29年6月9日には現地調査を終了し、続く平成29年度前半には出土品および記録類の整理と報告書の作成に移行した。これらの整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

なお、立ち会い調査の成果については、その一部を第五章に掲載している。

第2節 調査の方法

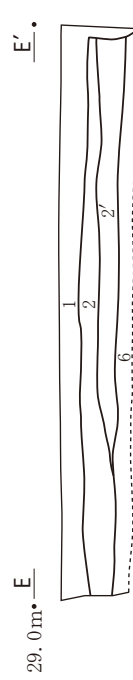
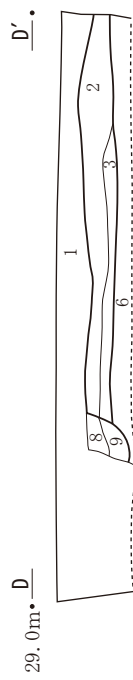
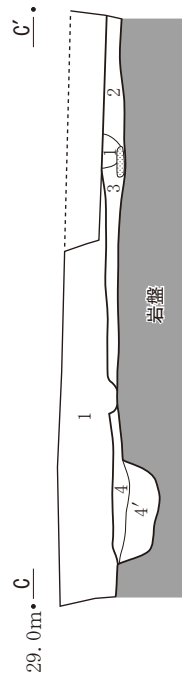
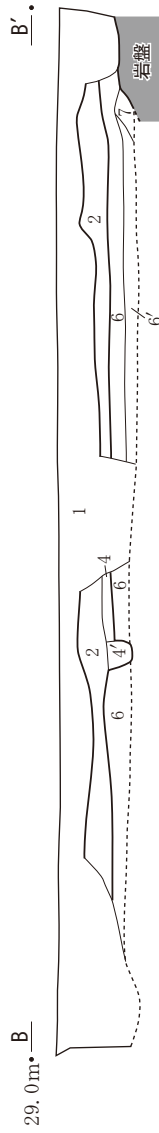
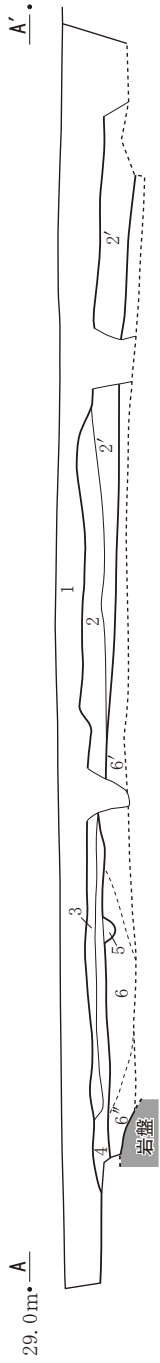
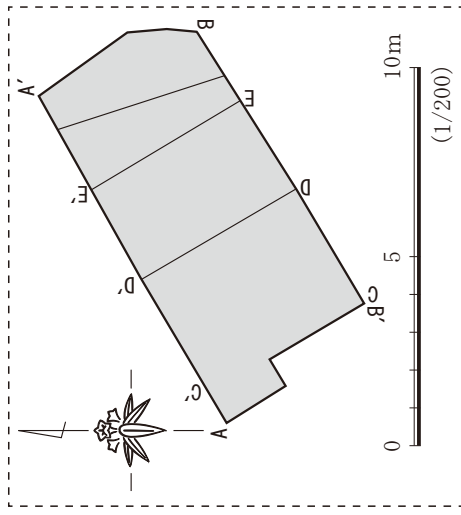
今回の発掘調査は住宅の基礎部分を対象としたが、造成工事による盛土部分は調査範囲から除外したため、最終的に47.42㎡が調査範囲となった。調査深度は基礎工事の及ぶ深さまでと制限されたため、調査区全体は地表下約30cmまで、「田」の字状の布基礎打設部分については地表下60cmまで掘削したところで調査を終了した。これより下位にも中世の遺構面が複数枚残っていることは、宅地造成に伴う発掘調査によって確認されている。

掘削に伴う発生土置き場を確保するため、調査区は四分割して東から順に調査に着手した（図2）。今回は全て人力で掘削し、調査を終えた部分を発生土置き場とした。各区とも3枚の遺構面を把握し、最上層の1面は造成工事時に攪拌を受けた中世の遺物包含層と判断された。各区・各面とも写真撮影と測量図作成を進め、測量には国家座標系（JGD2011）に基づく基準軸を用いた。基準点は、宅地造成前の発掘調査で使用していたものを（株）斉藤建設より提供していただいた。

第三章 基本土層

図3に堆積土層の断面図を掲げたが、今回は掘削深度が最大で60cmと浅いこともあり、基本土層の把握には至らなかった。確認しえた範囲では、破碎泥岩を用いた盛土・整地が繰り返し施されたことが分かり、丘陵裾に近い調査区の西端部では、地表下50cmの「3面下」で岩盤面が検出された。岩盤は東に落ち込み、本来の深い谷地形を盛土で嵩上げしつつ、可住地となる平場を次第に拡張させていった状況が窺えた。

前章でも述べたように、本地点では造成工事のために地表面が中世層となっていたが、最上層の1層は造成時の攪拌を受けており、コンクリートブロックや碎石片を所々に含んでいた。



- 1 暗褐色土 / 暗黄褐色土 本来は中世の地業層および遺物包含層。宅地造成に伴い攪拌される。
- 2 暗褐色土 泥岩ブロック多量。締まり強い。2面構築土。
- 2' 暗褐色土 2層より泥岩ブロック多い。
- 3 暗褐色土 炭粒を含む。締まり弱い。
- 4 暗褐色土 締まり弱い。
- 4' 暗褐色土 4層より締まり弱い。
- 5 暗褐色土 泥岩粒多量。
- 6 暗黄褐色土 泥岩粒・ブロック多量。締まり強い。3面構築土。
- 6' 暗黄褐色土 6層より泥岩ブロック多い。
- 6'' 暗黄褐色土 泥岩ブロック多量。粘性ややあり。
- 7 崩落岩盤
- 8 暗褐色土 締まりややあり。
- 9 暗褐色土 円礫多量。

図3 土層断面図

第四章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

(1) 1面の遺構

1面は地表下10cmの標高28.7m前後で確認した。図3-1層を除去したレベルにあり、面上では少量のコンクリート片など攪拌の影響が見受けられた。中世の整地層であった可能性もあるが、明確な遺構も検出できなかったため平面図は提示しなかった。

(2) 2面の遺構 (図4)

地表下20cmの標高28.6m前後で確認された。泥岩ブロックによる盛土層上面を2面としたが、面上を整えた形跡は希薄で、確実な遺構も見て取れなかったことから、ここも遺構面(生活面)と明言するには難がある。面上、または盛土中に半ば埋まった状態でかわらけが散在していた。

(3) 3面の遺構 (図5)

地表下50cm、標高28.3m前後で検出された。盛土層の上面を泥岩粒で整えており、面上同レベルに複数の安山岩礎石が据えてあったことから、ある時期の生活面であったことは確実である。面上に炭粒を多量に含んだ粘質土が5cmほどの厚さで堆積し、礎石は柱当たりを除いて被熱のため灰色に変色していたことから、3面上の礎石建物は火災で焼失したと考えられる。面上および炭層中からは、かわらけの完形資料が何点か出土している。

礎石は6基を確認したが調査範囲の制約から並びは把握できず、復元しうる建物が1棟なのか、複数となるのかも捉えることができなかった。礎石Cの上面には柱痕跡とともに鉄錆が融着していた。柱に打ち付けられた釘などが熔解したものであろうか。

表2 3面 礎石所見

礎石No.	上端面標高(m)	下底面標高(m)	備考
A	28.47	28.29	安山岩
B	28.44	28.21	安山岩
C	28.51	28.34	安山岩 12cm角の柱痕・鉄付着
D	28.46	28.34	安山岩 10cm角の柱痕
E	28.44	28.27	安山岩 10cm角(L字状)の柱痕
F	28.34	28.26	安山岩 削平岩盤面上に据わる
鎌倉石	28.48	28.34	凝灰岩切石 礎石Aの南に接する

(4) 3面下 (図6)

掘削制限の深度まで掘り下げた結果、調査区西端部では標高28.25～28.3mで岩盤面が検出された。西側が平坦面をなし、東側は斜面となっていた。前者は人工的に削平されたものであろう。3面礎石Fが岩盤面上に据えられていたのと同時に、調査区南西角付近では深さ30cmの土坑1基が検出された。斜面以東では標高28.2m前後まで掘り下げたが新たな整地面は確認できず、ここで規制深度に達したため調査を終了した。

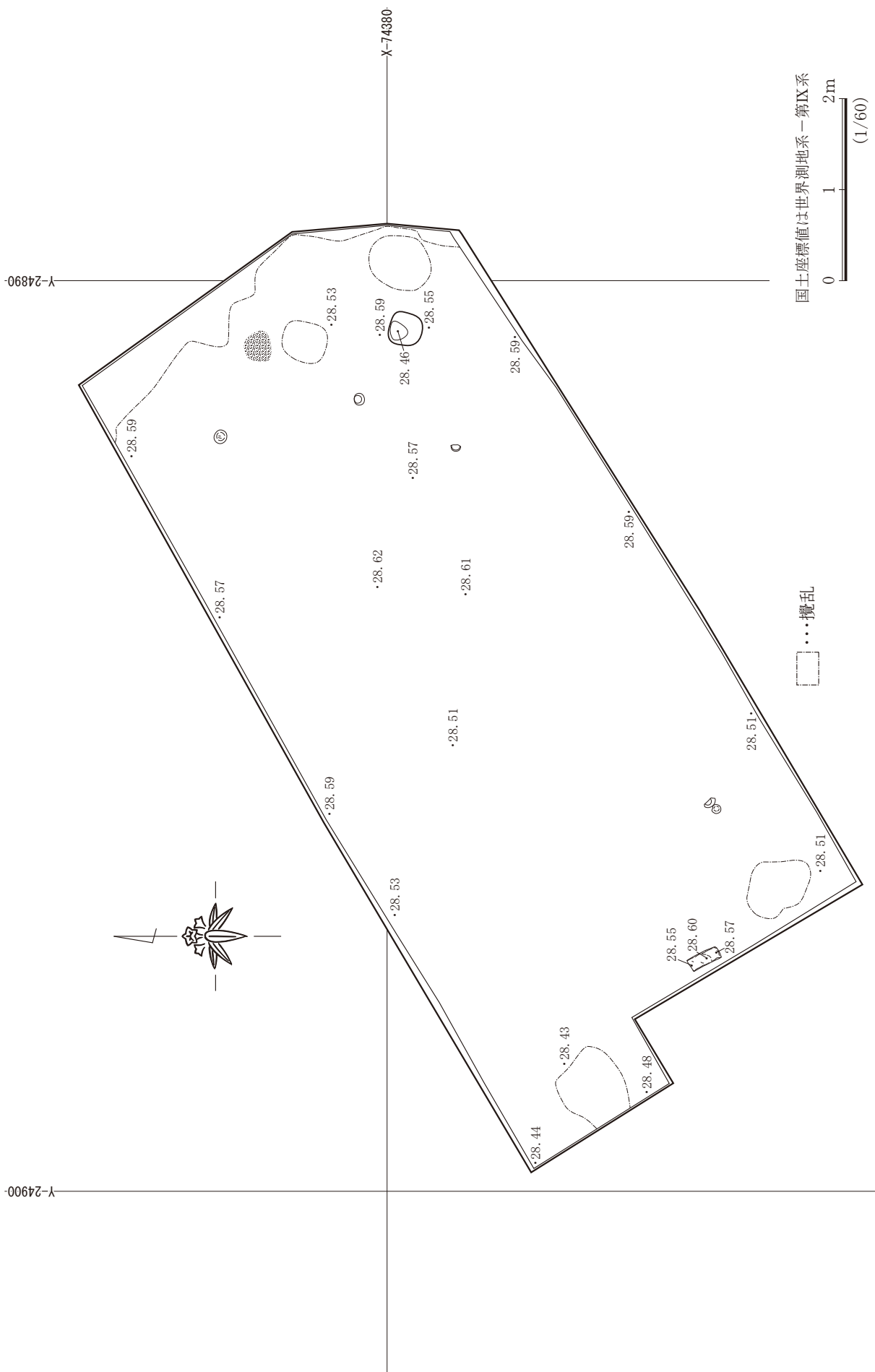


図4 2面全体図

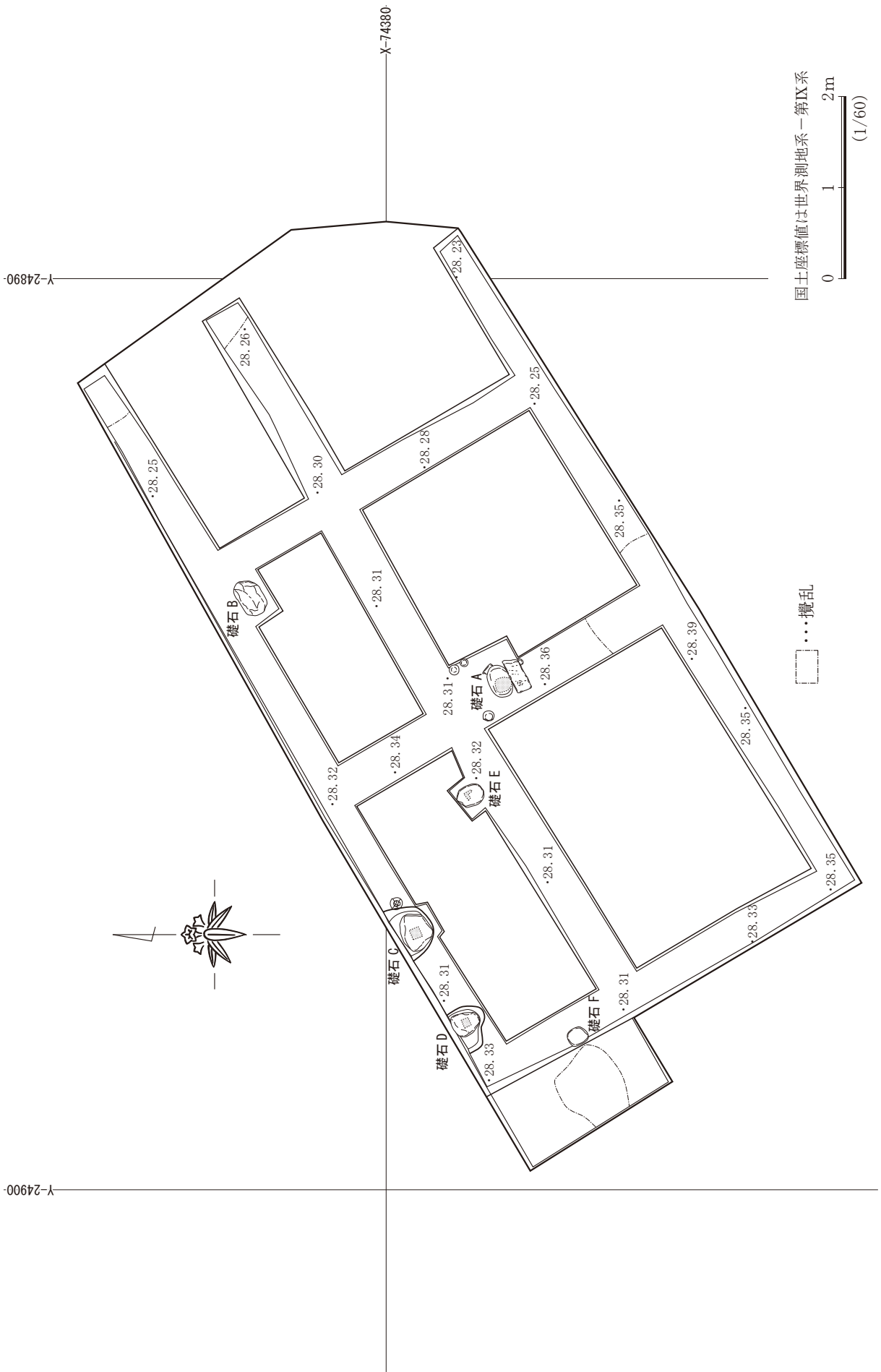


図5 3面全体図

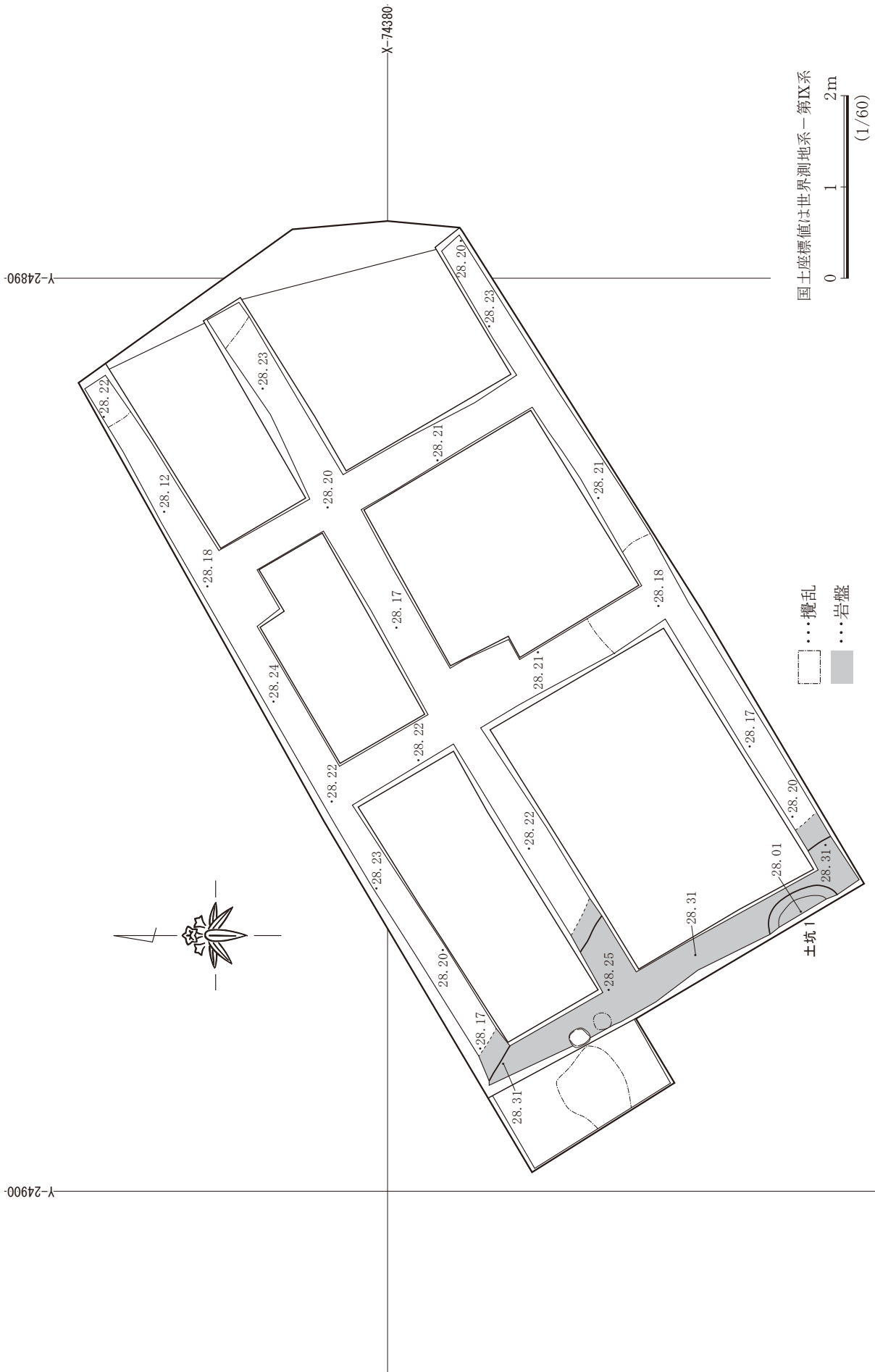


図6 3面下(調査規制深度)全体図

第2節 出土遺物

図7には各層位の出土遺物を示した。同図および表5を見ても分かるように、本地点で出土した遺物の大部分をロクロ成形かわらけが占めている。手づくねかわらけは1点も出土していないが、掘削深度に制限があったため、より下層まで調査を行えば出土した可能性はある。ロクロかわらけの器形は表土～3面上まで大きな変化はなく、大皿は身深で内弯度が強く、皿というよりも坏形に近い。口径/底径比は60%前後を示し、大皿と同様の器形で口径10cm台の中皿も少量だが含まれる。小皿は口径7cm台が主体で、身浅とやや身深の2種があり、どちらも内弯度が強い。

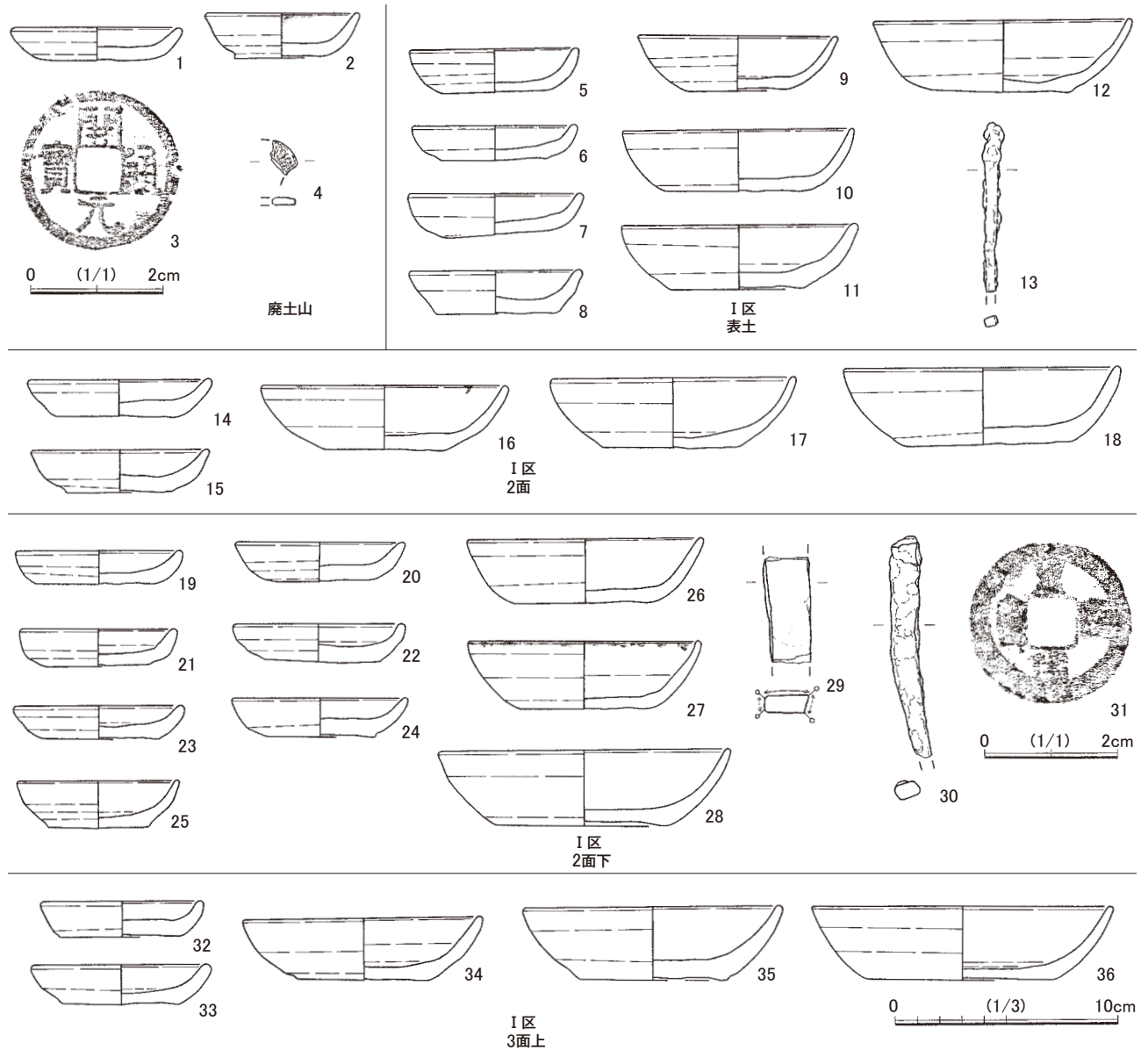


図7 出土遺物

表3 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			行	ツラ状	板状	ス/コ状		
出土遺物(図7)													
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.4)	(3.9)	1.4	1/2		○			○	黄橙	白針
2	土器	ロクロかわらけ・小	6.3	4.0	2.5	ほぼ完形	36.0	○			○	橙	白針 口縁部煤付着
3	銅製品	銭	直径2.4	孔径0.6	厚さ0.1	完形	3.0					—	開元通寶(真書) 中国唐代621年初鑄
4	骨製品	装飾具	長さ[1.2]	幅[1.1]	厚さ0.4	小片	0.4					白	陽刻菊花文
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.1	2.0	3/4		○			○	黄橙	白針
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	4.7	1.6	完形	41.0	○			○	黄橙	白針 口縁部煤付着
7	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	4.9	1.9	2/3		○			○	黄橙	白針
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.5	2.0	3/4		○			○	黄橙	白針
9	土器	ロクロかわらけ・中	8.9	4.5	2.4	完形	50.0	○			○	橙	白針
10	土器	ロクロかわらけ・中	10.3	6.6	2.8	3/4		○			○	橙	白針
11	土器	ロクロかわらけ・中	10.4	6.0	2.9	1/2		○			○	橙	白針 口縁部一部黒色に変色
12	土器	ロクロかわらけ・大	11.5	6.3	3.2	4/5		○			○	橙	白針
13	鉄製品	釘	長さ[7.6]	幅0.5	厚さ0.4	下端欠損	8.0					—	
14	土器	ロクロかわらけ・小	8.1	5.7	1.6	3/4		○			○	黄橙	白針、砂質
15	土器	ロクロかわらけ・小	7.9	4.8	1.9	2/3		○			○	黄橙	白針
16	土器	ロクロかわらけ・中	(10.8)	(5.6)	2.9	3/4		○			○	橙	口縁部黒色に変色
17	土器	ロクロかわらけ・中	10.8	6.1	3.1	2/3		○			○	黄橙	白針 薄手丸深
18	土器	ロクロかわらけ・大	12.3	7.5	3.5	3/4		○			○	黄橙	白針、砂質
19	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.2	1.5	3/4		○			○	黄橙	白針、砂質
20	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.7	1.7	3/4		○			○	黄橙	白針
21	土器	ロクロかわらけ・小	6.9	4.6	1.7	ほぼ完形	47.0	○			○	黄橙	白針
22	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.1	1.7	2/3		○			○	橙	白針、砂質
23	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.4	1.5	2/3		○			○	黄橙	白針
24	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	5.0	1.7	2/3		○			○	黄橙	白針
25	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	4.6	2.1	2/3		○			○	黄橙	白針
26	土器	ロクロかわらけ・中	10.5	6.4	2.9	3/4		○			○	橙	白針 薄手丸深
27	土器	ロクロかわらけ・中	(10.4)	5.8	3.0	3/4		○			○	橙	白針 口縁部全体に煤付着 薄手丸深
28	土器	ロクロかわらけ・大	12.9	7.9	3.4	4/5		○			○	橙	白針 外底面に線刻「一」
29	石製品	砥石	長さ[4.3]	幅2.1	厚さ0.6~0.8	両端欠損	11.8					灰桃	仕上げ砥 鳴滝
30	鉄製品	釘	長さ[9.9]	幅1.2	厚さ0.8	下端欠損	29.0					—	
31	銅製品	銭	直径2.6	孔径0.7	厚さ0.1	完形	2.0					—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋代1038年初鑄
32	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	5.5	1.6	ほぼ完形	45.0	○			○	黄橙	3面上礎石A 白針、砂質
33	土器	ロクロかわらけ・小	7.9	5.3	1.8	完形	56.0	○			○	黄橙	3面上礎石A 白針、砂質
34	土器	ロクロかわらけ・中	10.6	5.9	2.8	完形	113.0	○			○	橙	3面上礎石A 白針、砂質
35	土器	ロクロかわらけ・中	11.5	6.6	3.3	ほぼ完形	154.0	○			○	橙	3面上礎石A 白針、砂質
36	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	8.5	3.3	4/5		○				橙	白針 薄手丸深

第3節 立ち会い調査の遺構と遺物

今回の発掘調査に先立ち、平成27年12月から同28年1月には宅地造成工事に伴う立ち会い調査が実施されている。調査の対象範囲は図2に示した通りで、このうち発掘調査区と重複する立ち会いI区の調査成果について、その一部を掲載する。

立ち会いI区では、当時の地表下1mで中世の遺構面を検出した。遺構面の標高は29.0～28.6mと高低差があり、南東側が最も低くなっていた。立ち会い調査は遺構確認までに留まり、整地面上に大小の遺構プランを確認した。調査区の中央部では埋土に炭化物を多く含む不整形の落ち込みプランが検出され、比較的まとまった量のかわらけが出土した(図8-炭化物・かわらけ集中範囲)。東西2.4m、南北1.1mの平面規模を測り、所謂「かわらけ溜まり」という程の稠密な出土状況は認められなかった。ここではロクロかわらけが出土遺物の大部分を占め、常滑甕や瓦質火鉢がわずかに伴っていた(表5)。図9および表4に、実測図と観察内容を示した。

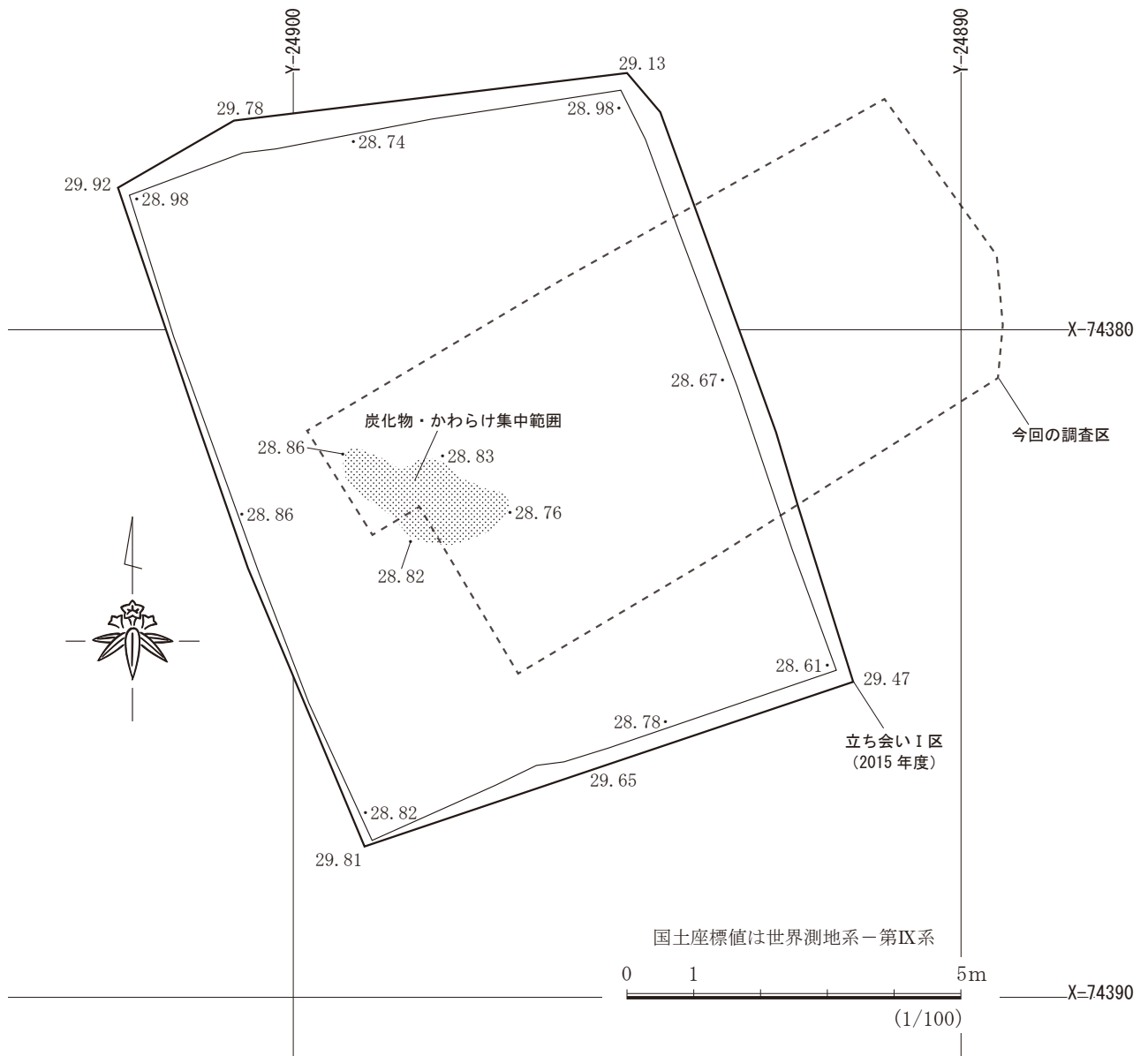


図8 立ち会い調査時 炭化物・かわらけ集中範囲

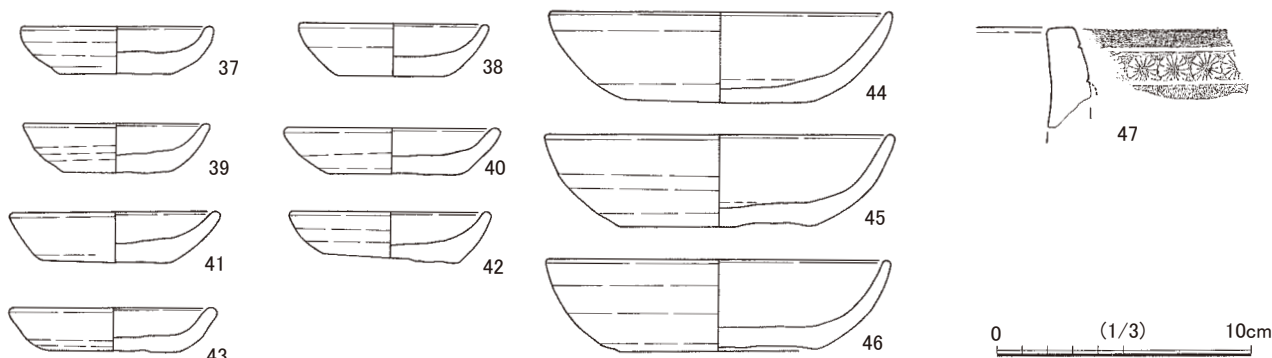


図9 立ち会い調査時 かわらけ集中範囲出土遺物

表4 立会調査時 かわらけ集中範囲出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			打*	杵う状	板状	ス/コ状		
立ち会い調査 かわらけ集中出土遺物(図9)													
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	1.8	4/5		○		○		黄橙	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.4	2.1	3/4		○		○		橙	白針、砂質
39	鉄製品	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.2	2.0	4/5		○		○		橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.3	1.8	ほぼ完形	66.0	○				橙	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.3	2.0	4/5		○		○		黄橙	白針、砂質
42	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.8	完形	60.0	○		○		黄橙	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.2	1.7	完形	51.0	○		○		黄橙	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(7.8)	3.6	3/4		○		○		橙	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	7.9	3.7	完形	197.0	○		○		橙	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	7.6	3.6	完形	185.0	○		○		橙	白針
47	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.0]	口小片						淡赤	河野IVA類 (D類) 連珠文貼付+菊花文スタンプ

第五章 調査成果のまとめ

今回は平面規模・掘削深度ともに限定的な発掘調査となったが、3面では丁寧な整地面上で礎石建物の一角と思しき遺構を確認することができた。礎石の展開状況は詳らかでないが、隣接して実施された宅地造成部分の発掘成果と合成することで、建物の規模や性格も掴めてくるだろう。3面上の堆積土は炭化物を多く含み、礎石であろう安山岩にも強い被熱による変色が見て取れたことから、建物は火災で焼失した可能性が高い。3面上の出土かわらけは深身で内弯傾向が強い器形で、大・中・小に法量分化していることから、鎌倉末期～南北朝期=14世紀前半の所産と考えられる。3面下では尾根裾で岩盤を検出したが、谷戸中心部に向けて下がっており、この部分では盛り土整地面が累積しているだろう。谷戸利用の開始期がいつまで遡るのか、これも隣接調査の成果報告を待ちたい。

立ち会い I 区の遺構面は3面より50cmほど高く、この間に2枚ほどの遺構面があったと考えられる。炭化物・かわらけ集中範囲の出土かわらけに中型品は見られず、比較個体数は少ないが、3面出土資料より大型・小型品とも一回り大きい感がある。かわらけを見る限り3面との年代差は小さく、14世紀中頃まで嵩上げ造成を施しつつ、土地利用が続けられたことが推察できる。

表5 出土遺物カウント・計量表

地区	面	遺構	土器										白磁		青白磁				龍泉窯系青磁				柏載陶器					
			ロクロかわらけ						不明		四耳壺		梅瓶		蓮弁文碗 (II or III類)		蓮弁文碗 (III類)		劃花文碗 (I類)		碗・皿		楬軸壺					
			大	中	小	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数
立ち会い区	—	かわらけ集中	134	3975	31	874	106	256																				
立ち会い区	—	かわらけ集中周辺	85	1561	16	216	35	65																				
本調査区	0		820	8049	2	125	1574	200	803																			
本調査区	攪乱		10	132				1	1																			
本調査区	1面下		384	2920				35	157	109	254	1	29															
本調査区	2面		5	319				2	102	2	3																	
本調査区	2 b 面	1 (炭範囲)	4	30																								
本調査区	2面下		1395	11120	1	80	191	1610	315	745	14	427																
本調査区	3面		7	418				2	101	13	17																	
本調査区	3面下		70	615				6	29	15	17																	
本調査区	廃土							1	22																			
本調査区	不明		72	419				8	61	20	47																	
			2986	29558	3	205	374	4746	816	2206	15	456																
			合計										1	5	22	289	1	3	3	29	1	29	2	7	1	28		
地区	面	遺構	瀬戸・美濃										尾張・常滑		瓦質土器													
			御皿		入子		皿・鉢		瓶類		壺		片口鉢		火鉢B (III類)		火鉢D (IV類)		火鉢		鉢?							
			破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)	破片数	重量 (g)		
立ち会い区	—	かわらけ集中																										
立ち会い区	—	かわらけ集中周辺																										
本調査区	0																											
本調査区	攪乱																											
本調査区	1面下																											
本調査区	2面																											
本調査区	2面下	1 (炭範囲)																										
本調査区	2面下																											
本調査区	3面																											
本調査区	3面下																											
本調査区	廃土																											
本調査区	不明																											
			1	12	2	7	2	48	3	83	1	46																
			合計										78	4031	3	88	1	13	1	75	3	75	24	442	1	10		



1. 現地調査前（南東から）



5. ①調査区トレンチ3面（南東から）



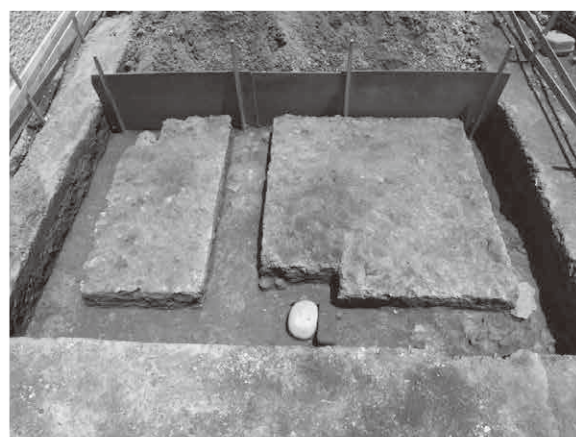
2. ②調査区2面（東から）



6. ②調査区トレンチ3面（西から）



3. ③調査区2面（西から）



7. ③調査区トレンチ3面（西から）



4. ④調査区2面（東から）



8. ④調査区トレンチ3面（東から）

図版2



1. ③調査区3面 礎石 A 周辺 (北から)



5. ④調査区3面 礎石 E (南から)



2. ③調査区3面 礎石 B (西から)



6. ④調査区3面 礎石 F (東から)



3. ④調査区3面 礎石 C (南から)



7. ④調査区トレンチ3面下 (南から)



4. ④調査区3面 礎石 D (南から)



8. ④調査区3面下 土坑 1 (東から)

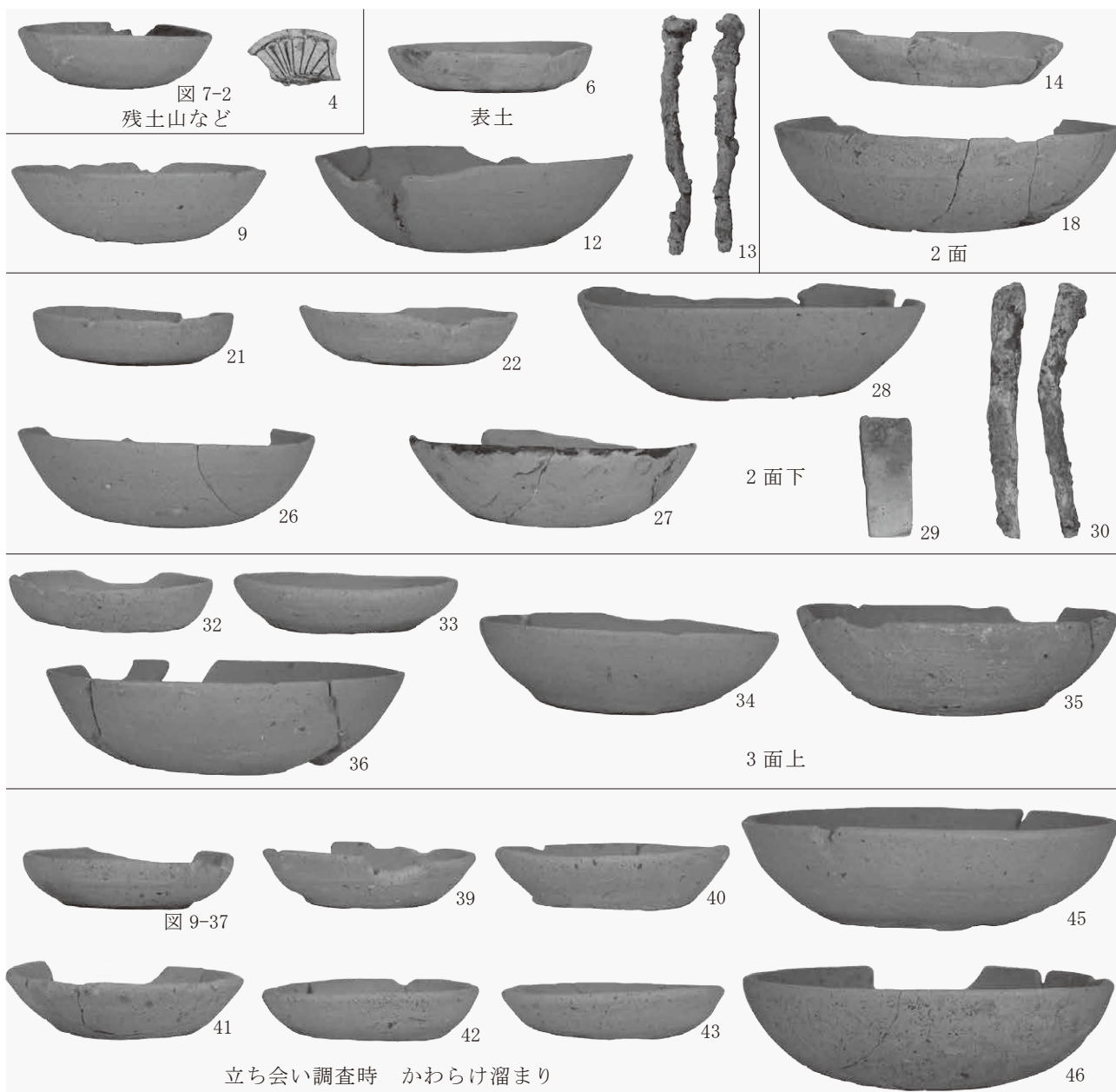


図 7-2
残土山など

表土

2面

2面下

3面上

図 9-37

立ち会い調査時 かわらけ溜まり

出土遺物

縮尺は約 2/5 (4のみ実寸大)

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちようさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成29年度調査報告							
巻次	34 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	伊丹まどか／福田 誠／伊丹まどか、渡辺美佐子／田畑衣理／押木弘己／押木弘己／押木弘己							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2018年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ゆいかりはまちゆうせいしゅうだんぼちいせき 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ヶ浜二丁目 1235番4	14204	372	35° 18' 42"	139° 32' 44"	20070611 ～ 20070824	79.8	個人専用住宅 (地下室)
げぼしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ヶ浜二丁目 107番5	14204	200	35° 19' 07"	139° 32' 37"	20070828 ～ 20070921	12	店舗併用 個人専用住宅 (鋼管杭構造)
おおくらばくふあと 大倉幕府跡	神奈川県鎌倉市 雪ノ下三丁目 637番6外	14204	253	35° 19' 26"	139° 33' 44"	20080228 ～ 20080404	25	個人専用住宅 (柱状改良工事)
だいやまいせき 台山遺跡	神奈川県鎌倉市 山ノ内字藤源治 860番1	14204	29	35° 20' 16"	139° 32' 31"	20100112 ～ 20100217	30	個人専用住宅 (地下室)
とうしょうじあと 東勝寺跡	神奈川県鎌倉市 小町三丁目 529番1、4、5	14204	246	35° 19' 18"	139° 33' 34"	20150901 ～ 20151225	83.01	個人専用住宅 (柱状改良工事)
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 12番8	14204	49	35° 19' 26"	139° 33' 50"	20160510 ～ 20160715	69.14	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
かまくらじょう 鎌倉城	神奈川県鎌倉市 西御門一丁目 68番94	14204	87	35° 19' 45"	139° 33' 34"	20170522 ～ 20170621	40.5	個人専用住宅 (基礎工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ゆいかりはまちゆうせいしゅうだんぼちいせき 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡	城館跡 その他の墓	中世	堅穴建物、土坑、 ピット	土師器、須恵器、かわ らけ、国産陶器、舶載 陶磁器、土製品、石製 品、金属製品、骨製品	14世紀代堅穴建物、土坑 など、生活痕跡を検出。
げぼしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	城館跡 都市遺跡	中世	柱穴、土坑等	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、貝	13世紀後半～14世紀代 の土地利用痕跡を検出。
おおくらばくふあと 大倉幕府跡	官衙跡	中世	溝、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわ らけ、国産陶器、舶載 陶磁器、土製品、金属 製品、木製品	13世紀前半～14世紀の生 活面を検出。破碎泥岩に よる地業面を検出。
だいやまいせき 台山遺跡	遺物散布地 城館跡 砦跡 集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	溝状遺構、土坑、 ピット	土師器、灰釉陶器、か わらけ、国産陶器、舶 載陶磁器、瓦質製品、 石製品、金属製品	丘陵の岩盤削平面上に整 地層を重ねた13世紀末～ 15世紀代の中世生活面を 検出。
とうしょうじあと 東勝寺跡	社寺跡	中世	土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、金属製品、 石製品	丘陵斜面の埋没後、13世 紀後半以降の土地利用を 確認。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	城館跡 都市遺跡	古墳・奈良・ 平安・中世	溝、井戸、ピット	土師器、須恵器、灰釉 陶器、かわらけ、国産 陶器、舶載陶磁器、瓦	平安時代末期の溝と鎌倉 初期の東西溝を確認。後者 は二階堂大路の南側溝か。
かまくらじょう 鎌倉城	城館跡	中世	礎石建物	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、金属製品、 石製品、瓦質土器	14世紀前半の礎石建物を 確認。炭層でおおわれて おり、焼失した可能性が 高い。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成 29 年度発掘調査報告

(第 1 分冊)

発行日 平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印 刷 芝浦エンジニアリング株式会社

